

京都府遺跡調査報告書

第 25 冊

下 植 野 南 遺 跡

1 9 9 9

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

巻頭図版



(1)1992年度A地区SH395401・SH395405内炭化物出土状況（北東から）



(2)1991年度B地区SX36820遺物出土状況（南から）

序

京都府乙訓郡大山崎町大字下植野に所在する、下植野南遺跡に関する正報告を、『京都府遺跡調査報告書』第25冊として、ここに刊行いたします。

下植野南遺跡の発掘調査は、名神高速道路の拡幅工事に伴い、日本道路公団の依頼を受けて、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが主体となって、平成2年度から平成6年度までの4年間にわたって、実施致しました。各年度の調査成果の概要については、逐次『京都府遺跡調査概報』に掲載してきたところであります。

本書は、各年度の概要報告で果たせなかった詳細な事実の報告を行うとともに、それらの諸事実を分類・集成し、考察を加えたもので、これをもって記録保存の責務を達成したものといたします。

刊行にあたりまして、日本道路公団には現地での発掘調査の実施から本書の刊行に至るまで、一貫してご理解・ご協力を賜りました。また、京都府教育委員会・大山崎町教育委員会をはじめ、関係各方面から、有益なご指導・助言をいただくことができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げる次第であります。

最後に、この仕事にかかわった担当職員諸君の労苦をねぎらうとともに、本書が京都府のみならず、わが国の古墳時代集落研究の進展に寄与することを、心から願ってやみません。

平成11年3月

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
理事長 樋口 隆 康

例 言

1. 本書は、京都府乙訓郡大山崎町円明寺壺町田・同松田、下植野飯田・同五條本・同北枚方に所在する下植野南遺跡の報告書である。本調査は、中央自動車道西宮線(通称名神高速道路)拡幅工事に先立ち、日本道路公団大阪建設局の依頼を受けて実施した。調査は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが行った。試掘調査を平成2年7月11日～同3年2月18日まで実施し、その結果を受けて本調査は平成3年4月15日～同6年10月15日まで行った。

2. 発掘調査区は、道路公団側の工事区に合わせ大山崎工区・下植野工区・長岡工区・向日工区の4つに分け、下植野工区の場合をA～E地区に細分した。各地区に設けられたトレンチは地区名を付け、トレンチが複数の場合は枝番号を付けて細別した。調査トレンチは、下植野南遺跡と長岡京南辺部の確認を目的に設定した。

3. 執筆分担は次の通りである。

第3章は岩松 保・岡本一秀・尾関真二・黒坪一樹・竹井治雄・戸原和人・鍋田 勇が執筆した概報を元に、中川和哉が遺物整理の結果や周辺調査を考慮して補填・加筆・修正を加えた。文責は中川にある。

第1章・第2章・第4章(埴輪・鉄器以外)・第6章-----中川和哉
第4章第2節 埴輪-----藤藪勝則
第4章第6節 鉄器-----野島 永
第5章第1節-----井上 巖
第5章第2節-----鈴木 茂

4. 遺構・遺物出土状態等の現地写真撮影は、戸原・竹井・黒坪・岩松・鍋田・中川が行い、室内での遺物撮影は調査第1課田中 彰が行った。

5. この報告書の編集は、調査第1課資料係の作業協力を得、中川が行った。

6. 調査協力者：岩崎 誠・小田桐 淳・上野邦一・堅田 直・國下多美樹・古閑正浩・高橋美久二・寺嶋千春・中島皆夫・中山修一(故人)・原 秀樹・林 亨・藤原 学・松藤和人・百瀬正恒・森 浩一・山中 章・家根祥多。

7. 実測に用いた測量基準は、国土座標平面直角座標系第6系による。標高は東京湾海拔(TP)を使用した。

本文目次

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査の経緯-----	1
第2節 調査体制-----	2

第2章 遺跡の環境

第1節 地形-----	6
第2節 歴史的環境-----	6

第3章 調査概要と遺構

第1節 A地区の調査

1. 1990(平成2)年度A地区-----	12
2. 1992(平成4)年度A地区-----	13

第2節 B地区の調査

1. 1990(平成2)年度B地区-----	18
2. 1991(平成3)年度B地区-----	19
3. 1992(平成4)年度B地区-----	26

第3節 C地区の調査

1. 1991(平成3)年度C-1トレンチ-----	31
2. 1991~92(平成3~4)年度C-1トレンチ-----	32
3. 1990(平成2)年度試掘C-2トレンチ-----	35
4. C-2トレンチ-----	35
5. 1990(平成2)年度C-3トレンチ試掘-----	39
6. 1991(平成3)年度C-3トレンチ-----	39
7. 1992(平成4)年度C-3トレンチ-----	39
8. C-4aトレンチ-----	43
9. C-4bトレンチ-----	44
10. C-4cトレンチ-----	45
11. C-5aトレンチ-----	47
12. C-5bトレンチ-----	50
13. C-6トレンチ-----	51

第4節 D地区の調査

1. 1990年度Dトレンチ-----	52
---------------------	----

2. 1991年度Dトレンチ	52
3. D-2トレンチ	54
第5節 E地区の調査	
1. E-1トレンチ	54
2. E-2トレンチ	54
第4章 遺物	
第1節 土器	
1. A地区出土遺物	56
(1) 1990年度A地区	56
(2) 1992年度A地区	56
2. B地区出土遺物	58
(1) 1990年度B地区	58
(2) 1991年度B地区	59
(3) 1992年度B地区	61
3. C地区出土遺物	64
(1) C-1トレンチ	64
(2) C-2トレンチ	65
(3) C-3トレンチ	66
(4) C-4 aトレンチ	67
(5) C-4 bトレンチ	67
(6) C-4 cトレンチ	67
(7) C-5 aトレンチ	67
(8) C-5 bトレンチ	68
(9) C-6トレンチ	68
4. D地区出土遺物	68
5. E地区出土遺物	68
(1) E-1トレンチ	68
第2節 埴輪	
1. 円筒埴輪	69
2. 線刻を施した埴輪片	71
第3節 縄文土器	71
第4節 石製品	72
第5節 銅製品	72
第6節 鉄器	72

第5章 自然科学的分析

第1節 下植野南遺跡の花粉分析-----	75
1. 試料と分析方法-----	75
2. 分析結果-----	75
3. 畑作物について-----	75
4. 遺跡周辺の古植生-----	76
第2節 滑石製品の分析-----	78
1. 実験条件-----	78
2. X線回析試験結果-----	78
3. 化学分析結果-----	78
4. 小結-----	81

第6章 まとめ

第1節 縄文時代-----	86
1. 縄文集落の変遷-----	86
2. 縄文時代晩期の甕棺墓-----	88
第2節 弥生時代中期前半の遺跡とその立地-----	88
1. 下植野南遺跡の弥生時代-----	88
2. 土器の編年的位置付け-----	89
(1) 弥生時代前期後葉の土器群-----	89
(2) 弥生時代中期前葉-----	89
第3節 古墳時代	
1. 古墳時代の集落変遷	
(1) 庄内期-----	91
(2) 布留期-----	91
(3) 5世紀-----	91
(4) 6世紀-----	91
(5) 7世紀-----	93
2. C-3トレンチ出土の埴輪からわかること-----	93
3. 古式の特徴を持つ須恵器について-----	95
第4節 平安時代の下植野南遺跡	
1. 遺跡の概観-----	97
2. 平安時代の下植野-----	99
3. 大山崎町内の古道について-----	99
第5節 中世の下植野南遺跡-----	101
第6節 おわりに-----	102

挿 図 目 次

第1章 調査にいたる経緯	
第2節 調査体制	
第1図 A～D地区年度別調査一覧図	5
第2章 遺跡の環境	
第2節 歴史的環境	
第2図 大山崎町周辺地形区分図	7
第3図 周辺遺跡分布図	8
第4図 下植野南遺跡調査区一覧	9
第3章 調査概要と遺構	
第1節 A地区の調査	
第5図 1990年度A地区土層断面図 西壁・北壁	12
第6図 1992年度A地区調査南壁土層断面図	14
第7図 1992年度A地区近世井戸実測図	15
第2節 B地区の調査	
第8図 1991年度B地区南壁土層断面図(1)	20
第9図 1991年度B地区南壁土層断面図(2)	21
第10図 1991年度B地区祭祀遺構玉出土図	25
第11図 1992年度B地区近世井戸S E 368101実測図	28
第3節 C地区の調査	
第12図 1990年度C-1トレンチ土層断面図	32
第13図 1992年度C-1トレンチ土層断面図	33
第14図 1992年度C-2トレンチ土層断面図(1)	36
第15図 1992年度C-2トレンチ土層断面図(2)	37
第16図 1992年度C-3トレンチ土層断面図	40
第17図 1992年度C-4 aトレンチ土層断面図	42
第18図 1992年度C-4 bトレンチ土層断面図	45
第19図 1993年度C-4 cトレンチ土層断面図	46
第20図 1993年度C-5 aトレンチ土層断面図	49
第21図 1993年度C-5 aトレンチ時期別平面図	50
第22図 1993年度C-5 bトレンチ土層断面図	51
第4節 D地区の調査	

第23図	1991・92年度D-1・2トレンチ土層断面図	53
第5節 E地区の調査		
第24図	1990年度E-1・1991年度E-2トレンチ土層断面図	55
第4章 出土遺物		
第1節 土器		
第25図	1990年度B地区S X357101出土甕実測図	59
第26図	1992年度B地区S E368106出土井戸枠実測図	63
第5章 自然科学的分析		
第2節 滑石製品の分析		
第27図	化学分析値相関関係グラフ1	82
第28図	化学分析値相関関係グラフ2	83
第29図	X線回折データ(1)	84
第30図	X線回折データ(2)	85
第6章 まとめ		
第1節 縄文時代		
第31図	小泉川水系地形区分図と遺跡	87
第2節 弥生時代中期前半の遺跡と立地		
第32図	弥生時代遺構分布図	88
第33図	弥生時代前期末～中期前葉の土器群	90
第34図	古墳時代遺構分布図	92
第3節 古墳時代		
第35図	下植野南遺跡周辺出土の埴輪	94
第36図	乙訓地域主要古墳分布図	95
第37図	乙訓地域出土の古い口縁部形態をもつ須恵器集成	96
第4節 平安時代の下植野南遺跡		
第38図	平安時代・中世遺構分布図	98
第5節 中世の下植野南遺跡		
第39図	平安時代の古道	100

付 表 目 次

第1章 調査にいたる経緯	
第1節 調査の経緯	
付表1 下植野南遺跡調査地一覧-----	2
第2章 遺跡の環境	
第2節 歴史的環境	
付表2 下植野南遺跡周辺調査区一覧-----	10
第5章 自然科学的分析	
第1節 下植野南遺跡の花粉分析	
付表3 下植野南遺跡産出花粉化石一覧-----	77
第2節 滑石製品の分析	
付表4 X線回折試験結果-----	79
付表5 化学分析表-----	80
第6章 まとめ	
第6節 おわりに	
付表6 遺構番号対照表-----	106
付表7 遺物観察表-----	111

図 版 目 次

- 図版第 1 1990年度 A 地区遺構実測図
図版第 2 1992年度 A 地区遺構実測図(1)
図版第 3 1992年度 A 地区遺構実測図(2)
図版第 4 1992年度 A 地区遺構実測図(3)
図版第 5 1992年度 A 地区 S H395336・S H395338
図版第 6 1992年度 A 地区 S X395335
図版第 7 1992年度 A 地区 S H395407・S H395401・S K395403
図版第 8 1992年度 A 地区 S H395433・S H395405・S K395403・S B395451
図版第 9 1992年度 A 地区 S K395411・S K395404
図版第10 1992年度 A 地区 S K395502・S D395501・S D395503・S R395333
図版第11 1990年度 B 地区遺構実測図
図版第12 1991・1992年度 B 地区遺構実測図(1)
図版第13 1991・1992年度 B 地区遺構実測図(2)
図版第14 1991年度 B 地区 S K36841・S B36831
図版第15 1991年度 B 地区 S F36836・S E36834・S E36823・S H36835・S H36843
図版第16 1991年度 B 地区 S B36838・S B36870・S B36837・S B36871
図版第17 1991年度 B 地区 S B36853・S B36854・S B36855・S B36857・S B36856
図版第18 1991年度 B 地区 S X36822・S X36821・S X36842・S X36871・S X36844
図版第19 1991年度 B 地区 S R35706-b・S R35707-b・S D36848・S X36849
図版第20 1992年度 B 地区 S E368106・S K368116・S K368133・S K36873・S K368114
図版第21 1992年度 B 地区 S B368105・S B368108・S B368107・S B368109
図版第22 1992年度 B 地区 S B368111・S B368110・S B368113・S B368112
図版第23 1992年度 B 地区 S B368128・S B368125・S B368126・S B368127・S B368130
図版第24 1992年度 B 地区 S H368117・S H368121
図版第25 1992年度 B 地区 S H368118・S H368119・S H368120
図版第26 1992年度 B 地区 S H368123・S H368136・S X368212・S K368131
図版第27 C-1 トレンチ遺構実測図
図版第28 C-1 トレンチ S D35709・S D36842・S B368201・S H368202
図版第29 C-1 トレンチ S H368203・S H35705・S K36847・S K368226・S K368248
図版第30 C-2・C-4 a トレンチ遺構実測図
図版第31 C-2 トレンチ S B395603・S B395605・S B395604・S B395606・S H3695685
図版第32 C-2 トレンチ S H395677・S H395690・S H395684・S H395686

- 図版第33 C-2 トレンチ S H395632・S K395680・S K395602・S K395623・S K395683
- 図版第34 C-2 トレンチ S R395600・S R395601
- 図版第35 C-3・C-4 b・C-4 c・C-5 a・C-5 b・C-6 トレンチ遺構実測図
- 図版第36 C-3 トレンチ S B368302・S H368305・S H368304
- 図版第37 C-3 トレンチ S X368311・S K368310・S X368307・S X368308・S X368309
- 図版第38 C-4 a トレンチ S R395702・S R395703・S R395720・S D395715
- 図版第39 C-4 b・C-4 c トレンチ S B395810・S B395821・S B395841・S B395842
- 図版第40 C-5 トレンチ S B428106・S B428110・S D428108・S X428107
- 図版第41 C-6 トレンチ S F46604・S K46605・S H395803
- 図版第42 D-1・D-2・E-1・E-2 トレンチ遺構実測図
- 図版第43 1990年度A地区出土遺物実測図
- 図版第44 1992年度A地区出土遺物実測図(1)
- 図版第45 1992年度A地区出土遺物実測図(2)
- 図版第46 1992年度A地区出土遺物実測図(3)
- 図版第47 1992年度A地区出土遺物実測図(4)
- 図版第48 1992年度A地区出土遺物実測図(5)
- 図版第49 1992年度A地区出土遺物実測図(6)
- 図版第50 1992年度A地区出土遺物実測図(7)
- 図版第51 1992年度A地区出土遺物実測図(8)
- 図版第52 1992年度A地区出土遺物実測図(9)
- 図版第53 1992年度A地区出土遺物実測図(10)
- 図版第54 1992年度A地区出土遺物実測図(11)
- 図版第55 1990年度B地区出土遺物実測図(1)
- 図版第56 1990年度B地区出土遺物実測図(2)
- 図版第57 1991年度B地区出土遺物実測図(1)
- 図版第58 1991年度B地区出土遺物実測図(2)
- 図版第59 1991年度B地区出土遺物実測図(3)
- 図版第60 1991年度B地区出土遺物実測図(4)
- 図版第61 1991年度B地区出土遺物実測図(5)
- 図版第62 1991年度B地区出土遺物実測図(6)
- 図版第63 1991年度B地区出土遺物実測図(7)
- 図版第64 1991年度B地区出土遺物実測図(8)
- 図版第65 1991年度B地区出土遺物実測図(9)
- 図版第66 1991年度B地区出土遺物実測図(10)
- 図版第67 1991年度B地区出土遺物実測図(11)
- 図版第68 1991年度B地区出土遺物実測図(12)

- 図版第69 1991年度B地区出土遺物実測図(13)
 図版第70 1991年度B地区出土遺物実測図(14)
 図版第71 1991年度B地区出土遺物実測図(15)
 図版第72 1991年度B地区出土遺物実測図(16)
 図版第73 1992年度B地区出土遺物実測図(1)
 図版第74 1992年度B地区出土遺物実測図(2)
 図版第75 1992年度B地区出土遺物実測図(3)
 図版第76 1992年度B地区出土遺物実測図(4)
 図版第77 1992年度B地区出土遺物実測図(5)
 図版第78 1992年度B地区出土遺物実測図(6)
 図版第79 1992年度B地区出土遺物実測図(7)
 図版第80 1992年度B地区出土遺物実測図(8)
 図版第81 1992年度B地区出土遺物実測図(9)
 図版第82 1992年度B地区出土遺物実測図(10)
 図版第83 C-1 トレンチ出土遺物実測図(1)
 図版第84 C-1 トレンチ出土遺物実測図(2)
 図版第85 C-1 トレンチ出土遺物実測図(3)
 図版第86 C-2 トレンチ出土遺物実測図(1)
 図版第87 C-2 トレンチ出土遺物実測図(2)
 図版第88 C-2 トレンチ出土遺物実測図(3)
 図版第89 C-2 トレンチ出土遺物実測図(4)
 図版第90 C-2 トレンチ出土遺物実測図(5)
 図版第91 C-2 トレンチ出土遺物実測図(6)
 図版第92 C-2・C-3 トレンチ出土遺物実測図
 図版第93 C-4 a トレンチ出土遺物実測図(1)
 図版第94 C-4 a トレンチ出土遺物実測図(2)
 図版第95 C-4 a・4 b・4 c トレンチ出土遺物実測図
 図版第96 C-5 a トレンチ出土遺物実測図
 図版第97 C-5 b・C-6・E-1 トレンチ出土遺物実測図
 図版第98 C地区出土瓦実測図
 図版第99 C-3地区出土埴輪実測図
 図版第100 下植野南遺跡出土縄文土器実測図(1)
 図版第101 下植野南遺跡出土縄文土器実測図(2)
 図版第102 下植野南遺跡出土滑石製白玉実測図
 図版第103 下植野南遺跡出土金属・石製品実測図
 図版第104 下植野南遺跡出土鉄器実測図

- 図版第105 (1)1990年度A地区調査(北から) (2)1992年度A地区中・近世遺構面(西から)
(3)1992年度A地区奈良・平安時代遺構面(西から)
- 図版第106 (1)1992年度A地区古墳時代遺構面Ⅰ(北から)
(2)1992年度A地区古墳時代遺構面Ⅱ(東から)
(3)1992年度A地区S R395333断面(南から)
- 図版第107 (1)1992年度A地区S H395336(東から) (2)1992年度A地区S H395338(南から)
(3)1992年度A地区S H395338竈(南から)
- 図版第108 (1)1992年度A地区古墳時代遺構面Ⅱ(北西から)
(2)1992年度A地区古墳時代遺構面Ⅱ(北東から)
(3)1992年度A地区S H395401炭化物出土状態(北から)
- 図版第109 (1)1992年度A地区S H395401(東から) (2)1992年度A地区S H395401竈(東から)
(3)1992年度A地区S H395405炭化物出土状態(西から)
- 図版第110 (1)1992年度A地区S H395433・S B395451(南から)
(2)1992年度A地区S H395407・S K395411(西から)
(3)1992年度A地区S H395407・S K395411(北から)
- 図版第111 (1)1992年度A地区S K395411(西から)
(2)1992年度A地区S K395411中央焼土(北から)
(3)1992年度A地区S K395403(東から)
- 図版第112 (1)1992年度A地区S H395407(東から) (2)1992年度A地区S H395407竈(東から)
(3)1992年度A地区S K395404(北から)
- 図版第113 (1)1992年度A地区S D395503(北東から) (2)1992年度A地区S D395501(北から)
(3)1992年度A地区現地説明会風景(東から)
- 図版第114 (1)1990年度B地区上層遺構面(西から) (2)1990年度B地区下層遺構面(東から)
(3)1990年度B地区S X357101(南から)
- 図版第115 (1)1991年度B地区上層遺構面(西から) (2)1991年度B地区S F36836(東から)
(3)1991年度B地区S K36841(北から)
- 図版第116 (1)1991年度B地区S K36841遺物出土状況(北から)
(2)1991年度B地区S B36831(南から)
(3)1991年度B地区S B36837・S B36838・S B36870・S B36871(北から)
- 図版第117 (1)1991年度B地区S H36835(南から) (2)1991年度B地区S H36843(北から)
(3)1991年度B地区S X36820(東から)
- 図版第118 (1)1991年度B地区S X36820(南から) (2)1991年度B地区S X36821(北東から)
(3)1991年度B地区S X36821(東から)
- 図版第119 (1)1991年度B地区S X36822(北から) (2)1991年度B地区S X36822(南から)
(3)1991年度B地区S X36844(西から)
- 図版第120 (1)1991年度B地区西半下層遺構面(東から)

- (2)1991年度B地区S B36853・S B36854・S B36855他(東から)
(3)1991年度B地区S B36853・S B36854・S B36855(南から)
- 図版第121 (1)1991年度B地区S D36849(北から)
(2)1991年度B地区S D36849断面(南から) (3)1992年度B地区(東から)
- 図版第122 (1)1992年度B地区(東から) (2)1992年度B地区S E368101(南から)
(3)1992年度B地区S E368101(南から)
- 図版第123 (1)1992年度B地区S B368110(南から) (2)1992年度B地区S B368111(東から)
(3)1992年度B地区S B368113・S B368130(南から)
- 図版第124 (1)1992年度B地区S B368112(東から)
(2)1992年度B地区S B368107・S B368108(南から)
(3)1992年度B地区S E368106(西から)
- 図版第125 (1)1992年度B地区S H368118調査風景(北西から)
(2)1992年度B地区S H368118(南から)
(3)1992年度B地区S H368118竈(南から)
- 図版第126 (1)1992年度B地区S H368121(南から)
(2)1992年度B地区S H368121竈(南から) (3)1992年度B地区S H368117(南から)
- 図版第127 (1)1992年度B地区S H368119(南から) (2)1992年度B地区S K368175(南から)
(3)1992年度B地区S K368131(北から)
- 図版第128 (1)1990年度C-1トレンチ上層(東から)
(2)1990年度C-1トレンチ下層(東から)
(3)1990年度C-1トレンチS D35709・S D35710(南から)
- 図版第129 (1)1992年度C-1トレンチS H35705・S B368201(上から)
(2)1992年度C-1トレンチ西半(東から)
(3)1992年度C-1トレンチ風景(南西から)
- 図版第130 (1)1992年度C-1トレンチS H368202・S H368204(東から)
(2)1992年度C-1トレンチS H368202・S H368204(南西から)
(3)1992年度C-1トレンチS K368248・S K368226(南から)
- 図版第131 (1)1992年度C-1トレンチS K368248(北西から)
(2)1992年度C-1トレンチS K368226遺物出土状態(北から)
(3)1992年度C-1トレンチS K368247(南から)
- 図版第132 (1)C-2トレンチ(西から) (2)C-2トレンチ上層(西から)
(3)C-2トレンチ下層(東から)
- 図版第133 (1)C-2トレンチS B395605(南から)
(2)C-2トレンチS B395606(南東から) (3)C-2トレンチS H395690(西から)
- 図版第134 (1)C-2トレンチS H395684(北西から)
(2)C-2トレンチS H395685(南東から)

- (3) C-2 トレンチ S K395623(北から)
- 図版第135 (1) C-2 トレンチ下層南半(東から)
 (2) C-2 トレンチ S R395600断面(南から)
 (3) C-2 トレンチ S K395602断面(南から)
- 図版第136 (1) C-3 トレンチ(西から) (2) C-3 トレンチ西半(西から)
 (3) C-3 トレンチ S X368307(北西から)
- 図版第137 (1) C-3 トレンチ S X368307・S X368308断面(南西から)
 (2) C-3 トレンチ S X368307断面(東から) (3) C-3 トレンチ S B368302(西から)
- 図版第138 (1) C-3 トレンチ S H368304(東から)
 (2) C-3 トレンチ S H368304竈(南から) (3) C-3 トレンチ S X368311(東から)
- 図版第139 (1) C-4 a トレンチ(東から)
 (2) C-4 a トレンチ S D395704・S D395706(南から)
 (3) C-4 a トレンチ S R368702遺物出土状態(北から)
- 図版第140 (1) C-4 a トレンチ S R368702断面(東から)
 (2) C-4 a トレンチ S R368702断面(東から) (3) C-4 b トレンチ(西から)
- 図版第141 (1) C-4 b トレンチ(南から)
 (2) C-4 b トレンチ S B395821・S B395842(南東から)
 (3) C-4 b トレンチ S H395803(南東から)
- 図版第142 (1) 1992年度 C-4 b・c トレンチ(西から) (2) C-4 c トレンチ東隅(西から)
 (3) C-4 c トレンチ S D42818・S D42802(東から)
- 図版第143 (1) 1992年度 C-5 a トレンチ(東から)
 (2) C-5 a トレンチ S K428103(北東から)
 (3) C-5 a トレンチ S K428104・S D428105(北から)
- 図版第144 (1) C-5 a トレンチ S B428106(南から)
 (2) C-5 a トレンチ S B428106 P 7(東から)
 (3) C-5 a トレンチ S D428108(南から)
- 図版第145 (1) C-5 b トレンチ(西から) (2) C-5 a トレンチ(北から)
 (3) C-6 トレンチ(南から)
- 図版第146 (1) 1992年度 C-6 トレンチ(南西から)
 (2) C-6 トレンチ S K46601(南西から)
 (3) C-6 トレンチ S H385803(北から)
- 図版第147 (1) 1991年度 D-1 トレンチ(西から) (2) D-2 トレンチ(東から)
 (3) E-1 トレンチ G 3(北西から)
- 図版第148 (1) 1991年度 E-2 トレンチ(北東から)
 (2) E-2 トレンチ S D36859(北から) (3) E-1 トレンチ S D36858(東から)
- 図版第149 1990・1992年度 A地区出土遺物

- 図版第150 1992年度A地区出土遺物(1)
 図版第151 1992年度A地区出土遺物(2)
 図版第152 1992年度A地区出土遺物(3)
 図版第153 1992年度A地区出土遺物(4)
 図版第154 1992年度A地区出土遺物(5)
 図版第155 1990・1991年度B地区出土遺物
 図版第156 1991年度B地区出土遺物(1)
 図版第157 1991年度B地区出土遺物(2)
 図版第158 1991年度B地区出土遺物(3)
 図版第159 1991年度B地区出土遺物(4)
 図版第160 1991年度B地区出土遺物(5)
 図版第161 1991年度B地区出土遺物(6)
 図版第162 1991年度B地区出土遺物(7)
 図版第163 1991・1992年度B地区出土遺物
 図版第164 1992年度B地区出土遺物(1)
 図版第165 1992年度B地区出土遺物(2)
 図版第166 1992年度B地区出土遺物(3)
 図版第167 1992年度B地区・C-1トレンチ出土遺物
 図版第168 C-1トレンチ出土遺物
 図版第169 C-1・2トレンチ出土遺物
 図版第170 C-2トレンチ出土遺物(1)
 図版第171 C-2トレンチ出土遺物(2)
 図版第172 C-2トレンチ出土遺物(3)
 図版第173 C-2トレンチ出土遺物(4)
 図版第174 C-3・4aトレンチ出土遺物
 図版第175 C-4a・bトレンチ出土遺物
 図版第176 C-4a・4b・5aトレンチ出土遺物
 図版第177 C-6トレンチ出土遺物・埴輪・縄文土器
 図版第178 白玉・銅鏡・石帯・耳飾り
 図版第179 1992年度B地区SE368108井戸枠

第1章 調査にいたる経緯

第1節 調査の経緯

今回報告する下植野南遺跡の発掘調査は、高速道路の拡幅工事に先立って、実施されたものである。中央自動車道西宮線、通称名神高速道路は、計画当初の予測を上回る交通量の増加による慢性的な交通渋滞の緩和と、京都府と大阪府の府境に位置する重大事故の多発する天王山トンネルの改善のため、茨木インターチェンジと京都南インターチェンジ間の走行車線の拡張工事が計画された。工事区の京都府側については当調査研究センターに発掘調査が委託された。

乙訓郡内で拡張の予定されている名神高速道路の路線は、そのほぼ全域で長岡京跡を斜めに横切っており、埋蔵文化財の発掘調査が必要とされた。発掘調査にあたっては日本道路公団側の設定した呼称名に合わせ、大山崎工区・下植野工区・長岡工区・向日工区・京都工区に分け、各工区内を名神高速道路の下を通るトンネル等を境に地区に分けた。下植野工区では西からA・B・C・D・E地区とし、必要に応じて枝番号を数字とアルファベットの小文字を組み合わせてトレンチ番号を付けた。長岡工区・向日工区などと同じように、E地区の片側1車線幅の調査トレンチは、長岡京跡の条坊の確認作業に主眼を置き、調査対象区と条坊が交差する部分に設けることが、京都府教育庁指導部文化財保護課と当調査研究センターと道路公団の間で協議の上、決定された。

今回報告する下植野工区は、桂川に流れ込む小泉川と小畑川に囲まれた区間で、下植野南遺跡・朱雀大路・長岡京跡九条第二小路(新呼称京域外)・長岡京跡九条大路(新呼称京域外)・西一坊大路・西二坊第一小路(新呼称西二坊坊間東小路)・西二坊坊間小路・西二坊第二小路(新呼称西二坊坊間東小路)を検出する目的で設定された。

また、従来から長岡京の条坊が、平城京型で復元されていた既存の案より二町分北にずれる(山中1992)ことが指摘されていた。長岡京の南限を確認し、長岡京の南辺の土地利用を明らかにすることが期待されていた。

調査対象地は、小畑川や小泉川に隣接しており、河川の氾濫などによって、遺構面が消失している可能性が予測された。平成2年度は、試掘調査によって遺構面の有無や掘削深度の確認を行い、その結果を受けて以後の調査区の設定計画を諸機関と協議した。

調査地点と年度・調査担当職員が複数であったことから、調査回数・地区名・遺構番号に混乱が認められる。調査回数・地区名・担当者については付表1のとおりである。遺構番号については、発掘調査時の遺物取り上げ番号、概報に用いた番号、本報告書の番号の対応表を付表6にて明示した。

調査に係わる費用は、全額、日本道路公団が負担した。

付表1 下植野南遺跡調査地一覧

トレンチ	回数	所在地	面積	年度	開始日	終了日	担当者
A	357次	円明寺壺町田	200	平成2年度	7月11日	12月8日	戸原和人
A	395次	円明寺壺町田	2000	平成4年度	7月1日	3月5日	中川和哉
B	357次	円明寺壺町田	520	平成2年度	7月4日	2月4日	戸原
B(西半部)	368次	円明寺壺町田	2750	平成3年度	4月15日	3月6日	戸原・黒坪一樹
B(東半部)	368次	円明寺壺町田	1820	平成4年度	4月8日	10月21日	岩松 保
C-1	357次	円明寺壺町田	170	平成2年度	7月4日	10月4日	戸原
C-1	368次	円明寺壺町田	310	平成3年度	12月17日	2月27日	鍋田 勇
C-1	368次	円明寺壺町田	350	平成4年度	4月8日	5月26日	鍋田
C-2(試掘)	357次	円明寺壺町田・下植野松田	310	平成2年度	11月16日	2月15日	戸原
C-2	395次	円明寺松田	1600	平成4年度	4月24日	9月11日	鍋田
C-3(試掘)	357次	下植野五條本	330	平成2年度	11月19日	2月15日	戸原
C-3(上層)	368次	円明寺壺町田	1000	平成3年度	1月27日	3月6日	戸原
C-3	368次	下植野五條本	1500	平成4年度	4月7日	8月7日	竹井治雄
C-4 a	395次	下植野寺門	750	平成4年度	9月21日	12月18日	鍋田
C-4 b	395次	下植野寺門	350	平成4年度	12月10日	3月5日	鍋田
C-4 c	428次	下植野寺門	500	平成5年度	10月18日	1月19日	戸原
C-5 a	428次	下植野五條本	600	平成5年度	4月7日	6月29日	岩松
C-5 b	428次	下植野五條本	500	平成5年度	12月6日	3月4日	戸原
C-6	466次	下植野寺門	690	平成6年度	7月4日	10月5日	戸原
D(試掘)	357次	下植野飯田	330	平成2年度	9月1日	10月7日	戸原
D	368次	下植野飯田	700	平成3年度	8月5日	10月11日	竹井
D-2	395次	下植野五條本	200	平成4年度	9月25日	11月25日	竹井
E-1(試掘)	357次	下植野北枚方	200	平成2年度	1月17日	2月18日	戸原
E-2	368次	下植野北枚方	320	平成3年度	7月18日	9月11日	戸原

第2節 調査体制

調査主体者

福山 敏男(平成2～7年度)

樋口 隆康(平成7～10年度)

調査責任者

堤 圭三郎(事務局長 平成2年度)

松坂 寛支(事務局長 平成2・3年度)

城戸 秀夫(事務局長 平成4～6年度)

木村 英男(事務局長 平成7～10年度)

調査担当責任者

中谷 雅治(次長兼調査第1課長 平成2～5年度)

安藤 信策(調査第2課長 平成2～5年度

次長兼調査第2課長 平成6～10年度)

事務局

小林 将夫(次長兼総務課長 平成2・3年度)

佐伯 拓郎(次長兼総務課長 平成4～6年度)

園山 哲(次長兼総務課長 平成7・8年度)

福島 利範(次長兼総務課長 平成9・10年度)

安田 正人(総務係長 平成2～3年度

総務課課長補佐兼総務係長 平成4～10年度

主幹総務係長事務取扱 平成10年度)

杉江 昌乃(主事 平成2～10年度)

今村 正寿(主事 平成2～10年度)

鍋田 幸世(主事 平成2～10年度)

松尾 幸枝(主事 平成2～8年度)

上田 幸正(主事 平成2～4年度)

藤原 寛志(主事 平成5～6年度)

西村 晃(主事 平成7～10年度)

西林 紀子(主事 平成8～10年度)

岡田 正記(主事 平成10年度)

調査担当者(現地調査担当年度)

平良 泰久(調査第2課課長補佐兼調査第4係長 平成4～6年度)

小山 雅人(調査第2課調査第3係長 平成2～3年度)

戸原 和人(調査第2課調査第3係主任調査員 平成2～3年度

調査第4係主任調査員 平成4～6年度)

竹井 治雄(調査第2課調査第3係調査員 平成3年度

調査第4係調査員 平成4年度)

黒坪 一樹(調査第2課調査第3係調査員 平成3年度)

岩松 保(調査第2課調査第4係調査員 平成4～5年度)

中川 和哉(調査第2課調査第4係調査員 平成4年度)

鍋田 勇(調査第2課調査第3係調査員 平成3年度

調査第4係調査員 平成4年度)

発掘調査参加者(敬称略)

平成2年度：青木葉子・赤池学博・赤木 香・東 裕子・石井晶子・岩佐聖子・上村恵代・柴本祐子・

江口正孝・江藤結城・大倉英士・太田菜諸子・小田裕子・大森智子・岡田良紀・小島孝修・加藤真弓・川崎法子・北岡理絵・久保博昭・小藤俊太郎・小牧 勲・坂本英美・坂本祐三・澤野智佳代・渋谷庸子・清水琢哉・進木和美・首藤有里・鈴木陽一郎・高峰靖子・高尾恵子・竹内美砂・武田宏司・辻本幸子・椿井良昌・飛田浩一・中崎憲和・中西正和・成田理絵・浜中邦弘・針尾有章子・春木増美・広瀬時習・別所寛康・松本とも子・丸尾 晋(故人)・溝口博士・三柳洋一・宮本純二・三次美紀・吉田絵里・若松幹郎。

平成3年度：阿部真生・赤池学博・赤木 香・綾部弥奈子・岩佐聖子・江口正孝・小倉紀子・大倉英士・小笠原健二・小島真木子・尾関真二・柿原 実・北岡理絵・久保博昭・小島孝修・小牧 勲・小村美香・迫田友子・迫田伸子・澤田昌子・島田加奈・島田豊彰・首藤有里・進木和美・高尾恵子・寺本知佐子・飛田浩一・鳥井田かおり・中川千秋・中村祐子・西田良平・野田雅美・林 美希・針尾有章子・広末貴子・広瀬時習・前田暁宏・前田起世江・松井真美・松本とも子・丸尾 晋(故人)・溝口博士・宮本純二・森 暢子・森 喜子・山門芳江・山本恵子・山本憲作・梁井 裕・吉田絵里絵・芳谷一郎・四塚笑子・若松幹郎。

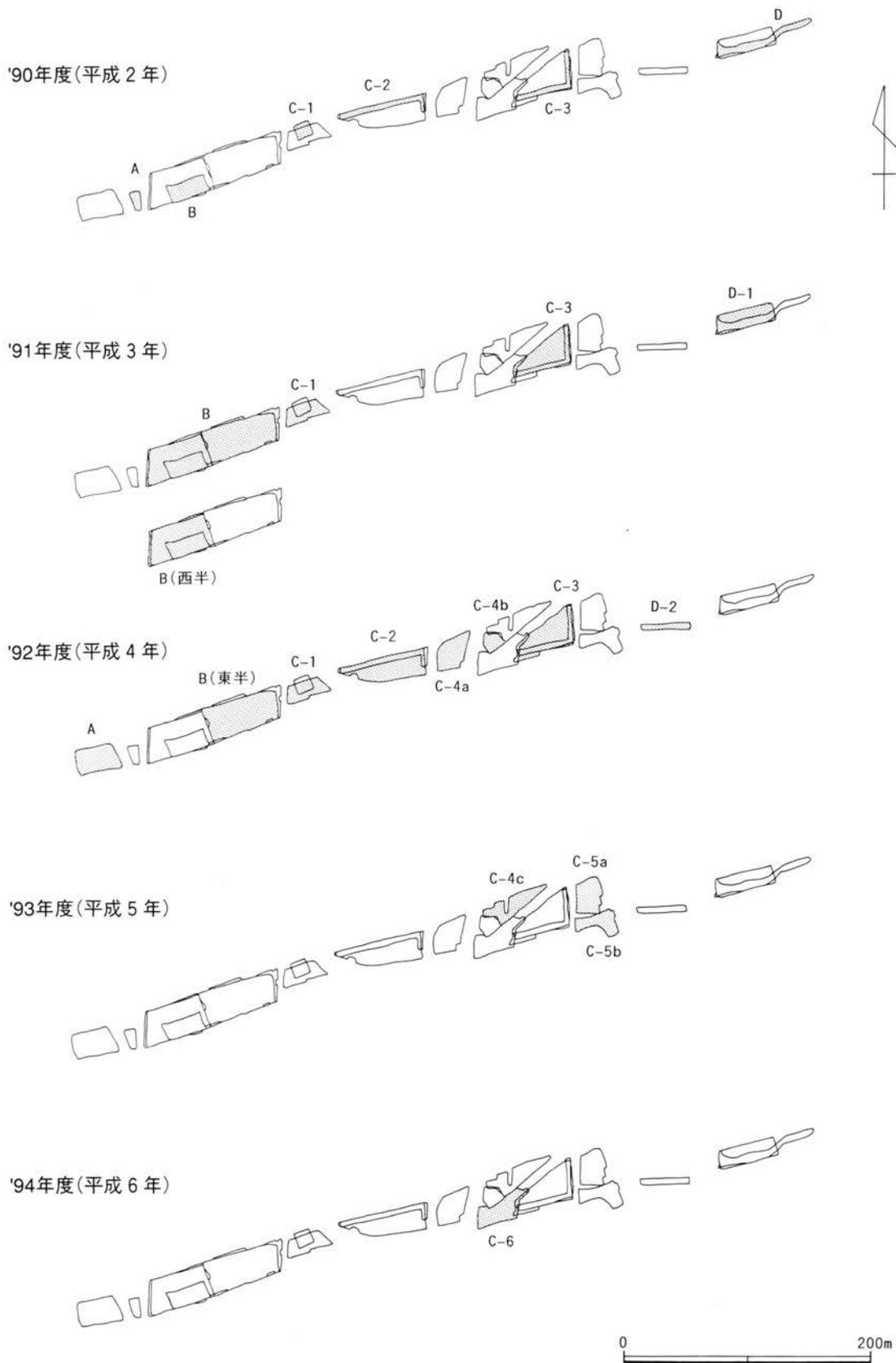
平成4年度：赤木 香・江口正孝・岡本一秀・小笠原健二・小島真木子・尾関真二・片山晋美子・門脇秀典・兼島美帆・河合弥生・北岡理絵・木下いづみ・小島孝修・小村美香・島田豊彰・首藤有里・進木和美・飛田浩一・永見真智子・針尾周吉・広瀬時習・溝口博士・宮本純二・八津谷都・柳井みずえ・山門芳江・山本恵子・吉田絵里絵・四塚笑子・脇村有美。

平成5年度：赤木 香・赤坂 希・阿部達雄・井上 綾・今井利彦・岩崎香織・上田 勉・上田正彦・江口正孝・大倉英士・岡崎昌宏・奥井 愛・尾関真二・小田洋子・河合弥生・木戸久美子・小島孝修・小谷加奈子・小原 香・小牧朝子・小牧 勲・小村美香・坂本真弓・重松康希・島田豊彰・首藤有里・白河豊基・杉本厚典・高浜知子・武生幸子・田中満太郎・飛田浩一・永井正勝・永見真智子・長友朋子・広瀬時修・藤原登紀雄・堀 躍子・松本健一郎・三阪優子・水谷美智代・溝口博士・宮本純二・武藤さやか・森岡かおり・八津谷都・矢野裕介・吉田泰士・脇村有美。

平成6年度：赤坂 希・阿部達雄・安部利恵子・石井祐子・一藁知美・井上 綾・今井利彦・岩崎香織・上田 勉・上田正彦・上野由香・岡崎有紀・小田洋子・川端佐和子・北川勝巳・木戸久美子・小島孝修・小谷加奈子・坂本真弓・狭川和美・佐藤あゆち・重松康希・島田豊彰・清水美和・白河豊基・杉本厚典・高橋宏樹・手島美香・飛田浩一・内藤晃子・中瀬古友佳・長友朋子・羽生夕紀子・廣瀬仁美・廣田紀子・藤木俊樹・深堀 茜・淵井孝泰・穂積優子・細見祐介・堀 躍子・松本健一郎・三阪優子・水谷美智代・宮本純二・森岡かおり・森上由美子・森下恵美子・安井園絵・八津谷都・山崎 誠・吉田泰士・吉田るみ・脇村有美・渡邊順子。

整理作業参加者(敬称略 平成2～10年度)

青山恵子・明日礼子・足利千恵美・荒川仁佳子・魚津知克・奥島かおり・奥村美紗代・小澤和子・小野山信子・小田栄子・河野晶子・梶原義実・木下智子・串田香奈子・倉西雅子・古賀友佳子・佐藤卓子・下園京美・鈴木浩子・鈴木まり子・関口睦美・曾根 茂・高橋富子・高橋文子・高山(坂本)英美・田鍬美紀・竹内千賀子・竹内友美・竹谷和子・伊達優子・田村重野・辻倉万里子・内藤チエ・長尾美恵子・中村美也・波岸初美・西村敏子・西村美智子・長谷川マチ子・久平喜美子・平林千佳・藤薮勝則・堀 大輔・松野元宏・村上優美子・安田裕貴子・吉谷美佐子・米沢裕子・若林照子。



第1図 A～D地区年度別調査一覧図

第2章 遺跡の環境

第1節 地形

下植野南遺跡は、京都府乙訓郡大山崎町下植野および同町円明寺に所在する。大山崎町は面積約5.97km²、人口約16,000人の小さな町で、面積の多くが大河川や、山地となっている。淀川対岸の八幡市とともに狭隘部を形成し、京都盆地の入り口部の西側を占める。このため、東海道新幹線・東海道本線・阪急京都線・名神高速道路・国道171号線が密集して横切り、現代も交通の要衝となっている。また、京都盆地のみならず丹波地域を水源とする桂川や、琵琶湖を水源とする宇治川、南山城から流れる木津川の三川が合流し淀川となる。従って京都盆地に降った雨水は、狭隘部を流れる淀川に流入する。淀川は、大阪湾に流れ込み、瀬戸内海を通じて外海へと続く。陸上交通の発達以前は、主要な物資運搬の方法として河川が利用された。

大山崎町の西側には、京都盆地の外縁を形成する山地が南北につながっており、その東側の麓には丘陵や段丘が認められる。豊臣秀吉と明智光秀の山崎合戦で歴史上有名な、名高い天王山(標高270m)はその1つである。山地は標高270~300mの開析の進んだ低い山が連なって形成されている。天王山東麓は、比高差約140mの急斜面をなし、対岸の男山丘陵と共に狭隘部を形成している。山体は、丹波帯中・古生層のチャート・砂岩・頁岩等を主体とする堆積岩で構成される。これらの山体の麓に分布する丘陵地は、起伏が少なく、著しく開析されている。地質構造は大阪層群によって形成されている。山地と丘陵は天王山断層・金ヶ原断層等によって画されている。丘陵の周辺部分には、エプロン状に段丘が取り付く。第2図の段丘Ⅰは高位段丘(植村1990)に相当し、大阪層群の上に不整合で赤色風化礫が覆う。段丘Ⅱは低位段丘に相当し、長岡京市では始良T n火山灰(2.47万年B. P.)が被覆することが確認されている。

下植野南遺跡は、桂川の支流である小泉川(延長8.6km)と、小畑川(延長31.5km)で囲まれた地域に広がる沖積低地上に位置する。現在の小畑川は、後世に人工的に流路が変えられており、本来の位置とは異なる。遺跡の地下は約20mにわたって礫・細流土が互層を成す。この最上層の礫層を整合的に細流土層が被覆した段階に、縄文時代晩期以後の遺構が見られる。遺構の立地としては、最上層の礫層によって形成された微高地を、選択的に利用した可能性が指摘できる(中塚1996)。

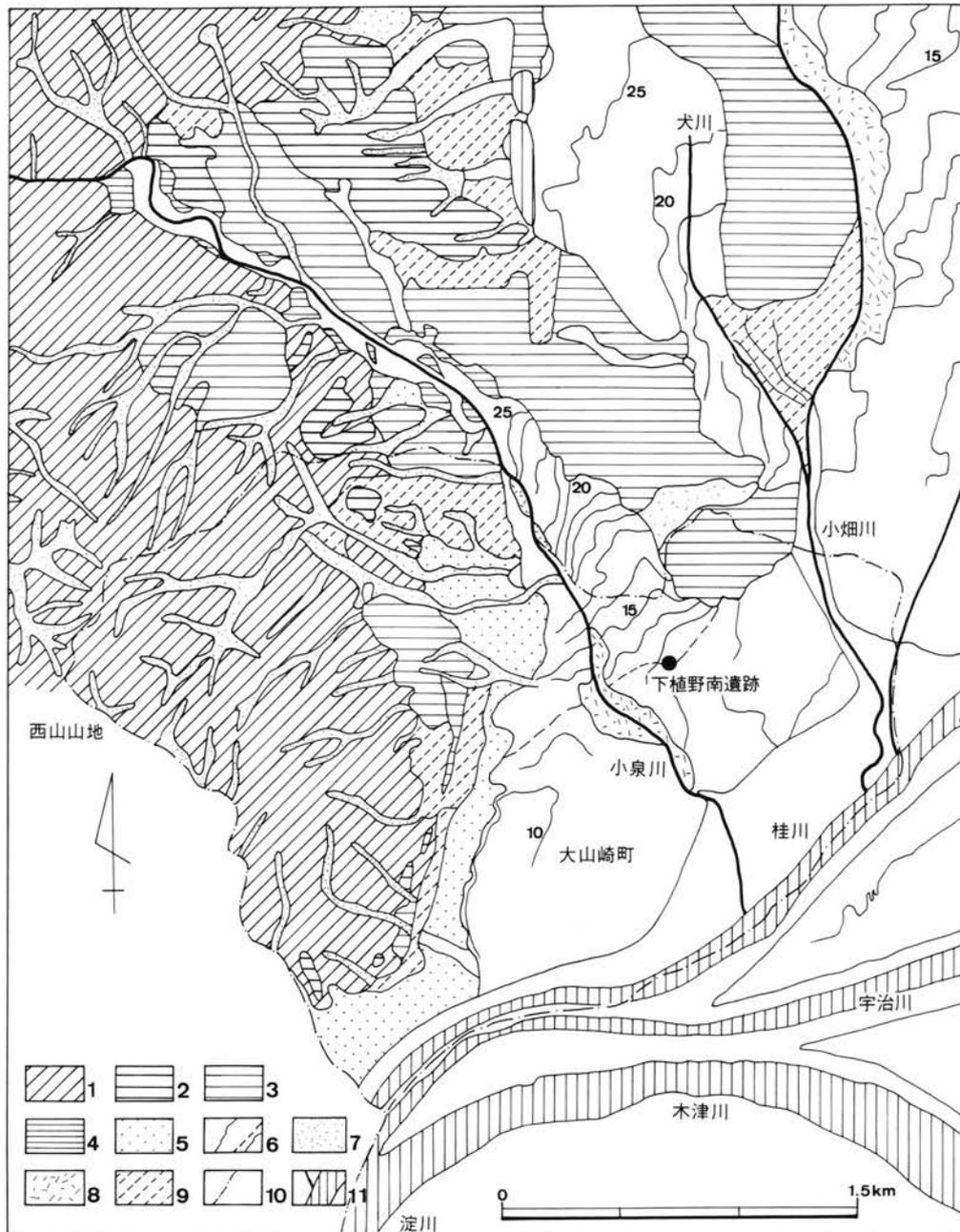
第2節 歴史的環境

大山崎町は、旧国では山城国、旧郡では乙訓郡に含まれる。乙訓郡は現在の向日市・長岡京市・大山崎町・京都市の一部にあたる。

大山崎町において、初めて人間が住み始めたと考えられる遺跡は、後期旧石器時代のものである。山崎遺跡(都出・四手井1972)、円明寺遺跡(野々口1997)がこれにあたる。いずれもサヌカイ

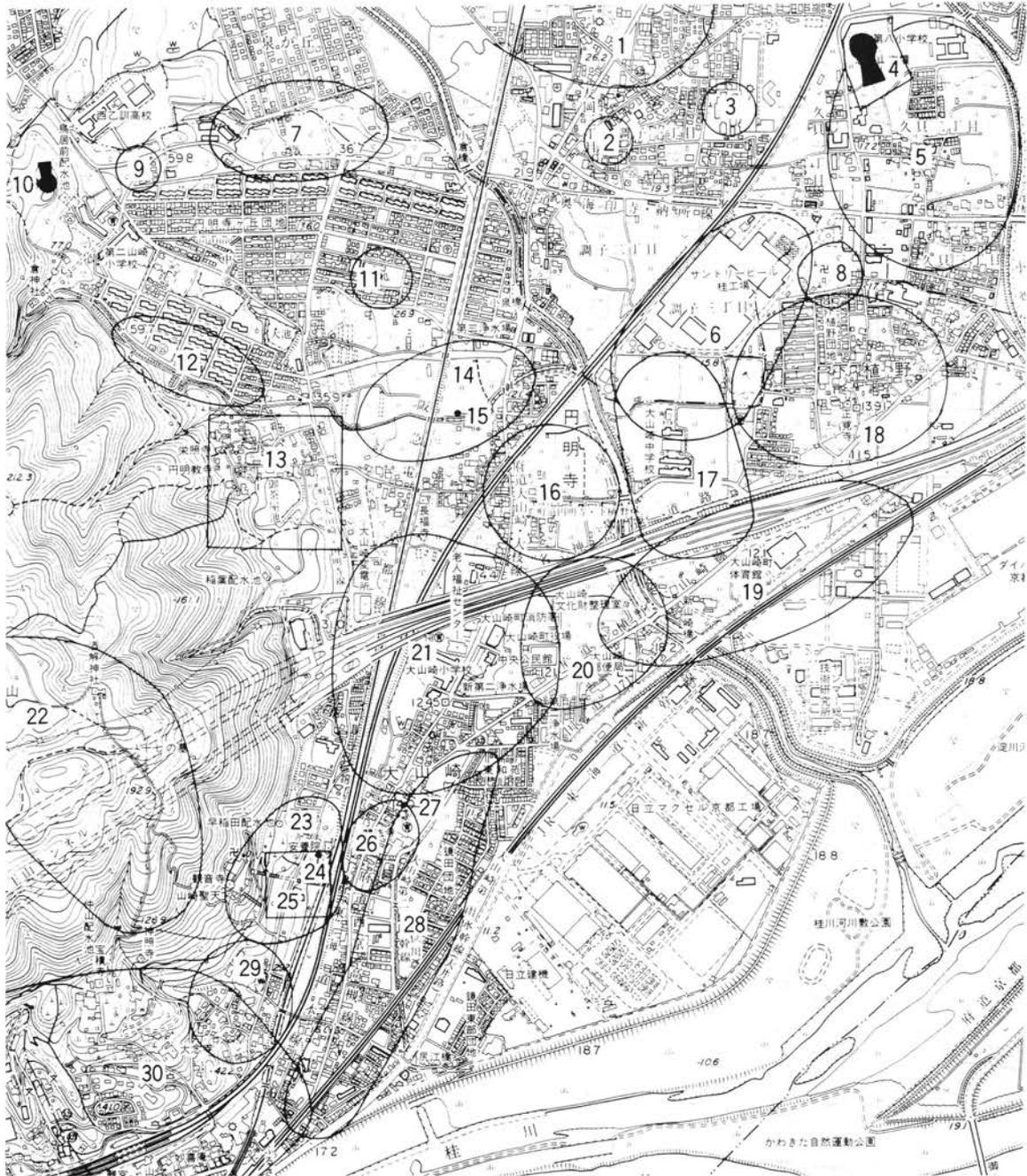
トを素材とする横剥ぎのナイフ形石器(国府型ナイフ形石器)である。隣接する長岡京市南栗ヶ塚遺跡では、集中部を形成した状態で出土し、接合関係も認められた。桂川西岸では、段丘から丘陵部にかけて、当該期の遺跡が多く分布している(中川1991)。

縄文時代に入ると、草創期の遺跡である久保川遺跡でチャート製の木葉形尖頭器が発見されている。土器や遺構は見つかっていない。次に古い遺物としては、松田遺跡から局部磨製異形石器(俗称トロトロ石器)が出土している。この石器は早期に属すと考えられている。下植野南遺跡のある、小泉川流域は縄文時代の遺跡が多く分布するところで、上流には押型文土器や後期の遺構



第2図 大山崎町周辺地形区分図(中塚1996を再トレース)

1. 丘陵・山地
2. 段丘Ⅰ
3. 段丘Ⅱ・Ⅲ
4. 沖積段丘
5. 沖積低地(扇状地)
6. 沖積低地(谷底低地, 緩扇状地~氾濫源)
7. 開析谷
8. 河川沿い微高地
9. 大規模人工改变地
10. 大山崎町域
11. 水域

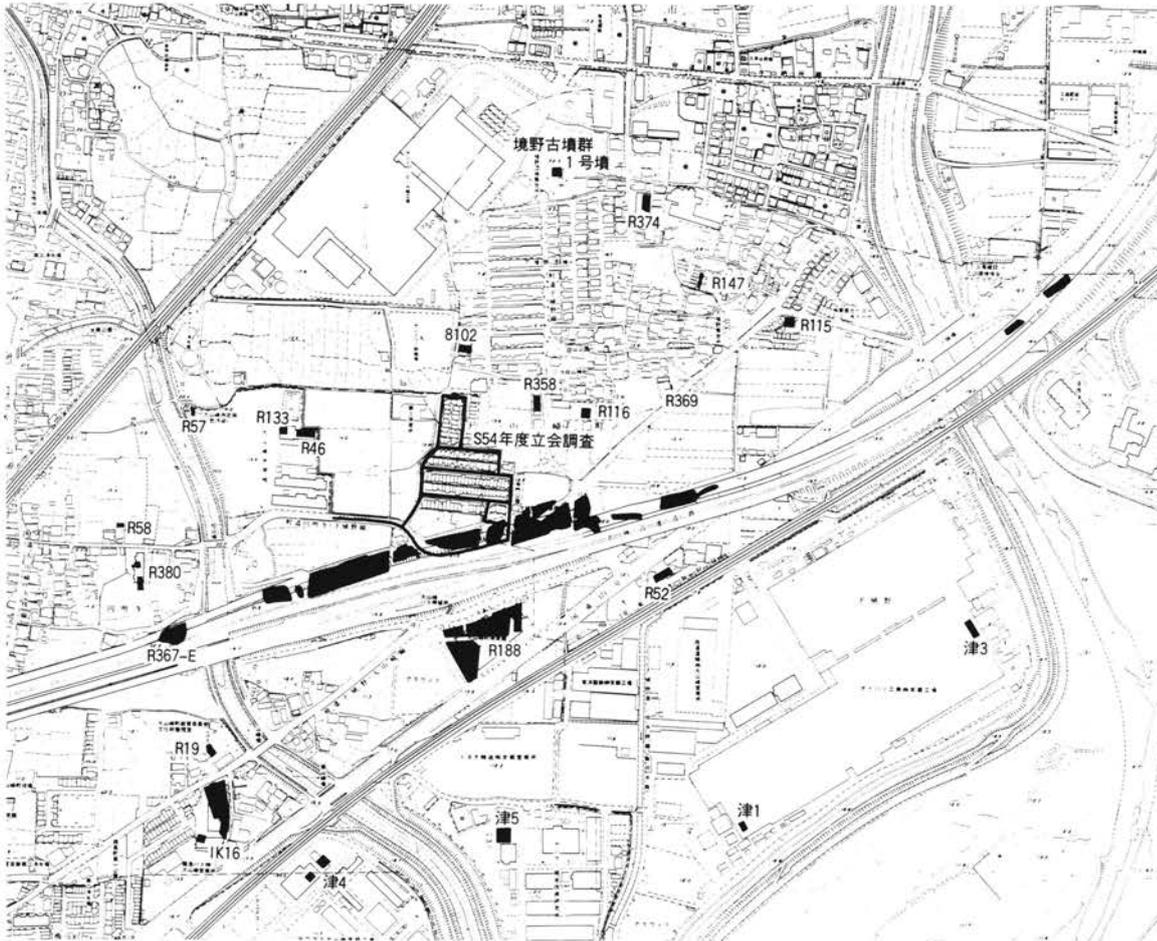


第3図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

- | | | | | | |
|-------------------------------|-----------|----------|-----------|-------------|-----------|
| 1. 友岡遺跡 | 2. 大縄遺跡 | 3. 調子城跡 | 4. 恵解山古墳 | 5. 南栗ヶ塚遺跡 | 6. 裕遺跡 |
| 7. 脇山遺跡 | 8. 境野古墳 | 9. 石倉遺跡 | 10. 鳥居前古墳 | 11. 葛原親王屋敷跡 | 12. 西法寺遺跡 |
| 13. 円明寺跡 | 14. 久保川遺跡 | 15. 里後古墳 | 16. 金蔵遺跡 | 17. 松田遺跡 | 18. 宮脇遺跡 |
| 19. 下植野南遺跡 | 20. 算用田遺跡 | 21. 百々遺跡 | 22. 山崎城跡 | 23. 白味才遺跡 | |
| 24. 白味才古墳 | 25. 山崎廃寺 | 26. 堀尾遺跡 | 27. 傍示木古墳 | 28. 山崎津跡 | 29. 山崎遺跡 |
| 30. 河陽離宮跡・相応寺跡・山崎国府・山崎院跡・山崎駅跡 | | | | | |

が検出された下海印寺遺跡(渡辺誠編1982)、船元式土器を多く出土した友岡遺跡(小田桐1996)があり、縄文時代の集落に適した地域であったことがわかる。下植野南遺跡では、中期の船元式土器を始め、後・晩期まで縄文土器が認められる。

弥生時代前期の遺跡としては、学史上、前期土器の編年(佐原1967)を行った遺跡として知られ



第4図 下植野南遺跡調査区一覽(1/20,000)

る雲宮遺跡(中川1997)が長岡京市にあるが、大山崎町内では前期の遺跡は知られていない。しかし、大山崎町に近接する南栗ヶ塚遺跡(岩崎1996)からは、弥生時代前期末の土器が出土している。また、この遺跡では弥生時代中期前葉の方形周溝墓(白川・原・岩崎1987)が検出されており、中央主体部からはサヌカイト製の打製石鏃3点が発見され、いわゆる戦士墓として注目される。大山崎町内では、今回報告する遺構の内、弥生時代中期前葉に属するものは最も弥生時代で古い遺構となる。また1985年度の大山崎町の調査では、中期の方形周溝墓が6基連結して検出された。

古墳時代に入ると、この地域に古墳が作られるようになる。有名な古墳としては天王山山麓の鳥居前古墳(都出・福永他1990)がある。この古墳は造り出し付きの円墳で、出土遺物から前期後葉に位置づけられる。出土遺物には、巴形銅器・鏡片・勾玉・管玉・鉄剣・短甲・埴輪等がある。平野部には、下植野の集落内に境野古墳群(林1981a)が知られている。発掘調査によって川西編年のⅢ期(川西1978)の埴輪と葺石を持つことがわかった。中山修一(中山1996)は、地元の伝承と山崎合戦の時、明智光秀が本陣をおいた御坊塚に比定している。いずれにしても、遺跡地図で記載されているような小型墳ではなく、大型の前方後円墳ないしは円墳である可能性が高い。また、境野古墳群の北350mには、中期の大型前方後円墳として知られる恵解山古墳(山本他1981)があり、従来長岡京市の古墳群との関係を論じられてきたが、立地と同時に再考する必要がある。

古墳時代の集落は、現在の下植野・円明寺地区に広く見られ、下植野南・松田・算用田・金

付表2 下植野南遺跡周辺調査区一覧

番号	調査回数	所在地	時期	遺構	文献	備考
1	R46	大山崎町円明寺松田	古墳・中世	○	林1984c	
2	R52	大山崎町下植野飯田	弥生・古墳・中世	○	林1984d	
3	R57	大山崎町円明寺松田	×	×	林1980a	
4	R58	大山崎町円明寺下金蔵	中世	○	林1980b	
5	R87	大山崎町下植野五条		○	竹井1982	調査位置不明
6	R115	大山崎町下植野山王前	×	×	林1982a	
7	R116	大山崎町下植野宮脇	古墳・中世	×	林1982b	
8	R133	大山崎町円明寺松田	弥生	○	林1984a	
9	R147	大山崎町下植野梅ヶ畑	中世	×	林1984b	
10	R188	大山崎町下植野一丁田 同町円明寺鎌田	縄文～中世	○	林・近澤・ 中塚1996	
11	R192	大山崎町円明寺算用田	古墳・平安	○	林1991b	
12	R358	大山崎町下植野寺門	弥生・古代・中世	○	林1991a	削平が著しい
13	R367-E	大山崎町円明寺井尻	弥生・古墳・平安・江戸	○	石尾19	
14	R369	大山崎町下植野宮本	中世	○	林1993a	
15	R374	大山崎町下植野代理分	古墳・平安	○	林1993b	
16	R380	大山崎町円明寺東の口	弥生・奈良・平安	○	林1993c	
17	津1	大山崎町下植野北細池	×	×	久保1984	
18	津3	大山崎町下植野北細池	×	×	林1984e	
19	津4	大山崎町大山崎東高田	縄文・古墳・中世・江戸	○	引原1984	
20	津5	大山崎町円明寺鎌田	×	×	林1984f	
21	IK16	大山崎町円明寺算用田	弥生～中世	○	中川1993	
22	S54年度立会	大山崎町下植野五条本他	弥生～	×	林1980c	
23	8102	大山崎町下植野宮脇	×	×	林1981b	
24	境野古墳群1号墳	大山崎町下植野境野	古墳	○	林1981a	埴輪出土

蔵・宮脇遺跡などに見られる。庄内・布留の時期にも住居跡は認められるが、最も多く検出できる時期は古墳時代後期初頭(T K 10・MT 15型式)の時期の遺構である。とくに、下植野南遺跡では多くの竪穴式住居跡が検出されている。またこの地域は、韓式土器や初期須恵器が出土する地域(中川1994)で、算用田遺跡(林1991)からは鳥形甕、下植野南遺跡からは軟質の韓式土器やT K 73～T K 208型式と同時期と考えられる須恵器が出土している。

文献上でこの地域が初めて出てくるのは、『日本書紀』垂仁天皇15年8月条で、日葉酢媛が后になったとき妹も妃になったが、竹野媛だけが容姿が悪いと故郷に帰された時、自殺を図って輿から落ちた場所なので墮国と言ひ、今は弟国と訛ったという伝承が記載されている。継体天皇12年3月甲子条では、弟国に継体天皇の宮居弟国宮があったとされる。山崎の名が出てくるのは、『日本書紀』においてであり、孝徳天皇が白雉4(653)年に離宮を造営したと記載されている。また、天平勝宝元(728)年の『東大寺奴婢帳』の山崎郷には、間人造東人の名が見られる。間人造は『新撰姓氏録』によれば皇別氏族で、山城の国に居住していたとされる。

奈良時代にはいると、神亀2(725)年に有名な行基によって、山崎と対岸を結ぶ山崎橋が作られる。次いで、天平3(731)年には山崎院が造られる。山崎橋は、戦火や自然災害のため破損したが、そのたびに修復を受けており、用いる木材にも規格が定められていた。山崎院の所在地については不明であるが、1980年に調査された山城国府跡第1次調査地において専仏が出土しており、この遺物が山崎院に使用されていたと考えられている(林1984)。

延暦3(784)年になると、桓武天皇によって長岡京遷都が行われる。下植野南遺跡は、旧条坊復原案によれば京内になるが、実態を反映する新条坊案(山中1992)では、九条以南の京外となる。長岡京は初期の段階に難波宮の建物を解体し移築して造営された。山崎はその荷揚げ基地として利用されたことは想像に難くない。平安京に遷都された後も、山崎の津として栄えてゆく。

また、長岡京遷都以後、山陽道の最初の駅家として陸上交通の要衝ともなった。山崎には2の主要な道路があり、1つは現在の条里を斜めに横切る直線道で久我畷と呼ばれる。この道は鳥羽の作り道を経て、平安京の羅城門に続くことされる道で、平安時代の山陽道にあたる。もう1つは、西国街道と呼ばれる北へ延びる道で、平安京に至る。足利健亮(足利1983)は、太平記の記述と地理的条件から、久我畷は本来の山陽道であるが、低湿地にあるため物資の運搬には適さないことを指摘し、西国街道をそのバイパス的な機能がある道と位置づけた。西国街道は百々遺跡で数回調査されている。調査によると、幅広い側溝を持つ道路で、現在の条里地割りとは合わない方位を持っている。この道の両脇には道と方位を同じくする建物が認められ、道から離れるに従い、建物の密集度は少なくなる。当時の大山崎のにぎわいが道を中心としたものであると考えられる。

山崎駅は、弘仁2年に嵯峨天皇の行宮である河陽離宮として利用されるようになる。この後、次第に行宮として用いられなくなり荒れていたが、貞観3(861)年の国司の申し出によって第4次国府として利用されるようになった(高橋1986)。山崎の貴人の墓であろうか、天王山山頂からは平安時代の火葬墓が発見されている。

中世になると、文献では、西園寺公経の別荘円明寺山荘が建てられ、現在の円明寺の御茶屋池はその庭園跡とされる。この頃、荏胡麻の生産と流通を一手に扱った、神人たちが活躍しだした。彼らは離宮八幡宮を中心に座に加入する生産業者や商人で、祭礼や八幡宮に奉仕もした。油座は、時の権力者によって、関銭の徴収を免れたため、さらに繁栄した。このときの繁栄ぶりをうかがわせるものに『信貴山縁起絵巻』第三巻がある。この中の山崎長者の話で、鉄鉢を飛ばして浄財を求めていた命蓮聖が、長者のいる山崎に鉄鉢を飛ばしたところ、長者はそれを蔵の中に閉じこめた。聖は鉄鉢を使って蔵ごと持ってきたという説話である。山崎の金持ちが近畿一円に知られていたことを示す話である。

一般の人間にとって最もよく知られる山崎の歴史事象は、天正10(1582)年の山崎(天王山)合戦であろう。同年6月2日に京都本能寺で織田信長を倒した明智光秀は、6月13日に備中高松城から引き返した羽柴秀吉と小泉川をはさみ対峙した。戦いは明智軍の負けとなり、秀吉の天下統一の一步となった。天王山には石垣を持つ大規模な城が造られたが、天正12年に廃城となった。この頃建てられたものとしては、現存する茶室妙喜庵の待庵がある。千利休の作とされる。

第3章 調査概要と遺構

第1節 A地区の調査

1. 1990(平成2)年度A地区(図版第1)

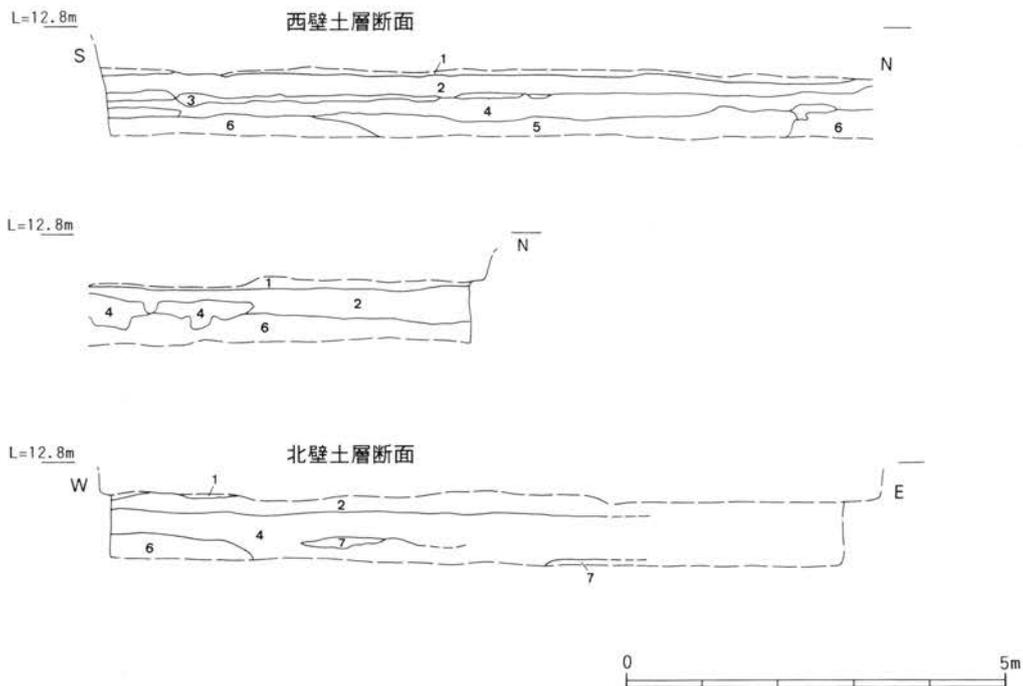
名神高速道路の下を通る既存の通路(カルバートボックス)の延長部建設に先立って、約200㎡の調査を行った。この調査地では2度の洪水によってもたらされたと考えられる堆積層を検出した。洪水性堆積物に覆われた地層は、いずれも水田耕作が行われた土壌が認められた。

遺構は地表下約1.5mで検出することができたが、湧水が激しく深い遺構については小面積で危険が伴うため、完掘することができなかった。

自然流路 S R 35711 調査区西部を南北に流れる流路で、埋土がラミナ状構造を持つ粗流の礫であることから、流水によって形成されたものと想定できる。検出長約11m・最大幅約3.5m、検出面からの深さ0.5m以上を測る。遺構の完掘は湧水のためできなかった。

土坑 S K 35712 調査区南東で検出した長方形の土坑である。東部は土層確認用の断ち割りによって欠損している。東西の現存長約1m・南北約0.7m・検出面からの深さ約0.1mを測る。

土坑 S K 35713 調査区中央部で検出した、古墳時代後期の不定形の土坑である。断面は中央部に向かい浅く凹む皿状を呈する。南北約3.2m・東西約3.5m、検出面からの深さ約0.3mを測



第5図 1990年度A地区土層断面図 西壁・北壁

1. 黄褐色砂礫層(φ 1～3cmの礫を多量に含む)
2. 明灰色粘質土層
3. 褐色砂礫層(φ 2～10cmの礫を多量に含む)
4. 暗灰色砂質土層(φ 1～3cmの礫を少量含む)
5. 黒灰色粘質土(φ 1～3cmの礫を少量含む)
6. 黄灰色粘質土
7. 不明

る。埋土中からは須恵器杯身・杯蓋、土師器高杯・甌等が出土した。

方形柱穴群 調査区の中央より北側で数か所検出できたが、建物としてはまとまらなかった。また、時期を特定できる遺物がほとんどなかった。

2. 1992(平成4)年度A地区(第6・7図、図版第2～10)

92年度A地区は前年度調査のA地区の西に隣接する調査区である。西に行くほど堆積層が厚く、遺構検出面が複数にわたるようになる。遺構検出面は、上層から中・近世、奈良・平安時代、古墳時代Ⅰ期、古墳時代Ⅱ期、弥生時代の5面に分けられる。

a. 中・近世(図版第2上図)

素堀溝群 東西方向に延びる中世の素堀溝群である。断面が浅い「U」字状を呈する。出土遺物から13世紀前後のものと想定できる。出土遺物には瓦器・白磁・青磁があるが、いずれも細片である。

柱穴群 遺構検出面と柱穴の色調が著しく異なるため掘削を行ったが、埋土と遺構検出面直下の土層との性質に違いが認められず、柱根痕跡も分別することができなかった。遺構である可能性は低い。何らかの原因で色調が変化したものと考えられる。

井戸 S E 395101 トレンチ南部中央で検出した近世の井戸である。掘形を円形に掘り検出面では方形の枠を持つ。井戸枠は下に向かうにつれて小さくなる3段の構造を持っている。上・中段は四隅に太い柱を立て、それに横棧を枘穴に差し込むことによって固定し、その間に細い丸太材を隙間のあかないように立て、土留めの役割としている。最下段は、幅約20cm程度の板を円形に巡らし、ちょうど桶の底を取り除いたような状態で設置されていた。井戸枠と掘形の間には裏込めとして拳大の石が多く含まれていた。完掘後は顕著な湧水はなかったが、農業用の水利施設と想定できる。検出面における掘形の直径は約3m、深さは約2.9mを測る。埋土中からは染付けの磁器椀、土師皿が出土している。

b. 奈良・平安時代(図版第2下図)

遺構の遺存状態が悪く、削平が著しかった。遺物は包含層を含めてもきわめて少ないが、布目をもつ瓦片が含まれる。

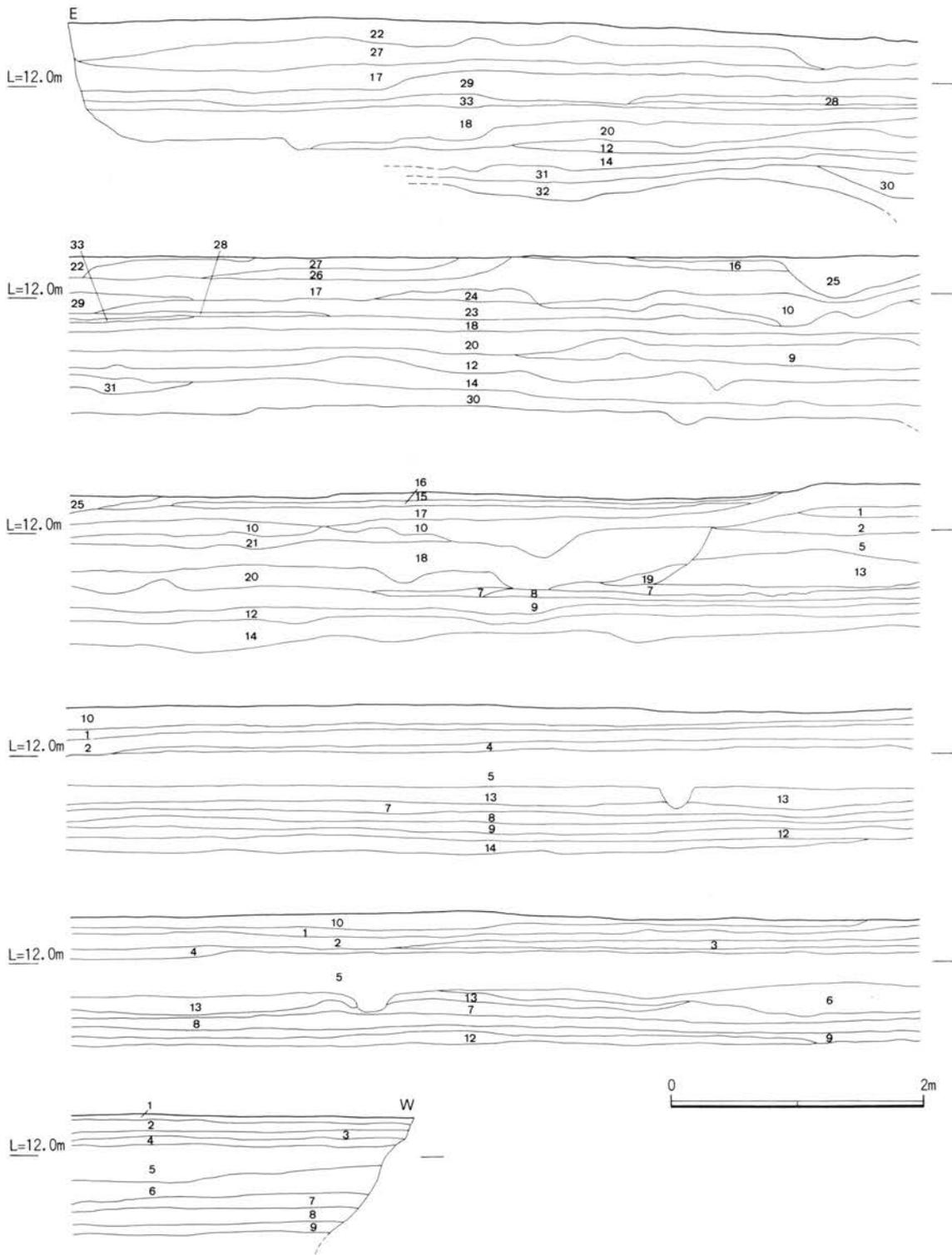
掘立柱建物跡 S B 395208 1間×2間の掘立柱建物跡である。建物の長辺の軸はN44°Eである。桁の長さは約3.6m・梁間約1.8mを測る。

溝 S D 395202 浅い南北方向の溝で、中世のものに比べ90°向きを変える。検出長約5.8m・幅約20m・深さ約0.1mを測る。断面が浅い「U」字状を呈する。

溝 S D 395203 浅い南北方向の溝で、検出長約9.2m・幅約0.25m・深さ約0.1mを測る。断面が浅い「U」字状を呈する。

溝 S D 395204 浅い南北方向の溝で、検出長約8.8m・幅約0.25m・深さ約0.1mを測る。断面が浅い「U」字状を呈する。

溝 S D 395205 浅い南北方向の溝で、検出長約7.6m・幅約0.2m・深さ約0.1mを測る。断面



第6図 1992年度A地区調査南壁土層断面図

- | | | | | |
|----------------|----------------|------------------------|---------------|--------------|
| 1. 灰褐色礫混砂質土 | 2. 黄灰褐色礫混砂質土層 | 3. 黄灰色砂礫層 | 4. 淡黄灰色砂層 | 5. 淡黄灰色粘砂質土層 |
| 6. 淡灰色砂質土層 | 7. 淡黄褐色粘砂質土層 | 8. 淡黄灰色粘質土層 | 9. 黄褐色礫混粘質土層 | |
| 10. 暗灰褐色礫混砂質土層 | 11. 暗黄橙色粘質土層 | 12. 暗灰褐色礫混砂質土層(しまりが悪い) | 13. 12よりやや明るい | |
| 14. 暗灰褐色粘砂質土層 | 15. 砂礫層 | 16. 黄橙色砂層 | 17. 暗灰色礫混粘質土層 | 18. 暗青灰色粘質土層 |
| 19. 暗黄黄灰色粘砂質土層 | 20. 黄灰褐色砂質土層 | 21. 暗黄褐色礫混砂質土層 | 22. 暗褐色粘質土層 | |
| 23. 暗黄褐色砂層 | 24. 暗灰褐色礫混砂質土層 | 25. 砂礫層 | 26. 暗黄灰色礫混砂層 | 27. 暗灰色砂礫層 |
| 28. 淡黄灰色砂質土層 | 29. 淡灰色礫混砂質土層 | 30. 黒褐色砂質土層 | 31. 暗茶色砂質土層 | 32. 暗灰褐色砂質土層 |

が浅い「U」字状を呈する。

溝 S D 395207 調査区南西部で検出した東西方向の溝である。東部は、削平のため損失しているものと想定できる。溝には、杭跡と考えられる小ピットがある。同一面で検出できた溝に比べ、幅が広い土地を区画する溝の可能性が指摘できる。遺構の切り合い関係から、S D 395205 に先行する時期のものである。溝の中心座標は $X = -121,790.80$ で、 $Y = -27,850$ である。検出長約 15m・幅約 0.7m・深さ約 0.1m を測る。

周溝状遺構 S X 395201 調査区北東部で検出した方形にめぐる浅い溝である。中央部が深い、浅い皿状の断面形を持つ。検出面からの深さは約 5cm である。時期や性格を示す遺物は検出できなかった。

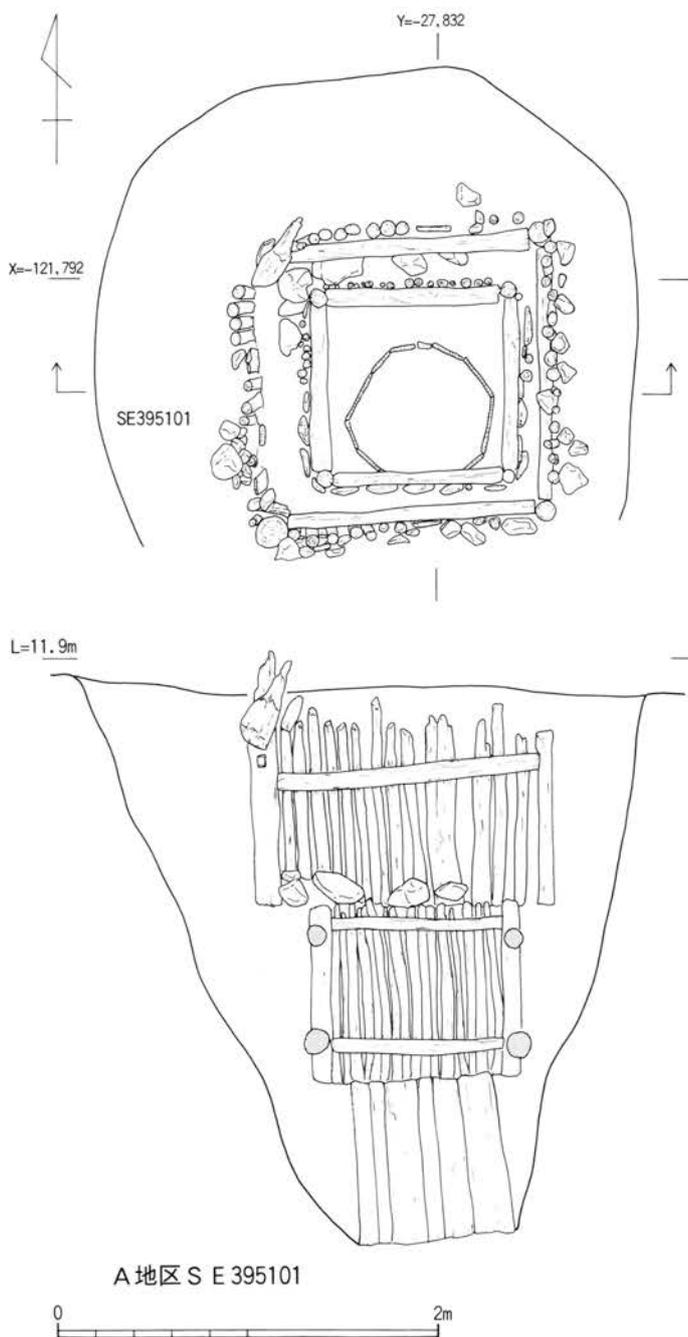
c. 古墳時代 I 期(図版第 3・5・6・10)

この遺構面は、S R 395333 を起源とする洪水性の堆積物

によって短期間に埋没したため、遺構の残りが比較的良好であった。

竪穴式住居跡 S H 395338(図版第 5) 北西辺の中央に竈をもつ竪穴式住居跡である。西隅を検出したことから、可能な限り調査地を拡張して検出に努めた。東隅は調査区外となったが、約 4m 四方の規模に復元でき、3本の支柱穴を検出した。検出面からの深さは約 0.2m を測る。竈内には自然石を使用した支柱石が認められた。出土遺物から 6 世紀の遺構と考えられる。

竪穴式住居跡 S H 395336(図版第 5) 北辺中央部に竈をもつ竪穴式住居跡である。残存状況が悪く、竪穴の立ち上がり部分は、ほとんど痕跡しか認められなかった。竈の内部からは土器が出土している。床面からは、滑石製の白玉が 1 点出土している。同一面で検出した畦溝に比べて、



第 7 図 1992 年度 A 地区近世井戸実測図

住居跡の残りが著しく悪く、洪水以前に削平されていたと考えられることから、住居跡は溝に比べて古いものと想定できる。

配石状遺構 S X 395335(図版第 6) 人頭大を最大とする砂岩の礫が10数個と、完形の須恵器杯身・杯蓋を主体とする土器が出土している。遺物を埋めている地層は、S R 395333から氾濫したものと考えられる。砂岩は外表面に磨滅した円礫面を部分的に持っているものが多い。接合の結果、一抱えの円礫にはほぼ復元できる。礫表面近くと中央部の色調の違いから被熱していた可能性が高い。出土遺物から古墳時代後期の年代に位置づけられる。下層にはS H 395407やS X 395411があるが、土器型式に差はなく、互いに接合関係が認められる。遺物の分布は両遺構にかけて多いが、偏在はしない。図版第 6 で示したようにトレンチ西端に南北方向の溝があり、土器はその立ち上がりによって出土することから、溝の機能していた時期と遺物は同時期と考えられる。

自然流路 S R 395333(図版第10) 北東から南西に向かって流れ、遺構面を直接埋める洪水を起こした流路である。断面形は場所によって異なり不定形である。埋土内の遺物には、弥生土器・土師器・須恵器があるが、完形率が比較的高い傾向が認められた。

畦溝群 S R 395333の東方に見られるS D 395332・S D 395331等の南北方向を主体とする溝群。東西および斜行する溝は南北方向のものより新しい。S R 395333の氾濫によって遺構の北端が削られ、溝内はその堆積物によって満たされている。S R 395333に近いほど、畦の間を埋める堆積物の粒度が粗くなることが認められた。溝と溝の間の凸部の形状は、断面形が蒲鉾形を呈することと、溝の規格性から畑作に伴う畦と考えられる。溝群は北東の一群と南西の一群とに分かれ、畑地の区画単位を示しているものと考えられる。花粉分析の結果、ソバやアブラナ科の野菜の栽培の可能性が指摘できる。S D 395331からはS R 395333に近いところから古墳時代後期に属する完形の須恵器や土師器が出土しており、洪水性の土砂と共に流されてきたと考えられる。

d. 古墳時代Ⅱ期(図版第 4・7～9)

竪穴式住居跡 S H 395401(図版第 7) 住居跡の西辺中央に竈を備え、約4.8m四方の規模を持つ竪穴式住居跡である。検出面からの深さは、約0.2mを測る。支柱穴を4か所検出することができた。柱穴のうち1か所の掘形内から、土師器のミニチュアの土器(120)が出土している。竈内からは、灰・炭・骨片などとともに土師器の甕が出土している。住居跡の床面からは、方向性を持つ藁状の炭化物が認められた。繊維が縦方向にまとまる部分、円を描くようにまとまる部分などがあつた。焼失家屋の屋根材の可能性もあるが、炭化物は床面の全面に分布するのではなく偏在しており、床面に焼土が認められないことや木材の炭化物がないことから、その可能性は少ない。床面における出土遺物も極めて少なく、土器などが持ち去られているようすがわかる。

竪穴式住居跡 S H 395402 トレンチ内で南東隅のみを検出した遺構である。遺構の方位が他の竪穴式住居跡の方向と同じことから、竪穴式住居跡と想定できる。時期は不明である。

竪穴式住居跡 S H 395405(図版第 8) 短辺約4.8m・長辺約6.5mの規模をもつ長方形プランの竪穴式住居跡である。検出面からの深さは約5cmで、残存状態は悪い。竈は、北辺の中央からやや西にずれた部分にあり、縦に長い円礫が支柱として残されていた。竪穴部分では縦横に炭化し

た柱材と考えられる木材が認められ、屋根の一部と考えられるものも検出でき、焼失家屋と考えられる。この住居跡は、S H 395401と南北方向の側辺の方向をそろえて建てられており、竈の方向は90°互いに振って設定されていることから、同時期に併存したと考えられる。

竪穴式住居跡 S H 395407(図版第7) 一辺約4.3mの規模で、周壁溝を持つ竪穴式住居跡である。検出面からの深さは、約10cmを測る。竈は西辺の中央部に認められた。支柱穴は4か所検出でき、その内の1か所の柱掘形内からは、139の土師器の壺が胴部が口縁部を欠いた状態で出土している。住居跡床面で竈の北側に近接して直径約0.8mの土坑が検出できた。この土坑内からは、141の甕が下半部を打ち欠かれた状態で正位置で据えられていた。接合する破片や同一個体の破片も認められないことから、下半部が欠損した状況で土坑内に据えられていたと考えられる。共存遺物には131・132・134で示した製塩土器などがある。何らかの作業に伴う土坑と考えられる。S H 395407およびS X 395411の上層には、人頭大の火を受けた破碎角礫と炭化物、数十個体の完形土器群を検出した。出土土器の主体となるものは須恵器杯身・杯蓋であるが、甕、口径が約25cmの大形の須恵器の杯身、装飾付き須恵器の脚部など、一般集落では特殊な須恵器が含まれていた。S H 395407の輪郭は、古墳時代Ⅱの遺構面で初めて検出できたが、住居床面および竈の土器は、古墳時代Ⅰの遺構面の土器と同型式である。

竪穴式住居跡 S H 395433(図版第8) S H 395407の床面で検出した竪穴式住居跡である。一辺の長さが約3.3mの小形の竪穴式住居跡で、検出面からの深さは約15cmを測る。住居跡の立ち上がりから床面にかけて、埋土との間に薄く炭化物が認められた。北西辺中央に焼土が認められた。S H 395407によってつぶされた竈跡の可能性が指摘できる。S H 395407の中に軸を同一にして内包されることから何らかの関連があるものと考えられる。

掘立柱建物跡 S B 395451(図版第8) 柱間が南北約1.7m・東西約1.5mで2間×2間の規模を持つ総柱の倉庫と考えられる建物跡である。主軸はN31°Eである。遺構の切り合い関係から、S H 395433に先立つ建物跡であることがわかる。詳細な時期は、出土遺物がほとんどないことから不明である。

土坑 S K 395404(図版第9) 長楕円形を呈する土坑である。長径約4.5m・短径約1.6m、検出面からの深さ約20cmを測る。内部からはT K 216型式並行期と考えられる土師器・須恵器などの一括遺物が出土している。

焼土坑 S K 395411(図版第9) 不定形の土坑である。埋土の上層では、大形の材を含む炭化物が多く見られたが、底部では炭化物を含まない鮮やかな赤褐色の焼土層が約30cmほど堆積していた。この遺構の上層で検出した、焼け礫と完形土器群との間に関連があるかは不明であるが、これまでに整理された出土遺物を見る限り、時期差はほとんど認められない。

土坑 S K 395422 不定形の「L」字形を呈する検出面からの深さが約5cmの土坑である。須恵器・土師器片が出土している。

土坑 S K 395403 S R 395333の底部で検出した土坑である。暗色のシルト質の埋土を持つ。

溝 S D 395444 トレンチ内を横切る、幅約70cm・深さ約7cmの溝である。溝内からは布留式土

器が検出でき、この遺構面ではもっとも古い遺構の1つである。

柱穴群 S H 395401・S H 395433の西側には柱穴群が認められる。遺物は住居より古い傾向があり、焼土を埋土中に含む特徴的な柱穴が数か所あり、出土遺物にはT K 216型式と考えられる須恵器の甕が出土している。

e. 弥生時代(図版第3下図・10)

弥生時代の遺構・遺物は、すべてが畿内第Ⅱ様式に属すると考えられる。包含層中からは緑色凝灰岩製の柱状片刃石斧やサヌカイト製の石槍の未製品などが出土している。

土坑 S K 395502(図版第10) S H 395401の床面で検出した土坑である。検出面からの深さは約40cmを測る。埋土は、有機物の影響を受けたと考えられる黒灰色のシルトであった。出土遺物には、弥生土器の破片と横長剥片を利用したサイドスクレイパーがあった。

土坑 S K 395504 S H 395405およびS H 395433の床面で検出した土坑である。検出面からの深さは25cmを測る。

溝 S D 395501(図版第10) 全長約5.6m・幅約70cm、検出面からの深さが南部の浅い部分で20cm、北部の深い部分では80cmである。出土遺物には220の水差し形土器が、北部の一段深くなった土坑状の部分から1個体分出土した。他には多くの甕が出土している。

溝 S D 395503(図版第10) トレンチ南方部を南北に弧状を描きながら貫く溝である。埋土は、径5cm程度の礫を多く含む砂礫である。検出面からの深さは約1mを測る。S D 395503の西肩で小規模な土器溜り状に数か所で弥生土器が出土した。

第2節 B地区の調査

1. 1990(平成2)年度B地区(図版第11)

1990年度Bトレンチは、大山崎町円明寺壺町地内にあり、同所に所在する松田遺跡および下植野南遺跡と旧条坊では長岡京跡の右京九条二坊十二町・西二坊第二小路(新条坊では京外)が想定される地点にあたる。調査は、名神高速道路の新設のトンネル(カルバートボックス)建設部分について先行して約520㎡の発掘調査を行った。調査地は、耕作土・床土をはずすと、全域が洪水性の堆積物によって埋まっていた。その砂礫層を重機により除去した後、遺構の精査を行った。発掘調査によって3時期の遺構面を確認した。年代的な根拠が薄いため、上から上層・中層・下層の遺構面と命名した。

a. 上層

現在の水田床土直下に堆積した砂利層を削り込んで遺構検出をしたところ、小泉川水系の流路跡と考えられる自然河道2条(S R 35706・35707-a)と、平安時代の大型の須恵器甕片(1592)の集積、上流から押し流されたと考えられる洪水堆積層を検出した。砂礫層の中からは6世紀後半の遺物が多く出土しているが、上層を中心に9世紀から13世紀までの土器が出土している。平安時代以降の遺構面と考えられる。

自然流路 S R 35707-a 北から南に流れる検出面における幅6~9m・深さ約1.4mの自然流路

で、調査区内で約13mにわたって検出した。埋土は、拳大の礫から砂層に粘質土が混入しており、洪水堆積の様相を呈している。この堆積層は、河道の肩部より約50cm上まであり、広く全域を覆っている。

土器集積遺構 S X 357101 砂礫層の中で、南北5.5m×東西1.5mの範囲に大形の須恵器甕の小破片を平らに置き、集積した状況で出土した。

自然流路 S R 35706 北から南に流れる検出面における幅2～3m・深さ約0.8mの自然流路で、調査区内で約17mにわたって検出した。埋土は、径3～5cmの円礫からなる砂層であり、S D 35707-a同様、洪水堆積の様相を呈している。川跡や遺物包含層から出土した土器には、古墳時代の土器が多く含まれており、上流に古墳時代の集落が営まれていたことが想定されるが、下層の調査と考え合わせると、出土遺物と遺構の時期は一致しない。

b. 中層

土坑 S K 357102 調査地中央部の北辺で検出した。北端が調査区外に延びる南北1.2m以上、東西0.6mの土坑である。須恵器杯身・杯蓋や土師器鉢などが出土している。

自然流路 S R 35707-b 幅7～10m・深さ1.5mを測る。埋土は、径2～3cmの砂礫層で、ラミナ状の洪水堆積の様相を呈している。平安時代の遺物を含んだ層を確認した。下層の遺物包含層からは5世紀から7世紀の遺物が出土している。出土した土器には、古墳時代の土器が多く含まれている。古墳時代の遺構を多く押し流した結果と考えられる。

c. 下層

現在の地表面から2～3m下で、旧小泉川の1つと考えられる自然流路 S R 35707-c と、柱跡を検出した。遺構上面では時期を確定できる遺物は出土していない。

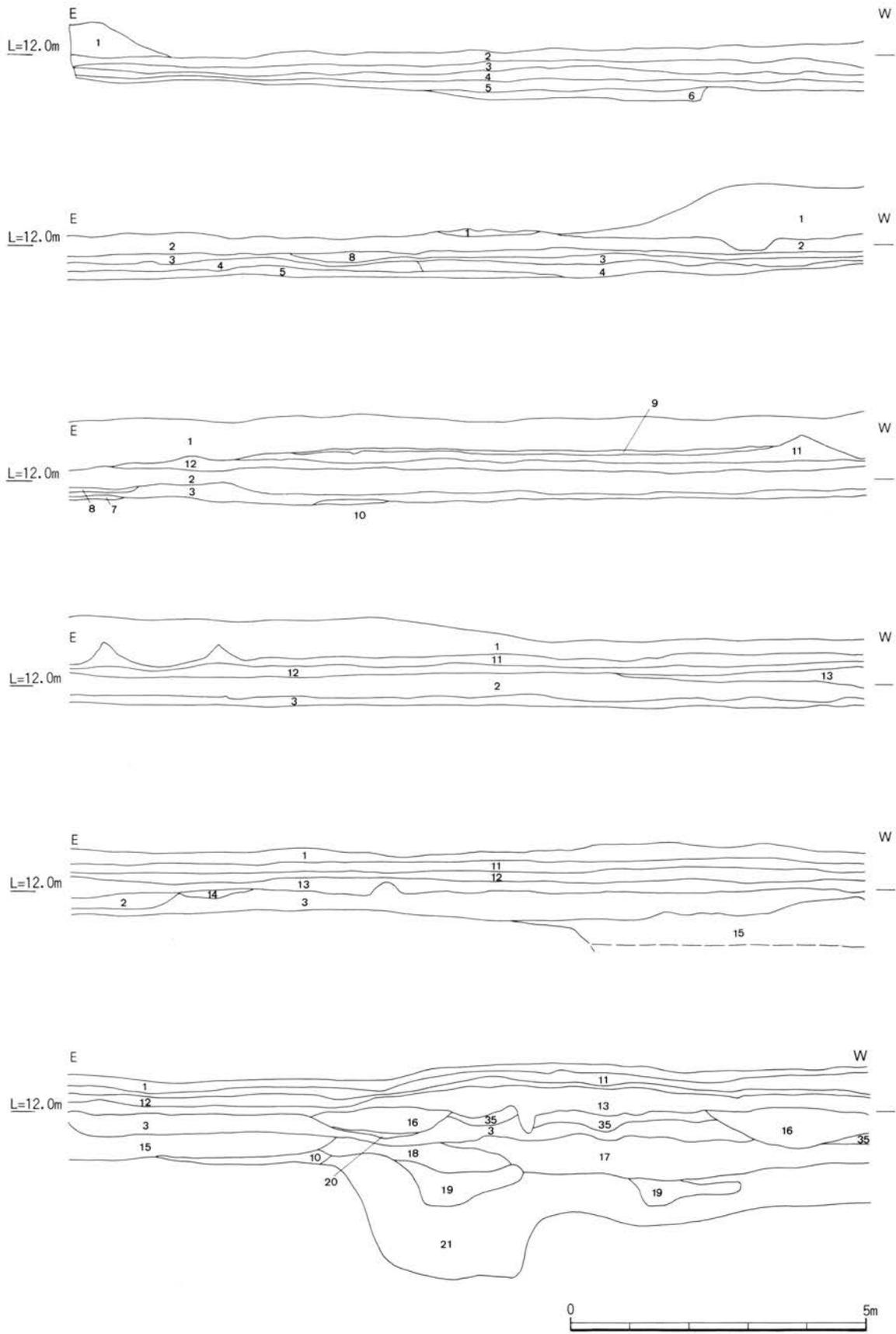
自然流路 S R 35707-c 上層・中層と比べ、流れの位置を少し東に変えており、幅3.5～4.5m・深さ1.2mを測る。埋土は、拳大の礫から砂によって構成される。

柱掘形群 検出した掘形は、平面形が方形を呈するものが多く、1辺が1mほどもあるものから30cm程度のもので、規模にまとまりが見られない。大形の柱掘形は、砂質土に礫混じりの埋土であり、小形の柱掘形は、暗褐色の粘質土で埋まっている。これらの柱穴群には時期差があると考えられるが、建物のまとまりは確認できない。この柱跡の時期は不明である。

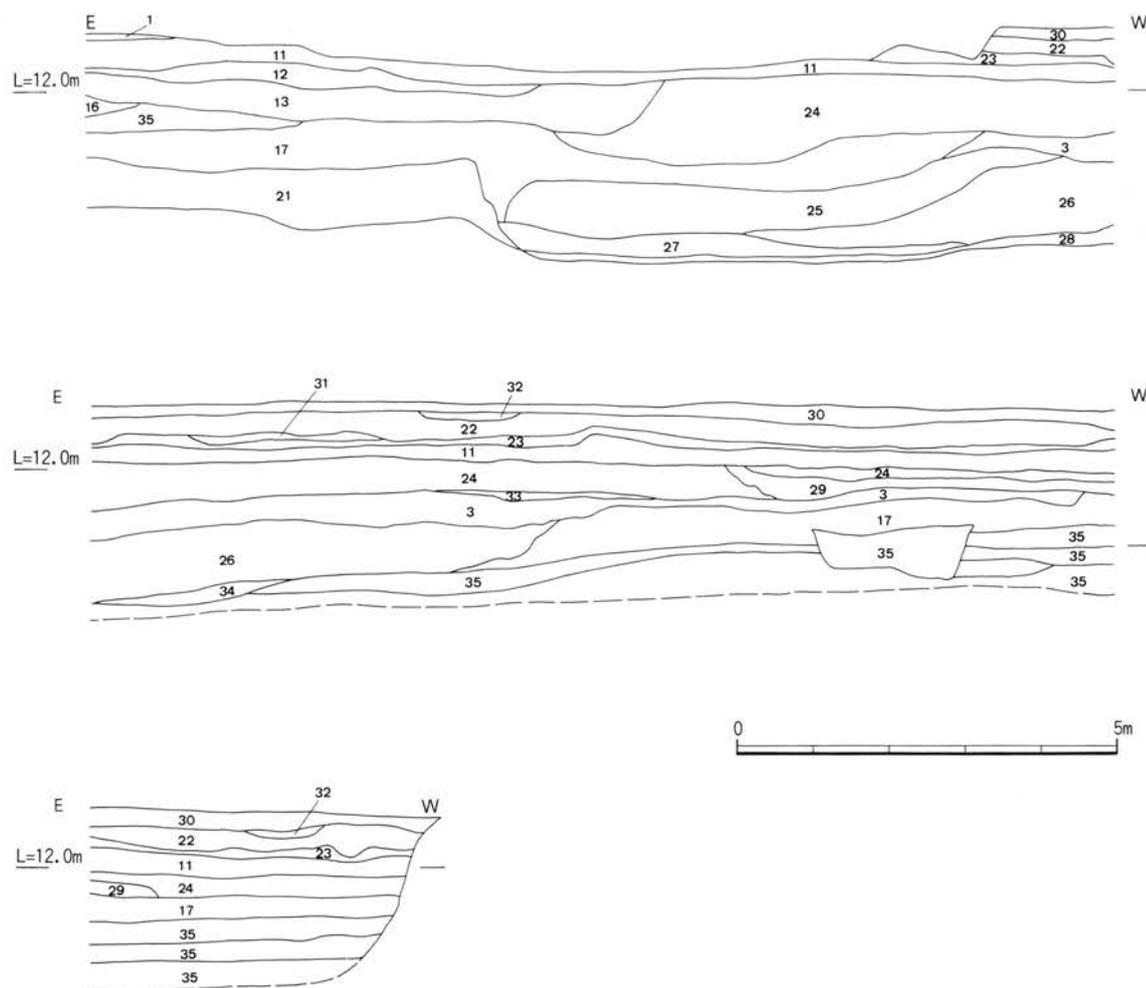
2. 1991(平成3)年度B地区(第8～10図、図版第12～19)

(1)調査概要と層位

B地区は、昨年度の調査によって、3時期の遺構面(上・中・下層)の存在が明らかとなっている。現在の水田床土直下の砂礫層上面からは、平安時代から鎌倉時代にかけての土器が、下位の砂礫中からは、古墳時代後期(6世紀後半)の遺物が出土している。中層では古墳時代の遺物を含む河床が検出され、5世紀から7世紀の遺物が出土している。そして、下層では、時期不詳であるが、掘立柱建物跡の柱穴痕が検出されている。1991年度のB地区の調査地の内、上層分と西半分の下層を調査した。図面では1992年度調査分と合成させている。



第8図 1991年度B地区南壁土層断面図(1)



第9図 1991年度B地区南壁土層断面図(2)

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------|-------------------|
| 1. 褐色粘質土 | 2. 灰色MT粗砂細～中礫層(多)・亜角礫(インプリ明確) | 3. 灰褐色中礫混粘質土 |
| 4. 灰褐色中礫混粘質シルト(同結度大・圧密度大) | 5. 暗褐色極粗砂混粘質粗砂 | |
| 6. 暗褐色中礫混粘質粗砂 | 7. 暗灰褐色細～中礫混粘質粗砂 | 8. 暗褐色細～中礫(多)混粘質土 |
| 9. 青灰色粘質土 | 10. 暗褐色細礫混極細砂 | 11. 黄褐色細礫混粘質シルト |
| 12. 黄褐色小～中礫混粘質シルト | 13. 灰褐色細(多)～中礫有り | 14. 灰褐色中礫混粘質細砂 |
| 15. 暗褐色細～中礫混粘質土 | 16. 灰褐色細～中礫有り(インプリ明確, 圧・密度大) | |
| 17. 暗褐色粘土質シルト | 18. 暗褐色中礫混粘質土(同結度大) | 19. 明褐色粘質中礫混 |
| 20. 褐色細砂 | 21. 暗灰褐色大礫混中礫荒砂 | 22. 赤褐色細～中礫混中砂 |
| 23. 灰褐色細礫混粘土質細砂 | 24. 明青灰色細礫混中礫層MT粗砂層同結度大 | |
| 25. 灰褐色Cob混Pebインプリ明確、礫の淘汰悪い亜角礫 | 26. 暗褐色Peb極細砂 | |
| 27. 褐色Cob混Peb礫の淘汰悪い亜角礫 | 28. 黄褐色粘質土中礫混粘質極細砂 | |
| 29. 灰褐色細～中礫混粘質極細砂 | 30. 青灰色細礫混シルト | 31. 青褐色粘土混中砂 |
| 32. 青灰色シルト質細砂 | 33. 暗褐色粘土混中砂 | 34. 黄褐色粘質土(しまなし) |
| | | 35. 不明 |

遺構の検出面は上層に行くほど遺構検出が困難であったため、新しい時代の遺構が下層で発見されることも多く、検出面で判別すると時代が齟齬することが多かったが、ここでは調査者の意見を尊重した。図版第12は中世以降の主要遺構を書き抜いたものである。B地区は東西で層位が異なり、91年度と92年度の遺構面は一致しない。遺構平面図では中世の以降の主要遺構以外は、検出面の違いを重視したが、必ずしも一致しない。小泉川に近くなるほど地層が厚くなる傾向がある。遺構が多く煩雑であることから、いくつか便宜的に分離したと考えていただきたい。

上層遺構は中世以後の幅広い時代のものである。調査区を南北に広く流れる自然流路 S R 35706 と S R 35707 の洪水堆積によって覆われた広い範囲の上面で検出している。自然流路からは、古墳時代の遺物が中心に出土しており、中世・平安時代の遺物がほとんど出土しないことから、平安時代以前に埋没していたことが考えられるが、当該期の遺構はこの礫層を取り除いた段階ではじめて検出できた。

下層では、溝 S D 36848 以外の遺構は、竪穴式住居跡を検出したベースの黒褐色粘質土を取り除いた段階の黄褐色粘質土上面で検出した。いずれの遺構もほとんど遺物が出土しておらず、所属する年代については不明である。

(2) 遺構

a. 上層(図版第12～16)

建物跡 S B 36831(図版第14) 1間×1間の規模をもつ建物跡である。掘形内に根石と考えられる拳大よりやや大きい礫の集積が確認できた。各根石部の中央がややあいて、礎石あるいは柱が設置されていたと推定される。このような礫の存在は遺構が S D 36849 の上に位置し、周辺の地盤が柔らかいためと考えられる。集石部の中心間距離は、東西約 2 m・南北 2.1 m を測る。建物の軸は N 9° E である。周辺から古墳時代の遺物が多く出土したが、下層の遺物と考えられる。

掘立柱建物跡 S B 36837(図版第16) 南北 2 間×東西 2 間の建物である。柱間寸法は南北が約 1.5 m と 2.6 m、東西が北側で 2.4～2.6 m、南側で 2.2 m と 2.7 m を測る。掘形は、楕円形および円形を呈する。建物の軸は N 6° E の傾きを持つ。

掘立柱建物跡 S B 36838(図版第16) 桁行 3 間×梁間 2 間の東西棟である。柱間寸法は、桁行・梁間とも 2.0～2.3 m を測る。北西隅の柱掘形は自然流路の浸食によって失われていた。南側の柱列の西から 2 番目の柱掘形は、S B 36870 のものと重複していたが、前後関係は判別できなかった。柱痕跡は 2 か所検出できた。建物の軸は、N 6° E の傾きを持つ。

掘立柱建物跡 S B 36870(図版第16) 東西 2 間・南北 2 間以上の方形掘形を持つ掘立柱建物建物跡である。東の柱列の円形の柱穴は、上面の削平のため、柱跡が残ったものと考えられる。建物の軸は、N 6° E である。

掘立柱建物跡 S B 36871(図版第16) 1 辺が 3 間以上の円形掘形を持つ掘立柱建物跡としたが、柵列の可能性もある。建物の軸は N 39° W である。

井戸跡 S E 36823(図版15) 調査地の西で検出した。北側がトレンチ外に延びる。礫混じりの埋土をもつ。円形を呈し、直径 1.2～1.4 m で、検出面からの深さ約 0.4 m を測る。壁面には、黄白色の粘質土を張り付けている。井戸跡内からは、土師器杯や「て」の字口縁の皿などが出土している。

井戸跡 S E 36834(図版第15) 平面形が円形を呈する。直径 1.2 m、検出面からの深さ 0.5 m 以上を測る。出土遺物には布目瓦があり、奈良時代以降の時期と考えられる。

井戸跡 S E 36830 木製の桶を埋めて構築した近世の水溜め用の井戸である。掘形の平面形が円形を呈し、直径 1.8 m を測る。掘形内の桶は直径 1.6 m・深さ 0.4 m である。底板が残されてお

り、農業用の水溜めと考えられる。桶内からは、下駄などの木製品が出土している。この井戸跡周辺には、S E 368101・368102・368103・368104の4基の大小の近世の井戸跡が検出されている。いずれも地割りのコーナー部を占めている。

土坑 S K 36841 (図版第14) 調査地の西で検出した。北側がトレンチ外に延びる。埋土には礫が多く混じる。東西3m、南北1.7m以上の規模を持ち、深さは最深部で約0.15mを測る。断面形は皿状である。土坑内の礫は後述のS F 36836の一部を切っていることから、その遺構の拳大の礫が混入したのと考えられる。瓦器碗・脚付瓦質鍋が多量に出土しており、13世紀のものと考えられる。

凹地状遺構 S K 36825 多くの土器が検出された平安時代の浅い窪み状の遺構である。長径14.5m・短径12.5m・深さ約0.2mを測る。中央部が深く、立ち上がりかゆるやかなことから、自然の凹みに遺物を投棄した大形の土器溜り、または、整地層の一部とも考えられる。出土遺物には緑釉陶器・土師器・須恵器・瓦等がある。

土坑 S K 36839 調査地の中央部で検出した焼土坑で、平面0.6m×0.9mで深さ約0.3mを測る。年代の決め手となる出土遺物はない。土坑底部には炭が検出されるが、高温で焼けた兆候は認められない。周辺の壁は堅く焼けしまっている。

土坑 S K 36840 一辺の長さが約1m、深さ3cmの方形の土坑である。掘形の中央底面に直径約30cmの円形の凹みがあり、柱掘形とも考えられるが、関連する遺構を確認できない。掘形内からは、平安時代の遺物が出土する。

溝 S D 36826 調査地の東で検出した東西方向の溝である。北側水田との段差の変換点にあり、水田耕作に伴う水路として使用されたのと考えられる。S E 36830を溝の起点としているが、切り合い関係から井戸の方が後出である。検出長は約27m・幅約1.5m・深さ約0.1mを測る。

溝 S D 36827 調査地の東で検出した東西方向の溝である。東側水田との地形の変換点にあり、水田耕作に伴う水路として使用されたのと考えられる。溝 S D 36826と溝 S D 36827に囲まれた水田は、一段低い水田であった。現行の水田の地境と一致する。検出長は約17m・幅約0.3m・深さ約0.1mを測る。

溝 S D 36828 地境溝 S D 36826に平行する溝で、耕作に伴うものと考えられる。

溝 S D 36829 地境溝 S D 36826に平行する溝で、耕作に伴うものと考えられる。

溝 S D 36832 調査区の南西隅で検出した溝状の遺構である。検出面の幅2.4m・深さ5～10cmで、トレンチ内で10mにわたり検出した。埋土は暗灰褐色粘質土で、平安時代の須恵器・土師器などが出土した。

路面状遺構 S F 36836 (図版第15) 両側溝をもつ石敷きの路面である。トレンチの北辺で検出したが南側に張り出す弧状を呈しており、北に延びる道の交差点と考えられる部分も認められる。平面図の平行する2条の石敷きは、形状のよく判る部分では、それぞれが溝状になっていることから、道の側溝とした。路面は溝より高かったためか、削平によって石敷きの多くが損失しているものと考えられる。平安時代の遺構と考えられる。

整地層 S D 36833 溝 S D 36832の東で検出した整地遺構である。幅約 4 m・深さ0.05~0.1mの浅い溝状の遺構で、トレンチ内で10mにわたり検出した。西から東に下がる地形を埋めたものと想定できる。

b. 中層遺構(図版第13)

中層は古墳時代の竪穴式住居跡や、祭祀遺構・旧河道等を検出したが、遺構としてのまとまりを確認できない土器溜りも多くあった。

竪穴式住居跡 S H 36835(図版第15) 検出状況は不整形ながら、短辺 5 m・長辺5.5mの方形になる。検出面からの深さは約0.4mである。北側隅部に竈痕跡がある。柱穴の残りは悪く、主柱穴等は不明である。埋土は上層が細砂礫、下層が暗褐色砂礫混り粘質土である。

竪穴式住居跡 S H 36843(図版第15) 平面形は一辺4.5mの正方形を呈する。検出面からの深さ約0.2mを測る。北辺中央に竈跡らしき焼土が見られる。また、東側の一辺中央部にも焼土の広がりを認めたが、北側に比べて残りは悪く竈跡の可能性は低い。柱穴は、1か所のみであるが、確実にこの住居跡に伴うものであるかどうかは不明である。埋土は、暗褐色粘質土である。

土器集積遺構 S X 36820(図版第18) 白玉が多く出土しており、その検出面を下げていくと、最下層に一辺が約1.1mの方形プランの掘形を検出した。完形品の須恵器や土師器を地面を浅く凹めた土坑に据え置き、周辺は滑石製白玉が散在した状態である。埋葬主体部ではなく、何らかの祭祀が行われた可能性がある。須恵器には、杯身・杯蓋・壺・高杯・鉢・甕などがあり、土師器では、高杯・鉢・把手付椀・甕などがある。

土器集積遺構 S X 36821(図版第18) 南北が1.6m、東西が1.2mの範囲に据え置かれた土器溜りを確認した。数か所で須恵器杯身の上に口縁を上にした杯蓋を載せ、周辺には、土師器の甕や須恵器の甕などとともに滑石製の白玉が散在した状況で出土した。

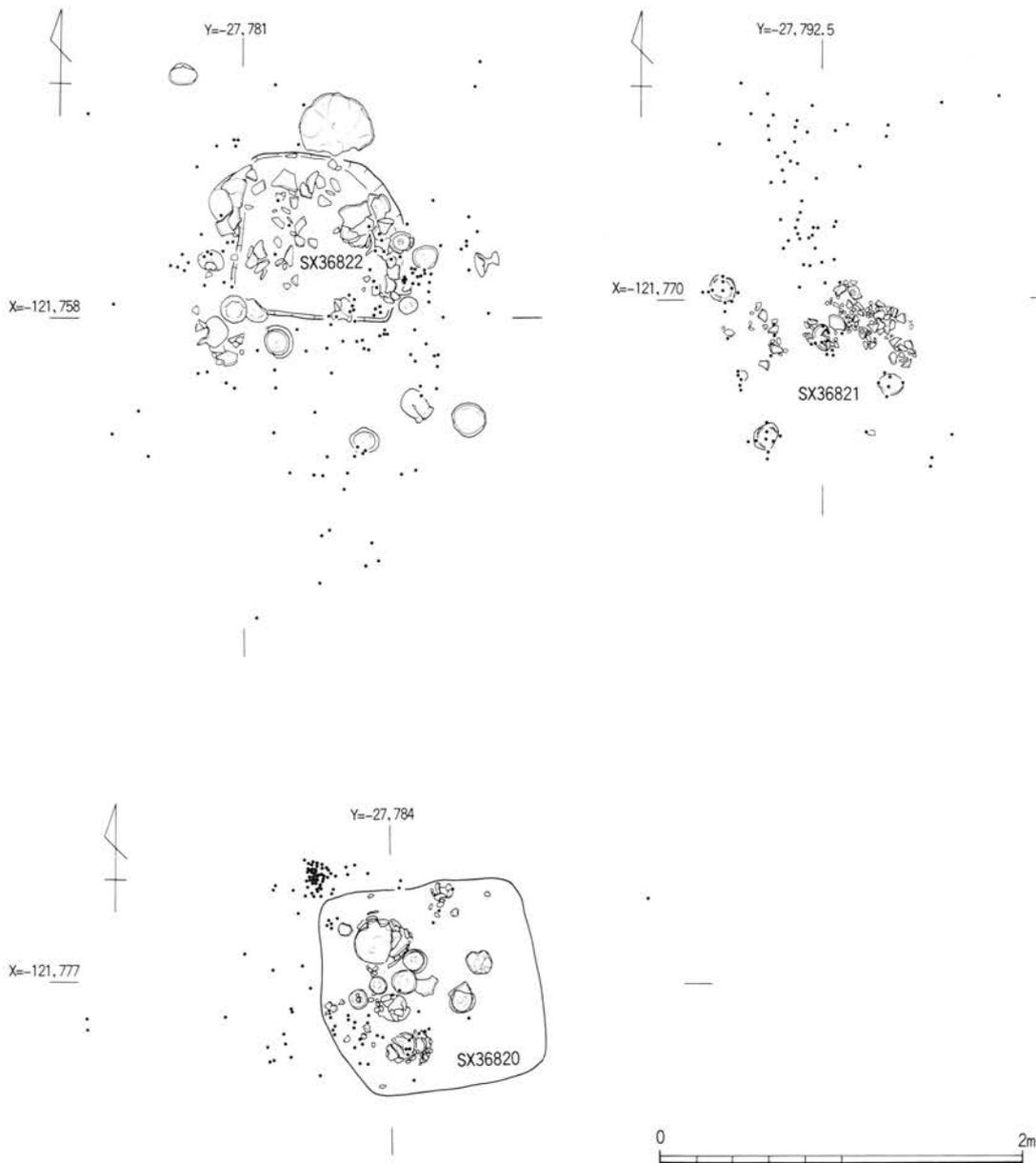
土器集積遺構 S X 36822(図版第18) 最下層に東西0.9m・南北0.85mの方形プランの掘形を持ち、2~3回の祭祀を行ったと考えられる堆積が認められる遺構である。S X 36820同様各種の土器を埋置した状況であり、完形の土器が多く出土した。須恵器には、杯身・杯蓋・壺・高杯・鉢・甕などがあり、土師器では高杯・鉢・短頸壺・小型丸底壺・小形平底鉢・甕の他、滑石製白玉などがある。

土器集積遺構 S X 36842(図版第18) S F 36836の路面下層で検出した直径 2 mの古墳時代後期の土器集積である。

土器集積遺構 S X 36844(図版第18) 調査地の東よりの溝 S D 36827の下層で検出した。南北 1.2m・東西0.7mの範囲に、据え置かれた土器の広がりを確認した。土師器高杯を主体とした土器で構成されており、S X 36820などとは器種構成の点で様相が異なる。土坑の輪郭は検出できなかった。

自然流路 S R 35706(図版第19) 自然流路である。幅 4 ~ 8 m・深さ1.5~2.0mを測り、大量の洪水性の礫で覆われていた。

自然流路 S R 35707(図版第19) 土器集積遺構(S X 36820~22)の東で検出した旧小泉川水系の



第10図 1991年度B地区祭祀遺構玉出土図

ものと考えられる、洪水性堆積物によって充填された自然流路である。埋土からは古墳時代の遺物が多く出土した。古墳時代前期の布留式土器や6世紀前半までの須恵器を多く含む一群で、自然流路の西で検出した土器集積遺構と同時期の遺物も含まれる。

c. 下層遺構(図版第13)

掘立柱建物跡 S B 36853(図版第17) 2間×2間の総柱の倉庫棟である。直径0.3~0.5m、検出した深さ0.3mの円形の柱掘形をもち、東西の柱間が1.6~1.7m、南北の柱間が約2.0mを測る。東西・南北の柱間に寸法の違いがある。建物の軸はN21°Eである。

掘立柱建物跡 S B 36854(図版第17) 桁行3間×梁間2間の南北棟である。径約0.3~0.4mの円形の掘形をもち、深さは0.25mを測る。建物跡の中央には、径0.3m程度の小形の柱穴1か所を検出した。柱間は、桁行1.5~1.6m・梁間約2.1mを測る。北の柱列はS B 36853の北の柱列と合う。建物の軸はN21°Eである。

掘立柱建物跡 S B 36855(図版第17) 桁行2間×梁間2間の東西棟である。直径0.3~0.4m、検出した深さ0.3mの円形の掘形を持つ。建物の軸はN20°Eである。東西の柱間が2.0~2.3m、南北の柱間が1.7~1.8mで、S B 36853と同様、東西の柱間が長く南北の柱間が短い特徴を持つ。

これらの建物跡群は、溝 S D 36848や自然流路 S R 35707の西肩とほぼ同じ方向に沿って建てられている。

掘立柱建物跡 S B 36856(図版第17) 桁行3間×梁間2間の南北棟である。一辺0.6m、検出面からの深さ0.2mの方形柱掘形をもち、東西の柱間が2.1~2.3m、南北の柱間が1.7~1.9mを測る。建物の軸はN9°Eである。東の柱筋の延長がS B 36857の西の柱筋と合う。

掘立柱建物跡 S B 36857(図版第17) 2間×2間の総柱の倉庫棟である。一辺0.6m、検出面からの深さ0.3mの方形の柱掘形をもち、東西の柱間が1.5~1.7m、南北の柱間が1.3~1.7mを測る。建物の軸はN9°Eである。

溝 S D 36848(図版第19) 溝幅が約2.5~2.6m、深さ1.4~1.6mを測る。溝の断面形は逆台形で、一部「V」字に近い形状を呈した部分もある。調査区内では約15mを検出した。溝は上下に砂礫堆積が見られ、中間には比較的安定した粘質土の堆積が認められる。この粘土層中からは、加飾の庄内期の壺などが、わずかに出土した。この溝は、形態から人為的に掘削されたもので、環壕の可能性も指摘できる。

溝 S D 36849(図版第19) 幅約1.4m・深さ0.5~1.0mを測る。溝内からの出土遺物はなく、時期を確定することはできない。埋土の状況の相違から、溝 S D 36848とは別の時期のものと考えられる。

3. 1992(平成4)年度B地区(第11図、図版第20~26)

(1)調査概要と層位

平成2年度の試掘調査を受け、1991(平成2)年度から下植野工区B地区の発掘調査が行われている。1992(平成2)年度には調査区の西半が終了したが、東半部は第1遺構面(平安時代以降相当面)の調査が実施されただけであった。1992(平成3)年度は、東半部の第2遺構面より下層の調査を実施した。B地区東半部の調査面積は、約1,820m²である。

調査地東半部の基本的な層位は、灰白色砂礫(大石を含む：平安時代洪水堆積層)－褐色砂層(平安時代包含層)－黒褐色砂礫土層(古墳時代後期包含層)－黄褐色土(地山)である。灰白色砂礫層上面では、中・近世の遺構が主として確認されており、前述のように平成3年度に調査を行っている。黒褐色砂礫土層上面(第2遺構面)では、中・近世・平安時代・古墳時代後期の遺構が、黄褐色土層(地山)上面(第3遺構面)では、主として古墳時代以前の遺構が確認できた。黒褐色砂礫土層を除去すると、部分的に灰褐色砂礫が堆積しており、これは、自然流路およびその氾濫原と考えられる。

検出した遺構は井戸跡・竪穴式住居跡・掘立柱建物跡・柱穴・溝など数多く、時代も古墳時代前期から近世に至る。

各遺構の説明をする前に、掘立柱建物跡の時期認定の方法について述べておきたい。調査地内では掘立柱建物跡が多数復原できるが、これらの柱掘形からはそれぞれの時期を決定しうる遺物の出土はほとんど見られない。そこで、次のように推定して時期区分を行った。掘立柱建物跡は大きく2タイプに分けられた。一は、大形の方形掘形を有し、建物跡方位がほぼ北を向くもの。二は小形の円形柱掘形を有し、方位が不定方向のものである。前者の埋土は灰褐色系統の砂礫で、後者は淡褐色～茶褐色土で、この点からも各タイプの建物跡の時期が異なるものと推定される。これらの柱穴は、確実に中・近世の井戸に切られることから、それ以前であることは間違いない。また、S B 368105は確実に瓦器を伴っており、この埋土とも異なる。一方、この調査地内出土の遺物は、近世以外では古墳時代後期と長岡京期～平安時代の2時期のものが大部分であり、この2時期にそれぞれが相当すると考えて大過ないであろう。S B 36837・38(平安時代)がほぼ北を向き、柱穴の平面形が方形を呈していることから、前者のタイプの掘立柱建物跡に長岡京期～平安時代前期の時期区分を与えたい。そして、西半検出のS B 36853～55が円形の柱掘形を有し、確実に古墳時代後期の竪穴式住居跡より層位的に下層である事実から、後者のタイプを古墳時代後期と考え、以下の説明の時期区分としたい。

(2)遺構

a. 中・近世

掘立柱建物跡 S B 368105(図版第21) 東西2間・南北2間の掘立柱建物跡で、柱間は南北2.35m・東西2.3mを測る。建物の軸はN 2° Eである。柱穴内から瓦器片が出土している。

井戸 S E 368101 近世後期の井戸で、内部から染付け片や唐津焼片が出土した。掘形内部には木製の井戸枠(井戸側)があり、構造は隅柱縦板組横棧止めである。掘形は深さ2.6m・長辺4.8m・短辺3.8mである。上段の井戸枠は長辺3m・短辺2m、下段は長辺2.2m・短辺1.5mを測る。裏込めに人頭大の礫も含まれる。野井戸と考えられる。

その他に、S E 368102～104の3基の素掘りの井戸を検出しているが、径1～2m・検出高1m程度の規模である。

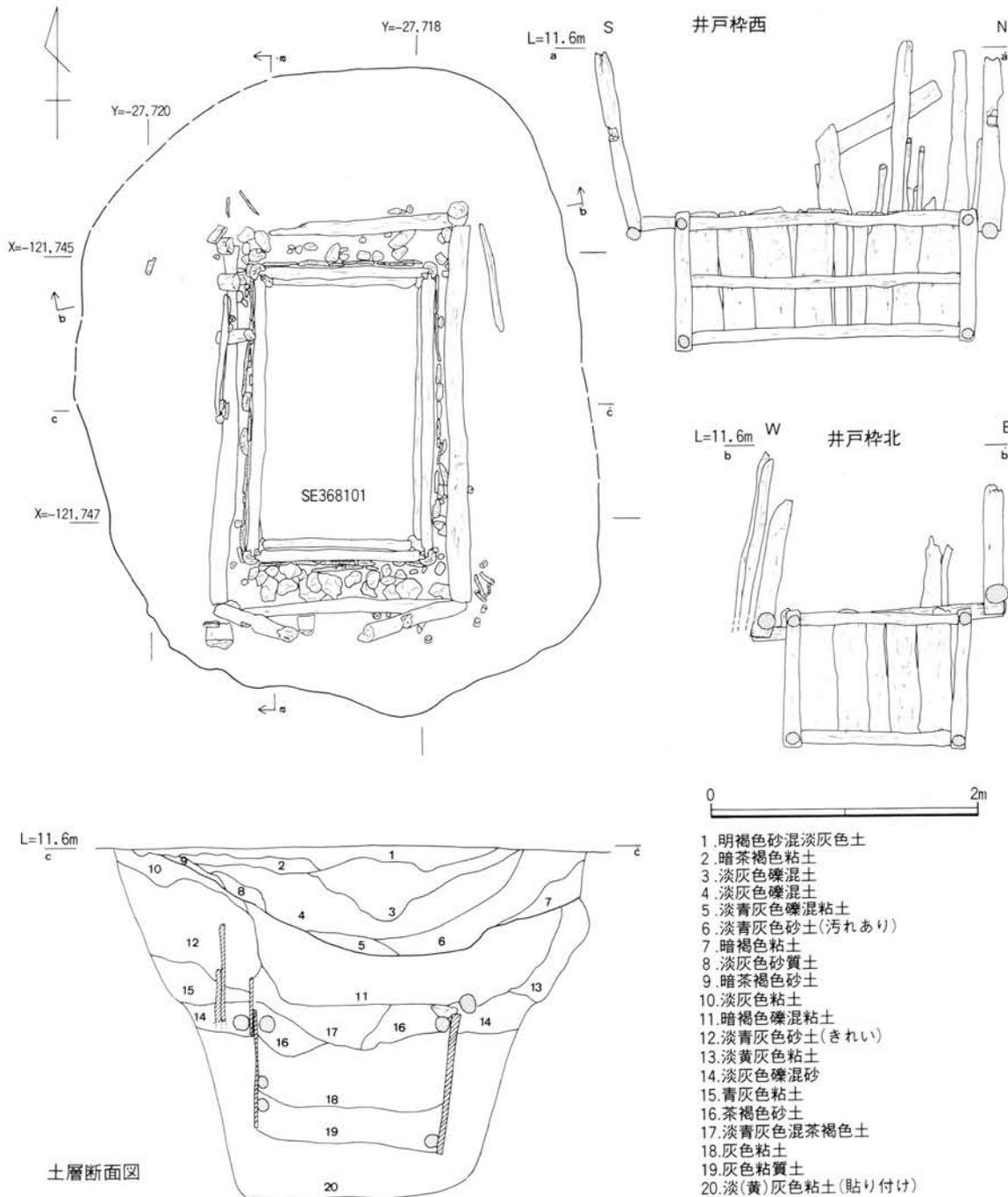
b. 長岡京期～平安時代前期

掘立柱建物跡 S B 368107(図版第21) 南北2間・東西2間以上の建物跡で、南側に廂を持つ。柱穴の掘形は一辺が0.6～0.8m程度と大きい。後述のS B 368108と南辺が一致する。建物の軸は真北である。

掘立柱建物跡 S B 368108(図版第21) S B 368107の西側で検出した東西2間・南北3間の掘立柱建物跡である。S B 368107の南辺の柱筋とこの建物跡の南辺の柱筋がそろうことから、同時期に存続していたものと推定される。建物の軸は真北である。

掘立柱建物跡 S B 368109(図版第21) 東西1間・南北1間以上の方形掘形を持つ建物跡である。東西の柱間3.8m・南北の柱間1.5m・検出面からの深さ0.25mを測る。建物の軸はN 5° Eである。

掘立柱建物跡 S B 368110(図版第22) 東西2間以上・南北1間の大形の方形掘形を持つ建物跡



第11図 1992年度B地区近世井戸S E368101実測図

である。掘形の多くは1辺1.3mの規模をもつ。柱間は4.5mである。建物の軸は真北である。

掘立柱建物跡S B368111(図版第22) 東西・南北共2間の方形掘形をもつ建物跡である。四隅の掘形は方形で、中間は円形が多い。柱間は東西が約2.7mで等しいが、南北は南側が2.1m、北側が2.7mである。建物の軸はN4°Eである。

掘立柱建物跡S B368112(図版第22) 東西2間以上、南北2間の方形掘形を持つ建物跡である。掘形の1辺は1mで検出面からの深さは約0.2mを測る。柱間は東西3.9mと2.7m、南北2.7mと考えられる。建物の軸はN9°Eである。

掘立柱建物跡S B368113(図版第22) 東西2間・南北2間以上の方形掘形を持つ掘立柱建物跡

である。検出面からの深さ0.3mを測る。柱間は東西が2.4m・南北2.4mと考えられる。建物の軸はN 9°Wである。

井戸 S E 368106(図版第20) 井戸の掘形の平面形は、一辺4.5mを測る正方形である。二段に掘られ、二段目の掘形の平面形は上辺2.2m×1.9mで、検出面からの深さは3.2mである。井戸の方位は、ほぼ真北を向いて造られている。井戸側は横板井籠組で、三段分が残存していた。井戸側の内法は65cmで、一段の横板は高さ40～50cmで、総高1.35mである。板は長方形で四隅を柄で組み合わされ、上下は木製継手(ダボ)によって固定されている。上部の埋土中から、平城宮式6133D-b型式の瓦当が出土している。埋土中の緑釉陶器から、9世紀後半～10世紀前半に廃棄されたものと判断される。

土壌 S X 36873(図版第20) 平面形が長方形を呈する土壌墓状の遺構で、南北1m・東西2m・検出高約0.15mの土壌である。土壌の長軸はほぼ真東西に造られている。

土壌 S X 368116(図版第20) 平面形は、東が広がる土壌墓状の遺構で、南北0.8m・東西1.9m、検出面からの深さ約0.25mの土壌である。土壌の長軸はほぼ真東西に造られており、内部からは土師器・須恵器の小破片と炭が比較的多く出土した。

土壌 S X 368133(図版第20) 平面形が楕円形の土壌墓状の遺構で、南北1.5m・東西0.9m・検出高約0.25mの土壌である。土壌の長軸はほぼ真東西に造られている。

土坑 S K 368114(図版第20) 調査地東南部で検出した平面不整形の土坑で検出面からの深さは約0.25mである。底面は舟底状を呈する。この土坑内からは、長岡京期に属すると考えられる土器が多く出土した。土器はすべて小片で、接合しても一個体に復原できるものはほとんど無い。

溝 S D 368115 平安時代の路面(S F 368136:1991度調査)の南側溝下層部分である。調査地の北側で東西に約55mにわたって、S F 368136同様にやや蛇行して検出した。埋土は黄褐色砂質土で、古墳時代の竪穴式住居跡や掘立柱建物跡の埋土に近似する。しかし、埋土からは古墳時代の土器片と共に、平安時代の土器が出土しており、昨年度の路面・側溝 S F 368136の断ち割り内(図版第15)の土層観察によって、一連のものであることが確認されている。またこの溝は掘立柱建物跡の柱穴を切っている。壁面の観察では上位の層から掘り込まれ、掘形は逆台形で、高さ30cm程度を測る。

c. 古墳時代

竪穴式住居跡 S H 368117(図版第24) 平面形が一辺4.3m～5.1mの方形を呈する。住居跡の検出面からの深さは0.15mを測る。主柱穴は4か所を検出した。竈は、北辺の中央に造り付けられており、幅1.05m・長さ1.15mを測る。竈の本体から住居跡の外側に向けて、煙道部が約0.3m残存していた。竈の燃焼部の天井部分は、後世の土坑によって削平されていた。竈の西側には土坑があり、貯蔵穴の可能性が指摘できる。平面形は長径1.25m・短径0.8mの楕円形で、住居床面からの深さは0.4mを測る。土坑底面より須恵器杯身・杯蓋、鉄片が出土している。杯蓋は完形であるが、杯身は2つに割れており、内面と外面がそれぞれ上になった状態で検出された。土器は、竈内から土師器甕と須恵器甕が、竈周辺部からは須恵器杯蓋が出土している。

竪穴式住居跡 S H 368118(図版第25) S H 368119・S H 368120に切り勝つ。平面形は、4.9 m×5.1 mの方形を呈する。検出面からの深さは約0.25 mを測る。支柱穴は4か所で検出した。北辺の中央部に竈があり、幅1.1 m・長さ1.1 mを測る。竈燃焼部中央には支柱石が残っており、土師器甕が壊れた状態で検出された。竈の前面には、幅0.8 m・長さ0.5 mの範囲で焼土が広がっている。竈本体より住居跡の外側に向けて、煙道部が0.4 m残存していた。焚き口部で完形の杯身と杯蓋各1点が出土し、竈廃棄に際して置かれたと推定できる。竈の東側には土坑があり、貯蔵穴と考えられる。平面形は長辺0.85 m・短辺0.75 mの隅丸方形を呈する。

竪穴式住居跡 S H 368119(図版第25) 方形の竪穴式住居跡で、調査区内で北側1/3を検出した。東西辺が6.1 m、検出面からの深さが0.25 mを測る。存続時期はS H 368120に先行する。

竪穴式住居跡 S H 368120(図版第25) 方形の竪穴式住居跡で、調査区内で北隅を検出した。検出面からの深さは0.15 mを測る。

竪穴式住居跡 S H 368121(図版第24) 円形に近い隅丸方形の竪穴式住居跡で、短辺4.0 m・長辺4.25 m、竈は北辺の東よりに造られていた。住居跡の深さは、検出面から約35 cmを測る。支柱穴は、4か所を検出した。床面中央部には長径3.1 m、短径2.2 mの範囲で、周辺部に比べ深さ0.1 m程度くぼんでいる。竈は比較的良好に残存しており、幅1 m・長さ1.1 mの規模をもつ。竈内部には、土師器甕が倒立させて中に据えられていた。土器は、竈燃焼部から須恵器甕片が、床面中央部やや西よりからは須恵器甕片が出土した。竈の東側に貯蔵穴状の土坑(0.6 m×1.15 m)を検出したが、検出高8 cmと浅く、内部から土器の出土はなかった。

竪穴式住居跡 S H 368122 調査地西北部にあって、平面形が長方形を呈することから、方形竪穴式住居跡の南半部分と判断した。東西4.7 m、南北は3.1 m以上の規模をもつ。埋土は淡黄褐色砂質土が堆積していた。床面で遺物や柱穴などの遺構は確認できなかったが、埋土内から焼土・炭などは確認できなかった。この住居は建て替えられたようで、西側に一段低く遺構の掘り込みを確認した。

竪穴式住居跡 S H 368123(図版第26) 東西3.75 m・南北3.55 m、検出面から深さ約0.1 mを測る。おそらく、竪穴式住居跡と竈の残欠であろう。焼土が3か所確認できた。南辺中央部の竈状の焼土(S X 368212)中から須恵器杯身・高杯(杯部)・壺体部片と土師器片が出土した。出土土器は火を受けていない。土器群の周囲には焼土がめぐっているが、西北部は焼土が途切れていた。また検出した表面だけ火を受けており、明瞭な竈とは認められなかった。B地区西半のS X 36820～22と同様の土器集積遺構の可能性もあったが、周辺から滑石製の玉類は出土しなかった。

掘立柱建物跡 S B 368125(図版第23) 1間×2間の建物跡で、円形と方形の柱掘形を持つ。柱間は桁行きが不等間隔で柱間は1.4～2.2 m、梁間は2.4 mと等しい。建物の軸はN43° Wである。

掘立柱建物跡 S B 368126(図版第23) 東西1間・南北2間の建物跡で、円形の柱掘形を持つ。柱間は桁行きが等間隔で柱間は約2.1 m、梁間は2.5 mを測る。建物の軸はN20° Eである。

掘立柱建物跡 S B 368127(図版第23) 3間×3間以上の建物跡で、円形と方形の柱掘形を持つ。柱間は桁行きが不等間隔で襖に近い柱間は2.2 m、その他の柱間は1.5 m、梁間は約1.3 mと等し

い。建物の軸はN35°Eである。

掘立柱建物跡 S B 368128(図版第23) 3間×3間以上の建物跡で、方形の柱掘形を持つ。柱間は不等間隔で角柱を起点とする柱間は1.2~1.8mと狭く、その他の中間は1.8~2mと前者に比べて広い。建物の軸はN29°Wである。

掘立柱建物跡 S B 368130(図版第23) 東西4間・南北3間以上の建物跡で、方形の柱掘形を持つ。柱間は不等間隔で東西方向の柱間は1.5~2.2m、南北方向は1.8~2.2mを測る。建物の軸はN21°Eである。南西角の柱掘形(P68)内からは古墳時代後期の須恵器が出土している。

土器埋納土坑 S K 368131 須恵器甕が出土した楕円形の土坑で、規模は長径0.8m・短径0.7m・深さ0.45mである。甕は土坑内から小片に割れて出土したが、接合するとほぼ完形になった。

自然流路 中央部より西で、地山面で2条の自然流路を検出した。東側の流路内から土師器小片が出土したが、時期の決定は困難である。竪穴式住居跡(S H 368117)が流路肩に近接していることから、時期差があるものと推定される。B地区の東に近接したC-1地区では、布留期の竪穴式住居跡が検出されているが、B地区では布留期の遺構は確認されていない。この流路が存続していたために、居住地として不適であったとも想定される。

第3節 C地区の調査

1. 1990(平成2)年度C-1トレンチ(鉄塔部 第12図、図版第27~29)

(1)調査概要と層位

C-1トレンチは、大山崎町円明寺壺町田地内にあり、長岡京跡右京九条二坊十二町(新条坊京外)推定地、下植野南遺跡にあたる。

調査は、名神高速道路拡幅に関連した関西電力の鉄塔建て替えに伴い、対象となる約170m²について発掘調査を実施した。このトレンチの遺構検出面は、南で浅く、現在の水田の床土直下で古墳時代の住居を検出している。北よりでは現在の水田の0.5m下で平安時代の遺構を検出し、この下は砂礫の厚い堆積が認められた。

(2)遺構(図版第27)

調査の結果、2期の遺構面を確認した。

a. 上層

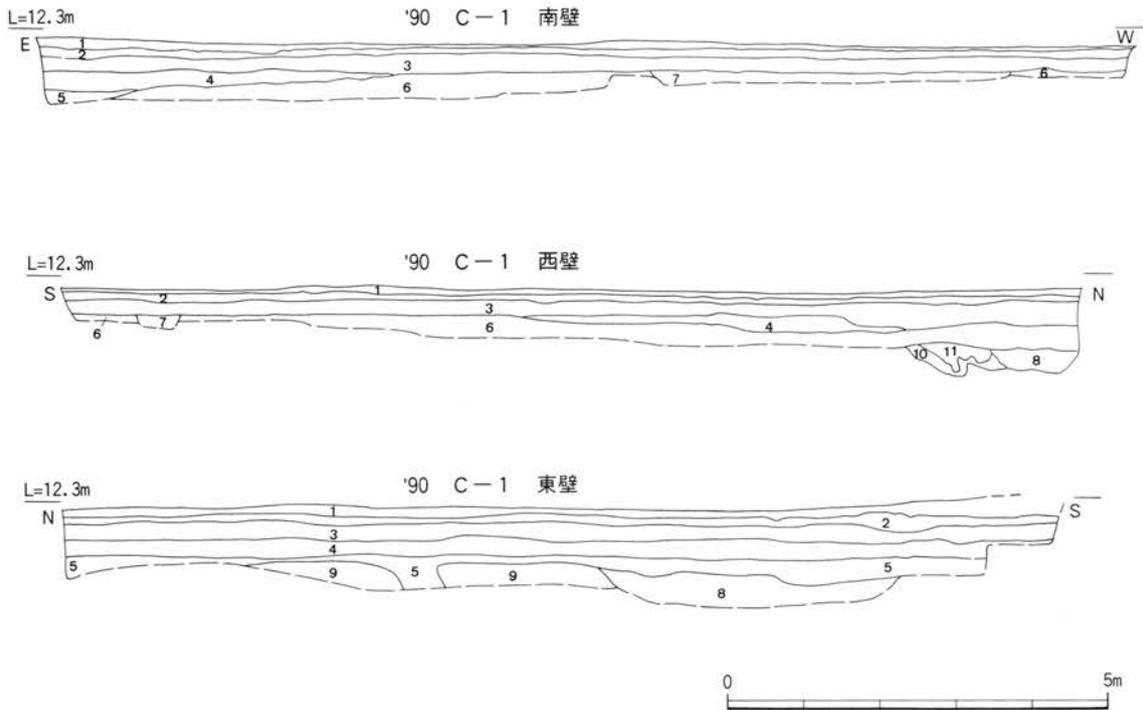
溝 S D 35701・35702・35703・35704 いずれも中世の素堀溝で、東からやや南に振っている。

b. 下層

土坑 S K 35708 S D 35710が取り付く土坑で、土地の傾斜から、溝から水が流れ込んでいたものと考えられる。平安時代の黒色土器が出土している。

溝 S D 35710 S D 35709と南辺が並行する溝で、東に向かい漸次幅が狭くなり、土坑に取り付く。溝内遺物から平安時代の遺構と考えられる。

石敷き遺構 S D 35709(図版第28) 溝として報告されているが、B地区の調査と考え合わせると、石敷き路跡の延長部と考えられる。



第12図 1990年度C-1トレンチ土層断面図

1. 暗灰色粘質土 2. 灰色粘質土 3. 明灰色粘質土 4. 明褐色粘質土 5. 黒褐色粘質土
 6. 黄褐色粘質土 7. 黒灰色粘質土 8. 暗青灰色粘質土 9. 礫層(径2~20cmの砂岩・チャート主体)
 10. 明黄褐色粘質土 11. 黒灰褐色砂質土

竪穴住居跡 S H 35705 (図版第29) 調査区内で北側約1/3を検出した古墳時代後期の方形の住居跡で、東西が約5mを測り、北辺の西よりで竈跡と考えられる焼土跡を検出した。住居跡内からは須恵器の杯蓋片1点が出土した。

2. 1991~92(平成3~4)年度C-1トレンチ(第13図、図版第27~29)

(1) 調査概要と層位

C-1地区は、1991(平成3)年度に調査を実施したC-1トレンチ(右京第357次調査)を東西および南側に拡幅した調査区である。調査は、1992(平成4)年度に機械掘削および遺構検出作業まで行い、1993(平成5)年度に継続して実施した。機械掘削は、平安時代の遺物包含層の堆積する北東部を除き地山面まで行い、同一面で遺構検出を行った。この地区では、弥生時代から近世までの遺構や遺物を確認した。以下、主要な遺構について概要を報告する。

(2) 遺構(図版第27)

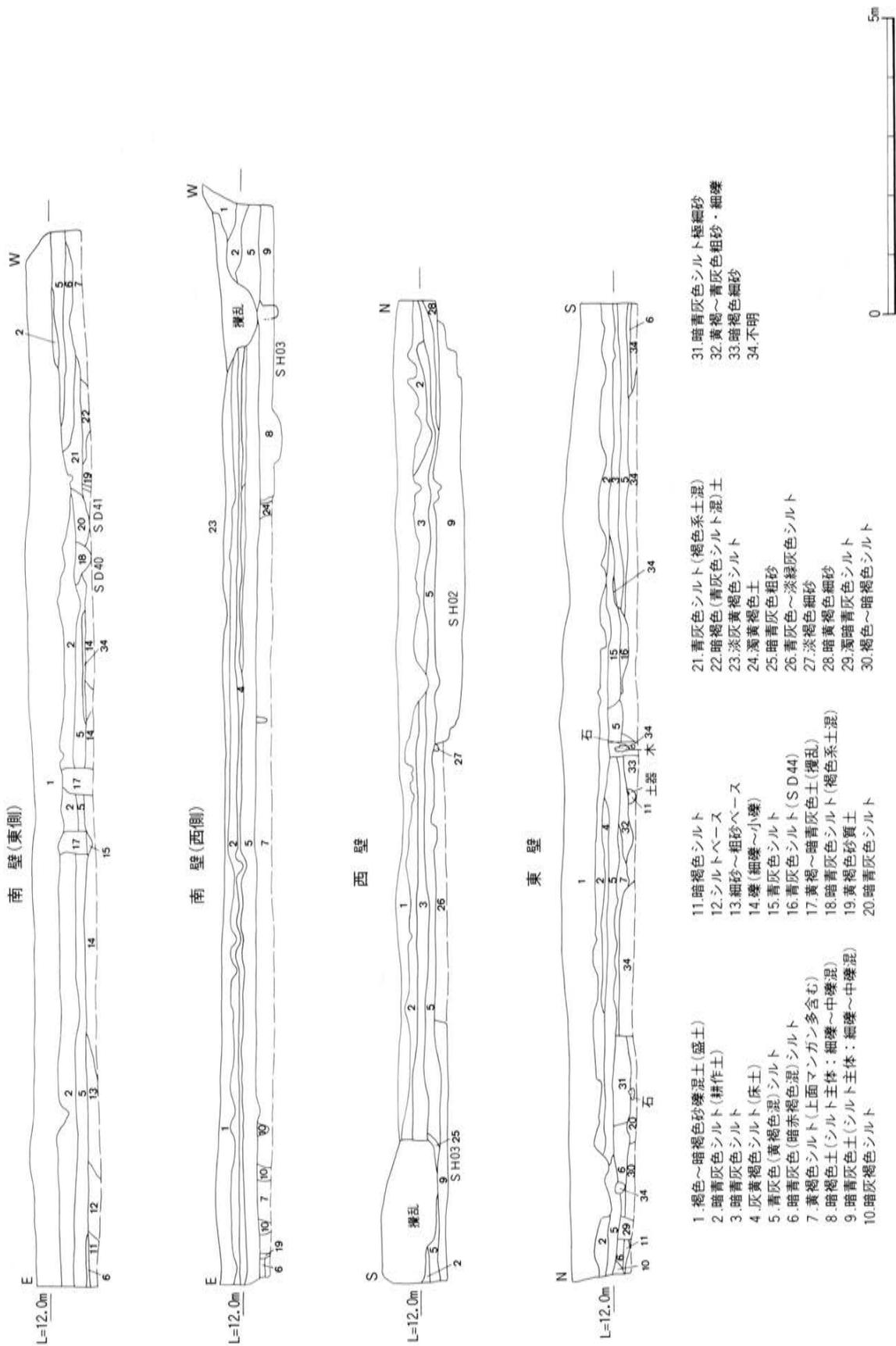
a. 近世

S E 368243・S D 368240がこの時期のもので、溝は水田耕作に伴うものと考えられる。

b. 奈良~平安時代

南北・東西方向の溝などを検出した。

溝 S D 368242(図版第28) N3.5°Eの振れをもつ南北方向の溝である。南側では、幅2.1m・



- | | | |
|------------------------|-------------------|-----------------|
| 1. 褐色～暗褐色砂礫混土(盛土) | 21. 青灰色シルト(褐色系土混) | 31. 暗青灰色シルト極細砂 |
| 2. 暗青灰色シルト(耕作土) | 22. 暗褐色(青灰色シルト混)土 | 32. 黄褐～青灰色粗砂・細礫 |
| 3. 暗青灰色シルト | 23. 淡灰黄褐色シルト | 33. 暗褐色細砂 |
| 4. 灰黄褐色シルト(床土) | 24. 濁黄褐色土 | 34. 不明 |
| 5. 青灰色(黄褐色混)シルト | 25. 暗青灰色粗砂 | |
| 6. 暗青灰色(暗赤褐色混)シルト | 26. 青灰色～淡緑灰色シルト | |
| 7. 黄褐色シルト(上面マンガン多含む) | 27. 淡褐色細砂 | |
| 8. 暗褐色土(シルト主体；細礫～中礫混) | 28. 暗黄褐色細砂 | |
| 9. 暗青灰色土(シルト主体；細礫～中礫混) | 29. 濁暗青灰色シルト | |
| 10. 暗灰褐色シルト | 30. 褐色～暗褐色シルト | |
| 11. 暗褐色シルト | | |
| 12. シルトベース | | |
| 13. 細砂～粗砂ベース | | |
| 14. 礫(細礫～小礫) | | |
| 15. 青灰色シルト | | |
| 16. 青灰色シルト(SD44) | | |
| 17. 黄褐～暗青灰色土(礫乱) | | |
| 18. 暗青灰色シルト(褐色系土混) | | |
| 19. 黄褐色砂質土 | | |
| 20. 暗青灰色シルト | | |

第13図 1992年度C-1トレンチ土層断面図

深さ0.4mの規模を有するが、北側では、平安時代に削平を受け、幅が狭くなり途切れる。また、北側では、溝の中心が東へややずれている。埋土は、一部青灰色シルトを含む暗褐色粘質土である。古墳時代の土師器・須恵器とともに、律令期の須恵器杯A・杯B・蓋・壺、平・丸瓦(布目・縄目)の各破片が出土した。

溝 S D 368246 幅0.3m・深さ約0.2mで、ほぼ東西方向にのびる溝である。東側は、後世の遺構により削平される。須恵器甕体部片、土師器片が少量出土した。

b. 古墳時代

竪穴式住居跡 5 棟、掘立柱建物跡 1 棟を検出した。

竪穴式住居跡 S H 368202 a (図版第28) S H 368202 b の下層に位置する古墳時代前期の方形の竪穴式住居跡である。東西辺4.8m・南北辺5.1m・深さ約0.25mを測る。建物跡の方向は、上層の S H 368202 b とほぼ同じである。埋土は、暗青灰褐色～暗青灰色粘質土である。主柱穴は、2か所しか確認できなかった。北辺および東辺には、周壁溝が存在する。

庄内式～布留式土器のほか、石庖丁1点が出土している。

竪穴式住居跡 S H 368202 b (図版第28) S H 368202 b は、下層の S H 368202 a の建て替えと考えられる古墳時代前期の方形の竪穴式住居跡である。検出面で北東辺4.65m・南東辺5.2m・深さ約20cmを測る。埋土は、暗灰褐色粘質土および黄褐色砂質土で、1～5cm大の礫を多く含む。主柱穴は、3か所で検出したが、もう1か所は調査地区外に存在すると考えられる。布留式土器が出土した。

竪穴式住居跡 S H 368203 (図版第29) 調査区の南西部で検出した古墳時代中期後葉の方形の竪穴式住居跡である。北東辺で長さ約5.6mを測るが、他の三辺については不明である。深さは、検出面から15～20cmを測る。主柱穴は、4か所で検出した。各柱間とも約2.3m、各壁面からは1.6～1.7mの位置で規則的に配置されている。北東壁の東コーナー付近では、竈に伴うと思われる焼土塊を確認したが、平面形については確定できなかった。住居跡の埋土中には、広範囲で炭が確認され、焼失住居である可能性が高い。

竪穴式住居跡 S H 368204 S H 368203の床面精査時に、調査区の南西隅において検出したもので、底が平らであり、ほぼ垂直に立ち上がる壁面を有することから竪穴式住居跡と判断した。切り合い関係から S H 368203 よりも後出する。少量の土師器・須恵器から古墳時代後期に属することがわかる。

竪穴式住居跡 S H 35705 (図版第29) 平成2年度の調査で検出された竪穴式住居跡の南側約半分を確認した。平面形は、ほぼ正方形で、一辺4.4～4.6mを測る。床面では明確な支柱穴は検出することができなかった。

掘立柱建物跡 S B 368201 (図版第28) 東西3間・南北2間の規模をもつ掘立柱建物跡である。桁行6.0m・梁間5.4mを測り、わずかながら東西に長い。建物の軸はN20°Wの振れをもつ。3か所の柱穴から少量の土師器片が出土したが、時期は確定できない。S H 35705の廃絶後、あまり時間を隔てずに建てられたものと推定しておきたい。

土壌 S K 368247(図版第29) 長軸の現存2.8m、短軸0.6~0.8m、深さ0.2mを測り、東西方向に主軸を有する土壌である。横断面は、ゆるやかな「U」字状を呈する。土壌の中央部および東側から土器がまとまって出土した(1019・1020)。土壌墓である可能性が高い。

c. 弥生時代

中期(畿内第Ⅲ様式~第Ⅳ様式)の土壌などを検出した。

土壌 S K 368226(図版第29) 東西方向に主軸を有するやや不定形な土壌である。長軸2.1m・短軸0.8mを測る。土壌の東側ではほぼ完存する水差形土器(1018)が出土した。

土壌 S K 368248(図版第29) S K 368226の南西に近接して位置する。長辺0.75m・短辺0.3~0.4m、検出面からの深さ0.1mを測る小形の土壌である。土壌内には広口短頸壺(1023)が納められていた。壺は、体部の中央付近で一度分割したものを再び組み合わせたもので、その際、上半部を逆さにして(口縁部を下にして)体部下半と組み合わせ、横にした状態で埋納されていた。以上の状況から、小児用の土器棺墓と考えられる。

3. 1990(平成2)年度試掘C-2トレンチ

調査概要と層位

C-2トレンチは、大山崎町円明寺松田地内にあり、同所に所在する松田遺跡および下植野南遺跡と長岡京の右京九条二坊五町・西二坊坊間小路が想定される地点にあたる。

調査は、遺跡の広がりや重なり具合を調べるための試掘で、約310m²について実施した。1990年度の調査は、次年度以降の本調査を想定し、中世の水田遺構を検出した段階で止めた。

調査の結果、トレンチの平面では中世の水田耕作に伴うと考えられる素堀溝群を検出しており、水田の面の段が大きいところでは、杭を打ち込み、土留め作業跡と思われる杭跡が検出できた。下層の地層の状況を調べるため、一定の間隔で7か所の地質調査坑を設定した。地層を観察した結果、西から東に向けて地形が下がっており、西では水田の造成によって遺構の削平が激しく、東よりで遺構の保存状態がよいことが分かった。7G(グリッド)の断ち割り断面で、土師器の甕を使用した土器埋納遺構を確認した。

4. C-2トレンチ(第14・15図、図版第30~34)

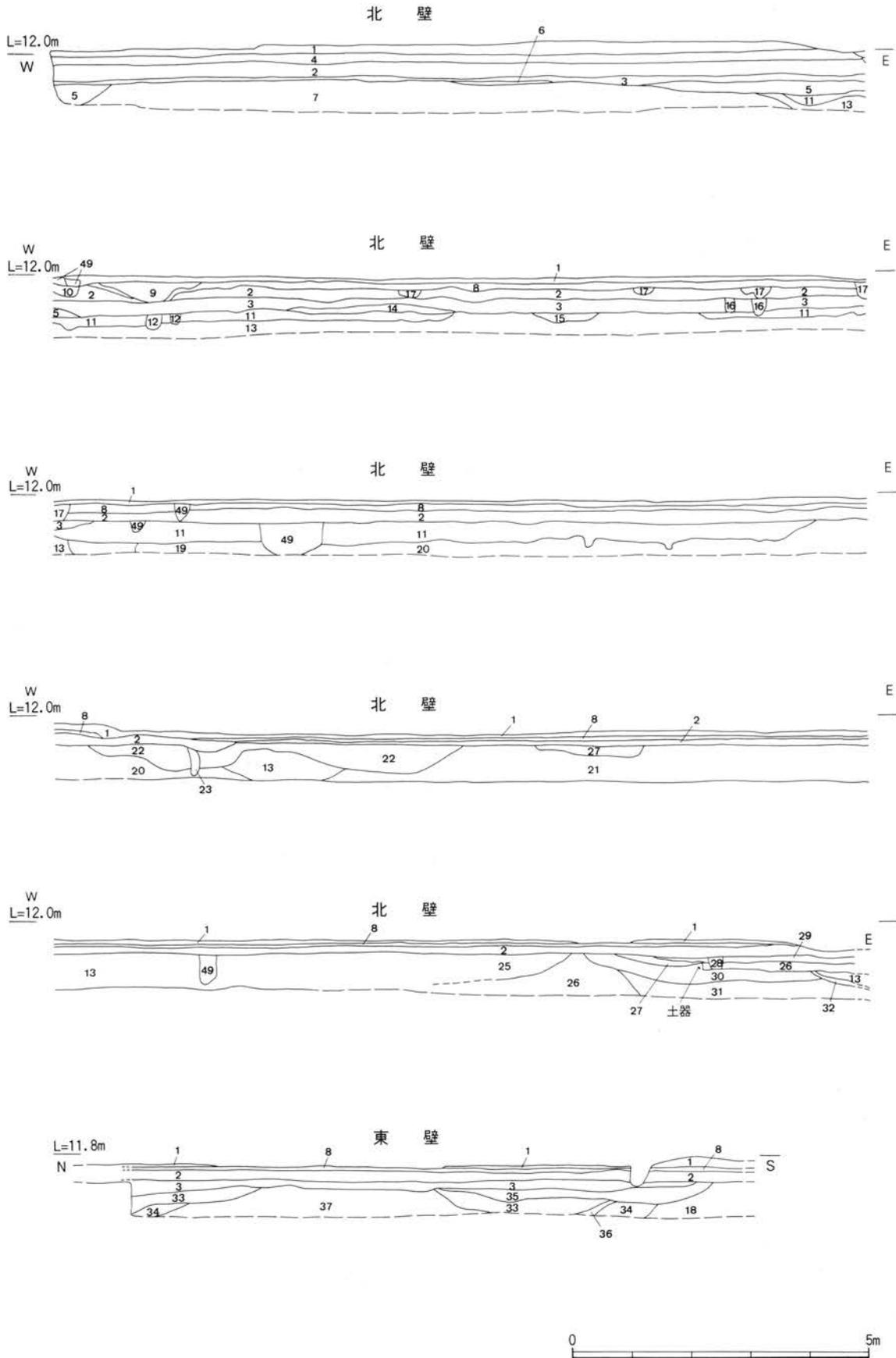
(1)調査概要と層位

C-2トレンチは、1990(平成2)年度に調査を実施した試掘トレンチを、南側に拡幅した調査地区である。調査は、機械掘削により旧耕作土を除去し、上層の遺構検出を行った。この時点で東半部は地山面となり、下層遺構も同時に検出したが、西半部は再度機械掘削を行い下層の遺構を検出した。上層では中~近世の、下層では縄文~古墳時代に至る遺構・遺物を確認した。

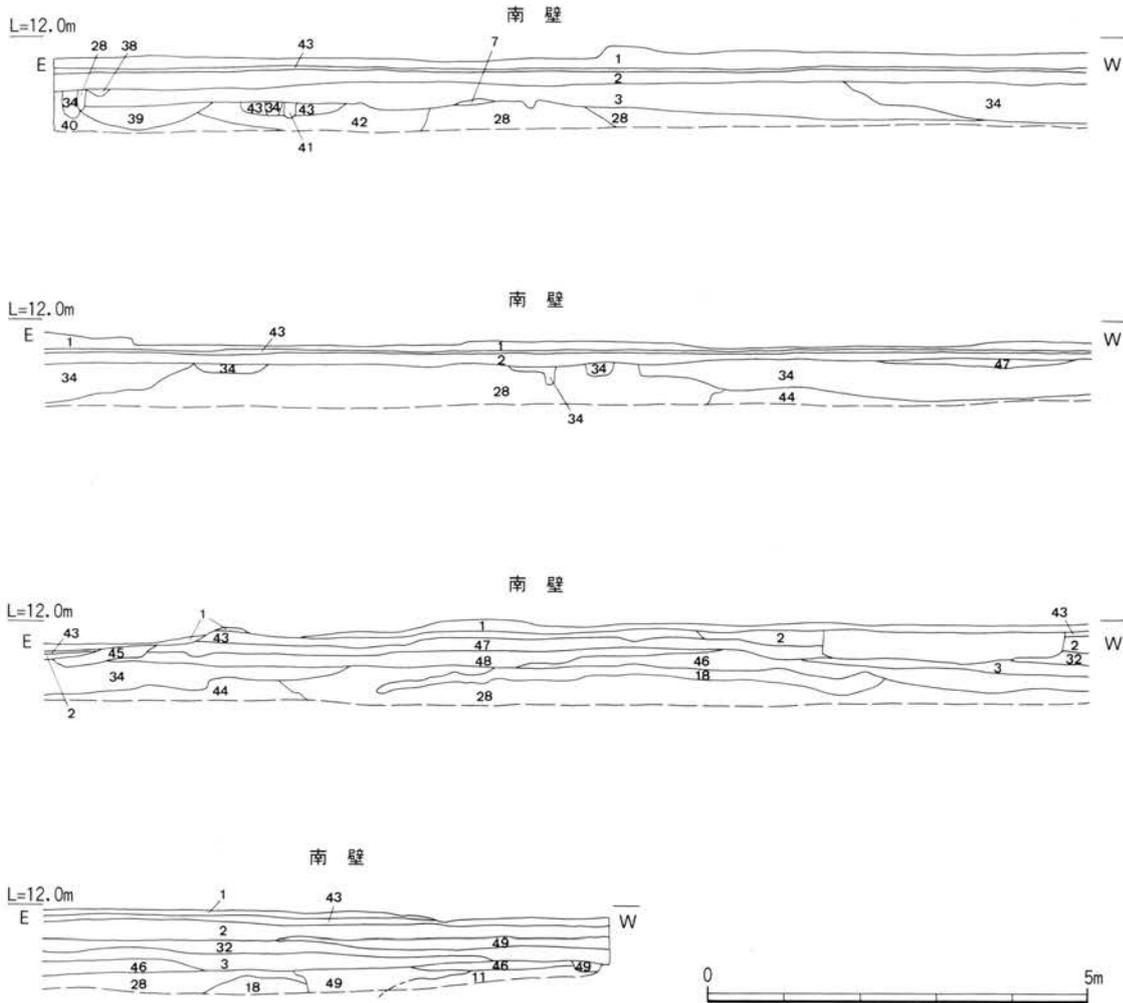
(2)遺構

a. 奈良時代以降

S D 395501 中世以降の水田耕作に伴う素堀溝と考えられる。地境溝の可能性が指摘できる。



第14図 1992年度C-2トレンチ土層断面図(1)



第15図 1992年度C-2トレンチ土層断面図(2)

1. 暗灰色粘質土(耕作土) 2. 灰色粘質土(旧耕作土) 3. 暗灰～暗赤褐色土 4. 黄褐色粘質土 5. 暗灰～暗褐色粘質土 6. 暗褐色粘質土 7. 暗灰色砂礫 8. 赤褐色・灰色粘質土 9. 暗青灰色粘質土 10. 黄褐色土 11. 暗灰褐色粘質土 12. 暗青灰色シルト 13. 暗褐色粗砂 14. 暗灰色粘質土 15. 暗褐色砂質土 16. 青灰色粘質土 17. 青灰色砂質土 18. 砂礫 19. 暗黄褐色粗砂 20. 黄褐色シルト・粗砂 21. 粗砂 22. 暗灰・暗黄褐色砂質土 23. 青灰色シルト 24. 暗灰色砂質土 25. 黄褐色シルト 26. 暗灰色粗砂・細礫 27. 暗赤褐色粗砂 28. 黄褐色粘質土 29. 暗赤褐色・灰色粘質土 30. 灰色砂質土 31. こげ茶粗砂 32. 暗赤褐色～暗灰色粘質土 33. 暗褐色粘質土・暗灰色粘質土 34. 暗褐色粘質土 35. 暗褐色粘質土(灰色砂礫混) 36. 暗褐色粘質土(砂礫多く含む) 37. 砂礫 38. 灰色砂礫 39. 暗褐～暗黄褐色粘質土 40. 暗褐色砂礫 41. 灰色粘質土 42. 暗褐色粘質～砂質土 43. 暗黄褐色粘質土 44. 暗灰色砂礫 45. 暗青灰色砂質土 46. 暗灰褐色砂礫混シルト 47. 不明 48. 不明 49. 不明

轍 2本の並行する浅い溝で、路面に残される牛車等の轍と類似するが、隣接する久我畷や、長岡京条坊の計画線とは方向が一致しない。同様な平行する溝は大山崎町教育委員会の下植野南調査区(林他1996)内でも発見されている。

b. 古墳時代

掘立柱建物跡4棟、竪穴式住居跡6棟、流路状遺構2条等を検出した。

掘立柱建物跡S B 395603(図版第31) S H 395684の北東に位置する掘立柱建物跡である。2間×2間の規模を有する。建物の軸はN22°Wである。柱間は、東西1.45m・南北1.6mを測る。

3か所の柱穴から土師器片が出土した。

掘立柱建物跡 S B 395604(図版第31) 1間×1間の規模の特殊な建物跡である。建物の軸はN31°Wである。柱間は、1.8m前後を測る。出土遺物はない。

掘立柱建物跡 S B 395605 3間×1間以上の規模を有する。建物の軸はN34°Wである。柱間は、東西1.15～1.3m・南北1.7～1.8mを測る。1か所の柱穴から土師器片が出土した。

掘立柱建物跡 S B 395606(図版第31) S R 395600がほぼ埋没した段階で構築された建物跡である。2間×2間以上の規模を有する。建物の軸はN44°Wである。ほとんどの柱穴内から土師器片が出土した。近接したピット内からは、須恵器杯身なども出土している。

竪穴式住居跡 S H 395690(図版第32) 調査地の南部で検出した。方形の竪穴式住居跡である。東西5.0m・南北5.6m前後と推定される。主柱穴は、4か所で、各主柱穴間とも約2.3mの間隔で配置されている。東壁沿いの主柱穴間には浅いピットが存在するが、性格は不明である。また、南東隅主柱穴の東側、東壁沿いに土坑があり、貯蔵穴と考えられる。貯蔵穴の平面形は長辺0.7m・短辺0.5mの不定形な方形で、深さは約0.25mを測る。

遺物は、少量の布留式土器が出土したが、細片化したものが多い。

竪穴式住居跡 S H 395632(図版第33) 流路によって南半部が不明確であるが、正方形の平面形をしていたならば1辺4.8mの規模を持つ古墳時代後期の住居跡である。遺物は北西辺中央部に集中する。

竪穴式住居跡 S H 395677(図版第32) 一辺約6.6～7.0mを測る大形の住居跡である。ほぼ方形の平面形を呈するが、南東辺はやや外側に膨らんでいる。主柱穴は、4か所で検出した。主柱穴の北-東・西-南間は約2.9m、北-西・東-南間は約3.2mを測り、長方形に配置される。住居跡の中心と南東壁沿いのほぼ中央に貯蔵穴が設置されている。

土器は、10cm内外の石とともに、各主柱穴を結んだ内側(内区)に特に集中して出土した。これらは、床面に近い位置から出土しているものの、その出土状況から住居の廃絶後に投棄された可能性が高い。土器は、布留式中段階である。

竪穴式住居跡 S H 395685(図版第31) 調査区の西部で検出した。一辺4.6～4.7mを測り、ほぼ正方形の平面形を呈する。深さ約20cmを測る。4か所の主柱穴は、各間隔が2.4～2.5mで、ほぼ正方形に配置されている。北辺中央に竈が設置され、北東隅に浅い土坑が付設される。竈内には支柱石があり、土坑内には多量の灰・炭が入っていた。竈と対する辺の南東隅からも土坑を検出している。出土遺物は陶器編年TK10型式前後に比定される。

土坑 S K 395623(図版第33) 遺構の南半が欠損している古墳時代後期の土坑である。内部から須恵器杯蓋2点が隣接し、一方が正位置、もう一方が上下逆の状態出土した。

土坑 S K 395680(図版第33) 土坑の輪郭は明確ではなかったが、内部から布留式土器がまとまって出土した。

土坑 S K 395683(図版第33) 平面形が隅丸の長方形を呈する古墳時代後期の土坑である。遺物は土坑の西半から出土している。南北約3.0m・東西約3.7m、検出面からの深さ約25cmを測る。

自然流路 S R 395600・395601(図版第34) とともに流路状の遺構であるが、大部分は恒常的な流水を伴うのではなく、旧地形の形成時に窪地化したものと考えられる。ただし、S R 395600の東側は、C-4 aで検出した流路 S R 395702に接続し、一部に流水による堆積も確認される。出土遺物から、古墳時代後期にはほぼ埋没し、平坦化したと考えられる。

b. 縄文時代

土壙 S K 395602(図版第33) 大形の深鉢(1402)を使用した土器棺墓である。土壙の規模は、検出面で長軸0.65m・短軸0.58m・深さ0.22mを測る。平面形は変形した楕円状を呈する。深鉢が入る程度の大きさに土壙を掘削し、土壙内にはほぼ横にした状態で、深鉢を納めていた。土器の大きさから、上部は0.2m以上削平を受けていると思われる。深鉢は、滋賀里Ⅳ式期に比定される。

5. 1990(平成2)年度C-3トレンチ試掘

調査概要

C-3トレンチは、大山崎町円明寺五條本地内にあり、同所に所在する下植野南遺跡と長岡京の右京九条二坊四町(新条坊京外)・九条第二小路・西二坊第一小路が想定される地点にあたる。

調査は遺跡の広がりや重なり具合を調べるために設けた試掘トレンチである。約330㎡について実施した。調査は、中世の水田遺構を検出した段階で中止した。中世の水田耕作に伴う溝群と、調査地北側を走る久我畷に並行する溝の肩を検出している。中世の溝群は、西で削平が激しく、東寄りで遺構の保存状態がよいことが分かった。久我畷の側溝と考えられる溝は、2層の違った土によって埋まっており、上層からは瓦器碗の破片が出土している。下層からは時期を決定できる遺物は出土していない。西端に設けた1グリッドの黒灰色粘質土(現在の水田面から0.4m)からは円筒埴輪・土師器甕・須恵器甕が出土した。

6. 1991(平成3)年度C-3トレンチ

調査概要

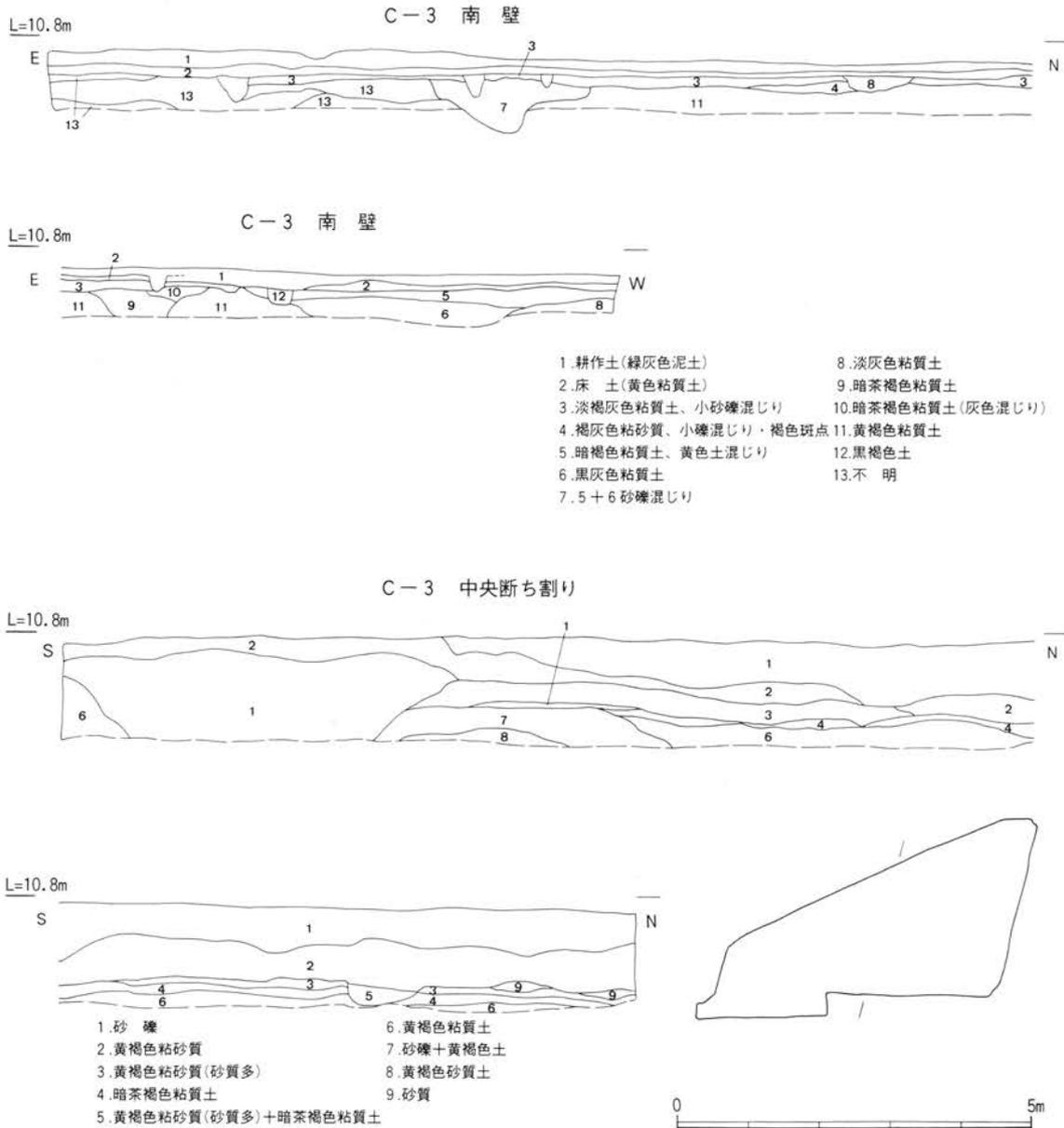
1990年度の試掘調査に引き続き上層遺構検出面での調査を行った。中世の水田耕作に伴うと考えられる溝や、久我畷に並行すると考えられる溝の一部、土坑等を検出した。

1990年度の試掘調査で確認した久我畷東側溝と考えられた落ち込みは、西に延長されることなく途切れた。一方、水田耕作に伴うと考えられる溝群は、現在の久我畷から南に約4mでいずれも途切れる。久我畷によって規制されたためと想定される。

7. 1992(平成4)年度C-3トレンチ(第16図、図版第35~37)

(1)調査概要

1991年の調査に引き続き、下層遺構面の発掘調査を実施した。遺構検出面は砂礫を交える部分が多く見られた。この調査で検出された遺構は、土坑・素掘溝・掘立柱建物跡・竪穴式住居跡などがある。出土遺物では、土師器・須恵器・縄文時代晩期の深鉢・石鏃などがある。調査地は下



第16図 1992年度C-3トレンチ土層断面図

植野南遺跡に該当するが、縄文時代から近世に至る複合遺跡と見ることができる。

(2)遺構

素掘溝群 長さ約20m・幅0.2~0.4m・深さ0.3mを測る中世溝群である。方位は北で東へ4°ほど傾く。溝群の間隔は、概ね2.4mとほぼ等間隔である。水田あるいは畑地に伴う素掘溝と考えられる。溝群が北側で途切れているのは、久我畷の路端が接していた可能性を示す。

土坑 S K 368301 長辺2.1m・短辺1.6m、検出面からの深さ0.3mを測る。断面形は皿状を呈し、灰色泥土が堆積する。出土遺物から15世紀の年代が与えられる。

小柱穴群 直径0.2~0.4mの円形の柱穴がトレンチ全域にあった。柱穴内からは15世紀の遺物が出土する。柱穴内には灰色泥土が堆積する。

掘立柱建物跡 S B 368302(図版第36) S H368305の南側で検出された2間×2間の総柱の建物

跡である。柱間寸法は1.8mのほぼ等間である。柱穴は、方形のものが多く、暗褐色土が堆積する。建物の軸はN34°Wである。時期については、S H368302より新しい以外詳細不明である。

竪穴式住居跡 S H368304(図版第36) 南北約6m・東西約6.1m・深さ0.15mを測り、ほぼ正方形の住居跡である。床面には円形の支柱穴が4個配され、壁溝は北辺・東・西辺の北半で幅0.1mの規模で確認できた。竈は北壁中央部に接して設けられている。竈は、上半部が削平を受けているが、基部で長さ0.8m・幅1.2mを測り、赤褐色の馬蹄形を呈する。煙り出し部は北壁より0.1mほど外に出る。竈内には焼土・炭化物が残り、土師器の甕が1個体分中央から出土した。

竪穴式住居跡 S H368305(図版第36) 長辺5.3m・短辺4.4m、検出面からの深さ0.1mを測る方形の住居跡である。床面には支柱穴に確定できる柱痕は検出できなかった。

溝 S D368306 竪穴式住居跡 S H368305の西辺から1.3mの位置に平行して検出されたもので、長さ7.7m・幅0.4m・深さ0.15mを測る。

方形周溝墓 S X368307(図版第37) 方形周溝墓 S X368308の東辺で接するように検出した。墳丘部の規模は長辺9.7m・短辺7.4m、周溝の幅は1.8~2.4m、検出面からの深さ0.8mを測る。周溝の断面は「V」字状を呈し、上層では茶褐色土、下層では砂礫・砂層が堆積する。周溝の底は、墳丘部の四隅でやや浅くなり、中央部は深い。墳丘部は削平を受け、主体部の痕跡などはなかった。周溝の埋土から庄内期の土師器甕が出土している。

方形周溝墓 S X368308(図版第37) 方形周溝墓 S X368307の周溝の上層から検出された。墳丘部の規模は、一辺約6m、周溝の幅は2.3m、検出面からの深さ0.6mを測る。周溝の断面は、「U」字状を呈し、上層では礫混じりの暗褐色土、下層では砂礫・砂層が堆積する。時期はS X368307より新しい。

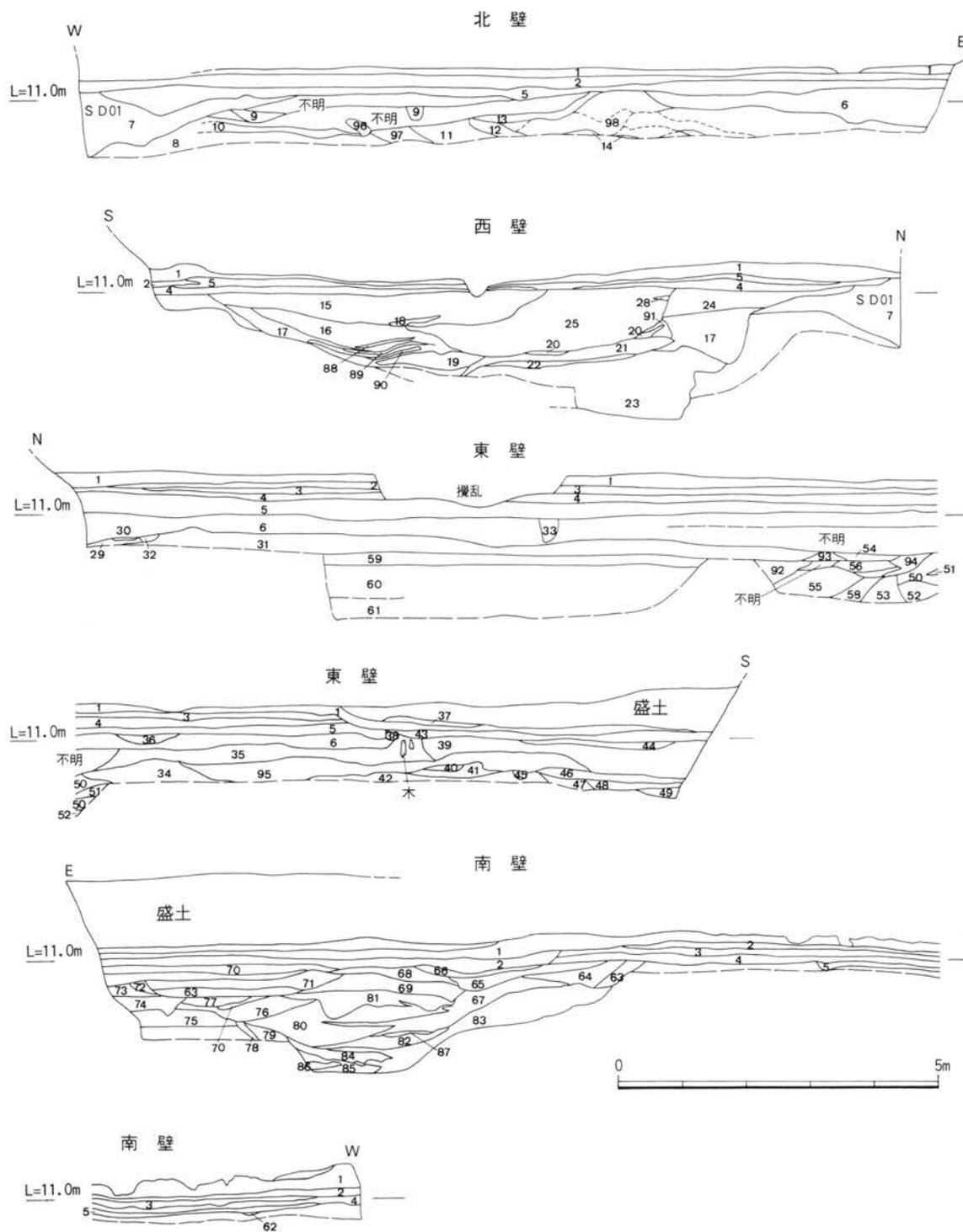
方形周溝墓 S X368309(図版第37) トレンチ北東隅で「L」字状のコーナー部を検出した。周溝の幅は1.7~2.4m、検出面からの深さ0.5~0.7mを測る。周溝の断面は、東南の周溝では「V」字状、西南周溝では皿状を呈している。堆積土は、上位にわずかな暗褐色土がのる以外は、大半は砂礫・砂層の互層である。

埴輪棺残欠 S X368311(図版第37) S X368308周溝部上面で検出した埴輪の集中部である。遺構検出面上部に外面を下にした、円筒埴輪が原位置の状態出土しており、周辺には破片が多く散乱する。埴輪棺の上部が壊され、下の部分だけが残存したものと考えられる。埴輪の時期から4世紀後半と考えられる。

溝 S D368303 溝の規模は、長さ13m以上・幅0.7m、検出面からの深さ0.3mを測る。北側の竪穴式住居跡付近で立ち上がり、途切れる。溝の断面は椀状を呈し、上層は暗褐色粘質土、下層は茶褐色砂質土が堆積する。古墳の残欠かと考えられる。

土壙 S K368310(図版第37) 掘立柱建物跡 S B368302の南西部の掘形に切られる状態で検出した。土壙は円形を呈し、直径約0.45m、検出面からの深さ0.1mを測る。内部から土器棺と考えられる縄文土器深鉢が出土した。出土状況は2個体が重なり、1個体分の口縁が陥没している。

なお、この遺構の検出面は砂礫層からなるが、この砂礫層中から石鏃1点出土した。縄文時



第17図 1992年度C-4 aトレンチ土層断面図

- | | | | |
|---------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| 1. 暗褐色粘質土 | 2. 灰褐色粘質土 | 3. 淡黄褐色粘質土 | 4. 灰褐色粘質土 |
| 5. 灰黄褐色粗砂 | 6. 暗灰褐色粘質土 | 7. 灰褐色細砂(礫を含む) | 8. 淡青褐色粗砂 |
| 9. 礫層 | 10. 淡灰~淡褐色砂質土 | 11. 青灰色粘質土 | 12. 暗褐色粗砂~細砂 |
| 13. 暗黄褐色粗砂 | 14. 暗灰色粘質土 | 15. 暗灰色シルト | 16. 青灰色シルト |
| 17. 暗青灰色シルト | 18. 暗褐色シルト(細砂を含む) | 19. 灰褐色細礫 | 20. 暗黄褐色粗砂 |
| 21. 青灰色細砂~粗砂 | 22. 暗緑灰色細砂 | 23. 青灰色細砂~小礫 | 24. 暗灰褐色細砂~シルト |
| 25. 暗黄褐色細砂~小礫 | 26. 暗青灰色シルト~細砂 | 27. 暗黄灰色粗砂~細砂 | 28. 暗灰褐色シルト |
| 29. 暗褐色粘質土 | 30. 暗灰褐色粘質土 | 31. 暗褐色礫(φ 3cm) | 32. 暗褐色礫(φ 1cm未満) |

- | | | | |
|-------------------------|-------------------------|---------------|-----------------------|
| 33. 灰色粘質土 | 34. 淡灰褐色砂礫 | 35. 淡黄褐色粘質土 | 36. 灰黄色砂質シルト |
| 37. 暗灰色粘土 | 38. 淡黄灰色粘質土 | 39. 褐色粘質土 | 40. 灰色砂質シルト |
| 41. 灰色粗砂 | 42. 淡灰黄色～淡青灰色粗砂 | 43. 淡灰黄色粗砂 | 44. 灰黄色粘質土 |
| 45. 青灰色粘質土 | 46. 灰色粗砂 | 47. 青灰色粘質土 | 48. 青灰色粘質土 |
| 49. 青灰色粗砂 | 50. 淡灰黄色～淡緑灰色粘質土 | 51. 淡緑灰色粗砂 | 52. 淡青灰色中砂～粗砂 |
| 53. 淡緑灰色粘質土～粗砂 | 54. 褐色砂礫 | 55. 青灰色細礫 | 56. 灰褐色細礫 |
| 57. 青灰色細砂 | 58. 暗青灰色粘質土(φ 3cmの礫を含む) | 59. 暗茶褐色細礫層 | 60. 青灰色礫 |
| 61. 淡青灰色細砂 | 62. 不明 | 63. 暗青灰色粘土 | 64. 暗青灰色～灰黄色細砂～中砂 |
| 65. 暗青灰色～灰黄色砂質シルト | 66. 暗青灰色粘質土 | 67. 暗青灰色砂質シルト | |
| 68. 灰褐色粗砂(φ 2～3cmの礫を含む) | 69. 灰褐色～赤褐色小礫 | 70. 青灰色粘質土 | |
| 71. 暗青灰色粘土 | 72. 暗青灰色粘質土 | 73. 暗青灰色砂質粘質土 | 74. 暗青灰色粘質土(暗褐色粗砂を含む) |
| 75. 灰褐色粗砂～細礫 | 76. 灰褐色礫 | 77. 灰色粘質土 | 78. 淡青灰色粗砂 |
| 79. 淡緑灰色細礫 | 80. 青灰色粗砂～細礫 | 81. 赤褐色粗砂～細礫 | 82. 青灰色中砂 |
| 83. 暗青褐色粘質土(赤褐色砂礫を含む) | 84. 灰色細砂～粘質土 | 85. 灰色細礫 | 86. 灰色粘土 |
| 87. 灰色粘質土 | 88. 暗灰色シルト(細砂を含む) | 89. 暗灰色シルト | 90. 灰褐色砂礫 |
| 91. 青灰色細砂～粗砂 | 92. 褐色細礫 | 93. 暗灰褐色粘質土 | 94. 灰色粘質土 |
| 95. 褐色粘質土 | 96. 礫層 | 97. 礫層 | 98. 礫層 |

代晩期以前の洪水性堆積物と考えられる。

8. C-4 a トレンチ(図版第30・38)

調査概要

調査地は長岡京跡右京九条二坊四町(新条坊京外)にあたり、下植野南遺跡にも含まれる。

古墳時代

竪穴式住居跡1棟、流路跡を検出した。

竪穴式住居跡 S H 395705 調査区の南西、S D 395702によって囲まれた部分に位置している。方形住居跡の北辺を確認したのみである。一辺3.2m・深さ約0.1mを測る。北辺沿いに一部周壁溝を有する。遺物が出土していないため、時期は不明である。

自然流路 S R 395701 北東→南西方向に流れた流路である。一方の肩は検出できなかったため規模は不明であるが、7m以上の幅を有している。埋土は、灰色系の砂礫である。調査の都合上、流路埋土の大部分を機械掘削によって除去した。少量の土器が出土した。

自然流路 S R 395702(図版第38) C-2地区のS R 395600東部の延長部分と考えられ、埋土の堆積状況から、西→東方向に流れたものと推定される。幅約5m・深さ約1.5mを測り、断面形はゆるやかな弧状を呈する。シルト・砂・礫の流入によって埋没している。土師器(壺・甕・甑)、須恵器(杯身・蓋・高杯・壺・甕)など古墳時代後期の土器が多量に出土した。最上層の出土遺物から飛鳥時代には埋没したと考えられる。

自然流路 S R 395703(図版第38) 北東→南方向に流れた流路跡で、幅約6.5m・深さ約1.5mを測る。断面形は、逆台形状を呈する。埋土は、細～中礫を主体とする。縄文土器・弥生土器・土師器(布留式)・須恵器のほか、石庖丁が出土した。

以上の流路は、出土した遺物や遺構の切り合い関係から、S R 395703→S R 395701→S R

395702の順に形成されたものと推定される。なお、断ち割りで一部しか確認できていないが、これらの流路形成以前に、北西→南東方向の流れをもつS D395720が存在しており、この地区では長期間にわたり、流路の存在したことが確認される。

9. C-4 b トレンチ(第18図、図版第35・39)

C-4 a 地区の東隣に隣接するが、自然流路が大部分を占めるC-4 a 地区とは様相が異なり、安定したベース上で中世から古墳時代の遺構が検出できた。遺構の検出面はC-1・C-2 トレンチ同様に黄褐色粘質土であるが、東部では礫層となりC-3 トレンチに広がる。

a. 中世～平安時代

土坑 S K 39595 不定形な楕円状を呈する土坑である。長径1.2m・短径0.9mを測る。出土遺物から中世の遺構であることがわかる。

土坑 S K 395801 不定形な楕円状を呈する土坑である。長径1.6m・短径1.3mを測る。出土遺物から中世の遺構であることがわかる。

土坑 S K 395804 不定形な楕円状を呈する土坑である。長径2.2m・短径1.6mを測る。出土遺物から中世の遺構であることがわかる。

土坑 S K 395805 不定形な楕円状を呈する土坑である。長径1.4m・短径1.2mを測る。出土遺物から中世の遺構であることがわかる。

溝 S D 395843 南北方向の溝で、中央部分での幅0.9m・検出面からの深さ0.2mを測る。北端部では2条に分岐する。布目瓦が出土している。

b. 古墳時代

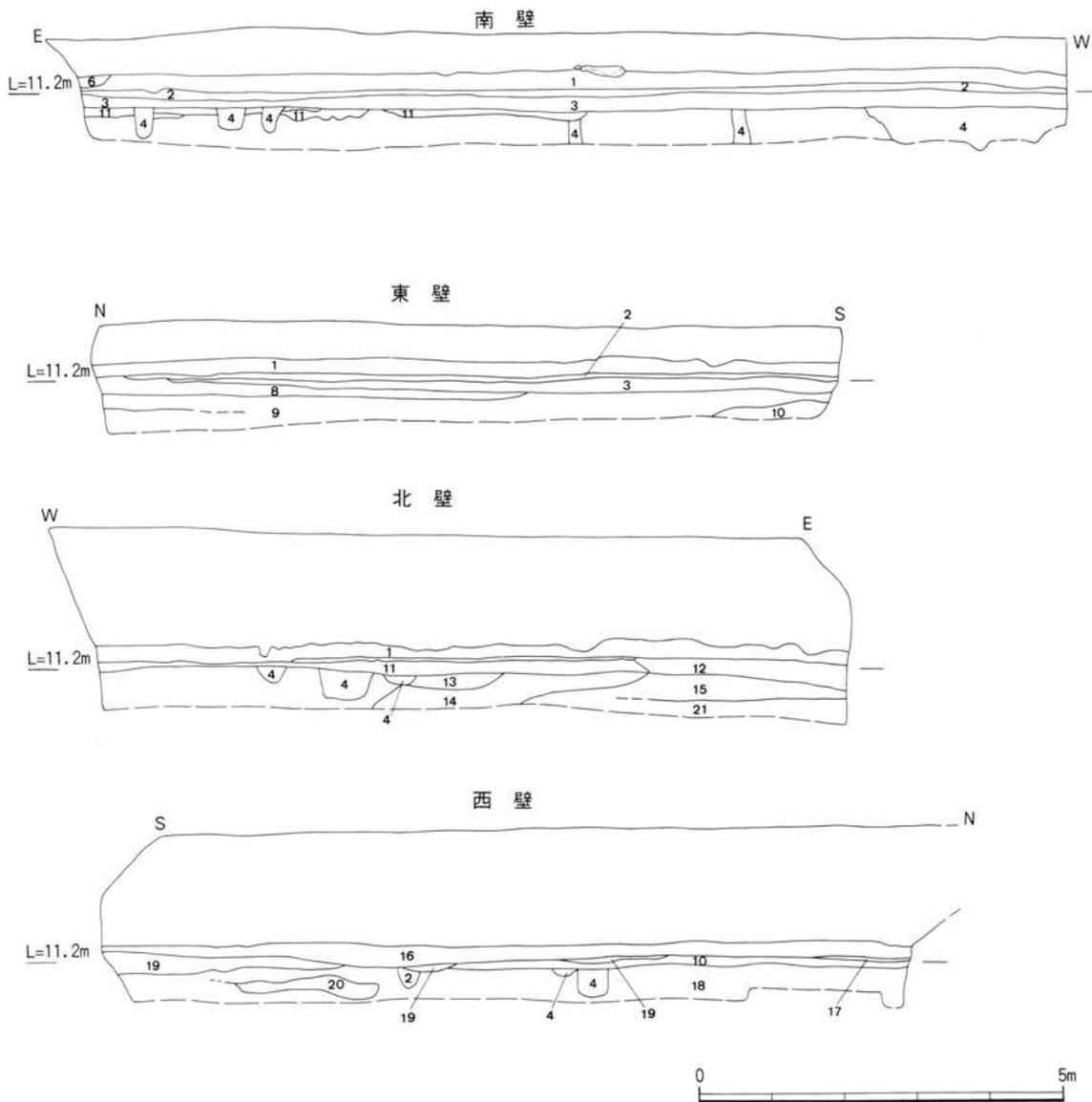
掘立柱建物跡 S B 395810(図版第39) 4間×3間以上の規模の円形掘形を持つ掘立柱建物跡である。長軸が東西方向と考えられる建物跡でE35°Wの振れを持つ。柱間は梁間方向が1.8mの等間であるが、桁行は1.7~2.5mと不規則である。

掘立柱建物跡 S B 395821(図版第39) 2間×5間規模の方形掘形を持つ掘立柱建物跡である。長軸が南北方向と考えられる建物跡でE37°Wの振れを持つ。梁間・桁行は共に約1.85mを測る。S B 395810と同じ規模の建物跡で、南の柱筋が揃っていることから、同時期に併存していたものと考えられる。

掘立柱建物跡 S B 395841(図版第39) 東西2間以上・南北2間以上の規模の方形掘形を持つ掘立柱建物跡である。長軸が南北方向と考えられる建物跡でE33°Wの振れを持つ。梁間・桁行間は共に約1.85mを測る。柱穴内の出土遺物から古墳時代後期の建物跡と考えられる。

掘立柱建物跡 S B 395842(図版第39) 2間×2間の方形掘形を持つ建物跡で、S B 395821に先行する。桁行の柱間寸法は約2.85mの等間隔であるが、梁間は1.8m・2.2mと間隔が揃わない。

竪穴式住居跡 S H 395803 コーナー部のみを検出した。古墳時代前期の竪穴式住居跡の一角である。検出面からの深さ約0.3mを測る。周壁溝は検出できなかった。詳細はC-6 トレンチ参照。



第18図 1992年度C-4bトレンチ土層断面図

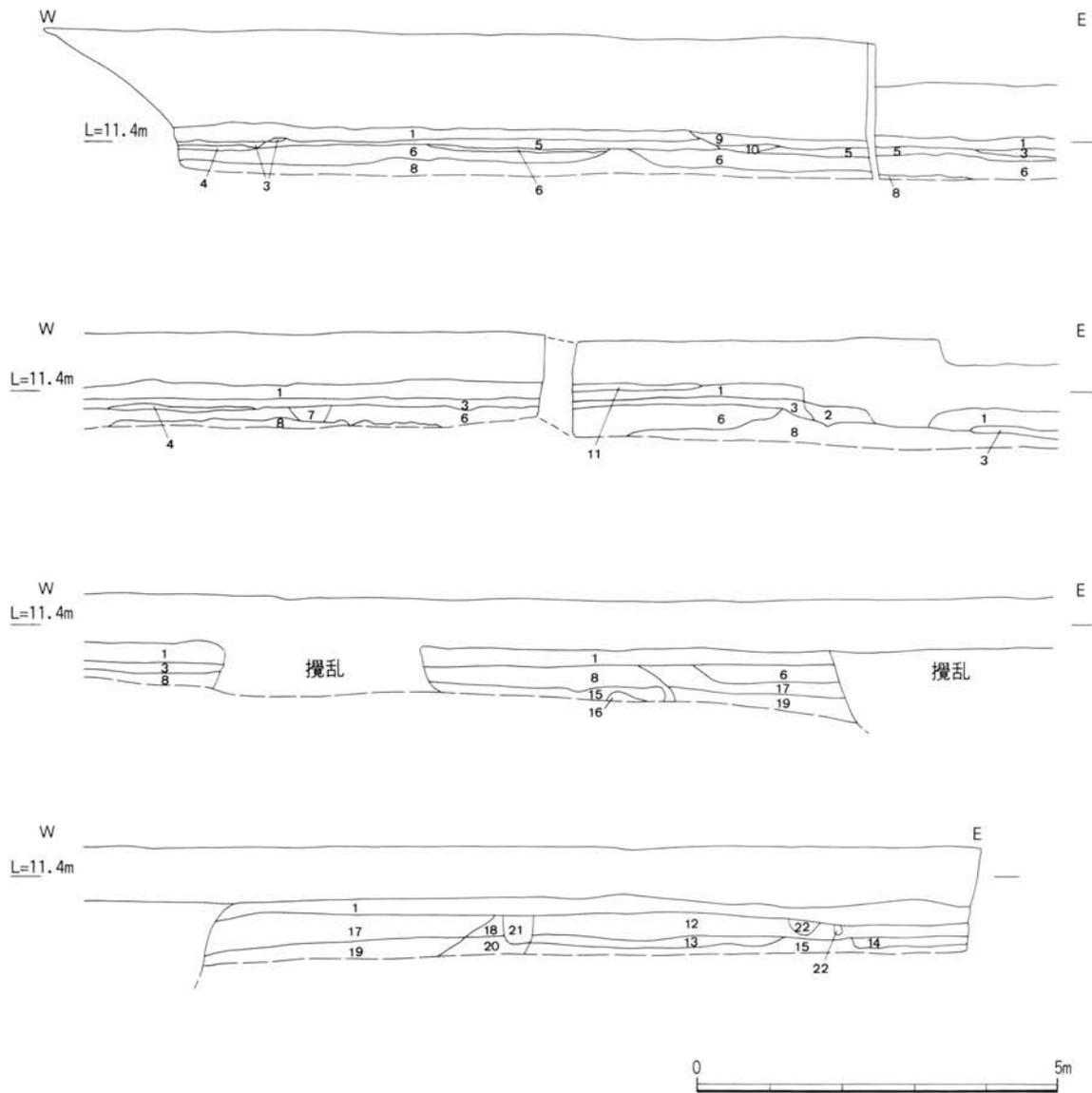
1. 暗灰色粘質土(耕土層) 2. 灰黄色粘質土 3. 灰褐色粘質土(耕土層) 4. 暗褐色粘質土
 5. 灰褐色粘質土 6. 暗灰色粘土 7. 黄褐色粘質土 8. 暗褐色細礫
 9. 暗褐色中砂(南に行くにつれて粒径が大きくなる) 10. 黄褐色シルト 11. 暗灰褐色粘質土
 12. 暗灰褐色細礫 13. 灰黄褐色～黄褐色粘質土 14. 暗灰褐色礫(西へ行くにつれて粒径が小さくなる)
 15. 暗褐色細～中砂 16. 暗灰色粘質土(耕土層) 17. 灰黄褐色粘質土 18. 黄褐色粘質土
 19. 灰黄～灰黄褐色粘質土 20. 暗灰褐色粘質土(ϕ 1～2 cmの礫を含む) 21. 暗灰褐色細礫

10. 1993(平成5)年度C-4cトレンチ(第19図、図版第35・39)

a. 中世

小形の柱穴群と溝を検出した。

柱穴群 調査地の南を走る久我畷に並行するものもあるが、多くは建物として認識できるものではなく、性格の不明なものがほとんどである。出土遺物には、白磁碗・青磁碗・瓦器碗などがある。また土坑として遺構番号を振ったものには、柱穴にする方が妥当なものも存在する。



第19図 1993年度C-4cトレンチ土層断面図

- | | | | |
|----------------------------------|-------------------------|-----------------------|-------------|
| 1. 暗灰色シルト(耕作土) | 2. 二次堆積土 | 3. 黄褐色砂質土(床土) | 4. 灰色細砂(床土) |
| 5. 黄灰色砂質土(床土) | 6. 黒褐色粘質土(2~5cmの礫を含む) | 7. 黒褐色粘質土(φ2~3cm破礫) | |
| 8. 黄褐色粘質土礫混(φ1~4cm円礫)(上面は暗褐色を呈す) | 9. 褐色粘質シルト(攪乱) | | |
| 10. 暗灰色粘質土(攪乱) | 11. 黄灰色細砂(盛土) | 12. 黄褐色砂質土(φ5cmの礫を含む) | |
| 13. 12より砂質が強い | 14. 黄褐色砂質土(φ1~3cmの礫を含む) | 15. 灰色粘質土 | |
| 16. 黒灰色砂質土 | 17. 褐色砂礫(φ3~10cmの礫を含む) | 18. 褐色砂礫(φ1~3cmの礫を含む) | |
| 19. 灰色粘質砂礫(φ3~10cmの礫を含む) | 20. 灰色粘質砂礫(φ1~3cmの礫を含む) | | |
| 21. 暗灰色粘質土(φ1~5cmの礫を含む・ピット埋土) | 22. 黒灰色粘質土 | | |

溝S D428118 調査地の北端で検出した2段に落ち込む溝である。溝上面からは明灰色の中・近世と考えられるピットが検出されたが、暗青灰色の粘質土で埋まっており、中世の水田耕作に伴う水路と考えられる。

b. 古墳時代

土坑や溝と掘立柱建物跡1棟を検出した。

掘立柱建物跡 S B 395821 (図版第39) 右京第364次調査で検出した南北3間以上、東西2間と考えられる建物跡の北端を確認したものである。規模は南北5間・東西2間で、柱穴の掘形は一辺約0.4mの隅丸方形を呈する。

土坑 S K 428108~428110 いずれも長軸1.0~1.5mを測る土坑で、暗褐色の粘質土によって埋まっており、遺物が認められない。埋土の状況から、古墳時代の周辺の遺構と同時期のものと考えられる。

土坑 S K 428113 平面長楕円形で長軸2.4m、短軸0.8mを測る。土坑内からは、土師器が出土した。この土坑は、旧河道 S R 428122・23に並行しており、この河道との関連が指摘できる。

自然流路 S R 428122 北西から南東に流れる旧河道である。直径2~5cmの砂礫によって埋まっており、幅2.2m・深さ0.5mを測る。

自然流路 S R 428123 S R 428122と並行し、同様の砂礫によって埋まっている。幅1.6m・深さ0.4mを測る。これらの自然流路は下流の方で広がりを見せ、調査地の全体を覆っている。

周辺の調査で確認されている竪穴式住居跡や古墳については、今回の調査区内では検出していない。

11. 1993(平成5)年度C-5 a トレンチ(第20・21図、図版第35・40)

調査概要

調査地の土層は、宅地造成時の盛り土が約1mあり、その下が旧地表面に当たる水田耕作土(30~50cm)、床土の黄褐色砂礫混じり砂質土(約20cm)が認められた。この層の下面が遺構検出面で、中央部やや北より南側一帯には、時期不詳のS R 428112や113の埋土である砂礫層が分布しており、上面でS B 428106をはじめとする平安時代以降の遺構を検出した。これらの遺構を検出した高さは、標高10.3m程度である。調査地の北側1/4には、北に向けて徐々に厚くなる暗茶褐色土が最大15cm程度堆積しており、この下面で古墳時代の溝であるS D 428109などを検出した。

今回の調査では、中・近世の素掘溝・井戸状の土坑、平安時代の掘立柱建物跡、古墳時代の掘立柱建物跡、古墳周溝を検出している。

a. 中世以降

土坑 S K 428101 検出面からの深さ約0.2mの土坑で、内部から瓦器片が出土している。

土坑 S K 428102 南北3.3m・東西1.6mの東半部を検出し、大半は調査地外にのびる。検出面からの深さ約0.15mの浅い土坑で、検出した範囲では、隅丸方形の平面形を呈する。内部からの遺物の出土はわずかで、数点の瓦器片が出土した。

土坑 S X 428103 調査地中央部で検出した径5.5m・検出高1.1mの大形の土坑で、埋土は灰褐色~黄褐色砂礫である。断面形は、播鉢状を呈している。内部からは、須恵器片や瓦器片が出土した。後述のS R 428112内に堆積した砂礫層を掘削して作られており、中世の野井戸と考えられる。

素掘溝群 ほぼ東西方向に検出した素掘溝群で、座標北約10°西で北に振れる。調査地の中央部より北半で検出した。旧地表面の耕作土直下の床土と類似の埋土が入っていた。掘形の断面は

「U」字形で、検出面からの深さは0.05～0.15mと浅く、ところどころで途切れるものもある。幅は1.5～0.5mで、不定のものもある。これらの溝群は、その他の遺構すべてに切り勝っている。これらの溝からは、数点の瓦器小片や中国製白磁片が出土しており、中世をさかのぼらないものである。

b. 平安時代

掘立柱建物跡 S B 428106(図版第40) 東西2間・南北3間の掘立柱建物跡で、座標北より約2°北で東に振れている。柱穴は方形である。柱抜き取り痕に石や土器を混入させている。西北隅のP7の底にはさらに土坑が掘削されており、土坑中には石とその上から壺が出土した。柱穴の土層断面の観察から、建物を建てる以前に据えられたものであり、地鎮祭祀に利用されたものと推定される。平安時代前期の時期が与えられる。

土坑 S K 428104 調査地中央東側で、4.8m×1.6mにわたって検出した不定形の土坑で、検出面からの深さ約0.6mである。南側のS K 428105と西端の位置がそろうこと、ともに相対する辺の立ち上がりが垂直に掘削されていることから、関連性が指摘できる。遺構の性格は不明である。埋土には淡黄灰色砂礫が堆積しており、内部から出土した土器から、10世紀後半から11世紀初頭頃のものとして推定できる。

土坑 S K 428105 平面形が1.1m×3m以上で、検出面からの深さ約0.6mの土坑である。埋土は暗灰色～暗茶褐色土である。S K 428104と何らかの関連を有していると考えられるが、その性格は不明である。

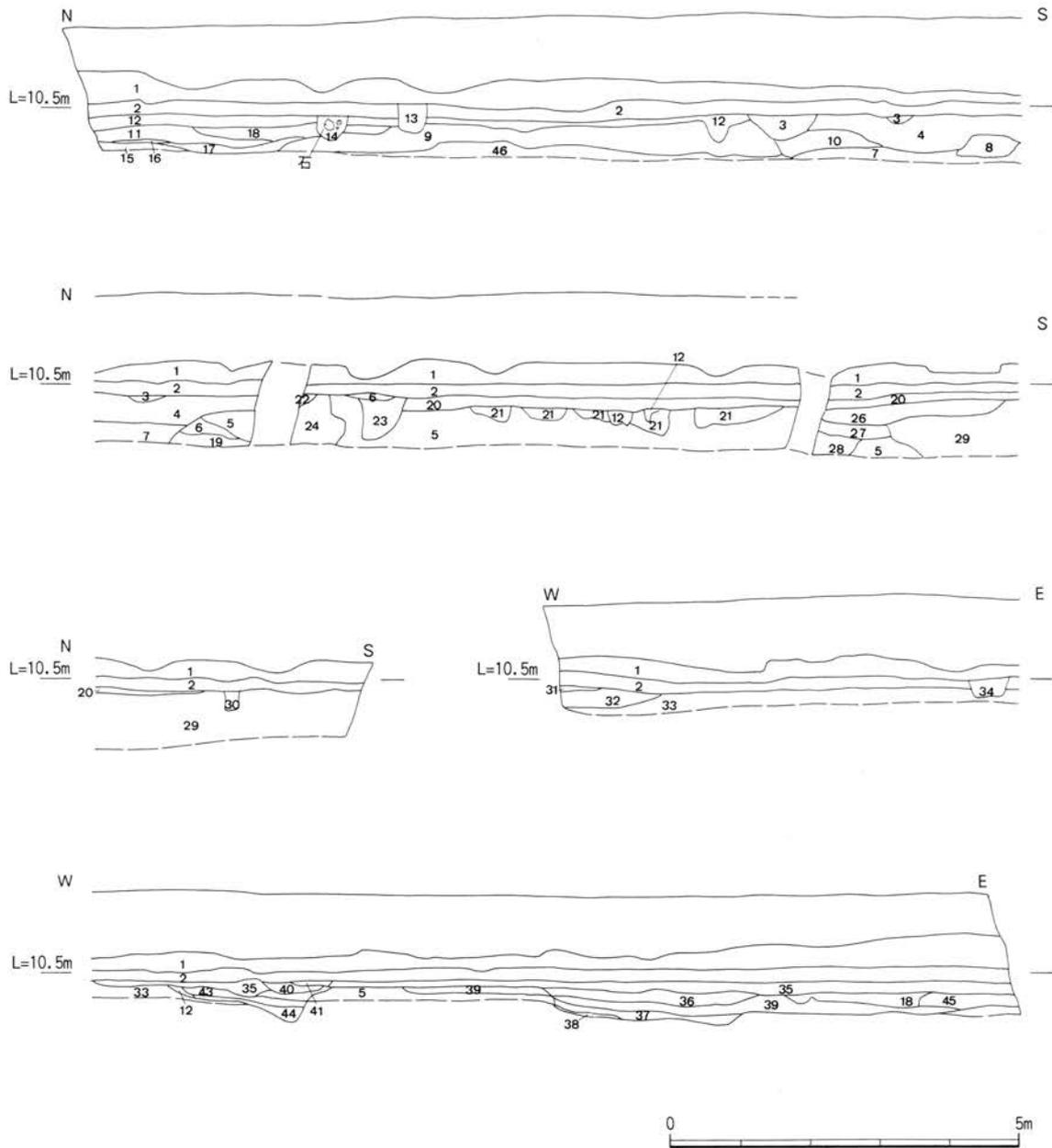
c. 古墳時代

掘立柱建物跡 S B 428110(図版第40) 西南隅で検出した北西方向が1間以上、北東方向が2間以上の規模をもつ掘立柱建物跡である。これらの南半で検出した柱穴群は、柱穴内から出土した遺物は少なく時期は不明である。南半部は遺構検出面が灰白色の砂礫層で、柱穴内埋土は暗茶褐色系統で、中・近世のものとは異なっている。また、柱の軸が南北を意識していないので、平安時代の建物跡とも異なる。C-3地区では、西北方向を向いた古墳時代の掘立柱建物跡が検出されている。以上のことから、S B 428110を含めてこれらの柱穴群は古墳時代のものであると考えたい。

土坑 S X 428107(図版第40) 調査地北端で検出し、東西1.3m・南北90cmの平面形が楕円形を呈する土坑である。検出面からの深さ約0.35mで、内部には大きく二層の埋土があり、下層が茶褐色混黄褐色土、上層が黄褐色混茶褐色土である。内部からは、土器の出土は全くなく、時期の決め手に欠けるが、埋土は後述のS D 428108・109に基本的に似ており、これらの溝と同時期のものとする。

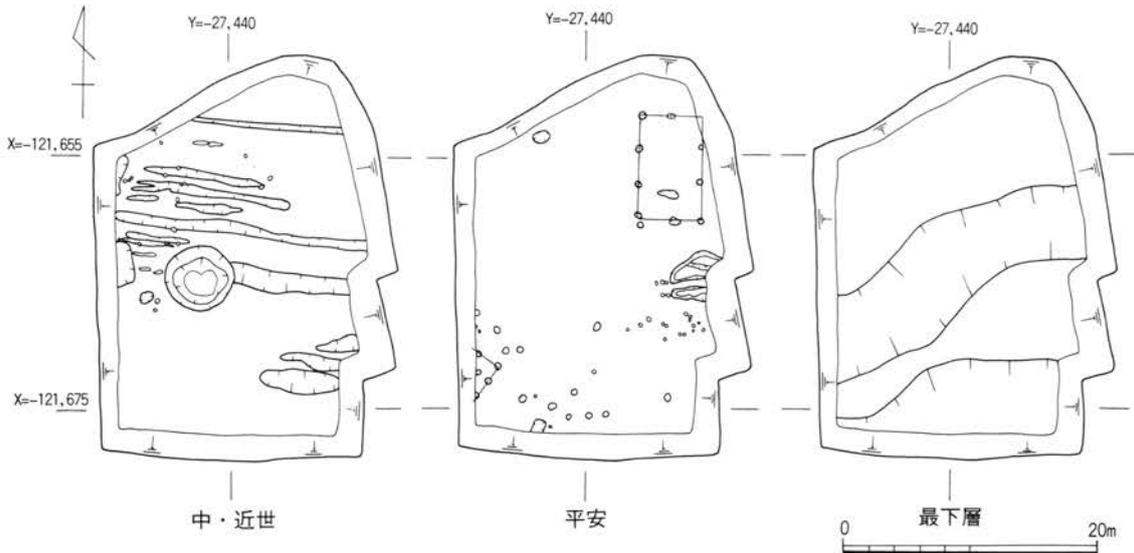
溝 S D 428108(図版第40) 「L」字形に検出した溝で、断面形はなだらかに立ち上がる「U」字形を呈する。南辺は二段に掘削されており、コーナー部分が最も深くなっている。検出面からの深さ約0.5mを測る。ここから北・西に向けて徐々に浅くなっている。内部からは図化し得ないが、古墳時代後期と判断される須恵器が出土している。

溝 S D 428109 S D 428108と重複して検出した溝で、S D 428108とよく似た埋土＝茶褐色土系



第20図 1993年度C-5 a トレンチ土層断面図

- | | | |
|-----------------------|------------------------|-------------------------|
| 1. 灰色砂質土(耕作土) | 2. 黄褐色砂質土(0.3~2cmの砂礫混) | 3. 茶褐色土(0.3~2cmの礫混) |
| 4. 淡灰色砂礫 | 5. 黄褐色砂質土 | 6. 黄褐色砂質土(5と比べて粒径が粗い) |
| 7. 茶褐色砂礫層 | 8. 暗茶褐色砂礫層 | 9. 黄褐色土 |
| 10. 茶褐色砂礫層(7より粒径が小さい) | 11. 茶褐色砂礫層 | 12. 暗茶褐色土 |
| 13. 黄褐色粘質土 | 14. 茶褐色粘質土 | 15. 茶褐色細砂 |
| 16. 茶色混淡灰色砂礫層 | 17. 茶灰色砂 | 18. 淡茶褐色土 |
| 19. 淡灰色砂礫 | 20. 暗茶褐色砂 | 21. 暗灰色砂礫(φ0.5~1cm) |
| 22. 淡黄灰色土 | 23. 暗灰色~暗茶褐色土(遺構埋土) | 24. 淡黄灰色砂礫(φ1~4cm・遺構埋土) |
| 25. 淡灰色砂混土(遺構埋土) | 26. 褐色砂礫(φ3~5cm) | 27. 黄茶色砂質土 |
| 28. 灰色砂礫(φ1cm) | 29. 暗灰色砂礫(φ1~3cm) | 30. 茶褐色土 |
| 31. 淡青灰色土 | 32. 青灰色粘質土 | 33. 茶褐色斑混黄褐色土 |
| 34. 淡黄灰色土混淡褐色土(遺構埋土) | 35. 黒茶色斑混暗茶褐色土 | 36. 茶褐色土(遺構埋土) |
| 37. 茶灰色~黄灰色砂 | 38. 灰色砂礫 | 39. 茶色混淡灰色砂礫(φ1cm) |
| 40. 黄灰色砂礫(φ1~3cm) | 41. 淡暗茶褐色土 | 42. 暗茶褐色砂質土 |
| 43. 灰茶色砂礫(φ1cm) | 44. 灰茶色砂 | 45. 茶褐色砂礫(φ1cm) |
| 46. 茶褐色砂礫(φ1~2cm) | | |



第21図 1993年度C-5 a トレンチ時期別平面図

の土である。断面にはほぼ平行して検出したため、その幅は確認できず、また底面も検出できているかどうかの確認はない。検出した深さは最大で約0.3mである。重複関係はS D428109→S D428108となっており、新→古となる。時期的にはS D428108とほぼ同じと考えている。

d. 縄文時代以前

土坑 S K 428111 直径0.45m、検出面からの深さ約0.25mの円形の土坑で、内部から縄文土器片が出土している。縄文土器片以外に、この土坑から出土した遺物は無いが、他の遺構から同種の土器の出土をみなかったため、この土器がこの土坑の年代を与えるかどうかは不明である。

自然流路 S R 428112 上述の遺構検出面には、調査地中央部から西南にかけて検出した古墳時代以前の自然流路と推定できる。S R 428112の断ち割りでは、70cm以上の砂礫の堆積を確認したが、底面は確認できなかった。遺物の出土はなかった。

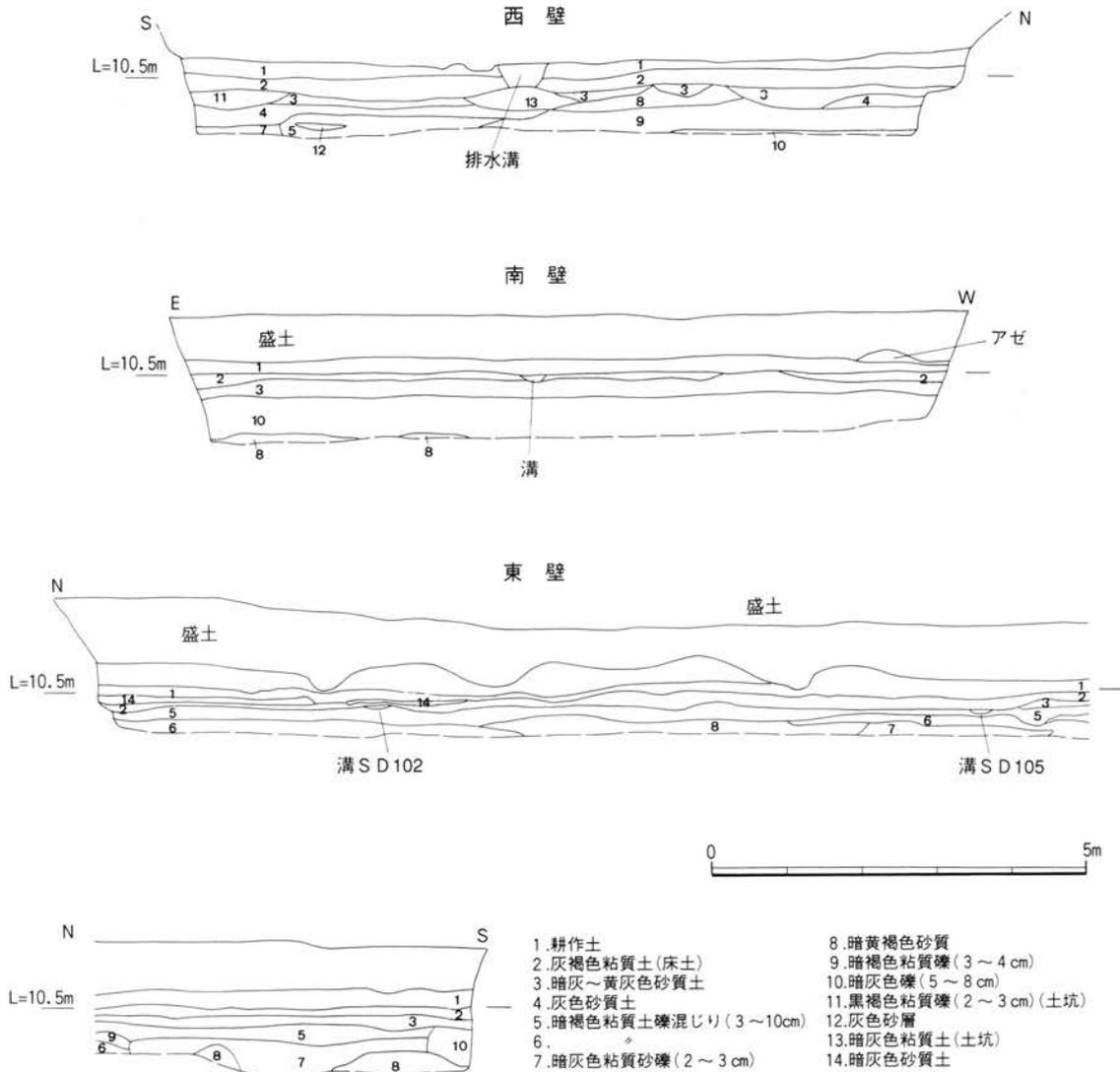
自然流路 S R 428113 調査区南端で北の肩部を検出した流路跡である。S R 428113の断ち割り内では、80cm以上の厚さで砂礫が堆積していたが、河床面は確認できなかった。遺物の出土はなかった。西側に隣接するC-3 トレンチでは砂礫層から石鏃が出土しており、縄文時代の流路の可能性が指摘できる。

12. 1993(平成5)年度C-5 b トレンチ(第22図、図版第35)

a. 中世

現耕作土・床土直下の上層遺構として、南北方向を主体とした素掘溝群を検出した。この約20cm下層より東西方向の素掘溝群を検出した。

溝 S D 428201~428206 幅約20~30cmの東西溝で、ところどころで途切れる。N 6° Eの傾きを持つ。これらの溝群は、C-5 b 地区北半で検出した溝群とほぼ同じ傾きを持っている。水路をはさんだC-3 地区で検出した中世溝群は、南北方向に掘られており、水田区画を別に行っていることがわかる。これらの溝から出土した遺物はほとんどないが、数点の瓦器片が出土した。



第22図 1993年度C-5bトレンチ土層断面図

13. 1994(平成6)年度C-6トレンチ(図版第35・41)

この地区は、従来の長岡京の復原案によると、右京九条二坊三・四町(新条坊京外)に当たる。また下植野南遺跡にあたり、これまでの発掘調査では、縄文時代から中・近世にいたる遺構・遺物を検出している。

a. 近世

久我畷西側溝 S D 44603 現道の下で検出した。幅約0.5mで、溝の内側には路肩保護のための杭と板材が溝方向に並行する。

b. 中世・平安

土坑 S K 46602 1.2m×1.0mの不定形土坑で、S D 46601埋没以後に掘削された。瓦器片・土師器片が出土している。

土坑 S K 46605(図版第41) 調査地の南東よりで検出した長辺2.3m・短辺1.3mを測る断面皿状の土坑である。攪乱により大半が失われているが、底に藁灰が入り、灰上層より土師器皿・羽釜が出土した。

土坑 S K 46606 平面形が東西2.2m・南北0.8mの長方形を呈し、深さ0.4mの土坑である。S D46607を切っている。

久我畷路面 S F 46604(図版第41) 溝 S D46601と溝 S D46607の並行する溝によって区画される路面。S D46601と溝 S D46607の内側の肩部で路面幅約6mを測る。

久我畷東側溝 S D 46601(図版第41) 幅約1.0m・深さ約0.05mで14m分を検出。西肩が削平を受けている。北東の延長部は、後世の削平により失われている。

久我畷西側溝 S D 46607 幅約1.0m・深さ0.3mの溝で、S D46603の西半部下層で検出した。

土坑 S K 46608 S D46607の約0.7m西で並行する。幅約1.0mを5m検出した。久我畷西側溝の一部かもしれない。S K46608を久我畷西側溝と考えた場合、この土坑とS D46601は、内側の肩部で約8mを測る。

c. 古墳時代

方形周溝墓 S X 36808 右京368次調査の続きを検出した。幅約0.3m・深さ0.3mの周溝である。南端で東に曲がる。溝内の埋土は久我畷下層に堆積する氾濫性の礫粘土と酷似しており、この堆積層上面からは、6世紀後半の須恵器杯を出土しているため、古墳の造営時期はそれ以前と考えられる。

竪穴式住居跡 S H 395803(図版第41) 右京395次調査で一部を検出している。東西約3.6m・南北約4.0mを測る。南西の隅で、上下2段のプランを持ち、2つの住居が重なっている。上層の住居は、東辺の北側に竈をもち、竈内のピットからは須恵器杯身・蓋が重なった状態で出土した。下層の住居では、埋土の中から布留式甕などが出土した。

第4節 D地区の調査

1. 1990(平成2)年度Dトレンチ

調査地は、大山崎町下植野飯田地内にあり、同所に所在する下植野南遺跡と長岡京跡右京九条一坊十四町・九条第二小路の想定地点にあたり、新条坊では京外になる。

この調査は、遺跡の広がりや重なり具合を調べるために設けた試掘調査で、約330㎡について実施した。現在の水田面から約2.5mまで掘削を行い、地層の確認をした。堆積層は、7層に分層でき、最下層で中世の瓦器碗の破片が出土した。この面における旧地形は、西で高く東半部は沼状堆積物と考えられる地層が広がっていた。

2. 1991(平成3)年度Dトレンチ(第23図、図版第42)

試掘調査に引き続き、試掘調査時よりも下層の遺構検出を行った。その結果、地表下約1.5mで厚く堆積する砂礫層からなる流路の肩部と風倒木痕と考えられる浅い土坑を2個を検出した。

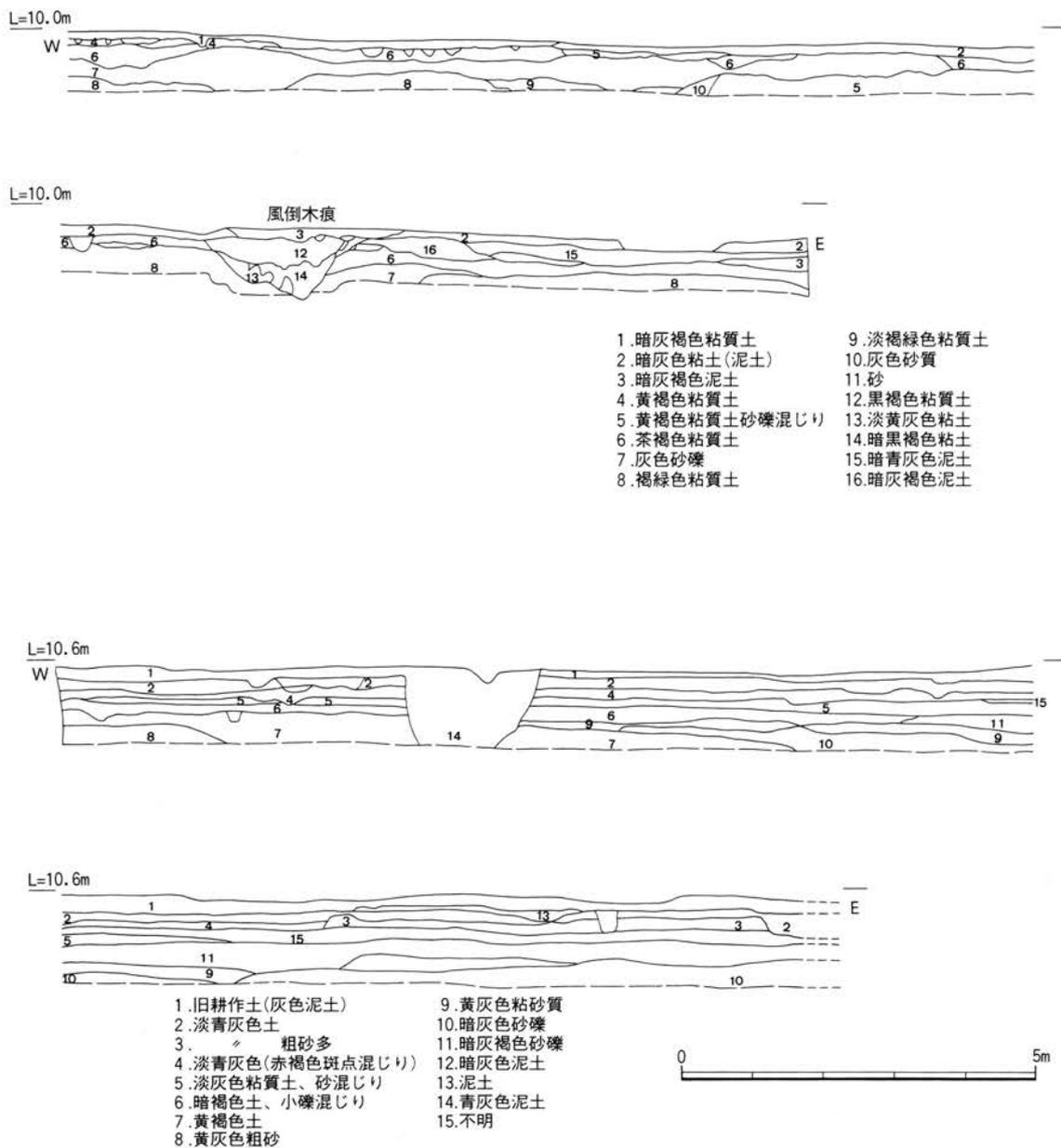
流路は北西から南東方向に流れ、河床は堆積物である砂礫によって削り込まれ起伏に富む。調査区の西側の流路は、埋土上層では泥混じりの砂礫が約0.2m堆積し、下層ではシルト、砂、礫の互層をなしラミナ状の堆積を見せ、厚さは0.3~0.7mを測る。両側の流路から、古墳時代の土

師器の破片が出土した。

土坑 S K 368401 不定形な楕円形で長軸約1.2m・短軸0.8m・深さ0.5mを測る。断面「V」字状で、埋土の一部は腐植した植物の根の痕跡と考えられる、暗褐色粘質土が充填された5～6個の小円形の窪みを確認した。風倒木痕の可能性が指摘できる。時期を示す遺物はないが、古墳時代流路埋土の砂礫の上面で確認できたことから、古墳時代以降のものである。

土坑 S K 368402 土坑 S K 368401と同様の特徴を持つ土坑で、検出面も一致する。

弥生時代から中世の遺物が出土したが、全体が流路の埋土状の堆積物で、明らかな遺構は検出することはできなかった。



第23図 1991・92年度D-1・2トレンチ土層断面図

3. 1992(平成4)年度D-2トレンチ(第23図、図版第42)

調査地は、北西方向から南西方向に流れた、洪水性堆積物の砂礫を基盤層とする谷状地形に立地している。調査の結果、中世～近世を通じて水田耕作がおこなわれていたと考えられる。風倒木痕と考えられる土坑が検出できた。下層の青灰色粘土からは、縄文土器片が出土している。最下層の砂礫層は調査区内では無遺物であった。

第5節 E地区の調査

1. 1990(平成2)年度E-1トレンチ(第24図、図版第42)

E-1トレンチは、大山崎町円明寺北枚方地内にあり、同所に所在する長岡京の右京九条一坊二町(新条坊右京九条一坊四町)の朱雀大路西側溝の想定される地点にあたる。約200㎡について発掘調査を実施した。当地の現状は、小畑川と国道171号線が合流する南で、7m以上の盛土が確認できた。調査は上面の盛土を掘り下げてシートパイルを打ち込み、土留めの安全対策を行った上で実施した。

調査の結果、旧水田面から約3m(海拔約7.5m)までは、河川の氾濫による砂礫の堆積が多く、最下層で中世の瓦器碗の破片が出土した。

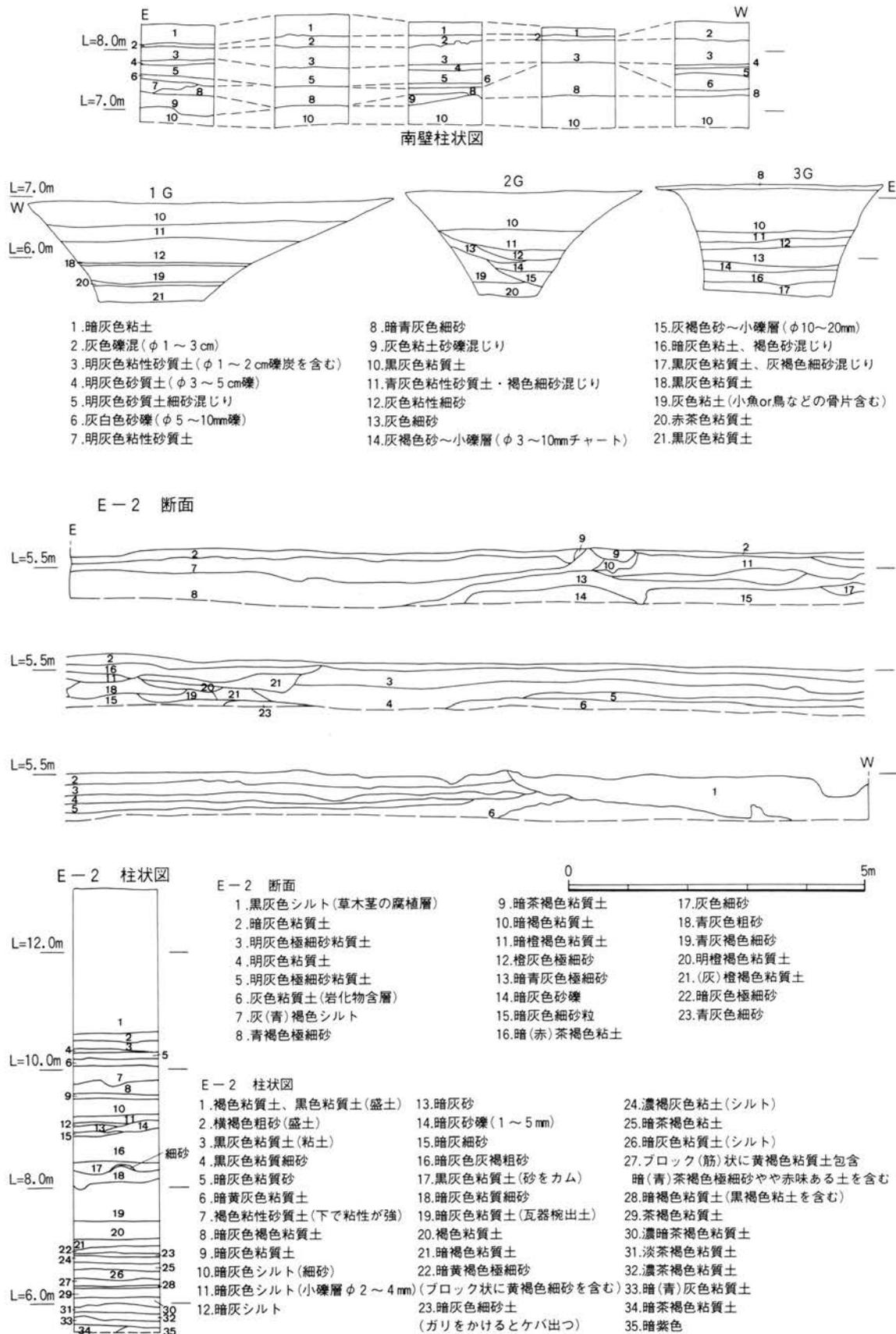
溝S D 35714 中央部の断ち割りによって海拔約7.0mの高さで、北東から南西に向かって流れる溝を確認した。溝は砂礫とシルト質の粘土で埋まっており、溝の下層からは、板状に加工した木製品や、箸状の製品の一部が出土した。埋土の最下層(海拔約6.5m)の黒色粘土層からは、土師器と思われる破片が出土した。

2. 1991(平成3)年度E-2トレンチ(第24図、図版第42)

長岡京跡の朱雀大路の路面や両側溝が検出できる位置にあたる。地表下約8m(標高5.5m)まで調査を行ったが、朱雀大路に関する明確な遺構は確認できなかった。

沼状遺構S D 36858 調査区の西隅にある古墳時代と考えられる沼状の落ち込み。

溝S D 36859 調査区の中央で検出した幅0.5m・深さ5cmの素堀溝である。朱雀大路東側溝の推定ライン付近で検出しているが、出土遺物はなく時期や性格は不明である。



第24図 1990年度 E-1・1991年度 E-2 トレンチ土層断面図

第 4 章 出土遺物

第 1 節 土器(図版第43～98)

1. A地区出土遺物

(1)1990年度A地区

S K 36712(図版第43) 14の杯身が出土している。

S K 36713(図版第43) 1～13が出土している。出土遺物には年代幅が見られ1～3と4・5の2群に分かれる。13の甑は底部の穿孔部と把手部を除き大半が残存している。10の把手部とは別個体である。

包含層 包含層からは古墳時代を中心とする遺物が出土している。17は古墳時代遺物としてはもっと新しい。S K 36813の古い一群の須恵器と同じ時期の遺物として、18・19・24・25・28～30が上げられる。19は小型の椀で底部は手持ちヘラケズリによって仕上げられている。把手部は欠損しており、形状は不明である。25は無蓋の高杯で、器表面に見られる波状文はていねいでシャープである。28～30は5世紀と考えられる高杯の脚部である。34は東海系の脚付き甕の脚部である。胎土は在地のものと区別できない。東海系の古墳時代の甕は百々遺跡(石尾1997)、算用田遺跡(中川1993)で出土している(図版第43)。

(2)1992年度A地区

a. 中・近世

耕作に伴う溝群の埋土からは、13世紀を前後する瓦器椀・白磁片が出土している。

b. 奈良・平安時代

包含層中から、土師器須恵器の細片が出土している。また、布目を持つ、平瓦細片が出土している。

c. 古墳時代Ⅰ期

S H 395336(図版第44-37～44) 竈を中心に遺物が出土した。杯身から6世紀前半の年代が与えられる。竈内からは44の土師器の甕が出土している。口縁は緩やかな受け口状を呈する。竈以外の部分から出土した遺物は、いずれも床面から出土している。

S H 395338(図版第44-45～48) 45・46は土師器の椀で調整等は不明である。47は長脚1段透かしの高杯である。48は竈内から出土した長胴の土師器甕である。

S R 395333(図版第44-49～60) 50・58はS R 395333の押し流した土砂が畦状遺構の溝部を埋めたその埋土から出土した土器である。53は内面に同心円状の当て具の痕跡がある。54は杯身天井部外面に回転ヘラケズリの後、ヘラによって直線の線刻が認められる。57は後述のS X 395335・S X 395477から出土している。脚台状の形態で図面の上端は接合痕が認められる。また、

器表面にも接合痕が2か所あり、上下対になるが若干主軸方向とずれる。

S X 395335(図版45～47・61～119) 礫のまわりを中心に6世紀前半の完形の杯身・蓋が多数出土している。土師器の多くは甕で、小型の甕(68～71)、大型の甕(73～78)が主体を占める。67は甕の把手で上面には深い刺突が認められる。刺突は把手の軸に直行する方向に浅く施され、それに直行するように刺突される。

須恵器は杯が主体で、内面に同心円状のタタキが認められるもの(87・95～97・100～103)も多い。また、表面に線刻の施されるもの(98・99・111～113)もある。線刻はいずれも直線の組み合わせで施され、直線が1本のもの、複数を並列するもの、クロスさせその上下に直線を組み合わせるものがある。114は樽形甕の体部端である。外面は自然釉が覆い、ハケメを交差させ文様が施される。115は完形で出土した甕で、非常に薄く作られる。118は大型の杯身で底部は回転ヘラケズリで仕上げられる。117・119はほぼ完形で出土し、器表面にはカキ目が施される。

古墳時代第II遺構面

S H 395401(図版第48・120～126) 遺物は竈とその南側から多く出土した。120は支柱穴掘形から出土したミニチュアの土師器である。124は竈内から出土した。

S H 395405(図版第49) 遺構の残存状態が悪く遺物は少ないが、143～145が出土している。

S H 395407(図版第48) 住居跡内からは127～142の土器が出土している。131～133・141は竈の北側にある土坑内から出土している。131はタタキ目を持つ製塩土器で、細かい粒子の胎土を示す。132もまた製塩土器であるが、内外面の調整は不明である。141は口縁を水平に上を向けた状態で出土し、底部は破損していた。口縁部は住居跡床面の高さとはほぼ同じであった。139は支柱穴の内北東側の柱掘形内から出土した。内容物等は認められなかった。142の底部は胎土が141と酷似している。

S H 395433(図版第49) 146の古墳時代後期の須恵器の杯身と147の土師器の甕が出土している。147は外面がハケ、内面はケズリが施されている。

S K 395403(図版第49) 148・149の須恵器の杯身・杯蓋が完形で出土している。

S K 395404(図版第49) 出土遺物はT K 208型式の杯身をはじめ比較的古い須恵器が含まれる。150・155・163は口縁部外面に断面三角形の突帯があり、初期須恵器の要素を持つ。158は樽形甕で口縁部は未発見である。この個体の碎片はS X 395335でも発見されている。157は土師質の土器の体部で、格子目状のタタキを器表面に持つ。韓式土器と考えられる。格子目タタキを持つ軟質の韓式土器片などの珍しい器種が含まれている。東隣りに近接する1991年度調査のA地区からは、革袋形の須恵器が出土している。また、南に約300mの算用田遺跡からは鳥形甕が出土しており、この地域は、5世紀段階の特殊な須恵器が出土する地域として注目できる。

S K 395411(図版第50) 古墳時代後期前葉の土器がまとまって出土している。164・165・166・167・168・169・170・174・175・177は上層にあるS X 395335の土器との接合関係が見られる。164は須恵器の壺であるが外面には自然釉がかかる。

S K 395449(図版第49) 159の古墳時代の須恵器の杯蓋が出土している。

S D 395444(図版第49) 古墳時代第Ⅱ遺構面においては最も古い遺構で、160～162は弥生時代末から古墳時代初頭の土器と考えられる。

d. 弥生時代遺構面

S D 395501(図版第53) 弥生時代畿内第Ⅱ様式の土器が出土している。この溝は北端の土壌状に深い部分と浅い部分とで成り立っているが、深い部分から多くの土器は出土した。220は水差し形土器である。外面には水平に櫛描文が施される。出土遺物の主体は甕で、内外面ともに強いハケが見られる。口縁内面は強い横ハケが特徴的である。

S D 395503(図版第53) 弥生時代畿内第Ⅱ様式の土器が出土している。土器は流路の肩部を中心に出土している。

S K 395502 サヌカイト製サイドスクレイパー 1点と、櫛によって波状文の施された弥生土器体部片242・243が出土している。

e. 包含層(図版第51・52・54)

弥生時代畿内第Ⅱ様式の土器を主体に出土している。245は広口壺の口縁で内面に円形の突起を持つ。251・252は近江系甕の口縁部である。

包含層からは古墳時代後期の遺物が多く出土している。180・181は土師質で格子目タタキを器表面に持つ。韓式土器と考えられる。186は土師器の把手部である。上面には表面が直線上を呈する切り込みが入れられている。208は須恵器の椀である。209は甕で断面が赤褐色を呈しいわゆる陶邑産の特徴を持つ。214もまた赤褐色の破断面を示す須恵器甕の口縁部である。体部内外面はナデによって仕上げられ初期須恵器の特徴を持つ。215は須恵質の甕で、把手部には切れ込みを持つ。外面はタタキが施され、内面はケズリ調整である。破片はS X 395335・S H 395336からも発見されている。219は須恵器の甕であるが、焼きが土師質である。体部片は多く発見されているが図化不可能であった。S X 395456からも出土している。

2. B地区出土遺物

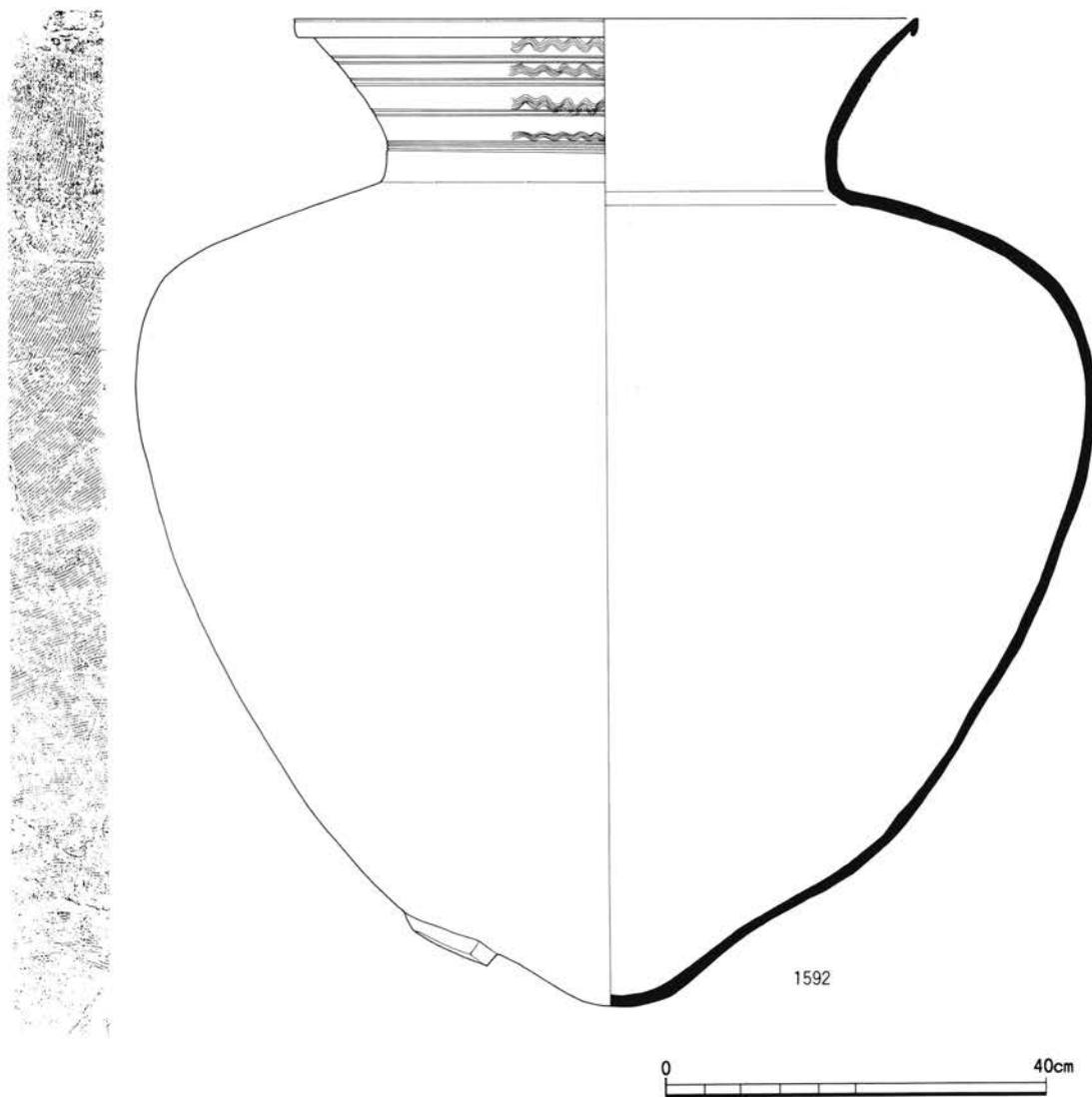
(1)1990年度B地区

S X 357101(第25図) 須恵器甕(1592)は、口径66cm・器高106cmを測り、最大腹径が102cmの大形品である。内面はナデによって当て具の痕跡が認められない。外面にはタタキが残り、肩部には自然釉がかかる。内外面ともに焼成前に布または大型のハケによって、何らかが全面にわたって塗布されている。肉眼でその塗布時の単位が観察可能である。猿投産と考えられる。奈良・平安時代の甕である。

S X 357102(図版第56) 古墳時代の須恵器坏蓋(331)・坏身(334・336)や、これと近接して土師器椀(321)が出土した。

自然流路 S R 35706(図版第55) 奈良時代の須恵器杯身(274)・壺(278)、279の古墳時代の須恵器の革袋形土器、須恵器甕(280)・壺口縁(276)や、弥生土器(277)も含まれている。

自然流路 S R 35707-a(図版第55) 包含層遺物と同様に、7世紀から10世紀にかけての遺物



第25図 1990年度B地区S X357101出土甕実測図

が出土している。実測が可能なものとして須恵器坏B蓋(287・288)や土師器皿(281)などがある。

自然流路S R35707-b～S R35707-c(図版第55) 出土した土器には、古墳時代の土器が多く、須恵器杯蓋・杯身・壺・高杯や、土師器椀・高杯・有孔鉢(297)に加えて弥生土器底部(298・299)が出土している。

包含層(図版第56) 奈良・平安時代の須恵器杯蓋・杯身・壺、緑釉椀、灰釉陶器、布目瓦、璧玉製銚帯(丸柄)、古墳時代の須恵器杯蓋・杯身・壺・甕や滑石製の勾玉などの遺物も出土している。古墳時代の出土遺物の傾向はA地区と同じく、6世紀前半の須恵器を主体とするが、5世紀のものも混ざる。

(2)1991年度B地区

a. 平安・中・近世

井戸跡S E 36830 下駄等の木製品が出土している。

土坑S K 36841(図版第57・58) 土師器・瓦器椀・皿、脚付瓦質鍋・羽釜が多量に出土した。

13世紀初頭の年代が与えられる。394は瓦質で、外面にはタタキが認められる。壺と考えられる。

井戸跡 S E 36823(図版第59) 土師器杯片や「て」字状口縁の皿(415)などが出土している。

井戸跡 S E 36834(図版第59) 「て」字状口縁の皿(416・417)、418の軒平瓦が出土している。
平城6695-A型式と考えられる。

井戸跡 S E 36845(図版第59) 布目を持つ丸瓦片(419)が出土している。

土坑 S K 36824(図版第60) 444・449～453・458・461が出土している。461は灰釉陶器の壺の口縁である。458・444は S K 36825と接合関係が認められる。下層の S K 36825の遺物が多く混入しているものと想定される。

凹地状遺構 S K 36825(図版第59・60) 出土遺物には緑釉陶器・土師器・須恵器・瓦・土馬の他、423の庄内期の加飾壺口縁がある。出土遺物のほとんどが平安時代と考えられる遺物である。瓦は422の軒平瓦が出土している。平城6695-A型式と考えられる。

土坑 S K 36840 掘形内からは、平安時代の遺物が出土する。

溝 S D 38626 須恵質の鉢片(514)、唐津焼の椀の底部(511)が出土している。

溝 S D 38627(図版第62) 516は美濃の16世紀代の皿である。517は玉縁の白磁椀である。

溝 S D 36832(図版第62) 平安時代の須恵器・土師器片が出土した。

溝 S D 36833 遺構内からは、平安時代の土器片が出土した。

旧河道 S R 35706(図版第61) 遺構内からは、467の緑釉陶器の耳皿を上限とする遺物が出土している。最も古い遺物は、弥生時代中期前葉と考えられる。

旧河道 S R 35707(図版第61) 古墳時代の土器が多く出土しているが、遺構の上限年代は481から平安時代より古くならない。

b. 古墳時代

掘立柱建物跡 S B 36831(図版第63) 柱穴内から521が出土、他の土器は周辺出土遺物である。

竪穴式住居跡 S H 36835(図版第63) 須恵器の甕口縁(538)は形態から古墳時代後期に属す。539・540は土師器の甕で、長胴化した体部を持つものと考えられる。

竪穴式住居跡 S H 36843(図版第63) 543は長脚二段透かしの須恵器の高杯の脚部である。544は竈内から出土した。

焼土坑 S K 36839(図版第63) 古墳時代後期の須恵器杯蓋(542)が出土している。

土器溜り S X 36820(図版第64) 遺物は6世紀前半に属す。須恵器の杯身・杯蓋・壺・高杯・鉢・甕などがあり、土師器には、高杯・鉢・把手付椀・甕などがある。545・546は赤橙色を呈し、他の土師器の甕などとは色調が異なり、胎土は緻密である。

土器溜り S X 36821(図版第64) 558・559は赤橙色を呈し、他の土師器の甕などとは色調が異なり、胎土は緻密である。

土器溜り S X 36822(図版第65・66) 須恵器に杯身・杯蓋・壺・高杯・鉢・甕などがあり、土師器は高杯・鉢・短頸壺・小型丸底壺・甕などがある。576・577は土師器の鉢で、口縁部の作りは586・587の甕の口縁部と似る。588は須恵器の椀で、口縁部は楕円形に歪む。

土器溜り S X 36842(図版第66) 604・608などの完形の土師器が出土しており、土師器の比率が高い。

土器溜り S X 36844(図版第67) 土師器高杯を主体とした土器で構成されており、共伴する須恵器(628・629)は5世紀の土器の特徴を持つ。

土器溜り S X 36846(図版第67) 632は近江系の甕の口縁である。631の須恵器もまた同一の土器溜りから出土するが、広い時期幅を持つ。

c. 古墳時代下層

溝 S D 36848(図版第68) 庄内期の土師器が出土している。648の加飾の二重口縁壺がある。

溝 S D 36849(図版第68) 古墳時代後期に属する須恵器杯蓋(653)・土師器甕(652)がある。

d. 包含層(図版第69～72) 657は伏見人形である。頭巾を被った人物を型作りによって表裏を作り、張り合わせることによって中空の人形が作られる。袖の部分には緑色の釉薬が残る。658・659は白磁椀である。678は青磁椀、682は緑釉の椀、690は緑釉の素地である。690の内面には焼成前の線刻が二条残る。平安時代の土器は S K 36825の精査中または同地区から出土したものが大半を占める。

(3)1992年度 B 地区

a. 近世

井戸 S E 368101(図版第73) 近世陶磁器が出土している。755は蒟蒻版の染付けである。756・758は磁器である。757は瀬戸焼である。760・761は井戸より古い遺物が混入したと考えられる。

井戸 S E 368102(図版第73) 764は猿投産と考えられる灰釉陶器の水瓶の口縁部である。全体に磨減が著しく、S E 368101の切り合い関係から混入遺物と考えられる。

井戸 S E 368106(図版第73) 763は須恵器の壺の底部で、高台部内には線刻が1条ある。

b. 平安時代

掘立柱建物跡 S B 368107(図版第73) 柱穴 P 188から773・774の土師皿が出土している。

墓壇状土坑 S X 368116(図版第73) 776～778の土師器椀が出土している。長岡京期から平安時代前期のものと考えられる。

溝 S D 368115(図版第73) 古墳時代の土器(769～770・774)が多く混ざるが、765・766・767の土師皿が年代の上限を示している。

土坑 S K 368175(図版第73) 787は須恵器の鉢で上下は同一個体と考えられる。遺構と同一地域の包含層から出土した破片と多くの接合関係が認められる。

土坑 S K 368234(図版第73) 784は緑釉の素地である。

土坑 S K 368263(図版第73) 785は口縁部外面が肥厚する須恵器甕で、786は須恵器長頸壺である。

土坑 S K 368316(図版第73) 775～783の土器は、長岡京期から平安時代前期と考えられる。

土坑 S K 368359(図版第73) 790は土師質の胎土を持つ移動式竈の焚き口部下端と考えられる破片である。ヒレ状に突き出た部分が竈下端部より突起状に出る。788は須恵器の蓋である。遺

構の年代を示すものと考えられる。

土坑 S K 368114(図版第74) 791～834の土器が出土している。長岡京期から平安時代前期のものと考えられる。

井戸 S E 368106(図版第75～77) 平安時代の土器が出土している。839は黒色土器である。内面は黒色を呈し、ミガキが認められる。外面は土師質の色を呈し、底部外面には墨書によって「上」の字が書かれる。847・848・851・852は東海産の灰釉陶器である。837・838・842・846・849・850・853・854は緑釉で838・842・846は軟質の緑釉で、846は近江産である。840・841は緑釉の素地で、焼成は須恵器と同じである。856は須恵器の横瓶である。857は須恵器甕の口縁部である。頸部の内外面には同心円状の当て具の痕跡が認められる。853は須恵器壺で、底部外面は未調整である。底部は非常に厚く重量は重い。肩部にはヘラケズリによる調整が認められる。

奈良時代の瓦が出土しており、平瓦には法量のわかるものも存在している。860は軒平瓦で瓦頭面右上部には范の破損によるキズが認められる。平城6760型式に酷似するが范面の遺存状態が良くなく、断定できない。861は瓦頭面がほぼ完形の軒丸瓦である。型式は平城6133-D型式である。862～864は平瓦で上面は糸切り痕や布目がよく残る。第26図は、井戸枠の実測図で、四隅が柄、上下がダボで組み立てられていたが、構造とは無関係な加工部位が見られることから、転用材と考えられる。

c. 古墳時代

S H 368117(図版第79) 須恵器の有蓋高杯の蓋・杯身・杯蓋・甕口縁、土師器の甕が出土している。909は貯蔵穴と考えられる土坑から出土した。910は支柱穴と考えられる柱穴から出土した。遺物は概ね古墳時代後期前葉に属するが、911・912は古い時期の遺物と考えられる。911は土坑 S K 36859の遺物と接合関係が認められる。

S H 368118(図版第78) 住居跡内からは土師器・須恵器が出土している。865・866はミニチュア土器で、手づくねで作られている。須恵器の杯から古墳時代後期の年代観が与えられるが、878・891～893等古い様相を示す須恵器も出土している。898は中村編年のI期に属すると考えられる須恵器の無蓋高杯であるが、脚部などの大半は包含層出土である。また、892は893と同一個体の可能性が指摘できる。874は竈内出土の土師器の甕である。880は竈の左横にある貯蔵穴と考えられる土坑から出土している。

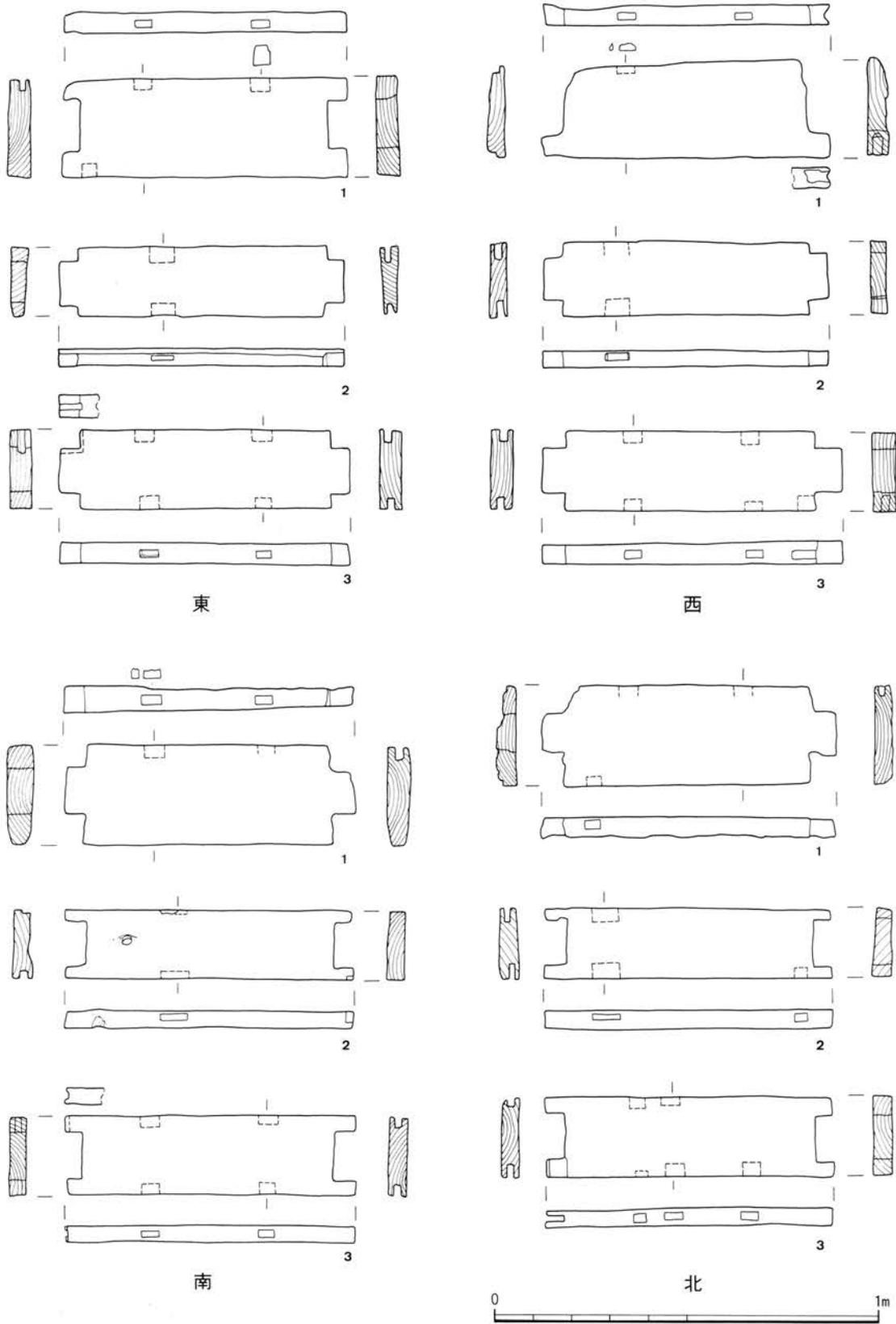
S H 368119(図版第78) 出土土器890から中村編年のI期に属すると考えられる。894は土師器の高杯の杯部で、脚部は、杯部に差し込むように接合されていたことが、剝離面からわかる。

S H 368121(図版第79) 896は長胴の土師器甕で、竈内から出土した。902も竈から出土した。甕の口縁部は他の遺物に比べ古い土器の特徴を持つ。904は貯蔵穴内より出土した。

S H 368120(図版第79) 905・906は土師器の高杯の杯部と考えられる。907はT K 47型式の杯身と考えられる。

S H 368123(図版第79) 914の土師器の高杯脚部と小型の甕の口縁が出土している。

S B 368130(図版第79) 917は掘立柱建物跡の南西隅の柱穴(P 68)内から出土した。古墳時代



第26図 1992年度B地区 S E 368106出土井戸枳実測図

後期の須恵器の杯蓋である。

S K 368131 (図版第80) 929は古墳時代の須恵器の甕である。

S K 368171 (図版第79) 918は古墳時代後期の須恵器の杯身である。

S K 368172 (図版第80) 925は壺の口縁部で、波状文が2段認められる。

S K 368140 (図版第80) 919は須恵器の甕で、波状文が認められる。

S K 368223 (図版第80) 920は古墳時代後期の須恵器の杯身である。

S K 368229 (図版第80) 921・924の須恵器の甕が出土している。

S K 368233 (図版第80) 922は須恵器の透かしを持つ高坏の脚部である。外面にはカキ目が認められる。926は須恵器の甕の口縁部で、波状文が認められる。

S K 368257 (図版第80) 927は須恵器の甕の口縁部で、無文である。

S K 368258 (図版第80) 923は土師器の甕で、外面はナデ、口縁内部はハケ後ナデの調整で、体部内面はケズリが施される。928は鋭く外反する口縁を持つ土師器の甕である。

d. 包含層

930はコースター状の土師皿である。933は内面に段を持つ硬質の緑釉の皿である。934は平城6695-A型式に酷似するが、珠文の位置が異なる。平城6695-A型式は1991年度にも出土している(418・422)。949は須恵器の円面硯で、内面には同心円状の当て具の痕跡が残る。950は軟質の緑釉で屈曲部と考えられる。内外面に施釉される。951は壺Gである。952は土師器の甑の把手である。上面には把手の主軸方向に直線状の切れ込みが認められる。955・956は飛鳥時代の須恵器であるが、この時代の遺構は発見されていない(図版第81・82)。

3. C地区出土遺物

(1) C-1 トレンチ

小面積のトレンチのため、複数年度の調査をまとめて報告したい。

a. 中・近世

井戸 S E 36843 (図版第83) 近世の井戸であるが、須恵器が出土している。971は、頸部外面にはヘラ書きが認められる。混入品と考えられる。

b. 奈良・平安時代

土坑 S K 35708 (図版第83) 966の土師皿、967の須恵器の底部が出土している。S D 35709と接合関係が認められる。

溝 S D 35709 (図版第83) 968は S K 35708 出土の破片と接合関係のある黒色土器の椀である。

溝 S D 35710 (図版第83) 970は緑釉陶器の耳皿である。底部は糸切り調整で、硬質である。

溝 S D 368242 (図版第83) 969は須恵器の杯Bの底部片である。奈良～平安時代である。

c. 古墳時代

竪穴式住居跡 S H 35705 (図版第83) 972は有蓋高杯の蓋である。杯身(973・974)から T K 209 型式と考えられる。

豎穴式住居跡 S H 368202(図版第83) 976は土師器の高杯で、杯部内面には縦方向に暗文が放射状に見られる。982は庄内式土器で、胎土が在地のものとは異なる。遺物の多くは、布留式土器の範疇で捉えられる。

豎穴式住居跡 S H 368203(図版第83・84) 土師器の甕・壺・高杯、須恵器の甗・高杯・杯身・杯蓋・甕が出土している。須恵器は T K 208 型式併行期のものと考えられる。

豎穴式住居跡 S H 368204(図版第84) 土器の出土量はわずかであるが、1016の杯身から6世紀代の年代が与えられる。

d. 弥生時代

土壙 S K 368226(図版第84) 1018は生駒山西麓産の胎土を持つ水差し型土器である。口縁部近くには列点文が三条、その下に簾状文が5条、続いて列点文が1条施されている。器表面の状況が悪く、詳細な調整は不明である。

土壙 S K 368247(図版第84・85) 1019は在地の胎土を持つ壺で、器表面の残存状況が悪いため、調整・施文が判然としないが、部分的な痕跡からは櫛描の波状文と直線文が頸部から胴部にかけて施されていることがわかる。1020もまた調整が不明であるが、口縁内面と口縁の端面に波状文が施される。頸部から胴部にかけては櫛描直線文が7条施される。1021・1022は同一個体と考えられる水差し形土器である。器表面の残りが悪く、調整・施文は不明である。

土壙 S K 368248(図版第85) 1023は土器棺に用いたと考えられる広口壺である。口縁端面にのみ凹線文が施される。土器下半部のケズリは認められるが、他の部位の調整は不明である。

e. 包含層

中世・近世の唐津焼、青磁椀、白磁椀、須恵質のこね鉢、平安時代の灰釉陶器・緑釉陶器・瓦等が出土している(図版第85)。

(2) C-2 トレンチ

S H 395690(図版第86) 甕の口縁部が出土している(1039・1040)。1040は口縁内面が肥厚する布留式土器であるが、最も新しい時期に帰属すると考えられる。遺物が少なく、他に図化できる遺物はなかった。

S H 395632(図版第86) 土師器の壺(1041)と高杯(1042)が出土している。

S H 395677(図版第86・87) 大半が布留式土器の範疇に入る土器群である。出土器種には小型丸底壺・器台・鉢・高杯・甕・壺等がある。1073は東部瀬戸内産と考えられる。1081～1086は弥生系土器・庄内式土器と考えられる平底の底部を抽出して図化した。1082は底部に穿孔が施されていることから甗と考えられる。

S H 395684(図版第88) 庄内式土器併行期の遺物が出土している。1088は小形の蓋と考えられる。1091は口縁部外面に擬凹線文が施されている。1095は外面にタタキ調整が認められる。

S H 395685(図版第88・89) 土師器の杯・高杯・甕・甗、須恵器の杯身・杯蓋・高杯・短頸壺・鉢・甕・器台である。須恵器の形態から T K 10 型式併行期と考えられる。1109は器台脚の破片で、三角形の透かしが穿たれていたと考えられる。1112は頂部外面は板ナデで調整される。

S H 395686(図版第89) 須恵器の高杯の蓋・杯身、土師器の甕が出土している。須恵器の型式からMT15型式併行期と考えられる。

S D 395691(図版第89) 出土須恵器は杯身・杯蓋・長頸壺がある。1125は小口径で器高が低い。7世紀の土器と考えられる。

S K 395623(図版第91) 2点の須恵器の杯身のみが出土している。須恵器の型式からMT15型式併行期と考えられる。

S K 395680(図版第91) 土師器の形態から布留式土器後半期の土器群と考えられる。1178は、暗褐色の胎土を持つ西部瀬戸内系の壺である。

S K 395683(図版第92) 古墳時代後期と考えられる土器群であるが、須恵器に図化できる破片がないため詳細な時期は不明である。

S R 395600(図版第89・90) T K 10型式の須恵器の時期を上限とする遺物が出土している。下限は概ね古墳時代の初頭である。1140はフィゴの羽口である。端部は高温で加熱されている。共伴遺物からT K 10型式以前のものとして想定できる。

S R 395601(図版第90) 弥生時代を下限とし1172の長脚2段透かしを持つ有蓋高杯が上限となる。1168・1170は比較的古い須恵器に属すと考えられる。1170は台付きの鉢である。1169と同じT K 208型式併行期として位置づけたい。

包含層 1189は須恵器の鉢で底部はケズリ調整が施される(図版第92)。

(3) C-3 トレンチ

a. 中世

S K 368301(図版第92) 中世の土師皿(1194~1196)が出土している。底部には指頭圧痕が残る。また、丸瓦片1370が出土している。

S K 368312(図版第92) 1191の瓦質の羽釜が出土している。内面にはハケが認められる。

P 15(図版第92) 1197は小型の土師皿である。底部には指頭圧痕が残る。

P 25(図版第92) 1210の青磁碗片と1215の軒平瓦、1366の丸瓦が出土している。1215は15世紀のものと考えられる。1366をはじめC地区で多く発見できる瓦の年代を示す根拠となる。

P 31(図版第92) 1208の手づくねの土師皿が出土している。

P 37(図版第92) 1199は小型の土師皿である。底部には指頭圧痕が残る。

b. 古墳時代

S X 368308(図版第92) 1217は、生駒山西麓産の庄内式土器である。外面にはタタキ、内面は頸部屈曲部までケズリがていねいに施されている。

S H 368304(図版第92) 1218の杯蓋、竈内からは1222の土師器甕などが出土している。

c. 包含層

1201~1207は、上記の小ピットから出土した土師器皿と同形態のものである。他に1213の天目茶碗や1214の青磁碗がある(図版第92)。

(4) C-4 a トレンチ

S R 395702(図版第93・94・101) 埋土中からは、1223～1249・1405・1419・1426・1430・1441・1442・1444の土器が出土している。土器は縄文時代中期の土器(1405)がもっとも古い時期の土器であり、1245の須恵器杯身が流路の埋没時期を示している。1223は土師質の韓式土器の甕である。外面は格子目タタキを持ち、内面はケズリが施される。胎土には雲母を多く含み、外面には黒斑が認められる。1235の土師器の甕は底部を一部欠くが、完形の状態で出土した。

S R 395703(図版第94・95・101) 1250～1271・1405・1421・1436・1437・1443の土器が出土している。縄文土器片が含まれるが、S R 395702に比べ古墳時代前期の土器の含有量が多い。しかし、1267・1271の須恵器はS R 395702出土片と接合関係が認められた。

S R 395720(図版第95) 1278の布留式土器の甕が出土している。

包含層 1269・1273は流路内では発見されない時期の遺物であるが、包含層中から出土している。1279は弥生時代中期の大形の甕の口縁部である(図版第95)。

(5) C-4 b トレンチ

S K 395801(図版第95) 土師器の皿(1280～1283・1285～1287)・瓦質の釜の底部(1288)・平瓦(1372)が出土している。中世後半段階のものと考えられる。

P 112 1293の瓦質土器が出土している。口縁部外面には2条の沈線が巡る。

S H 395803(図版第95) 古墳時代初頭の土器群である。1292は土師器の平底の椀で粘土紐の接合痕が内面に残る。外面はナデ調整によって接合痕が消されている。1294は口縁の屈曲部外面に刻みのある土師器の甕である。

S K 395804(図版第98) 1379の平瓦片が出土している。

S K 395805(図版第95) 1284の土師皿が出土している。

S K 39594(図版第98) 1377・1378の中世の平瓦片が出土している

(6) C-4 c トレンチ

P 9(図版第95) 1296・1297の中世の土師皿が出土している。

P 36(図版第95) 1295は青磁椀の底部で、内面には花文が施されている。

P 65(図版第95) 1303は、弥生時代中期の壺の口縁部である

P 80(図版第95) 1298の土師皿が出土している。

S K 42803(図版第95) 1299はS K 42805出土破片と接合した土師器の高杯である。古墳時代のものが混入したと考えられる。1300は瓦質の羽釜である。

S K 42804(図版第95) 1301は古墳時代の土師器椀で、内外面はナデ調整である。

S K 42813(図版第95) 1302は弥生時代中期前葉の長頸壺の頸部である。外面には2条の櫛描直線文が施される。

(7) C-5 a トレンチ

S D 428103(図版第96) 1304は玉縁の口縁を持つ白磁椀である。1307は13世紀前後の楠葉型の瓦器椀である。1309(須恵器杯)は混入品と考えられる。

S K 428104(図版第96) 10世紀後半の遺物が出土している。1319の土師質の羽釜は在地形の土師器に比べ褐色が強く、胎土も粗い。1321～1323は口縁部が屈曲する土師皿で、器壁は薄い。1320は須恵器の鉢で、口縁部が内外面に肥厚する。

S D 428109(図版第96) 1326は須恵器の器台の破片である。外面には列点文が施される。1327は弥生土器の甕で、中期前葉の年代が与えられる。1328は古墳時代後期の土師器の小形の甕である。

S K 428116(図版第96) 1306の手づくねの土師皿が出土している。

S B 428106(図版第96) 柱穴内からは比較的多くの遺物が出土しており、9世紀後半から10世紀の遺物と考えられる。P 2からは1313の須恵器の鉢が出土している。底部は糸切りによって切り離される。P 4は1312の須恵器の直口甕が出土している。P 5からは1314～1318・1325の遺物が出土している。1314・1315は土師皿で口縁部が外反し、口縁端部がつまみ上げられる。1316は緑釉の素地で、無釉のまま使われたものである。1317は黒色土器A類の椀であるが、色調を除く調整等は不明である。1325は土師器の高杯の杯部である。P 7からは1305・1310・1311の土器が出土している。1305は口縁部が大きく外反する薄手の土師皿である。1310は焼きが弱い須恵器の壺で、底部は糸切りである。1311は土師器の高杯で、脚部は10枚の面を持つ多角形である。P 7の出土土器は完形率が高く、埋納されたものと想定できる。

(8) C-5b トレンチ

S X 428211(図版第97) 1332の古墳時代の須恵器の杯蓋が出土している。

包含層 隣接する調査区と同様に中世・平安・古墳時代の遺物が出土している。1331は移動式の竈の一部である。1336・1337は瓦質の羽釜で14～15世紀のものと考えられる(図版第97)。

(9) C-6 トレンチ

S H 395803(図版第97) 出土遺物は2つの時期の土器群に分離できる。1つは7世紀の須恵器を含むもので、もう一方は古墳時代初頭の土器群である。後者はC 4-b地区で検出した部分の出土遺物と同時期と考えられる。1338～1343は須恵器の杯で、1339・1341～1343は竈内からの出土である。1354は須恵器の器台脚端部で外面には波状文が施される。1344・1348・1349は在地の弥生系の土師器甕である。1346は器台である。1355は甕の口縁部で端面の一部に刻みが施される。1356は外面にタタキを持つ土師器の底部である。底部は平底で、中央に刺突が有る。

S K 46605(図版第97) 1351の土師皿と1352の土師質の羽釜が出土している。1359は15世紀の備前焼の播鉢である。

包含層 1358は土師器椀であるが外面に「S」字状のスタンプ文が施される(図版第97)。

4. D地区出土遺物

この地区に設けられた調査トレンチからは、明確な遺構に伴う遺物は出土しなかった。包含層からは縄文時代から中世に至る土器の細片が出土しているが、図化できなかった。

5. E地区出土遺物

(1) E-1 トレンチ

S D 35714 加工木や土師器片が出土している。

包含層 中世の遺物が出土している。1360～1363の土師皿、1364の瓦器椀、1365の瓦質の播り鉢が出土している(図版第97)。

第2節 埴輪(図版第99)

1. 円筒埴輪(1380～1384・1387～1391)

C-3 トレンチ S X 368311からは、横倒しになった円筒埴輪の他、突帯の形状の相違から判断すると、何個体かの埴輪片が混在して出土している。

残存状態が比較的良好だった1380の観察結果から報告する。まずその規格を推定すると、突帯付近の内面では、幅約2～3cmの粘土紐接合による上方から下方へのナデ・ハケ調整のため、口縁直下の突帯下方・口縁下3段目突帯上方に凹凸が残り、突帯間2段分をひとつの製作単位として成形されたことがわかる。また、口縁直下の突帯製作に伴う整形ナデによって、二次調整のヨコハケがナデ消されていることは、この部分における製作工程の休止を示している。上記の観察結果より、4突帯5段の円筒埴輪に復元することが可能である。また、器高は少なくとも70.0cm以上となり、口縁部径とも考え合わせると中型品になる。全体の形状としては、ズン胴状を呈すが基部からやや外開き気味に立ち上がり、口縁にいたりゆるやかに外反する。

透かし孔は円形で、突帯間のほぼ中央に穿孔される。穿孔方向については不明である。その穿孔方法については、透かし孔面の砂粒の動きから一気に円形を削りぬくのではなく、半弧ずつ下から上に削りぬく。この方法は、後述する1381の埴輪透かし孔の穿孔方法とも一致する。

外面調整については、製作休止部である口縁直下の突帯製作に伴うナデ調整により、二次調整のヨコハケ(1cmあたり9本)を施す。同じく口縁直下第3段目突帯付近は、製作休止部が突帯上方にあるため突帯製作後の製作工程の休止を示し、そのため二次調整のヨコハケは突帯の整形ナデを切る。ヨコハケは、ストロークが短く切り合うもので、突帯上下に集中して施されている。内面調整は、基本的にタテ・ヨコ方向のナデ調整が施されるが、外面と同じく製作休止部分には指オサエや部分的にヨコ方向のナデ、ヨコハケ(1cmあたり9本)が施され、ていねいな調整手順をふむ。また口縁部付近はかなり広い範囲にヨコ方向のナデが施され、口縁端部は下端をつまみナデ、外反させている。

突帯の形状は、各突帯とも断面形が台形を呈し、突帯上辺はよくナデつけるが、突帯下辺の器壁へのナデつけの強弱により微妙に形態を異にする。突帯下部への粘土補充は認められない。とくに口縁下第3段目の突帯は、突帯下辺のナデつけが他と比べて不十分なため、下端が丸みを帯び、いびつな台形を呈す。

上記の特徴から、川西編年Ⅲ期(赤塚編年Ⅱ-1段階)に編年できる。

色調は、明褐色から淡黄灰褐色を呈し、縦長に黒斑を有する。また、外面には部分的に赤彩が

残る。胎土には、長石・石英・チャート・クサリ礫(0.3~0.4cm)・雲母・赤色粒・黒粒(0.1cm)を多く含み、焼成は土師質で硬く焼ける。

上記の埴輪のほか、底部片、突帯の成形・整形技法、形状、焼成の異なる埴輪片を報告する。

1381は、胴部片である。突帯直上に円形と思われる透かし孔が穿たれている。透かし孔の穿孔方法は、1380の埴輪と同じである。外面調整は一次調整にタテハケ(1cmあたり9本)が、内面には基本的にナデ調整・指オサエが施され、部分的に左傾のナナメハケ(1cmあたり9本)を用いる。外面には部分的に赤彩が残る。突帯は断面がいびつな台形を呈し、各辺とも器壁へのナデつけはよいが、やや始末が悪く鈍い作りである。内面突帯下に粘土紐積み上げ痕跡がある。

1382は、胴部片である。残りが悪く、胴部径は不明である。外部調整は一次調整にタテハケ(1cmあたり9本)を施し、内面はタテハケ後タテ方向のナデ調整である。突帯は、下辺のナデつけが不十分なためいびつな台形を呈し、やや鈍い作りである。また、突帯内面には粘土紐積み上げ痕が残る。外面には赤彩が残る。

1383は、胴部片である。3と同じく胴部径等不明である。外面調整にタテハケ(1cmあたり9本)後右傾のナナメハケ(1cmあたり9本)、二次調整はヨコハケ(1cmあたり9本)、内面はナデ調整を基調に部分的にヨコハケ(1cmあたり9本)とタテハケ(1cmあたり9本)が施される。突帯は、側辺の幅が非常に広く、上辺・下辺をしっかりとナデるため断面形は台形のシャープな作りの突帯である。

1384は、胴部片である。外部調整は突帯の上下でハケの種類が異なり、下部ではタテハケ(1cmあたり9本)、上部では左傾のナナメハケ(1cmあたり9本)に変化する。順序としては、タテハケ後ナナメハケである。内面はタテ方向のナデ後部分的にヨコハケ・タテハケが施される。突帯は各辺ともよくナデつける。シャープな台形の突帯である。外面には部分的に赤彩が残る。

1387~1390については、やや小ぶりの突帯ではあるが、断面形が台形で各辺ともよくナデつけるシャープなつくりのもの(1387)、同じく小ぶりでも下辺のナデつけが不十分なため、いびつな台形を呈するもの(1389)などがあり、また他と比較すると突出度は高いが、下辺のナデつけが不十分なためいびつな長方形を呈するもの(1388)などがある。1387については、透かし孔の一部が残存しているが形状等は不明である。各突帯はともに突帯下部への粘土補充は認められなかった。

1391は、底部片である。非常に小片であるため詳細な数値は出せないが、直径約27.4cmに復元できる。器壁は、厚さ0.9~1.5cmを測る。外面調整には、タテハケ(1cmあたり9本)後ヨコハケ(1cmあたり9本)、さらに左傾のナナメハケ(1cmあたり9本)を施し、内面調整にはナデ後指オサエを行う。さらに外面には部分的に赤彩が残る。焼成については、硬質で土師質に焼かれ、1380の埴輪に類似するが、色調については明褐色を呈する。

各個体の胎土等については、1380の埴輪と比較して胎土中に含まれる鉱物の種類に相違は認められず、粒径の大小はあるが、肉眼で観察する限り際だった特徴を示すものではない。突帯の形状と胎土の相関関係については、特に見いだせなかった。焼成はすべて土師質で硬く焼け、明褐色から淡黄褐色を呈する。注目すべき点として明褐色を基調とし、非常に硬く焼けるもの

(1381・1382・1383・1385・1391)と黄灰褐色を基調とし硬く焼けるもの(1380・1384・1386)があり、明確に焼成技術の違いとして把握できる。しかし、横倒しとなった1380の埴輪は、地面と接する器壁の色調は明褐色であるが、それ以外の部分は淡黄灰褐色を呈し、1つの個体でも状況によっては色調が異なっていることがわかる。1380をはじめ黒斑を持つ個体もあり、焼成に窖窯の使用を想定するのは難しい。

2. 線刻を施した埴輪片(1385・1386)

1385は、C-3トレンチP28出土の胴部片である。線刻は突帯間に刻まれたと考えられ、先の鋭く尖った工具で深く、斜めに引かれたものである。突帯がきれいな台形の断面を呈し、各辺ともナデつけるシャープなつくりをしているため、1380の埴輪に接合できるものでないことがわかる。外面調整は、一次調整タテハケ後ヨコハケ(二次調整?)、内面はヨコナデが施される。また、外面には部分的に赤彩が残る。

1386は、口縁部の破片である。線刻は口縁直下に刻まれており、2本の弧線で何らかの図柄を表現したものと思われる。また、横方向の線刻が縦方向のものを切るかたちとなっており、1385の線刻に比べると浅く、細くはっきりとしない。口縁部の調整は、内外面ともかなり広い範囲をナデ調整しており、口縁部の形状と考え合わせると、この口縁部片は1380の埴輪のものと考えられる。

第3節 縄文土器(図版第100・101)

遺物はB・C地区から出土しているが、B地区からは面積に比べ出土量が少ないことから、C地区を中心に分布すると考えられる。土器は縄文時代の遺構に伴うものは少ないが、1399・1400はC-3トレンチのSK368310出土の突帯文土器の深鉢である。土器棺として利用されたと考えられる。両者ともに口縁部と胴部に突帯が巡る。1400は生駒山西麓産の胎土を持つ。1402はC-2トレンチSK395602出土の突帯文土器の深鉢である。土器棺として利用されたと考えられる。口縁部に突帯が巡り、胴部にはケズリ調整の跡が認められる。

1392(1991年度B)・1394(C-4)は縁帯文土器口縁部に付属する部位である。沈線によって施文される。1393(1990年度B)・1395(C-4)は沈線を体部に持つ。1403(C-5a)・1404(C-3)・1405(C-4a)・1406(C-3)は中期の船元式土器で下植野南遺跡でもっとも古い時期の土器である。1403は口縁が肥厚し、外面には刺突がみられるが、全体に磨滅が顕著である。1404は口縁部で粘土紐が張り付けられ、粗い縄文が施文される。1406は口縁部で外面の口縁部近くには、連続して指頭圧痕が施文されている。1407(C-2)・1408(1992年度B)は縁帯文土器の体部である。1409(C-5a)・1411(C-3)は凹線文系土器の口縁部である。

1410・1413~1417は浅鉢で、1415(C-4a)・1416(C-5a)は滋賀里式土器である。他の土器は後期のものと考えられる。1418は内外面に貝殻条痕文の残る体部片で、胎土には雲母を多く含む。1420~1434と突帯文土器片である。1435~1447は無文の粗製土器である。1435(C-4a)・1436(C-4a)・1437(C-4a)・1438(C-3)は口縁部が肥厚する暗褐色の胎土を持つ

深鉢の口縁部で、後期のものと考えられる。1439は胴部から下がケズリ調整が施された深鉢片である。

第4節 石製品(図版第102・103)

1448～1531は、1991年度B地区S X36820から出土した。土器の集石の周辺に分布した。個体ごとに出土した高さが異なる。1532・1533はS H395336出土である。1534～1543は、1991年度B地区S X36822出土である。1546は1990年度B地区包含層出土の碧玉製の丸靱である。表面は光沢を持つ程度まで研磨されているが、裏面は研磨が粗い。固定するための孔が3か所穿孔されている。1547(1990年度B地区)は滑石製の勾玉で内湾する部分には横方向の溝が数条認められる。製作工程を示すものと考えられる。1548は玉髓製の石針で、断面が多角形の体部を持ち、先端部は回転による磨滅のため円錐状を呈する。1549・1550は1991年度B地区S K36825出土の碧玉の破片である。1550は磨滅が顕著である。

1551(C-3)・1552(1992年度A)は、二上山のサヌカイトを素材とした凹基無茎の石鏃である。1552は先端部が折れた後に、機能再生のため再加工されている。1553(1992年度A)は原礫面を持つ横長剥片を利用した尖頭状石器である。1554(1992年度A・S K395502)は原礫面を打面として作出した二上山産のサヌカイト製の剥片を利用した削器である。1555・1557(C-2)はサヌカイト製の剥片で、試掘坑からまとまって出土している。他にも数点の剥片が存在する。1556(1992年度A)は原礫面を持つサヌカイト製の剥片で、両極技法によって作出されたと考えられる。

1558(C-3・S X368601)・1559(C-1・S H365202)・1560(C-4 a・S R395702)は粘板岩製の石包丁である。いずれも本来の時期の遺構からは出土していない。1560は流路出土のため全体が水磨を受けている。1561(1992年度A)は緑色凝灰岩製の柱状片刃石斧である。中央部で破損しているが、体部の主軸に直行するように浅い「U」字状の溝が残る。1562(91年度B)はシルト岩製の砥石で柱状を呈する。1563(C-4 a・S R395703)は閃緑岩製の磨製石斧で刃部は破損しており、ハンマーとして再利用されている。

第5節 銅製品(図版第103)

1544は、S E36823から出土した青銅製の鏡であり、背面には文様が無く、周縁部が盛り上がる。鈕は後に付けられたと思われ、接合部が雑な作りである。平安時代の遺物と考えられる。1545は、青銅製の耳環で、S D35706の礫層から出土した。表面には金・銀は認められなかった。

第6節 鉄器(図版第104)

1564は、刀身の一部であろう。棟の厚さ7mm・身幅3.7～3.9cmを測る。1991年度B地区S E34南半Ⅲ～Ⅳ層出土である。1565も刀身の一部と思われる。棟幅9mm・身幅4.2cmになる。1991年度B地区包含層出土である。1566は、長頸鏃である。残存長10.7cm、鏃身鋒と茎が一部欠損する。腸挟はなく、わずかに段状の関をもつものと思われるが、銹化が著しく、明確ではない。6.8cm

の頸部に台状篋被が付く。1991年度B地区S X36820出土である。1567も長頸鎌であろう。鎌身上半と頸部以下を欠損する。残存長5.1cmである。1992年度A地区S R395450検出中に出土した。1568は広根鎌と思われる。遺存部位が少なく、外形を推定するには、困難が伴うが、腸挟をもつものとみられる。1992年度A地区包含層出土である。1569は全長5.0cm・厚さ2.5mmを測る。広端側には、刃部が形成されており、小形の鑿の類かと思われるが、狭端側に鋸で叩いた痕跡はない。1992年度A地区S D39522出土である。1570は、鑿であろう。全長7.0cm。銹化によって縦方向に亀裂が生じ、膨張しているため、明確ではないが、断面は、1.0~1.2cm角のほぼ正方形に近いものになると思われる。1992年度B地区東端重機掘削中に出土した。1571は、全長11.1cm、1.8×0.8cmの長方形の断面を呈する。弧状の狭端側には、刃部は形成されず、用途・時期不明である。1990年度C-1トレンチ褐色粘質土出土である。1572は、刀子身部である。残存長8.3cm、刀身は鑄造りの断面形を呈し、棟関をもたない類であろう。C-2トレンチS H35684出土である。1573も刀子である。残存長12.1cmである。茎尻を欠損する。銹化のため、棟関の形状が明確ではないが、両関をもつ古墳時代後期以降の類例である。C-2トレンチS R395600下層S K395623出土である。1574も刀子である。刀身の鋒側半分が欠損している。残存長8.3cmである。棟部の関は明瞭ではない。内反りのある刃部で刀身も薄い二等辺三角形を呈している。1991年度B地区S E36823出土である。1575は、大形の曲刃鎌の刃部とみられる。基部の柄を装着する折り返しの部分と刃部先端は欠損する。残存長9cmあまりである。C-2地区S K395683北西区出土である。1576も曲刃鎌の基部である。刃部は欠損するが、折り返し部分全体と柄の装着部分が遺存する。残存長4.9cmである。出土地不明である。1577は斧の刃部かもしれない。図の左右長4.7cmを測る。1991年度B地区S D36826・36827合流地点出土である。1578は、先端を欠損するが、推定5尺の長押釘であろう。頭部平坦面は隅丸長方形である。残存長10.1cmである。銹化が著しく、土とともに固結して瘤状に膨張する。1991年度B地区S K36825出土である。1579~1586は、用途不明鉄器である。釘・鉤・鉄鎌などの一部とみられるが、断定できない。それぞれの残存長、出土位置を示しておく。1579は、三角形の鉄片で、下辺が3.0cmで、1991年度B地区S D36834北拡張部北壁精査中に出土した。1580は、4.7cmで、1990年度Cトレンチ青灰粘土層北東部より出土した。1581は、3.0cmで、1990年度C-1トレンチ暗青灰粘土層より出土した。1582は、3.1cmで、C-3トレンチより出土した。1583は、4.4cmで、R368-B S K167より出土した。1584は、3.1cmで、C-3トレンチより出土した。1585は、5.1cm、1992年度S H368118出土。1586は下辺が薄くなる鉄板で、上下長6.7cm以上、左右幅4.8cm以上になる。1991年度B地区北西端(S D36848Ⅱ→Ⅲ面に掘り下げる時)より出土した。1587・1588は、おそらく高熱によって変容した物質であろう。1587は、左右長2.5cm、淡い小豆色で凹面に熱変容が認められる。C-4 a S R395702暗青灰色粘土層より出土した。1588は、左右長6.2cmで、凹面中央部に発泡によると思われる窪みがみられる。黄褐色を呈する部分もあるが磁性はない。1990年度B地区S D35707 aより出土した。1589~1591は、鉄素材や鉄器を製作する際に排出された鍛冶滓であろう。1591にのみ、わずかに磁性がみられる。1589は、左右長2.6cmで、小さな椀形の滓である。暗灰色を呈し、

破面にわずかに黄褐色の酸化鉄が付着するが磁性はない。比重は低い。1992年度B地区東端精査時に出土した。1590は、左右長5.5cmである。暗灰色を呈し、部分的に黄褐色の酸化鉄が付着する。1991年度B地区精査中に出土した。1591は、大形の椀形滓である。残存左右長15.2cm、図の上下長は、中央部で10.0cmを測る。端部が欠損する部位がある。底部は、鍛冶炉の掘形に沿ってゆるやかな凸面を形成する。表面全面が黄褐色を呈する。破断面は暗淡灰色で、細かい気泡がみられるが、ガスのよく抜けた比重の高い緻密な滓である。炭片の付着・混入はみられない。破断面をみると、椀形の薄い餅状の滓が二重に重なっているが、上側の滓は中央部分がなく馬蹄状になっている。羽口からの送風によるものと思われる。おそらく、滓を取り出さないまま、同じ作業を2度繰り返したのであろう。鍛造剥片等の付着もみられず、鍛錬鍛冶前半以前の工程に伴うものとみられる。1991年度B地区S X36842より出土した。

第5章 自然科学的分析

第1節 下植野南遺跡の花粉分析

京都府下の下植野南遺跡において採取された土壌試料について花粉分析を行い、遺跡周辺の当時の古植生や、畑作(下植野南遺跡)について検討した。

1. 試料と分析方法

試料と分析方法 畑作地ではないかとみられた地点より採取された2試料(試料1、試料2)である。1・2試料とも砂質のシルトで、試料2には小礫や炭片が認められる。年代は、出土遺構・遺物から6世紀の初め頃と考えられている。

この2試料について花粉分析を行ったのであるが、分析方法は試料(5~10g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウムを加えて20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂などを除去する。次に46%フッ化水素酸を加え30分放置する。水洗後、重液分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。次に、酢酸処理、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸の混酸を加え3分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣よりプレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。また花粉化石の単体標本を作成し、各々にPLC、SS番号を付し、形態観察用および保存用とした。

2. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉10、草本花粉11、形態分類で示したシダ植物胞子2の計23である。これら花粉・胞子の一覧を付表3に示したが、それらの分布図については検出花粉数が少なく示すことができなかった。表においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示している。

検鏡の結果、2試料とも花粉化石の検出数は少なく、検出された中でも傷んでいるものが多く、また炭片などの植物遺体が非常に多く観察された。検出された花粉化石は、樹木類ではニヨウマツ類、コウヤマキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属など、草本類はイネ科が比較的多く得られ、その他アカザ科-ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属、タンポポ亜科などである。また、試料1においてはソバ属花粉が検出されている。

3. 畑作物について

上記したように、試料1よりソバ属花粉が得られているが、このソバ属について、花粉の生産

量は低く、散布範囲も狭いと考えられている。また、遺構として試料1採取地点は畑作地ではないかとみられているところであり、このようなことから、試料1採取地点付近においてソバが栽培されていた可能性が考えられる。

その他では、比較的多く検出されているイネ科花粉について、イネが含まれるイネ属花粉の特徴をもつものではなく、他の栽培種を含めイネ科については不明である。また、アブラナ科については、『古事記』にはアオナ(アブラナ)のことがあり、『日本書紀』には蕪育(カブ)を栽培させた記事がある(北村1977)など、栽培されていた可能性がある。しかしながら、花粉形態からこれらを分類することは現時点においてはできず、アブラナ科花粉についても不明である。

4. 遺跡周辺の古植生

試料採取地点付近は畑地と考えられており、そうした地面に落下した花粉の多くは紫外線や土壌中のバクテリアなどによって分解・消失してしまっている可能性が高い。したがって、検出された分類群から周辺の古植生について多くを記すことはできないが、ニヨウマツ類やコウヤマキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属などが生育するような森林の存在が予想されよう。また、上記したように試料1採取地点付近においてはソバの栽培が推測されており、その周囲にはイネ科やアカザ科ーヒゴ科、ヨモギ属などの雑草群落がみられたであろう。

鈴木 茂(パレオ・ラボ)

引用文献

- 北村四郎 1977 「カブ」『世界の植物』61 朝日新聞社 p.1416-1417。
古環境研究所 1989 「プラント・オパール」『練馬区弁天池低湿地遺跡の調査』東京都住宅局・練馬区遺跡調査会 p.133-140。
那須孝悌 1989 「活動の舞台：概論」『弥生文化の研究 1 弥生人とその環境』雄山閣出版株式会社 p.119-130。

付表3 下植野南遺跡産出花粉化石一覧

和名	学名	1	2
樹木			
マツ属複維管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	3	-
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	2	3
スギ属	<i>Cryptomeria</i>	1	1
クマシデ属—アサダ属	<i>Carpinus-Ostrya</i>	-	1
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	2	-
ブナ属	<i>Fagus</i>	1	1
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	4	3
コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	3	2
イボタノキ属	<i>Ligustrum</i>	1	-
スイカズラ族	<i>Lonicera</i>	1	-
草本			
イネ科	Gramineae	36	26
サナエタデ節—ウナギツカミ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	1	-
イタドリ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Renoutria</i>	-	1
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	2	-
アカザ科—ヒユ科	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	4	9
ナデシコ科	Caryophyllaceae	2	1
アブラナ科	Cruciferae	1	5
キカシグサ属	<i>Rotala</i>	1	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	9	4
他のキク亜科	other Tubuliflorae	-	1
タンポポ亜科	Liguliflorae	3	2
シダ植物			
単条型孢子	Monolete spore	77	67
三条型孢子	Trilete spore	17	18
樹木花粉	Arboreal pollen	18	11
草本花粉	Nonarboreal pollen	59	49
シダ植物孢子	Spores	94	85
花粉・孢子総数	Total Pollen&Spores	171	145
不明花粉	Unknown pollen	8	19

第2節 滑石製品の分析

1. 実験条件

1-1 試料 X線回折試験に供する原石は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。小玉類は非破壊で分析した。化学分析は原石をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。小玉類は非破壊で直接分析した。

1-2 X線回折試験 原石および小玉類に含まれる粘土鉱物および造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40Kv, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°
計数時間: 0.5SEC.

1-3 化学分析 小玉類および原石の元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15KV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素で行った。

1-4 化学分析結果の取り扱い 化学分析結果は酸化物として、ノーマル法(10元素全体で100%になる)で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO₂-Al₂O₃, Fe₂O₃-MgO, K₂O-CaOの各図を作成した。これらの図をもとに小玉類および原石を元素の面から分類した。

2. X線回折試験結果

2-1 分析結果 X線回折試験は付表4 X線回折試験結果表に示すように、八鹿町聖長鉱山の滑石の原石、京都府の大江山の蛇紋岩の原石と下植野南遺跡から出土した小玉等に対して行った。原石は粉末にし、通常の分析を行った。遺跡出土の小玉等は非破壊で行った。小玉等は小さいサンプルのために幾分検出強度が小さく、また、小玉等の表面が平滑でないためピークが幾分ずれて現われた。

原石は正確な分析資料とし、小玉等は参考資料とした。

付表4に示すように八鹿町聖長鉱山の原石は滑石の検出強度が高く、明らかに滑石の原石であることがわかる。京都府の大江山の原石は3個ともに蛇紋石の検出強度が高く、蛇紋岩である。高倉町の原石は緑泥石だけが検出され、異質である。

遺跡より出土した小玉等は肉眼的には明灰色の滑石、灰色の滑石、明緑色の滑石質緑色岩類、緑灰色の緑色岩類の4タイプに分類される。明灰色の滑石、灰色の滑石は共に滑石が検出され、一部で緑泥石も検出された。緑灰色の小玉は緑泥石の検出強度が高く、滑石類とは明らかに異質で、緑色岩類である。

3. 化学分析結果

分析結果は付表5の化学分析表に示すとおりである。分析表に基づいて

第27図のSiO₂-Al₂O₃図(上)、Fe₂O₃-MgO図(下)、第28図のK₂O-CaO図を作成し、検討した。

3-1 SiO₂とAl₂O₃の相関について 第27図(上)に示すように原石と小玉等はI~IVと”その他”に分類された。Iグループには緑灰色の小玉が集中し、IVグループには灰色と明灰色の滑石の小玉と聖長鉱山の原石が集中し、明らかに成分の違いが認められる。

Iグループ：SiO₂が30~40%、Al₂O₃が15~25%の範囲にあり、緑灰色の小玉が集中する。下植野南の小玉は、類似する原石である緑色岩類から小玉等が製作されていると判断される。

IIグループ：下植野南-11は緑灰色の小玉。

IIIグループ：京都大江山の原石で構成されるもので、蛇紋岩のグループ。

IVグループ：SiO₂が55~65%、Fe₂O₃が5%以下の領域にある滑石のグループ。八鹿町聖長鉱山の原石と下植野南の小玉が集中する。原石と小玉は明らかに成分が類似し、関連性が高い。

”その他”：下植野南-2は灰色の小玉で、Al₂O₃の値が幾分高くIVグループから離れているが、成分的にはIVグループの滑石に近い。

原石-10は緑泥石だけが検出された高倉町の原石で、明らかに異質である。

以上の結果から明らかな様に、Iグループの緑色岩類とIVグループの滑石が小玉等の原石の主体をなすもので、IIグループの小玉の3タイプがあると判断された。

3-2 Fe₂O₃とMgOの相関について 第27図(下)に示すようにI~VIIの7グループと”その他”に分類された。

Iグループ：京都府大江山の蛇紋岩。

IIグループ：下植野南の滑石の小玉と八鹿町聖長鉱山の原石で構成される滑石のグループ。このグループの構成は明灰色と灰色の滑石の小玉で、第27図(上)のIVグループと同じ。下植野南-2も含む。

IIIグループ：緑灰色の小玉2個で構成される。下植野南-3がある。

付表4 X線回折試験結果

試料番号	Talc	Mica	Ch-Fe	Ch-Mg	Serpen	Qt	備考
原石-1	5060			74		125	八鹿町聖長鉱山内
原石-2	1932		114	111			八鹿町聖長鉱山内
原石-3	5699					1369	八鹿町聖長鉱山内
原石-4	6408		154	209			八鹿町聖長鉱山内
原石-5	5346					616	八鹿町聖長鉱山内
原石-6	5178		191	265			八鹿町高柳露頭
原石-7			207		1492		京都府大江山鍋塚下
原石-8			165		11062		京都府大江山碎石場A
原石-9			444		8430		京都府大江山碎石場B
原石-10			380	860			高倉町綾部工業団地
下植野南-1	102						小玉-緑灰色
下植野南-4	96						小玉-緑灰色
下植野南-5	151			44			小玉-灰色、滑石
下植野南-7	322			56			小玉-灰色、滑石
下植野南-10	43			14			小玉-明灰色、滑石
下植野南-13	73			22			小玉-明灰色、滑石

Talc:滑石 Mica:雲母類 Ch(Fe):緑泥石(鉄質) Serpen:蛇紋石 Qt:石英

付表5 化学分析表

試料番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total
原石-1	0.00	31.40	1.97	59.80	0.22	0.05	0.00	0.18	6.19	0.20	100.01
原石-2	0.00	55.45	1.56	20.23	0.06	0.30	0.00	0.58	21.35	0.48	100.01
原石-3	0.00	31.72	0.91	61.73	0.26	0.00	0.08	0.00	4.69	0.60	99.99
原石-4	0.00	31.22	1.09	61.56	0.12	0.00	0.00	0.00	5.92	0.09	100.00
原石-5	0.00	30.62	0.54	61.39	0.06	0.12	0.05	0.04	6.23	0.95	100.00
原石-6	0.00	31.68	2.09	59.71	0.07	0.00	0.00	0.13	6.28	0.03	99.99
原石-7	0.00	47.19	0.64	46.08	0.03	0.01	0.06	0.22	5.41	0.37	100.01
原石-8	0.00	48.76	2.37	44.25	0.05	0.07	0.04	0.51	3.26	0.69	100.00
原石-9	0.00	44.40	1.95	47.38	0.07	0.91	0.00	0.00	4.75	0.53	99.99
原石-10	0.00	18.51	5.41	50.97	0.13	18.08	0.03	0.73	6.13	0.00	99.99
下植野南-1	0.00	27.51	19.90	34.82	0.45	0.48	0.70	0.69	15.18	0.27	100.00
下植野南-2	0.00	28.63	6.10	56.60	0.57	0.31	0.21	0.42	6.78	0.37	99.99
下植野南-3	0.00	34.55	21.17	35.84	0.42	0.37	0.49	0.25	6.91	0.00	100.00
下植野南-4	0.00	32.63	19.63	35.85	0.33	0.66	0.68	0.14	10.08	0.00	100.00
下植野南-5	0.00	29.05	3.82	58.35	0.49	0.36	0.44	0.28	6.88	0.33	100.00
下植野南-6	0.00	30.45	2.38	60.78	0.42	0.16	0.28	0.17	5.03	0.32	99.99
下植野南-7	0.00	30.14	2.64	61.01	0.41	0.20	0.26	0.00	4.79	0.56	100.01
下植野南-8	0.00	29.62	1.92	61.35	0.31	0.12	0.34	0.30	5.62	0.41	99.99
下植野南-9	0.00	26.75	21.97	36.69	1.14	0.30	0.22	0.95	11.84	0.14	100.00
下植野南-10	0.00	30.35	1.56	61.08	0.31	0.18	0.27	0.11	6.14	0.00	100.00
下植野南-11	0.00	22.47	23.49	41.04	1.86	0.42	0.69	0.84	9.19	0.00	100.00
下植野南-12	0.00	29.92	3.38	58.71	0.16	0.18	0.10	0.45	6.49	0.61	100.00
下植野南-13	0.00	31.16	1.59	62.43	0.24	0.07	0.20	0.28	3.97	0.06	100.00
下植野南-14	0.00	26.40	20.39	35.54	0.81	0.55	0.30	0.78	15.01	0.21	99.99
下植野南-15	0.00	31.34	20.92	36.15	0.49	0.23	0.32	0.93	9.56	0.06	100.00

Ⅳグループ：緑灰色の小玉4個で構成される。下植野南の小玉2個で構成される。

Ⅴグループ：緑灰色の下植野南小玉1個と円盤1個で構成される。

Ⅵグループ：緑灰色の下植野南の小玉2個で構成される。

Ⅶグループ：緑灰色の下植野南-11で構成される。第1図のⅡグループと同じ構成である。

”その他”：原石-2は、Fe2O3とMgOの値が高く異質。原石-10は、緑泥石だけが検出された原石。

以上の結果から明らかな様に、滑石類はⅡグループに集中するが、緑色岩類はⅢ～Ⅵの4グループに分れる。緑色岩類は緑灰色から濃緑灰色まで幾分色調のことなるものがあり、これらはFe2O3の量によっておこるものではなかろうか。

Ⅶグループは明らかに異質で、滑石と緑色岩とは異なる組成を示す。”その他”に含まれる桑飼上-25は表面に褐鉄鉱が一面に付着しているためにこの影響を受けたもので、本来はⅤグループに入るものであろう。

3-3 K2OとCaOの相関について K2OとCaOは微量で、共に1%以下の領域にほとんどが入ってしまう。滑石と緑色岩類は第28図(下)に示すA-A'の線を境として大きく2分される。A-A'線より上の領域には緑色岩類、すなわち、緑灰色の小玉と円盤が分布し、A-A'線より下の領域には明灰色と灰色の滑石の小玉が分布する。K2Oが1%以上の領域には下植野南-11の1

個が分布し、異質である。原石-10はCaOが15%以上と高く、異質である。

4. 小結

(1) X線回折試験結果では八鹿町聖長鉦山の原石は滑石が高い強度で検出され、京都府の大江山の原石は蛇紋石が高い強度で検出され、前者は滑石、後者は蛇紋岩で、異なる岩石である。小玉は非破壊で分析した。明灰色と灰色の小玉は滑石が検出され、緑灰色の小玉は緑泥石が検出され、両者は異なる鉱物組成をする。

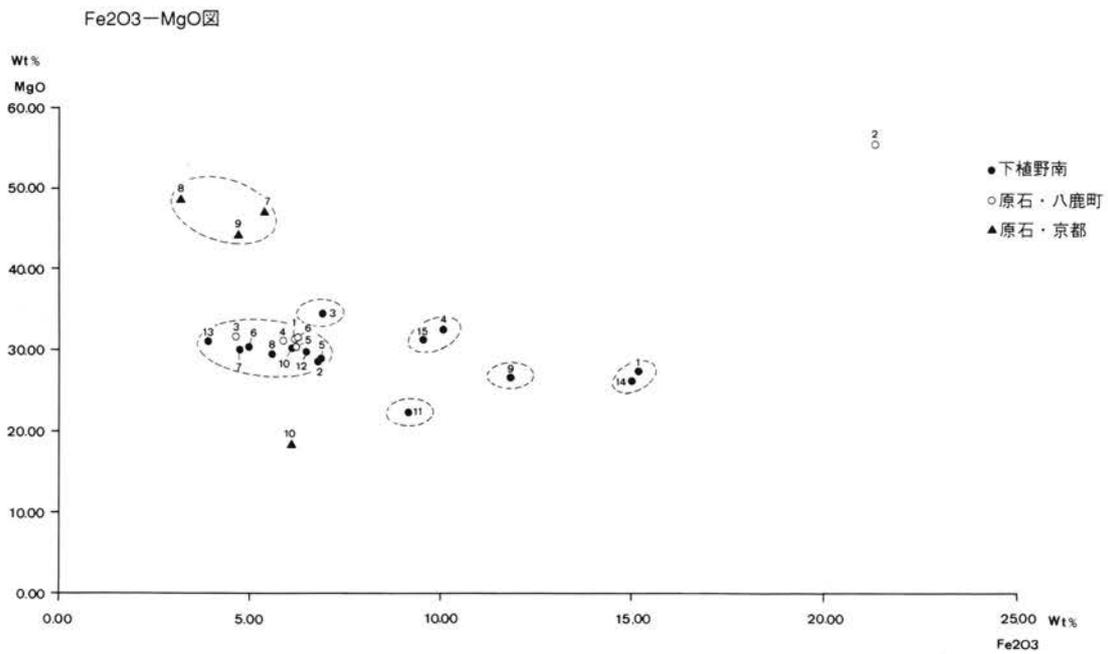
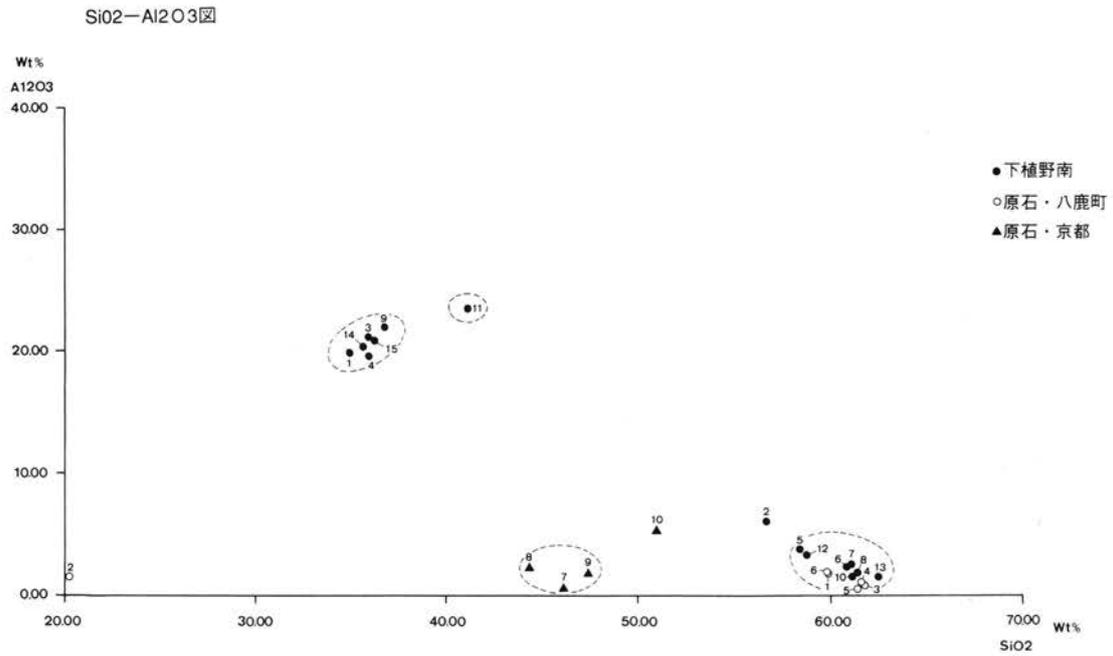
(2) 小玉は肉眼的には明灰色と灰色の滑石、緑灰色と明緑灰色の緑色岩類の4種類に分類された。

(3) 化学分析結果によれば、SiO₂が55~65%、Al₂O₃が5%以下の滑石グループとSiO₂が30~40%、Al₂O₃が15~25%の領域の緑色岩類のグループに二分された。滑石グループには明灰色と灰色の小玉が集中し、特に下植野南の小玉が集中し八鹿町聖長鉦山の滑石もこのグループに含まれる。緑色岩類には下植野南の小玉が集中する。このほかに、明緑灰色の異質の小玉である緑灰色の下植野南-11で作るグループがあり、分析結果でも3タイプに分類された。

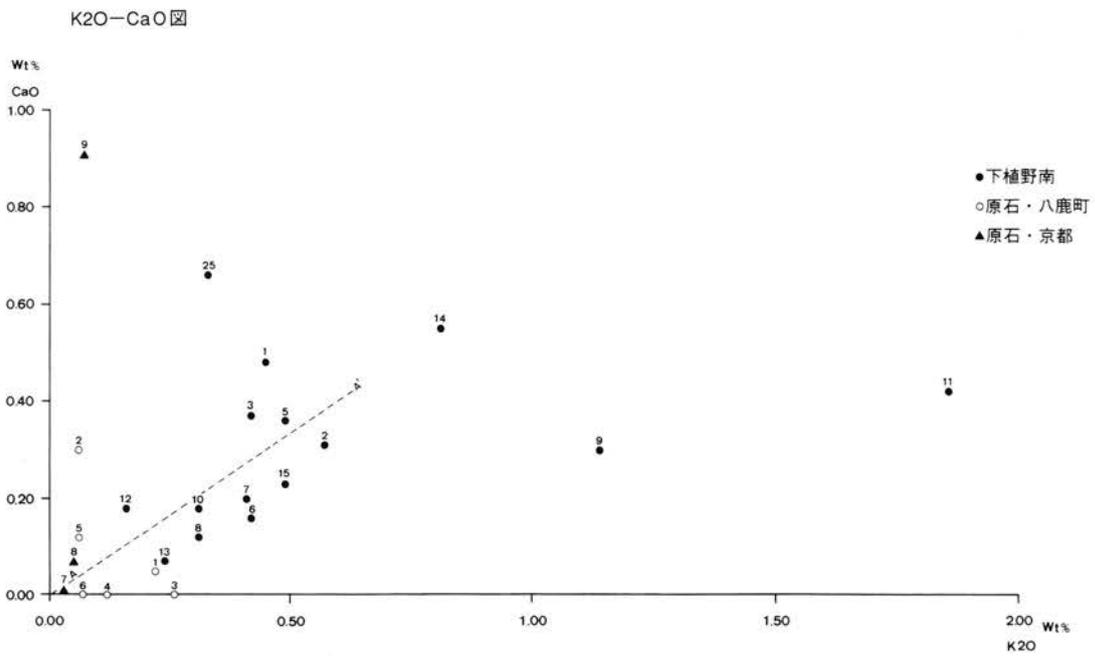
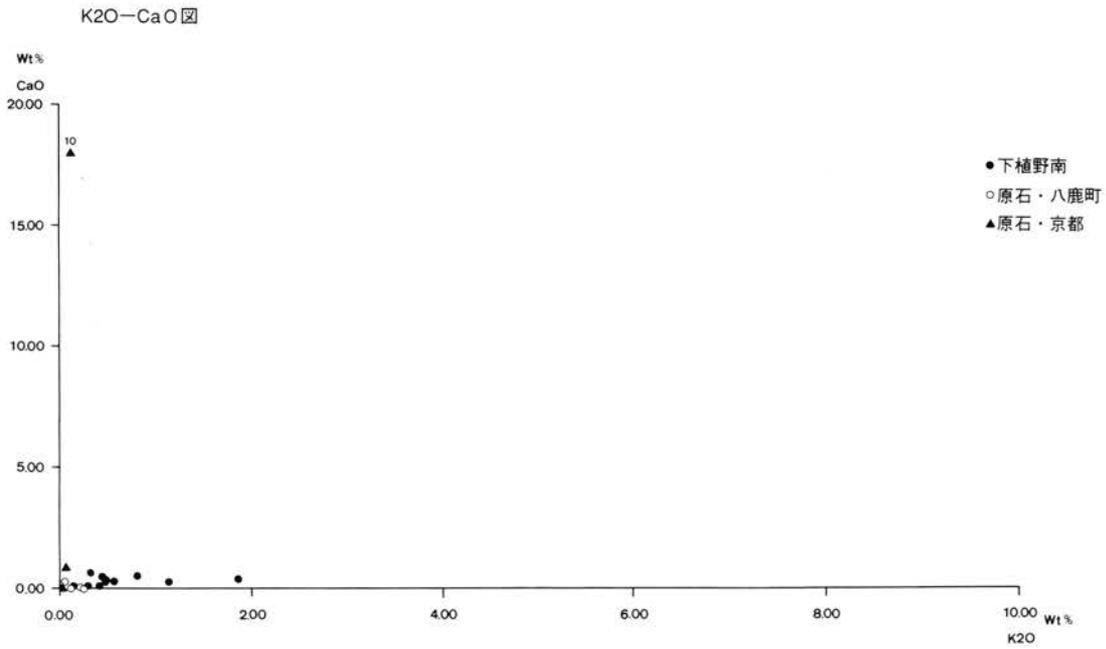
Fe₂O₃とMgOの相関では、緑色岩類の小玉と円盤はFe₂O₃の値が低い領域から高い領域にかけて4つのグループに分れる。これは緑灰色の小玉の中で、濃緑灰色から緑灰色までの幾分異なる色調を反映しているものではなかろうか。

(4) 分析結果によれば、八鹿町聖長鉦山の滑石と下植野南遺跡の滑石の小玉は、組成的に類似性が高く、関連性は高い。下植野南遺跡の小玉は成分により、滑石のグループと緑色岩類のグループで混在し、両遺跡の関連性は高いと推察される。

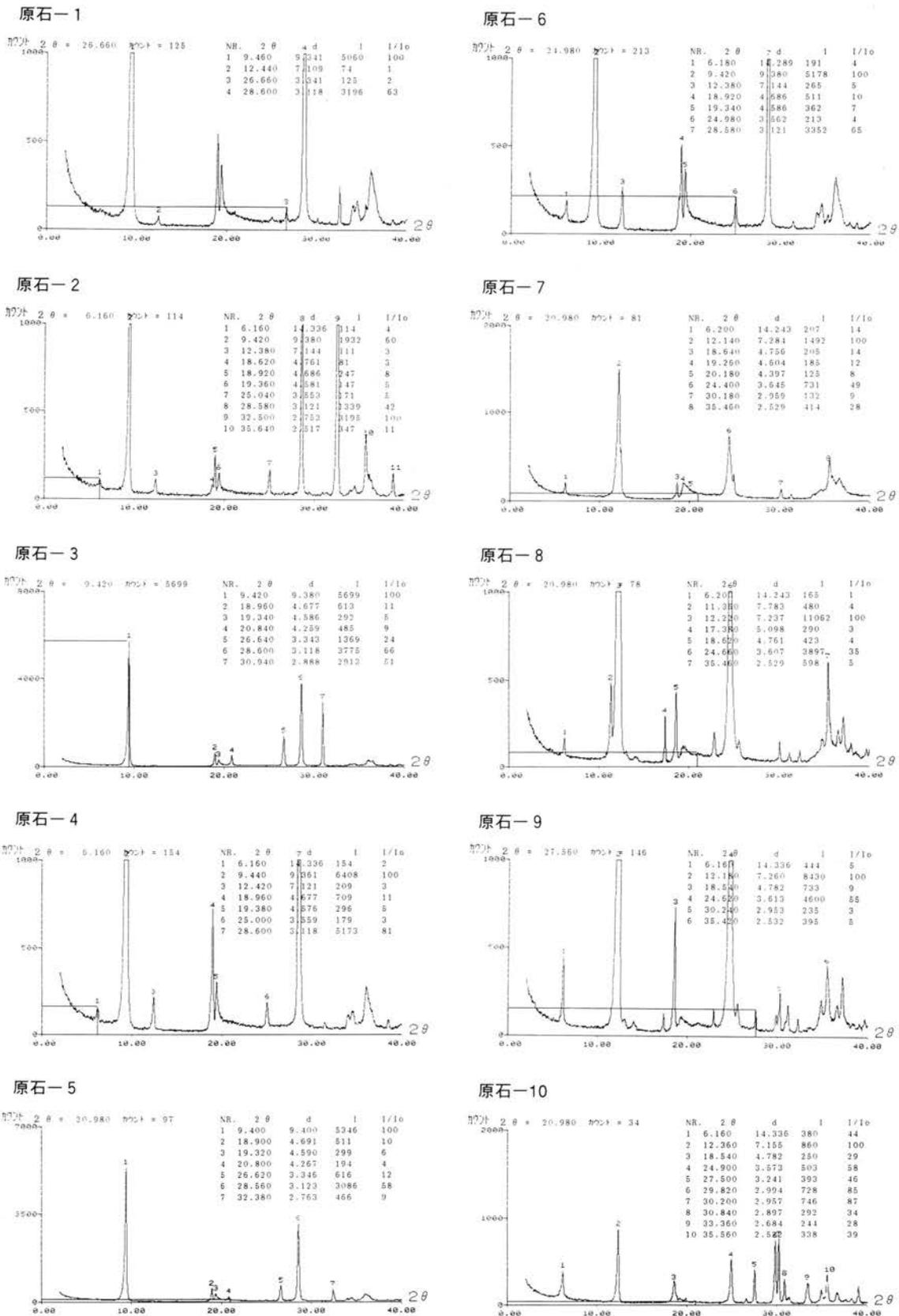
井上 巖



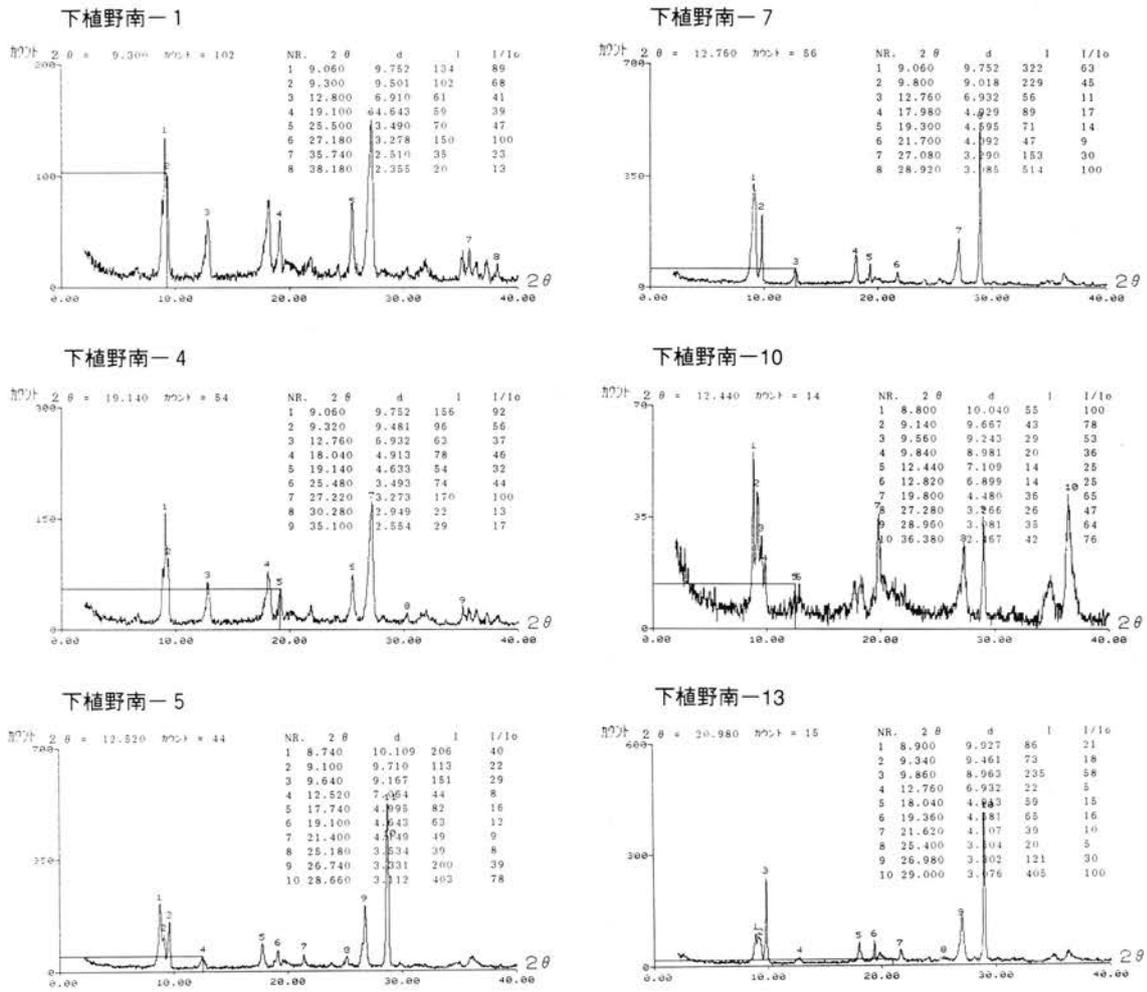
第27図 化学分析値相関関係グラフ 1 (SiO₂-Al₂O₃・Fe₂O₃-MgO)



第28図 化学分析値相関関係グラフ2 (K2O-CaO)



第29図 X線回折データ(1)



第30図 X線回折データ(2)

第 6 章 ま と め

第 1 節 縄文時代

1. 縄文集落の変遷

下植野南遺跡からは、縄文時代中期から晩期に至る土器片が出土している。乙訓地域は京都盆地の中でも、縄文土器の出土地点が多い地域である。出土している時期は後期・晩期のものももっとも多い。これらの時期には標高約12mの低地にもっとも多く遺跡が発見される。

広く見れば、下植野南遺跡は桂川右岸に立地する遺跡であるが、小地域の地形を形成した小泉川水系の遺跡についてみていきたい。小泉川は長岡京市・大山崎町を貫いて流れ、桂川に至る小河川である。この河の最上流で見ついている遺跡は、奥海印寺遺跡で後・晩期の土器が出土している。近接する下海印寺遺跡(渡辺 誠編1982)は小泉川の左岸の湯谷川との合流点付近の標高40mの段丘上に立地する。出土したもっとも古い時期の土器は縄文早期の押型文土器である。検出された遺構は縄文時代後期の土坑と集石である。その下流の伊賀寺遺跡からは、縄文草創期の有舌尖頭器が出土している。

さらに下流の友岡遺跡は、小泉川左岸の段丘崖から多量の土器が出土している。段丘上の集落から投棄されたものと想定されている(小田桐1996)。出土土器は中期の船元式土器が大半で、後期初頭の土器も含んでいる。

下植野南遺跡に近接する裕遺跡・松田遺跡・宮脇遺跡からも縄文土器が出土している。いずれも小泉川左岸の遺跡で、下植野南遺跡に比べ、標高が数m高い位置に立地する。裕遺跡では、縄文時代早期に特徴的な異形局部磨製石鎌が出土している。土器では船元式と後期の土器が出土している。松田遺跡・宮脇遺跡では後期から晩期の土器が発見されている。

同じ下植野南遺跡では、今回報告の地点から名神高速道路をはさんださらに南の地点(林他1996)から晩期の凸帯文土器片が出土している。以上の多くの遺跡では、土器のみの出土で遺構が発見されることは希である。

縄文時代早期の土器は下海印寺遺跡を除くと、石器のみの発見で人間の活動痕跡としては少ないのが現状である。このことは乙訓郡にも言えることで、500回以上の発掘調査がおこなわれているにもかかわらず、他に土器の出土しているのは京都市大枝遺跡(都出・四手井1971)以外存在しない。

前期は小島1997の指摘するように押型文土器以降の早期末の土器型式を含め乙訓では1点の土器も発見されていない。このことは中期の船元式土器が広範囲に散発的に発見されることと対照的である。遺跡の継続性の観点から見ると、地域的に断絶のある時期といえよう。

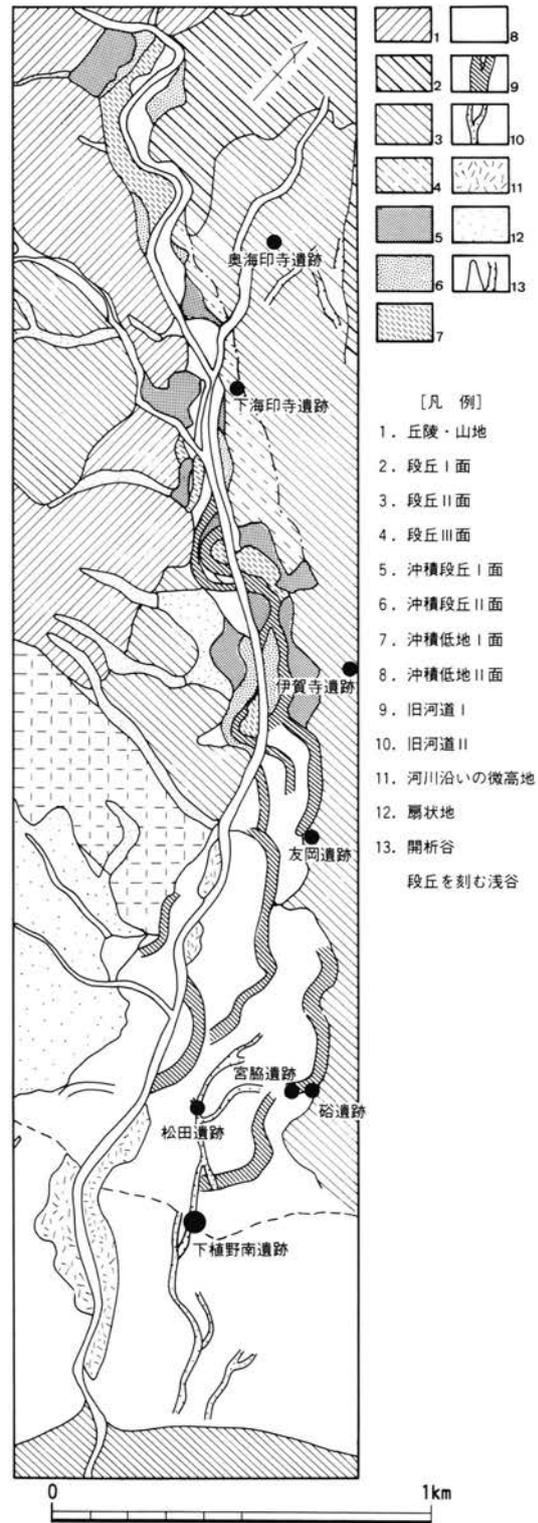
中期の船元式土器は小泉川水系のみではなく、雲宮・東土川・開田城ノ内・開田・十三・野手

遺跡から出土している。雲宮・東土川遺跡を除くと段丘上に立地している遺跡が多い。雲宮・東土川のように、低地部にも活動の痕跡が認められる。しかし小泉川水系の友岡遺跡は拠点的な集落のごみ捨て場と考えられることから、段丘上に居住した縄文人たちが現在の標高12m前後の地域まで広範囲に活動していたと考えられる。

後期になると、遺跡数は飛躍的に増え、低地での遺物の発見も増加してくる。雲宮遺跡周辺や上鳥羽遺跡・石田遺跡・東土川遺跡等は氾濫源に立地している。活動範囲のみではなく、居住域が下海印寺遺跡のような丘陵に近い段丘面から氾濫原にまで広がりを見せている。この時期になると1つの小河川単位ではなく、低地部と言う共通する地理的条件が重要となる。

晩期は後期の遺跡立地と低地においては変わらないが、まだ段丘面上にも遺跡が存在する。しかし、晩期の遺跡は土器棺墓を伴うこともある。弥生時代前期の遺跡は巨視的に見れば、縄文時代晩期の遺跡と同じ地域に出現する。ただ、雲宮遺跡では前期の環濠が検出されているが、縄文時代晩期の遺跡の中心とは分布が異なっていることがわかる。1遺跡の範囲内で詳細な遺構・遺物検出範囲の検討が必要とされる。

下植野南遺跡の周辺である南栗ヶ塚遺跡をはじめ、鶏冠井遺跡等では前期末の土器が発見されている。縄文晩期の突帯文土器の時期と、弥生時代前期がどのような時間的關係があるのかは、論議のあるところである。ただ、雲宮遺跡や下鳥羽遺跡で弥生時代前期中葉に集落が出現するのに比べ、同じように晩期の遺跡が存在していた地点では前期後葉に弥生集落が出現する。このことは集落が連続していたとするならば、弥生文化の流入は面的な広がりを持って初期の段階から入ってきたのではなく、点的な集落から広がり、やがて均一な弥生文化を持つ地域となったと考えられるのではないだろうか。



第31図 小泉川水系地形区分図と遺跡
(中塚1996を改変)

2. 縄文時代晩期の甕棺墓

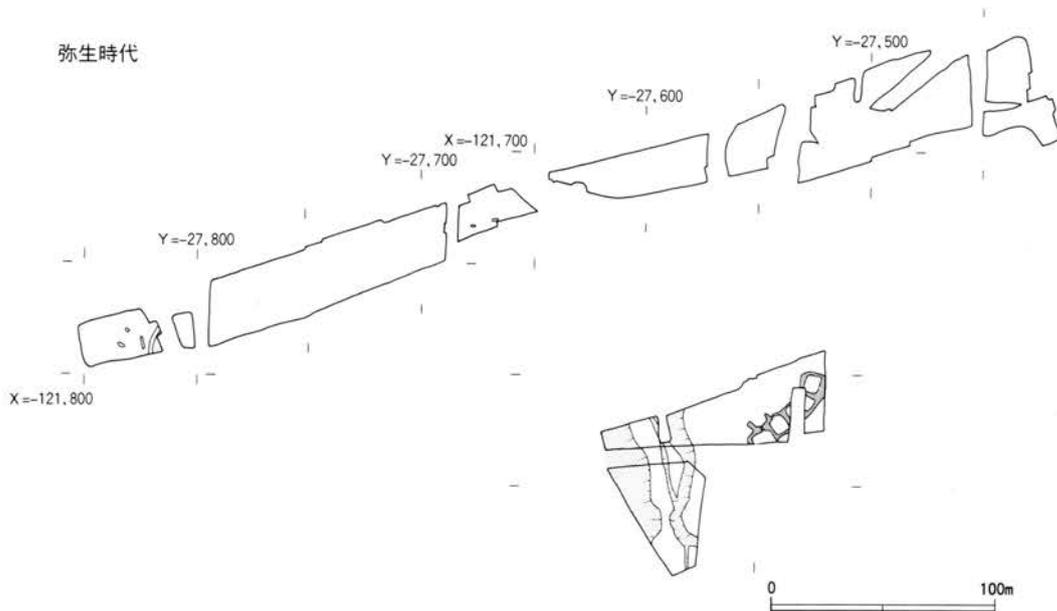
下植野南遺跡からは2か所の土器棺と考えられる縄文時代晩期の深鉢が埋納された土壙が検出されている。C-2トレンチで検出したS K395602は、晩期突帯文土器では1個体のみ出土であるが、C-3トレンチのS K368310は2個体の突帯文土器が含まれていた。両者とも完形にほぼ復元できることから、合口の可能性も指摘できるが、土壙掘形が小さく検討の余地もある。

乙訓地域では鶏冠井遺跡・石田遺跡・今里遺跡・開田城ノ内遺跡から土器棺墓(山本1995)が発見されている。鶏冠井遺跡の長岡京跡左京第209次調査では、滋賀里Ⅲb式土器を2個体用いて合口している。開田城ノ内遺跡では、近接して2基の土器棺が検出されている。比較的広い面積を調査した今回の調査では、周辺に顕著な遺構や居住を思わせるほどの遺物の出土は見られなかった。居住域と地区分けがあったものと想定される。また甕棺墓の基数が少数または単独であることは、この地域の特徴と考えられる。

第2節 弥生時代中期前半の遺跡とその立地

1. 下植野南遺跡の弥生時代

弥生時代の遺物は、小泉川に近い地区、調査地点では西側に見られる。1992年度A地区においては、弥生時代中期前葉の土坑・溝が検出されている。C-1トレンチからは、中期中～後葉の土器棺墓と考えられる遺構が検出されている。大山崎町の実施した下植野南遺跡(林他1996)の発掘調査地はC-2トレンチの約150m南東にあり、弥生時代中期の方形周溝墓が6基検出されている。1998年度の当調査研究センターの調査でも、隣接する地域で多数の弥生時代中期前葉・中葉の方形周溝墓を検出している。



第32図 弥生時代遺構分布図

出土遺物は、遺構中のものを除くと、包含層からは出土量が少なく、長期の居住など頻繁な生活痕跡は認められない。

周辺遺跡では、北側に広がる段丘面上の碇遺跡・南栗ヶ塚遺跡がある。南栗ヶ塚遺跡は、弥生時代中期初頭の方形周溝墓が検出されており、埋葬主体部からはサヌカイト製の打製石鏃が3点出土しており、いわゆる戦士墓と位置づけられている。弥生時代の遺跡は、下植野南遺跡の北側に広がるものと考えられる。

下植野南遺跡の位置付けは、主に墓域として利用されたものと考えられる。大山崎町調査分では、標高10.2mの高さから方形周溝墓群が営まれている。さらに標高の低い南側には、水田が設けられていたと想定される。墓を残した弥生人たちの居住域は、現在の下植野の集落が載っている段丘面上に推定できる。

2. 土器の編年的位置付け

A地区のS D368501からは畿内第Ⅱ様式の土器が出土している。土器群の位置付けを周辺遺跡の出土遺物から行いたい。

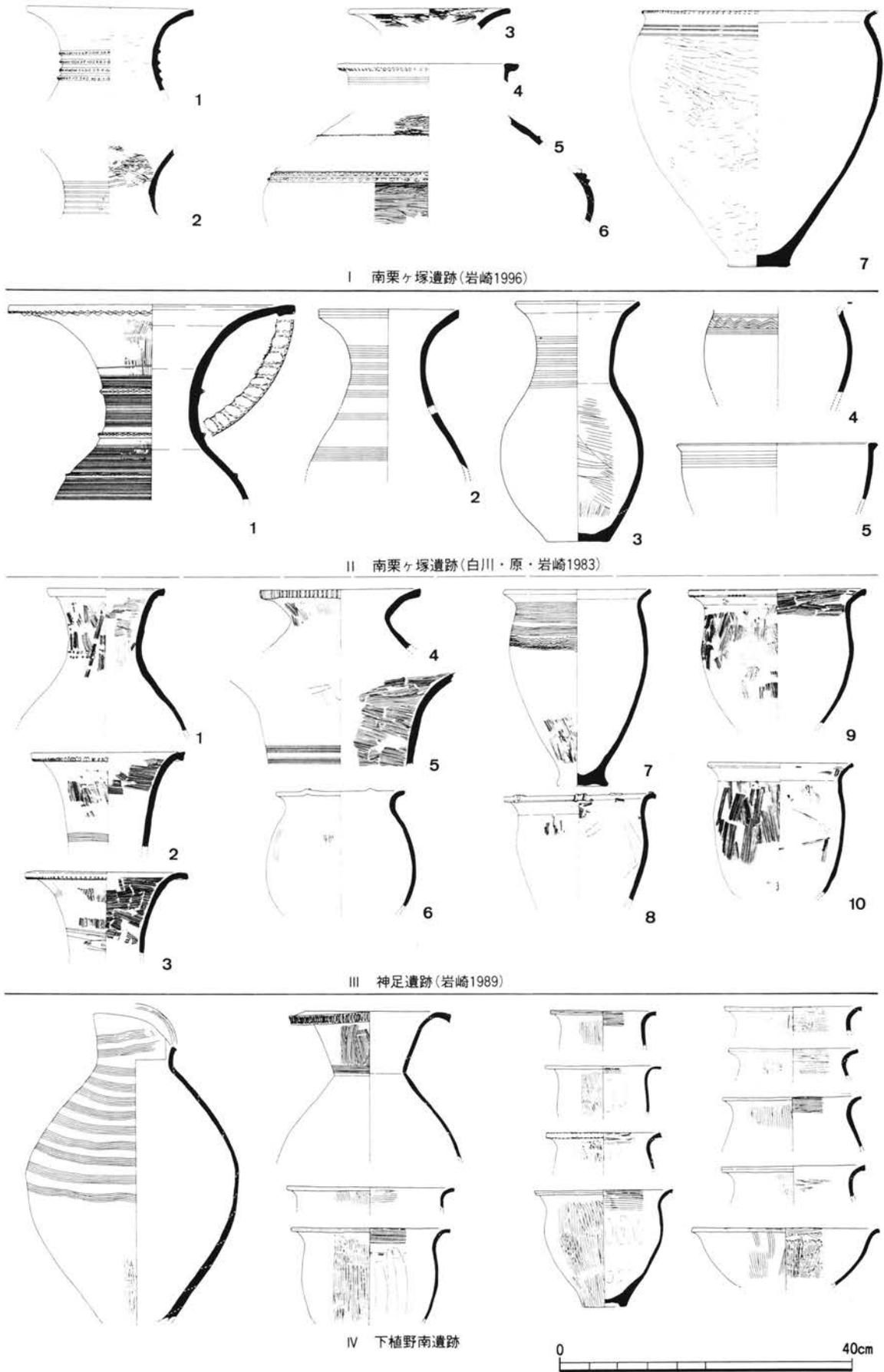
下植野南遺跡S D368501で出土した資料は、壺形土器は少ないが、甕は口縁端部に刻みがなく、外面に粗い縦方向の強いハケ、口縁部内面には粗い横方向の強いハケが施されたものがほとんどである。水差し形土器の頸部から体部に施された櫛描直線文は植物質の茎を結束したものを原体として描いたと思われるような粗い不揃いなものである。これは中期前葉の特徴を示すものと考えられる。乙訓地域で典型的なⅡ様式の甕のみで構成される。包含層からは、口縁内面にハケで波状文が施された甕が認められる。この調査区では、Ⅱ様式以外の弥生土器は出土していない。223は、S D368501以外の出土である。

(1) 弥生時代前期後葉の土器群

南栗ヶ塚遺跡長岡京跡右京第473次調査(岩崎1996)の資料で、土坑S X13・土坑S K34から出土したものを指標とする。出土遺物は、第33図1のように頸部が長く、貼り付け突帯が多条で刻みが施されるもの、6のように刻み目に布の圧痕が残るものがある。また、2のように長頸化した頸部に多条の沈線の施されたものや、9条以上の沈線の施文された体部片も存在している。これらの諸特徴から、弥生時代前期後葉でも最も新しい一群と考えられる。

(2) 弥生時代中期前葉

南栗ヶ塚遺跡(白川・原・岩崎1983)の方形周溝墓3911および3914から出土した土器群である。1～3は方形周溝墓3911から出土した土器である。3は原体が4本単位の粗い櫛描文が5条施文されている。2は頸部に9本のヘラ描沈線文が施されている。2は口縁端部が面をなし、2本のヘラ描沈線文が認められる。頸胴部には上から6本、4本、6本、4本、6本、4本、8本のヘラ描沈線文が施されている。1は口縁端下面に粘土を貼り付け、指頭圧痕が加えられ、端部には刻みが施されている。頸胴部は貼付突帯文と櫛描文、ヘラ描沈線文が施文されている。5・6は周溝墓3914から出土している。5は瀬戸内系のL字状口縁の甕の系譜上に乗るものと想定される。壺形土器2を観察すると、ヘラ描沈線文も櫛描文も密集する線を文様帯とし、その文様帯を間隔



第33図 弥生時代前期末～中期前葉の土器群

を開けて配列しているのは、文様効果の点でほとんど代わらないことが判る。

次の段階に位置するものは、神足遺跡右京279次調査(岩崎1989)のS K1689から出土した土器群である。広口長頸壺が多く出土している。甕にはヘラ描沈線文が認められなくなり、近江地域の影響を受けたもの、播磨地域の影響を受けたもの等が存在する。

このように下植野周辺の遺跡では、甕の体部に櫛描文が多く見られる瀬戸内系甕を含む土器群が認められる。前期末の土器群の文様的な変遷を仮定してみると、壺ではヘラ描沈線文の多条化→ヘラ描沈線文と櫛描文の併用または共存→櫛描文が考えられる。甕では無文化と定型化の方向に向かうと考えられる。

第3節 古墳時代

1. 古墳時代の集落変遷

古墳時代にはいと最も多くの遺構が検出できるようになる。古墳時代を大きく5つの時期に分けたい。庄内・布留・5世紀(須恵器出現以後)・6世紀・7世紀である。

(1) 庄内期

C-2・C-6トレンチでは庄内期の竪穴式住居跡が検出されている。B地区の1991年度調査地では、庄内期と考えられる溝S D36848とともに、古墳時代後期の住居跡を検出した面の、さらに下層から、掘立柱建物跡が発見されている。この遺構の年代は、遺物が微細であるため不明である。A地区では小規模な溝S D395444が検出されている。A・B地区では上記の遺構を除くと、この時期の遺構はまったく発見できなかった。また、出土遺物もほとんどなかった。C-2・C-6トレンチでのみ竪穴式住居跡が検出されたが、庄内期の集落の中心は不明である。A地区の北側の長岡京跡右京第46次調査地内からは、庄内期の竪穴式住居跡1棟が発見されている。同じ名神高速道路拡張に伴う調査の内、小泉川の西側の百々遺跡調査では庄内期の住居跡1棟が検出されている。布留の時期の住居は検出されていない。算用田遺跡(中川1993)ではS H02からタタキを体部に持つ甕が出土している。

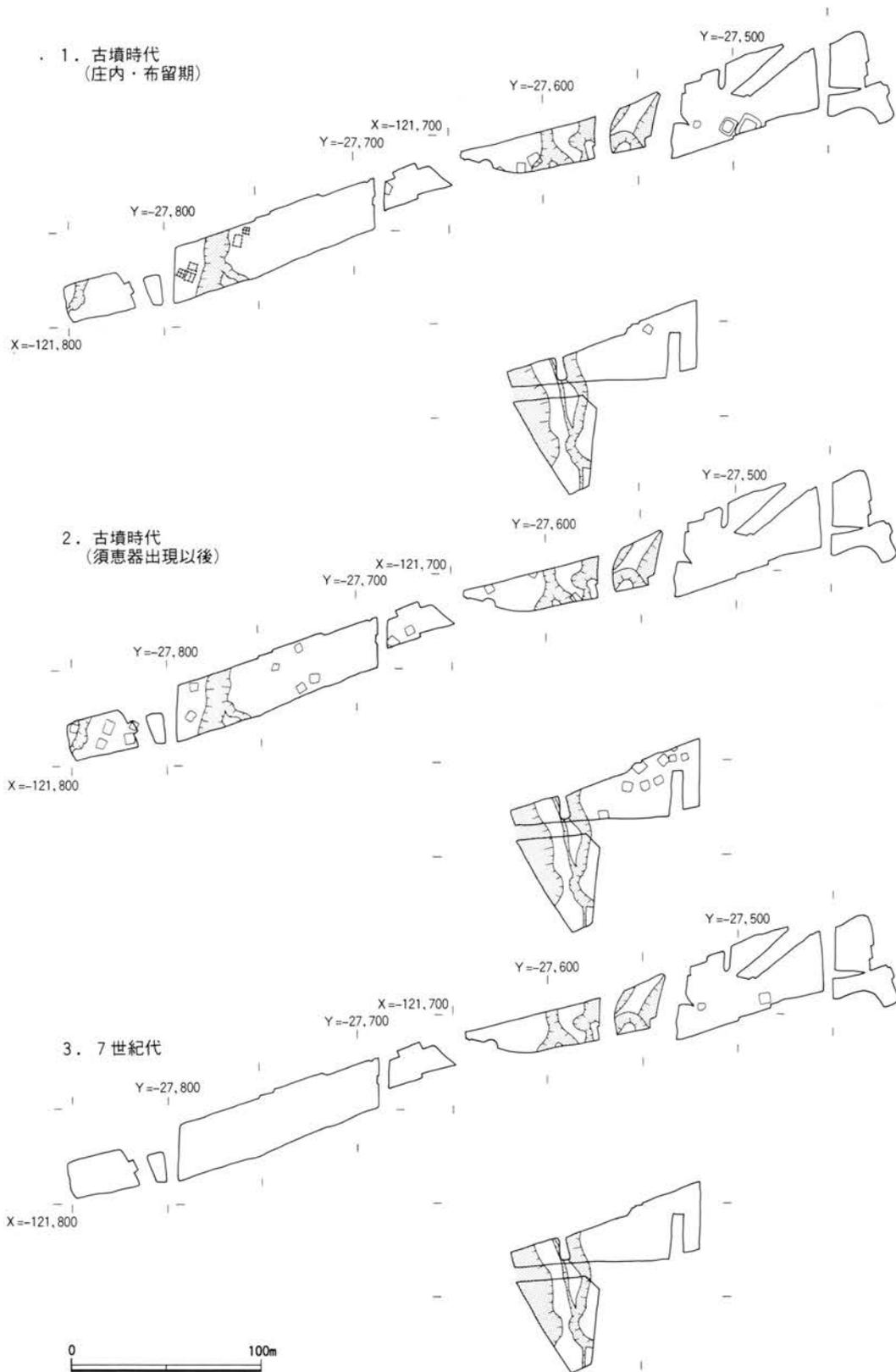
(2) 布留期

布留期の住居はC-1トレンチのS H368202・C-2トレンチのS H395690・S H395677がある。C-3トレンチの南の大山崎町調査地(林他1996)において、布留期の住居跡(S H70)が1つ検出されている。算用田遺跡(林1991)では、S H02・03の2棟がある。本調査地では、A地区やB地区では布留式土器がほとんど含まれていないことから、庄内・布留期には集落分布が異なっていたと考えられる。

(3) 5世紀(須恵器出現以後)

各調査区、特にC地区以西では、5世紀の須恵器を散見することができるが、C-1・S H368203を除き竪穴式住居跡は発見されていない。集落の中心域が、北または南にずれたと考えられる。

(4) 6世紀



第34図 古墳時代遺構分布図

須恵器編年で言うとTK10・MT15型式の時期に当たる。下植野南遺跡では最も多く発見される時期のもので大山崎町調査地(林他1996)では13棟が、調査区の北側を中心に発見されている。今回報告の調査地では、10棟検出されているが、多くはA地区・B地区・C地区の西半であるC-1・2トレンチに分布している。A地区ではTK10・MT15型式の時期の遺構が上下で検出されているが、土器型式には顕著な差が認められない。同時期の住居跡は、小泉川を介して西に広がる算用田遺跡からも発見されている。長岡京跡右京第192次調査(林1991)では、6世紀の竈を持つ方形の竪穴式住居跡が1棟検出されている。その隣接地の当調査研究センター調査地(中川1993)内からも3棟の住居跡が見つかった。1998年度(中村1999)の下植野南遺跡の調査でも、当該期の住居跡が多く発見されることから、現在の名神高速道路の部分を中心に、等高線にそった形で横長の集落構造をしていたものと考えられる。

現在の小泉川は、下植野地域では天井川になっており、天災によって氾濫を繰り返したと想定できるが、堤防に近接するA地区や算用田遺跡の調査地では、古墳時代の流路は発見できなかった。むしろ、B地区やC-4aトレンチに顕著な古墳時代の河川堆積が見られた。

(5) 7世紀

建物跡は、下植野南遺跡、算用田遺跡に広がり認められるが、数は6世紀に比べ減少する。今回の調査区では、B-6トレンチのSH395803、C-3トレンチのSH368304・SB368302があげられるが、他に同時期の遺構は存在しない。算用田遺跡からは竪穴式住居跡1棟と土坑が検出されている。百々遺跡(岩松編1998)ではSH367047・36717がある。

以上のように見ていくと、下植野南遺跡は、古墳時代全般を通じて存在しているが、6世紀に最も住居跡の分布密度が高くなるのがわかる。A地区の6世紀と考えられる遺構面を覆うSR39533を形成した洪水以後、A地区では住居が営まれなくなる。7世紀の住居域の変化と集落個数の減少は、A地区での現象と関連するものかも知れない。

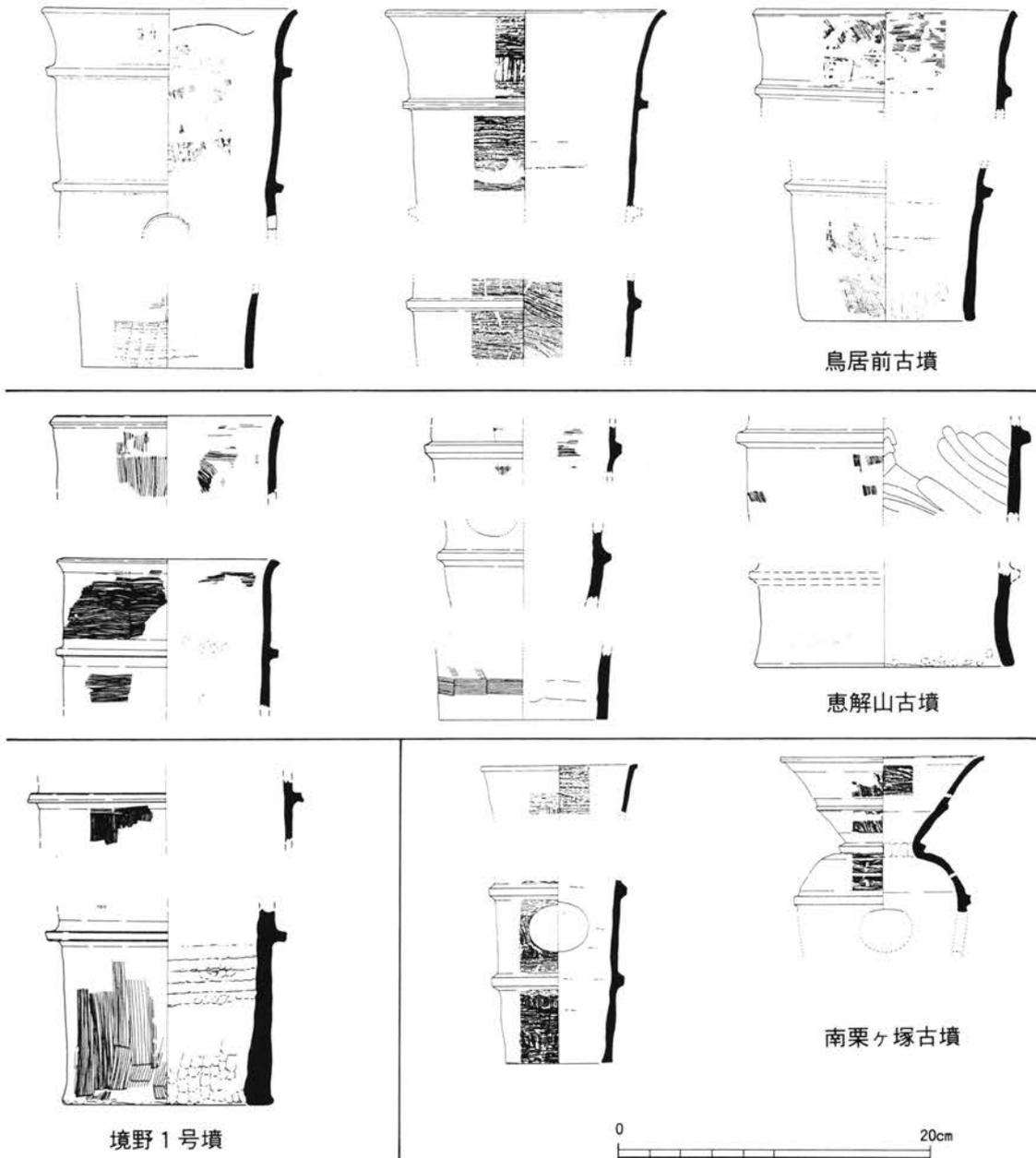
2. C-3トレンチ出土の埴輪からわかること

C-3トレンチからは、埴輪棺に用いられた埴輪が出土している。円形透かしのみで構成されており、川西編年ではⅢ期に分類されるものであるが、Ⅱ期の特徴を残している。直径は約40cmで、高さは46cm以上と考えられる。大形のもので、その埴輪がどこからもたらされたかが問題となる。

周辺で埴輪の出土している遺跡には、南栗ヶ塚遺跡(白川・原・岩崎1983)・恵解山古墳(山本他1987)・鳥居前古墳(都出・福永他1990)・境野1号墳(林1981a)がある。

鳥居前古墳は全長51mの帆立貝形の墳形を持つ古墳で、京都府教育委員会と大阪大学が発掘調査を実施した。主体部からは巴形銅器・画文帯神獸鏡・勾玉・管玉・鉄器が出土している。出土埴輪から5世紀前葉と位置づけられる。

恵解山古墳は、盾形の周溝を持つ全長120mの前方後円墳である。前方部からは700点以上の鉄器が出土した副葬品埋納施設が発見されている。埴輪には全形のわかるものはないが円筒・朝顔形円筒・蓋形・家形がある。黒斑を持つものが多い。調整から5世紀前半と考えられている。



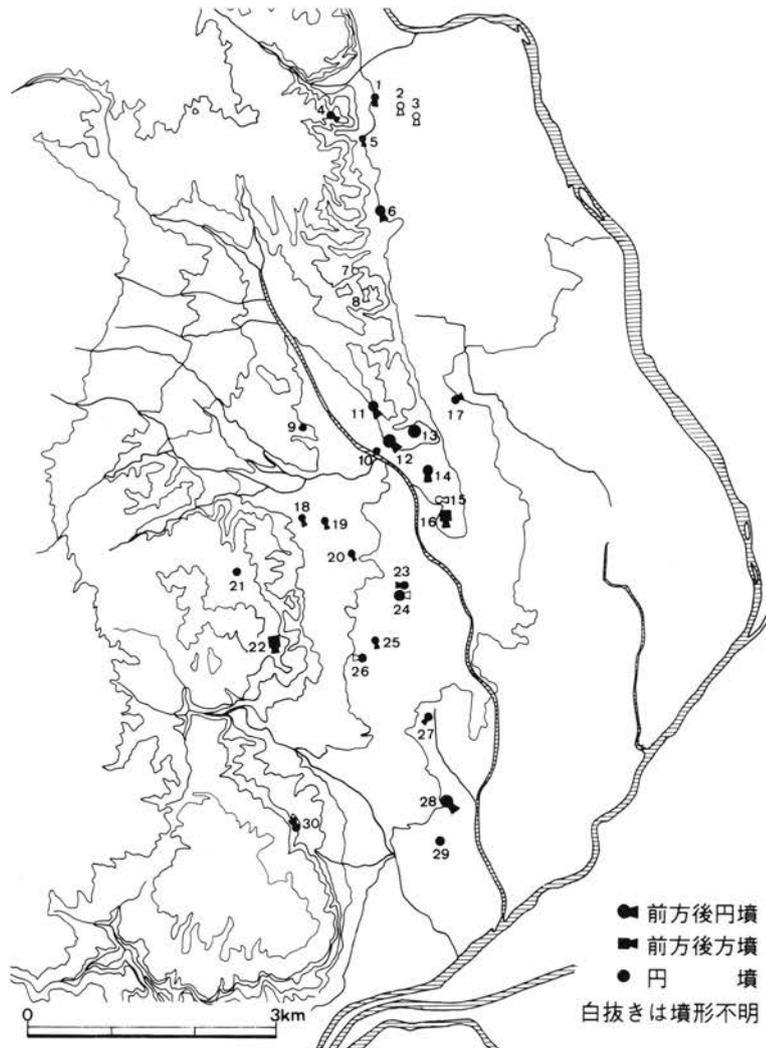
第35図 下植野南遺跡周辺出土の埴輪

南栗ヶ塚古墳は恵解山古墳の東南60mにある東西14m・南北17mの長方形墳である。埴輪には普通円筒と朝顔形円筒・家形があり、無黒斑で、最大径が20cm前後である。5世紀後半の年代が与えられている。

境野1号墳は長岡京市と大山崎町の境に位置する。現在は墓地として利用されているが周辺より約5m程高い。遺跡地図によると4基の小型墳が登録されているが墳形や基数については根拠が薄い。1982年の発掘調査によって、葺石と埴輪列が発見されている。これらの条件と埴輪が5世紀前半のものであること考えると、大型の円墳または前方後円墳であったと考えられる。中山修一は山崎合戦の時、明智光秀が本陣をおいた「御坊塚」を地元の人達が境野古墳のある場所を呼んでいると紹介している。御坊は「しゆく」または「宿院」と言う地元の字名からも、境野古墳群であることが傍証される。中世末期に地元の人々に塚として認識されており、本陣をおける

広さがあったことを示しているのではないだろうか。本格的な遺跡確認調査が切望される。

このように見ていくと、鳥居前古墳が丘陵上に作られているにもかかわらず他の古墳は下植野の段丘面から同じ面にのった久貝地域に広がる。乙訓地域の古墳は都出比呂志によって詳細な検討が加えられている。首長墓の系列を檜原・向日・長岡に分け、長岡グループの恵解山古墳が5世紀に地域の中で卓越するというものである。しかし、恵解山古墳は長岡グループの中でも最も南に位置し、前後の時期の古墳と大きく所在地が離れている。また、鳥居前古墳は単独で地域分けから離れ、位置付けがなされていなかった。上記のような恵解山古墳に近接、先



第36図 乙訓地域主要古墳分布図

行する大型墳の存在は、従来の考え方を大きく転換させる可能性を持つ。恵解山古墳が現在の位置に造られたのは、下植野南遺跡や、段丘上の遺跡群を基盤としたと考えても差し支えない

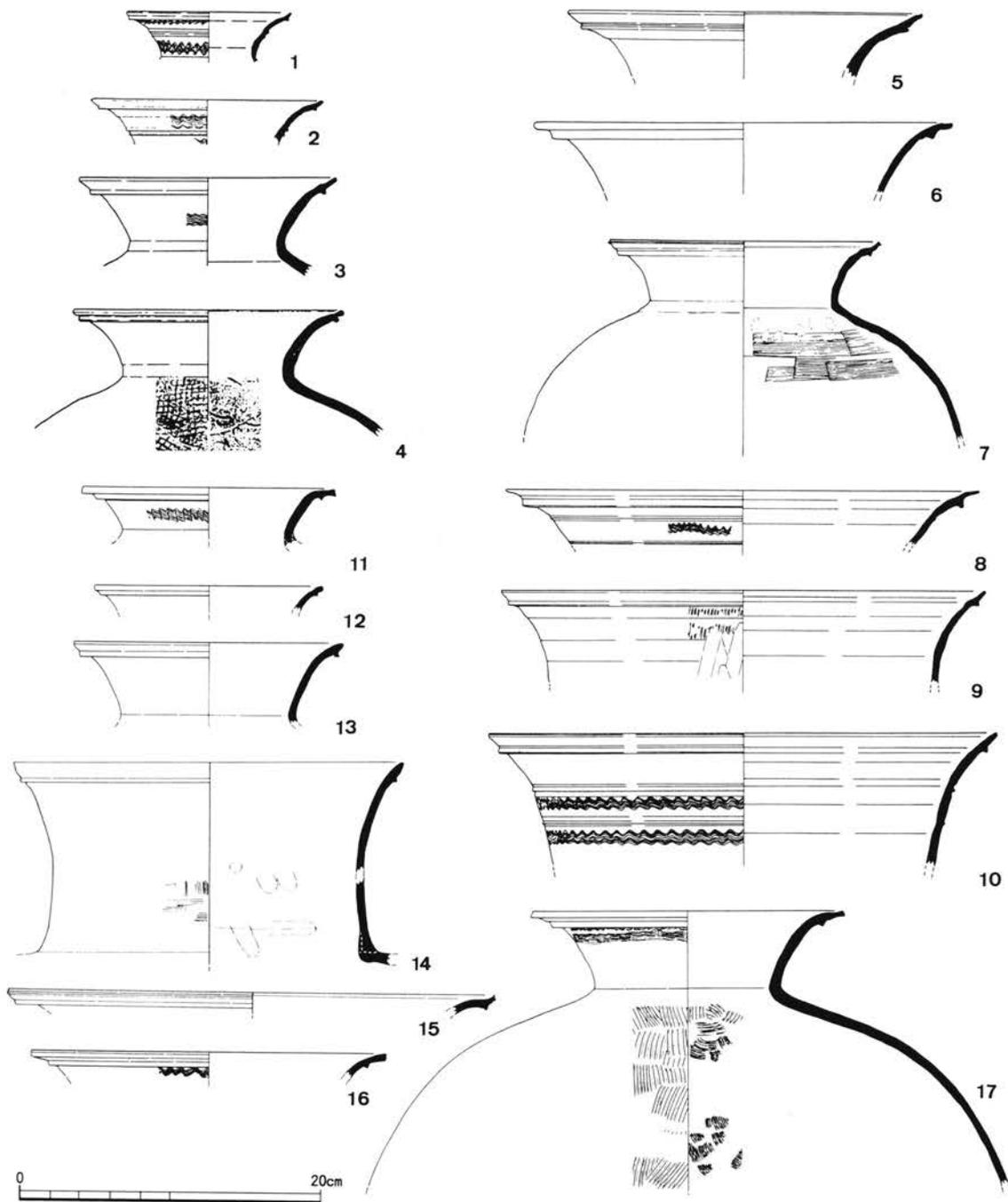
1. 穀塚古墳 2. 清水塚古墳 3. 天鼓森古墳 4. 山田桜谷1号墳
 5. 巡礼塚古墳 6. 天皇ノ森古墳 7. 百々池古墳 8. 一本松塚古墳
 9. 鏡山古墳 10. 牛廻し古墳 11. 寺戸大塚古墳 12. 妙見山古墳 13. 伝高島陵古墳 14. 五塚原古墳 15. 北山古墳 16. 元稻荷古墳 17. 物集女車塚古墳 18. 芝1号墳 19. 井ノ内車塚古墳 20. 稻荷塚古墳
 21. カラネガ岳2号墳 22. 長法寺南原古墳 23. 今里庄ノ淵古墳 24. 今里車塚古墳 25. 舞塚1号墳 26. 今里大塚古墳 27. 塚本古墳 28. 恵解山古墳 29. 境野1号墳 30. 鳥居前古墳

と考えられる。また、恵解山古墳の周囲には小型墳が多くあったと想定できる。鳥居前古墳・境野古墳・恵解山古墳に続く山崎グループも視野に入れて、首長墓系列の再検討も必要があろう。

3. 古式の特徴を持つ須恵器について

下植野南遺跡からは多くの初期須恵器と考えられる土器が出土している。若干新しいTK208型式併行期の須恵器も含めて紹介してみたい。

最も古い特徴を持つ須恵器は甕に限られる。24・150・155・163・214・218・219・628・629・902・962は甕の端部からやや下がった外面に断面三角形の突帯が巡るものである。これらの土器



第37図 乙訓地域出土の古い口縁部形態を持つ須恵器集成

- 1・2:今里遺跡(高橋・奥村他1979、高橋・久保他1980) 3:森本遺跡(奥村1985)
 4:山開古墳(平良1976) 5~7:中海道遺跡(中川1992) 8~10:下植野南遺跡(林ほか1996)
 11~17:下植野南遺跡(林ほか1996)

は、TK73型式と考えられる。口縁端部の形状で端面を持つものと、丸く終わるものとに二分される。胎土は小型のものの一部を除くといゆる陶邑産のものとは異なる。また、現物の一部を吹田市の吹田32号窯出土品と対比したが肉眼的には異なるものと考えられる。また、それ以外の器種については、19・60・114・158・209・210・215・279・289・338・631等があり、多くはTK216~208型式に属するものであろう。215に関しては甌の把手部に割れ目が入り、外面には縦

方向の並行タタキが入り韓式土器の範疇で捉えられる。大山崎町の調査でも、古い様相を持つ大型の甕の口縁部が出土している。

同様な甕を出す地域には向日市中海道遺跡・同市山開古墳・同市森本遺跡・長岡京市今里遺跡・大山崎町算用田遺跡がある。中海道遺跡第17次発掘調査(中川1992)では、第37図5～7が出土している。7はSH09から出土した甕で土師器の甑・高杯・鉢・甕が共伴している。近接する中海道第3次調査(國下1984)では平底の韓式土器が出土しているが、第17次調査の住居跡からも器面調整は不明であるが、平底の土器片が出土している。また包含層中には格子目タタキを持ち、内面がナデによって当て具痕跡が消された甕の体部片も存在している。下植野南遺跡に近接する算用田遺跡(中川1993)からは縄蓆文を体部に持つ甕が出土している。

今里遺跡からも、数点のTK73型式の甕が出土している。その他、TK73型式の杯蓋が南栗ヶ塚遺跡の自然流路中から出土している。また向日市南条3号墳からも発見されている。初期須恵器の出土する遺跡は首長墓の周辺で発見され、古墳を作った勢力と考えられる。これらのことから、下植野南遺跡が首長墓を作った勢力の1つであったことが推測できる。

下植野南遺跡は乙訓郡内で韓式土器が最も多く発見された遺跡でもある。出土遺物には土師質のものとして67・186・952の甑の把手部分に割れ目や刺突のあるもの、157・180・181・1233の格子目タタキを外面に持つ甕がある。215は甑の把手部に割れ目が入り、外面には縦方向の並行タタキが入る須恵質の土器である。

この遺跡に近接する算用田遺跡の長岡京跡右京第192次調査(林他1991b)では、器表面を竹管文で施文された鳥形の臚が出土している。以上のような遺物の入り方から、乙訓地域、とりわけ同一の沖積面に位置する算用田遺跡・下植野南遺跡、その段丘面上に広がる南栗ヶ塚一体の遺跡群が恵解山古墳の被葬者を支え、その立地にこそ意味があると考えられる。

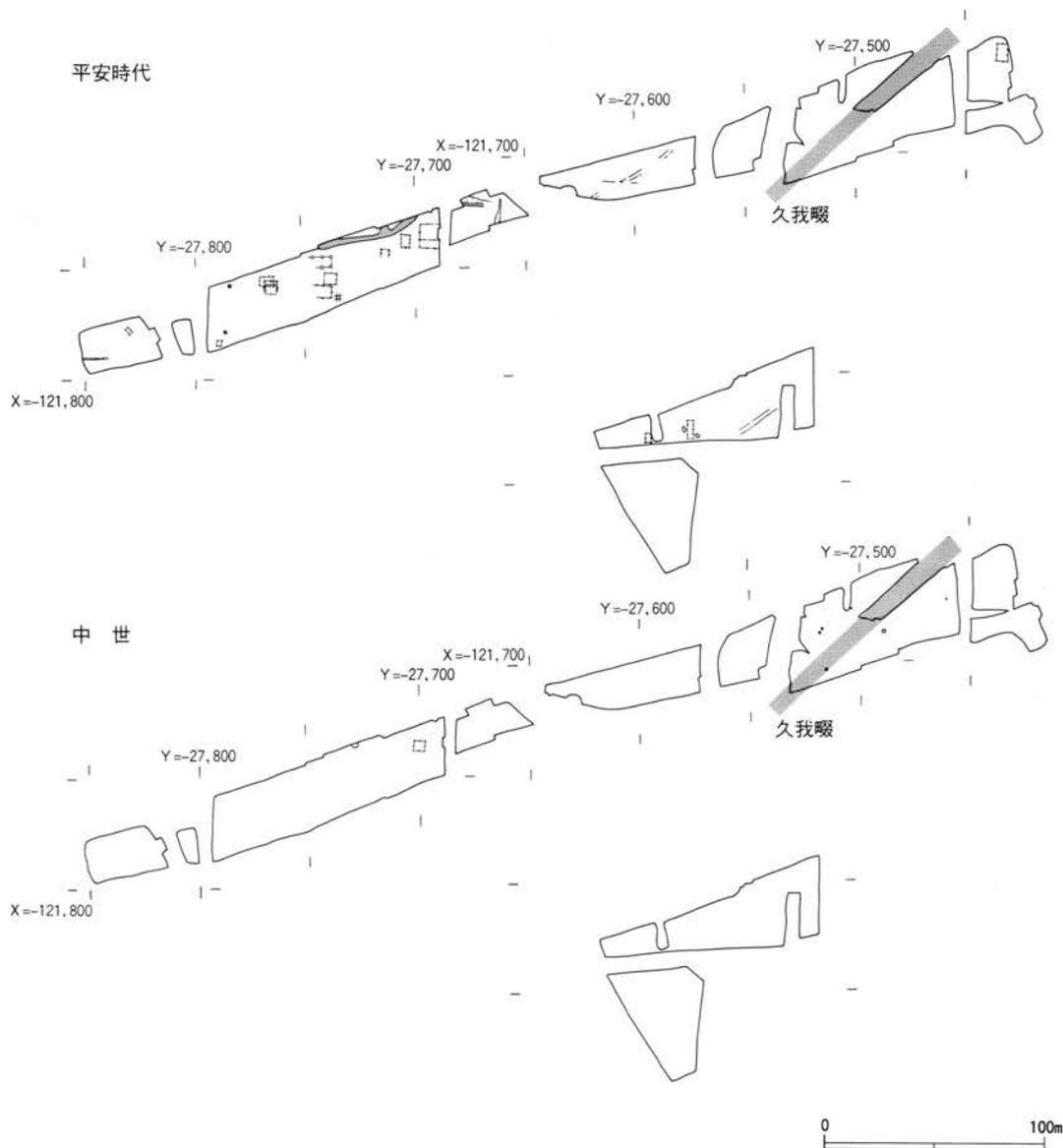
第4節 平安時代の下植野南遺跡

1. 遺跡の概観

奈良時代の遺物はほとんど全域で発見されていない。ただ、長岡京期前後と考えられる1991年度B地区のSK368114が奈良時代末である可能性はある。

平安時代と考えられる遺構は、B地区に多く分布している。C-5aトレンチでは1棟のみが検出されている。発見できた遺構には、井戸・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構・土坑・轍がある。井戸はすべてB地区で発見されており、中でもSE368106は蒸籠組の大型の井戸である。内部からは860・861の平城京の瓦が平安時代の土器と共に出土している。瓦と出土遺物には時間差が存在していることから、瓦は二次的に利用されたと考えられる。A・B地区では包含層からも布目痕を持つ瓦破片が出土しており、部分的に瓦が用いられた建物があったことがうかがえる。

今回の調査区内で、最も注目できる遺構には、石敷きの道路跡SF36836がある。B地区の北側で検出した遺構で、石敷きの残りの良い部分では、両脇に側溝状の溝が小石で造られていたことがわかる。路面は石が疎らであることから、検出面よりも道路が造られた当時は、側溝との比



第38図 平安時代・中世遺構分布図

高があったものと考えられる。1992年の調査では、南側溝の下から検出した素堀溝から平安時代の土師器片が出土した。S F 36836は、B地区内では弧状を呈し、1か所に北側に向かう分岐が認められる。隣接するC-1地区でもまた東西方向の石敷きが検出されたが、B地区のように側溝は見つからなかった。この石敷きは調査区の中程で削平のため消滅する。このような石敷きを周辺の調査地から探すと、長岡京跡右京第58次調査(林1980b)がある。大山崎町によって実施された調査で、小泉川を隔てて250mの地点である。石敷列S X 5801の上には土器溜りS K 5802が有り、13世紀の瓦器や青磁皿が出土している。石敷列そのものの遺構の年代を示す遺物は出土していない。この地点で検出した2条の石敷きが、S F 36836の両側溝部であれば、両端を延ばすと平安時代にすでにあったとされる通称西国街道と久我暇に接続することとなる。

小泉川西に広がる百々遺跡の場合、9～12世紀を通して西国街道を中心に建物が作られているが、その中心は西国街道の西側である。下植野南遺跡に近い東側ではほとんど建物が無い。下植

野南遺跡に広がる平安時代の建物群は、百々遺跡のものと異なる集落となる。また、今回報告の調査区の南側(林他1996)では大型の平安時代の遺構はほとんど発見されていない。

2. 平安時代の下植野

現在の下植野は江戸時代には東西に宿院村と下植野村に分かれていた。元禄十五年に完成したとされる『山州名跡志』卷之十によると、宿院村には正気山成就院、下植野には向黄山帰海印寺があったと記述されている。成就院は「在同所南寺南面 宗旨 浄土 本尊 阿彌陀佛坐像二尺五寸 作 恵心僧都 脇士 毘沙門天立像二尺五寸 作 湛慶 不動 作 弘法大師 開基 教圓法師」とあり、帰海印寺は「千手院在下植野村内 宗旨 眞言 門西向 堂東向 本尊 千手観音 立像八尺計 作 定朝 脇士左不動立像一尺計 作 弘法 右地藏立像二尺四五寸計 作 傳教 開基僧不祥 傳日昔平家世蒙流罪平判官泰頼少将成常於嶋祈帰洛。遂得感應為帰京。其願成辨故所立而鎮守熊野。木船神也 是便祈願故也。古堂跡東方半町計アリ堆檀故號堂山」とあるように、2つの寺院の存在が書かれている。書かれている内容については当時の寺の伝承をもとにしたものであるが、仏像の作家が歴史上有名な人物ばかりで、記述の信憑性が薄く感ぜられる。平成常は鹿ヶ谷の陰謀で鬼界ヶ島に流された院の近臣である。鬼界ヶ島と帰海印寺は音が似ている。また、小泉川の上流にあった9世紀半ばに道雄によって創建された定額寺海印寺との関わりも指摘できる。現在上植野地区には正覚寺という浄土宗西山派の寺院が存在しており、延享3(1746)年の『浄土宗光明寺派下寺院本末牒』に名が見られる。『京都府の地名—日本歴史地名大系26—』(下中編1981)によると、出典が明らかにされていないが、正覚寺は寛永年間の鏡空の創建で、その客殿は帰海印寺から移設されたものと書かれている。現在その建物は取り壊されているが、存在は確認されている。現住職のご厚意により本堂内で若干の調査をさせていただいた結果、本尊は阿彌陀仏で多くの仏像が小さな建物の中に残されていた。京都府の仏像調査の結果、多くの仏像は江戸時代の作と鑑定されたが、不動のみが藤原期と位置づけられ、正覚寺の創建年代と異なる。本尊の安置されている厨子の扉には由来書きが書かれていた。江戸時代のものであるが、帰海印寺には有名な千手観音があり、僧の夢に千手観音が現れ、自分の厨子が朽ち果てているのでなおして欲しいと語ったので、お金の支援者を募ってこの厨子を作ったことが書かれている。つまり帰海印寺の仏像に付属する物が正覚寺に移動し、中に安置されていた千手観音の代わりに阿彌陀仏が入れている。正覚寺に残された仏像群も多くは帰海印寺の物と想定される。厨子の規模から立像であったと考えられる。ただ、江戸時代には厨子が室内にあったにもかかわらず、朽ち果てているほど古かったと言うことは、寺歴の遡ることを示唆している。また、調査区の地名には、寺門の字名が存在している。

平安時代の石敷きの道や蒸籠組の井戸、平城京の瓦の存在から公的な施設や寺院の可能性が考えられるが、本書では帰海印寺またはその先行寺院の存在を指摘したい。

3. 大山崎町内の古道について

西国街道の正式名称は、府道大山崎大枝線である。大山崎町内で久我畷から分離し、向日丘陵で物集女街道と二分する。物集街道はさらに北に延び山陰道につながる。西国街道は百々遺跡の

発掘調査によって平安時代初頭には整備されていたことが明らかになっている。岩松 保(1997)は『大鏡』寛弘2年の中宮彰子が大原野神社へ詣でた記述や、治安2年の『小右記』の大原神社への道の清掃の分担から、七条大路から物集街道を経て乙訓に至るルートをも復元している。

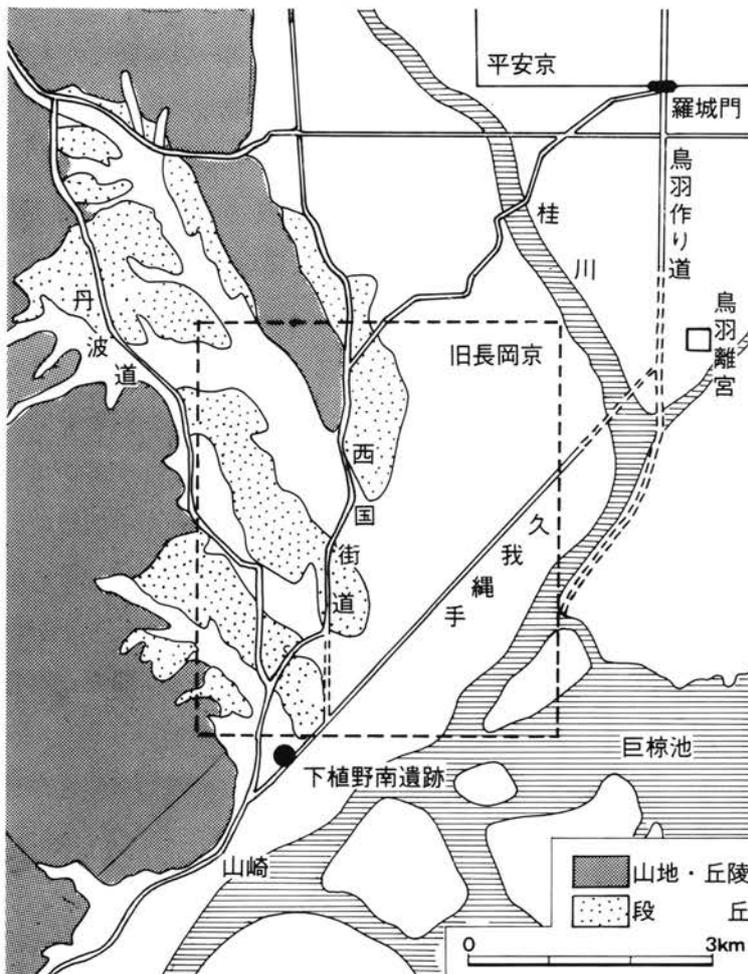
また、『今昔物語』巻二十七の四十二の邦利延の物語から、九条から桂川をわたり向日市の寺戸を通り乙訓川を経て、山崎へ至る現在と同じ西国街道のルートをも推定している。双方のルートは共に平安京に至る道であることを導き出している。

久我暲は、平安京の羅城門の南へ直線的に延びて、鳥羽離宮へ向かう鳥羽作道から、鳥羽離宮で分岐し、桂川を渡河して西国街道に取り付く直線道路である。岩松は久我暲を鳥羽離宮造営に伴って作られたものとし、足利健亮(1983)は平安京造営と共に設けられた山陽・南海道併用道路と位置づけている。

遺物から検討をおこなうと、岩松説の方が現在の所有利であるが、岩松は山陽道の機能を物資の面からのみ検討している。高橋美久二(1982)によれば山陽道の駅は、来賓を迎える道の迎賓館的な性格を持ち、山崎駅ではたびたび天皇の行幸を受けていたと指摘している。『続日本紀』の承和九(842)年三月の条には「壬戌。渤海客徒賀福延等発自河陽。入于京師。遣式部少輔従五位下藤原朝臣諸成爲郊勞使。今夕。於鴻臚館安置供給。」とあり、河陽宮は山崎駅とされる(高橋

1986)ことから平安時代の前期に外国使節が逗留したことが解る。山陽道の1つの使命に外国使節の通る道の機能があったことは否定できない。外国使節は平安京の正門である羅城門を経て京内に入り、鴻臚館に到着させるという構想が見て取れる。

百々遺跡の調査(岩松編1998)では、9世紀の建物が西国街道の方向に軸を合わせた状態で道に面して検出されている。高槻市の郡家今城遺跡では道幅6mの山陽道と平安時代の建物跡が検出されているが、建物が真北の方位を持つのに対して、山陽道は斜行する。道路に規制されない建物配置や地割りの計画線がうかがい知れることは、百々遺跡例とは異なる。



第39図 平安時代の古道(原1996を改変)

下植野南遺跡における平安時代の建物の方位は、ほぼ真北方向で、久我暇の方向に規制されない。久我暇は桂川に近い低湿地部を通ることから、天井川の氾濫のため維持管理が困難であったことが予測される。元弘3(1333)年の『太平記』の記載によると「久我繩手ハ、路細ク深田ナレバ馬ノ縣引モ自在ナルマジトテ」と路の様子が描かれている。久我暇は安易に非実用性が予測できるのにもかかわらず、作られたことに意義があると考えたい。同時代史料ではないが、奈良時代には渤海使を九州の鴻臚館に向かうよう命じている。奈良時代以降、新羅使の来訪はないが九州の鴻臚館が日本の正式な外交窓口であったことは否めない。平安京が、条坊制の施工時に湿地帯が多い右京域に条坊を施工していることは、都城の理想を具現化した行為と考えられる。後に右京域は寂れていく。久我暇も同じ状況下で作られたとは考えられないだろうか。外交使節の往来や、行幸と言った国事に関する交通路として整備されたが、立地条件に問題があり、使われなくなった。一方、西国街道は山崎の津からの物資の移動や人の移動に用いられる実用道の性格を持っていたものと考えられる。

山崎津の重要性は高橋(1992)が指摘するように大型の船舶が廻りえた最後の港である可能性が高いことにある。この港で陸路あるいは小型の舟に荷物を積み替えることが、繁栄の基盤にある。それを示す資料には、『土佐日記』中で承平5(983)年に土佐から帰ってきた紀貫之が、山崎で上陸して車で京に向かっている。また、入唐僧奄然が帰朝した時も山崎で上陸している(『続左丞抄』第一)。また『催馬楽』に「難波の海 難波の海 漕ぎもて上がる 小舟大船 筑紫津までに 今少い上がれば 山崎まで」とある。

西国街道が平安初期に羅城門に取り付いていたかは不明であるが、平安初期に羅城門を通り朱雀大路を荷車が行き来した光景は想像しがたい。

第5節 中世の下植野南遺跡

下植野南遺跡で発見される中世の遺構には、2つの時期がある。1つは13世紀を中心とした時期、もう1つは15世紀と考えられる時期である。

13世紀の遺構には、素堀溝・掘立柱建物跡・土坑などがあるが、遺構の多くはB地区に集中しており、S K36841ではまとまった土器群が出土した。掘立柱建物跡(S B368105)もまた、2間×2間で、掘形も円形で小さいことから小規模な建物跡と考えられる。土器の出土量から見ると、周辺に建物跡があったものと考えられるが、B地区では北側に遺構が多いことから、調査区の北側に集落が広がるものと考えられる。この時期にはS F36836の路面に土器を多量に捨てた土坑が認められることから、道の機能はなかったことが解る。

15世紀には明確な建物跡はないが、遺物が出土する不定形な土坑が数基検出されている。下植野南遺跡ではC地区に限られ、その中でも、久我暇をはさみC-3・C-4b・C-4cトレンチで検出される。土坑内からは直径7cmの小径の手づくねの土師皿・瓦が出土している。瓦はB地区で発見される平城京の瓦とは胎土・色調とも著しく異なる。C-3トレンチP25からは同じ胎土を持つ軒平瓦が1点出土しており、15世紀との年代を与えた。この時期の遺物は他の地区で

は1点も出土していないことから、集落とは離れた局所的な施設があったものと考えられる。

15世紀は一般的に瓦の使用は珍しく、寺院や公的施設、有力武士の邸宅等に使用されていたものと考えられる。前述したように大規模な建物が推定できない以上、小型の路傍に建てられた堂宇があったとも考えられる。

大永2(1522)年「小塩荘帳」によると、しゆく村・しも上野村に小塩荘があったことがわかる。小塩荘は光明峰寺領として、九条道家が施入した荘園である。また、15世紀には「下上野率分所」があったことが『教言卿記』に書かれている。同じ時期、山崎口の関所で15世紀中頃に調子武春が紙駄別課役銭を徴収する代官に補任されている。調子氏は近衛家に所領を寄進した家で、玉城(1996)は近衛家から認められた権利であろうと推測している。応永10(1403)年の『播磨国矢野荘供僧方年貢代銭送進状并支配状』では、山崎新関と呼ばれており、15世紀の初頭前後に成立したことがわかる。16世紀の初頭には、山崎口の関銭徴収権は幕府から竹田氏に与えられている。この山崎新関が、下上野率分所と同じものかは不明であるが、下植野地区にある中世の主要道路は久我暇しかなく、関は久我暇に作られたものと考えられる。今回の調査で下植野地区の久我暇の周辺を発掘したが、上記の通り久我暇をはさみC-3・C-4b・C-4cトレンチでのみ15世紀の遺構が出土し、局地的な分布を見せる。関に瓦が用いられていたかは疑問が残るが、遺物の年代から見る下上野率分所の有力な候補地の1つとなる。

第6節 おわりに

今回の下植野地域の発掘調査では、縄文時代から近世に至る様々な時期の遺構・遺物が検出できた。周辺の調査も今回報告分の調査以後すすみ、本報告書よりも一步踏み込んだ研究が行われるのも遠くないと考えられる。当初の目的の一つとされた長岡京の条坊は、各トレンチで見られることはなかった。また、B地区を除くと長岡京期(山中1992)と考えられる遺物は、ほとんど出土しなかった。山中 章の条坊が二町北に上がるという新条坊案を追認する結果となった。また、平安時代の全国的にも希な石敷きの道の存在をこれからも注目する必要がある。実体不明な古墳時代の下植野南遺跡の集落の一端を明らかにすることによって、乙訓の小地域の勢力関係を考え直す必要が生じている。首長墓のあり方もまた違った視点で見ることが可能である。

本書においては、調査データのカタログ化という視点で構成した。周辺での調査の増加が認められることから、報告した遺物の再検討が出来るように調査時の取り上げ番号、概報番号との対照表を掲載した。また隣接地の調査を念頭に、煩雑ではあるが、可能な限り土層断面図を掲載した。

長期の発掘調査には当初の発掘計画が重要であり、後の整理方向まで影響がでることを身をもって体験した。また、調査を支えていただいた大山崎町教育委員会・日本道路公団を初めとする諸機関、調査に従事された方々に記して御礼申し上げたい。

- 足利健亮 1983 「国府と古道」『向日市史』上巻 向日市
- 石尾政信 1998 「第5節 E地区の調査」『百々遺跡』(京都府遺跡調査報告書第24冊) (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 岩崎 誠 1996 「右京第473次(7ANQKS-2地区)調査概報」『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成6年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター
- 岩松 保他編 1998 『百々遺跡』(京都府遺跡調査報告書第24冊) (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 梅本康広 1994 「桂川流域の埴輪編年と地域性」『都城』6 (財)向日市埋蔵文化財センター
- 奥村清一郎 1985 「長岡宮下層出土の初期須恵器」『京都考古』第36号 京都考古刊行会
- 京都大学文学部考古学研究室・京都大学埋蔵文化財研究センター編 1991 『先史時代の北白川』 京都大学文学部博物館
- 川西宏幸 1978 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号 日本考古学会
- 國下多美樹 1984 「中海道遺跡第3次(3NNANK-3地区)発掘調査概要」『向日市埋蔵文化財調査報告書』第13集 向日市教育委員会
- 久保哲正 1984 「山崎津第1次(7YYMTKK地区)試掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第4集 大山崎町教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所
- 小島孝修 1997 「縄紋時代の雲宮遺跡について」『雲宮遺跡』(京都府遺跡調査報告書第22冊) (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 佐原 眞 1967 「山城における弥生式文化の成立—畿内第I様式の細別と雲ノ宮遺跡出土土器の占める位置—」『史林』50-5 史学研究会
- 下中邦彦編 1981 『京都府の地名—日本歴史地名大系26—』 平凡社
- 白川成明・原 秀樹・岩崎 誠 1983 「長岡京跡右京第39次(7ANQMK地区)調査略報」『長岡京文化財調査報告』第11冊 長岡京市教育委員会
- 平良泰久 1976 「長岡宮跡昭和50年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報(1976)』 京都府教育委員会
- 平良泰久 1986 「乙訓の初期須恵器」『長岡京古文化論叢』I 中山修一先生古希記念事業会編
- 高橋美久二 1982 「古代の山陽道」『考古学論考—小林行雄博士古希記念論文集—』 平凡社
- 高橋美久二 1986 「山崎駅と駅屋の構造」『長岡京古文化論叢』I 中山修一先生古希記念事業会編
- 高橋美久二 1992 「長岡京と水陸の便」『長岡京古文化論叢』II 中山修一先生喜寿記念事業会編
- 高橋美久二・奥村清一郎他 1979 「長岡京跡昭和53年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』(1979) 京都府教育委員会
- 高橋美久二・久保哲正 1980 「長岡京右京第26次発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』(1980-2) 京都府教育委員会
- 竹井治雄 1982 「長岡京跡右京第87次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第3冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 玉城玲子 1996 「中世の調子氏」『長岡京市史』本文編1 長岡京市史編さん委員会
- 都出比呂志・四手井晴子編 1971 『京都府乙訓地方の石器—資料篇—』 乙訓文化遺産を守る会第一日曜部会
- 都出比呂志・福永伸哉他 1990 『鳥居前古墳—総括編—』 大阪大学文学部考古学研究室
- 戸原和人・三好博喜 1989 「長岡京跡左京第200次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第35冊 (財)

京都府埋蔵文化財調査研究センター

戸原和人 1992 「長岡京の官道—長岡京と平安京の山陽道の検討—」『長岡京古文化論叢』Ⅱ 中山修一先生喜寿記念事業会編

戸原和人・三好博喜・中川和哉他 1990 「長岡京跡左京第216・右京第343次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第40冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

戸原和人・竹井治雄他 1992 「長岡京跡左京第216・241・242次、右京第349・357次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第47冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

戸原和人他 1992 「名神高速道路関係遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第51冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

戸原和人他 1994 「名神高速道路関係遺跡平成4年度発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第57冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中川和哉 1991 「淀川流域の旧石器文化の一樣相」『京都府埋蔵文化財論集』第2集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中川和哉 1992 「中海道遺跡の再検討(2)」『京都府埋蔵文化財情報』第46冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中川和哉 1993 「算用田遺跡」『京都府遺跡調査概報』第53冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中川和哉 1994 「大山崎町下植野南遺跡の遺物」『京都府埋蔵文化財情報』第52冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中川和哉・土橋 誠編 1997 『雲宮遺跡』(京都府遺跡調査報告書第22冊) (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

中山修一 1996 「山崎の合戦」『長岡京市史』本文編1 長岡京市史編さん委員会

中山修一・中村 研他 1991 『勝龍寺城は語る』(長岡京市文化財調査報告書第28冊) 長岡京市教育委員会

野々口陽子 1997 「長岡京跡右京第541次・脇山遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第77冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

林 亨 1980a 「長岡京跡右京第57次(7ANSMD-2)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第1集 大山崎町教育委員会

林 亨 1980b 「長岡京跡右京第58次(7ANSSG地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第1集 大山崎町教育委員会

林 亨 1980c 「長岡京跡、山崎国府跡、山崎津遺跡立会調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第1集 大山崎町教育委員会

林 亨 1981a 「境野古墳群1号墳第1次(TSN地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第2集 大山崎町教育委員会

林 亨 1981b 「8102次(7ANTMK地区)立会調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第2集 大山崎町教育委員会

林 亨 1982a 「長岡京跡右京第115次(7ANSE地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第3集 大山崎町教育委員会

林 亨 1982b 「長岡京跡右京第116次(7ANTMK地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第3集 大山崎町教育委員会

林 亨 1984a 「長岡京跡右京第133次(7ANSMD-3地区)発掘調査概要」『大山崎町の歴史と文化』 大山崎町教育委員会

- 林 亨 1984b 「長岡京跡右京第147次(7ANTUT地区)発掘調査概要」『大山崎町の歴史と文化』 大山崎町教育委員会
- 林 亨 1984c 「長岡京跡右京第46次(7ANSMD地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第4集 大山崎町教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所
- 林 亨 1984d 「長岡京跡右京第52次(7ANTID地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第4集 大山崎町教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所
- 林 亨 1984e 「山崎津第3次(7YYMTKK地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第4集 大山崎町教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所
- 林 亨 1984f 「山崎津第5次(7YYMTKK地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第4集 大山崎町教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所
- 林 亨1991a「長岡京跡右京第358次(7ANTTD-2地区)発掘調査概要」『大山崎町の発掘』(大山崎町埋蔵文化財調査報告書第10集) 大山崎町教育委員会
- 林 亨 1991b 『算用田遺跡—長岡京跡右京第192次調査報告—』(大山崎町埋蔵文化財調査報告書第9集) 大山崎町教育委員会
- 林 亨 1992 「山陽道の復元—山崎町区間—」『長岡京古文化論叢』Ⅱ 中山修一先生喜寿記念事業会編
- 林 亨 1993a 「長岡京跡右京第369次(7ANTMY地区)発掘調査概要」『大山崎町の発掘』(大山崎町埋蔵文化財調査報告書第11集) 大山崎町教育委員会
- 林 亨 1993b 「長岡京跡右京第374次(7ANTDK地区)発掘調査概要」『大山崎町の発掘』(大山崎町埋蔵文化財調査報告書第11集) 大山崎町教育委員会
- 林 亨 1993c 「長岡京跡右京第380次(7ANSHC地区)発掘調査概要」『大山崎町の発掘』(大山崎町埋蔵文化財調査報告書第11集) 大山崎町教育委員会
- 林 亨・近澤豊明・中塚 良 1996 『下植野南遺跡—長岡京跡右京第188次調査報告—』(大山崎町埋蔵文化財調査報告書第13集) 大山崎町教育委員会
- 原 秀樹 1996 「二 新たな土地利用」『長岡京市史』本文編Ⅰ 長岡京市役所
- 引原茂治 1984 「山崎津第4次(7YYMSHD地区)発掘調査概要」『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第4集 大山崎町教育委員会・長岡京跡発掘調査研究所
- 百瀬正恒 1986 「長岡京の土器」『長岡京古文化論叢』Ⅰ 中山修一先生古希記念事業会編
- 山中 章 1992 「古代条坊制論」『考古学研究』第38巻第4号
- 山本輝雄他 1981 「恵解山古墳第3次発掘調査概要」『長岡京市文化財調査報告書』第8冊 長岡京市教育委員会
- 山本輝雄 1995 「右京第460次(7ANKTN-4地区)調査概報」『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成5年度 (財)長岡京市埋蔵文化財センター
- 渡辺 誠編 1982 『京都府長岡京市下海印寺遺跡範囲確認調査報告書』 長岡京市教育委員会

付表6 遺構番号対照表

地区	年度	次数	報告書 番号	概報 番号	図面 番号	遺構の種類	時期	柱穴
A	90	357	SK35713	SK35713	SK13	土坑	古墳	
A	90	357	SK35712	SK35712	SK12	土坑	古墳	
A	90	357	SR35711	SD35711	SD11	溝	不明	
B	90	357	SR35707-a	SD35707-a	SD07a	流路	古墳～平安	
B	90	357	SR35706	SD35706	SD06	流路	古墳?	
B	90	357	SX357101	SX357101	SX101	土器集積遺構	奈良・平安	
B	90	357	SR35707-b	SD35707-b	SD07b	流路	古墳?	
B	90	357	SX357102	SX357102	SX102	土器埋納遺構	古墳6 C末	
B	90	357	SR35707-c	SD35707-c	SD07c	流路	不明	
B	90	357	柱穴群			柱穴群	不明	
C-1	90	357	SD35701	SD35701	SD01	溝	中世	
C-1	90	357	SD35702	SD35702	SD02	溝	中世	
C-1	90	357	SD35703	SD35703	SD03	溝	中世	
C-1	90	357	SD35704	SD35704	SD04	溝	中世	
C-1	90	357	SH35705	SH35705	SH05	竪穴式住居	古墳	
C-1	90	357	SK35708	SK35708	SK08	池状落ち込み	平安	
C-1	90	357	SD35709	SD35709	SD09	石敷き雨落ち	平安	
C-1	90	357	SD35710	SD35710	SD10	溝	平安	
B	91	368	SE36830	SE36830	SE30	井戸	近世	
B	91	368	SD36826	SD36826	SD26	溝	中・近世?	
B	91	368	SD36827	SD36827	SD27	溝	中・近世?	
B	91	368	SD36828	SD36828	SD28	溝	中・近世?	
B	91	368	SD36829	SD36829	SD29	溝	中・近世?	
B	91	368	SK36841	SK36841	SK41	土坑	中世	SK42との誤認あり、取り上げ日で選別。
B	91	368	SE36823	SE36823	SE23	井戸	平安	
B	91	368	SE36834	SE36834	SE34	井戸	平安	
B	91	368	SK36825	SK36825	SK25	凹地状遺構	平安	井戸92
B	91	368	SB36831	SB36831	SB31	礎石建物	?	
B	91	368	SD36832	SD36832	SD32	溝	平安	
B	91	368	SD36833	SD36833	SD33	溝	平安	
B	91	368	SF36836	SF36836	SF36	路面状遺構	平安?	
B	91	368	SB36837	SB36837	SB37	掘立柱建物	長岡・平安	
B	91	368	SB36838	SB36838	SB38	掘立柱建物	長岡・平安	
B	91	368	SK36839	SK36839	SK39	焼土坑	不明	
B	91	368	SK36840	SK36840	SK40	土坑	平安	
B	91	368	SH36835	SH36835	SH35	竪穴式住居	古墳	
B	91	368	SH36843	SH36843	SH43	竪穴式住居	古墳	
B	91	368	SX36820	SX36820	SX20	祭祀遺構	古墳	
B	91	368	SX36821	SX36821	SX21	祭祀遺構	古墳	

B	91	368	SX36822	SX36822	SX22	祭祀遺構	古墳	
B	91	368	SX36844	SX36844	SX44	祭祀遺構	古墳	
B	91	368	SR36806	SR36806	SR06	流路	古墳	
B	91	368	SR36807	SR36807	SR07	流路	古墳	
B	91	368	SD36848	SD36848	SD48	溝	古墳前	
B	91	368	SD36849	SD36849	SD49	溝	不明	
B	91	368	SB36853	SB36853	SB36853	掘立柱建物	古墳	SK71~72・54~56・62・64・65
B	91	368	SB36854	SB36854	SB36854	掘立柱建物	古墳	SK68~70・51・52・54・58・59・61・63・66
B	91	368	SB36855	SB36855	SB36855	掘立柱建物	古墳	SK75・77~83
B	91	368	SB35856	SB35856	SB35856	掘立柱建物	古墳	SK151~153・158~162・175・179
B	91	368	SB36857	SB36857	SB36857	掘立柱建物	古墳	SK140~148
E-2	91	368	SD36858	SK36858	SD01	沼状遺構	古墳	
E-2	91	368	SD36859	SD36859		溝	不明	
A	92	395	SE395101	SE395101	SE101	井戸	近世	
A	92	395	SD395202	SD395202	SD202	溝	平安	
A	92	395	SD395203	SD395203	SD203	溝	平安	
A	92	395	SD395204	SD395204	SD204	溝	平安	
A	92	395	SD395205	SD395205	SD205	溝	平安	
A	92	395	SD395207	SD395207	SD207	溝	平安	
A	92	395	SX395201	SX395201	SX201	溝	平安	
A	92	395	SR395333	SR395333	SR333	流路	古墳	
A	92	395	SH395338	SH395338	SH338	竪穴式住居	古墳	
A	92	395	SH395336	SH395336	SH336	竪穴式住居	古墳	
A	92	395	SH395401	SH395401	SH401	竪穴式住居	古墳	
A	92	395	SH395405	SH395405	SH405	竪穴式住居	古墳	
A	92	395	SH395407	SH395407	SH407	竪穴式住居	古墳	
A	92	395	SH395433	SH395433	SH433	竪穴式住居	古墳	
A	92	395	SB395451	SB395451	SB451	掘立柱建物	古墳	
A	92	395	SK395404	SK395404	SK404	土坑	古墳	
A	92	395	SK395411	SX395411	SX411	土坑	古墳	
A	92	395	SH395402	SX395402	SX402	竪穴式住居?	不明	
A	92	395	SD395444	SD395444	SD444	溝	古墳	
A	92	395	SD395501	SD395501	SD501	溝	弥生	
A	92	395	SK395502	SK395502	SK502	土坑	弥生	
A	92	395	SD395503	SD395503	SD503	溝	弥生	
A	92	395	SK395504	SK395504	SK504	土坑	弥生	
B	92	368	SE368101	SE368101	SE14	井戸	近世	
B	92	368	SE368102	SE368102	SE13	井戸		
B	92	368	SE368104	SE368104	SE19	井戸		
B	92	368	SB368105	SB368105	SB197	掘立柱建物	中世	SK261・197・273・167・256
B	92	368	SE368106	SE368106	SE02	井戸	平安	

B	92	368	SD368115	SD368115	SD21	溝	平安	
B	92	368	SX368116	SX368116	SX53	土壙墓	不明	
B	92	368	SB368109	SB368109	同	掘立柱建物	平安	SK24・28・28K
B	92	368	SB368107	SB368107	同	掘立柱建物	平安	SK190・184・185・187・ 166・161・164・186・188
B	92	368	SB368108	SB368108	同	掘立柱建物	平安	SK267・168・272・169・ 189・206・176・278・175
B	92	368	SB368110	SB368110	同	掘立柱建物	平安	SK74・77・129・89・39L-d
B	92	368	SB368111	SB368111	同	掘立柱建物	平安	360-a・380-a・38M-a
B	92	368	SB368112	SB368112	同	掘立柱建物	平安	SK11・78・117
B	92	368	SB368113	SB368113	同	掘立柱建物	平安	SK99・100・111・35J-c
B	92	368	SB368127	SB368127	同	掘立柱建物	古墳	SK25・30IC・31Hab・31Hc・ 31Hd
B	92	368	SB368128	SB368128	同	掘立柱建物	古墳	31J-a・32J-a・32K-b・ SK46・SK47
B	92	368	SB368130	SB368130	同	掘立柱建物	古墳	33J-a・35J-a・33K-b・ 34J-b・SK95・SK98
B	92	368		SB368124	SB191	掘立柱建物	古墳	
B	92	368	SB368125	SB368125	SB193	掘立柱建物	古墳	SB193-1~6・SK170・ SK172
B	92	368		SB368129	同	掘立柱建物	古墳	
B	92	368	SB368126	SB368126	同	掘立柱建物	古墳	28H-b・27H-c・28I-a・ 27I-b・SK23・28J-a
B	92	368	SK368114	SK368114	SK147	土坑	長岡	
B	92	368	SK368114	SK368114	SK132	土坑	長岡	
B	92	368	SH368117	SH368117	SH135	竪穴式住居	古墳	
B	92	368	SH368118	SH368118	SH34	竪穴式住居	古墳	
B	92	368	SH368119	SH368119	SH83	竪穴式住居	古墳	
B	92	368	SH368120	SH368120	SH126	竪穴式住居	古墳	
B	92	368	SH368121	SH368121	SH179/10 2	竪穴式住居	古墳	
B	92	368	SH368122	SH368122	SH114	竪穴式住居	古墳	
B	92	368	SH368123	SH368123	SH120	竪穴式住居	古墳	
B	92	368	SK368131	SX368131	SX153	土坑	古墳	
B	92	368	SK368132	SX368132	395-a	土坑	古墳	
B	92	368	SK368133	SX368133	SK67/106	土坑	古墳	
B	92	368	SK318134	SX318134	不明	土坑	古墳	
B	92	368	SK318116	SX318116	SX116	土坑	古墳	
B	92	368	SK31873	SX31873	SX73	土坑	古墳	
B	92	368	?	?	?	流路	古墳以前	
C-1	92	368	SK368226	SK368226	SK26	土坑	弥生	
C-1	92	368	SK368248	SK368248	SK48	土坑	弥生	
C-1	92	368	SK368247	SK368247	SK27	土坑	弥生	
C-1	92	368	SH368202-a	SH368202-a	SH02	竪穴式住居	古墳	
C-1	92	368	SH368202-b	SH368202-b	SH02	竪穴式住居	古墳	
C-1	92	368	SH368203	SH368203	SH03	竪穴式住居	古墳	
C-1	92	368	SH368204	SH368204	SH04	竪穴式住居	古墳	

C-1	92	368	SH35705	SH35705	SH05	竪穴式住居	古墳	
C-1	92	368	SB368201	SB368201	SB01	掘立柱建物	古墳	P1・2・3・4・21・
C-1	92	368	SD36842	SD36842	SD42	溝	平安	
C-1	92	368	SD36846	SD36846	SD46	溝	平安	
C-2	92	395	SK395602	SK395602	SK102	土壇	縄文	
C-2	92	395	SH395690	SH395690	SH190	竪穴式住居	古墳	
C-2	92	395	SH395685	SH395685	SH185	竪穴式住居	古墳	
C-2	92	395	SH395684	SH395684	SH184	竪穴式住居	古墳	
C-2	92	395	SH395677	SH395677	SH177	竪穴式住居	古墳	
C-2	92	395	SH395686	SH395686	SH186	竪穴式住居	古墳	
C-2	92	395	SH395632	SH395632	SH132	竪穴式住居	古墳	
C-2	92	395	SB395603	SB395603	同	掘立柱建物	古墳	P144・171・139・141・173・ 157・155・147
C-2	92	395	SB395604	SB395604	同	掘立柱建物	古墳	P190・187・188
C-2	92	395	SB395605	SB395605	同	掘立柱建物	古墳	P21・24・25・26・102・104
C-2	92	395	SB395606	SB395606	同	掘立柱建物	古墳	P127・118・98・95・13
C-2	92	395	SR395601	SD395601	SD101	溝	古墳	
C-2	92	395	SR395600	SD395600	SD100	溝	古墳	
C-2	92	395	SK395623	SK395623	SK23	土坑	古墳	
C-3	92	368	SK368301	SK368301	不明	掘立柱建物	不明	
C-3	92	368	SB368302	SB368302	不明	掘立柱建物	不明	
C-3	92	368	SH368304	SH368304	SH02	竪穴式住居	古墳	
C-3	92	368	SH368305	SH368305	不明	竪穴式住居	古墳	
C-3	92	368	SD368306	SD368306	SD10	溝	古墳	
C-3	92	368	SX368307	SX368307	SX01	古墳	古墳	
C-3	92	368	SX368308	SX368308	不明	古墳	古墳	
C-3	92	368	SX368309	SX368309	SX03	古墳	古墳	
C-3	92	368	SD368303	SD368303	SD15	溝	?	
C-3	92	368	SK368310	SX368310		土坑	中世	
C-4a	92	395	SH395705	SH395705	SH05	竪穴式住居	?	
C-4a	92	395	SR395701	SD395701	SD01	流路	古墳	
C-4a	92	395	SR395702	SD395702	SD02	流路	飛鳥	
C-4a	92	395	SR395703	SD395703	SD03	流路	古墳	
C-4a	92	395	SD395715		SD15	流路	古墳	
C-4a	92	395	SR395720	SD395720	SD20	流路		
C-4b	92	395	SH395803	SH395803	SK03	竪穴式住居	古墳	
C-4b	92	395	SB395821	SB395821	SB395821	掘立柱建物	古墳	P21・24・32・36・34・28・ 66・23
C-4b	92	395	SB395841	SB395841	SB395841	掘立柱建物	古墳	P108・41・113・82
C-4b	92	395	SB395810	SB395810	SB395810	掘立柱建物	古墳	P53・10・93・90・101・86・ 80・87・95
C-4b	92	395		SD395843	SD43	溝	平安	
C-4b	92	395	SK395801	SK395801	SK01	土坑	中世	
C-4c	93	428	SD428118	SD428118	SK18	溝	中世	

C-4c	93	428	SK428108	SK428108	SK08	土坑	古墳?	
C-4c	93	428	SK42809	SK428109	SK09	土坑	古墳?	
C-4c	93	428	SK42810	SK428110	SK10	土坑	古墳?	
C-4c	93	428	SK42813	SK428113	SK13	土坑	古墳?	
C-4c	93	428	SD42822	SD428122	同	流路	不明	
C-4c	93	428	SD42823	SD428123	同	流路	不明	
C-4c	93	428	SB395821	SB395821	同	掘立柱建物		
C-4c	93	428	SK42820	SK428120	SK20	土坑		
C-4c	93	428	SD42802	SD428102	SD02	溝		
C-4c	93	428	SD42819	SD428119	SK19	溝		
C-5a	93	428	SK428101	SK428101	SX17	土坑	中世	
C-5a	93	428	SK428102	SK428102	SK10	土坑	中世	
C-5a	93	428	SK428103	SX428103	SX43	土坑	中世	
C-5a	93	428	SK428104	SX428104	SX48	土坑	平安	
C-5a	93	428	SK428105	SX428105	不明	土坑	不明	
C-5a	93	428	SB428106	SB428106	SB59	掘立柱建物	平安	SK07・39・22・21・20・18・ 40・09・08
C-5a	93	428	SK428107	SX428107	SK44	土坑	不明	
C-5a	93	428	SD428108	SD428108	SD45	溝	古墳	
C-5a	93	428	SD428109	SD428109	SD46	溝	古墳	
C-5a	93	428	SB428110	SB428110	同	掘立柱建物	古墳	SK53
C-5a	93	428	SK428111	SK428111	SK42	土坑	縄文	
C-5a	93	428	SR428112	SR428112	同	流路	不明	
C-5a	93	428	SR428113	SR428113	同	流路	不明	
C-5b	93	428	SD428201	SD428201	SD101	溝	中世	
C-5b	93	428	SD428202	SD428202	SD102	溝	中世	
C-5b	93	428	SD428203	SD428203	SD103	溝	中世	
C-5b	93	428	SD428204	SD428204	SD104	溝	中世	
C-5b	93	428	SD428205	SD428205	SD105	溝	中世	
C-5b	93	428	SD428206	SD428206	SD106	溝	中世	
C-5b	93	428	SX428207	SX428207	SX107	土坑	不明	
C-5b	93	428	SK428209	SK428209	SK109	土坑	不明	
C-6	94	466	SD46603	SD46603	SD03	溝	近世	
C-6	94	466	SK46602	SK46602	SK02	土坑		
C-6	94	466	SK46605	SK46605	SX05	土坑	中世	
C-6	94	466	SK46606	SK46606	SK06	土坑		
C-6	94	466	SD46601	SD46601	SD01	溝	不明	
C-6	94	466	SD46607	SD46607	SD07	溝	不明	
C-6	94	466	SK46608	SK46608	SK08	土坑	不明	
C-6	94	466	SX368308	SX368308	同	古墳周溝	古墳	
C-6	94	466	SH395803	SH395803	同	竪穴式住居	古墳	

付表7 出土遺物観察表

番号	地区	出土遺構	種別	器種	口径	残存率	器高	外面調整	内面調整	胎土	色調	焼成	備考
1	90A	SK357 13	須惠器	杯	11.8	2/5	4.1	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺ ・指 ⁺ サエ	3mm以下長石・チャート	暗青灰色	良	
2	90A	SK357 13	須惠器	杯	12.6	1/2	4.1	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺	4mm以下長石	灰褐色・暗灰褐色	良	
3	90A	SK357 13	須惠器	杯身	12.4	1/6	4.8	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺	2mm以下長石	灰色	良	
4	90A	SK357 13	須惠器	杯身	11.2	1/5	4	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺	3mm以下長石	灰色～濃灰色	良	
5	90A	SK357 13	須惠器	杯身	11.2		4.6	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺		灰褐色・暗灰色	良	
6	90A	SK357 13	土師器	高杯	19		4.1	ナテ ⁺	ナテ ⁺ ・指 ⁺ サエ	1mm以下石英・長石・チャート・雲母	淡橙褐色～灰褐色	やや不良	
7	90A	SK357 13	土師器	高杯	15.5	3/8	5.2	ナテ ⁺ ・指 ⁺ サエ	ナテ ⁺	1mm以下石英・チャート・頁岩	明茶褐色	良	
8	90A	SK357 13	土師器	鉢	15	2/9	6.9	ナテ ⁺ ・指 ⁺ サエ	ナテ ⁺ ・指 ⁺ サエ	2mm以下石英・長石・頁岩・赤色斑粒・雲母	橙茶色	良	
9	90A	SK357 13	土師器	甕	11.6	ほぼ完	9	ナテ ⁺ ・ハケ	ナテ ⁺ ・指 ⁺ サエ	4mm以下長石・石英・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐色	良	
10	90A	SK357 13	土師器	甗			8.8	ハケ	不明	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	茶褐色	良	
11	90A	SK357 13	土師器	甕	21.4	1/8	3.3	ナテ ⁺	ナテ ⁺	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡褐色	良	
12	90A	SK357 13	土師器	高杯	24.8	1/2	7.5	ハケ・ナテ ⁺	ナテ ⁺ ・指 ⁺ サエ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐色	良	
13	90A	SK357 13	土師器	甗	26.3	3/4	26.7	ハケ・ナテ ⁺	ナテ ⁺ ・ハケ・指 ⁺ サエ	9mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	明赤褐色	良	黒斑有
14	90A	SK357 12	須惠器	杯身	12.4	1/3	5.35	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺	3.5mm以下長石	青灰色	良	
15	90A	包含層	須惠器	杯蓋	14.7	1/3	4.7	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺ ・タタキ		青灰色	良	
16	90A	包含層	須惠器	杯身	12.8		5.7	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺	3.5mm以下長石・チャート	淡灰色	良	外面自然袖付着
17	90A	包含層	須惠器	杯身	12.3	1/3	3.8	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	ナテ ⁺	4.5mm以下長石・石英・チャート	淡灰色	良	外面袖付着
18	90A	包含層	須惠器	壺	13		3.1	ナテ ⁺	ナテ ⁺		暗青灰色	良	内面自然袖付着
19	90A	包含層	須惠器	椀	7.4	1/2	5.5	ケス ⁺ リ・ナテ ⁺	指 ⁺ サエ・ナテ ⁺	0.5mm以下長石	暗青灰色	良	
20	90A	包含層	土師器	高杯	11	1/7	5.7	不明	不明	2mm以下石英・長石・頁岩・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	
21	90A	包含層	土師器	高杯	13.1	1/5	4.9	不明	不明	1mm以下長石・石英・チャート・頁岩・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	
22	90A	包含層	土師器	高杯	12.2	1/4	6	不明	不明	4mm以下長石・石英・チャート・頁岩・赤色斑粒	明淡茶褐色	やや良	
23	90A	包含層	土師器	甕	13	1/6	3.6	ナテ ⁺	指 ⁺ サエ・ナテ ⁺	2mm以下長石・石英・チャート・頁岩・雲母	淡褐色	やや不良	
24	90A	包含層	須惠器	甕	23		1.6	ナテ ⁺	ナテ ⁺	3mm以下長石	淡灰色	良	
25	90A	包含層	須惠器	高杯	18.4		6.2		ナテ ⁺	1mm以下長石	灰色	良	傾きは端部がなく不明確
26	90A	包含層	土師器	甕	25.3		3.9	不明	ナテ ⁺ ・指 ⁺ サエ	1mm以下長石・石英・チャート・頁岩	淡黄茶褐色	やや良	内面スス付着
27	90A	包含層	土師器	甗	21.2		9.2	ナテ ⁺ ・ケス ⁺ リ・ハケ	不明	2mm以下石英・長石・雲母	淡茶灰色	良	
28	90A	包含層	須惠器	高杯	10.3	4/9	4.65	ナテ ⁺	ナテ ⁺	4mm以下長石・石英	灰色	良	

29	90A	包含層	須恵器	高杯	9.3	1/8	3.7	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	暗灰色 淡灰色	良	
30	90A	包含層	須恵器	高杯	10	1/7	1.8	ナテ	ナテ		淡灰色	良	
31	90A	包含層	土師器	高杯	9.4	1/4	3.8	不明	ナテ・ハテ	0.5mm以下長石・チャート	明茶褐色	良	内面しぼり目有
32	90A	包含層	土師器	高杯	9.2	底部 1/2	7.8	不明	ハテ	2mm以下長石・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	内面しぼり目有
33	90A	包含層	土師器	高杯	8.7	1/5	4.9	クスリ・ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・石英・チャート・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	内面しぼり目有
34	90A	包含層	土師器	甕	8.8	底部 1/4	5.4	指サエ・ナテ	指サエ	5mm以下石英・長石・チャート・頁岩	明黄茶褐 ～茶灰色	やや良	
35	90A	包含層	土師器	甕	20	1/8	6.8	指サエ・ハテ	不明	1mm以下石英・長石・チャート・雲母・赤色斑粒	淡黄褐色	良	
36	90A	包含層	土師器	甕	17.2	1/9	8.4	指サエ・ハテ	指サエ・クスリ	5mm以下長石・石英・チャート・頁岩・雲母	淡黄茶褐色	やや良	内面炭素付着
37	92A	SH395 336	須恵器	杯蓋	12.8	1/8	4.05	クスリ・ナテ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	外面ハテ記号
38	92A	SH395 336	須恵器	杯蓋	14.5	4/9	4.75	クスリ・ナテ	ナテ	2～2.5mm以下長石	淡灰色～ 暗灰色	良	
39	92A	SH395 336 ナテ	須恵器	杯蓋	14.9	1/3	4.9	クスリ・ナテ	ナテ	4mm以下長石	濃青灰色 青灰褐色	良	
40	92A	SH395 336	須恵器	杯身	14.5	1/4	3.6	クスリ・ナテ	ナテ	2mm以下長石	暗灰～暗 灰茶褐色	良	歪む
41	92A	SH395 336 ナテ	土師器	甕	20	口縁 完	14	ナテ・ハテ	ナテ・ハテ・クスリ	5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	明淡黄褐色	良	
42	92A	SH395 336 ナテ	土師器	甕	13.4	4/5	12	ナテ・ハテ	クスリ・ナテ	2mm以下長石・石英・チャート・赤色斑粒・雲母	明茶灰色	良	外面スス付着 多少ひずみ
43	92A	SH395 336	土師器	甕	13.8	1/4	12.6	ナテ・ハテ	ナテ・ハテ・クスリ	1.5mm以下石英・長石・チャート・雲母	褐色	良	
44	92A	SH395 336 ナテ	土師器	甕	16	1/3	11.4	ナテ・指サエ・ハテ	ナテ・クスリ	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	茶褐色・ 黄褐色	良	内面コケ・スス付着
45	92A	SH395 338 ナテ	土師器	椀	10.2	1/12	3.15	ナテ	ナテ	3mm以下長石	赤褐色	良	
46	92A	SH395 338 ナテ	土師器	椀	10.4	1/2	3.25	ナテ	ナテ	3mm以下長石・石英	赤褐色	良	
47	92A	SH395 338	須恵器	高杯	9.4	底部 完	9.4	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・石英・頁岩	淡青灰色	良	スス窓3・自然軸着・歪む
48	92A	SH395 338 ナテ	土師器	甕	20.5	ほぼ 完	36.8	ナテ・ハテ	ナテ・指サエ	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡茶褐色	良	
49	92A	SD395 313	土師器	甕	18	1/9	5	ナテ・ハテ	ナテ・ハテ	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	良	
50	92A	SR395 333	土師器	甕	12.35	1/3	15.6	ナテ・ハテ	ナテ・ハテ・クスリ	5mm以下石英・長石	茶褐色	良	コケ・スス付着
51	92A	SR395 333	須恵器	杯蓋	14.3	1/6	4.2	クスリ・ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	暗灰色	良	
52	92A	SR395 333	須恵器	杯蓋	13.8	1/3	5	クスリ・ナテ	ナテ	4mm以下長石	淡灰色～ 暗灰色	良	
53	92A	SR395 333	須恵器	杯蓋	13.9	1/2	4.7	クスリ・ナテ	ナテ	3mm以下石英	青灰色	良	歪む
54	92A	SR395 333	須恵器	杯蓋	14.8	3/4	2.55	クスリ・ナテ	ナテ	4.5mm以下長石・石英	茶灰色	やや不良	蓋上部ハテ記号有
55	92A	SR395 333	土師器	高杯	13		4	ナテ・指サエ	ナテ	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	暗褐色	良	
56	92A	SR395 333	土師器	甕	11	ほぼ 完	11.8	クスリ・ナテ	ナテ・指サエ	5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	赤茶褐色	良	コケ・スス付着

57	92A	SR395 333	須惠 器	脚部	17	底部 1/2	15.2	ナテ	ナテ	2mm以下石英	灰色～淡 灰色	良	外面自然 釉着
58	92A	SR395 333	土師 器	甕	21	1/5	15	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ・ 指杵エ・ クスリ	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・雲母	淡黄褐色	良	
59	92A	SD395 331・ SR395 333	土師 器	甕	21.4	1/4	6.5	ナテ・ハケ	ナテ・指杵 エ・クスリ	6mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒・雲母	淡黄褐色	良	
60	92A	SR395 333	須惠 器	不明	10	底部 1/5	10.2		ナテ	4mm以下石英・長石	青灰色	良	内面緑釉 付着
61	92A	SX395 335	土師 器	椀	4	底部 1/4	5	ナテ	不明	3mm以下長石・チャト・ 頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色 淡茶褐色	良	
62	92A	SX395 335	土師 器	椀	12	5/6	4.4	不明	不明	5mm以下石英・長石・チャ ト・赤色斑粒	淡橙褐～ 黒灰褐色	良	歪む
63	92A	SX395 335	土師 器	把手 付鉢	6	底部 完	8	ナテ・指杵 エ	ナテ・指杵 エ	2mm以下長石・赤色斑粒・ 雲母	明茶褐色	良	把手は片 手
64	92A	SX395 335	土師 器	把手			4.2	指杵エ	不明	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡黄茶褐 色	良	
65	92A	SX395 335	土師 器	高杯	9.4	底部 ほぼ 完	7.4	ナテ・指杵 エ	クスリ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡茶褐色	良	
66	92A	SX395 335	土師 器	甕	10.8	1/4 強	3.6	ナテ	ハケ・指杵 エ	3.5mm以下石英・長石・ チャト	茶褐色	良	
67	92A	SX395 335	土師 器	甕		把手 4/5	8.6	不明	不明	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒・雲母	淡黄茶褐 色	良	
68	92A	SX395 335	土師 器	甕	11.6	1/2	4.8	ナテ	ナテ・指杵 エ・クスリ	4mm以下石英・長石・チャ ト・赤色斑粒	橙褐色	良	内面ス付 着
69	92A	SX395 335	土師 器	甕	13.1	1/6	5.5	ハケ	ナテ・クス リ・指杵 エ	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	茶褐色	良	
70	92A	SX395 335	土師 器	甕	13.5	1/3	9.1	ナテ	ナテ・指杵 エ	7mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	茶褐色	良	
71	92A	SX395 335	土師 器	甕	13.3	2/5	15.3	ナテ・ハケ	ナテ・指杵 エ	7.5mm以下長石・石英・ チャト・頁岩・雲母	橙褐色～ 黄灰褐色	良	歪む
72	92A	SX395 335	土師 器	甕	20.4	1/4	15.4	ナテ・ハケ	ナテ・クス リ・指杵 エ	2mm以下長石・雲母・石 英・チャト	淡橙茶褐 色	良	内面コケ ス付着
73	92A	SX395 335	土師 器	甕	20.2		30.5	ナテ・ハケ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・赤色斑粒	明茶灰・ 淡褐色	良	口縁ひず んでいる
74	92A	SX395 335	土師 器	甕	18.8		9.1	ナテ・ハケ	クスリ・ナテ	4.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩	茶褐色	良	
75	92A	SX395 335	土師 器	甕	22	1/2	8.1	ナテ・ハケ	指杵エ・ ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡褐色・ 淡濁褐色	良	
76	92A	SX395 335	土師 器	甕	21.8		12.5	ナテ・ハケ	指杵エ・ ナテ	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	明茶褐色	良	
77	92A	SX395 335	土師 器	甕	24.2		15.2	ナテ・ハケ	指杵エ・ ナテ	3.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩・赤色斑粒	茶褐色	良	
78	92A	SX395 335	土師 器	甕	23	1/3	11.2	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ	7.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩	明茶褐色	良	
79	92A	SX395 335	須惠 器	杯蓋	13	1/4	4.3	ナテ・クス リ	ナテ	3.5mm以下長石	青灰色・ 淡黄灰色	良	
80	92A	SX395 335	須惠 器	杯蓋	12.9		5.3	ナテ・クス リ	ナテ	1mm以下長石	淡灰黒・ 青灰色～ 緑灰褐色	良	外面自然 釉付着
81	92A	SX395 335	須惠 器	杯蓋	14.5	2/3	5.2	ナテ・クス リ	ナテ	3mm以下長石・チャト	青灰色	良	
82	92A	SX395 335	須惠 器	杯蓋	13.7	2/5	4.2	ナテ・クス リ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	
83	92A	SX395 335	須惠 器	杯蓋	14.5	1/2	4.5	ナテ・クス リ	ナテ	3mm以下長石・チャト	青灰色	良	
84	92A	SX395 335	須惠 器	杯蓋	15.3	2/3	5.15	ナテ・クス リ	ナテ	1.5mm以下長石	淡黄褐～ 淡灰色	良	歪む
85	92A	SX395 335	須惠 器	杯蓋	14.9	1/2	4.25	ナテ・クス リ	ナテ	3mm以下長石	青緑灰・ 青灰褐色	良	歪む

86	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	15	ほぼ 完	5.5	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	淡青灰色 ～乳灰色	良	
87	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	13.1	8/9	5.2	ナテ・ケスリ	ナテ	5mm以下長石・チャート	淡青灰色	良	ひずみ有
88	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.95	4/5	5.1	ナテ・ケスリ	ナテ・タタキ	3mm以下長石	淡青灰色	良	
89	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	15.6	2/3	5.45	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・石英・チャート	淡黄灰色	良	
90	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	14.8	3/7	4.4	ナテ・ケスリ	ナテ	7mm以下長石	淡灰色	良	
91	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	16.8	1/2	4.7	ナテ・ケスリ	ナテ	1.5mm以下長石	淡青灰色 ～淡灰色	やや 不良	
92	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	16.5	3/5	5.5	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・チャート	乳灰色	不良	
93	92A	SX395 335・ SR395 333	須恵 器	杯蓋	15.3	1/2	5.3	ナテ・ケスリ	ナテ	4mm以下長石	淡灰色・ 灰色	良	
94	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	18.5	1/12	5.4	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	
95	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	14.7	3/5	4.8	ナテ・ケスリ	ナテ	4mm以下長石・石英	淡青灰・ 青灰色	良	
96	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.4	2/5	5.02	ナテ・ケスリ	タタキ	3mm以下長石	淡青灰～ 淡黄灰色	良	
97	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	14.3	3/5	5.8	ナテ・ケスリ	ナテ	5mm以下長石	淡青灰色	良	外面自然 釉付着
98	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	14.5	2/3	4.95	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	濃青灰褐 ～濃青灰 色	良	稜径部中 心にハ記 号有
99	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	17.5	1/3	5.4	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩	淡灰色・ 淡黄灰色	良	
100	92A	SX395 335	須恵 器	杯蓋	14.7	2/3	4.7	ナテ・ケスリ	ナテ・タタキ	4mm以下長石・チャート	淡青灰色	良	
101	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.5	2/5	5.05	ナテ・ケスリ	ナテ・タタキ	2.5mm以下長石・チャート	濃青灰褐 色	良	
102	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.6	2/5	4.65	ナテ・ケスリ	ナテ・タタキ	5mm以下長石	濃青灰・ 青灰色	良	
103	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.9	1/10	4.7	ナテ・ケスリ	ナテ・タタキ		青灰色・ 淡黄灰色	良	
104	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	10.7	8/9	6	ナテ・ケスリ	ナテ	3.5mm以下長石	青灰色・ 淡青灰色	良	外面自然 釉付着
105	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	11.3	8/9	4.95	ナテ・ケスリ	ナテ	6mm以下長石・チャート	淡青灰色	良	
106	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.2	5/9	4.8	ナテ・ケスリ	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰色	良	
107	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.6	4/5	4.8	ナテ・ケスリ	ナテ	6mm以下長石	青灰色	良	
108	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.9	1/2	5.65	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	明灰色～ 青灰色	良	歪む
109	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.95	3/5	5	ナテ・ケスリ	ナテ	4mm以下長石・石英	淡黄灰・ 淡灰色	不良	外面双付 着
110	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	15.6	2/5	4.8	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石・頁岩	淡青灰色	不良	口縁歪み 有
111	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.9	1/2	5.5	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石・石英	淡灰色	良	底部ハ記 号有・黒 色付着物
112	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	12.2	8/9	4.7	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	青灰色	良	底部ハ記 号有
113	92A	SX395 335	須恵 器	杯身	13.5	1/12	3.55	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	不良	底部黒い 汚れ有
114	92A	SX395 335	須恵 器	樽形 甕	10.3	1/5	1.4	指材エ	ナテ・ケス リ・指材エ	3.5mm以下長石	灰褐色・ 緑灰色	良	外面自然 釉付着

115	92A	SX395 335	須惠 器	甕	12.4	8/9	13.5	ナテ・クス リ・指杵 エ	ナテ	3mm以下長石	暗青灰色	良	外面自然 釉付着
116	92A	SX395 335	須惠 器	甕	16.9	1/4	5.4	ナテ・ナ 目・タキ	ナテ・タキ	1.5mm以下長石	淡灰色～ 灰色	良	
117	92A	SX395 335	須惠 器	甕	18	ほぼ 完	33	ナテ・タキ	ナテ・タキ	4mm以下長石	青灰色	良	
118	92A	SX395 335	須惠 器	杯身	25.9	2/5	11.2	ナテ・クス リ	ナテ	1mm以下長石・チャ ート	灰褐色	不良	
119	92A	SX395 335	須惠 器	壺	16.4	完形	23.1	ナテ・ナ 目・タキ	ナテ・タキ	2mm以下長石	灰色	良	内外面自 然釉付着
120	92A	SH395 401	土師 器	高杯	4.25	杯部 完	3.4	ナテ	ナテ	雲母	橙褐色・ 淡褐色	良	口縁歪む
121	92A	SH395 401	須惠 器	杯蓋	13.8	1/3	5	ナテ・クス リ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	淡灰色・ 暗灰色	良	
122	92A	SH395 401	須惠 器	杯蓋	15	2/3	4.7	ナテ・クス リ	ナテ		淡灰色～ 乳白色	良	
123	92A	SH395 401 カマト	須惠 器	杯身	12.9	6/7	5.3	ナテ・クス リ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒	淡茶灰色 ～橙褐色	やや 不良	へ記号有
124	92A	SH395 401 カマト	土師 器	甕	20	1/3	18.8	ナテ・ハ ク	ナテ・指杵 エ・ハク	4mm以下長石・チャ ート・頁 岩・赤色斑粒	淡黄褐色 ・茶褐色	良	外面カ マ ス付着・ 口縁歪み
125	92A	SH395 401 カマト	土師 器	甕	13.8	8/9	18.1	ナテ・ハ ク	クスリ・指杵 エ・ナテ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒	茶褐色	良	
126	92A	SH395 401 カマト	土師 器	甕	15	ほぼ 完	15.2	ナテ・ハ ク	クスリ・指杵 エ・ナテ	3mm以下石英・長石・雲母	褐色・淡 赤褐色	良	内外面カ マ ス状汚れ 有
127	92A	SH395 407	須惠 器	杯蓋	13.5	2/5	4.9	ナテ・クス リ	ナテ	2.5mm以下長石	青灰白色 黄灰白色	良	
128	92A	SH395 407	土師 器	甕	12	1/16	5.5	ナテ	ナテ・指杵 エ	3mm以下長石・チャ ート	茶褐色	良	
129	92A	SH395 407 カマト・ SX395 335	土師 器	甕	16.2	1/5	9.8	ナテ・ハ ク	ナテ	4mm以下長石・チャ ート・赤色 斑粒	淡褐色・ 赤褐色	良	外面カ マ ス付着
130	92A	SH395 407	土師 器	甕	16.2	1/2	8.6	ナテ・ハ ク	ナテ・クス リ	5mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩	明茶褐色 暗茶褐色	良	内外面カ マ ス付着
131	92A	SH395 407 カマト	土師 器	製塩 土器	5.4	2/7	7.4	タキ	ナテ・ミカ キ	0.5mm以下長石・チャ ート	淡黄褐色 ・乳白 色	良	
132	92A	SH395 407 土坑	土師 器	製塩 土器	1.6	1/5	6.1	指杵 エ	指杵 エ		橙褐色	やや 不良	
133	92A	SH395 407 土坑	土師 器	製塩 土器	9.5	1/5	5.7	ナテ・指杵 エ	ナテ・指杵 エ	2mm以下長石・石英・赤色 斑粒	暗褐色～ 橙褐色	良	
134	92A	SH395 407 カマト	土師 器	甕	12.4	ほぼ 完	12.8	ナテ・ハ ク	ナテ・指杵 エ・ハク	4mm以下長石	黄褐色・ 赤褐色	不良	
135	92A	SH395 407	土師 器	高杯			5.8	クスリ・指杵 エ・ナテ	ナテ	2mm以下長石・チャ ート・雲 母・赤色斑粒	橙褐色～ 茶灰色	良	
136	92A	SH395 407 カマト	土師 器	甕	13	1/4	11.4	ナテ・ハ ク	クスリ・指杵 エ・ナテ	4mm以下石英・長石・チャ ート	茶褐色・ 淡茶褐色	良	外面カ マ ス付着
137	92A	SH395 407・ SK395 411	土師 器	甕	16	ほぼ 完	17	ナテ・ハ ク	クスリ	5mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩・赤色斑粒	橙茶褐色 ～灰黄褐 色	良	
138	92A	SH395 407・ SX395 335	土師 器	壺	12.2	1/2	12	不明	ナテ・指杵 エ	4mm以下石英・長石・チャ ート	暗茶褐色 黄褐色～ 明茶褐色	良	

139	92A	SH395 407	土師器	壺	8	完	12	クスリ・ミカキ	ナテ・指ナエ	2mm以下長石・雲母・赤色斑粒	橙褐色	良	
140	92A	SH395 407・ SX395 335	土師器	甕	15.5	1/2	21.75	ナテ・ハク	クスリ・指ナエ・ナテ	3mm以下石英・長石・ファト・頁岩・雲母	赤褐色～黄褐色	良	
141	92A	SH395 407 ナト	土師器	甕	17.1	ほぼ完	17.8	ナテ・ハク	クスリ・指ナエ・ナテ	3mm以下長石・赤色斑粒	橙褐色	良	
142	92A	SH395 407	土師器	底部	6	2/3	3.8	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石・雲母	茶色	良	
143	92A	SH395 405	須恵器	不明	13.6	1/8	3	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	暗灰色～灰色	良	
144	92A	SH395 405・ SH395 433	土師器	高杯	12	8/9	9.35	不明	クスリ	5mm以下長石・石英・ファト・赤色斑粒	黄褐色	良	
145	92A	SH395 405 ナト	土師器	甕	18	1/2	10	ナテ・ハク	ナテ・指ナエ	2.5mm以下石英・長石・ファト・頁岩	橙茶褐色	良	
146	92A	SH395 433	須恵器	杯身	10.6	1/3	5	ナテ・クスリ	ナテ		淡灰色	良	歪む
147	92A	SH395 433	土師器	甕	15.4	2/5	16.8	ナテ・ハク 目・不明	ナテ・指ナエ・ハク 目・不明	4mm以下ファト・石英	赤褐色～黄褐色	良	
148	92A	SK396 403	須恵器	杯蓋	14.3	1/2	4.5	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石	明灰色	良	
149	92A	SK396 403	須恵器	杯身	13	1/2	5	ナテ・クスリ	ナテ	3.5mm以下長石	明灰色	良	
150	92A	SK396 404	須恵器	甕	31.7	1/16	2.3	ナテ	ナテ		濃灰色・淡灰色	良	口縁部自然釉付着
151	92A	SK396 404	須恵器	高杯	18	1/10	5.6	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石	青灰色・白灰色	良	
152	92A	SK396 404	須恵器	高杯	12.1	1/6	3.9	ナテ	ナテ		灰色	良	
153	92A	SK396 404	須恵器	杯蓋	13.9	1/16	4.1	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石	灰色・淡灰色	良	外面自然釉(緑)付着
154	92A	SK396 404	土師器	高杯	16	1/3	10	ナテ・指ナエ	クスリ・指ナエ	3mm以下石英・長石・ファト・頁岩・赤色斑粒	茶褐色・淡黄色	良	
155	92A	SK396 404・ SX396 335	須恵器	甕	24	1/8	8.3	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石	青灰色～黒灰色	良	
156	92A	SK396 404	土師器	高杯	23.4	3/5	15.8	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下石英・長石・ファト・赤色斑粒	橙褐色	良	脚部に3か所穿孔有
157	92A	SX396 335	韓式土器			破片	2.6	タキ	不明	2mm以下長石・石英	茶褐色	良	
158	92A	SK396 404・ SX396 335	須恵器	樽形甕	9.55	1/16	18.7		ナテ・指ナエ		青灰色・濃灰色	良	外面自然釉付着
159	92A	SK396 449	須恵器	杯蓋	14.2	1/4	3.9	ナテ・クスリ	指ナエ・ナテ	2mm以下長石・ファト・頁岩	濃灰色	不良	
160	92A	SD396 444	土師器	高杯	12.6	4/9	4	ナテ・ミカキ	ナテ・ハク	2mm以下石英・長石・ファト・頁岩	淡黄褐色	良	穿孔有
161	92A	SD396 444	弥生	底部	4.6	底部完	2.9	指ナエ	ナテ・指ナエ	6mm以下石英・長石・ファト・頁岩・雲母・赤色斑粒	橙褐色	良	
162	92A	SD396 444	弥生	底部	3.4	底部完	3.4	クスリ	ミカキ	3mm以下石英・長石・ファト・頁岩・雲母	暗褐色・橙褐色	良	
163	92A	SH396 401・ SK396 442	須恵器	甕	28	1/2	24.5	ナテ・タキ	ナテ・タキ	4mm以下長石・頁岩	灰色～暗灰色	良	

164	92A	SK395 411・ SX395 335	須惠 器	壺	19.6	1/12	8.9	タタキ	ナテ	3mm以下長石	淡灰色	良	内外面自 然釉(渋 緑) 附着
165	92A	SX395 335	須惠 器	甕	17.8	7/8	6	ナテ・タタ キ目・タタ キ	ナテ・タタ キ	1mm以下長石・チャート・頁岩	淡灰白・ 灰白色	良	
166	92A	SX395 335・ SK395 411	須惠 器	杯蓋	12.7	1/16	4.45	ナテ・タス リ	ナテ	3mm以下長石・石英・チャ ート・頁岩・赤色斑粒	暗灰色～ 茶灰色・ 灰色	良	
167	92A	SX395 335・ SK395 411・ SK395 403	須惠 器	杯身	11.8	2/5	3.8	ナテ・タス リ	ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩	青灰色	良	
168	92A	SX395 335・ SK395 411	須惠 器	杯身	12.95	3/4	4.55	ナテ・タス リ	ナテ	2mm以下長石・チャート・頁岩	淡青灰色	良	
169	92A	SK395 411・ SX395 335	須惠 器	杯身	11.65	4/5	5	ナテ・タス リ	ナテ	4.5mm以下長石・チャート	青灰色	良	
170	92A	SX395 335・ SK395 411	須惠 器	蓋	12.7	1/2	4.3	ナテ・タス リ	ナテ	1mm以下長石	青灰色・ 黒青灰色	良	
171	92A	SK395 411	須惠 器	杯蓋	14.9	6/7	5.25	ナテ・タス リ	ナテ・指杓 エ	5mm以下長石・チャート・赤色 斑粒	黒褐色・ 橙褐色・ 淡黄褐色	やや 不良	
172	92A	SK395 411	須惠 器	杯身	12.8	ほぼ 完	5.2	ナテ・タス リ	ナテ	2mm以下長石	青灰褐色	良	歪む
173	92A	SX395 335・ SH395 407	須惠 器	高杯	9.7	底部 1/8	5.6	ナテ	ナテ		淡灰色	良	スカ4箇所 有
174	92A	SR395 333・ SK395 411・ SK395 403	須惠 器	甕	20.4	1/3	9.2	ナテ・タタ キ	ナテ・タス リ・タタ キ		淡灰色・ 淡灰色～ 濃灰色	良	内外面灰 色釉附着
175	92A	SK395 411・ SX395 335	土師 器	甕	23	1/3	20.3	ナテ・ハケ	ナテ・指杓 エ・タス リ	7mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩・赤色斑粒	淡茶褐色	良	
176	92A	SK395 411	土師 器	甕	32.1	1/3	25.5	ナテ・ハケ	ナテ・指杓 エ・ハケ	4mm以下長石・石英	淡茶灰・ 橙褐色	良	
177	92A	SK395 411・ SX395 335	須惠 器	甕	21	1/4	25.5	ナテ・タタ キ	ナテ・タタ キ	2.5mm以下長石・チャート	淡灰褐色	不良	
178	92A	SK395 411	土師 器	甕	20	1/2	38.55	ナテ・ハケ	ナテ・指杓 エ・タス リ	3.5mm以下石英・長石・ チャート・雲母	淡茶灰色	良	
179	92A	包含 層	土師 器	鉢	12.4	2/3	4.85	ナテ・指杓 エ	ナテ	11mm以下長石・石英・チャ ート・頁岩	赤褐色・ 黄褐色	良	歪む
180	92A	包含 層	韓式 土器				破片	3 格子目タ タキ	不明	1mm以下長石・雲母	橙褐色・ 淡濁褐色	良	
181	92A	包含 層	韓式 土器				破片	2.3 格子目タ タキ	ナテ	2mm以下長石・石英	茶灰色	良	
182	92A	包含 層	土師 器	甕	14.5	1/6	4	不明	不明	2mm以下石英・長石・チャ ート・赤色斑粒	橙褐色	やや 不良	
183	92A	包含 層	土師 器	甕	22.3	1/4	7.8	ナテ・ハケ	ナテ	4mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩	淡橙黄褐 色・淡黄 灰褐色	良	
184	92A	包含 層	土師 器	甕	21.1	1/3	7.3	ナテ・ハケ 指杓エ	ナテ・ハケ	5mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩	橙褐色・ 淡茶灰色	良	

185	92A	包含層	土師器	甕	19.4	1/4	16.4	ナテ・ハク	ナテ・指押 エ	2mm以下長石・チャート・雲母	橙褐色～ 灰黄褐色 橙褐色	良	
186	92A	包含層	土師器	把手			4.5	ナテ・指押 エ		2mm以下石英・長石・チャート	橙褐色	良	
187	92A	包含層	土師器	高杯		脚部 完	6.3	ミカキ	ナテ・指押 エ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒	茶褐色	良	穿孔4か 所有
188	92A	包含層	須恵器	つまみ			1.6	ナテ	ナテ		淡灰色	良	外面自然 釉(緑 色)付着
189	92A	包含層	須恵器	杯蓋	12.6	1/8	4.95	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石	青灰白色	良	外面自然 釉付着
190	92A	包含層	須恵器	杯蓋	12.8	1/10	3	ナテ	ナテ		淡青灰色	良	
191	92A	包含層	須恵器	杯蓋	13.5	1/2	3.5	ナテ・ケスリ	ナテ	4mm以下長石	青灰色・ 青灰色～ 黄褐色	良	
192	92A	包含層	須恵器	杯蓋	12.9	1/4	2.2	ナテ・ケスリ	ナテ		淡青灰色	良	
193	92A	包含層	須恵器	杯蓋	13.8	1/5	4.3	ナテ・ケスリ	ナテ	4mm以下頁岩	淡青灰色	良	
194	92A	包含層	須恵器	杯蓋	15.1	1/2	4.95	ナテ・ケスリ	ナテ	5mm以下長石	淡青灰白 色・青灰 白色	良	歪む・一 部自然釉 付着
195	92A	包含層	須恵器	杯蓋	14.85	3/5	5.2	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
196	92A	包含層	須恵器	杯蓋	14.8	1/2	4.8	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	青灰色・ 紫色	良	
197	92A	包含層	須恵器	杯蓋	14.5	1/2	4.5	ナテ・ケスリ	ナテ	6mm以下長石・チャート・頁岩	灰褐色・ 黒灰褐色	良	
198	92A	包含層	須恵器	杯身	11.8	3/5	4.25	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	青灰色淡 青灰色～ 濃青灰色	良	
199	92A	包含層	須恵器	杯身	13.2	2/7	4.9	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
200	92A	包含層	須恵器	杯身	13	1/2	5	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
201	92A	包含層	須恵器	杯身	12.5	1/5	4.5	ヨコナテ・ケ スリ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	
202	92A	包含層	須恵器	杯身	12.4	1/5	4	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石・チャート	淡青灰色	良	
203	92A	包含層	須恵器	杯身	14.15	4/5	4.8	ヨコナテ・ケ スリ	ナテ	3mm以下長石・チャート	青灰色	良	
204	92A	包含層	須恵器	杯身	12.9	8/9	4.25	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	青灰白色	良	
205	92A	包含層	須恵器	杯身	11.5	2/3	4.6	ナテ・ケスリ	ナテ	4mm以下長石	青灰色	良	
206	92A	包含層	須恵器	杯身	13.4	1/5	5	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	
207	92A	包含層	須恵器	杯身	13.4	1/2	5.3	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	青灰色～ 淡灰色・ 濃灰色	良	
208	92A	包含層	須恵器	椀	9.6	1/16	3.5		ナテ		明灰色	やや 不良	
209	92A	包含層	須恵器	甕	9	1/12	10.5	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石・チャート	暗茶灰色	良	内外面自 然釉付着
210	92A	包含層	須恵器	高杯	13.1	1/2	9	ナテ・ケスリ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩	青灰色	良	穿孔3か 所有
211	92A	包含層	須恵器	高杯	14.7	2/5	4.4	不明	ナテ	2mm以下長石・石英・チャート	淡黄灰褐 色	良	

212	92A	包含層	須恵器	高杯	9.1	1/8	5.8	ナテ・スシ	ナテ	2.5mm以下長石・石英	灰色	良	
213	92A	包含層	須恵器	高杯	14	底部1/12	5.9	ナテ・スシ	ナテ		淡灰色	良	
214	92A	包含層	須恵器	甕	19.6	1/16	7.4	ナテ	ナテ・指柵エ		青灰色	良	
215	92A	包含層	須恵器	甕	37.2	1/7	13.5	ヨコナテ・タキ・ヘラミカキ	ナテ・ケスリ	9mm以下長石	青灰色	良	
216	92A	包含層	須恵器	甕	27.8	1/36	1.2	ナテ	ナテ		淡灰色	良	
217	92A	包含層	須恵器	甕	17.1	1/5	14.7	ナテ・タキ	ナテ・タキ	2.5mm以下長石	青灰色～淡青灰色	良	
218	92A	包含層	須恵器	甕	43	1/13	2	ナテ	ナテ	4.5mm以下長石	黒灰色・紫灰色	良	
219	92A	包含層	須恵器	壺	34.4	1/8	18.1	ナテ・ハク・タキ	ナテ・指柵エ	2mm以下長石	灰褐色	やや不良	
220	92A	SD395501	弥生	水差し	8.9	8/9	43.7	ミカキ	ナテ	5mm以下長石・チャート・赤色斑粒	灰褐色・淡茶褐色	不良	
221	92A	SD395501	弥生	甕	6.5	底部1/2	7	指柵エ・ハク	指柵エ	2.5mm以下長石・チャート	淡橙色・淡黄褐色～黒褐色	良	
222	92A	SD395501	弥生	甕	14.4	1/10	4.9	ナテ・ハク	ナテ・ハク	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡黄褐色	良	外面コテ・ス付着
223	92A	SD395503	弥生	広口壺	22	4/5	20	ハク・ナテ	ナテ	3mm以下チャート	黄褐色～黒色	良	
224	92A	SD395503	弥生	広口壺	8.8	底部1/6	20	ミカキ	ナテ	3mm以下チャート	黄褐色～黒色	良	
225	92A	SD395501	弥生	甕	16	1/16	9.5	不明	指柵エ・ナテ	3.5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	橙褐色・暗茶褐色	良	
226	92A	SD395501	弥生	甕	15.8	1/6	6.5	ナテ・ハク	ナテ・ハク・指柵エ	3mm以下石英・長石・チャート	淡黄褐色	良	
227	92A	SD395501	弥生	甕	15.4	ほぼ完	5	ハク・ナテ	ナテ・ハク・指柵エ	5mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡褐色・淡濁褐色	不良	口縁内部上面にス付着
228	92A	SD395501	弥生	甕	16.6	1/10	3.7	ナテ・ハク	不明	3mm以下石英・長石・チャート	淡濁黄褐色	良	
229	92A	SD395501	弥生	甕	18.2	1/4	4	ナテ・ハク	ハク	5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡灰褐色	不良	
230	92A	SD395501	弥生	甕	18.8	1/7	2.5	ナテ・ハク	ハク	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩	黄褐色・淡赤褐色	良	
231	92A	SD395501	弥生	甕	19	1/5	6.8	ナテ・ハク	ナテ・ハク	4.5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色・淡橙茶褐色	良	
232	92A	SD395501	弥生	甕	19.8	1/7	4.1	ナテ・ハク	ハク	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡黄褐色	やや不良	
233	92A	SD395501	弥生	甕	18.85	完	16.2	ナテ・ハク	ナテ・ハク・指柵エ	3.5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄褐色～赤黄褐色	良	中央部歪み有
234	92A	SD395501	弥生	甕	22.8	1/10	3	ナテ・ハク	ハク	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡黄褐色	良	外面コテ・ス付着
235	92A	SD395501	弥生	甕	21.5	1/24	12.7	ナテ・ハク	ナテ・ハク・指柵エ	6mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	良	内外コテ・ス付着
236	92A	SD395503	弥生	甕	17.4	1/4	3.8	ナテ	ハク・指柵エ	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄灰褐色	良	
237	92A	SD395503	弥生	甕	18.1	1/6	3	ナテ・ハク	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡褐色	良	
238	92A	SD395503	弥生	甕	19.4	1/6	4.5	ナテ・ハク	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	やや不良	
239	92A	SD395503	弥生	甕	24.6	1/16	6.4	ナテ・ハク	ナテ	5mm以下長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	不良	

240	92A	SD395 503	弥生	鉢	25.4	1/6	8	ナテ・ハク	ナテ・ハク	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡黄赤褐色	良	
241	92A	SD395 503	弥生	底部	6.4	底部 完	9.7	不明	ナテ・指 サエ	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	黄褐色・ 灰黒色	良	
242	92A	SK395 502	弥生			破片	4.4	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	褐色・暗 褐色	良	
243	92A	SK395 502	弥生			破片	3.6	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下石英・長石・チャ ト	褐色	良	
244	92A	包含 層	弥生	壺	24.5	1/8	3.1		ハク	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	良	黒斑有
245	92A	包含 層	弥生	壺	26	1/8	1.4		ハク	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡褐色	良	黒斑有
246	92A	包含 層	弥生	壺	25.9	1/4	11.8	ナテ・ハク	ハク	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	明褐色	良	
247	92A	包含 層	弥生	壺	12	1/6	7.7	ナテ	ナテ・指 サエ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙褐色・ 灰色	良	
248	92A	包含 層	弥生	壺	17.6	1/12	14.8	ナテ	不明	6mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡黄褐色	良	
249	92A	包含 層	弥生	壺	16.4	1/6	20.2	不明	ナテ・指 サエ	6mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡黄茶褐 色	不良	
250	92A	包含 層	弥生	甕	14.2	1/4	21.3	ナテ・ハク	ナテ・ハク	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡橙褐色	やや 不良	外面黒斑 有
251	92A	包含 層	弥生	甕			3	ハク	ハク	1mm以下石英・長石・チャ ト・赤色斑粒	暗茶褐・ 淡茶色	良	
252	92A	包含 層	弥生	甕	22	1/16	3.3	ハク	ハク	1mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	濁橙褐色	良	
253	92A	包含 層	弥生	甕	17.4	1/4	5.3	不明	不明	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	黄褐色	やや 不良	
254	92A	包含 層	弥生	甕	17	1/6	7.1	ハク・指 サエ	ナテ	2.5mm以下石英・長石・ チャト・赤色斑粒	黄褐色・ 淡黄褐色	やや 不良	口縁歪む
255	92A	包含 層	弥生	甕	19.6	1/20	4.2	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	良	口縁歪む
256	92A	包含 層	弥生	甕	20.2	1/10	3.7	不明	不明	5mm以下石英・長石・チャ ト	明茶灰色	良	
257	92A	包含 層	弥生	甕	20.4	1/10	7.1	ハク・指 サエ	ナテ・指 サエ	4mm以下石英・長石・チャ ト	淡茶灰色	良	
258	92A	包含 層	弥生	甕	21.5	1/8	5.8	ハク	ナテ・ハク	4mm以下石英・長石・チャ ト	淡茶灰色 乳茶灰色	やや 不良	
259	92A	包含 層	弥生	甕	9.75	1/4	14.85	ハク・指 サエ	ハクスリ・ナ テ	4.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩	灰黄色・ 灰黄褐色	良	外面ス付 着
260	92A	包含 層	弥生	甕	15.6	1/5	5.5	ナテ・ハク	ハクスリ・ハ ケ目	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡茶灰色 ～茶褐色	良	
261	92A	包含 層	弥生	甕	15.7	1/8	7.8	ハク	ハク	3.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩	淡茶灰色 ～暗灰色	良	
262	92A	包含 層	弥生	甕	17	1/10	2.8	ハク	ナテ・ハク	2mm以下石英・長石	明茶灰色 ～暗茶灰 色	良	
263	92A	包含 層	弥生	甕	16.1	1/4	7.4	ハク	ハク・指 サエ	1.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩	黄褐色	良	
264	92A	包含 層	弥生	甕	17.2	口縁 完	11.3	ナテ・ハク	ナテ・ハク	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	やや 不良	外面コケ ス付着
265	92A	包含 層	弥生	壺	3	1/2	5.7	指 サエ	ハク・指 サエ・ナ テ	2mm以下石英・長石・チャ ト・赤色斑粒	淡黄褐色	良	
266	92A	包含 層	弥生	甕	6	底部 3/4	4.5	ハク	指 サエ	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	黄褐色	良	内面底部 にコケ有
267	92A	包含 層	弥生	甕	6	底部 1/2	4.7	クスリ・指 サエ	指 サエ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡黄褐色	良	
268	92A	包含 層	弥生	甕	5.6	底部 1/2	4.6	ハク	指 サエ・ナ テ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	橙褐色・ 暗灰色	良	底部に木 葉痕

269	92A	包含層	弥生	壺	3.5	底部完	2.5	クズリ	クズリ	4mm以下石英・長石	茶褐色	良	
270	92A	包含層	弥生	甕	6	底部1/5	1.4	ハヤ・ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャート・雲母	淡黄褐色・黒灰色～橙褐色	良	
271	92A	包含層	弥生	壺			2.4	ハヤ	ナテ	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	茶褐色	良	
272	92A	包含層	弥生	甕	6	底部1/4	3.6	ハヤ	指挿エ	3.5mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡黄褐色	良	
273	92A	包含層	弥生	底部	7	底部3/4	3.6	ハヤ	指挿エ・ナテ	5mm以下石英・長石・頁岩	黄褐色	良	底部に葉脈痕
274	90B	SR35706	須恵器	杯	12.6	底部1/3	2	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰色	良	
275	90B	SR35706	須恵器	蓋	13	1/4	2.7	クズリ・ナテ	ナテ	2mm以下長石	灰色	良	
276	90B	SR35706	須恵器	壺	15	1/9	4.1	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	やや不良	
277	90B	SR35706	弥生	甕	4.5	底部完	3	クサキ	ハヤ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐色	やや不良	
278	90B	SR35706	須恵器	壺	8.8	1/3	7.5	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	灰色	良	内外面自然釉付着
279	90B	SR35706	須恵器	革袋形	4.1	1/2	3.8	ナテ・竹管文・刻目	ナテ	5mm以下石英・長石・頁岩	淡灰色	良	
280	90B	SR35706	須恵器	甕	18.8	3/4	17.5	クサ目・クサキ	ナテ・クサキ	6mm以下長石	淡灰色	やや不良	
281	90B	SR35707	土師器	皿	9	1/6	1.15	ナテ	ナテ	1mm以下長石	茶褐色	良	
282	90B	SR35707	須恵器	杯蓋	13.8	1/2	4.3	クズリ・ナテ	ナテ	3mm以下長石	茶灰色～淡灰色・灰色	良	
283	90B	SR35707	須恵器	杯蓋	15	1/8	3.7	ナテ	ナテ	2mm以下長石	灰色	良	
284	90B	SR35707	須恵器	杯身	12	1/9	3.3	ナテ・クズリ	ナテ	3mm以下長石	淡灰色	良	
285	90B	SR35707	須恵器	臚	6.8	1/2	8.8		ナテ	0.5mm以下長石	濃暗灰・濃灰色	良	
286	90B	SR35707	土師器	皿	18.9	1/10	2	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	茶褐色	良	口縁歪む
287	90B	SR35707	須恵器	蓋	15.6	クサ完1/4	2.8	ナテ・クズリ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	
288	90B	SR35707	須恵器	蓋	17.6	1/12	1.7	ナテ	ナテ	0.5mm以下チャート・頁岩	淡灰色	良	外面自然釉付着
289	90B	SR35707	須恵器	壺	9.2	1/3	10.4	ナテ・クサキ	ナテ・指挿エ	4mm以下長石	乳灰色	良	
290	90B	SR35707	弥生	甕	16.7	1/6	3.2	ナテ	ハヤ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	赤褐色	やや不良	
291	90B	SR35707	須恵器	甕	27.7	1/16	6.5	ナテ	ナテ・ハヤ	2mm以下長石	淡灰色	良	内外面自然釉付着
292	90B	SR35707	土師器	鉢	11.1	1/6	3	指挿エ・ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャート・赤色斑粒	黄褐色	やや良	
293	90B	SR35707	土師器	高杯	9.5	底部ほぼ完	6.1	ナテ	指挿エ・沫リ	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	茶褐色	やや不良	
294	90B	SR35707	土師器	高杯			5	ナテ	沫リ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐色	やや良	
295	90B	SR35707	須恵器	高杯	10.4	底部1/4	4	ナテ	ナテ	0.25mm以下長石	青灰色	やや不良	3箇所スカ窓有
296	90B	SR35707	土師器	甗			7	指挿エ・ナテ	指挿エ・ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・雲母	橙茶褐色	良	

297	90B	SR357 07	弥生	甌	8	底部 9/10	8	不明	不明	9mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙茶褐色	やや 不良	底に穿孔 1か所有 (円形)
298	90B	SR357 07	弥生	甕	4.1	底部 完	2.2	クキ	ハ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐色	やや 不良	
299	90B	SR357 07	弥生	甕	5	底部 1/2	2.8	クキ・ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	やや 良	部分的に ス・炭素 附着
300	90B	包含 層	土師 器	椀	13	1/16	5.4	ミカキ・ナテ	ミカキ・ナテ	1mm以下長石	橙茶褐色	良	
301	90B	包含 層	須恵 器	杯身	13.8	1/4	3.7	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石	灰色・灰 褐色	良	
302	90B	包含 層	土師 器	杯	6.4	底部 1/4	1	不明	不明	1mm以下赤色斑粒	淡黄褐色	良	
303	90B	包含 層	須恵 器	杯	10	底部 1/5	2.2	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡青灰色	良	
304	90B	包含 層	須恵 器	杯	9.2	底部 1/16	1.9	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	
305	90B	包含 層	須恵 器	蓋	フミ径 3.3	フミ 1/2	1.7	クスリ	ナテ	2mm以下長石	淡乳灰色	やや 不良	宝珠フミ
306	90B	包含 層	須恵 器	蓋	フミ径 2	フミ 完	2.9	ナテ	ナテ	3mm以下長石	淡黒灰色	良	
307	90B	包含 層	須恵 器	蓋	17.5	1/12	1.7	ナテ	ナテ	2mm以下長石	灰色	良	
308	90B	包含 層	須恵 器	蓋	17.5	1/5	1.5	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡緑灰色	良	
309	90B	包含 層	須恵 器	蓋	17.5	1/10	1.4	ナテ	ナテ	2mm以下長石	淡緑灰色	良	
310	90B	包含 層	須恵 器	蓋	20.1	1/10	1.5	ナテ	ナテ		淡灰色	良	外面自然 釉附着
311	90B	包含 層	須恵 器	蓋	19.5	1/12	2.1	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・石英・ チャト・頁岩	淡灰色	やや 不良	
312	90B	包含 層	灰釉	皿	17	1/16	1.3	施釉	施釉		濃緑灰色	良	
313	90B	包含 層	須恵 器	壺	3.8	ほぼ 完	9.7	ナテ	ナテ		乳黄灰色	良	
314	90B	包含 層	緑釉	皿	7.5	底部 7/10	1.8	クスリ	クスリ		緑釉	良	重ね焼き の跡有
315	90B	包含 層	須恵 器	蓋	11	完	2.9	ナテ	ナテ	3mm以下長石	灰色	良	
316	90B	包含 層	須恵 器	杯	10.1	1/2	3.05	ナテ	ナテ	2mm以下長石	灰色	良	
317	90B	包含 層	緑釉	椀	6.2	底部 1/6	1.7	クスリ	ナテ	0.5mm以下長石	緑灰色	良	
318	90B	包含 層	白磁	椀	16.8	1/16	6	クスリ	クスリ		乳白色	良	気泡が見 られる
319	90B	包含 層	緑釉	椀	6.8	底部 1/3	1.5	不明	不明		淡灰緑色	良	内外面釉 薬(灰 緑) 附着
320	90B	包含 層	土師 器	ミニチュア 土器	3	ほぼ 完	3	指サエ	指サエ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	やや 良	
321	90B	包含 層	土師 器	鉢	13	1/2	4.9	指サエ・ナ テ	指サエ・ナ テ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	赤茶褐色	良	
322	90B	包含 層	土師 器	甕	12.2	1/5	10.1	指サエ・ナ テ	ナテ	2mm以下石英・長石・雲 母・赤色斑粒	淡黄褐色	良	
323	90B	包含 層	土師 器	壺	9	1/5	8.2	ハ	クスリ・指サ エ	1mm以下石英・長石	橙褐色	良	
324	90B	包含 層	土師 器	高杯	15.7	1/3	9	ナテ・指サ エ・クスリ	クスリ	2mm以下長石・赤色斑粒	橙褐色	良	

325	90B	包含層	土師器	甕	14	1/2	21	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ・指杵エ・ケスリ	12mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄褐色	良	
326	90B	包含層	土師器	甕	19.2	1/7	6.6	ナテ・指杵エ・ハケ	ナテ・指杵エ	3mm以下石英・チャート・雲母・赤色斑粒	淡橙褐色	不良	
327	90B	包含層	土師器	甕	17.2	1/7	8.8	ナテ・ハケ	ナテ・ケスリ・指杵エ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡褐色	良	
328	90B	包含層	土師器	甕	19	1/4	14.3	ナテ・ハケ	ナテ・指杵エ・ハケ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡褐色	良	
329	90B	包含層	土師器	甕	24	1/6	26.4	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ・オサエ・ケスリ	7mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄茶褐色	良	
330	90B	包含層	須恵器	杯蓋	15	3/4	4.8	ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャート	淡乳灰色	不良	
331	90B	包含層	須恵器	杯蓋	13.2	ほぼ完	4.2	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	灰色	良	外面自然釉付着
332	90B	包含層	須恵器	杯蓋	13.5	1/36	2.05	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	
333	90B	包含層	須恵器	杯身	10.8	1/4	4.05	ナテ・ケスリ	ナテ		灰色	良	
334	90B	包含層	須恵器	杯身	12.2	ほぼ完	4.1	ケスリ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡茶褐・淡褐色	不良	
335	90B	包含層	須恵器	杯身	12.3	1/4	4.2	ハケ・ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャート	灰色	良	
336	90B	包含層	須恵器	杯身	12.5	3/4	4.6	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	淡灰色	良	
337	90B	包含層	須恵器	口縁	9	1/10	3.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	灰色	良	内面自然釉(緑褐色系)着
338	90B	包含層	須恵器	壺	10.8	1/8	9.6	ナテ	ナテ・指杵エ	3mm以下長石	灰色	良	
339	90B	包含層	須恵器	壺	15.2	破片	4.6	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	青灰色	良	
340	90B	包含層	須恵器	甕	17.9	1/12	7.6	ナテ・タタキ	ナテ・タタキ	1mm以下長石・頁岩	灰色	良	
341	90B	包含層	須恵器	甕	39.4	1/10	4.7	ナテ	ナテ	3mm以下長石	濃灰色・薄緑灰色	良	
342	90B	包含層	弥生	底部	3.4	底部完	2	ケスリ	ケスリ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	明橙淡褐色・灰色	やや良	
343	91B	SK36841	土師器	皿	7.2	1/5	1.2	ナテ・指杵エ	ナテ	1.5mm以下長石・赤色斑粒・雲母	淡茶褐色	良	
344	91B	SK36841	土師器	皿	8.2	1/7	0.9	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒	淡褐色	良	
345	91B	SK36841	土師器	皿	7.9	1/5	1.1	不明	ナテ・指杵エ	1mm以下石英・チャート・赤色斑粒	淡赤褐色	良	
346	91B	SK36841	土師器	皿	8.7	1/4	1.5	ナテ・指杵エ	ナテ	1mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
347	91B	SK36841	土師器	皿	8.4	1/3	1.1	不明	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒	赤褐色	良	
348	91B	SK36841	土師器	皿	8.4	1/8	1.05	ナテ	ナテ	1mm以下赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
349	91B	SK36841	瓦器	皿	6.2	1/12	1.4	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・雲母	灰色	良	
350	91B	SK36841	瓦器	皿	9.4	1/5	1.2	ナテ・指杵エ	ナテ	0.5mm以下長石・雲母	濃灰色	良	
351	91B	SK36841	瓦器	皿	10.6	1/12	1.3	ナテ・指杵エ	不明	0.5mm以下チャート・雲母	黒灰色～灰褐色	良	
352	91B	SK36841	土師器	皿	8.2	1/6	1.2	ナテ	ナテ	1mm以下長石・雲母	淡褐色	良	
353	91B	SK36841	土師器	皿	7.1	1/3	1.4	ナテ	指杵エ	1mm以下石英・長石・チャート・頁岩・雲母	淡茶灰色 淡灰褐色	良	

354	91B	SK368 41	土師器	皿	8	1/4	1.4	ナテ・指 工	ナテ	1mm以下長石・雲母	淡褐色	良	
355	91B	SK368 41	土師器	皿	6.9	1/4	1.1	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・チャ ト・赤色斑粒	淡茶灰色	良	
356	91B	SK368 41	土師器	皿	8.4	1/4	1.35	ナテ	ナテ・指 工	1.5mm以下石英・長石・ チャト・赤色斑粒・雲母	淡茶灰褐色	良	歪む
357	91B	SK368 41	瓦器	皿	9.2	完	1.6	指 工	指 工・ミ ガキ	1mm以下長石・頁岩・雲母	濃灰色・ 淡灰色	良	
358	91B	SK368 41	土師器	皿	8.4	1/2	1.2	不明	ナテ	2.5mm以下石英・赤色斑 粒・雲母	赤褐色	良	
359	91B	SK368 41	土師器	皿	8.6	1/5	1.5	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・チャ ト・雲母	淡褐色	良	
360	91B	SK368 41	土師器	皿	8.5	1/4	1.3	ナテ	ナテ・指 工	1mm以下長石・チャト・雲母	明茶灰色 茶灰褐色	良	
361	91B	SK368 41	土師器	皿	9.3	1/4	1.6	ナテ・指 工	ナテ	2.5mm以下石英・長石・ チャト・雲母	淡茶灰色 ～橙褐色	良	
362	91B	SK368 41	土師器	皿	9.8	1/3	1.7	ナテ	ナテ	5mm以下長石・チャト・赤色 斑粒・雲母	明茶灰色	良	
363	91B	SK368 41	土師器	皿	9.8	1/6	2.2	ナテ	ナテ	2mm以下長石・チャト・頁岩	淡茶灰色 ～暗茶灰 色	良	
364	91B	SF368 36	瓦器	皿	9	1/8	1.3	指 工・ミ ガキ	ミガキ	0.5mm以下長石・頁岩・雲 母	淡茶灰色	良	
365	91B	SK368 41	土師器	皿	11.2	1/7	2	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡褐色	良	
366	91B	SK368 41	土師器	皿	13.4	1/16	2.7	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩・雲 母	淡茶褐色	良	
367	91B	SK368 41	土師器	皿	12.9	1/3	2.2	ナテ	ナテ・指 工	2mm以下長石・チャト・赤色 斑粒・雲母	赤褐色	良	
368	91B	SK368 41	土師器	皿	13.6	1/8	2.4	ナテ	ナテ	1mm以下長石・チャト・雲母	淡褐色	良	
369	91B	SK368 41	土師器	皿	14.2	1/3	2.15	ナテ	ナテ	2mm以下長石・石英・赤色 斑粒・雲母	赤褐色	良	
370	91B	SK368 41	土師器	皿	11.8	1/5	2	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩・雲 母	淡褐色	良	
371	91B	SF368 36	瓦器	皿	9.6	1/4	1.1	指 工	ミガキ	0.5mm以下長石	淡黒灰色	良	
372	91B	SK368 41	瓦器	椀	15.4	1/6	4.2	ナテ・指 工	ミガキ	0.5mm以下長石・雲母	濃灰色	良	
373	91B	SK368 41 SF368 36	瓦器	椀	15	1/2	6.3	ナテ	ミガキ	1mm以下長石	濃灰色	良	貼付高台
374	91B	SK368 41	瓦器	椀	14.8	1/6	4.5	ナテ	ミガキ	0.5mm以下長石・雲母	黒灰色	良	貼付高台
375	91B	SK368 41	瓦器	椀	13.9	1/2	4.7	ナテ・ミ ガキ・指 工	ミガキ	1mm以下長石	淡黒灰色	良	貼付高台
376	91B	SK368 41	瓦器	椀	14	1/5	4.2	ナテ・指 工	ミガキ	0.5mm以下長石・石英・雲 母	濃灰色	良	
377	91B	SF368 36	瓦器	椀	15	ほぼ 完	5.3	ナテ・指 工	ナテ・ミ ガキ	5mm以下石英・長石・チャ ト・雲母	黒色	やや 不良	貼付高台 ・歪む
378	91B	SK368 41	瓦器	椀	13.4	1/6	4.55	ナテ・指 工	ミガキ	0.5mm以下長石・雲母	灰色	良	
379	91B	SK368 41	瓦器	椀	13.7	2/3	4.8	ナテ・ミ ガキ・指 工	ミガキ	1mm以下長石・雲母	黒灰色	良	貼付高台
380	91B	SK368 41	瓦器	椀	14	2/3	4.95	指 工・ミ ガキ	ミガキ	1mm以下長石	黒灰色	良	貼付高台
381	91B	SK368 41	瓦器	椀	14.4	完	4.75	指 工・ミ ガキ	指 工・ミ ガキ	1mm以下長石	黒灰色	良	貼付高台 ・歪む

382	91B	SK368 41	瓦器	椀	14	1/6	3.85	ナテ	ミカキ	1mm以下長石・石英	淡灰色	良	
383	91B	SK368 41	瓦器	椀	14.8	1/5	4	ナテ・指 工・ミカキ	ミカキ	2mm以下長石・チャート・雲母	灰白色～ 濃灰色	良	
384	91B	SK368 41	瓦器	椀	13.7	1/4	4.8	ナテ・指 工・ミカキ	ミカキ		黒灰色	良	貼付高台
385	91B	SK368 41	瓦器	椀	13.6	1/9	3.7	ナテ	ミカキ	2mm以下長石	灰色	良	
386	91B	SK368 41	瓦器	椀	14.2	1/3	4.3	ナテ・指 工・ミカキ	ミカキ	1mm以下長石	淡灰色	良	
387	91B	SK368 41	瓦器	椀	14	1/6	4.2	ナテ・指 工・ミカキ	ミカキ	0.5mm以下長石	淡灰色～ 濃灰色	良	
388	91B	SK368 41	瓦器	椀	14.6	1/6	3.6	不明	ミカキ	1mm以下長石・石英・雲母	灰色	良	
389	91B	SK368 41	白磁	椀	14.9	1/12	4.7	施釉	施釉		乳白色	良	釉薬：乳 灰色
390	91B	SK368 41	土師 器	羽釜	26	1/5	3.2	ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩	褐色	良	外面ス付 着
391	91B	SK368 41	土師 器	羽釜	28	1/3	3.4	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩	茶褐色	良	外面ス付 着
392	91B	SF368 36・ SK368 41	土師 器	羽釜	26.6	1/8	4.3	ナテ・指 工	ナテ	2mm以下石英・長石	淡褐色	良	外面ス付 着
393	91B	SF368 36・ SK368 41	土師 器	羽釜	31	1/3	21.4	ナテ・指 工	ナテ・ハ ク	3mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩	淡褐色	良	内外面ス 付着
394	91B	SF368 36 SK368 41	須恵 器	壺	10.8	底部 完	18.1	タタキ・ナ テ	ケスリ・指 工・ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩	淡灰色	良	
395	91B	SX368 42・ SK368 41	瓦質 土器	羽釜	16.4	1/2	12.5	ナテ	ナテ	4mm以下石英・長石・チャ ート・赤色斑粒	淡茶褐 色・黒褐 色・橙褐 色	良	外面ツ ス付着
396	91B	SK368 41	瓦質 土器	羽釜	18.1	口縁 ほぼ 完	24	ナテ・指 工・ケス リ	ナテ	1mm以下長石・チャート・雲母	灰褐色	良	内外面コ ケス付 着
397	91B	SF368 36	瓦器	皿	8.4	1/6	1.3	ナテ	ナテ	雲母	暗灰色	良	
398	91B	SF368 36	土師 器	皿	7.6	1/6	1.25	ナテ・指 工	ナテ	2mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩・赤色斑粒	明茶灰色 ～暗茶灰 色	良	歪む
399	91B	SF368 36	土師 器	皿	12.5	1/8	1.9	ナテ	ナテ	雲母	淡茶灰色	良	歪む
400	91B	SF368 36	瓦	丸瓦				ナテ	ナテ	雲母	淡灰色～ 黒灰色	良	
401	91B	SF368 36	瓦器	椀	14.3	1/4	4.9	指 工	ミカキ	0.5mm以下長石・雲母	淡黒灰色	良	歪む
402	91B	SF368 36	瓦器	椀	13.8	1/6	4.8	ミカキ・ナ テ・指 工	ミカキ・ナ テ	1mm以下長石	黒灰色	良	貼付高台 ・歪む
403	91B	SF368 36	瓦器	椀	14.9	1/8	4.4	ミカキ・ナ テ・指 工	ミカキ	1mm以下石英・頁岩	黒灰色	良	
404	91B	SF368 36	瓦器	椀	12.8	1/8	4.2	ミカキ・ナ テ	ミカキ・ナ テ	0.5mm以下長石・チャート・雲 母	淡黒灰色	良	
405	91B	SF368 36	瓦器	椀	14.4	1/6	4.7	ミカキ・ナ テ・指 工	ミカキ	3.5mm以下長石・チャート	淡黒灰 色・茶灰 色	良	
406	91B	SF368 36	瓦器	椀	13.3	1/3	4.8	ミカキ・ナ テ・指 工	ミカキ	1mm以下長石	淡黒灰色	良	
407	91B	SF368 36	瓦器	椀	14	1/12	4.9	指 工	ミカキ	0.5mm以下石英・長石・雲 母	淡黒灰色	やや 不良	

408	91B	SF368 36	瓦器	椀	12.7	1/8	3.8	指挿エ・ミ ガキ	ミガキ	雲母	黒灰色～ 乳灰色	良	貼付高台
409	91B	SF368 36	瓦器	椀	14.4	1/8	4.8	不明	不明	1.5mm以下長石・雲母	淡茶褐色 ～黒灰 色・淡茶 灰褐色	やや 不良	貼付高台 ・歪む
410	91B	SF368 36	瓦器	椀	13.9	1/4	4	指挿エ・ミ ガキ	ミガキ	1.5mm以下頁岩・雲母	黒灰色～ 淡灰色	良	
411	91B	SF368 36	瓦器	椀	14.7	1/2	4.4	ナテ・指挿 エ	ミガキ	1mm以下石英・長石・チャ ト・雲母	淡茶灰色 濃茶灰色	良	
412	91B	SF368 36	瓦器	椀	14.3	1/4	4.4	ミガキ・ナ テ・指挿 エ	ミガキ	2mm以下長石・雲母	淡黒灰色	良	
413	91B	SF368 36・ SK368 41	瓦器	椀	14.8	1/4	4.8	指挿エ・ミ ガキ	ミガキ	3.5mm以下頁岩	淡茶灰色	やや 不良	歪む
414	91B	P23	須恵 器	大甕	30.6	1/4	11.8	ナテ・タタ キ	ナテ・タタ キ	5.5mm以下長石	灰褐色・ 青灰色	良	
415	91B	SE368 23	土師 器	皿	10	1/6	1.45	ナテ	ナテ	1mm以下雲母	淡褐色	良	「て」の 字口縁
416	91B	SE368 23	土師 器	皿	10	1/6	1.3	ナテ	ナテ	0.5mm以下赤色斑粒・雲 母	淡褐色	良	「て」の 字口縁
417	91B	SE368 23	土師 器	皿	10.2	1/8	1.9	ナテ	ナテ・指挿 エ	0.5mm以下長石・赤色斑 粒・雲母	淡褐色	良	ての字口 縁
418	91B	SE368 34	瓦	平瓦				ヘラクス ^リ ・ 布目痕	ヘラクス ^リ ・タ タキ	10mm以下長石	灰白色	やや 不良	唐草文軒 平瓦
419	91B	SE368 45	瓦	丸瓦				不明	布目痕	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡灰色	良	
420	91B	SK368 25	瓦	丸瓦				ナテ・布目 痕	布目痕	2mm以下石英・長石・頁岩	淡灰色	良	
421	91B	SK368 25	瓦	平瓦				縄タタ キ	布目痕	4mm以下石英・長石・チャ ト	黒灰色・ 淡褐色	良	
422	91B	SK368 24	瓦	平瓦				格子目タ タキ	布目痕	9mm以下チャ ト	灰白色・ 淡褐色	やや 不良	唐草文軒 平瓦
423	91B	SK368 25	弥生	壺頸 部	11.7	1/5	2.8	ナテ	ナテ	5mm以下長石・チャ ト	茶灰褐色	良	
424	91B	SK368 25	土師 器	椀	11.2	1/4	2.9	不明	不明	1mm以下石英・長石・雲 母・チャ ト	明茶褐色	良	
425	91B	SK368 25	土師 器	椀	14.4	1/6	3.4	ナテ・指挿 エ	ナテ	1mm以下長石・雲母・チャ ト	明茶褐色	良	
426	91B	SK368 25	土師 器	蓋	15.7	1/3	2.6	ナテ・ミガ キ	不明	1mm以下石英・長石・雲母	橙茶褐色	良	
427	91B	SK368 25	土師 器	椀	12.8		3.25	不明	不明	1mm以下石英・長石・雲 母・チャ ト・赤色斑 粒	橙褐～淡 橙褐色	良	
428	91B	SK368 25	土師 器	杯	17.6	1/4	3.7	ナテ・クス ^リ	ナテ	1.5mm以下雲母・赤色斑 粒	橙褐色	良	外面ス付 着
429	91B	SK368 24	土師 器	皿	19.7	1/8	1.9	ナテ・クス ^リ	ナテ	0.5mm以下長石・雲母・赤 色斑粒	橙褐色	良	
430	91B	SK368 25	土師 器	杯	22.2	1/2	7.3	ミガキ・ナ テ	ナテ	2mm以下長石・赤色斑粒	橙褐色	良	
431	91B	SK368 25	土師 器	高杯	19.6	1/12	3.5	ミガキ	ナテ	2mm以下長石・チャ ト・雲母	橙褐色	良	
432	91B	SK368 24	須恵 器	蓋	11.5	1/6	2.8	ナテ・クス ^リ	ナテ	1.5mm以下長石	灰色	良	
433	91B	SK368 24・ SK368 25	須恵 器	杯身	10.2	1/6	2.4	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	青灰色	良	
434	91B	SK368 25	須恵 器	臈	9.9	1/8	3.2	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	良	

435	91B	SK368 25	須惠 器	杯蓋				ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	
436	91B	SK368 25	須惠 器	杯蓋	10.5	1/12	0.95	ナテ・ケスリ	ナテ	0.5mm以下長石	灰色～淡 灰色	良	
437	91B	SK368 25	須惠 器	杯蓋	11.3	1/3	1.5	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	良	
438	91B	SK368 25	須惠 器	杯蓋	13.2	1/3	2.3	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	灰色	良	
439	91B	SK368 25	須惠 器	杯蓋	14.1	1/6	0.75	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	淡灰色	やや 不良	
440	91B	SK368 24	須惠 器	杯蓋	14	1/24	8.5	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	
441	91B	SK368 25	須惠 器	杯蓋	14.2	1/4	1.5	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	淡灰色	良	
442	91B	SK368 25	須惠 器	杯蓋	15.9	1/8	0.85	ナテ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	
443	91B	SK368 25	須惠 器	杯蓋	19.5	1/8	1.9	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	
444	91B	SK368 24・ SK368 25	須惠 器	皿	17.4	1/8	2.3	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下頁岩	暗灰色	良	貼付高台
445	91B	SK368 25	須惠 器	杯	10.8	底部 1/9	2.7	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	やや 不良	貼付高台
446	91B	SK368 25	須惠 器	杯	10.8	底部 1/6	1.8	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	
447	91B	SK368 25	須惠 器	杯	10	底部 1/4	7.6	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	
448	91B	SK368 25	須惠 器	杯	7.3	底部 1/4	1.55	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	外面釉付 着(緑灰 色)
449	91B	SK368 24	須惠 器	杯	10.1	底部 1/6	1.8	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	貼付高台
450	91B	SK368 24	須惠 器	甕	11.9	底部 1-6	2.7	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	糸切り底
451	91B	SK368 24	須惠 器	杯	9.3	底部 1/4	1.2	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	灰色	良	貼付高台
452	91B	SK368 24	須惠 器	杯	7.6	底部 1/5	1.5	ナテ・ケスリ	ナテ	5mm以下長石	灰色	良	外面自然 釉付着
453	91B	SK368 24	須惠 器	杯	13.3	底部 1/4	4.3	ナテ	ナテ	2mm以下長石	淡灰色	良	貼付高台
454	91B	SK368 25	須惠 器	杯	10	底部 1/8	3	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡茶灰色	やや 不良	
455	91B	SK368 25	須惠 器	杯	8.5	底部 1/5	2.5	ナテ	ナテ・ケスリ	1mm以下長石・頁岩	灰色	良	貼付高台
456	91B	SK368 25	須惠 器	杯	9.9	底部 1/8	3.9	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	灰色	良	貼付高台
457	91B	SK368 25	須惠 器	壺	3.8	底部 1/3	2.5	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩	灰色	良	内外面自 然釉付着
458	91B	SK368 24・ SK368 25	須惠 器	壺	6.4	底部 1/2	7.6	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	淡灰色	やや 不良	貼付高台
459	91B	SK368 25	須惠 器	壺	9.4	底部 1/3	2.2	ナテ	ナテ・ケスリ	1.5mm以下長石・頁岩	灰色	良	貼付高台
460	91B	SK368 25	須惠 器	不明			5.3	ナテ	ナテ	2mm以下長石・チャート	淡灰色	良	外面緑釉 付着
461	91B	SK368 24	灰釉	甕	15.9	1/10	2.4	ナテ	ナテ	1mm以下長石	暗灰色	良	

462	91B	SK368 25	須恵器	鉢	22.7	1/6	3.8	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	
463	91B	SK368 25・ SD357 06	須恵器	甕	24.5	1/3	7.3	ナテ・クサリ	ナテ・クサリ	3mm以下長石	青灰色	良	
464	91B	SK368 25	土師質	土錘	幅1.2		4.4	指持工		2mm以下石英・長石・チャート	淡褐色	良	孔径4mm・ 黒斑
465	91B	SK368 25		土馬			4.7	ナテ		2mm以下長石	淡橙褐色	良	
466	91B	SK368 24		土馬			4.4	ナテ		1mm以下石英・長石・赤色 斑粒・雲母	淡橙褐色	良	
467	91B	SD357 06	須恵器	耳皿	4.7	1/2	2.9	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰褐色	良	上面自然 釉付着・ 糸切り底
468	91B	SD357 06	須恵器	鉢	26.8	1/8	4.2	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	灰色	良	
469	91B	SD357 06	弥生	甕底部	5.1	底部 完	2.3	不明	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒	灰褐色・ 淡黄褐色	良	
470	91B	SD357 06	須恵器	杯	10	1/8	1.5	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩	灰色	良	底部へ切り
471	91B	SD357 06	須恵器	杯蓋	12.7	1/2	2.9	ナテ・クサリ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	
472	91B	SD357 06	弥生	甕	15.2	1/8	4.5	不明	不明	3.5mm以下石英・長石・ チャート・赤色斑粒	淡橙褐色 淡茶灰色	良	
473	91B	SD357 07	須恵器	杯蓋	13.9	1/6	3.3	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	灰色	やや 不良	
474	91B	SD357 07	須恵器	杯身	12.4	1/8	4.25	ナテ・クサリ	ヨコナテ	3mm以下長石・チャート	淡灰色	やや 不良	
475	91B	SD357 07	須恵器	杯身	13.8	1/5	3.7	ナテ	ナテ	2mm以下長石・チャート	灰色	良	
476	91B	SD357 07	須恵器	杯身	11.9	2/3	5.15	ナテ・クサリ	ナテ	5mm以下長石・チャート	淡灰色	良	
477	91B	SD357 07	須恵器	壺	15.4	1/5	5.7	ナテ	ナテ・クサリ	1mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
478	91B	SD357 07	須恵器	高杯	12.2	1/6	4.45	ナテ・クサリ	ナテ	2.5mm以下長石	灰色	良	歪む・外 面自然釉 付着
479	91B	SD357 07	須恵器	高杯	16.1	底部 1/8	5.5	ナテ	ナテ	1mm以下長石	灰色・暗 灰色	良	スリ3か 所有
480	91B	SD357 07	土師器	甕	15.4	1/4	6	ナテ・指持 工	指持工	7mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩・赤色斑粒	淡黄茶褐 色	良	
481	91B	SD357 07	土師器	皿	18	1/16	3	ナテ	ナテ	1mm以下赤色斑粒	淡茶褐色 淡黄褐色	良	
482	91B	SD357 07	弥生	壺	7.6	1/5	4.7	ナテ・ハク	指持工・ ナテ	3mm以下長石・チャート・赤色 斑粒	淡茶褐色	良	庄内式土 器
483	91B	SD357 07	弥生	甕	7	底部 完	4	指持工	指持工	4mm以下長石・石英	淡褐色	良	底部内面 コケ・双着
484	91B	SD357 07	弥生	甕	5.4	1/2	4.4	ハク	指持工・ナ テ	3mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩・赤色斑粒	褐色・赤 褐色	良	
485	91B	SD357 07	土師器	甕	14.2	1/9	3.4	不明	不明	5mm以下長石・チャート・赤色 斑粒	橙褐色	良	
486	91B	SD357 07	弥生	壺	15.5	1/8	4.6	ハク・ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡茶褐色	良	
487	91B	SD357 07	須恵器	壺	14.4	1/6	2	ナテ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	
488	91B	SD357 07	弥生	甕	15.7	1/9	5	ハク・ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩	淡茶灰色	良	
489	91B	SD357 07	弥生	甕	8.5	底部 1/8	5.7	ハク	不明	3mm以下長石・チャート・頁 岩・赤色斑粒	淡橙褐色	良	

490	91B	SD35707	弥生	甕	17.6	1/4	3.9	指挿エ・ナテ	指挿エ・ナテ	2mm以下長石・チャート・頁岩	淡茶褐色	良	
491	91B	SD35707	弥生	甕	17.8	1/6	3.2	ハウ・ナテ	ハウ	3mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒	淡褐色	良	
492	91B	SD35707	弥生	壺	28.4	1/8	4.8	不明	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡肌茶褐色	良	
493	91B	SD35707	弥生	壺	29.6	1/16	6.8	ハウ・ナテ	不明	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄褐色	良	
494	91B	SD35707	弥生	甕	25.2	1/12	3.2	ハウ・ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩	黄褐色	良	
495	91B	SD35707	弥生	甕	20.2	1/10	2.9	指挿エ・ナテ	ハウ	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄褐色	良	
496	91B	SD35707	弥生	甕	13.2	1/8	5.2	ナテ	ハウ・ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒	黄褐色	良	
497	91B	SD35707	土師器	甕	18.4	1/5	10.35	ハウ・ナテ	指挿エ・ナテ・クスリ	5mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒	橙茶褐色	良	
498	91B	SD35707	土師器	甕	36.8	1/12	7.7	ハウ・ナテ	ハウ	3mm以下長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	やや不良	
499	91B	SD35707	土師器	甕	16.8	1/3	13.7	ハウ・ナテ	ナテ・クスリ	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄橙褐色	良	
500	91B	SD35707	土師器	甕	15.2	3/4	16.2	ハウ・ナテ	ナテ・クスリ	4.5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	良	口縁歪む
501	91B	SD35707	土師器	甕	20.8	1/6	30.5	ナテ・ハウ	ナテ・クスリ・指挿エ	6mm以下石英・長石・チャート・頁岩	橙褐色・茶褐色	良	
502	91B	SD35707	土師器	甕	24.4	1/6	28.3	ナテ・ハウ	ナテ・クスリ・ハウ・指挿エ	4mm以下長石・赤色斑粒・頁岩	橙褐色	良	
503	91B	SD35707	弥生	甕	29.2	1/10	2.7	不明	不明	3mm以下石英・長石・チャート	黄褐色	良	
504	91B	SD35707	土師器	蓋	7.2	1/2	2.5	不明	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒	黄褐色	良	
505	91B	SD35707	弥生	壺	4	底部完	2.6	不明・ナテ	不明	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色・灰色	良	
506	91B	SD35707	弥生	甕	8.8	ほぼ完	4.3	ナテ	ナテ	7mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄褐色・灰色	良	
507	91B	SD35707	弥生	甕	5.6	1/5	6.5	不明・ナテ	不明	5mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡黄褐色	良	
508	91B	SD35707	土師器	脚部	4	頸部9/10	4.8	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石	黄褐色淡橙茶褐色	良	
509	91B	SD35707	土師器	高杯	3.6	脚部4/5	6.1	不明	沫リ目	5mm以下石英・長石・チャート	橙褐色	良	
510	91B	SD35707	弥生	甕	6	底部ほぼ完	3.7	ハウ	ナテ・指挿エ	3mm以下長石・チャート	明茶灰色	良	底部ス附着
511	91B	SD36826	唐津	皿	4.5	底部1/2	0.8	クスリ	不明	0.5mm以下長石	灰色	良	削り出し高台・上面緑色釉
512	91B	SD36826	須恵器	高杯			10.1	指挿エ・ナテ	クスリ	3mm以下長石	青灰色	良	スカ2箇所有
513	91B	SD36826	須恵器	杯身	9.8		1.8	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡青灰色	良	
514	91B	SD36826	須恵器	杯	11	底部1/5	2	指挿エ・ナテ	不明	1mm以下長石・頁岩	灰白色	不良	
515	91B	SD36827	瀬戸	皿	12	1/16	1.6	施釉	施釉	0.5mm以下頁岩	灰白色	良	施釉色：ガラス質の緑色
516	91B	SD36827	白磁	椀	15	1/16	2.4	施釉	施釉	0.5mm以下頁岩	灰白色	良	
517	91B	SD36826	須恵器	鉢		破片	3.5	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・チャート	灰色	良	

518	91B	SB368 31周 辺	土師 器	壺	11.2	ほぼ 完	6.9	ナ ⁺ ・指 サ ⁺ ・ミ カ ⁺ キ	ナ ⁺ ・指 サ ⁺ ・ミ カ ⁺ キ	1mm以下長石・チャート・赤色 斑粒・雲母	茶褐色	良	
519	91B	SB368 31周 辺	土師 器	壺	11.5	1/3	11	ナ ⁺	ナ ⁺ ・指 サ ⁺ ・ミ カ ⁺ キ	2.5mm以下石英・長石・ チャート・頁岩・赤色斑粒	明橙褐 色・肌茶 褐色	良	
520	91B	SB368 31周 辺	土師 器	甕	13.1	1/8	5.25	指サ ⁺ ・ミ カ ⁺ キ	指サ ⁺ ・ミ カ ⁺ キ	2.5mm以下石英・長石・ チャート	淡茶灰褐 色・淡茶 灰色	良	
521	91B	SB368 31周 辺	土師 器	甕	14.8	口縁 完	12	ナ ⁺ ・ハ ケ	ナ ⁺ ・ハ ケ・指 サ ⁺ ・ミ カ ⁺ キ	3mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩・赤色斑粒	赤褐色	やや 不良	
522	91B	SB368 31周 辺	土師 器	壺	7.6	底部 1/2	27.2	ナ ⁺ ・ハ ケ	ナ ⁺	4mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	やや 不良	
523	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯蓋	13.6	1/3	4.95	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	3mm以下長石	青灰色	良	
524	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯蓋	14.6	1/2	4.9	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	5mm以下長石・チャート	灰色～青 灰色	良	口縁歪む
525	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯蓋	14	1/4	4.8	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	4.5mm以下長石・チャート	灰色	良	
526	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯蓋	14.2	1/8	4.7	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	8mm以下長石・チャート	乳灰色・ 淡灰色	良	
527	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯蓋	13.8	8/9	4.85	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	1mm以下長石	灰色	良	
528	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯蓋	13.9	ほぼ 完	4.2	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	2mm以下長石	青灰色	良	
529	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯蓋	15.4	2/5	4.2	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	1mm以下長石	淡褐色	良	
530	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯蓋	14.1	完	4.65	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	2mm以下長石・チャート	青灰色～ 淡青灰色	良	
531	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯身	11.8	ほぼ 完	3.8	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	2mm以下長石・チャート	青灰色～ 淡青灰色	良	
532	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯身	13	2/3	4.5	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	5mm以下石英	灰色	良	口縁歪む
533	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯身	12.6	1/3	3.7	ナ ⁺	ナ ⁺	2mm以下長石・チャート・石英	淡青灰色	良	
534	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯身	14.4	1/3	4.5	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	0.5mm以下長石	茶灰色～ 淡茶灰色	良	自然釉 (濃緑) 付着
535	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	杯身	13.5	4/5	5.5	ナ ⁺ ・ナ ス ⁺ ・リ	ナ ⁺	3mm以下長石・チャート・頁岩	灰色	良	口縁歪む
536	91B	SB368 31周 辺	須恵 器	甕	17.7	1/10	4.7	ナ ⁺ ・ハ ケ・カ キ	ナ ⁺	0.5mm以下長石	淡灰色	良	
537	91B	SH368 35カ マ ト	土師 器	甕	15.6	1/8	9	ハ ケ	ナ ⁺	4mm以下石英・長石・チャ ート	黄茶褐色	良	
538	91B	SH368 35	須恵 器	甕	20	1/2	4.5	ナ ⁺	ナ ⁺	2.5mm以下長石	灰色	良	歪む
539	91B	SH368 35カ マ ト	土師 器	甕	21.4	1/10	8.3	ナ ⁺ ・ハ ケ	ナ ⁺ ・ハ ケ・指 サ ⁺ ・ミ カ ⁺ キ	2.5mm以下長石・石英・雲 母	黄褐色	良	
540	91B	SH368 35	土師 器	甕	23.6	1/4	9.2	ナ ⁺ ・ハ ケ・指 サ ⁺ ・ミ カ ⁺ キ	ナ ⁺	2mm以下長石・チャート・石 英・頁岩	淡黄褐色	良	

541	91B	P4	須恵器	杯蓋	16.2	1/8	3.7	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石・チャート	淡茶灰黄色	不良	
542	91B	SK38	須恵器	杯蓋	14.1	2/3	4.55	ナテ・クスリ	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰色	良	
543	91B	SE368 23・ SH368 43	須恵器	高杯			8.7	ナテ	ナテ	3mm以下長石	灰色	良	
544	91B	SH368 43 カト*	土師器	甕	21.6	1/2	12.8	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ・ 指杵エ	2.5mm以下長石・チャート・石英	淡茶褐色	良	
545	91B	SX368 20	土師器	把手付椀	10.2	完	6.6	ナテ・ハケ・ 指杵エ	ハケ・ナテ	1mm以下長石・石英	赤褐色	良	
546	91B	SX368 20	土師器	鉢	14.9	1/2	10.7	ナテ・クスリ・ 指杵エ	ナテ・ミカキ・ 指杵エ	5mm以下長石	赤褐色～ 淡赤褐色	良	
547	91B	SX368 20	土師器	甕	15.2	1/12	14.8	ナテ・ハケ	ナテ・クスリ	3mm以下石英・長石・チャート・雲母	淡黄褐色	良	
548	91B	SX368 20	土師器	高杯	17.3	1/4	13.6	ナテ	ナテ	5mm以下石英・長石・赤色斑粒	赤褐色～ 淡赤褐・ 淡茶色	良	
549	91B	SX368 20	須恵器	杯蓋	13	3/4	3.95	ナテ・クスリ	ナテ	3.5mm以下長石・チャート	灰色・淡 灰色	良	
550	91B	SX368 20	須恵器	杯蓋	14.2	5/7	5.1	ナテ・クスリ	ナテ	6.5mm以下長石	淡黄灰色	良	
551	91B	SX368 20	須恵器	杯蓋	14.35	5/8	5.1	ナテ・クスリ	ナテ	7mm以下長石	濃灰色	良	
552	91B	SX368 20	須恵器	杯蓋	13.2	完形	4.15	ナテ・クスリ	ナテ	3.5mm以下長石・チャート	淡黄灰・ 明灰色	良	
553	91B	SX368 20	須恵器	杯身	12.3	1/3	4.8	ナテ・クスリ	ナテ	9mm以下長石	暗灰色	良	
554	91B	SX368 20	須恵器	杯身	12	ほぼ 完	5.1	ナテ・クスリ	ナテ	5mm以下長石	濃灰色	良	
555	91B	SX368 20	須恵器	杯身	11.55	ほぼ 完	4.5	ナテ・クスリ	ナテ	4.5mm以下長石	灰色	良	
556	91B	SX368 20	須恵器	杯身	10.75	完	4.7	ナテ・クスリ	ナテ	5mm以下長石・チャート	明黄灰・ 明灰色	良	
557	91B	SX368 20	須恵器	甕底部		ほぼ 完	22.5	クキ	クキ	2mm以下長石・チャート	淡灰褐色	不良	
558	91B	SX368 21	土師器	鉢	14	1/4	4.3	ナテ・指杵 エ	ナテ・指杵 エ	5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	良	
559	91B	SX368 21	土師器	壺	13.4	1/2	4.8	ナテ・指杵 エ・ミカキ・ クスリ	ナテ・指杵 エ・クスリ	3mm以下長石・チャート・頁岩・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
560	91B	SX368 21	土師器	甕	11.6	1/4	14.6	ハケ・ナテ	ハケ・ナテ・ クスリ	2mm以下長石・チャート・頁岩・赤色斑粒・雲母	橙茶褐色	良	
561	91B	SX368 21	須恵器	杯蓋	13.6	1/2	4.2	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下長石	淡灰色	やや 不良	
562	91B	SX368 21	須恵器	杯蓋	14	1/2	3.95	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石	灰紫色・ 灰褐色	良	
563	91B	SX368 21	須恵器	杯蓋	12.7	8/9	4.75	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	青灰色・ 淡灰色	良	
564	91B	SX368 21	須恵器	杯蓋	14.4	3/4	4.6	ナテ・クスリ	ナテ	3.5mm以下長石	淡褐色～ 暗灰褐色 濃黄灰色	良	
565	91B	SX368 21	土師器	甕	21.4	1/12	4.2	ナテ・ハケ	ナテ	6mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡橙灰褐色	良	
566	91B	SX368 21	土師器	甕	13.9	1/8	11.2	ナテ・ハケ	ナテ・指杵 エ	1.5mm以下長石・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	
567	91B	SX368 21	須恵器	杯身	11.35	4/5	5.22	ナテ・クスリ	ナテ	2.5mm以下長石	淡灰褐色 淡黄灰色	良	

568	91B	SX368 21	須恵 器	杯身	12.4	1/6	4.55	ナテ・ケスリ	ナテ	0.5mm以下長石	茶灰色～ 灰色・淡 茶灰褐色	やや 不良	
569	91B	SX368 21	須恵 器	杯身	10.4	1/4	3.45	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	明灰色	良	
570	91B	SX368 21	須恵 器	杯身	12.9	1/5	2.7	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	灰褐色・ 淡紫色	良	外面自然 釉付着
571	91B	SX368 21 SD357 07 SH368 35	須恵 器	高杯	9.4	底部 1/5	6.4	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	青灰色・ 淡灰色	良	円形の孔 3か所有
572	91B	SX368 22	土師 器	鉢	9	1/3	4.35	不明	ミガキ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐色	やや 不良	
573	91B	SX368 22	土師 器	鉢	11.8	1/12	2.6	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・チャト・頁 岩・雲母	淡褐色	良	
574	91B	SX368 22	土師 器	鉢	13	1/6	3.5	指ナテ・ ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙茶褐色	良	
575	91B	SX368 22	土師 器	鉢	12.4	完	4.7	指ナテ・ナ テ	ナテ	5mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙色	やや 不良	底部穿孔 有・口縁 歪む
576	91B	SX368 22	土師 器	鉢	9.4	完	9.4	ナテ・ナテ・ 面取り	指ナテ・ ナテ	1mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	良	口縁歪む
577	91B	SX368 22	土師 器	鉢	9.5	完	8.5	ナテ・ケス リ・面取り	指ナテ・ ナテ	3mm以下長石・チャト・赤 色斑粒・雲母	茶褐色	良	中に珠有
578	91B	SX368 22・ SK368 25	土師 器	高杯	13.8	ほぼ 完	10.95	指ナテ・ ナテ	ナテ・シホ リ	3mm以下長石・赤色斑粒・ 雲母	橙褐色	良	歪む
579	91B	SX368 22	土師 器	高杯	15	1/3	14.5	指ナテ・ナ テ	ナテ・シホ リ	6mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡茶褐色	良	
580	91B	SX368 22	土師 器	高杯	10	1/2	11.1	ナテ	ナテ・シホ リ	2.5mm以下石英・長石・ チャト・雲母	淡黄茶褐 色	良	
581	91B	SX368 22	土師 器	壺	9.7	1/6	8.7	指ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡橙灰・ 橙灰色	良	
582	91B	SX368 22	土師 器	壺	13.2	1/3	5.45	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・チャト・雲 母・赤色斑粒	橙褐色	良	
583	91B	SX368 22	土師 器	壺	11.2	1/2	13.3	ナテ・ミカ キ・ケスリ・ 指ナテ	指ナテ・ ナテ	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒・雲母	赤茶褐色	良	穿孔の痕 有
584	91B	SX368 22	土師 器	壺	12	1/2	13.6	指ナテ・ハ 目・ハラケス リ	指ナテ・ ナテ	2mm以下石英・長石・雲母	淡黄茶褐 色	良	歪む
585	91B	SX368 22	土師 器	甕	16.2	1/12	4.6	ナテ	ナテ・ケス リ	1.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩・赤色斑粒	淡茶褐色	良	
586	91B	SX368 22	土師 器	甕	11.5	ほぼ 完	14.8	ナテ・ハケ	ナテ・ケス リ	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	乳橙褐色	やや 不良	
587	91B	SX368 22	土師 器	甕	13.4	1/2	18.8	ナテ・ハケ	指ナテ・ ケスリ	5mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒・雲母	淡橙褐色	良	
588	91B	SX368 22	須恵 器	椀	14.7	完	6.4	ナテ・ケス リ	ナテ	5mm以下長石	淡青灰色	良	
589	91B	SX368 22	須恵 器	杯蓋	12.2	1/6	3.4	ナテ・ケス リ	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰色	良	
590	91B	SX368 22	須恵 器	杯蓋	14.7	1/2	4.8	ナテ・ケス リ	ナテ	1mm以下石英・長石	淡青灰色	やや 不良	
591	91B	SX368 22	土師 器	杯蓋	14.4	完	5	ナテ・ケス リ	ナテ	2mm以下長石・チャト	乳橙褐色	やや 不良	
592	91B	SX368 22	須恵 器	杯蓋	14.1	ほぼ 完	5.3	ナテ・ケス リ	ナテ	2mm以下長石・チャト	黒灰色	良	
593	91B	SX368 22	須恵 器	杯身		1/10	2.5	ナテ・ケス リ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	

594	91B	SX368 22	須惠 器	高杯	13.25	8/9	10.25	クスリ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	スジ3か 所・歪む
595	91B	SX368 22	須惠 器	杯蓋	14.6	1/6	4.8	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡灰色	やや 不良	
596	91B	SX368 22	須惠 器	杯身	11	1/12	2.9	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石	暗灰色	良	
597	91B	SX368 22	須惠 器	杯身	12	ほぼ 完	4.9	ナテ・クスリ	ナテ・タキ	4mm以下石英	灰色	良	歪む・穿 孔1か所
598	91B	SX368 22	須惠 器	杯身	12.4	完	5.2	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石・チャト	淡灰色・ 淡黄褐色	不良	
599	91B	SX368 22	須惠 器	杯身	12.8	1/2	5.15	ナテ・クスリ	指サエ・ ナテ	2mm以下長石・チャト	淡黄褐色	不良	
600	91B	SX368 22	須惠 器	高杯	9.1	完	11.05	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石	淡青灰色	良	
601	91B	SX368 22	須惠 器	壺	13.4	ほぼ 完	17.8	ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャト・頁岩	灰色	良	
602	91B	SX368 22	須惠 器	甕	12.4	底部 ほぼ 完	31.7	タキ・ナテ	タキ・ナテ・ 指サエ	3mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
603	91B	SX368 22	須惠 器	甕	23.5	1/2	46	タキ	タキ	2mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
604	91B	SX368 42	土師 器	甕	20	3/4	38.4	ハ目・ナテ	ハ目・ナテ	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡橙灰色	良	歪む
605	91B	SX368 42	須惠 器	杯身	11.9	1/8	3.6	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰褐色	良	
606	91B	SK368 41	須惠 器	杯身	12.2	1/3	4.95	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石・チャト	淡茶灰色	良	歪む
607	91B	SX368 42	須惠 器	壺	6.7	1/4	4.3	ナテ	ナテ	1mm以下頁岩	灰色	良	
608	91B	SX368 42・ SK368 42	土師 器	壺	12.2	8/9	16.8	ナテ・ミカ キ	ナテ・指サ エ	2.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩・赤色斑粒	橙赤褐色	良	
609	91B	SX368 42	土師 器	甌	19.4	1/4	12.8	ハ・指サエ	不明	5mm以下石英・長石・チャ ト・赤色斑粒	橙褐色	良	
610	91B	SX368 42	土師 器	甕	19.5	1/16	17.5	ハ・ナテ	ハ・ナテ・ クスリ	4mm以下石英・長石・チャ ト・雲母	淡褐色	良	
611	91B	SX368 44	土師 器	鉢	11.3	1/3	7.5	ナテ	ナテ・クスリ	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐色	良	
612	91B	SX368 44	土師 器	高杯	12.2	2/7	5.4	ナテ	ナテ	0.5mm以下石英・長石・ チャト・頁岩・赤色斑粒	橙褐色・ 黒斑	やや 良	
613	91B	SX368 44	土師 器	高杯	13.4	1/3	5	指サエ	ナテ・指サ エ	2.5mm以下石英・長石・ チャト・赤色斑粒	赤褐色	やや 不良	気泡
614	91B	SX368 44	土師 器	高杯	4.2	底部 1/3	7.85	ナテ・クス リ・指サエ・ ハ	ナテ・ホリ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	やや 不良	
615	91B	SX368 44	土師 器	高杯	12.5	2/3	9.5	ナテ・ミカ キ・指サエ	ナテ・ホリ	2mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	やや 不良	
616	91B	SX368 44	土師 器	高杯	14.5	1/4	7.3	ナテ	指サエ・ナ テ・ホリ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	良	
617	91B	SX368 44	土師 器	高杯	12.8	1/2	9.7	不明	ホリ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	黄褐色・ 黒斑	良	口縁歪む
618	91B	SX368 44	土師 器	高杯	14.1	1/4	10.7	ナテ	指サエ・ナ テ・ホリ	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐色	不良	
619	91B	SX368 44	土師 器	高杯	14	1/8	9.3	不明	不明	2mm以下石英・長石・チャ ト・赤色斑粒	淡橙褐色	良	
620	91B	SX368 44	土師 器	高杯	9	底部 1/3	3.1	ナテ	指サエ	2mm以下石英・長石・チャト	淡褐色・ 黒斑	良	
621	91B	SX368 44	土師 器	高杯	9.1	底部 5/6	5.6	不明	指サエ・ナ テ	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	淡橙褐 色・黒斑	やや 不良	

622	91B	SX368 44	土師器	高杯	4.8	底部完	6.6	ナテ	指挿エ・ナテ・シホリ	0.5mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒	明赤茶褐色	良	
623	91B	SX368 44	土師器	高杯	7.8	底部1/2	4.5	ナテ	指挿エ・シホリ	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩	橙茶褐色	良	
624	91B	SX368 44	土師器	高杯	8.4	底部3/5	5.3	ナテ	不明	3mm以下石英・長石・チャート	明赤茶褐色	良	穿孔2か所
625	91B	SX368 44	土師器	高杯	2.8	底部ほぼ完	5.8	ナテ	シホリ	4mm以下石英・長石・チャート	橙褐色	やや不良	歪む
626	91B	SX368 44	土師器	高杯	9.3	底部7/8	2.8	ナテ・指挿エ	シホリ・指挿エ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	淡黄褐色	良	
627	91B	SX368 44	須惠器	高杯	17.4	1/8	4.1	ナテ	不明	1mm以下長石・頁岩	灰色	良	内外面釉付着
628	91B	SX368 44	須惠器	甕	18.6	2/3	6	ナテ・タタキ	ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩	灰色	良	
629	91B	SX368 44	須惠器	甕	23.4	1/4	9	ナテ・タタキ・カキメ	ナテ・タタキ	3mm以下長石	青灰色	良	
630	91B	SX368 46	土師器	高杯	8	底部完	4.9	不明	タスリ	4mm以下長石・チャート・赤色斑粒	淡茶褐色	良	
631	91B	SX368 46	須惠器	壺	10	1/2	4.5	ナテ	ナテ		明灰色	良	
632	91B	SX368 46	弥生	甕	14.6	1/8	2.1	ナテ・列点文	ナテ	1.5mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	淡茶褐色	良	
633	91B	SX368 46	弥生	高杯			8	ハケ・ナテ・ミカキ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	良	穿孔3か所
634	91B	SX368 44	土師器	壺	12.6	1/6	5.1	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	黄茶褐色	良	
635	91B	SX368 44	土師器	高杯	13.5	底部2/3	5.1	ナテ	シホリ・ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	
636	91B	SX368 44	須惠器	杯蓋	13.4	1/12	3.35	ナテ	ナテ	2mm以下長石	淡灰色	やや不良	
637	91B	SX368 44	須惠器	杯蓋	12.8	1/3	4.3	ナテ・タスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰色	やや不良	
638	91B	SX368 44	須惠器	杯身	13.8	1/8	3.8	不明	不明	2mm以下長石・チャート	淡茶灰色	不良	
639	91B	SX368 44	土師器	甕	24.8	1/7	12.2	ナテ・ハケ	ナテ・指挿エ・タスリ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・雲母	黄褐色	やや不良	黒斑・歪み
640	91B	SX368 44	土師器	甕	25	1/10	9.9	ハケ	ナテ・ハケ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	良	
641	91B	SX368 44	土師器	甕		把手のみ完	10	ハケ・指挿エ	ハケ・タスリ	3mm以下長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	外面コゲス付着
642	91B	SD368 33	須惠器	杯身	13.5	1/3	4	ナテ・タスリ	ナテ	2mm以下長石	淡茶灰・灰褐色	良	外面自然釉付着
643	91B	SD36 不明	弥生	底部	3.4	底部4/5	5.6	不明	不明	7.5mm以下石英・長石・チャート	橙褐色	良	
644	91B	SD368 48	弥生	底部	4.6	底部1/2	1.2	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒	黄褐色	良	
645	91B	SD368 48	土師器	甕	13.4	1/8	8.7	不明	タスリ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	良	底部に穿孔1か所
646	91B	SD368 48	土師器	土器片			1.3	竹管文	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	暗褐色～橙褐色	良	
647	91B	SD368 48	土師器	甕	15.7	1/5	9.4	ナテ・ハケ	ナテ・タスリ	3mm以下石英・長石・チャート	淡黄褐色	良	
648	91B	SD368 48	土師器	器台	23.3	1/5	4.45	ミカキ	ナテ	3mm以下長石	赤褐色～明茶灰色	良	
649	91B	SD368 48	土師器	甕	14.8	1/8	4	ナテ	ナテ	7mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	明黄褐色	良	

650	91B	SD368 48	土師 器	甕	17.5	1/6	5.4	不明	ナテ・指 サエ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	橙褐色	やや 不良	
651	91B	SD368 48	土師 器	甕	17.4	1/8	3.9	ナテ	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト	淡茶褐 灰褐色	良	
652	91B	SD368 49	土師 器	甕	17.4	1/12	6	ナテ・ハ ク	ナテ・ハ ク	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤色斑粒	黄褐色	良	
653	91B	SD368 49	須恵 器	杯蓋	14	1/4	4.25	ナテ・ケ スリ	ナテ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	淡灰色	やや 不良	
654	91B	SD368 48	弥生	甕	22		5.6	ナテ・ハ ク	ハク	ナテ	3mm以下石英・長石・赤 色斑粒	淡茶褐色	良	
655	91B	SD368 48	土師 器	壺	18	8/9	8.15	ハク	ハク	ナテ	5mm以下石英・長石・赤 色斑粒	乳褐色	やや 不良	
656	91B	SD368 48	土師 器	壺	17.2	1/2	19.7	ナテ・ハ ク	ナテ・ケ スリ	ナテ	4mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩	淡黄褐色 ～淡橙 褐色	良	
657	91B	包含 層	土製 品	人形		完	7.7	手づく ね			1mm以下長石	淡褐色	良	幅4.7・厚 さ2.1・外 面一部緑 釉付着
658	91B	包含 層	白磁	椀	16	1/8	2.4					淡黄灰色	良	
659	91B	包含 層	白磁	椀	15.6	1/72	4.3					乳灰色	良	
660	91B	包含 層	土師 器	皿	7.3	8/9	1.75	指サエ・ ナテ	指サエ・ナ テ	ナテ	雲母	暗茶灰・ 茶灰色	良	外面ス 付着
661	91B	包含 層	瓦器	皿	8.9	1/4	1.25	指サエ・ ミカキ	不明	ナテ	雲母	黒灰色・ 淡黒灰色	良	
662	91B	包含 層	土師 器	皿	10.8	1/3	1.9	指サエ・ ナテ	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・雲 母	明橙褐色 ～黄褐色	良	歪む
663	91B	包含 層	土師 器	皿	13.8	1/5	2	ナテ	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・雲 母	淡茶灰色	良	口縁歪 む
664	91B	包含 層	須恵 器	鉢			5.4	ナテ	ナテ	ナテ	1.5mm以下石英・長石・頁 岩	青灰色	良	
665	91B	包含 層	土師 器	杯	13.1	1/8	3.6	不明	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・雲 母	淡茶灰色 ～暗茶 灰色	良	
666	91B	包含 層	土師 器	椀	15.2	ほぼ 完	3.8	指サエ・ ナテ	指サエ・ ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・チャ ト	淡黄褐色	良	
667	91B	包含 層	土師 器	皿	15.7	2/7	3.1	指サエ・ ナテ	指サエ・ ナテ	ナテ	6mm以下長石・赤 色斑粒	橙白色	やや 不良	
668	91B	包含 層	瓦器	椀	14.1	1/8	3.7	不明	ミカキ	ナテ	0.5mm以下長石・雲 母	淡黒灰色	良	
669	91B	包含 層	土師 器	皿	19.6	1/4	2.05	ナテ・ケ スリ	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩・赤 色斑粒・雲母	橙褐色	良	
670	91B	包含 層	土師 器	杯	21.2	1/8	4.6	ナテ・ケ スリ	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩・赤 色斑粒・雲母	淡茶灰色	良	
671	91B	包含 層	土師 器	杯	21.9	1/4	8.55	不明	不明	ナテ	1.5mm以下長石・チャ ト・赤 色斑粒・雲母	淡橙褐色	良	
672	91B	包含 層	土師 器	甕	18.8	1/4	7.2	ナテ・ハ ク	ナテ・ハ ク	ナテ	1mm以下長石・チャ ト・赤 色斑粒・雲母	橙褐色・ 淡茶灰 色	良	
673	91B	包含 層	土師 質	羽釜	23.6	1/7	6.6	ナテ・ハ ク	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤 色斑粒	淡黄褐色	良	外面ス 付着
674	91B	包含 層	土師 器	甕	28.6	1/4	15.2	指サエ・ ナテ・ハ ク	ケスリ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ト・頁岩・赤 色斑粒	赤褐色・ 黒斑	良	コ ス付 着
675	91B	包含 層	須恵 器	甕	22.4	1/5	6.5	ナテ	ナテ	ナテ	3mm以下長石	淡灰色	良	
676	91B	包含 層	土師 器	甕	13.2	1/4	3.7	ナテ	ナテ・ハ ク	ナテ	1mm以下長石・赤 色斑粒	淡褐色	良	
677	91B	包含 層	土師 器	甕	14.1	1/6	4.4	ナテ	ナテ・ハ ク	ナテ	3mm以下長石・チャ ト・雲母	橙褐色・ 乳灰色	良	口縁内 部にス 付着

678	91B	包含層	陶磁器	椀	5.9	底部1/3	3	施釉	施釉		緑灰色	良	
679	91B	包含層	須恵器	杯身	10.4	底部1/12	0.8	施釉	ナテ	0.5mm以下長石	灰色	良	外面自然釉付着・貼付高台
680	91B	包含層	須恵器	杯	12	底部1/3	2.4	ナテ	不明	1mm以下長石	乳灰色	不良	貼付高台
681	91B	包含層	須恵器	杯	10	底部1/4	2	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	貼付高台
682	91B	包含層	無釉陶器	椀	5.8	底部1/4	1.1	ナテ・ケスリ	ナテ	0.5mm以下長石	灰色	良	
683	91B	包含層	須恵器	壺	3.85	完	2.8	ナテ	ナテ	3mm以下長石	淡灰色	良	
684	91B	包含層	須恵器	杯蓋	3.8	8/9	10.9	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	糸切り底
685	91B	包含層	須恵器	杯蓋	16.1	1/5	1.2	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	乳灰色	やや不良	
686	91B	包含層	須恵器	杯蓋	16.8	1/14	1.65	ナテ・ケスリ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	やや不良	
687	91B	包含層	須恵器	杯蓋	18.6	1/16	1.4	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石	青灰色	良	
688	91B	包含層	須恵器	杯	17.9	1/5	6	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	貼付高台
689	91B	包含層	須恵器	鉢	17.6	1/9	3.6	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	
690	91B	包含層	緑釉素地	椀	16	1/4	5.55	ケスリ	ナテ	1mm以下長石	淡灰褐色	良	内面へ記号・蛇の目高台
691	91B	包含層	須恵器	壺	9.9	頸部1/3	5.1	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	灰色	良	
692	91B	包含層	須恵器	壺	18	1/4	3	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	やや不良	
693	91B	包含層	灰釉	壺	13.2	底部1/3	4.7	施釉	施釉	2mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	内外面釉付着
694	91B	包含層	須恵器	底部	13.8	底部1/3	4.4	ナテ	ナテ	2mm以下長石	灰色	良	内面灰釉・外面緑釉付着
695	91B	包含層	瓦	軒丸				ケスリ	ナテ	1mm以下石英・長石	黒灰色	良	蓮華文軒丸瓦
696	91B	包含層	瓦	軒平				ケスリ・布目痕	ケスリ・格子目タキ	12mm以下長石・チャート	青灰色・灰白色	やや不良	唐草文軒平瓦
697	91B	包含層	瓦	平瓦				布目痕	縄タキ	2mm以下石英・長石	黒灰色	良	
698	91B	包含層	瓦	丸瓦				ケスリ・ナテ	布目痕	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩・橙色斑粒	黄褐色	良	
699	91B	包含層	瓦	平瓦				ケスリ・布目痕・指サエ	縄タキ	2mm以下石英・長石・チャート	黒灰色～灰褐色・淡灰褐色	良	
700	91B	包含層	土師器	高杯	14.2	2/3	4.9	ナテ・指サエ	不明	8mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒・雲母	橙褐色・淡茶灰色	良	
701	91B	包含層	土師器	高杯	14.7	1/8	4.55	不明	ナテ	5mm以下長石・チャート・赤色斑粒	淡橙褐色	やや不良	
702	91B	包含層	土師器	高杯	8.2	底部ほぼ完	5.7	ケスリ・ハテ	ホリ・ハテ	1mm以下長石・チャート	橙褐色	良	穿孔3か所
703	91B	包含層	土師器	甌		把手のみ完		ナテ	ナテ	4mm以下石英・長石・チャート	淡黄褐色	良	
704	91B	包含層	土師器	甕	15.8	1/8	6.2	指サエ・ナテ・ハテ	指サエ・ナテ・ケスリ	3mm以下長石・チャート・雲母	茶灰色・暗茶灰色	良	

705	91B	包含層	須恵器	杯蓋	12.4	1/5	4.1	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	灰色・淡灰色	良	歪む
706	91B	包含層	須恵器	杯蓋	14.1	1/6	3.7	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	灰色	良	
707	91B	包含層	須恵器	杯蓋	12.8	1/3	4	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・チャート	淡灰色	良	
708	91B	包含層	須恵器	杯蓋	13.1	1/12	3.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	灰色	良	
709	91B	包含層	須恵器	杯蓋	12.9	1/6	3.7	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	淡灰色～茶褐色	良	
710	91B	包含層	須恵器	杯蓋	13.4	1/36	3.9	ナテ・ケスリ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	良	
711	91B	包含層	須恵器	杯身	11.5	1/2	4.8	ナテ・ケスリ	ナテ	4.5mm以下長石・チャート	青灰色	良	
712	91B	包含層	須恵器	杯蓋	13.2	8/9	4.4	ナテ・ケスリ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩	淡青灰色	良	
713	91B	包含層	須恵器	杯蓋	13.6	1/2	4.95	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・チャート	青灰色	良	
714	91B	包含層	須恵器	杯蓋	13.6	1/2	4.5	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
715	91B	包含層	須恵器	杯蓋	13.2	1/2	4.8	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
716	91B	包含層	須恵器	杯蓋	14.2	2/3	4.95	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・チャート	乳灰色	不良	歪む
717	91B	包含層	須恵器	杯蓋	13.6	1/2	5.5	ナテ・ケスリ	ナテ	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡青灰色	やや不良	
718	91B	包含層	須恵器	杯蓋	16.6	1/10	4.9	ナテ	ナテ	4mm以下長石	暗青灰色	良	
719	91B	包含層	須恵器	杯蓋	16	1/8	4.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	
720	91B	包含層	須恵器	杯身	11.4	1/5	4.4	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	外面自然釉付着
721	91B	包含層	須恵器	杯身	14.8	1/4	2.95	ナテ・ケスリ	ナテ	3.5mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	
722	91B	包含層	須恵器	杯身	13.8	1/4	3.8	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下赤色斑粒・頁岩	淡黄褐色	不良	
723	91B	包含層	須恵器	杯身	12.6	1/2	5.25	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石	淡灰色	良	底部への当たった痕跡
724	91B	包含層	須恵器	杯身	11.1	1/12	5.3	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	灰色	良	歪む
725	91B	包含層	須恵器	杯身	14.2	1/12	4.8	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	淡青灰色	良	
726	91B	包含層	須恵器	杯身	13.3	1/6	4.9	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石	灰色	良	
727	91B	包含層	須恵器	高杯	8.2	底部1/12	3.1	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	スカシ
728	91B	包含層	須恵器	高杯	16.1	1/12	5.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石	灰色～淡灰色	良	内面自然釉(緑色)付着
729	91B	包含層	須恵器	高杯	17.5	1/9	4.6	ナテ	ナテ	2mm以下長石	暗灰色	良	外面自然釉(濃緑色)付着
730	91B	包含層	須恵器	高杯	6.8	1/4	6.7	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	淡灰色	良	内面自然釉付着・スカシ3か所
731	91B	包含層	須恵器	高杯	11.5	底部1/4	6.5	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	青灰色	良	スカシ
732	91B	包含層	須恵器	甕	8	1/8	3	ナテ	不明	1.5mm以下長石	暗灰色・淡灰色	良	自然釉付着

733	91B	包含層	須恵器	甕	13.3	1/12	2.5	ナテ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	内面自然釉(灰緑色)付着
734	91B	包含層	須恵器	壺	9.6	1/4	4.8	ナテ		0.5mm以下長石	淡灰色	良	自然釉付着
735	91B	包含層	須恵器	不明			3.5		ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	
736	91B	包含層	須恵器	高杯	9.6	底部1/4	3.6	ナテ	ナテ	4mm以下長石	淡灰色	良	スカシカ所
737	91B	包含層	須恵器	高杯	8.8	底部1/3	4.8	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	
738	91B	包含層	土師質	土馬			残存高9	ナテ	指種工・ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	橙褐色	良	鞍付き
739	91B	包含層	土師質	管状土錘	幅1.1	完	長さ4.95	ナテ		1mm以下石英・長石	淡褐色	良	孔4mm
740	91B	包含層	須恵器	甕	22	1/6	6.2	ナテ	ナシリ	2mm以下長石・頁岩	淡青灰色	良	
741	91B	包含層	須恵器	壺	18.8	1/16	2.7	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	良	内外面自然釉(暗緑色)
742	91B	包含層	須恵器	甕	20	1/6	2.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色・灰色	良	
743	91B	包含層	須恵器	器台	8.2	1/32	6.1	ハケ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	三角スカシ
744	91B	包含層	須恵器	不明			8.5		ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	
745	91B	包含層	須恵器	甕		破片	3.4	ナテ	ナテ	3mm以下長石	淡灰色	良	
746	91B	包含層	須恵器	高杯	8.9	1/8	4.9	ナテ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	淡灰色	やや不良	スカシカ所
747	91B	包含層	須恵器	甕	15.8	底部1/8	4.3	ナメ・ナテ	ナテ・ナテ	2.5mm以下長石	青灰色	やや不良	
748	91B	SF36836	須恵器	甕	23.3	1/4	5.7	ナテ	ナテ・ナシリ・ナテ	3mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	内外面自然釉(緑灰色)
749	91B	包含層	須恵器	甕	19.8	1/8	4.1	ナテ・ハケ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	内外面自然釉(暗緑灰色)付着
750	91B	包含層	弥生	甕	17.4	底部1/8	2.2	不明	不明	3mm以下石英・長石・チャート	黄褐色	良	
751	91B	包含層	弥生	甕	16.6	1/8	5	刻目・ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャート・赤色斑粒	淡褐色	不良	
752	91B	包含層	弥生	甕	3.8	底部8/9	2.9	ナテ	ハケ	2mm以下石英・長石	淡茶灰色～暗灰色	良	
753	91B	包含層	須恵器	甕	42	1/8	10.9	ナテ・ハケ施文・沈線	ナテ	3mm以下長石・チャート	濃灰色	良	
754	91B	包含層	弥生	甕	39.2	1/8	13	ハケ	ハケ・ナテ	4.5mm以下石英・長石・チャート	淡茶褐色	良	
755	92B	SE368101	染付陶磁器	皿	13.4	1/2	2.9	施釉	施釉		白・染付(青)	良	
756	92B	SE368101	陶器	椀	14.2	1/8	5.85	施釉	施釉		釉(緑灰色)・茶色	良	
757	92B	SE368101	瀬戸	皿	13.8	1/8	2.7	透明釉	透明釉		黄褐色	良	
758	92B	SE368101	染付陶磁器	椀	9.5	底部完1/8	5.7	施釉	施釉		白・緑	良	
759	92B	SE368279	瓦器	椀	16.4	1/12	3.2	ナテ	ナテ・ミカキ	0.5mm以下石英・長石・雲母	黒灰色	良	

760	92B	SE368 101	須惠 器				4.8	ナテ・ハク・ 指サエ	ナテ・指サ エ	4mm以下長石	灰褐色	良	
761	92B	SE368 101	須惠 器	甕	26.6	1/16	5.2	ナテ	ナテ	2mm以下長石	灰色	良	
762	92B	SE368 101	土師 器	高杯	32	1/12	2.1	不明	不明	2mm以下長石・石英・赤色 斑粒	黄灰褐色	良	
763	92B	SE368 106	須惠 器	壺	6.95	底部 完	4	ナテ	ナテ	4mm以下長石	青灰色	良	外面自然 釉付着・ 底部へ記 号
764	92B	SE368 102	灰釉	浄瓶	5.8	頸部 1/3	1.6	ナテ	ナテ	1mm以下頁岩	淡灰褐色	良	外面自然 釉付着
765	92B	SD368 115	須惠 器	壺	12	1/8	3.3	ナテ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
766	92B	SD368 115	須惠 器	高杯	9.9	底部 1/3	8.6	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	スガシ
767	92B	SD368 115	須惠 器	杯蓋	13	1/8	2.8	ナテ	ナテ	1mm以下長石	暗灰色・ 淡灰色	良	
768	92B	SD368 115	須惠 器	杯身	10.7	1/8	2.6	ナテ・ケスリ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	良	
769	92B	SD368 115	土師 器	皿	9.9	1/12	1.9	ナテ	ナテ	1mm以下赤色斑粒・雲母	淡橙褐色	良	
770	92B	SD368 115	須惠 器	杯身	10.1	1/36	3.1	ナテ・ヘラキ リ	ナテ	1mm以下長石	暗灰色	良	全体に歪 む
771	92B	SK368 220	瓦器	皿	10.2	完	2.1	不明	不明	1mm以下頁岩	暗灰色	良	
772	92B	SK368 263	土師 器	杯	12.8	1/6	3.4	ナテ・指サ エ	ナテ・指サ エ	2.5mm以下長石・頁岩・赤 色斑粒	黄白色・ 橙褐色	良	
773	92B	P 188	土師 器	皿	12.8	1/5	1.5	ナテ	ナテ・指サ エ	1mm以下長石・雲母	淡黄褐・ 黄褐色	良	
774	92B	P188 SK368 261	土師 器	杯	14.85	1/2	3.1	ナテ	ナテ	5mm以下石英・長石・チャート	淡黄褐色	良	内面ス付 着
775	92B	SK368 316	土師 器	皿	9.1	ほぼ 完	1.8	ナテ・指サ エ	ナテ・指サ エ	1mm以下赤色斑粒・石英	黄褐色	良	
776	92B	SX368 116	土師 器	椀	12.2	1/5	3.45	ケスリ	ナテ	0.5mm以下赤色斑粒・雲 母	橙褐色	良	
777	92B	SX368 116	土師 器	椀	12.9	1/5	3.4	ナテ・ケスリ	ナテ	3.5mm以下長石・頁岩・雲 母	橙褐色	良	
778	92B	SX368 116	土師 器	椀	13	1/3	2.9	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石・赤色斑粒	橙褐色	良	
779	92B	SX368 116	須惠 器	杯身	9.8	底部 1/6	2.3	ナテ・ヘラキ リ	ナテ	2mm以下長石	淡灰色	良	
780	92B	SX368 116	須惠 器	杯蓋	13	1/4	1.8	ケスリ・ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	
781	92B	SX368 116	須惠 器	杯蓋	13.8	1/8	1.1	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	
782	92B	SX368 116	須惠 器	杯身	13	1/6	4.35	ナテ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	貼付高台
783	92B	SX368 116	土師 器	高杯	26.8	1/8	1.9	ナテ・ミカキ	ナテ	2mm以下石英・長石	橙褐色	良	
784	92B	SK368 234	緑釉 素地	椀	7.95	底部 完	4.3	ナテ	ナテ	4mm以下長石	灰黄白色 灰黄褐色	良	
785	92B	SK368 263	須惠 器	甕	20	1/12	4	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	青灰色	良	
786	92B	SK368 263	須惠 器	壺	5.5	頸部 ほぼ 完	10.3	施釉	施釉	2.5mm以下長石	灰色	良	外面+内 面+上方 自然釉付着

787	92B	SK368 175	須恵器 鉢	27	1/4	8.2	ナテ°・ヘテキ° リ	ナテ°	3mm以下長石	淡青灰色	良	口縁と底 接点なし
788	92B	SK368 359	須恵器 杯蓋	14	1/12	1.3	ケス°リ・ナテ°	ナテ°	2mm以下長石	淡青灰色	良	
789	92B	SK368 359	土師器 壺	6	1/2	8.9	ナテ°・ハケ	ナテ°・ハケ	1mm以下長石・赤色斑粒	淡茶褐色 淡橙褐色	良	
790	92B	SK368 359	土師器 移動カ マト°			10.1	ナテ°・指サ エ	不明	2.5mm以下石英・長石・ チャート・赤色斑粒	淡橙褐色	良	
791	92B	SK368 114	土師器 椀	11.7	1/16	3.5	ナテ°・指サ エ	ナテ°	2mm以下長石・チャート・頁 岩・赤色斑粒	淡橙褐色	良	
792	92B	SK368 114	土師器 椀	12.8	1/10	3.3	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	1.5mm以下長石・赤色斑 粒・雲母	黄赤褐色	良	
793	92B	SK368 114	土師器 椀	12.5	1/8	3.3	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	2mm以下石英・雲母	橙褐色	良	
794	92B	SK368 114	土師器 椀	13	1/4	3.9	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒	茶褐色	良	
795	92B	SK368 114	土師器 椀	11.6	1/12	3.2	ナテ°・指サ エ	ナテ°	1mm以下長石・赤色斑粒	茶褐色	良	
796	92B	SK368 114	土師器 椀	13.6	1/16	4	不明	不明	2mm以下長石・赤色斑粒	赤褐色	良	
797	92B	SK368 114	土師器 椀	13	1/12	3	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	1.5mm以下長石・頁岩	橙褐色	良	
798	92B	SK368 114	土師器 椀	13.7	1/12	2.4	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	1mm以下長石・雲母	橙褐色	良	
799	92B	SK368 114	土師器 杯	19.5	1/5	3.3	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	3mm以下長石	橙褐色	良	
800	92B	SK368 114	土師器 杯	15.5	1/8	2.6	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	0.5mm以下長石・頁岩・赤 色斑粒・雲母	橙褐色	良	
801	92B	SK368 114	土師器 杯	16.9	1/12	3.9	ケス°リ	ナテ°	1mm以下石英・長石・雲母	茶褐色	良	内外面双 附着
802	92B	SK368 114	土師器 杯	18.1	1/5	3.8	ケス°リ・ナテ°	ナテ°	1.5mm以下長石・赤色斑 粒	赤褐色	良	
803	92B	SK368 114	土師器 皿	16.4	1/5	2.3	ケス°リ・ナテ°	ナテ°	2mm以下チャート・赤色斑粒	橙褐色	良	
804	92B	SK368 114	土師器 皿	15.7	1/4	2.45	ケス°リ・ナテ°	ナテ°	1.5mm以下長石・頁岩・赤 色斑粒・雲母	橙褐色	良	
805	92B	SK368 114	土師器 皿	16.4	1/6	2.5	不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・雲母	淡茶灰色	良	
806	92B	SK368 114	土師器 皿	17.8	1/6	2.2	ケス°リ・ナテ°	ナテ°	0.5mm以下長石・頁岩・赤 色斑粒・雲母	橙褐色	良	
807	92B	SK368 114	土師器 皿	19.8	1/10	2.1	ケス°リ	ナテ°	1.5mm以下長石・石英・頁 岩・雲母・チャート	暗赤褐色	良	
808	92B	SK368 114	土師器 皿	19.5	1/12	2.7	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	1.5mm以下長石・赤色斑 粒・雲母	黄赤褐色	良	
809	92B	SK368 114	土師器 皿	19.8	1/8	1.6	ナテ°・ケス°リ	ナテ°	0.5mm以下長石・頁岩・雲 母	橙褐色	良	
810	92B	SK368 114	土師器 皿	20.6	1/16	1.9	ケス°リ・ナ テ°・指サエ	ナテ°	1.5mm以下長石・赤色斑 粒・チャート・雲母	淡黄褐・ 黄褐色	良	
811	92B	SK368 114	土師器 杯	26.6	1/8	5.6	ミカ°キ・ナテ°	ナテ°	1mm以下長石・赤色斑粒・ 雲母	橙褐色	良	
812	92B	SK368 114	土師器 杯	26.6	1/10	8.4	ミカ°キ・ナテ°	ナテ°	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒	橙褐色	良	
813	92B	SK368 114	土師器 杯	10.6	底部 1/4	5.4	ナテ°	ナテ°	1.5mm以下長石・赤色斑 粒	橙褐色	良	
814	92B	SK368 114	土師器 杯	11.1	底部 1/12	4.5	ナテ°	ナテ°	4mm以下長石・赤色斑粒	橙褐色～ 暗灰橙色	良	
815	92B	SK368 114	土師器 甕	16.8	1/6	3.4	タケキ	ハケ	1mm以下長石・石英・輝石	濁橙褐色	良	

816	92B	SK368 114	土師 器	甕	14.9	2/3	6.6	ナテ・ハ ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・ 雲母	橙褐色	良	
817	92B	SK368 114	土師 器	甕	24.6	1/3	12.5	ナテ・ハ ナテ・ハ・ 指杵工	ナテ・ハ・ 指杵工	3mm以下長石	橙褐色	良	
818	92B	SK368 114	土師 器	甕	26	1/12	9.6	ナテ・ハ・ 指杵工	ナテ・ハ・ 指杵工	3mm以下石英・長石	濃褐色・ 淡褐色	良	
819	92B	SK368 114	土師 器	甕	28.1	1/6	19.7	ナテ・ハ・ 指杵工	ナテ・指杵 工	3mm以下長石・赤色斑粒	赤褐色	良	
820	92B	SK368 114	土師 器	高杯	21.2	1/5	8.9	ナテ・面取 り	ハ・ナテ	1mm以下長石・雲母	淡橙褐色	良	
821	92B	SK368 114	須恵 器	壺	6.7	1/4	1.65	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	暗灰色	良	
822	92B	SK368 114	須恵 器	杯蓋	11		0.7	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	青灰色	良	
823	92B	SK368 114	須恵 器	甕	18.5	1/5	4.4	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	淡青灰色	良	
824	92B	SK368 114	須恵 器	杯蓋	14.4	1/3	1.3	クスリ・ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	
825	92B	SK368 114	須恵 器	杯蓋	16.7	1/12	1.6	クスリ・ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	
826	92B	SK368 114	須恵 器	杯蓋	17.4	1/3	1.05	ナテ・クスリ	ナテ	0.5mm以下長石	淡青灰色	良	
827	92B	SK368 114	須恵 器	蓋	14.8	1/12	2.25	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石	青灰白色 緑青灰色	良	外面自然 釉（淡灰 緑色）付 着
828	92B	SK368 114	須恵 器	杯	15.3	1/8	2.5	ナテ・ヘラキ り	ナテ	0.5mm以下長石	乳灰色	良	
829	92B	SK368 114	須恵 器	杯	15	1/4	2.75	ナテ・ヘラキ り	ナテ	4mm以下長石・頁岩	淡灰色・ 乳白灰色	良	
830	92B	SK368 114	須恵 器	蓋	ワタ径 2.7	1/2	2	ナテ・指杵 工	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒	橙褐色	良	
831	92B	SK368 114	須恵 器	杯蓋	12.9	1/12	1.05	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡青灰白 色	良	
832	92B	SK368 114	須恵 器	杯	13.3	3/7	4.25	ナテ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
833	92B	SK368 114	須恵 器	杯	9.4	底部 1/8	3.4	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	貼付高台
834	92B	SK368 114	須恵 器	杯	14.1	1/5	3.7	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡青灰色	良	貼付高台
835	92B	SE368 106	土師 器	高杯 脚		脚部 1/2	8.6	クスリ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・雲母	淡黄褐色 淡茶褐色	良	
836	92B	SE368 106	須恵 器	蓋	ワタ径 3.25	ワタ 完	2.3	クスリ・ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・頁岩	灰緑色	良	自然釉
837	92B	SE368 106	緑釉	椀	6	底部 完	1.8	施釉	施釉	0.5mm以下長石	淡乳緑褐 色	良	
838	92B	SE368 106	緑釉	底部	6.5	底部 3/5	1.2	ナテ	ナテ		淡黄緑色	やや 不良	削り出し 高台
839	92B	SE368 106	黒色 土器	椀	14.7	完	4.7	ナテ・ミカ キ	ミカ キ	1.5mm以下長石・チャト・雲 母	黒色・黄 褐色～橙 褐色	良	貼付高台
840	92B	SE368 106	緑釉 素地	杯	7.4	底部 完	1.3	ナテ・クス リ	ナテ	1.5mm以下長石	灰色	良	
841	92B	SE368 106	緑釉 素地	椀底 部	6.65	底部 完	2.15	ナテ・クス リ・ミカ キ	ナテ	1mm以下長石	淡明灰色	良	削り出し 高台
842	92B	SE368 106	緑釉	底部	8.8	底部 1/4	2.1	ナテ・ヘラ キ	ナテ	1mm以下長石	淡黄緑色	やや 不良	
843	92B	SE368 106	須恵 器	杯	16.1	1/8	1.4	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡暗青灰 色	良	貼付高台

844	92B	SE368 106	須惠器	杯	11.1	1/10	4.3	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	良	貼付高台
845	92B	SE368 106	須惠器	鉢	15.9	1/36	5.9	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡茶灰色	良	
846	92B	SE368 106	緑釉	椀	8.6	底部 1/5	3.6	ナテ・クズリ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩	緑黄褐色	良	貼付高台
847	92B	SE368 106	緑釉	椀	7	底部 1/50	1.85	ナテ	ナテ	1.5mm以下石英・長石	淡灰緑色	良	貼付高台
848	92B	SE368 106	灰釉	皿	9.55	底部 1/4	1.4	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	青緑色	良	
849	92B	SE368 106	緑釉	椀	10	底部 1/7	1.75	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡緑色	良	貼付高台
850	92B	SE368 106	緑釉 生地	皿	13.7	1/8	2.1	ナテ・クズリ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩	乳灰色	やや 不良	
851	92B	SE368 106	灰釉	皿	14	1/8	2.4	ナテ・クズリ	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰緑色	良	
852	92B	SE368 106	灰釉	皿	6.7	底部 1/4	1.7	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰緑黄色	良	内面釉付 着・貼付 高台
853	92B	SE368 106	緑釉	皿	16	1/16	1.8	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	濃緑灰色	良	
854	92B	SE368 106	緑釉	皿	19.4	1/4	3.15	クズリ	ナテ		暗緑灰色	良	貼付高台
855	92B	SE368 106	須惠器	壺	9.8	底部 1/4	11.3	ナテ	ナテ	3mm以下長石・チャート	濃灰色・ 黄灰色	良	貼付高台
856	92B	SE368 106	須惠器	横瓶	10.5		25.5	ナテ・クズリ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
857	92B	SE368 106	須惠器	甕	37	1/4	6.9	ナテ・クズリ	ナテ・クズリ	4mm以下長石	暗灰色・ 淡灰色	良	外面自然 釉付着
858	92B	SE368 106	須惠器	壺	14.3	底部 完	24.1	クズリ・ナテ	ナテ・青海 波文	3mm以下長石・頁岩	濃青灰色 ～淡青灰 色	良	張付面有
859	92B	SE368 106	須惠器	甕	40.5	完	20.5	ナテ・クズリ	ナテ・クズリ	5mm以下石英・長石・ 頁岩・チャート	青灰色	良	外面に自 然釉付着 (灰緑)
860	92B	SE368 106	瓦	平瓦				クズリ・ナテ	クズリ・布 目痕	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡黄茶灰 色	良	均整唐草 文軒平瓦
861	92B	SE368 106	瓦	丸瓦				面取り・ク ズリ	クズリ・ナ テ・布目 痕	2mm以下石英・長石・ 頁岩・チャート	黒灰色	良	蓮華文軒 丸瓦(単 弁)
862	92B	SE368 106	瓦	平瓦				布目痕	縄クズリ	8.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート・頁岩・雲母	灰褐色	良	凸面に離 れ砂付着
863	92B	SE368 106	瓦	平瓦				布目痕	縄クズリ	5mm以下長石・チャート	濃灰色	良	
864	92B	SE368 106	瓦	平瓦				布目痕	縄クズリ	4mm以下石英・長石・チャート	黒灰色～ 灰褐色	良	
865	92B	SH368 118	土師器	ミニチュア 土器	4.3	1/8	3.65	指ナテ	指ナテ	4mm以下赤色斑粒	赤黄褐色	良	
866	92B	SH368 118	土師器	ミニチュア 土器	3.9	1/4	2.9	指ナテ	指ナテ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	黄褐色	良	
867	92B	SH368 118	土師器	高杯	9	底部 1/2	7.2	不明	指ナテ	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒	橙褐色	良	
868	92B	SH368 118	土師器	高杯			6	指ナテ	沫ナテ	2mm以下長石・赤色斑粒・ チャート	橙褐色	良	
869	92B	SH368 118	土師器	高杯	8.6	底部 1/3	3.4	ナテ	沫ナテ・指 ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒	橙褐色	良	
870	92B	SH368 118	土師器	甕	13	1/5	12.6	ナテ・クズリ	ナテ・クズリ	4mm以下石英・長石	赤褐色・ 茶褐色	不良	
871	92B	SH368 118	土師器	甕	10.3	1/8	7.2	クズリ	不明	2.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート・雲母	橙黄淡褐 色	やや 不良	

872	92B	SH368 118	土師 器	甕	17.8	1/16	7.2	不明	ナテ・クスリ	2mm以下石英・長石	暗橙褐色	やや 不良	
873	92B	SH368 118	土師 器	甕	17.8	1/2	5.6	不明	指挿エ	2mm以下石英・長石	暗橙褐色	やや 不良	
874	92B	SH368 118 カ ト 内	土師 器	甕	15	ほぼ 完	18.5	ハケ・ナテ	ナテ・指挿 エ・ハケ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	橙褐色	良	
875	92B	SH368 118	土師 器	甕	21	1/5	5.7	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・赤色斑 粒・チャート	橙褐色	やや 不良	
876	92B	SH368 118	土師 器	甕	20.8	1/8	13.7	不明	不明	6mm以下石英・長石・チャート	淡褐色	不良	
877	92B	SH368 118	土師 器	甕	21	1/8	13.5	ナテ	ナテ・指挿 エ・クスリ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	橙褐色	やや 不良	
878	92B	SH368 118	須恵 器	杯蓋	12.4	1/4	4	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石	青灰色	良	
879	92B	SH368 118	須恵 器	杯蓋	12.8	1/6	4.3	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	
880	92B	SH368 118 カ ト 内	須恵 器	杯蓋	11.9	1/5	3.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡褐色	良	外面自然 釉付着
881	92B	SH368 118	須恵 器	杯蓋	13	1/2	5	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	淡青灰色 ～暗灰色	良	
882	92B	SH368 118	須恵 器	杯蓋	12.6	1/4	4.6	ナテ・クスリ	ナテ	2.5mm以下長石	灰色・明 茶灰褐色	不良	
883	92B	SH368 118	須恵 器	杯身	10.9	1/6	5.4	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	淡灰色・ 淡黄灰褐 色	良	
884	92B	SH368 118	須恵 器	杯身	13.65	1/12	4.7	クスリ	不明	1.5mm以下長石	乳灰色	やや 不良	
885	92B	SH368 118	須恵 器	杯身	11.4	1/2	4.75	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
886	92B	SH368 118	須恵 器	杯身	11.8	3/4	5	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	青灰色～ 乳青灰色	良	
887	92B	SH368 118	須恵 器	杯身	10.8	ほぼ 完	4.8	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡青灰色	良	
888	92B	SH368 118	須恵 器	杯身	12.4	ほぼ 完	5.1	ナテ・クスリ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩	乳灰色	良	
889	92B	SH368 118	須恵 器	杯身	13.1	ほぼ 完	6.2	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石	淡青灰・ 青灰色	良	
890	92B	SH368 119	須恵 器	杯身	12	1/6	4.9	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	
891	92B	SH368 118	須恵 器	壺	10.8	1/2	4.9	ナテ	ナテ	4mm以下長石	緑灰色～ 暗灰色	良	
892	92B	SH368 118	須恵 器	高杯	18.4	1/6	4.4	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰色・ 褐灰色	良	
893	92B	SH368 118	須恵 器	高杯	10.7	底部 1/6	11	ナテ・クス リ・カキ目	ナテ	1mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
894	92B	SH368 119	土師 器	高杯	23	1/3	10.4	不明	不明	4mm以下石英・長石	赤褐色	やや 不良	
895	92B	SH368 119	土師 器	甕	15	1/2	9	ナテ・ハケ	指挿エ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	橙褐色	やや 不良	
896	92B	SH368 121 カ ト 内	土師 器	甕	21.5	3/4	40	ナテ・ハケ	ナテ・指挿 エ・クスリ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩・雲母	淡黄褐色	良	外面ス付 着
897	92B	SH368 121	須恵 器	杯身	12	1/4	5.1	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下石英・長石	淡青灰褐 色	不良	
898	92B	SH368 121	須恵 器	杯身	12.3	1/2	4.5	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下長石	青灰色・ 暗青灰色	良	外面受部 自然釉付 着
899	92B	SH368 121	須恵 器	杯身	12.8	1/2	4.5	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下長石	青灰色・ 暗灰色	良	外面自然 釉付着

900	92B	SH368 121	須惠 器	杯身	14.3	1/5	4.25	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰白色	良	
901	92B	SH368 121	須惠 器	壺	14.5	1/5	3.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	口縁部貼 り付け
902	92B	SH368 121	須惠 器	甕	22.4	1/6	4.6	ナテ	ナテ	3.5mm以下長石	濃灰褐色・灰白色	良	継ぎ足し 面有
903	92B	SH368 121	須惠 器	甕	16	1/3	29.3	ナテ	ナテ	4mm以下長石	濃青灰色	良	
904	92B	SH368 121	土師 器	甕	24.7	1/7	6.5	ナテ	ナテ・ハク・ 指サエ	6mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	濁褐色・ 黄褐色	良	
905	92B	SH368 120	土師 器	椀	13.4	1/8	2.8	ナテ・指サ エ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・雲母	赤褐色・ 黄褐色	やや 不良	
906	92B	SH368 120	土師 器	椀	13	1/4	4.3	ナテ	ナテ・指サ エ	4mm以下長石・赤色斑粒・ チャート	淡茶褐色 茶褐色	やや 不良	外面煮コ ケ痕
907	92B	SH368 120	須惠 器	杯身	9.8	1/2	4.9	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	乳灰色	良	
908	92B	SH368 117	須惠 器	杯蓋	7	ほぼ 完	5.1	ナテ・ケスリ	ナテ	4mm以下長石	淡青灰色	良	ひずみ有 り
909	92B	SH368 117	須惠 器	杯蓋	14.6	ほぼ 完	5.3	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	乳青灰色	やや 不良	
910	92B	SH368 117	須惠 器	杯身	13.6	ほぼ 完	6.1	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
911	92B	SH368 117SK 36815	須惠 器	甕	20.7	1/4	5.4	ナテ	ナテ	2.5mm以下石英・長石	灰褐色～ 黒灰色	良	
912	92B	SH368 117	土師 器	甕	22.7	1/10	10	ナテ	ナテ・ケスリ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	橙茶褐色	良	
913	92B	SH368 117	土師 器	甕	21.1	1/2	14.8	ナテ・ハク	ナテ・ケスリ	4mm以下石英・長石・チャート	淡黄褐色	良	内外面ス り付着
914	92B	SH368 123	土師 器	高杯	10.7	底部 1/4	4.7	ナテ・ケスリ	ナテ・ホリ	4mm以下赤色斑粒	赤褐色	良	
915	92B	SH368 123	土師 器	甕	14	1/2	5.5	不明	不明	3mm以下長石	茶褐色	良	
916	92B	SH368 117	須惠 器	杯蓋	ナミ径 3	ナミ 完	2	不明	ナテ	0.5mm以下長石	青灰色	良	外面自然 釉付着
917	92B	SK368 168	須惠 器	杯身	12.1	1/10	4	ケスリ・ナテ	ナテ	1mm以下長石	黒灰色～ 灰褐色	良	
918	92B	SK368 171	須惠 器	杯身	9.9	1/24	4	ケスリ・ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡青灰色	良	
919	92B	SK368 140	須惠 器	甕	20.8	1/4	9.2	ナテ	ナテ・タタキ	6mm以下長石	灰色	良	
920	92B	SK368 223	須惠 器	杯身	10.7	4/5	2.8	ナテ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
921	92B	SK368 229	須惠 器	臚			10.3	ケスリ・ナテ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	青灰色	良	底部穿 孔・火を 受けた痕 跡
922	92B	SK368 233	須惠 器	高杯 脚部	10.3	1/12	3.9	スガシ・ハク・ナ テ	ナテ	2mm以下長石	淡灰色	良	スガシ有
923	92B	SK368 258	土師 器	甕	13.2	1/8	6.6	ナテ	ハク・指サ エ・ナテ・ケ スリ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	橙茶褐色	良	
924	92B	SK368 229	須惠 器				8.75	ナテ	指サエ・ ナテ	0.5mm以下長石	暗灰褐・ 青灰色	良	
925	92B	SK368 172	須惠 器	壺	17	1/7	4.6	ナテ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	
926	92B	SK368 233	須惠 器	甕	20	1/16	3	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	
927	92B	SK368 257	須惠 器	甕	18.7	1/8	3.2	ナテ	ナテ	3.5mm以下長石	暗灰色	良	

928	92B	SK368 258	土師 器	甕	23.4	1/12	4	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石	淡褐色	やや 不良	
929	92B	SK368 131	須恵 器	甕	20.4	ほぼ 完	43.6	ナテ・タテ	ナテ	3mm以下長石・チャート	濃青灰色	良	
930	92B	包含 層	土師 器	皿	10.15	1/4	0.8	ナテ	ナテ	2.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート・雲母	淡茶灰色	良	
931	92B	包含 層	土師 器	皿	9.9	4/9	1.7	ナテ	指サエ・ナ テ	2.5mm以下赤色斑粒・雲 母	淡灰褐色	良	
932	92B	包含 層	土師 器	皿	10.7	1/4	1.1	指サエ・ ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・雲母	明淡橙色	良	
933	92B	包含 層	緑釉	皿	8.4	底部 1/6	2.65	施釉	施釉	0.5mm以下長石	明緑色	良	貼付高台
934	92B	包含 層	瓦	軒平							淡灰褐色	不良	均整唐草 文軒平瓦 ・縄タテ
935	92B	包含 層	瓦	平瓦						2mm以下石英・長石	黒灰色	良	布目痕・ 縄タテ・糸 切り
936	92B	包含 層	瓦	平瓦						5mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩	灰褐色	良	布目痕・ 縄タテ
937	92B	包含 層	土師 器	椀	12.55	1/5	3.5	不明	不明	3mm以下長石・赤色斑粒・ チャート・雲母	黄橙色	やや 不良	
938	92B	包含 層	土師 器	杯	16.5		3.1	ナテ・ヘラキ リ	ナテ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・雲母	橙灰色	良	
939	92B	包含 層	土師 器	杯	18.4	1/4	4.1	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャ ート	淡橙褐色	良	
940	92B	包含 層	土師 器	皿	14.7	2/3	2	ナテ・ヘラキ リ・ケスリ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・雲母	淡黄灰褐 色	やや 不良	
941	92B	包含 層	土師 器	皿	17.1	1/6	2.4	不明	不明	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・雲母	黄橙色	やや 不良	
942	92B	包含 層	土師 器	皿	18.9	1/7	2	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・雲母	淡橙灰色	やや 不良	
943	92B	包含 層	土師 器	甕	14.1	1/5	4.8	ナテ・ハケ 指サエ	ナテ	1.5mm以下石英・長石	淡茶褐色	良	外面コナ ス付着
944	92B	包含 層	須恵 器	杯	12.55	ほぼ 完	2.9	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・頁岩	淡黄灰色	良	
945	92B	包含 層	須恵 器	杯	13	1/16	3.1	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	
946	92B	包含 層	須恵 器	杯	13.2	1/3	3.55	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡灰色	良	
947	92B	包含 層	須恵 器	杯	16.1	1/16	2.8	ナテ	ナテ	5mm以下石英・長石	淡灰色	良	
948	92B	包含 層	須恵 器	杯	15	1/5	2.75	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡黄灰色	良	
949	92B	包含 層	須恵 器	円面 硯	11	ほぼ 完	3.1	ナテ	ナテ・タテ	5mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	
950	92B	包含 層	緑釉	壺			4				淡褐色	良	内外面緑 釉
951	92B	包含 層	須恵 器	壺	4.4	底部 ほぼ 完	13.7	ナテ・糸切 り	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰色～ 濃灰色・ 赤茶色	良	形歪む (少し楕 円形)
952	92B	包含 層	土師 器	把手 のみ			5	指サエ・ ケスリ		3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	明茶褐色	良	切り込み 有
953	92B	SH368 118	土師 器	ミニチュ ア土器		底部 完	1.7	ナテ	指サエ	3mm以下長石・赤色斑粒	明赤褐色	良	
954	92B	包含 層	土師 器	高杯	10.2	底部 3/5	4	ナテ	ナテ	4mm以下石英・長石	淡橙褐色	良	
955	92B	包含 層	須恵 器	杯身	9.1	1/10	3.65	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・頁岩	灰色～淡 灰色	良	

956	92B	包含層	須恵器	杯身	11.1	1/2	3.65	ナテ・クスリ	ナテ・ハク	2mm以下長石・頁岩	青灰色・淡灰色	良	
957	92B	包含層	須恵器	杯身	11.9	1/2	3.7	ナテ・クスリ	ナテ	9mm以下石英・長石・頁岩	淡黄灰色	良	口縁歪む
958	92B	包含層	須恵器	杯蓋	14.1	1/4	4.1	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡灰色	良	
959	92B	包含層	須恵器	杯身	14.85	1/4	4.95	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	
960	92B	包含層	須恵器	高杯	5.8	1/16	7	ナテ・クスリ・スカシ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	内面自然釉附着・スカシ3か所
961	92B	包含層	須恵器	臬	腹径18.1	1/2	7.6	ナテ	ナテ・指サエ	3mm以下長石	青灰色	良	穿孔有
962	92B	包含層	須恵器	甕	24.35	1/6	5.4	ナテ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	内面釉(灰緑色)附着
963	92B	包含層	須恵器	甕	24	1/16	5	ナテ	ナテ	1mm以下長石	暗灰色	良	
964	92B	包含層	須恵器	甕	23.6	1/12	8.2	ナテ・タタキ	ナテ・指サエ・タタキ	2mm以下長石	青灰色	良	口縁上面と外面灰釉(灰緑色)附着
965	92B	包含層	須恵器	甕	18.5	1/4	14	ナテ	タタキ	2.5mm以下長石	灰色	良	
966	C1	SK35708	土師器	皿	17.8	1/5	1.85	ナテ・クスリ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	淡橙灰色	良	
967	C1	SK35708	須恵器	壺	8.8	底部5/6	2.4	ナテ	ナテ	4mm以下長石	淡青灰色	良	貼付高台
968	C1	SK35708・SD35709	黒色土器	椀	7.3	3/4	6.25	ナテ・ミガキ	ミガキ	0.5mm以下雲母	黒灰色	良	
969	C1	SD368242	須恵器	杯	9.6	底部1/8	1.2	ヘラキ・リ・ナテ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	淡青灰色	良	
970	C1	SD35710	緑釉	耳皿	5.6	底部完	3.3			1mm以下長石	明淡黄緑色	良	底部糸切り
971	C1	SE368243	須恵器	甕	14.8	1/4	3.6	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	
972	C1	SH35705	須恵器	蓋	14.4	1/3	4.5	ナテ・クスリ	ナテ	3.5mm以下チャート	淡灰色	良	
973	C1	SH35705	須恵器	杯身	12	1/12	2.7	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石	暗褐色	良	
974	C1	SH35705	須恵器	杯身	11.6	1/16	3.75	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡黄灰色	良	
975	C1	SH35705	土師器	甗	24.8	1/10	6	ナテ・ハク	ナテ・ハク	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩・雲母	淡暗灰色	良	
976	C1	SH368202	土師器	高杯	13.2	完	6.7	不明	ナテ	2mm以下長石・チャート	淡黄色	良	内面に暗文
977	C1	SH368202	土師器	高杯	12.9	1/3	4.25	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・チャート	橙褐色・淡茶灰色	良	
978	C1	SH368202	土師器	高杯	13.7	完	3.9	不明	不明	4mm以下石英・赤色斑粒	淡黄褐色	良	内面に酸化鉄附着
979	C1	SH368202	土師器	高杯	13.9	1/4	5.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・頁岩・雲母	淡茶灰色～橙褐色	良	
980	C1	SH368202	土師器	高杯	14.8	1/2	5.3	不明	不明	3mm以下長石・石英・雲母	淡黄色	良	
981	C1	SH368202	土師器	高杯			6.6	不明	不明	2mm以下長石	淡赤褐色	良	穿孔3か所
982	C1	SH368202	土師器	甕	15	1/2	5.3	タタキ・ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡黄褐色	良	

983	C1	SH368 202	土師 器	甕	12.8	1/8	4.4	不明	ナテ・ケスリ	0.5mm以下石英・長石	淡褐色・ 淡黄褐色	やや 不良	
984	C1	SH368 202	土師 器	甕	14.7	1/6	3.7	不明	ナテ	2mm以下石英・長石	淡黄色・ 淡黄褐色	やや 不良	
985	C1	SH368 202	土師 器	甕	14	1/3	6.1	不明	ナテ・ケスリ	3mm以下石英・長石・チャート	淡赤褐色	やや 不良	
986	C1	SH368 202	土師 器	甕	14	1/3	5.3	不明	不明	3mm以下石英・長石	暗灰褐・ 淡褐色	良	
987	C1	SH368 202	土師 器	甕	15	1/5	4.7	ナテ	ナテ・ケスリ	2mm以下石英・長石・チャート	淡黄褐色	良	
988	C1	SH368 202	土師 器	甕	15	7/8	7.6	ナテ・ハケ目	ナテ・ケスリ	3mm以下長石・赤色斑粒・ チャート	淡褐色	良	
989	C1	SH368 202	土師 器	壺	18.8	4/5	9.7	不明	ナテ	5mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	淡黄色・ 黄褐色	良	
990	C1	SH368 202	土師 器	壺	18.8	1/4	7.7	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・ チャート・頁岩	淡黄色	良	
991	C1	SH368 202	土師 器	壺	20.3	3/4	8.3	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡褐色	良	
992	C1	SH368 203	土師 器	高杯			3.5	ナテ	ナテ・指サ エ	長石・赤色斑粒・チャート	淡黄褐色	良	
993	C1	SH368 203	土師 器	高杯			5.5	不明	不明	4mm以下長石・チャート・雲母	赤褐色	良	
994	C1	SH368 203	土師 器	高杯	14.2	1/12	5.3	不明	不明	5mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	暗茶褐色 淡黄褐色	やや 不良	
995	C1	SH368 203	土師 器	高杯		不明	2.9	不明	不明	6mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	赤褐色・ 黄赤褐色	やや 不良	
996	C1	SH368 203	土師 器	高杯	12.6	1/8	4.2	ナテ	ナテ	5mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	暗茶灰・ 明茶灰～ 橙褐色	良	
997	C1	SH368 203	土師 器	高杯	22	杯部 完	9.3	不明	ナテ	7mm以下石英・長石・チャート	淡黄褐色 暗茶褐色	良	内面コ 有
998	C1	SH368 203	土師 器	壺	8.4	1/5	5.7	ナテ	ナテ	1.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート	暗赤褐色	良	
999	C1	SH368 203	土師 器	高杯	13.8	完	12	不明	ナテ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒	黄褐色	良	
1000	C1	SH368 203	土師 器	高杯	13.2	3/4	8.2	不明	不明	6mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	赤褐色	やや 不良	
1001	C1	SH368 203	土師 器	高杯	12.8	底部 1/2	11	不明	指サエ	3mm以下長石・赤色斑粒	明赤褐色	やや 不良	
1002	C1	SH368 203	須恵 器	甕	4.4	1/2	6.1	ナテ・ケスリ	ナテ	5mm以下長石	淡青灰色	良	酸化鉄付 着
1003	C1	SH368 203	須恵 器	杯蓋	15.2	1/5	4.7	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	酸化鉄付 着
1004	C1	SH368 203	須恵 器	蓋	ワミ径 3.6	ワミ 完	5.5	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	
1005	C1	SH368 203	須恵 器	杯身	10.4	1/12	4.5	ナテ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	酸化鉄付 着
1006	C1	SH368 203	須恵 器	高杯	18.3	1/6	6	ナテ	ナテ	5mm以下長石	青灰色	良	
1007	C1	SH368 203	土師 器	甕	18.2	2/3	32	ハケ	ナテ	3mm以下長石	淡褐色	良	外面ス 付着
1008	C1	SH368 203	須恵 器	甕	20	1/4	7.3	ナテ・カキ タキ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色 ～暗灰色	良	
1009	C1	SH368 203	須恵 器	高杯	9	底部 1/5	3.8	ナテ	ナテ	4mm以下長石	淡青灰色 ～暗青灰 色	良	
1010	C1	SH368 203	須恵 器	高杯	9.7	底部 1/6	4.7	カキ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	内面酸化 鉄付着
1011	C1	SH368 203	須恵 器	高杯	10.4	底部 1/2	6	カキ・スカシ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡青灰色	良	酸化鉄付 着

1012	C1	SH368 203	須恵器	高杯	17.2	1/4	10.6	ナテ・クスリ・スカシ	ナテ	1.5mm以下長石	青灰色	良	
1013	C1	SH368 203	須恵器	壺	15.9	1/5	15.9	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色・暗青灰色	良	
1014	C1	SH368 203	須恵器	甕	11.8	1/8	4.1	ナテ	ナテ	2mm以下長石・頁岩・チャート	淡灰色	不良	
1015	C1	SH368 203	須恵器	高杯	9.2	底部 1/5	4.6	ナメ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	
1016	C1	SH368 204	須恵器	杯身	11.2	1/6	3.1	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石	淡灰色	良	
1017	C1	SK368 226	弥生	甕底部	5.4	底部 1/4	2	ナテ	ナテ	2.5mm以下石英・長石	淡赤淡黄褐色・黒灰色	良	
1018	C1	SK368 226	弥生	水差し	5	完	21	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・雲母	褐色	良	
1019	C1	SK368 247	弥生	壺	12.8	ほぼ 完	22.3	不明	不明	4mm以下石英・長石	淡橙褐色～淡黄褐色	やや不良	
1020	C1	SK368 247	弥生	壺	19.6	1/4	35	ハ	ナテ	8mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	淡黄褐色	やや不良	
1021	C1	SK368 247	弥生	水差し	13.6	1/3	5.2	不明	不明	6mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	淡橙褐色	やや不良	
1022	C1	SK368 247	弥生	水差し?	13.6	底部 完	16.8	不明	不明	6mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	淡橙褐色	やや不良	
1023	C1	SK368 248	弥生	壺	18.2	3/4	32.1	クスリ	クスリ・ナテ	4mm以下石英・長石・頁岩・チャート	淡赤～淡黄褐色・淡灰色	やや不良	
1024	C1	包含層	緑釉	椀	13.3	1/8	3.5	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石	暗緑灰色	良	
1025	C1	包含層	青磁	椀	17		3.8	ナテ	ナテ		青緑色	良	
1026	C1	包含層	灰釉	椀	15	1/4	6	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡黄灰色	良	内面に釉痕
1027	C1	包含層	須恵器	椀	7.4	底部 1/3	2.1	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰色	良	
1028	C1	包含層	緑釉素地	椀	6.3	底部 1/3	1	クスリ	クスリ	2mm以下長石	濃灰色	良	
1029	C1	包含層	白磁	椀	7	底部 1/2	1.9	クスリ・ナテ	ナテ		乳灰色	良	内面淡灰緑色の釉付着
1030	C1	包含層	唐津	椀	4.2	底部 ほぼ 完	2.35	クスリ・ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	暗緑灰色	良	内面重ね焼きの跡
1031	C1	包含層	灰釉	杯椀	7	底部 1/4	2.3	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩	淡灰褐色	やや不良	貼付高台
1032	C1	包含層	灰釉	椀	7	底部 4/7	2.8	ナテ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	乳灰褐色	やや不良	貼付高台
1033	C1	包含層	灰釉	椀	6.55	底部 1/2	2.4	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡青緑色	良	貼付高台
1034	C1	包含層	須恵器	鉢	30.1	1/6	9.1	ナテ	ナテ	2mm以下長石・チャート	灰色～暗灰色	良	内面墨付着
1035	C1	包含層	須恵器	甕	36.4	1/8	13.8	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	灰色・暗灰色	良	自然釉付着
1036	C1	包含層	弥生				4.5	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡茶灰色	やや不良	
1037	C1	包含層	瓦	平瓦				不明	縄目クキ	1mm以下石英・チャート・雲母	赤褐色	やや不良	
1038	C1	包含層	須恵器	高杯	4.6	3/4	13	ナテ	クスリ・ナテ	2mm以下長石	灰色	良	
1039	C2	SH395 690	土師器	甕	14.4	1/8	9.5	ハ	指サエ・ハ	5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	赤褐色・暗褐色	良	

1040	C2	SH395690	土師器	甕	19.8	1/4	4.6	不明	不明	5mm以下石英・長石・チャート	淡褐色・淡赤褐色	良	
1041	C2	SH395632	土師器	壺	12	1/6	13.6	不明	指材エ・ナテ	3mm以下長石・赤色斑粒・チャート	茶灰色～茶灰褐色	良	
1042	C2	SH395632	土師器	高杯	14.2	底部完	11.5	ナテ・シホリ・指材エ	シホリ・ナテ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒	茶褐色	良	
1043	C2	SH395677	土師器	壺	10.9	1/8	4.4	ナテ	ナテ	3mm以下長石	明茶灰色 暗茶灰色	良	小型丸底壺
1044	C2	SH395677	土師器	壺	11.7	1/2	6.8	不明	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・頁岩	淡橙褐色	やや不良	小型丸底壺
1045	C2	SH395677	土師器	器台	11.2	1/5	2.2	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石	橙褐色～黒褐色	良	
1046	C2	SH395677	土師器	高杯	11	1/4	4.5	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色斑粒	橙褐色	良	
1047	C2	SH395677	土師器	高杯			8.4	不明	シホリ	3mm以下石英・長石	橙褐色	良	穿孔1か所
1048	C2	SH395677	土師器	高杯	10.8	底部1/4	4.9	不明	ナテ	3mm以下長石・赤色斑粒・チャート	淡茶灰色	良	
1049	C2	SH395677	土師器	高杯	11.7	底部1/12	9	不明	シホリ・ナテ	4mm以下長石・赤色斑粒・チャート	明茶灰色	良	
1050	C2	SH395677	土師器	壺	13	1/5	5	ナテ	指材エ・ナテ	1.5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩・雲母	濁褐色	良	
1051	C2	SH395677	土師器	器台	9.4	1/2	8.2	不明	指材エ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	
1052	C2	SH395677	土師器	器台	12.4	底部1/4	4.8	不明	シホリ	1.5mm以下長石・チャート	淡黄茶褐色	良	穿孔4か所
1053	C2	SH395677	土師器	高杯	16	1/5	4.7	不明	不明	9mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	
1054	C2	SH395677	土師器	高杯	16.3	1/2	9.35	不明	不明	2mm以下石英・長石	橙褐色	良	
1055	C2	SH395677	土師器	高杯	18.8	1/4	15.7	ナテ	ナテ	1mm以下赤色斑粒・チャート・雲母	橙茶褐色	良	
1056	C2	SH395677	土師器	不明	19.4	1/8	3.7	不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色斑粒	明茶灰色	やや不良	
1057	C2	SH395677	土師器	甕	14.2	1/6	3.5	不明	不明	4mm以下長石・チャート	橙褐色～茶灰色	やや不良	
1058	C2	SH395677	土師器	壺	頸径4.8	1/2	7.7	ナテ	シホリ・ナテ	3.5mm以下長石・チャート	橙褐色・褐色	良	口縁歪む
1059	C2	SH395677	土師器	甌			3.8	不明	不明	1mm以下長石・赤色斑粒	淡黄褐色	良	底部穿孔1か所
1060	C2	SH395677	土師器	台付鉢	12.1	1/2	7.5	不明	指材エ	8mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	暗茶灰色 明茶灰色	やや不良	
1061	C2	SH395677	土師器	鉢	12.4	1/6	7	ナテ	ナテ	4mm以下長石・チャート・雲母	淡茶褐色	良	
1062	C2	SH395677	土師器	壺	17	1/3	4.5	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒	茶褐色	良	
1063	C2	SH395677	土師器	壺	22	ほぼ完	8	ナテ	ナテ	7mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	淡橙灰色～黒灰色	良	
1064	C2	SH395677	土師器	壺	20	1/2	12.5	ナテ	クスリ	3mm以下石英・長石・雲母	淡橙灰色	やや不良	
1065	C2	SH395677	土師器	壺	16.6	1/2	14.4	不明	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒	橙灰褐色	やや不良	
1066	C2	SH395677	土師器	甕	12.4	1/4	4.5	ナテ	ナテ・クスリ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒	淡灰褐色	良	
1067	C2	SH395677	土師器	甕	14.5	1/4	4.4	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート・雲母	淡橙灰色～淡茶黄色	やや不良	
1068	C2	SH395677	土師器	甕	15.2	1/3	5.2	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡灰褐色	良	

1069	C2	SH395 677	土師器	甕	15.1	1/6	3.7	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・雲母	乳茶灰色～暗黒茶灰色	やや不良	
1070	C2	SH395 677	土師器	甕	15.1	1/5	4.9	ナテ	ナテ	3.5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩・雲母	淡茶灰色	良	
1071	C2	SH395 677	土師器	甕	16.4	1/6	5.2	不明	不明	3mm以下石英・長石・雲母	黒褐色	やや不良	
1072	C2	SH395 677	土師器	甕	13.1	1/8	7	不明	ナテ・ケスリ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒	橙灰色・淡黄灰色	やや不良	
1073	C2	SH395 677	土師器	甕	14	1/8	7.5	ナテ	指種工	3mm以下石英・長石・赤色斑粒	淡黄褐色	不良	
1074	C2	SH395 677	土師器	甕	14.8	1/2	8.5	ナテ	ナテ・ケスリ	7mm以下石英・長石・雲母	淡黄褐色	不良	
1075	C2	SH395 677	土師器	甕	15.4	1/2	10.6	ナテ・ハク	ナテ・ケスリ	1mm以下長石	茶褐色	良	
1076	C2	SH395 677	土師器	甕	14.2	1/3	10.2	ナテ	ナテ・ケスリ	3mm以下石英・長石・雲母	淡茶褐色	良	
1077	C2	SH395 677	土師器	壺	16.55	1/2	6.3	ナテ	ケスリ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡茶褐色	良	
1078	C2	SH395 677	土師器	壺	17.8	1/4	13.1	ナテ	ナテ・ケスリ	2mm以下石英・長石・頁岩・雲母	淡橙褐色	やや不良	
1079	C2	SH395 677	土師器	甕	18.4	1/2	16	ナテ・ハク	ナテ	5mm以下石英・長石・雲母	明茶褐色 淡茶褐色	良	
1080	C2	SH395 677	土師器	甕	16.4	3/4	19	ナテ・ハク	ケスリ	1mm以下石英・長石	淡茶褐色	やや不良	布留式
1081	C2	SH395 677	土師器	甕	5.8	底部 2/3	2.5	ナテ	指種工	5mm以下石英・長石・チャート	橙灰褐色 淡橙褐色	やや不良	貼付高台
1082	C2	SH395 677	土師器	甕	3.8	底部 4/5	2.8	不明	指種工	4mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	橙褐色～黒褐色	やや不良	底部穿孔
1083	C2	SH395 677	土師器	壺	6.2	底部 1/3	2.7	ナテ	指種工・ナテ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡灰褐色～黒褐色	やや不良	貼付高台
1084	C2	SH395 677	土師器	壺	4	底部 3/4	3.4	不明	ハク	2.5mm以下長石・赤色斑粒・チャート	淡橙褐色 淡茶灰色	やや不良	
1085	C2	SH395 677	土師器	壺	5.8	底部 2/3	5.5	不明	指種工・ハク	6mm以下石英・長石・赤色斑粒	淡茶褐・黒灰色	やや不良	
1086	C2	SH395 677	土師器	甕	5.2	底部 1/2	16.5	ナテ	ナテ	5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	茶褐色～黄褐色・黒色	良	
1087	C2	SH395 684	土師器	壺	7.2	口縁完	8.4	不明	指種工	4mm以下石英・長石・チャート	淡褐色・暗灰褐色	良	
1088	C2	SH395 684	土師器	蓋	1.8	1/4	1.8	ナテ	不明	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡褐色	良	
1089	C2	SH395 684	土師器	高杯	9.5	底部 1/16	5.8	不明	ホリ	雲母	橙褐色	良	
1090	C2	SH395 684	土師器	甕	14	1/6	4.6	不明	不明	5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡褐色・淡黄褐色	やや不良	
1091	C2	SH395 684	土師器	甕口縁	16	1/9	5.2	ハク	不明	5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	淡茶褐色・淡灰茶褐色	良	
1092	C2	SH395 684	土師器	底部	2.1	底部完	3.6	ハク・ケスリ	ケスリ	4mm以下長石・チャート	橙褐色～暗茶灰・明褐色	良	
1093	C2	SH395 684	土師器	甕	16.4	1/12	3.1	ナテ	ナテ	4mm以下長石・チャート	淡茶灰色	良	
1094	C2	SH395 684	土師器	甕	19.1	1/10	8.3	不明	ナテ・ケスリ	5mm以下長石・チャート	淡褐色	良	
1095	C2	SH395 684	土師器	甕	腹径 19.2		8.7	ナテ	不明	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡褐色	良	外面火を受ける (橙褐色)

1096	C2	SH395 685	土師器	杯	13.3	ほぼ完	4.1	不明	不明	3mm以下石英・長石・チャート	白灰色～黄褐色	良	
1097	C2	SH395 685	土師器	高杯	12.3	3/4	5.8	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	茶～黄褐色	良	
1098	C2	SH395 685	土師器	高杯	13.2	1/4	4.65	指挿エ	不明	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩・雲母	赤茶褐色	良	
1099	C2	SH395 685	土師器	高杯	8.2	底部 3/5	7.9	ナテ	ナテ・沫リ	4mm以下長石	橙褐色	良	歪み
1100	C2	SH395 685	土師器	高杯	9.2	底部 1/10	7.9	ナテ	ナテ・沫リ・指挿エ	3mm以下石英・長石・チャート	茶褐色	良	
1101	C2	SH395 685	土師器	高杯			5.2	不明	沫リ	1.5mm以下長石・赤色斑粒	橙茶褐色	良	
1102	C2	SH395 685	土師器	把手		把手完	7.6	指挿エ	ナテ	6mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	淡黄褐色・褐色	良	
1103	C2	SH395 685	土師器	甕	13	1/8	7	ナテ・ハク	ハク	4mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	灰褐色	良	
1104	C2	SH395 685	土師器	甕	14.4	1/4	6.95	ナテ・ハク	クスリ	3.5mm以下石英・長石・赤色斑粒	橙褐色	良	
1105	C2	SH395 685	土師器	甕	12.6	1/4	9.25	不明	不明	4mm以下石英・長石・赤色斑粒	淡橙褐色 淡黄褐色	良	
1106	C2	SH395 685	土師器	甕	16.8	1/6	4.75	ナテ	ナテ	4.5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	明黄褐色	良	
1107	C2	SH395 685	土師器	甕	19.5	1/8	7	ナテ	指挿エ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒	橙褐色	良	
1108	C2	SH395 685	土師器	甕	15.8	1/3	11.2	ナテ・指挿エ・ハク	クスリ	5.5mm以下石英・長石・赤色斑粒	黄褐色～赤茶褐色	やや不良	
1109	C2	SH395 685	須惠器	器台片			5	ハク	ナテ	1.5mm以下長石	灰色	良	
1110	C2	SH395 685	須惠器	杯蓋	14.7	1/6	5.2	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	
1111	C2	SH395 685	須惠器	杯蓋	14.8	1/4	3.6	ナテ	ナテ	2mm以下長石	青灰色	良	
1112	C2	SH395 685	須惠器	杯蓋	14.6	1/8	3.9	ナテ・クスリ	ナテ	1.5mm以下長石・赤色斑粒	淡赤褐色～淡灰褐色	やや不良	
1113	C2	SH395 685	須惠器	杯身	13.5	1/6	2.6	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
1114	C2	SH395 685	須惠器	杯身	13	1/12	4.3	ナテ・クスリ	ナテ	4mm以下石英・長石	青灰色	良	
1115	C2	SH395 685	須惠器	高杯	11.2	1/6	4.9	ナテ	ナテ	1mm以下長石	青灰色	良	
1116	C2	SH395 685	須惠器	高杯	9.4	底部 1/5	3.05	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・頁岩	青灰色	良	穿孔4か所
1117	C2	SH395 685	須惠器	壺	8.2	1/2	4.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
1118	C2	SH395 685	須惠器	高杯	11.3	1/10	6.3	ナテ	ナテ	2mm以下長石	淡青灰色	良	
1119	C2	SH395 685	須惠器	壺底部		底部完	5.3	ナテ・クスリ	ナテ	2.5mm以下長石	淡青灰色	良	歪む
1120	C2	SH395 685	須惠器	甕	22.4	3/4	33	カキメ・タタキ	ナテ・タタキ	3mm以下長石・頁岩	淡青灰色	良	口縁部歪む
1121	C2	SH395 686	須惠器	蓋	12.1	3/4	5.7	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
1122	C2	SH395 686	須惠器	杯身	12.4	1/12	2.85	ナテ・クスリ	ナテ	4.5mm以下石英・長石	淡青灰色	良	
1123	C2	SH395 686	土師器	甕	14.2	1/2	8.2	ナテ・ハク	ナテ・クスリ	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	
1124	C2	SD396 691	須惠器	蓋	14.75	1/4	3.9	ナテ・クスリ	ナテ	5mm以下長石・頁岩	青灰色	良	

1125	C2	SD396 691	須惠 器	杯身	8.2	1/8	1.7	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・チャート	淡黄褐色	良	
1126	C2	SD396 691	須惠 器	長頸 壺	13.2	底部 ほぼ 完	8.7	ナテ・クスリ	ナテ	6mm以下長石・チャート	淡青灰色	良	外面上部 と内面底 部自然釉 附着
1127	C2	SD396 691・ SR395 600	須惠 器	甕	20	1/4	12.3	ナテ・タキ カキメ	ナテ・タキ	3mm以下長石	灰色	良	自然釉 (灰緑 色) 附着
1128	C2	SR395 600	土師 器	杯	15	1/4	5	ナテ	ナテ	6mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡茶灰色 ～橙褐色	やや 不良	歪む
1129	C2	SR395 600	土師 器	壺	12.9	1/8	8.8	不明	ナテ・指サ エ	2mm以下長石・チャート・頁岩	淡茶褐色	良	
1130	C2	SR395 600	土師 器	壺	13.6	3/4	12.3	ハ	ナテ・指サ エ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡灰色・ 淡灰黄色	良	歪む
1131	C2	SR395 600	土師 器	台付 鉢	7.4	底部 完	11.2	ナテ	ナテ・ハケ・シ ホリ・クスリ	2.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート・頁岩	茶褐色	良	
1132	C2	SR395 600	土師 器	高杯	11.4	ほぼ 完	5.2	不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡赤褐・ 淡褐色	やや 不良	
1133	C2	SR395 600	土師 器	高杯	11.2	底部 1/4	5.8	不明	ナテ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡黄褐色 ～灰褐色	良	
1134	C2	SR395 600	土師 器	高杯	10	底部 4/5	7.7	不明	不明	5mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	茶褐色	良	
1135	C2	SR395 600	土師 器	甕	10.6	3/4	12.85	不明	ナテ・クスリ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡黄褐色	良	
1136	C2	SR395 600	土師 器	壺	18	1/3	9.3	不明	不明	3mm以下石英・長石・チャート	淡茶褐・ 淡褐色～ 灰褐色	良	
1137	C2	SR395 600	土師 器	甕	32.2	1/4	38.8	ハ	クスリ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	淡黄褐色 暗灰褐色	良	
1138	C2	SR395 600	土師 器	甕	16.4	1/6	5	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石	淡黄褐色	良	
1139	C2	SR395 600	弥生 器	壺口 縁	13.6	1/5	7	不明	不明	7mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	淡褐色	良	
1140	C2	SR395 600	土製 品	羽口		2/3	9.6	ナテ	ホリ	6mm以下石英・長石	淡黄褐色	良	
1141	C2	SR395 600	弥生 器	壺底 部	6.8	1/2	6.5	ナテ・指サ エ	不明	4.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート・頁岩	明茶褐色	良	
1142	C2	SR395 600	弥生 器	壺	3.8	底部 完	9.1	ナテ・指サ エ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	黄褐色・ 灰褐色	良	
1143	C2	SR395 600	土師 器	壺	20	1/10	5.2	不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	黄褐色	良	
1144	C2	SR395 600	土師 器	甕	20.7	1/8	6.2	ナテ	ナテ・指サ エ	2.5mm以下長石・チャート	橙褐色	良	
1145	C2	SR395 600	土師 器	甕	27.4	1/7	11	不明	ナテ	2mm以下石英・長石	淡黄褐色	良	
1146	C2	SR395 600	須惠 器	壺	11.2	1/2	6.2	ナテ	ナテ	1mm以下長石	暗灰色～ 淡灰色	良	歪む・内 外面に自 然釉附着
1147	C2	SR395 600	須惠 器	杯身	12.8	1/2	4.25	ナテ・クスリ	ナテ	5mm以下長石・チャート	茶灰褐色	良	
1148	C2	SR395 600	須惠 器	杯身	12.5	ほぼ 完	4.45	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	外面酸化 鉄附着
1149	C2	SR395 600	須惠 器	杯蓋	15.3	2/3	5.1	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下頁岩	淡灰色	良	外面酸化 鉄附着
1150	C2	SR395 600	須惠 器	平瓶	肩部 6.5	胴部 完	12.8	カキメ・ナテ ・クスリ	ナテ	3.5mm以下石英・長石・ チャート	淡灰色	良	
1151	C2	SR395 600	須惠 器	壺	6.8	ほぼ 完	9	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下石英・長石	淡灰色	やや 不良	

1152	C2	SR395 600	須惠 器	甕	22	1/2	7.9	カキメ・タキ	ナテ・タキ	1mm以下長石	淡灰色～ 青灰色	やや 不良	頸部へ記 号
1153	C2	SR395 601	弥生	高杯			9.9	ナテ	ナテ	7mm以下長石・チャート	茶灰褐色 暗茶灰色	良	
1154	C2	SR395 601	弥生	高杯			12	ナテ	ナテ	6mm以下長石・チャート	茶灰褐色	良	
1155	C2	SR395 601	弥生	高杯			12.7	不明	不明	3mm以下長石・赤色斑粒・ チャート	淡茶灰色 ～茶褐色	良	
1156	C2	SR395 601	土師 器	高杯			10.1	ナテ	ハケ	3mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩	橙褐色～ 淡茶灰色	良	
1157	C2	SR395 601	土師 器	甕	16	1/4	3.3	ナテ	ナテ・ケスリ	2.5mm以下石英・長石	濁褐色	良	
1158	C2	SR395 601	土師 器	甕	17	1/4	2.6	ナテ	ナテ	1.5mm以下石英・長石	濃褐色	良	
1159	C2	SR395 601	土師 器	甕	16.3	1/4	5.1	ナテ	ナテ・ケスリ	2mm以下石英・長石	灰褐色	良	
1160	C2	SR395 601	土師 器	壺	腹径 18.3		6.8	ナテ	ナテ	8mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	淡褐色	良	
1161	C2	SR395 601	土師 器	壺	頸径 9.4		6	ナテ・波状 文	ナテ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	淡黄褐色	良	
1162	C2	SR395 600	土師 器	甕	15	ほぼ 完	8.9	タキ	不明	4.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート・頁岩	橙褐色	良	
1163	C2	SR395 601	土師 器	甕	16.4	3/4	6.8	ハケ・タキ	ナテ・ケスリ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	淡褐色	良	
1164	C2	SR395 601	弥生	壺	21.6	1/12	8	指杵エ・ナ テ	ナテ	5mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡黄褐・ 濃灰色	良	
1165	C2	SR395 601	弥生	壺	29	1/8	10.9	不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡黄褐・ 橙褐色	良	
1166	C2	SR395 601	土師 器	甕	10.8	1/4	20.6	ナテ・ハケ	不明	6mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	茶褐色	良	
1167	C2	SR395 601	弥生	甕	36.8	1/10	5.8	ハケ	ハケ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡黄茶褐 色	良	口縁2条 波状文
1168	C2	SR395 601	須惠 器	壺	8.8	1/5	2.2	ナテ・波状 文	ナテ	2mm以下長石	灰色	良	
1169	C2	SR395 601	須惠 器	杯蓋	11.8	1/12	4.3	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	灰色・青 灰色	良	
1170	C2	SR395 601	須惠 器	鉢	腹径 12.4	1/3	7.75	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石	灰色	良	内面自然 釉附着
1171	C2	SR395 601	土師 器	壺	24	1/5	25.4	ナテ・ハケ	ナテ・指杵 エ	7.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート・頁岩	茶褐色	良	
1172	C2	SR395 601	須惠 器	高杯	13.4	1/2	16.2	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩	淡青灰色	良	
1173	C2	SK395 623	須惠 器	杯身	12.2	3/4	4.1	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	淡青灰色	良	
1174	C2	SK395 623	須惠 器	杯身	13	3/4	3.9	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石・チャート	暗青灰色 ～淡赤褐 色・暗赤 褐色	良	
1175	C2	SK395 680	土師 器	高杯	12.9	底部 1/4	9.5	ナテ・ヘラ調 整	ホクリ・ナテ	1.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート	淡褐色	良	穿孔3か 所
1176	C2	SK395 680	土師 器	甕	17.5	1/4	10.2	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	明茶褐・ 灰褐色	良	
1177	C2	SK395 680	土師 器	高杯	16.4	1/2	13.1	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	橙茶褐色	良	
1178	C2	SK395 680	土師 器	壺	22	1/6	9.9	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	淡黄茶褐 色	良	
1179	C2	SK395 680	土師 器	甕	22.2	1/2	10.9	ナテ・ハケ	ナテ・ケス リ・指杵エ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	淡褐色	良	内面コウ スル附着

1180	C2	SK395 683	土師器	高杯	13.6	1/2	5.2	ハク	不明	2mm以下石英・長石・赤色斑粒	橙茶褐色	良	歪む
1181	C2	SK395 683	土師器	甕	10.8	1/4	6.7	不明	クスリ・指挿 キ	3mm以下石英・長石・チャート	淡灰褐・ 黒灰色	良	
1182	C2	SK395 683	土師器	甕	25.7	1/12	14.1	不明	不明	5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	橙茶褐色 ～暗茶褐色	良	
1183	C2	SK395 683	土師器	高杯	17.1	底部 1/3	4.3	ナテ	指挿キ	5mm以下石英・長石・赤色斑粒	橙褐色	良	
1184	C2	SK395 683	土師器	甕	26	1/4	11.1	ハク	ナテ	4mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	橙茶褐色	良	
1185	C2	包含層	須恵器	蓋	12	1/3	3.45	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石・雲母	青灰色	良	
1186	C2	包含層	須恵器	高杯	10.6	1/4	3.45	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩	灰褐色	良	
1187	C2	包含層	須恵器	高杯	8.4	1/3	4.3	ナテ	ナテ	3mm以下長石	濃青灰色	良	
1188	C2	包含層	土師器	甕	17.3	1/2	5.1	ナテ	ナテ・クスリ	4mm以下石英・長石	橙褐色・ 淡黄褐色	良	
1189	C2	包含層	須恵器	鉢	18.5	1/6	12	ナテ・クスリ	ナテ	2.5mm以下長石	青灰色～ 白灰色・ 黄青灰色	良	
1190	C2	包含層	土師器	甕	24	1/4	14.1	不明	不明	5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	淡橙茶褐色	良	
1191	C3	SK368 312	瓦質	羽釜	29.5	1/10	6	ナテ・指挿 キ	ハク	2mm以下石英・長石	淡灰褐色	良	
1192	C3	P25	瓦質	鍋	31	1/16	3.7	ナテ・指挿 キ	ナテ	3mm以下石英・長石	淡濁褐色	良	
1193	C3	包含層	瓦質	羽釜	21.6	1/12	5.5	ナテ・指挿 キ	ナテ	1.5mm以下石英・長石	淡青灰褐色	良	
1194	C3	P10	土師器	皿	6.4	ほぼ 完	1.4	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・赤色斑粒・雲母	橙褐色	良	
1195	C3	P10	土師器	皿	6.2	7/8	1.45	ナテ	ナテ・指挿 キ	1mm以下長石・雲母	淡褐色	良	
1196	C3	P10	土師器	皿	6.7	3/4	1.25	ナテ	ナテ	1mm以下長石・雲母	橙褐色	良	
1197	C3	P15	土師器	皿	5.8	1/2	1.4	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
1198	C3	P25	土師器	皿	6.5	1/2	1.5	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
1199	C3	P37	土師器	皿	7	1/2	1.6	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	淡黄褐色	良	
1200	C3	P101	土師器	皿	6.4	1/2	1.65	ナテ	ナテ	1.5mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
1201	C3	包含層	土師器	皿	6.6	3/4	1.4	ナテ	ナテ	2mm以下長石・赤色斑粒・雲母	淡黄褐色	良	
1202	C3	柱穴	土師器	皿	7.4	1/4	1.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	褐色	良	
1203	C3	包含層	土師器	皿	7	ほぼ 完	1.25	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
1204	C3	包含層	土師器	皿	7.2	ほぼ 完	1.4	ナテ・指挿 キ	ナテ	1mm以下長石・雲母	淡褐色	良	口縁歪む
1205	C3	包含層	土師器	皿	7.4	1/3	1.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	灰褐色	良	
1206	C3	包含層	土師器	皿	7	1/3	1.5	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
1207	C3	包含層	土師器	皿	8.3	1/36	1.3	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・赤色斑粒・雲母	灰褐色	良	
1208	C3	P31	土師器	皿	11	1/6	2.1	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	茶褐色	良	

1209	C3	柱穴	土師器	皿	10.6	1/3	1.9	ナテ・指 エ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・雲母	淡茶褐色	良	
1210	C3	P25	青磁	椀	5	1/3	3.4	ナテ・クスリ	施釉		淡乳緑色	良	
1211	C3	SX368 309	須恵器	高杯	12.2	底部 1/10	2.5	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	灰色	良	
1212	C3	SX368 308	弥生	底部	3	底部 完	2.8	ナテ・指 エ	ナテ・指 エ	2mm以下石英・長石・チャート	淡褐色	良	
1213	C3	包含層	天目	椀	4	底部 完	1.4	クスリ	施釉	1mm以下長石	茶色	良	内面黒褐色の釉
1214	C3	包含層	青磁	椀		破片	3.7	施釉	施釉		灰緑色	良	
1215	C3	P25	瓦	平瓦						1mm以下石英・長石・頁岩	灰褐色	良	唐草文
1216	C3	包含層	須恵器	杯蓋	8.7	1/2	3.8	ナテ・クスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
1217	C3	SX368 308	土師器	甕	17.2	2/5	5.7	ナテ・ハケ タキ	ナテ	1mm以下長石・雲母	暗褐色	良	
1218	C3	SH368 304	須恵器	杯蓋	14.3	1/4	4.2	ナテ・クスリ	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰褐色	良	
1219	C3	包含層	須恵器	杯蓋	14.9	1/12	3.9	ナテ・クスリ	ナテ	3mm以下長石	灰白色・ 乳灰白色	良	
1220	C3	包含層	須恵器	甕	5	体部 完	5.7	ナテ・クスリ	ナテ	2.5mm以下長石・チャート・頁岩	淡灰色～ 淡黄灰色	良	
1221	C3	包含層	須恵器	杯身	13.8	1/4	2.8	ナテ	ナテ	2mm以下長石	青灰色・ 灰褐色	やや 不良	
1222	C3	SH368 304 ナト	土師器	甕	14.2	1/2	15.1	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	橙褐色・ 淡橙褐色	良	
1223	C4a	SR395 702	土師器	甕	10.4	1/4	6.2	ナテ・タキ	ナテ・指 エ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡黄褐色	良	外面黒斑
1224	C4a	SR395 702	土師器	甕	13.4	1/8	7.75	ハケ	ナテ・指 エ	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	黄茶褐色	良	
1225	C4a	SR395 702	土師器	甕	11.2	1/2	12.8	ナテ・ハケ	ナテ・指 エ・クスリ	6mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡橙灰色	良	歪む
1226	C4a	SR395 702	弥生	器台		破片	9.2	ナテ	ナテ	4mm以下長石	暗茶褐色	良	
1227	C4a	SR395 702	土師器	甕	11.8	1/2	14.45	ナテ・ハケ	ナテ・指 エ・クスリ・ハ ケ	2.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒	橙褐色～ 淡茶褐色	良	やや歪む
1228	C4a	SR395 702	土師器	甕	13.4	2/3	15.2	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ	3mm以下石英・長石・チャ ート・頁岩・雲母	茶褐色・ 赤褐色	良	歪む・内 外面底部 黒色
1229	C4a	SR395 702	土師器	甕	16	1/4	13.2	ナテ・ハケ	ナテ・指 エ・クスリ・ハ ケ・タキ	4mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡黄茶褐 色	良	
1230	C4a	SR395 702	土師器	壺	13	1/2	16	ナテ・ハケ	クスリ	3.5mm以下石英・長石	茶褐色	良	
1231	C4a	SR395 702	土師器	甕	16	1/8	9.4	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ	1.5mm以下石英・長石・ チャート・頁岩	淡茶褐色	良	
1232	C4a	SR395 702	土師器	甕	14.9	ほぼ 完	17.5	ハケ	ハケ	2mm以下石英・長石・チャート	淡茶褐色	良	内面粘土 の貼り付 け痕有
1233	C4a	SR395 702	土師器	甕	22.5	1/2	15	ナテ・タキ	ナテ	2mm以下石英・長石・雲母	淡黄褐色		外面黒斑
1234	C4a	SR395 702	土師器	高杯	18.6	底部 1/3	16	ナテ・ハケ	ハケ	2mm以下石英・長石・雲母	赤褐色	良	
1235	C4a	SR395 702	土師器	甕	29	1/2	28.65	ナテ・指 エ	ナテ・ハケ	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡橙灰色	やや 不良	
1236	C4a	SR395 702	土師器	高杯	13.8	底部 2/3	13.1	ナテ	ナテ・シホ リ	3mm以下石英・長石・雲母	橙褐色	良	

1237	C4a	SR395 702	須恵器	杯蓋	14.2	1/4	3.75	ナテ・ケスリ	ナテ	5.5mm以下長石	青灰色	良	外面上部 へ記号有
1238	C4a	SR395 702	須恵器	杯蓋	15.4	1/6	4.3	ナテ・ケスリ	ナテ	6mm以下長石・チャート	淡茶灰色	不良	外面上部 へ記号有
1239	C4a	SR395 702	須恵器	杯蓋	12.7	1/3	3.8	ナテ・ケスリ	ナテ	0.5mm以下長石	暗青灰色	良	
1240	C4a	SR395 702	須恵器	蓋	12.2	1/3	3.4	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩	青灰色	良	外面渦巻 き状にへ ケスリ施す
1241	C4a	SR395 702	須恵器	蓋	14	1/5	4.5	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート	青灰色	良	
1242	C4a	SR395 702	須恵器	杯蓋	14.4	1/8	3.6	ナテ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	灰色・灰 褐色	良	
1243	C4a	SR395 702	須恵器	高杯	12.4	1/3	5.3	ナテ・ケスリ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
1244	C4a	SR395 702	土師器	高杯	12.2	底部 1/8	4.1	ナテ	不明	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡灰褐色	良	
1245	C4a	SR395 702	須恵器	杯身	11.2	2/3	4.9	ナテ・ケスリ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡青灰色	良	
1246	C4a	SR395 702	須恵器	杯身	12.6	1/12	2.7	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	暗灰色	良	
1247	C4a	SR395 702	須恵器	杯身	13.3	1/2	4.2	ナテ・ケスリ	ナテ	5mm以下長石・頁岩	青灰色	良	
1248	C4a	SR395 702	須恵器	杯身	15.3	1/5	3.55	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・頁岩	淡青灰色	良	
1249	C4a	SR395 702	須恵器	甕	26	1/12	4.7	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩	灰色	良	内面自然 釉付着
1250	C4a	SR395 703	土師器	杯	15	1/4	4.8	ナテ	ナテ	1.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート	茶褐色	良	
1251	C4a	SR395 703	土師器	壺	14.5	ほぼ 完	5.8	ナテ・ハケ	ナテ・指 柄 エ	2.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート・雲母	淡橙褐色	良	
1252	C4a	SR395 703	土師器	壺	12.9	1/12	6.8	ナテ・指 柄 エ・ケスリ	ナテ・タ タキ	3mm以下長石・チャート・雲母	淡茶灰色	良	
1253	C4a	SR395 703	土師器	甕	16	1/12	4.4	不明	ナテ・ケスリ	3mm以下石英・長石・チャート	淡茶褐色	良	
1254	C4a	SR395 703	土師器	甕	14.9	1/3	7.5	ナテ・ハケ	ナテ	3mm以下石英・長石・雲母	淡茶褐色 ～濁 橙色 ～灰 褐色	やや 不良	
1255	C4a	SR395 703	土師器	底部	4	底部 完	7	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート	淡暗茶灰 色	良	内面底部 漆状物質 付着
1256	C4a	SR395 703	土師器	壺	8	1/3	9.5	ナテ	ケスリ	2.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒	橙褐色・ 黒褐色	良	
1257	C4a	SR395 703	土師器	甕	12.4	1/8	3.4	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡褐色	良	
1258	C4a	SR395 703	土師器	甕	12.2	1/8	4	ナテ	ナテ・ケスリ	3mm以下石英・長石・チャート	淡褐色	良	
1259	C4a	SR395 703	土師器	甕	14.4	1/12	3.8	不明	不明	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡灰褐色	良	
1260	C4a	SR395 703	土師器	高杯	11.8	底部 1/2	7.1	ハケ	ケスリ	4mm以下長石・チャート	淡橙褐色	良	
1261	C4a	SR395 703	弥生	甕	4.2	底部 3/4	3.7	ハケ	ケスリ	3mm以下長石・チャート・頁岩	淡茶灰・ 黒灰色	良	
1262	C4a	SR395 703	土師器	壺	19	1/6	8.4	ナテ・ハケ	ナテ・ハ ケ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・雲母	褐色	良	
1263	C4a	SR395 703	土師器	甕	17.2	1/12	8.2	不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡茶褐色 ～黒 灰色	良	
1264	C4a	SR395 703	土師器	甕	21.7	1/8	7.3	ナテ・タ タキ	ナテ・ハ ケ・ケ スリ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	淡茶灰色	良	
1265	C4a	SR395 703	土師器	甕	15.1	1/3	12.3	ナテ・ハケ	ナテ・ハ ケ	3mm以下長石・赤色斑粒・ チャート・雲母	橙褐色	良	体部にス 付着

1266	C4a	SR395 703	土師器	甕	33.4	1/10	7.4	不明	不明	4mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡茶褐色	良	
1267	C4a	SR395 702・ SR395 703	須恵器	杯身	11.4	1/16	2.9	ナテ	ナテ	2.5mm以下長石	茶灰褐色	良	
1268	C4a	SR395 703	須恵器	杯身	12	1/8	2.4	ナテ	ナテ	3mm以下長石	青灰色	良	
1269	C4a	SR395 703	須恵器	杯身	13	1/2	5.3	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・チャート・頁岩	淡青灰色	やや不良	口縁歪む
1270	C4a	SR395 703	須恵器	甕	13.9	1/3	4.55	ナテ	ナテ・タタキ	4mm以下石英・長石	青灰色	良	
1271	C4a	SR395 702・ SR395 703	須恵器	甕			11.9	ナテ・ケスリ	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰色	良	内外面自然釉(濃灰緑色)附着
1272	C4a	包含層	須恵器	壺	頸径 10.3	頸部 2/5	14.4	ナテ・ハケケスリ	ナテ・指挿エ	6mm以下長石	青灰色	良	
1273	C4a	包含層	須恵器	杯身	11	1/2	5.25	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石・赤色斑粒	淡暗灰色	不良	口縁歪む
1274	C4a	包含層	土師器	鉢	10.3	1/4	5.75	不明	ハケ	3.5mm以下石英・長石・チャート	橙褐色	やや不良	
1275	C4a	包含層	染付	椀	底部 3	1/6	3.8				灰白色	良	
1276	C4a	包含層	土師器	甕	17.2	1/16	6.2	ナテ・タタキ	指挿エ	4mm以下長石・赤色斑粒	赤褐色	良	
1277	C4a	包含層	土師器	甕	14.2	1/10	5.8	ナテ	ナテ・指挿エ	1mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
1278	C4a	SR395 720	土師器	甕	15.2	1/5	7.7	ナテ	ナテ・ケスリ	2.5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・雲母	淡茶褐色 ～淡茶色	やや不良	
1279	C4a	包含層	弥生	壺	41	1/5	9	不明	不明	5mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート・頁岩	淡茶褐色	やや不良	
1280	C4b	SK395 801	土師器	皿	7.1	ほぼ完	1.5	ナテ	指挿エ	2mm以下石英・長石・雲母	淡橙褐色	良	歪む
1281	C4b	SK395 801	土師器	皿	7	1/2	1.5	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	褐色	良	
1282	C4b	SK395 801	土師器	皿	7	1/5	1.4	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	内面汚れ
1283	C4b	SK395 801	土師器	皿	7	1/7	1.1	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
1284	C4b	SK395 805	土師器	皿	6.6	1/2	1.1	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	褐色	良	
1285	C4b	SK395 801	土師器	皿	11	1/10	2	ナテ	ナテ	4mm以下長石・赤色斑粒・雲母	灰褐色	良	
1286	C4b	SK395 801	土師器	皿	10.7	1/8	1.6	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	灰褐色	良	
1287	C4b	SK395 801	土師器	皿	15.3	1/6	2.75	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石・赤色斑粒・雲母	暗灰褐色	良	
1288	C4b	SK395 801	瓦質	底部	17.4	底部 1/6	6.3	ナテ・指挿エ	ナテ	1mm以下石英・長石	淡灰褐色	良	
1289	C4b	SH395 803	土師器	高杯	12.5	1/2	6	不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色斑粒	茶褐色	良	
1290	C4b	SH395 803	土師器	高杯	10.7	底部 1/2	8.55	ナテ	ナテ・ホドリ	4mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	橙褐色	やや不良	歪む
1291	C4b	SH395 803	土師器	高杯			7.1	不明	ナテ	3mm以下長石・赤色斑粒・チャート	淡灰色	良	穿孔4か所・中心ずれている
1292	C4b	SH395 803	土師器	鉢	6.1	ほぼ完	7.55	不明	ナテ	0.2mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡橙褐色	やや不良	歪む・内面粘土つなぎ

1293	C4b	P112	瓦質		12.4	1/6	9	ナテ・指 ナテ	ナテ	1.5mm以下石英・長石・雲母	淡灰色・ 灰色	良	外面下部 コケス着
1294	C4b	SH395 803	弥生 甕		31.7	1/12	5.6	ナテ・ナテ 目	ナテ	3.5mm以下長石・赤色斑粒・チャート	茶灰褐・ 暗灰色	良	
1295	C4c	P36	青磁 椀		5	底部 2/3	2.6	施釉	施釉	1mm以下頁岩	淡緑茶色	良	内外面釉 付着
1296	C4c	P9	土師器 皿		7	1/3	1.35	ナテ・指 ナテ	ナテ	1mm以下頁岩・雲母・赤色斑粒	淡茶灰色	良	歪む
1297	C4c	P9	土師器 皿		8.3	1/5	1.5	ナテ・指 ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・赤色斑粒	淡茶灰色	良	歪む
1298	C4c	P80	土師器 皿		10.6	1/8	1.85	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・雲母	灰褐色	良	
1299	C4c	SK428 05・ SK428 03	土師器 高杯		10.6	底部 1/3	4.3	ナテ・指 ナテ	ナテ・指 ナテ	1mm以下石英・長石	茶褐色	良	
1300	C4c	SK428 03	瓦質 釜		22.4	1/16	3.3	ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・雲母	黒灰色・ 灰褐色	良	
1301	C4c	SK428 04	土師器 椀		11.6	1/4	4.5	不明	不明	1mm以下石英・長石・赤色斑粒	淡橙褐・ 橙褐色	良	歪む
1302	C4c	SK428 13	弥生 壺				4.8	不明	不明	2mm以下石英・長石・雲母	赤褐色	良	
1303	C4c	P65	弥生 壺		27.5	1/8	1.5	ナテ	ナテ	4mm以下石英・長石・チャート	黄褐色～ 黒色	良	
1304	C5a	SD428 103	白磁 椀		15	1/12	3.2	ナテ	ナテ		灰褐色	良	外面気泡
1305	C5a	P7	土師器 皿		16	1/12	2.1	ナテ・指 ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色斑粒・チャート	淡橙色・ 橙色	良	
1306	C5a	SK428 116	土師器 皿		11	1/10	1.6	不明	ナテ	1mm以下赤色斑粒・雲母	淡乳橙色	良	
1307	C5a	SK428 103	瓦器 椀		14.8	1/12	4.7	ミカキ ナテ	ミカキ	1mm以下長石・チャート・雲母	黒灰色	良	貼付高台
1308	C5a	P6	黒色土器 椀		14.2	1/8	2.5	ミカキ	ミカキ	1mm以下長石・雲母	黒褐色	良	
1309	C5a	SK428 103	灰釉 底部		11.6	底部 1/4	1.4	ナテ	施釉	0.5mm以下長石・頁岩	淡灰褐色	良	貼付高台
1310	C5a	P7	須恵器 壺		3.8	ほぼ 完	9.7	ナテ	ナテ	4mm以下長石	淡灰色～ 濃灰色	やや 不良	糸切り底
1311	C5a	P7	土師器 高杯		27.8	1/7	18.3	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・雲母	橙褐色	良	
1312	C5a	P4	須恵器 甕		17	1/6	6.5	ナテ・ナテ	ナテ・ナテ	0.5mm以下長石	淡青灰・ 暗灰色	良	
1313	C5a	P2	須恵器 鉢		20.5	2/3	12.5	ナテ	ナテ	0.5mm以下長石・頁岩	淡青灰色	良	糸切り底
1314	C5a	P5	土師器 皿		10.7	1/5	1.5	ナテ・指 ナテ	ナテ	1.5mm以下長石・頁岩・赤色斑粒	乳橙色	良	
1315	C5a	P5	土師器 皿		14.4		1.6	ナテ・指 ナテ	ナテ	1mm以下赤色斑粒・雲母	淡橙色	良	
1316	C5a	P5	緑釉素地 皿		12.8	1/3	2.55	ナテ・ナテ	ミカキ・ナテ	1mm以下長石・頁岩	灰色	良	
1317	C5a	P5	黒色土器 杯		15.3	1/5	5.25	不明	不明	1mm以下石英・長石・雲母	暗灰色・ 淡黄褐色	良	貼付高台
1318	C5a	P5	須恵器 椀		15.6	1/12	3.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	乳灰色	良	
1319	C5a	SK428 104	土師器 羽釜		29	1/10	7.2	ナテ	ナテ	5mm以下石英・長石・赤色斑粒	黄褐・茶 褐色～淡 黄褐色	良	
1320	C5a	SK428 104	須恵器 鉢		23.5	1/12	4.5	ナテ	ナテ	1.5mm以下長石	淡灰白 色・灰褐 色	良	

1321	C5a	SK428 104	土師器	皿	11.2	1/12	1.1	ナテ・指 ナテ	ナテ・指 ナテ	1mm以下石英	淡褐色	良	
1322	C5a	SK428 104	土師器	皿	11.4	1/5	1.4	ナテ	ナテ・指 ナテ	2mm以下石英・長石・チャート	淡乳橙色	良	
1323	C5a	SK428 104	土師器	皿	12.4	1/8	1.2	ナテ・指 ナテ	ナテ・指 ナテ	1mm以下赤色斑粒・雲母	淡褐色	良	
1324	C5a	SD428 109	弥生	甗	2.5	底部 1/4	4.5	指ナテ	指ナテ	3.5mm以下石英・長石	褐色	良	
1325	C5a	P5	土師器	高杯	31	1/10	1.3	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石・チャート	黄褐色・ 淡黄褐色	良	
1326	C5a	SD428 109	須恵器	器台	34.1	1/24	底部 3.3	ナテ	ナテ	1mm以下長石	淡青灰色	良	
1327	C5a	SD428 109	弥生	甗	15.3	1/6	5	ナテ・ハケ	ナテ・指 ナテ	3.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート	黄褐色	良	
1328	C5a	SD428 109	土師器	甗	13.6	1/6	5.1	ナテ	ナテ	2mm以下長石・頁岩・雲母	淡褐色・ 茶褐色	良	
1329	C5a	SK428 105	土師器	甗	14.6	1/7	3	ナテ	ナテ	3.5mm以下石英・長石・雲 母	黄褐色	良	外面コケ 付着
1330	C5a	包含層	須恵器	杯身	13.2	1/8	4.2	ナテ	ナテ	2mm以下石英・長石	淡青灰白 色	良	
1331	C5b	包含層	土製品	移動カ マド				ナテ・指 ナテ	ナテ	1mm以下石英・長石・チャート	淡褐色	良	
1332	C5b	SX428 211	須恵器	杯蓋	14.7	1/3	4.45	ナテ・ケスリ	ナテ	3.5mm以下長石	青灰褐色	良	口縁歪む
1333	C5b	包含層	須恵器	杯蓋	16	1/3	4.6	ナテ・ケスリ	ナテ	2.5mm以下長石	淡茶灰色	やや 不良	
1334	C5b	包含層	土師器	椀	14.2	1/4	3.4	ナテ	不明	1mm以下赤色斑粒・雲母	淡橙灰 褐・淡灰 褐色	良	
1335	C5b	包含層	土師器	甗	17.5		3.1	ナテ	ナテ	3mm以下石英・長石	淡灰褐色 ～黒色	やや 良	
1336	C5b	包含層	瓦質	羽釜	22.4		9.5	ナテ・指 ナテ	ハケ	3mm以下石英・長石	濃灰色	良	外面コケ・ ス付着
1337	C5b	包含層	瓦質	羽釜	34.6	1/6	10.2	ナテ	ナテ・ハケ	5mm以下石英・長石	黒灰褐色	良	
1338	C6	SH395 803	須恵器	蓋	10.4	1/6	2.5	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石	灰色	良	
1339	C6	SH395 803 カマド	須恵器	杯蓋	9.8	ほぼ 完	3.25	ナテ・ケスリ	ナテ	2mm以下長石・頁岩	淡青灰色 暗青灰色	良	歪む
1340	C6	SH395 803	須恵器	蓋	10.5	1/8	3.25	ナテ・ケスリ	ナテ	3mm以下長石	淡灰色	良	
1341	C6	SH395 803 カマド	須恵器	杯身	9.1	完	2.75	ナテ	ナテ	5mm以下長石	青灰色	良	
1342	C6	SH395 803 カマド	須恵器	杯身	9.9	1/2	2.5	ナテ	ナテ	1mm以下長石・頁岩	淡灰色	やや 不良	
1343	C6	SH395 803 カマド	須恵器	杯身	9.7	ほぼ 完	3.55	ナテ・ケスリ	ナテ	6mm以下長石	淡青灰色 ～淡黄灰 色	良	歪む
1344	C6	SH395 803	土師器	甗	16		4.4	ナテ	ナテ・ハケ	1mm以下長石・赤色斑粒	淡褐色	良	
1345	C6	SH395 803	土師器	蓋	3.6	上部 ほぼ 完	6.6	ナテ・指 ナテ	ナテ・指 ナテ	6mm以下石英・長石	橙褐色・ 淡褐色	良	
1346	C6	SH395 803	土師器	器台	11.8	底部 1/2	7.2	不明	不明	1mm以下石英・長石	橙褐色	良	
1347	C6	SH395 803	土師器	不明	2.5	底部 1/4	3.2	不明	不明	1.5mm以下長石	淡灰褐色	良	

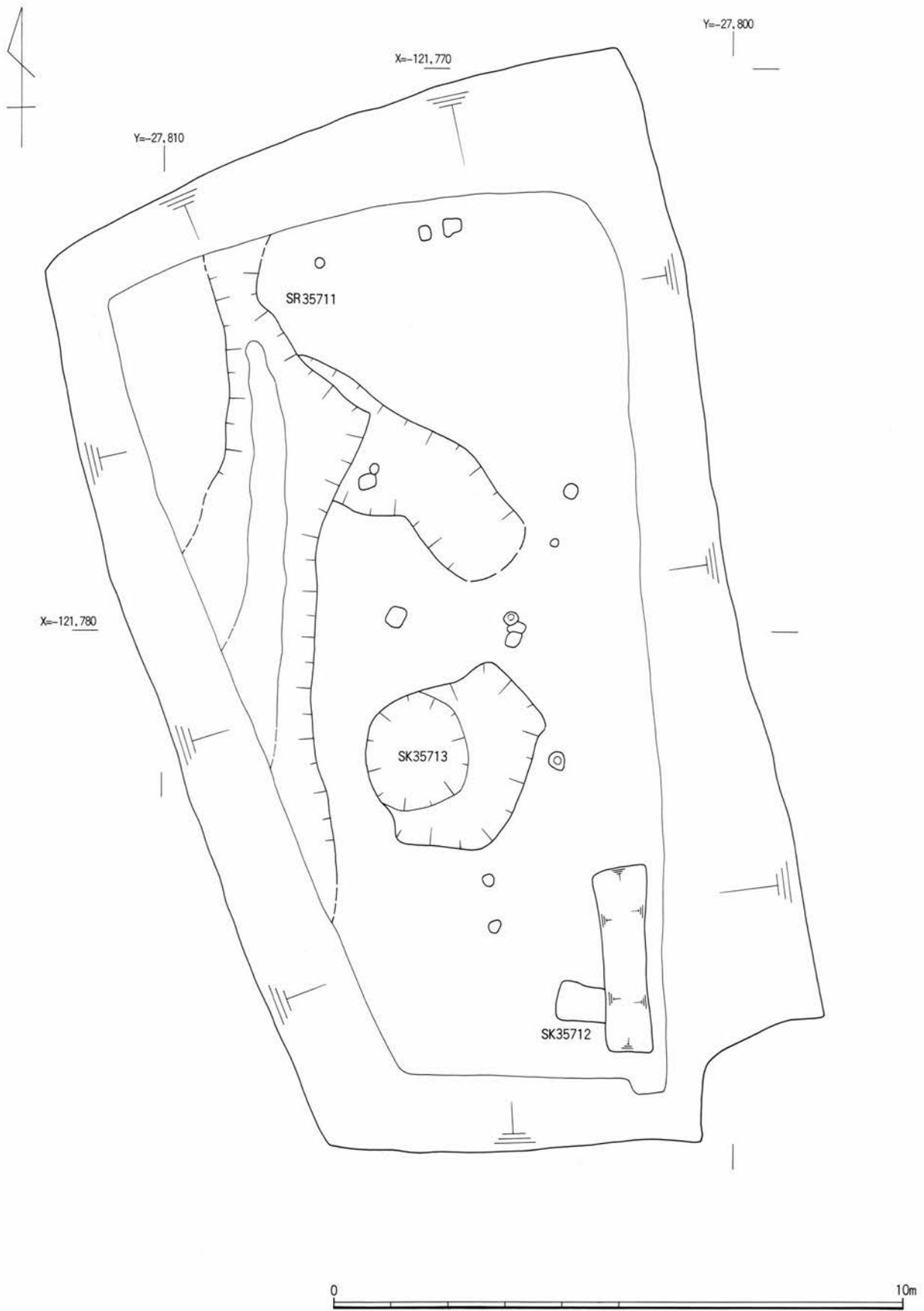
1348	C6	SH395 803	土師器	甕	20.2		5.8	ナテ・タキ	ナテ・ハケ	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡黄褐色・ 淡褐色	良	
1349	C6	SH395 803	土師器	甕	20		6.1	ナテ・ハケ	ナテ・ハケ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート	褐色	良	
1350	C6	SH395 803	土師器	壺	3.3	底部 1/5	6.35	ナテ	ナテ	2.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒	淡褐色	良	
1351	C6	SK466 05	土師器	皿	9.2	ほぼ 完	1.9	指挿エ	ナテ	1mm以下石英・長石・雲 母・赤色斑粒	淡褐色	良	
1352	C6	SK466 05	土師質	羽釜	17.8	1/2	12.8	ナテ・指挿 エ・クスリ	ナテ・クス リ・ハケ	1mm以下石英・長石・チャート	橙褐色	良	
1353	C6	SX368 308	瓦質	甕	15.2	1/8	4.5	ナテ	ナテ・ハケ	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒・雲母	淡褐色	良	
1354	C6	SH395 803	須恵器	器台	25.1	1/16	4.7	ナメ・波状 文・ナテ	ナテ	1mm以下長石	灰色・淡 灰色	良	
1355	C6	SH395 803	土師器	口縁	20.2	1/12	2.5	刻目・不 明	不明	2mm以下石英・長石・赤色 斑粒	淡褐色	良	
1356	C6	SH395 803	土師器	壺底 部	7.4	3/4	3.9	タキ・ナテ	ハケ	3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	明茶褐色・ 橙褐色	良	
1357	C6	SH395 803	土師器	高杯			2.7	ハラミカキ	ホリ・ハケ	1.5mm以下石英・長石・赤 色斑粒・チャート	橙褐色	良	
1358	C6	包含 層	土師器	椀?	11.7	1/10	2.5	ナテ	ハケ	1mm以下長石・雲母	黒灰褐色	良	
1359	C6	包含 層	備前	播鉢	36.2	1/16	6.1	ナテ	ナテ・クスリ	5mm以下石英・長石	茶色・茶 褐色	良	内外面自然 釉付着
1360	E1	包含 層	土師器	皿	10	1/10	1.3	ナテ・指挿 エ	ナテ	1mm以下石英・長石・赤色 斑粒・雲母	淡褐色	良	
1361	E1	包含 層	土師器	皿	9	1/4	1.8	ナテ・指挿 エ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒・ 雲母	淡褐色	良	
1362	E1	包含 層	土師器	皿	9.9	1/8	1.7	不明	不明	1mm以下長石・雲母	灰褐色	良	
1363	E1	包含 層	土師器	皿	8	1/5	1.8	ナテ	ナテ	1mm以下長石・赤色斑粒	淡褐色	良	
1364	E1	包含 層	瓦器	椀	12	1/5	2.6	ナテ	ミカキ	0.5mm以下長石	淡灰色	良	
1365	E1	包含 層	瓦質	播鉢	10	1/4	2.2	ナテ	ハケ	1mm以下長石	灰褐色	良	
1366	C3	P25	瓦	丸瓦						4mm以下長石・チャート	淡灰褐色 ～濃灰色	良	
1367	C3	SH368 304	瓦	丸瓦						3mm以下石英・長石・赤色 斑粒・チャート・頁岩	灰褐色・ 灰黄褐色	良	
1368	C3	SX368 308	瓦	丸瓦						5.5mm以下長石	灰色	良	亲切り痕
1369	C6	包含 層	瓦	丸瓦						3mm以下石英・長石・赤色 斑粒	黄褐色・ 灰褐色	やや 不良	
1370	C6	P10	瓦	丸瓦						2mm以下石英・長石・チャート	濃灰色	良	
1371	C6	包含 層	瓦	丸瓦						3mm以下石英・長石・赤色 斑粒	灰褐色	良	
1372	C4b	SK395 801	瓦	平瓦						3mm以下長石・赤色斑粒	灰色	やや 不良	
1373	C4c	SK466 05	瓦	平瓦						3.5mm以下長石・チャート	黄褐色・ 灰褐色	良	
1374	C3	柱穴	瓦	平瓦						0.5mm以下長石	淡灰色	やや 不良	
1375	C3	包含 層	瓦	平瓦						2mm以下長石・チャート・頁岩	灰色・暗 灰色	良	
1376	C5a	包含 層	瓦	平瓦						1.5mm以下長石・赤色斑 粒・チャート	淡茶灰色	やや 不良	

1377	C4b	SK395 94	瓦	平瓦							4mm以下長石・チャート	淡灰色・ 暗灰色	良	糸切り痕
1378	C4	SK395 94	瓦	平瓦							10mm以下石英・長石・チャート	淡茶灰 色・灰色	良	布目クサ
1379	C4	SK395 804	瓦	平瓦							3mm以下長石・チャート	黄褐色・ 灰褐色	良	
1380	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪	40.4	1/3	37	ハウ・ナテ°	ナテ°・指杵 エ・ハウ		4mm以下石英・長石・チャート・雲母・赤色粒・黒色粒	明褐色～ 淡黄灰褐 色	良	部分的に 赤彩(ハン カウ)が残 る
1381	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪	36	1/4	8.85	ハウ	ナテ°・指杵 エ・ハウ		5mm以下石英・長石・チャート・雲母・赤色粒・黒色粒	明褐色～ 淡灰褐色	良	部分的に 赤彩(ハン カウ)が残 る
1382	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			12.2	ハウ・ナテ°	ハウ・ナテ°		3mm以下石英・長石・チャート・雲母・黒色粒	明褐色～ 褐色・暗 淡灰褐色	良	部分的に 赤彩が残 る
1383	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			13.4	ハウ・ナテ°	ナテ°		4mm以下石英・長石・チャート・雲母・赤色粒・黒色粒	明褐色	良	外面部分 的に赤彩 が残る
1384	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			9.3	ハウ・ナテ°	ハウ・ナテ°		5mm以下石英・長石・チャート・雲母・黒色粒	淡灰褐色 暗灰褐色	良	部分的に 赤彩が残 る
1385	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			6.8	ハウ・ナテ°	ナテ°		2mm以下長石・チャート・雲母・黒色粒・赤色粒	淡褐色・ 明褐色	良	部分的に 赤彩が残 る
1386	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			7	ナテ°	ナテ°		3mm以下石英・長石・雲母・黒色粒・赤色粒	暗黄灰褐 色	良	
1387	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			4.6	ハウ	ナテ°		3mm以下石英・長石・チャート・雲母・赤色粒・黒色粒	暗黄灰褐 色・淡褐 色	良	赤彩が残 る・内面 黒カール 状物質着
1388	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			2.5				4mm以下石英・長石・チャート・雲母	明黒灰色 明橙褐色	良	
1389	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			2.7				3mm以下石英・長石・チャート・雲母・赤色粒・黒色粒	明褐色明 赤灰褐色	良	
1390	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪			6.2	ナテ°	ナテ°・指杵 エ		5mm以下石英・長石・チャート・雲母・赤色粒	淡黄灰褐 色・明褐 色	良	内面黒カ ール状の もの付着
1391	C3	SX368 311	土師 質	円筒 埴輪	27.4		5.9	ハウ	ナテ°・指杵 エ		3mm以下石英・長石・チャート・雲母・赤色粒・黒色粒	褐色～明 褐色	良	
1392	91B	包含 層	縄文	深鉢							3mm以下石英・長石	茶褐色	良	
1393	90B	包含 層	縄文	深鉢	22.7		7.2	ケスリ・沈 線	ナテ°		3mm以下石英長石・雲母	暗茶褐色	良	
1394	C4	包含 層	縄文	深鉢				ナテ°	不明		2mm以下長石・チャート・頁岩	淡茶褐色	良	
1395	C4	包含 層	縄文	深鉢	19.4	1/6	5.3	ナテ°・沈 線	ナテ°		2mm以下石英・長石	黄褐色・ 黒灰色	良	
1396	C4	SD428 102	縄文	底部	9.1	底部 ほぼ 完	3	ナテ°	ナテ°		4mm以下石英・長石・角閃石	明橙褐色 淡茶褐色	やや 不良	底部歪む 生駒
1397	C2	包含 層	縄文	壺底 部	7	底部 完	2	ナテ°	ナテ°		4mm以下石英・長石・雲母・角閃石	茶褐色	良	生駒
1398	C2	SR395 600	縄文	底部	7	底部 完	1.1	ナテ°	ナテ°		6.5mm以下長石・赤色斑粒	茶色・濃 灰色	良	
1399	C3	SK368 310	縄文	深鉢	32	口縁 部 1/2	35.5	不明	ナテ°		2mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡黒灰色 ～淡黄褐 色	良	
1400	C3	SK368 310	縄文	深鉢	32.4	1/4	35	ケスリ	ナテ°		3mm以下石英・長石・角閃石・雲母	茶褐色	良	生駒
1401	C2	SR395 600	縄文	深鉢	36		5.9	ナテ°・ケスリ	不明		5mm以下石英・長石・角閃石	暗茶色	不良	生駒

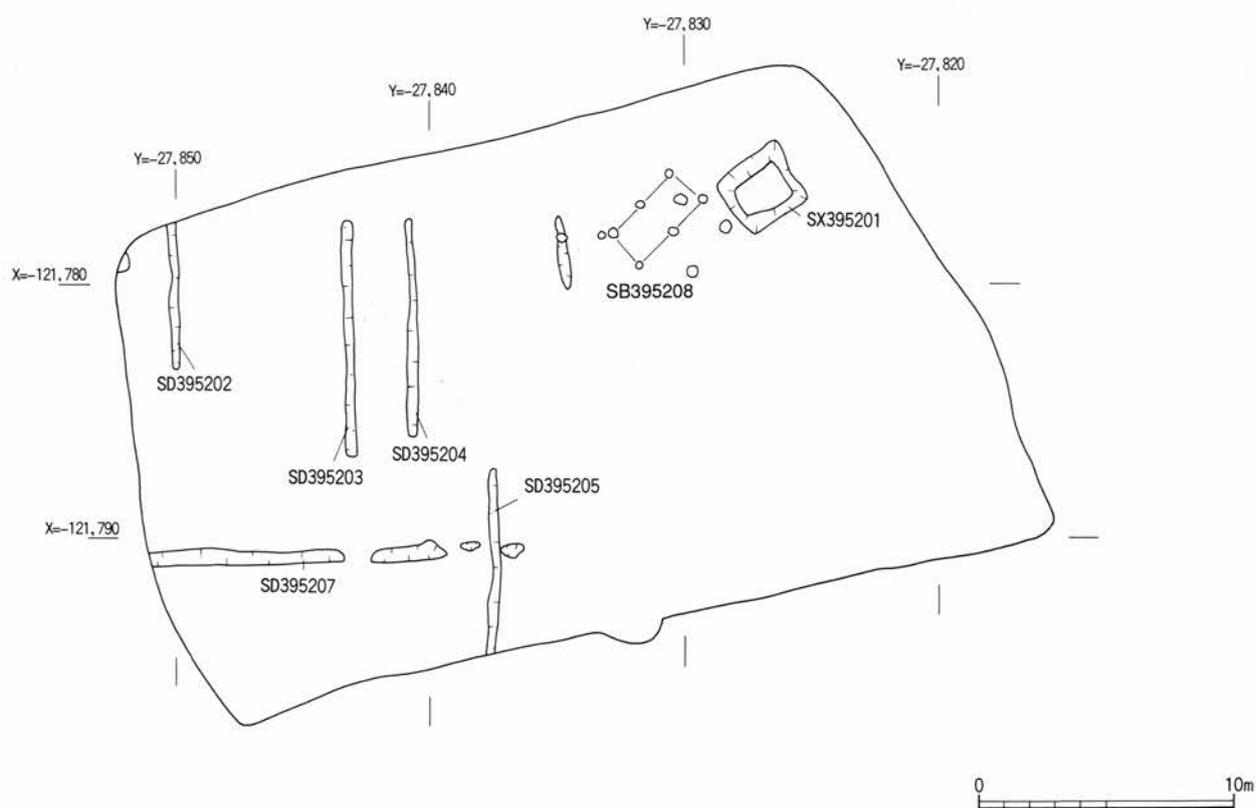
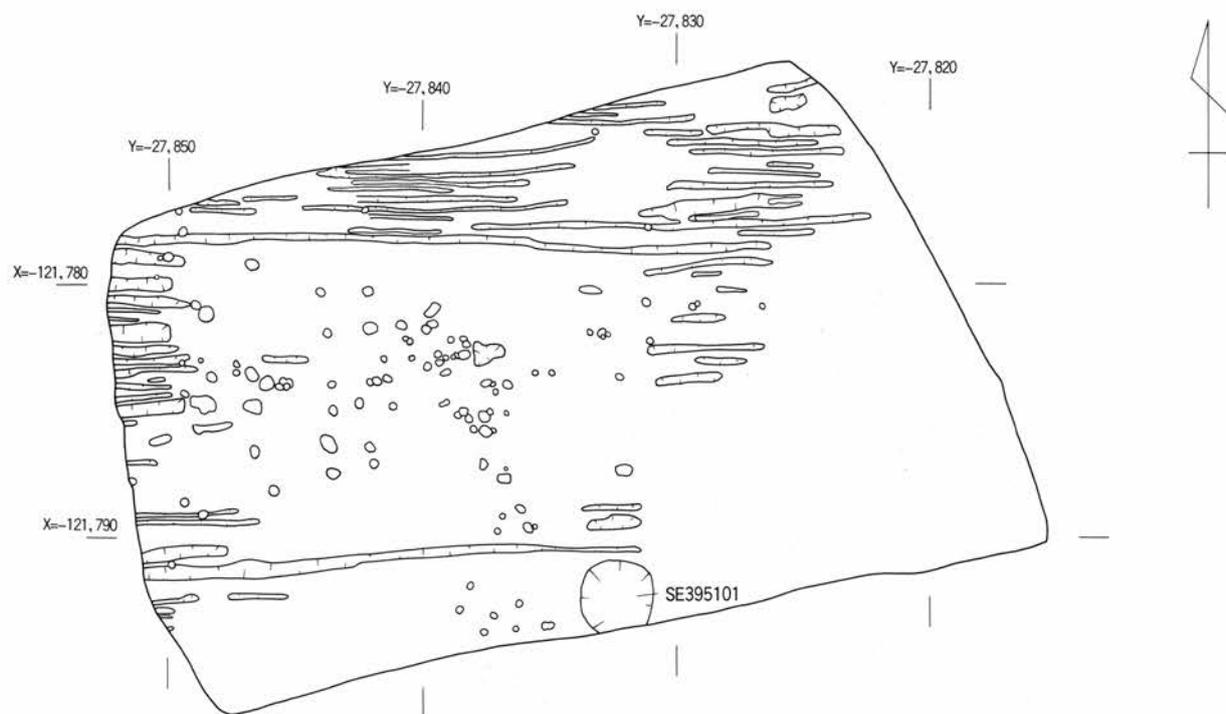
1402	C5a	SK395 602	縄文	深鉢	36	2/3	53	ナリ	ナリ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩	褐色～黒褐色	良	
1403	C5a	包含層	縄文					不明	不明	3.5mm以下石英・長石・赤色斑粒・雲母	淡黄褐色	良	
1404	C3	SX368 309	縄文					不明	ナリ	3mm以下石英・長石・チャート	橙褐色	良	
1405	C4a	SR395 703	縄文					不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色斑粒・角閃石	茶褐色	良	縄目生駒
1406	C3	SX368 309	縄文					指ナリ	不明	2mm以下石英・長石・赤色斑粒	淡黄褐色	良	
1407	C2	SD395 600	縄文					不明	不明	5mm以下石英・長石・チャート	茶褐色	良	
1408	92B	包含層	縄文					ナリ	不明	5mm以下石英・長石・チャート・頁岩・赤色斑粒	淡黄褐色	良	
1409	C5a	包含層	縄文					ナリ	不明	5mm以下石英・長石・角閃石	暗茶褐色	良	生駒
1410	C5a	包含層	縄文					不明	不明	3mm以下石英・長石・角閃石	黄褐色	良	生駒
1411	C3	SH368 304	縄文					ナリ	ナリ	3mm以下長石・角閃石	暗茶灰色	良	生駒
1412	90B	SR357 06	縄文					ナリ	ナリ	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩	淡褐色	良	
1413	C3	SX368 307	縄文					ナリ	ナリ	2mm以下長石・角閃石	暗茶灰色	良	生駒
1414	C4a	包含層	縄文					不明	ナリ	2.5mm以下長石・角閃石	暗茶灰色	良	生駒
1415	C4a	包含層	縄文					ナリ	ナリ	3mm以下石英・長石・頁岩・赤色斑粒	淡茶褐色	良	
1416	C5a	包含層	縄文					ハミガキ	不明	1mm以下石英・長石・雲母・角閃石	暗茶褐色	良	生駒
1417	C4c	包含層	縄文					不明	不明	2.5mm以下石英・長石	暗灰褐色	良	
1418	C3	包含層	縄文					ハミガキ	不明	2mm以下石英・長石・雲母	黄褐色	良	
1419	C4a	SR395 702	縄文					不明	不明	2mm以下石英・長石・雲母	淡褐色	良	
1420	C3	SX368 309	縄文					不明	不明	2mm以下石英・長石・雲母	茶褐色	良	
1421	C4a	SR395 703	縄文					ナリ	ナリ	2mm以下長石・チャート	暗茶灰色	良	
1422	C3	SX368 309	縄文					不明	ナリ	1.5mm以下長石・角閃石	橙茶褐色	やや不良	生駒
1423	C2	SH395 677	縄文					不明	不明	8mm以下長石・チャート・赤色斑粒	淡茶灰色	やや不良	
1424	C2	SR395 601	縄文					ナリ	不明	3mm以下長石・チャート・角閃石	暗茶灰色	良	生駒
1425	C2	SH395 677	縄文					ナリ	不明	1.5mm以下長石・チャート・頁岩	茶灰褐色	良	
1426	C4a	SR395 702	縄文					不明	不明	3mm以下石英・長石・チャート・頁岩	灰褐色～黄褐色	良	
1427	C4a	包含層	縄文					不明	不明	3mm以下石英・長石・赤色斑粒	灰褐色	良	
1428	C2	SR395 600	縄文					ナリ	不明	3mm以下石英・長石・角閃石	暗茶褐色	良	生駒
1429	90C	包含層	縄文					不明	不明	3mm以下長石・チャート・雲母・角閃石	暗茶灰色	良	生駒
1430	C4a	SR395 702	縄文					不明	不明	3mm以下石英・長石・チャート・赤色斑粒	淡茶褐色	良	

1431	C3	SX308 309	縄文					ナテ	不明	1mm以下長石・雲母・角閃石	明茶褐色	良	生駒
1432	C2	SH395 677	縄文					不明	不明	3mm以下長石・チャート	淡茶灰色	良	
1433	C3	SX368 309	縄文					ナテ	不明	2mm以下石英・長石・赤色斑粒	淡茶褐色	良	
1434	C3	SX368 309	縄文					不明	不明	3mm以下長石・角閃石	茶褐色	良	生駒
1435	C4a	包含層	縄文					不明	不明	3.5mm以下石英・長石・角閃石	灰褐色	良	生駒
1436	C4a	SR395 703	縄文					ナテ	ナテ	5mm以下長石・角閃石	灰褐色	良	生駒
1437	C4a	SR395 703	縄文					ナテ	ナテ	5mm以下長石・角閃石	暗茶灰色	良	生駒
1438	C3	SX368 307	縄文					ナテ	ナテ	3mm以下長石・雲母・角閃石	灰褐色	良	生駒
1439	C4a	包含層	縄文					不明	不明	2mm以下石英・長石・雲母・角閃石	暗茶褐色	良	生駒
1440	C4a	SR395 701	縄文					ナテ	不明	3mm以下長石・チャート	茶褐色	良	
1441	C4a	SR395 702	縄文					ナテ	不明	3mm以下石英・長石・雲母	茶褐色	良	
1442	C4a	SR395 702	縄文					不明	不明	4mm以下長石・頁岩・赤色斑粒・角閃石	暗茶褐色	良	生駒
1443	C4a	SR395 703	縄文					ナテ	ナテ	5mm以下石英・長石・チャート	淡茶灰色	良	
1444	C4a	SR395 702	縄文					不明	不明	4.5mm以下長石・角閃石	茶灰色	良	生駒
1445	C3	包含層	縄文					不明	不明	3mm以下石英・長石・チャート	暗茶灰色	良	
1446	C2	包含層	縄文					ナテ	不明	2mm以下長石・角閃石	濃茶褐色	良	生駒
1447	C4a	包含層	縄文					不明	不明	3mm以下長石・角閃石	茶灰褐色	良	生駒
1592	91B	SX357 101	須恵器	甕	66	106	タテ	ナテ					良

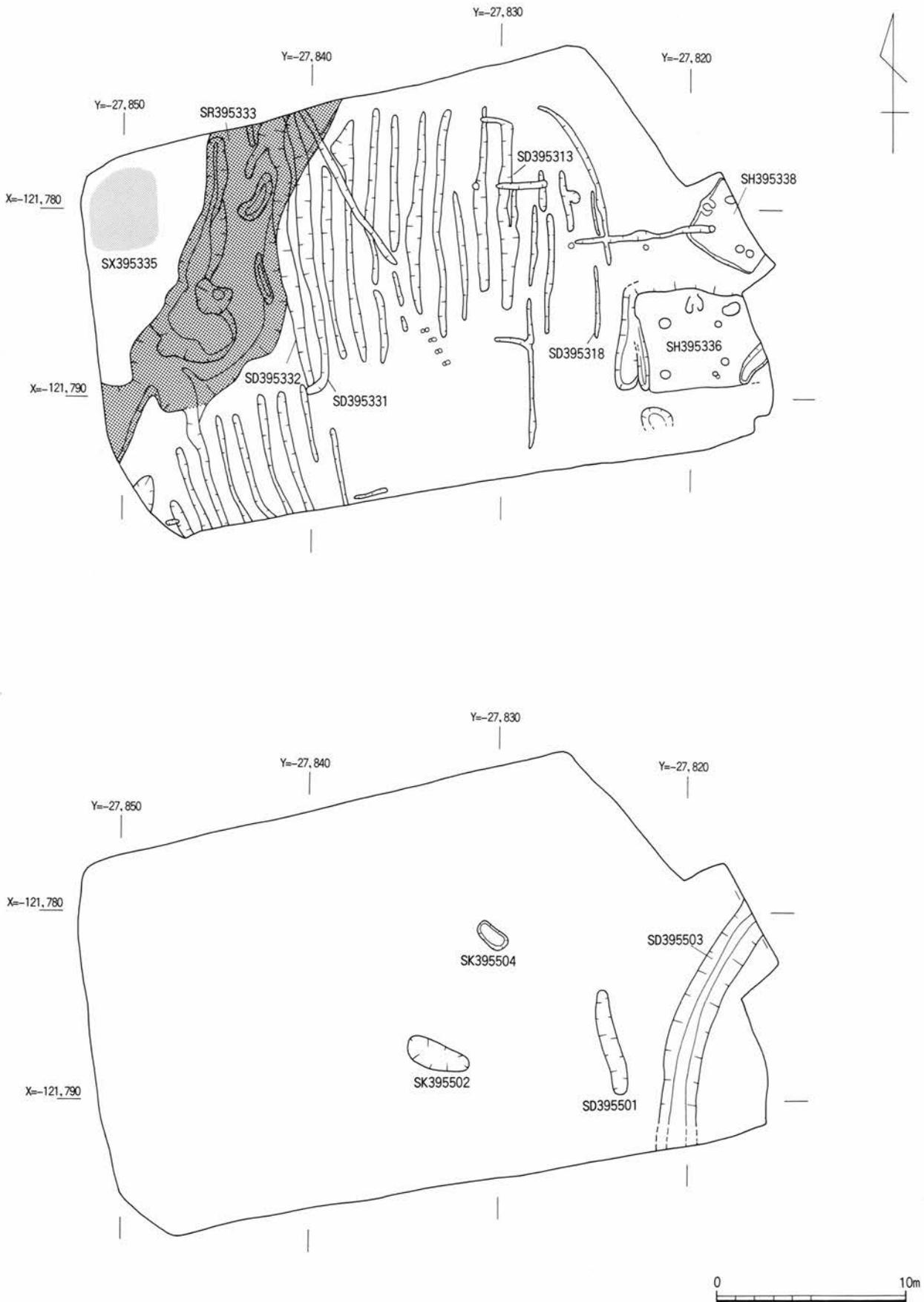
圖 版



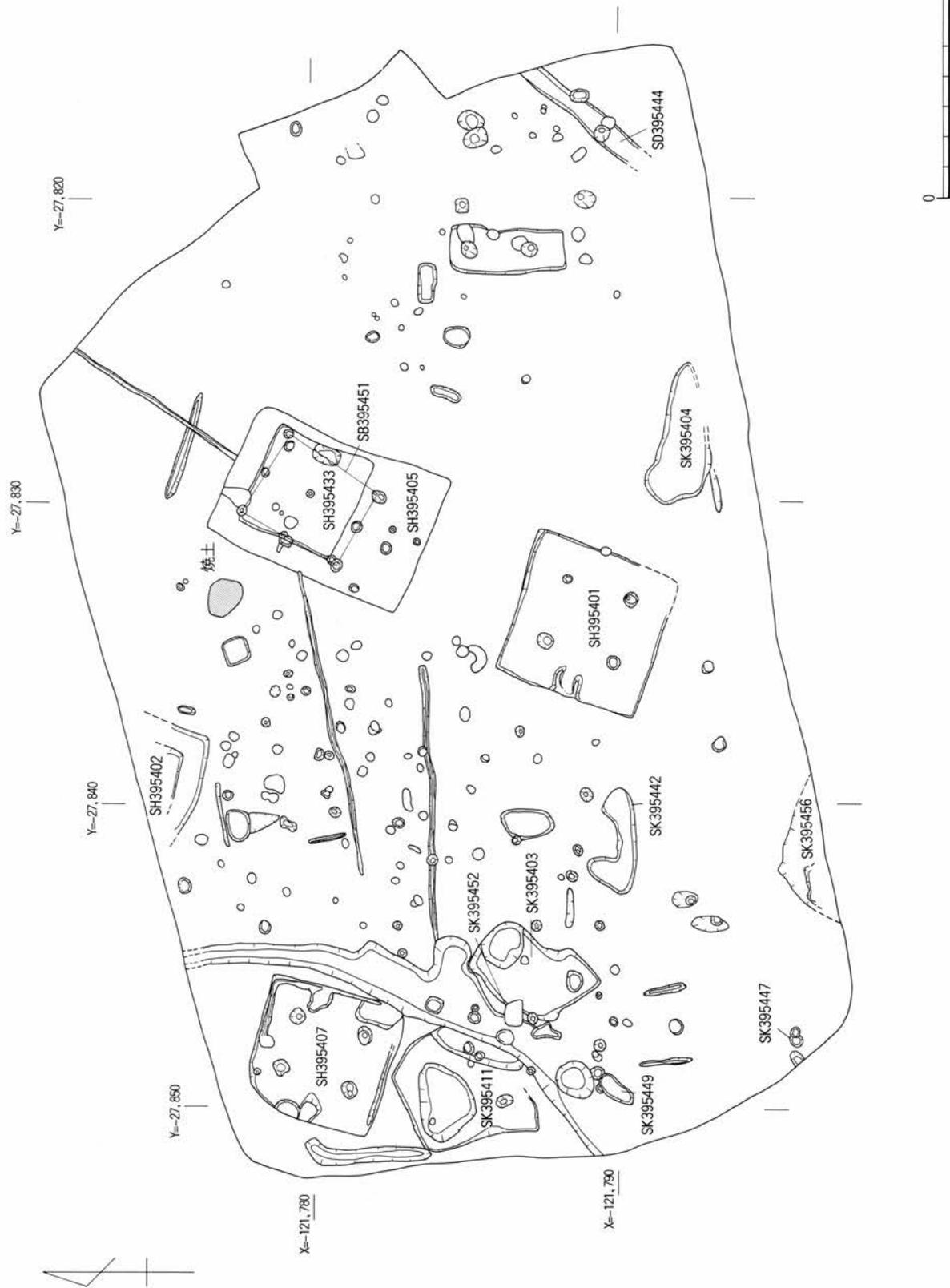
1990年度A地区遺構実測図



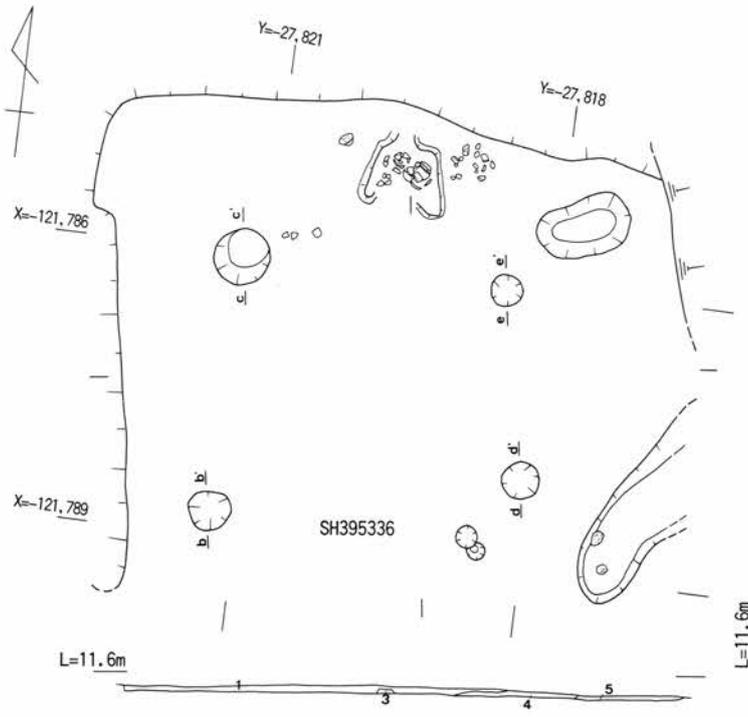
1992年度A地区遺構実測図(1)



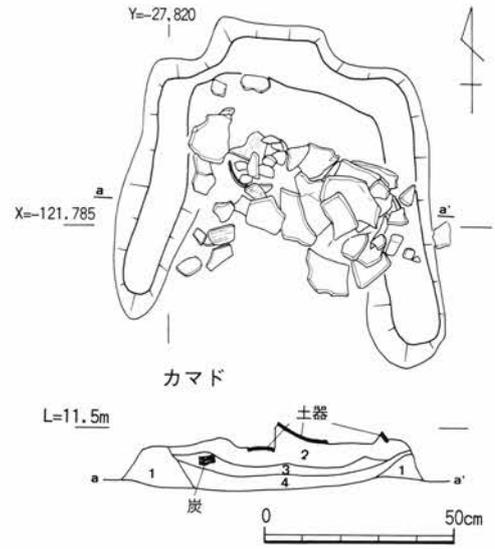
1992年度A地区遺構実測図(2)



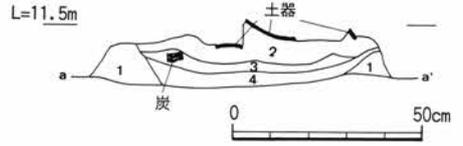
1992年度A地区遗构实测图(3)



1. 灰褐色砂質土
2. 黄褐色粘質土
3. 灰褐色砂混粘質土(φ 5 mm)
4. 茶褐色砂質土(粒子が荒い)
5. 灰褐色砂混粘質土(φ 1 ~ 2 mm)



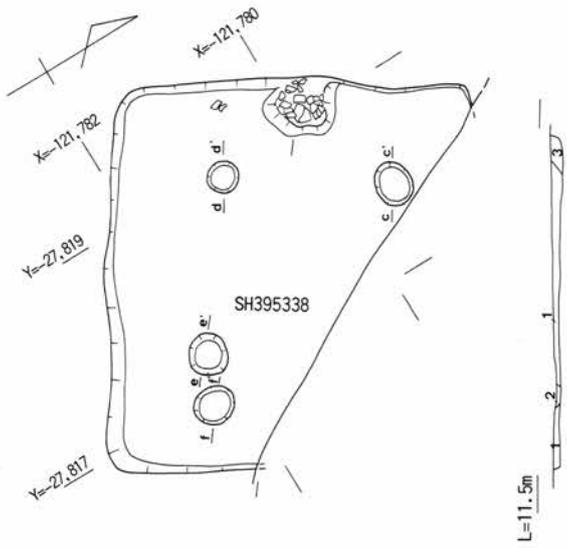
カマド



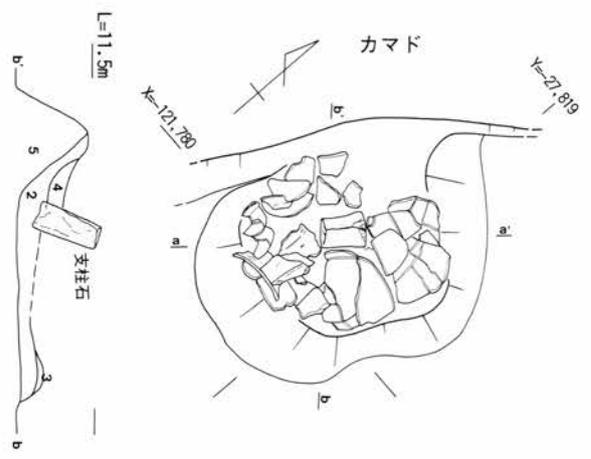
1. 青灰色茶褐色混じり粘質土
2. 赤褐色粘質土
3. 青灰褐色炭混じり粘質土
4. 濃茶褐色粘質土



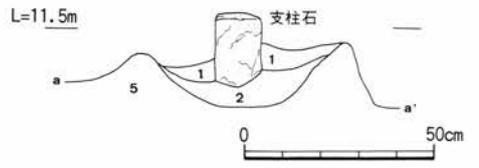
1. 濃褐色礫混土(φ 1 ~ 2 cm)
2. 黒褐色礫混土(φ 1 cm)
3. 青灰色粘質土
4. 濃黄褐色土(φ 3 cm大礫含む)
5. 青灰色礫混土(φ 1 cm)
6. 黄褐色礫混土(φ 1 ~ 2 cm)
7. 黄褐色土



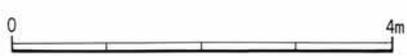
1. 礫混青灰色土(φ 1 ~ 3 cm)
2. 茶灰色粘質土
3. 濃褐色土
4. 青灰色粘質土
5. 濃褐色砂混土(φ 1 ~ 3 cm)
6. 青灰色砂混土(φ 1 ~ 4 cm)
7. 濃青灰色土(φ 1 ~ 2 cmの礫含む)
8. 灰茶褐色粘質土
9. 礫混灰褐色砂質土(φ 1 ~ 3 mm)
10. 礫混淡褐色粘質土(φ 1 ~ 3 mm)

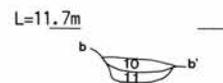


カマド

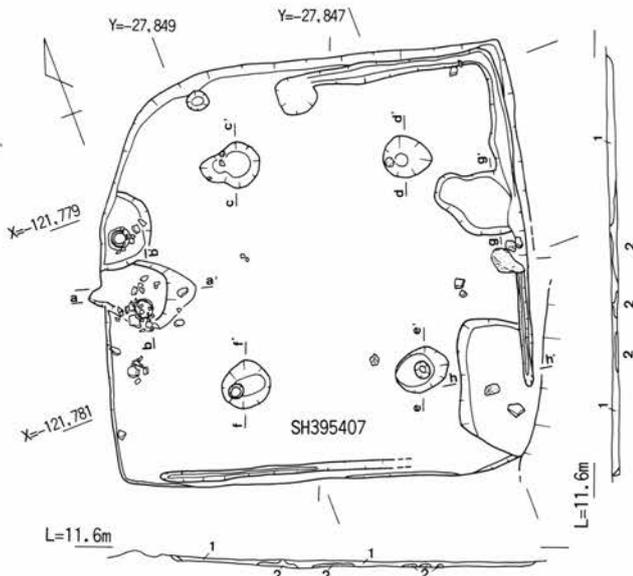


1. 赤褐色炭混土
2. 黄褐色礫混土(φ 1 ~ 3 cm)
3. 赤褐色土
4. 黄褐色土・青灰色粘質土混じり

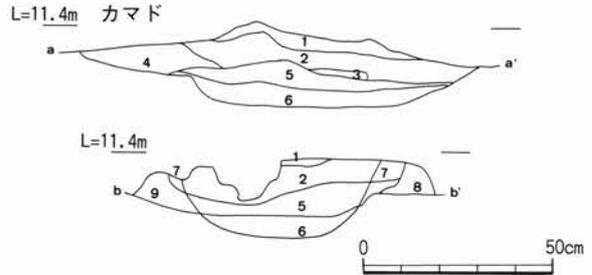




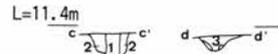
- | | | | |
|-------------------|---------------------------|-----------|-----------------------|
| 1. 灰茶褐色砂質土 | 4. 灰褐色礫混砂質土(φ 2 ~ 3 cm程度) | 7. 黒褐色砂質土 | 10. 黒褐色砂礫(φ 1 ~ 3 cm) |
| 2. 灰色砂礫(φ 1 cm程度) | 5. 灰褐色砂質土 | 8. 褐色砂質土 | 11. 濃褐色粘質土 |
| 3. 茶褐色砂質 | 6. 灰黄褐色砂質土(炭混入) | 9. 灰色砂礫 | |



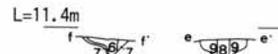
1. 暗茶褐色粘砂質土 (焼土炭混礫少量含む φ 1 ~ 5 mm)
2. 明黄褐色粘砂質土
3. 赤褐色粘質土



- | | |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1. 明赤褐色粘砂質土 | 5. 淡赤褐色粘砂質土 |
| 2. 青灰色混淡茶褐色粘砂質土 (φ 2 ~ 3 cmの焼土塊炭を含む) | 6. 淡黄褐色粘砂質土 (焼土、炭を少量含む) |
| 3. 明橙色焼土 | 7. 明茶褐色粘砂質土 |
| 4. 暗茶褐色粘砂質土 | 8. 青灰色混黄褐色粘質土 |
| | 9. 濃黄褐色粘砂質土 |



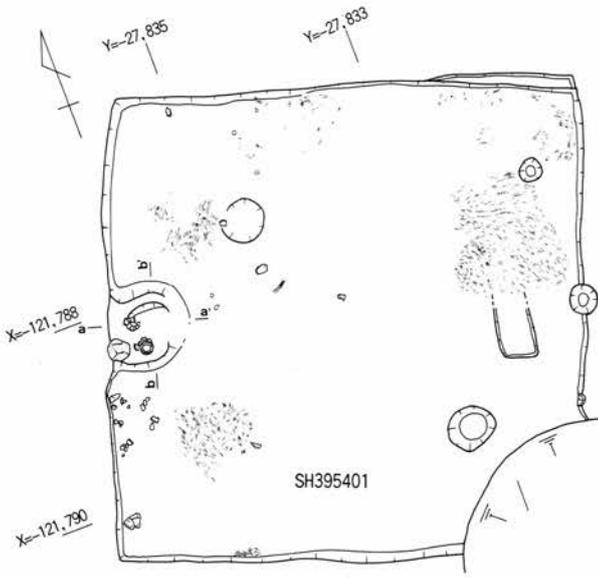
1. 青灰色混暗茶褐色粘質土
2. 暗茶褐色粘砂質土



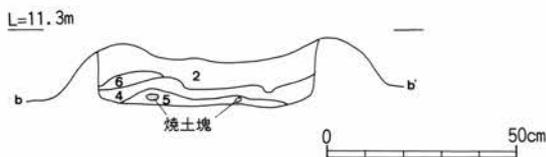
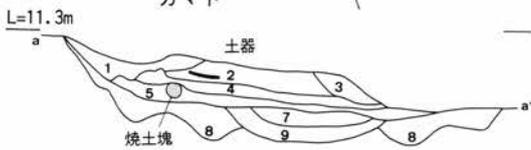
3. 青灰混暗茶褐色粘質土 (炭混、1 cm程度の砂粒を含む)
4. 暗褐色粘質土



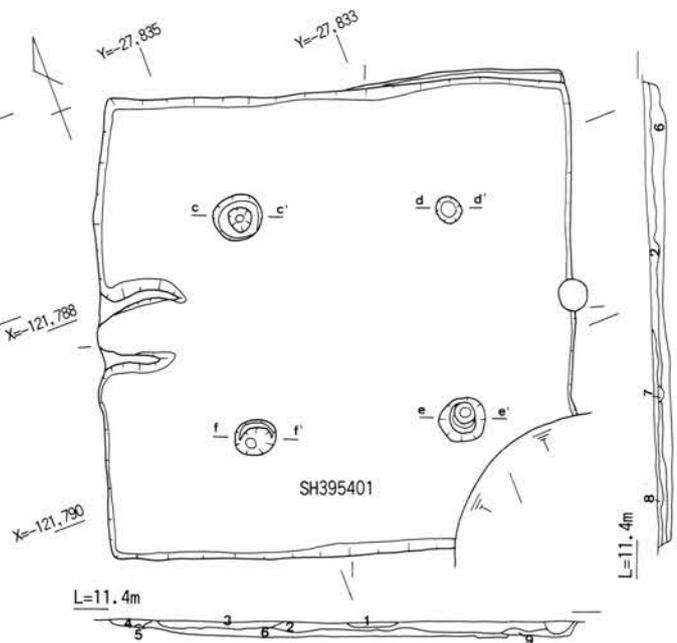
5. 明黄褐色粘質土
6. 黄褐色粘質土
7. 淡黄褐色粘砂質土
8. 暗茶褐色粘砂質土
9. 淡黄褐色粘質土 (φ 0.5cmの礫含む)
10. 青灰色混黄褐色粘砂質土



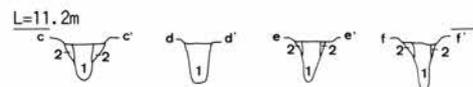
カマド



- | | |
|------------------------------------|-------------|
| 1. 淡黄褐色粘砂質土 | 5. 灰色粘質土 |
| 2. 赤褐色粘砂質土 (φ 1 ~ 2 cmの橙色焼土塊を多少含む) | 6. 濃赤褐色粘砂質土 |
| 3. 暗茶褐色粘砂質土 | 7. 明赤色焼土 |
| 4. 黒色混淡灰色粘質土 | 8. 暗赤褐色粘砂質土 |
| | 9. 茶褐色粘砂質土 |

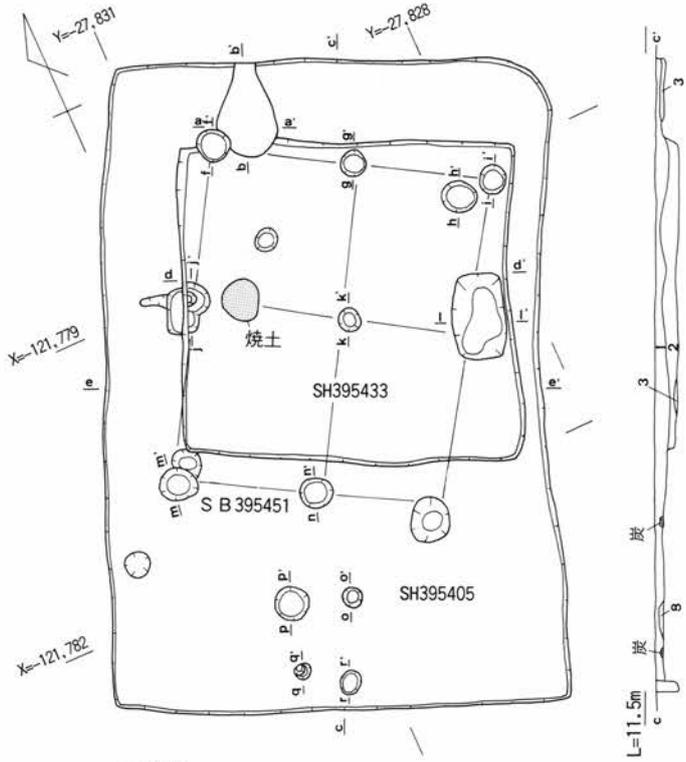
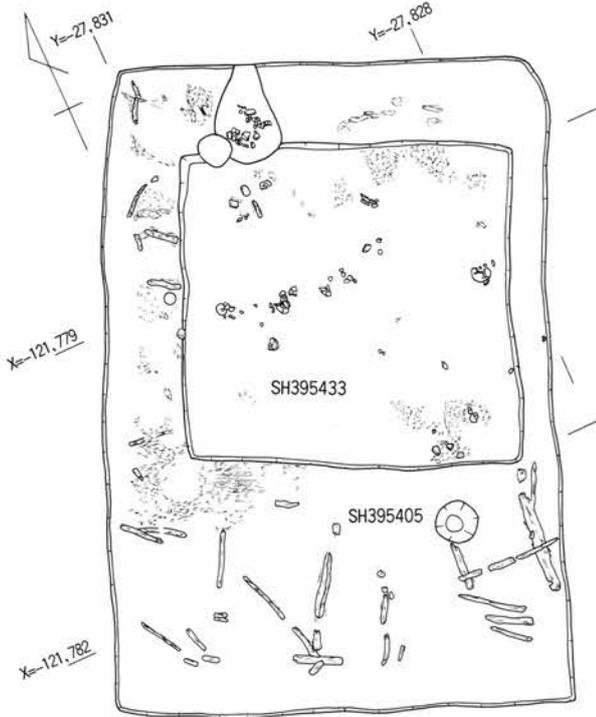


- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1. 青灰色混暗茶褐色粘砂質土 | 6. 暗茶褐色粘質土 (φ 1 ~ 2 cm大礫を含む) |
| 2. 青灰色混濃黄褐色粘質土 | 7. 明茶褐色粘砂質土 (焼土を含む) |
| 3. 青灰色混黄褐色粘質土 (φ 1 cm大礫を含む) | 8. 明黄褐色粘質土 |
| 4. 淡黄褐色粘質土 | 9. 淡青灰色混茶褐色粘砂質土 (焼土、炭を含む) |
| 5. 赤褐色粘質土 | |

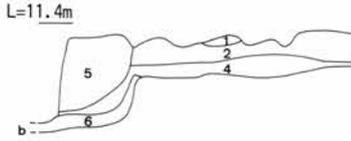


1. 暗茶褐色粘砂質土
2. 青灰色混黄褐色粘砂質土
3. 淡茶褐色混暗茶褐色粘砂質土
4. 青灰色混茶褐色粘砂質土





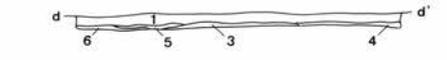
L=11.4m カマド



0 50cm

1. 黄褐色粘砂質土 (淡橙色焼土塊 φ 1cm程度を少量含む)
2. 淡橙色焼土(塊状をなす)
3. 暗茶褐色粘砂質土 (焼土、炭を含む)
4. 茶褐色粘砂質土
5. 明茶褐色粘砂質土 (焼土、炭を少量含む、埋土)
6. 淡黄褐色粘質土(ベース)

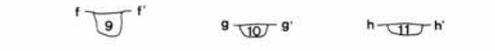
L=11.5m



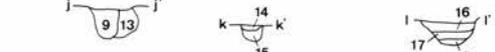
L=11.5m



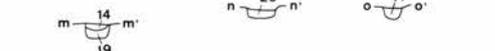
L=11.4m



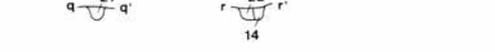
L=11.4m



L=11.4m

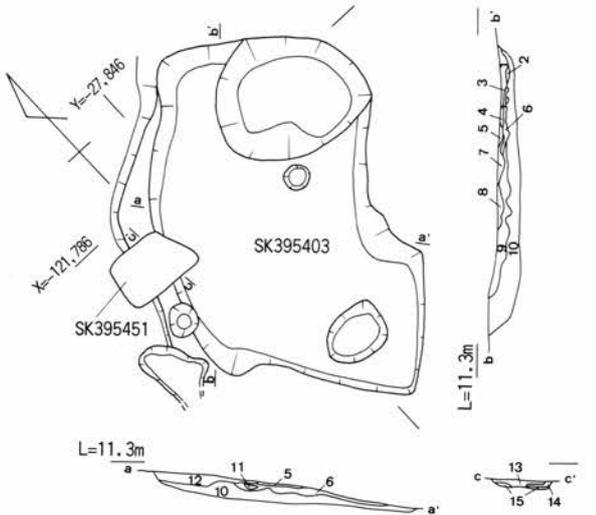


L=11.4m

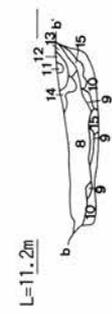
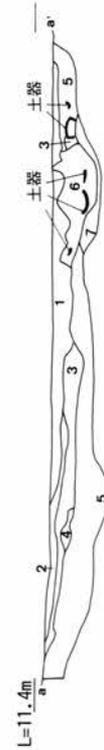
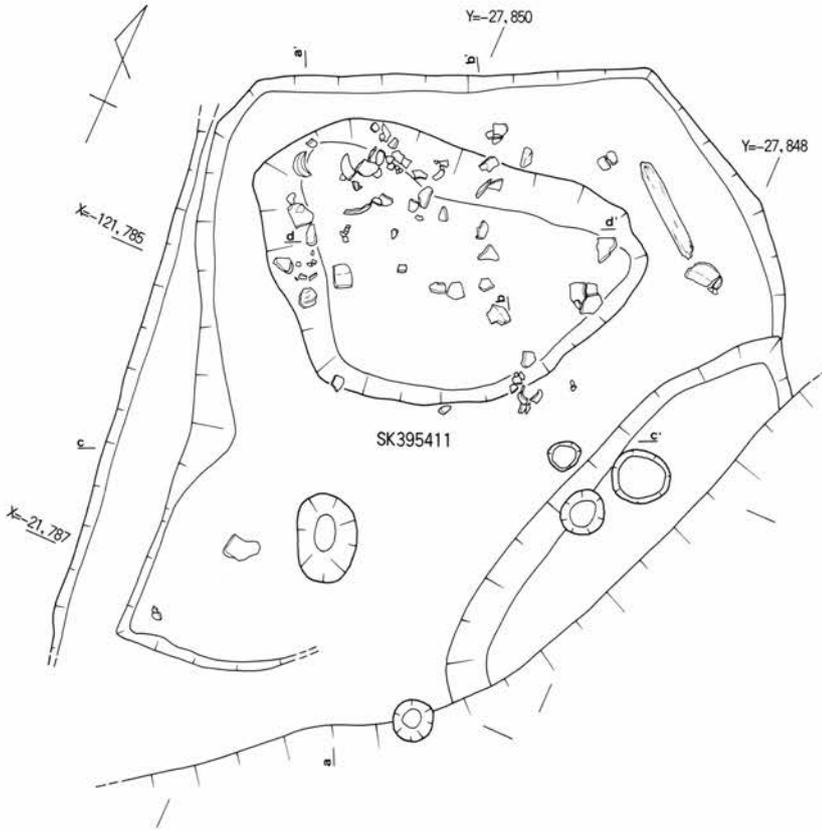


1. 暗茶褐色粘砂質土(礫混)
2. 暗茶褐色粘砂質土 (1と似てるも粘性がたかい)
3. 黄褐色粘砂質土
4. 黄褐色粘砂質土
5. 暗灰褐色粘質土
6. 暗橙褐色(焼土)
7. 暗灰褐色炭混砂質土
8. 暗灰褐色粘砂質土(焼土、炭混)
9. 茶褐色粘砂質土 (φ 1~2cm礫、焼土塊、炭を含む)
10. 濃茶褐色粘砂質土 (φ 1cm礫、焼土塊を含む)
11. 黄褐色粘砂質土
12. 濃青灰色混濃茶褐色粘砂質土
13. 青灰色混茶褐色粘砂質土 (φ 1cm礫、焼土塊、炭を含む)
14. 暗茶褐色粘砂質土
15. 黄褐色粘砂質土(ベース)
16. 青灰色混暗茶褐色粘砂質土 (φ 1~4cm程度の礫を少量含む)
17. 暗灰粘質土
18. 暗灰粘質土 (礫 φ 3~5cmを多量に含む)
19. 青灰色混淡黄褐色粘砂質土 (φ 2cm礫を含む)
20. 淡茶褐色粘砂質土 (φ 1cm礫、焼土塊、炭を含む)
21. 淡茶褐色粘砂質土
22. 淡黄褐色粘砂質土

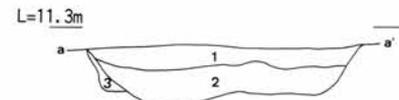
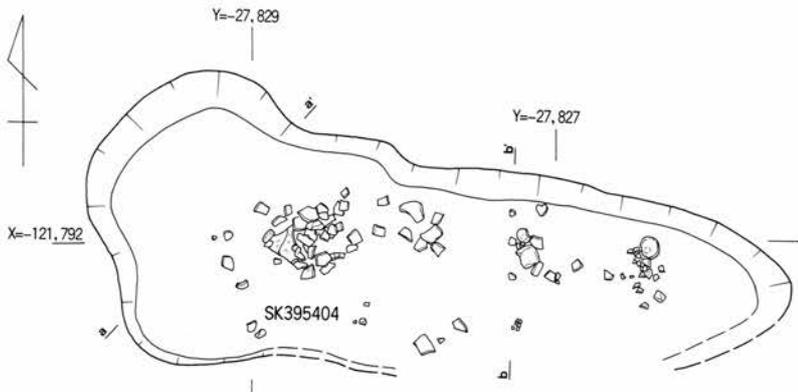
0 4m



1. 青灰色混黄褐色粘砂質土
2. 青灰色粘質土
3. 濃茶褐色粘質土
4. 淡青灰色混黄褐色粘質土
5. 黄褐色粘質土
6. 淡青灰色混淡茶褐色粘質土
7. 暗茶灰褐色粘砂質土(炭、焼土を少量)
8. 明茶褐色粘砂質土
9. 淡青灰色混濃茶褐色粘砂質土 (φ 1cm大礫を含む)
10. 淡茶褐色粘質土(地山)
11. 茶褐色粘砂質土
12. 淡黄褐色混濃青灰色粘質土
13. 暗茶褐色粘砂質土
14. 明黄褐色粘砂質土
15. 赤褐色粘質土

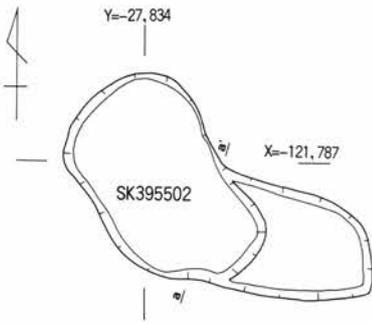


- 1.炭混茶褐色粘砂質土
- 2.暗黄褐色砂質土
- 3.黄褐色・青灰色混粘質土
- 4.黄褐色砂質土
- 5.灰褐色粘砂質土
- 6.明赤褐色焼土(所々φ3~5cmの塊状をなす)
- 7.赤茶褐色粘質土
- 8.明赤褐色焼土(所々φ3~5cmの塊状をなす)
- 9.赤茶褐色粘質土
- 10.炭混茶灰色粘質土(ベース)
- 11.炭混明茶褐色砂質土
- 12.明黄褐色砂質土
- 13.茶褐色粘質土
- 14.炭混暗灰色粘砂質土
- 15.暗灰色粘質土
- 16.焼土塊炭混暗灰色粘質土(φ3~4cmの焼土塊を含む)

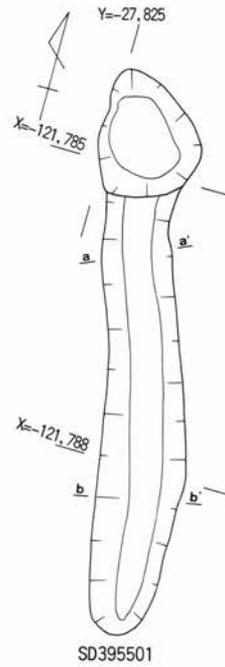


- 1.明茶褐色混濃灰色粘砂質土(φ1~3cm大礫を含む)
- 2.濃青灰色混濃茶褐色粘砂質土(φ1~3cm大礫を含む)
- 3.明青灰色混黄褐色粘砂質土
- 4.暗茶褐色粘砂質土(φ2~4cm大礫を含む)
- 5.暗青灰色混暗褐色粘質土(φ1cm大礫を含む)

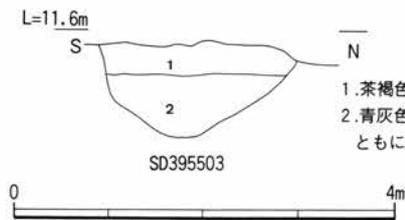




- L=11.2m
-
1. 暗青灰色粘砂質土
 2. 青灰混黄褐色粘砂質土(細粒砂?)
 3. 暗緑灰混黄褐色粘質土(炭を含む)



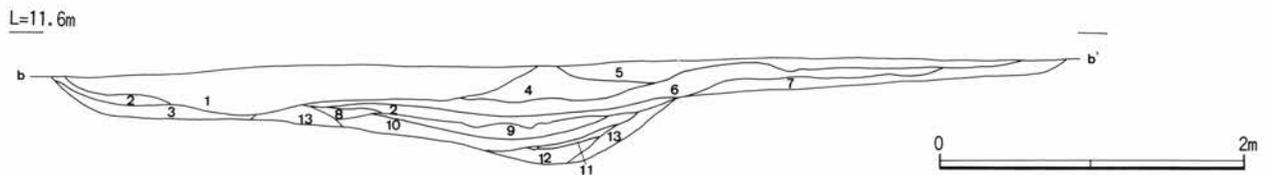
- L=11.3m
-
1. 暗黄褐色砂質土
 2. 緑黄色砂質土
 3. 緑灰色粘砂質土



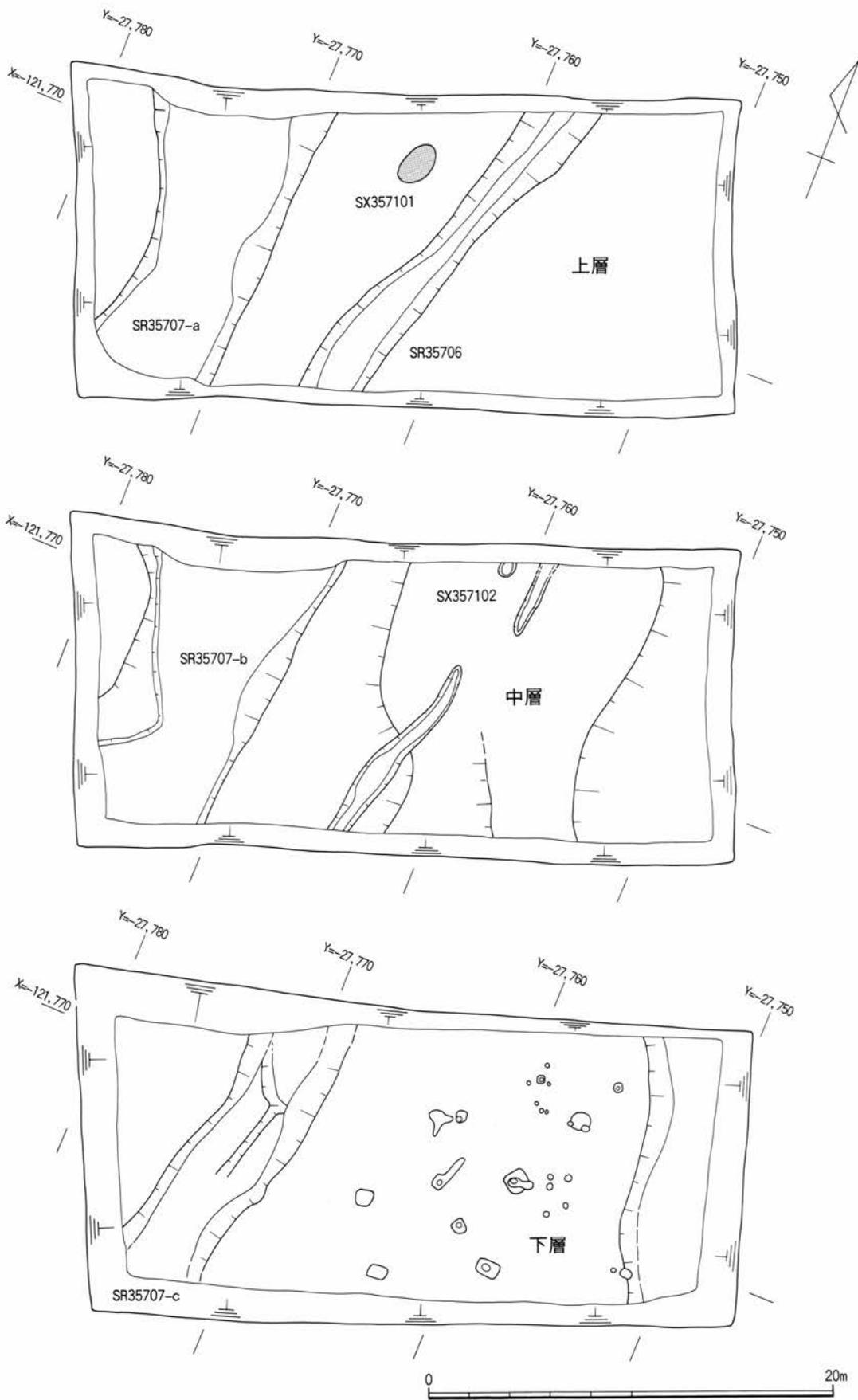
- L=11.6m
1. 茶褐色砂礫層(φ5cm程度の礫を多量に含む)
 2. 青灰色砂礫層(φ5cm程度の礫を多量に含む)
- ともに、南にむかって礫の割合がふえる。



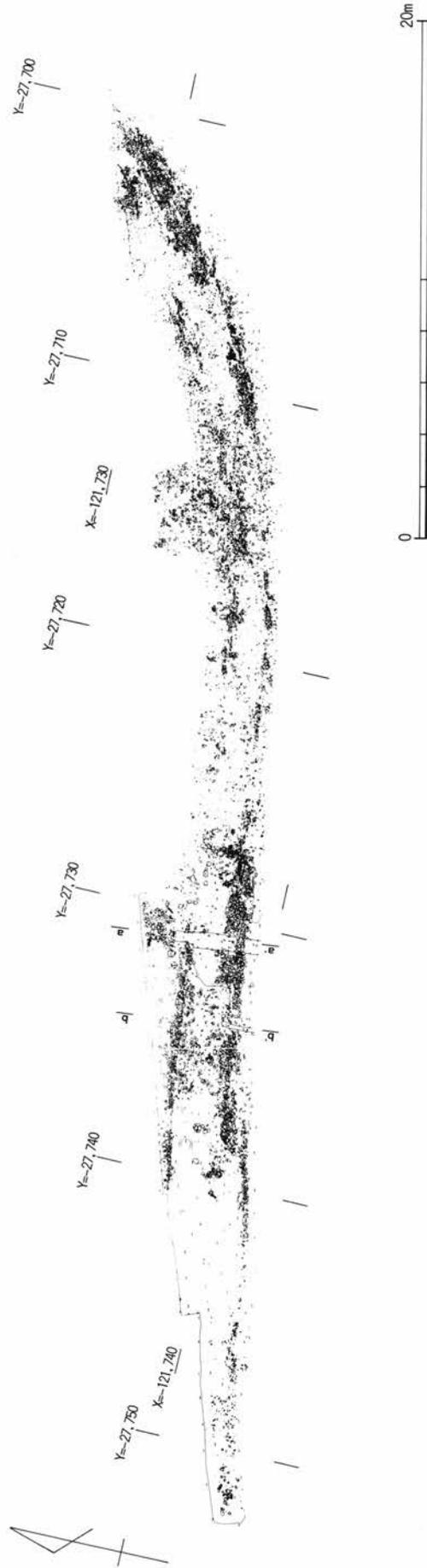
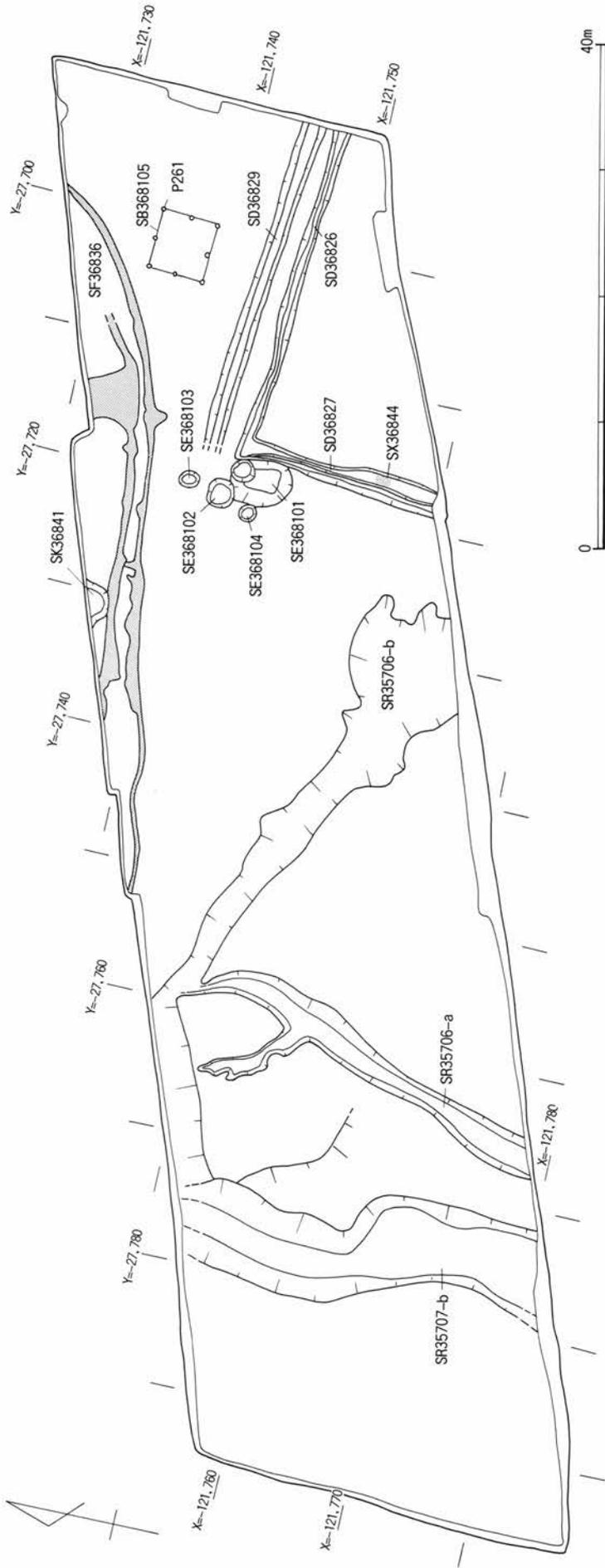
- L=11.8m
1. 暗灰褐色礫層 マトリックス粗砂、細礫
 2. 暗青灰色礫層(マトリックスシルト)φ4cm
 3. 暗灰褐色砂混粘質土
 4. 黄灰褐色砂質土
 5. 黄灰褐色砂層(粗砂中心)
 6. 3に似るが炭化物を含まない
 7. 暗黄灰色礫層



- L=11.6m
1. 暗灰褐色砂礫層
 2. 暗茶灰色砂層
 3. 暗青灰褐色粘砂質土
 4. 暗青灰色砂層
 5. 暗灰褐色礫混砂層
 6. 暗青灰褐色砂混シルト
 7. 暗黄灰色砂質土
 8. 暗茶灰色礫混砂質土
 9. 暗青灰褐色砂質土
 10. 暗黄褐色砂混粘質土(上層暗灰褐色砂質土と13とのモザイク状堆積)
 11. 暗黄褐色砂層
 12. 灰褐色砂質土
 13. 暗黄褐色砂混粘質土



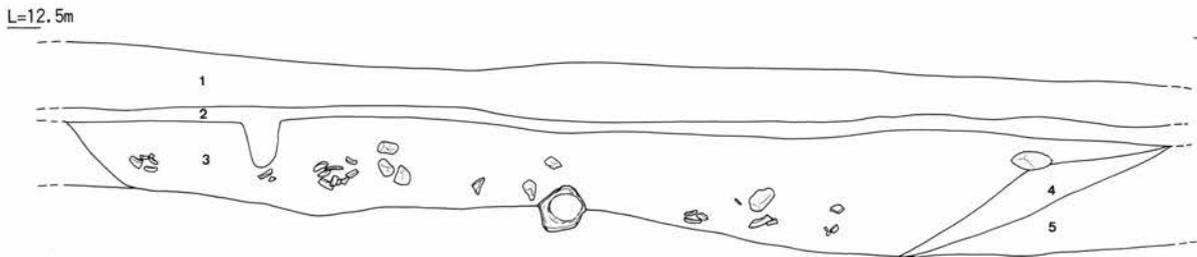
1990年度B地区遺構実測図



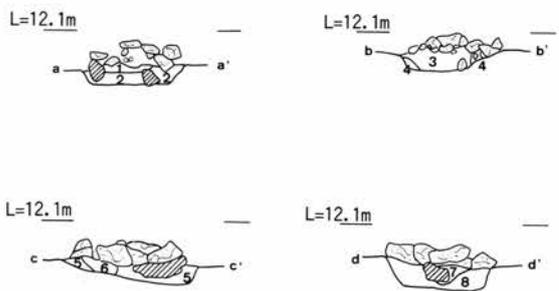
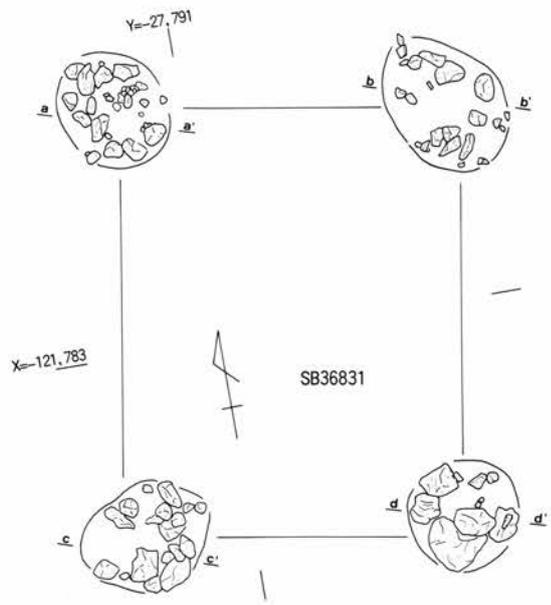
1991・1992年度B地区遺構実測図(1)



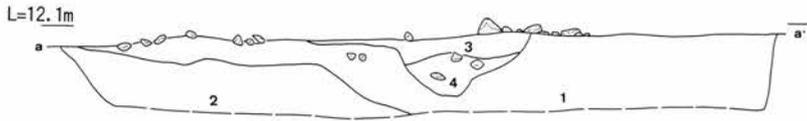
1991・1992年度B地区遺構実測図(2)



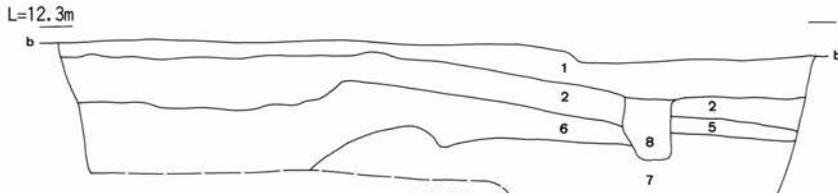
- 1. 淡灰(黄)褐色粘質土
- 2. 淡黄灰色土(カナケの沈澱層)
- 3. 暗茶褐色粘質土
- 4. 濃暗褐色土(きめ細かい)
- 5. 暗褐色極細砂(中世包含層および遺構面)



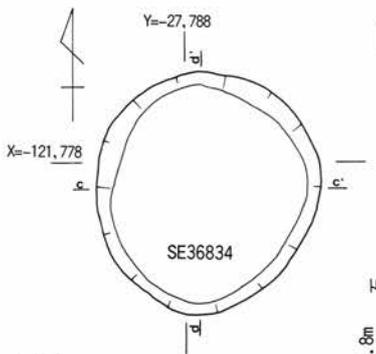
- 1. 暗灰色粘質土(埋土)
- 2. 暗橙褐色粘土(埋土)
- 3. 暗灰色粘質土(柱芯)
- 4. 淡褐色砂礫層
- 5. 暗茶褐色粘質土(灰色粘土、やや赤い鉄分含む)
- 6. 淡赤褐色粘質土
- 7. 暗灰褐色粘質土(芯?)
- 8. 淡赤褐色粘質土(埋土)



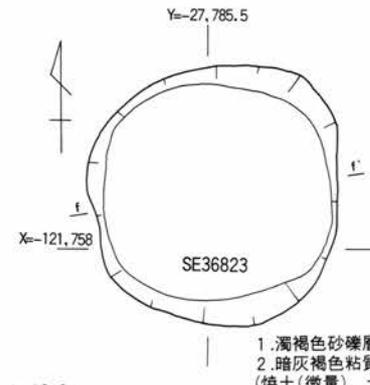
1. 淡褐色粘質極細砂
2. 暗黒褐色粘質土(大小の粗礫混じり)
3. 濁灰褐色礫混粘質土
4. 濁褐色極細砂
5. 暗黄褐色粘質土
6. 暗褐色粗砂礫層(かたか大きな礫がよくしまる)
7. 暗灰色砂礫層
8. おちこみ淡(赤)褐色粘質土



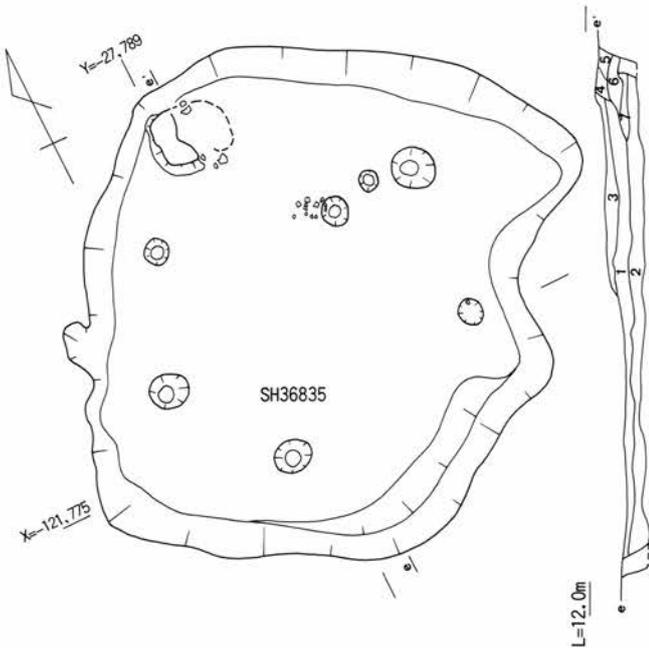
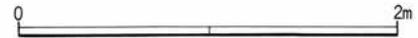
SF36836
(B地区中世平面図に断面線有り)



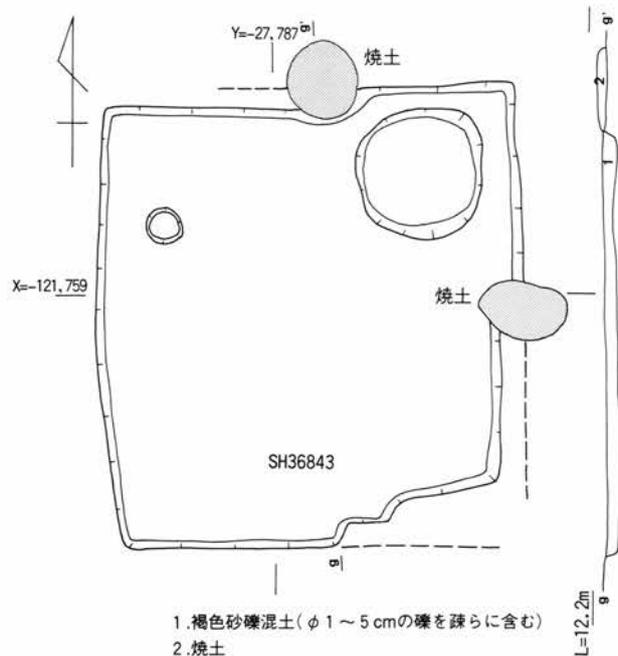
1. 暗茶褐色粘質土
2. 暗灰色砂礫
(φ1~3cmの礫多し)
3. 暗灰褐色礫混じり土
4. 暗褐色礫混じり土
5. 暗灰褐色砂礫混じり粘質土
6. 暗褐色礫層
(φ5cmの礫含む)
7. 淡灰褐色砂礫混じり粘質土
8. 暗褐色粘質土
(礫なし粘質有り)



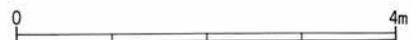
1. 濁褐色砂礫層(φ2~3cmの礫多し)
2. 暗灰褐色粘質土、礫混じり
(焼土(微量)、土器、小片、瓦、土師器)
3. 暗灰白色粘土
4. 濁灰白色粘土

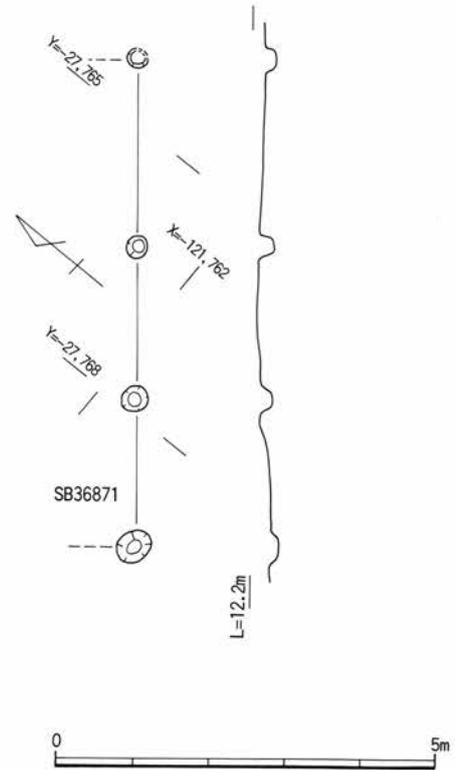
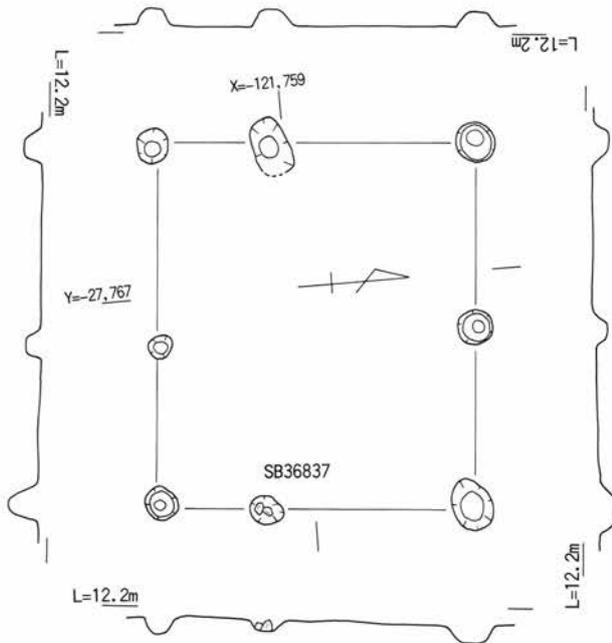
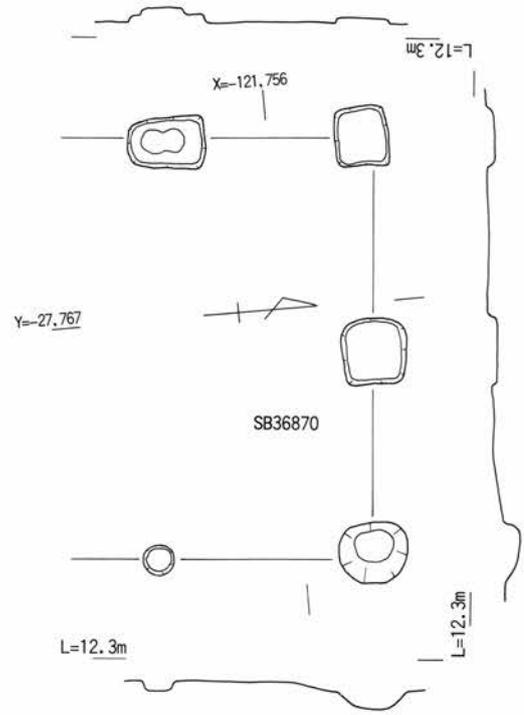
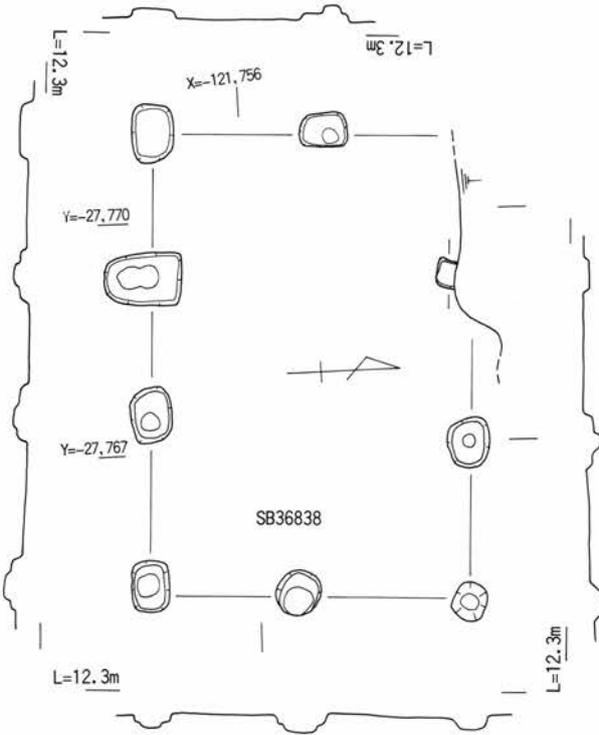


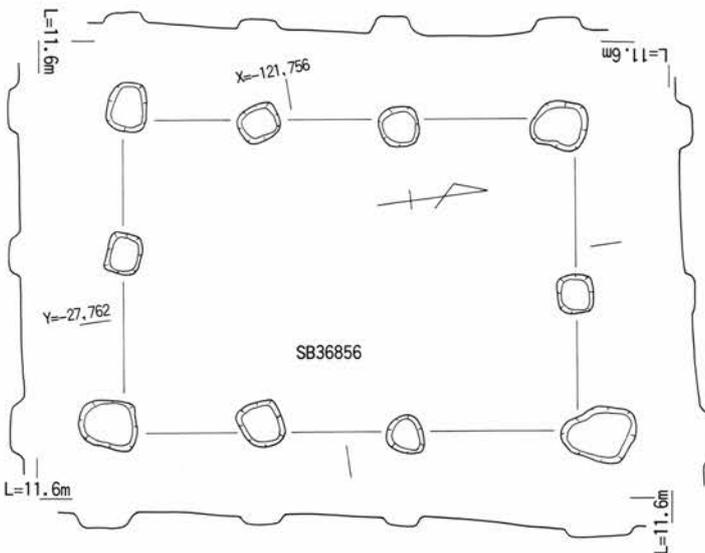
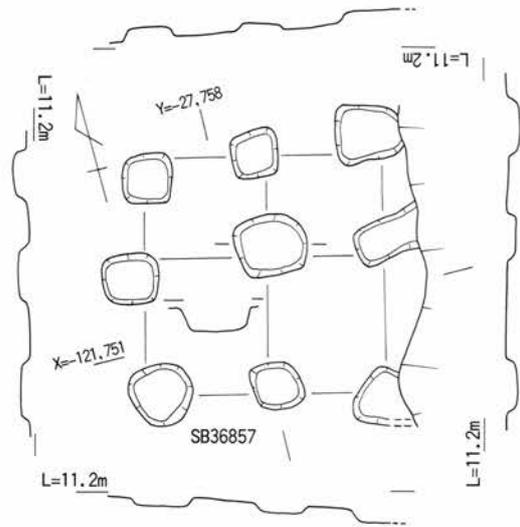
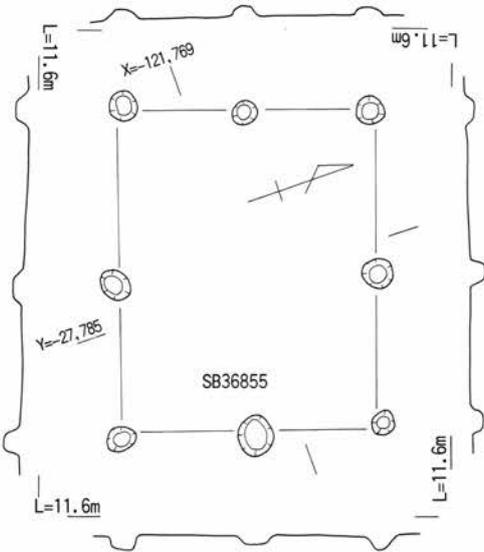
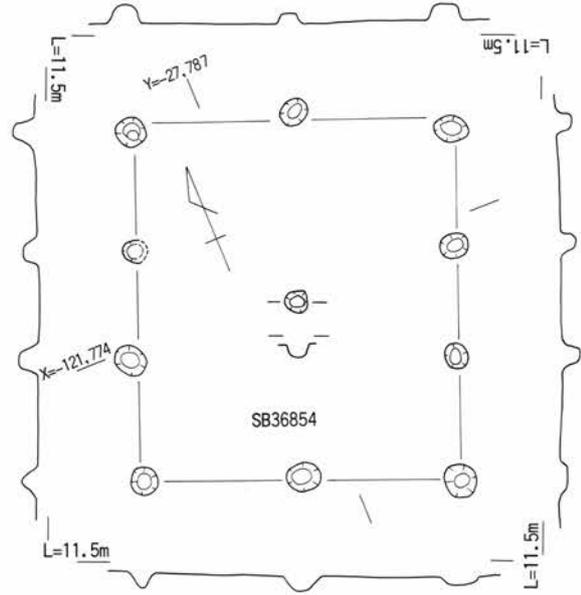
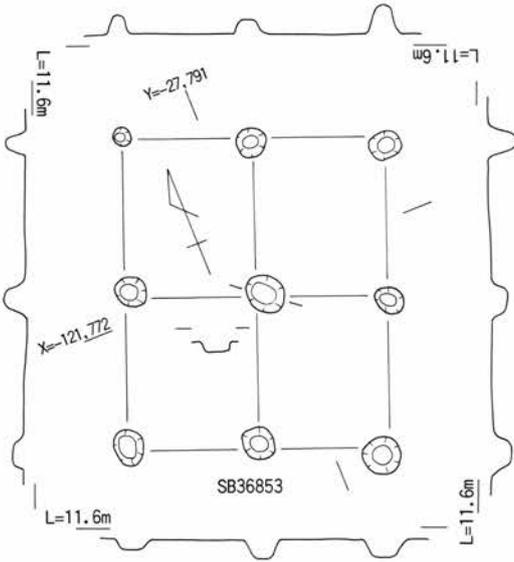
1. 暗灰褐色(焼土炭混じり)砂質土(よくしまっている)
2. 暗茶褐色砂礫混じり粘質土
3. 灰褐色砂礫粒層(古墳Pの洪水堆積)
4. 暗褐色細砂礫層(2次堆積)
5. 淡褐色砂質土(2次堆積)
6. 濃赤褐色粘質土
(カマド部?土器、焼土、炭化物を多く含む)
7. 暗赤褐色砂混粘質土(6に比べて焼土が少ない)

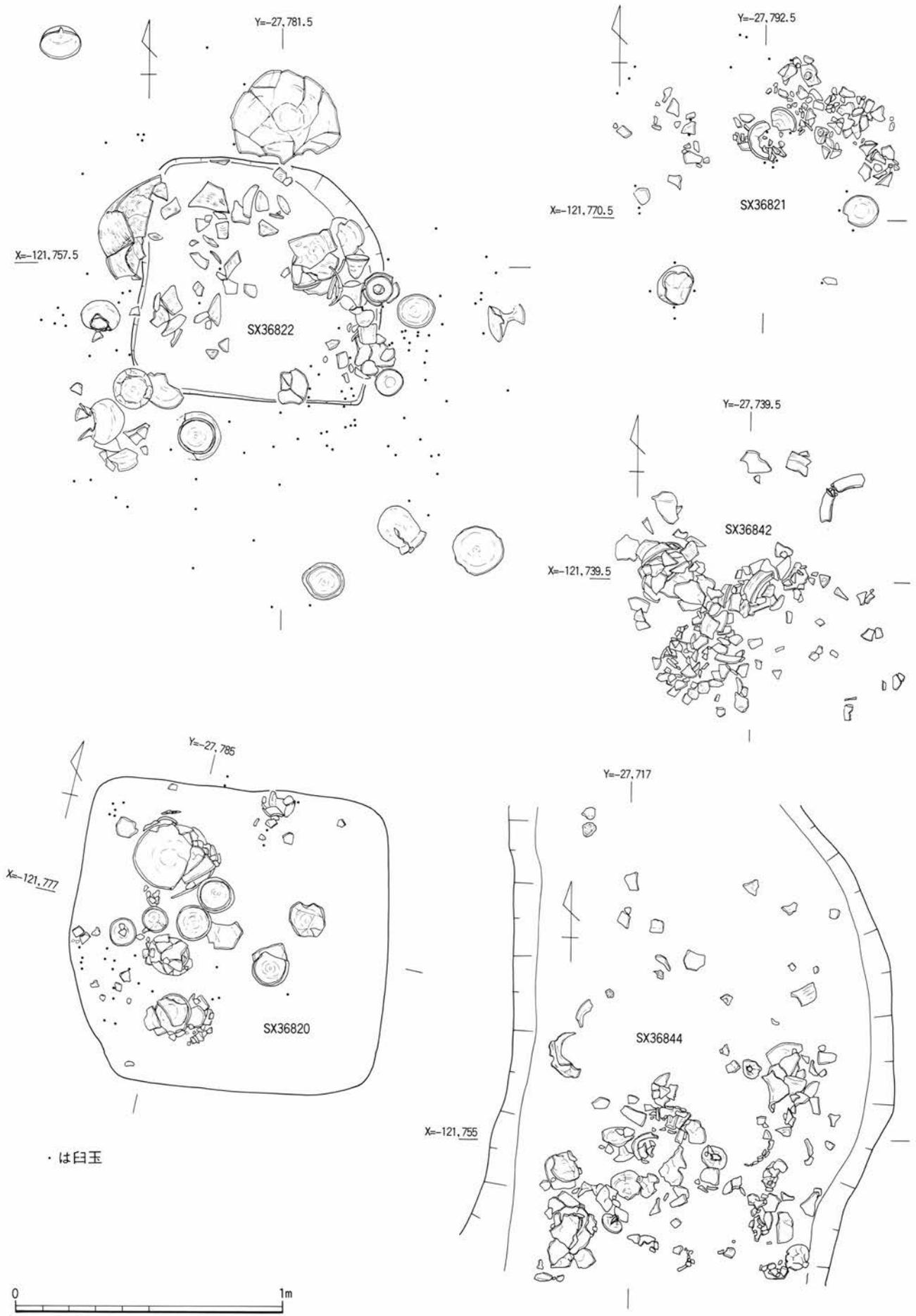


1. 褐色砂礫混土(φ1~5cmの礫を疎らに含む)
2. 焼土

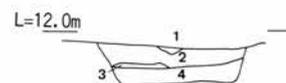
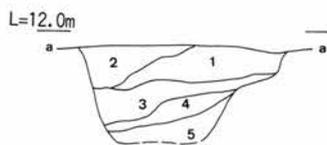
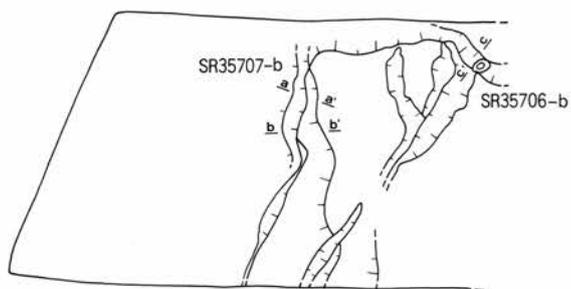






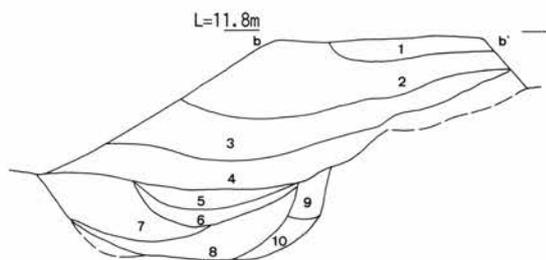


1991年度B地区 S X36822・S X36821・S X36842・S X36820・S X36844

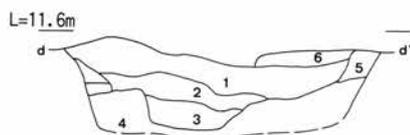
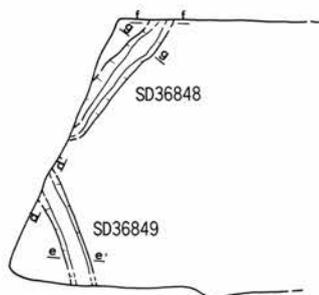


- 1. 淡褐色砂礫層(拳大の礫を多く含む粗礫)
- 2. " (φ 5~10cm大の礫を多く含む)
- 3. " (1・2に比べて砂質)
- 4. 褐色砂質土(礫なし)
- 5. 褐色砂礫層(φ 10~15cm程の大礫多し)

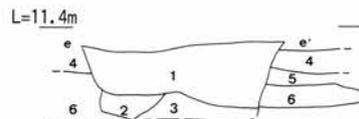
- 1. 粗砂礫
- 2. 暗茶褐色粘質土
(φ 2~3cmの礫を疎らに含む)
- 3. 淡褐色粘質土
- 4. 濁褐色砂質土
(礫をわずかに含む)



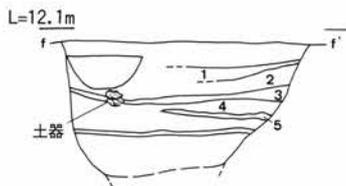
- 1. 黒褐色粘質、小礫混
- 2. 暗褐色中礫混、粗砂(S D 07 b)
- 3. 黄褐色大礫混、中礫砂(S D 07 b)
- 4. 茶褐色中礫混、小礫(S D 07 c)
- 5. 黄褐色中礫混、小礫
- 6. 黄褐色中礫、小礫、粗砂
- 7. 暗褐色大礫混、中礫
- 8. 黄褐色中礫、小礫(S D 07 d)
- 9. 黄褐色小礫混、粘質土
- 10. 褐色小礫



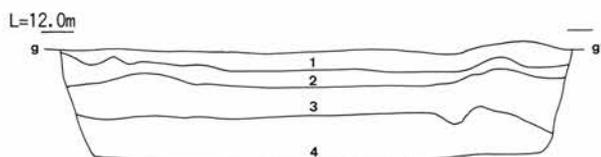
- 1. 暗青灰色粘質砂礫
- 2. 中礫、粗礫混じり粗砂層
- 3. 青灰色粘土混じり砂礫層
- 4. 濁黄褐色粘質土、砂礫混じり
- 5. 暗茶褐色粘質土(古墳 P)
- 6. 暗褐色砂礫層



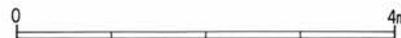
- 1. 暗青灰色粘質粗砂礫
- 2. 濁黄褐色粘質砂礫混じり
- 3. 暗褐色中礫混粗砂
- 4. 灰色中礫混じり粗砂
- 5. 灰色大礫混、中礫粗砂
- 6. 暗茶褐色粘質土

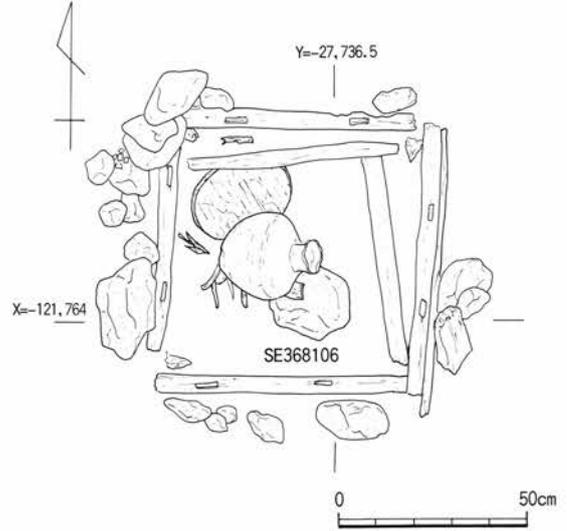
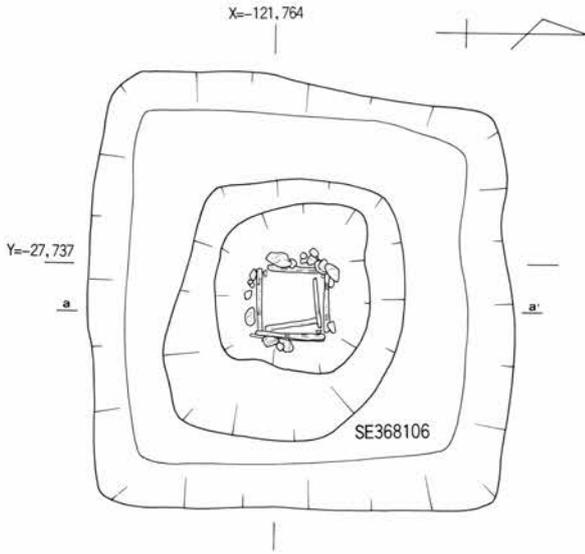


- 1. 暗赤褐色砂質土
- 2. 暗青灰色砂礫層
- 3. 暗赤褐色粘土 > この間に遺物多し
- 4. 暗灰褐色砂礫層
- 5. 淡褐色粘質土(存在状況は不安定)

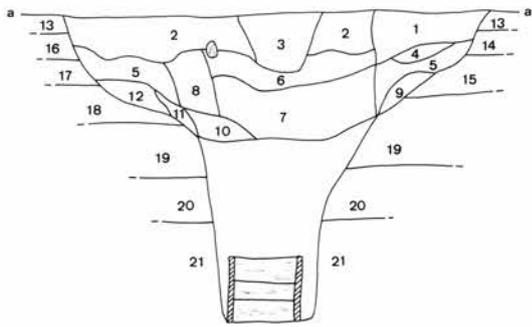


- 1. 暗茶褐色粘質土(第2遺構面上半)
- 2. 淡茶褐色粘質土(無遺物層)
- 3. 暗黄褐色粘質土(第3遺構面直上)
- 4. 暗灰色砂礫(河床を形成する1つのベース層)

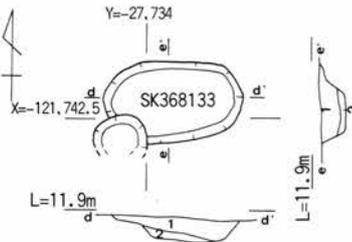
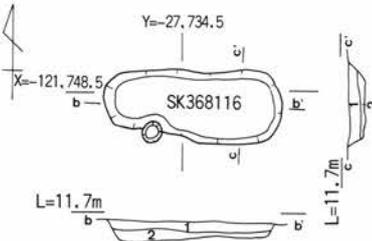




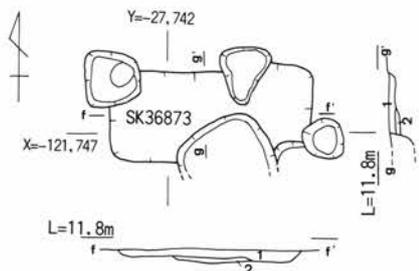
L=12.0m



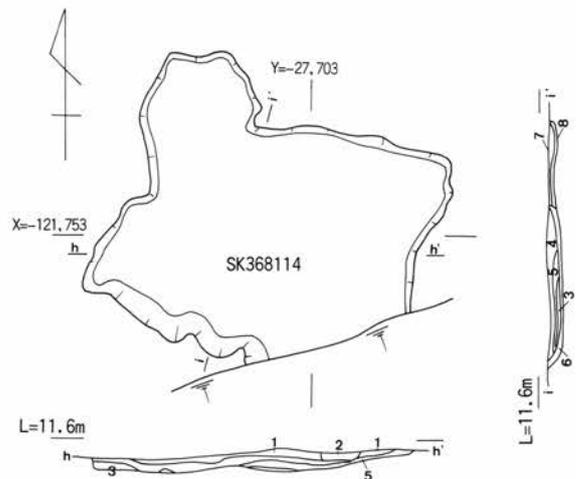
- | | |
|----------------|-------------------|
| 1. 茶色土斑混暗褐色礫混土 | 11. 黄色混淡灰色土 |
| 2. 明茶褐色土 | 12. 茶褐色砂礫土 |
| 3. 暗茶褐色礫土 | 13. 古墳包含層 |
| 4. 黄茶色土 | 14. 黄褐色土 |
| 5. 黄褐色土 | 15. 暗褐色礫 |
| 6. 淡灰色土 | 16. 暗褐色砂礫土(古墳包含層) |
| 7. 淡(青)灰色混茶褐色土 | 17. 暗黄褐色砂 |
| 8. 茶褐色土(固い) | 18. 暗褐色砂 |
| 9. 黄茶色土 | 19. 黄褐色土 |
| 10. 茶褐色砂土 | 20. 褐色礫土 |
| | 21. 黄褐色土 |



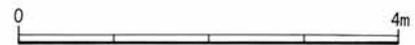
1. 褐色礫混土
2. 茶褐色土

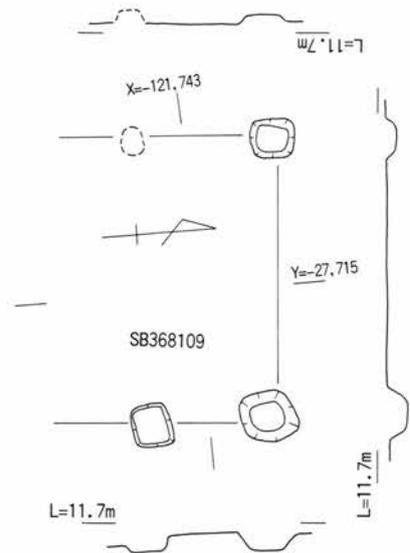
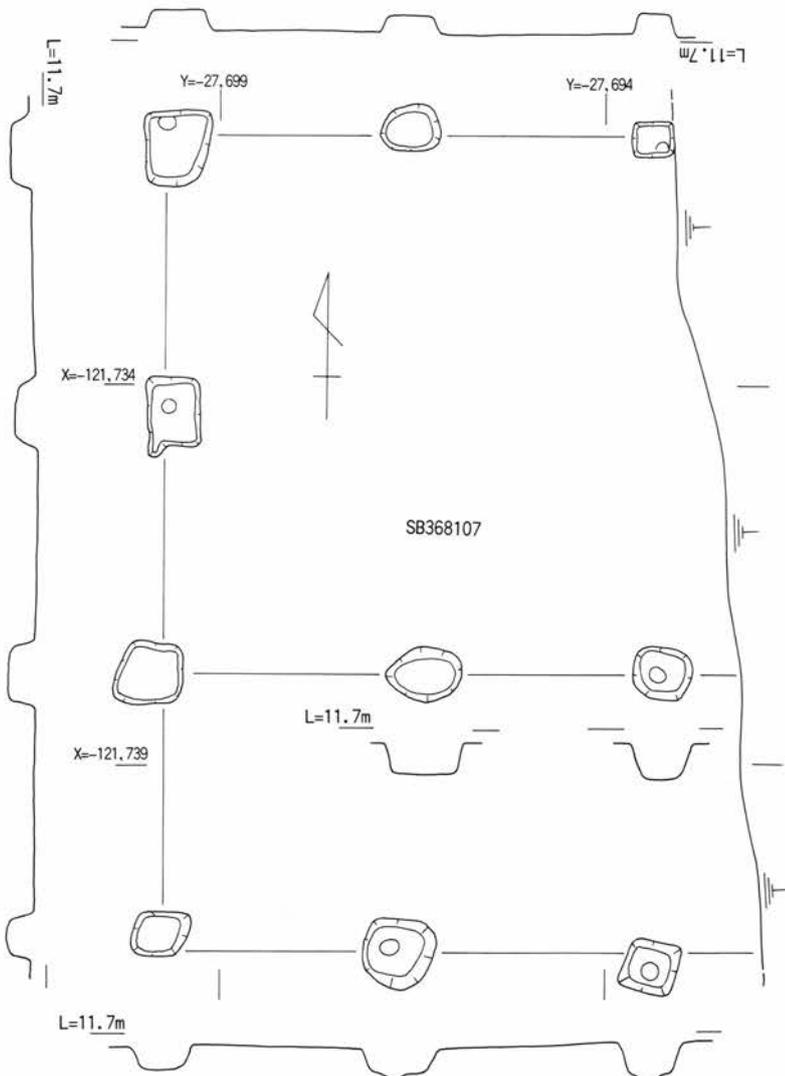
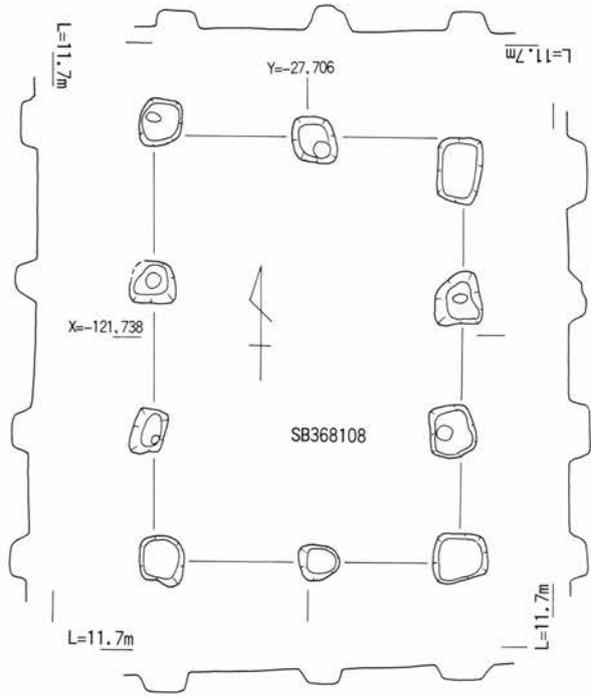
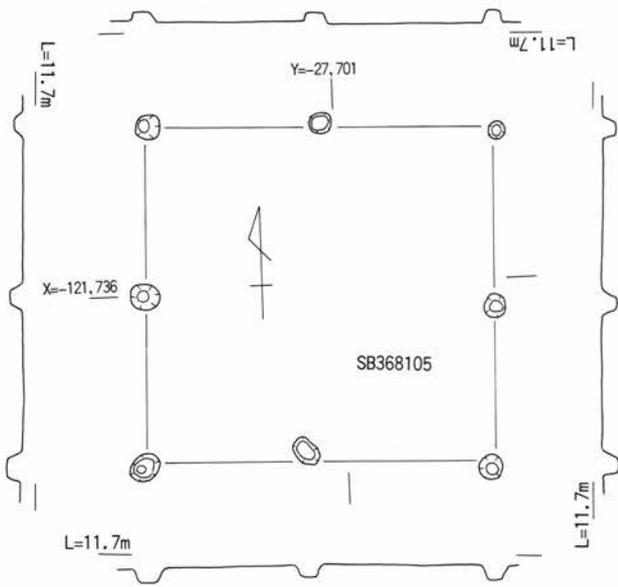


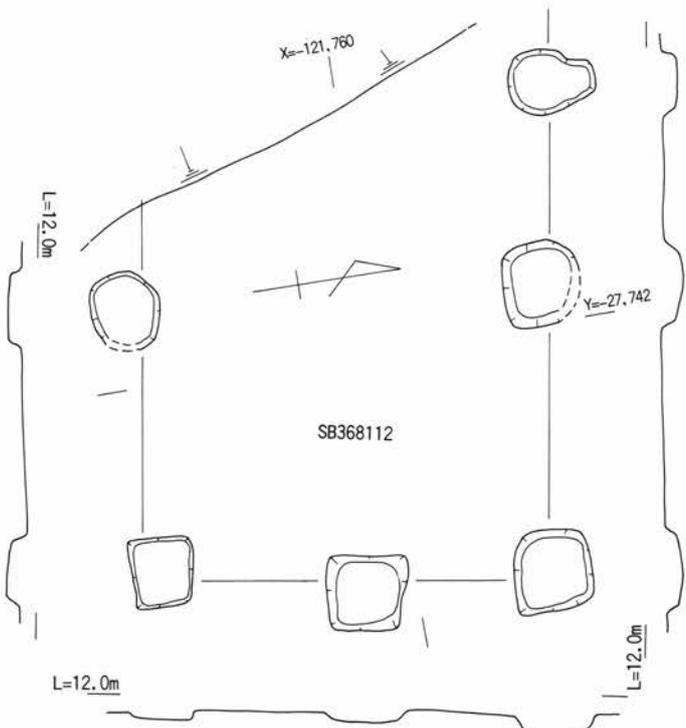
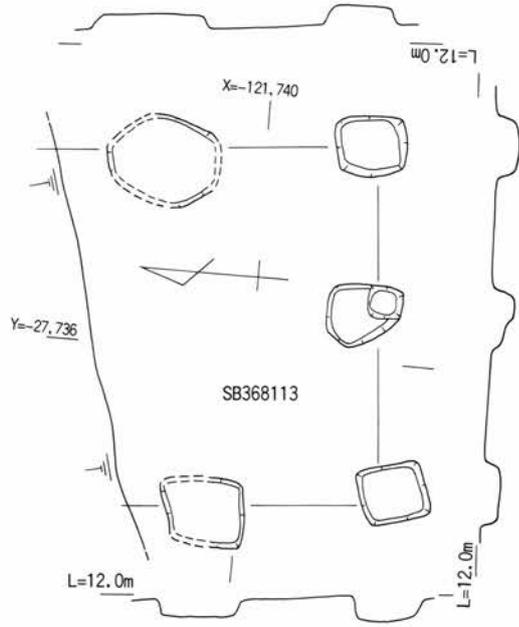
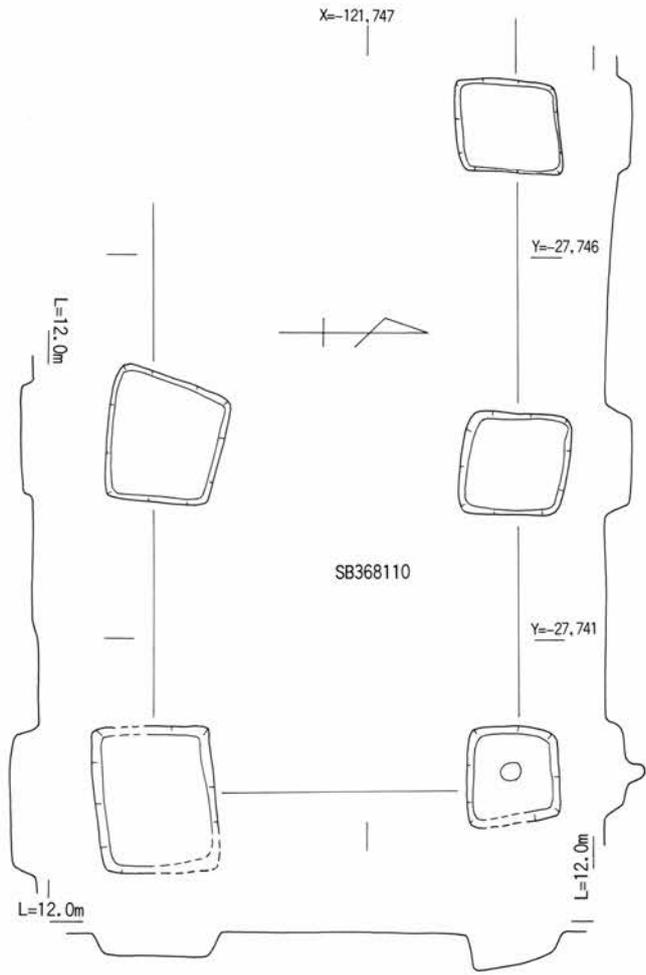
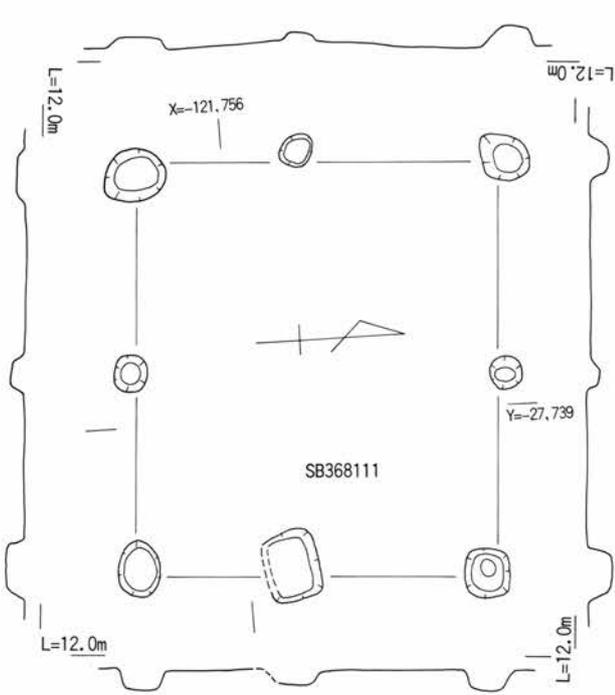
1. 淡黄褐色
2. 暗褐色

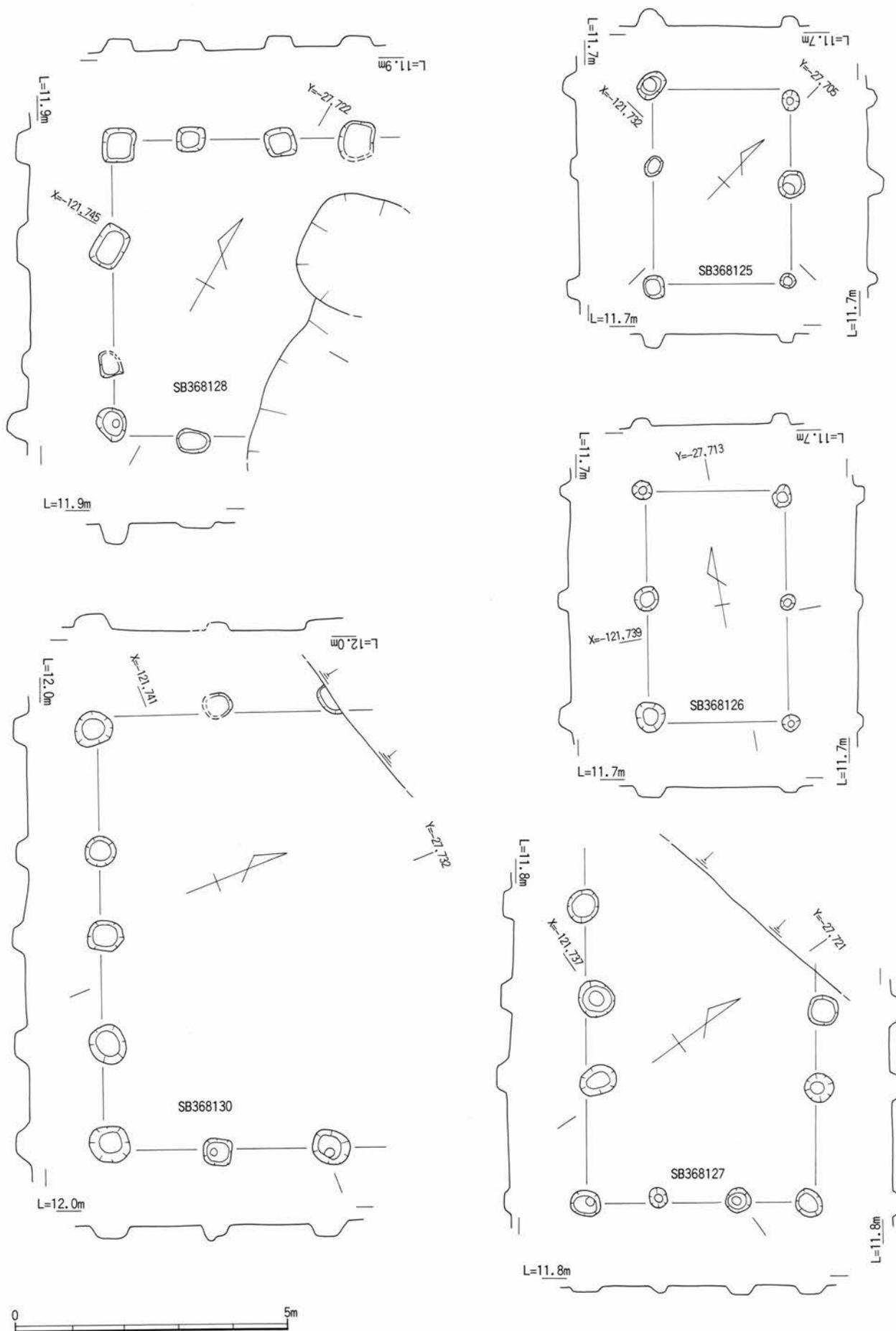


- | | |
|---------|-------------|
| 1. 黒褐色 | 5. 淡茶褐色 |
| 2. 濃黄褐色 | 6. 黄褐色 |
| 3. 淡黄褐色 | 7. 淡黄茶褐色 |
| 4. 濃茶褐色 | 8. 淡茶褐色混青灰色 |

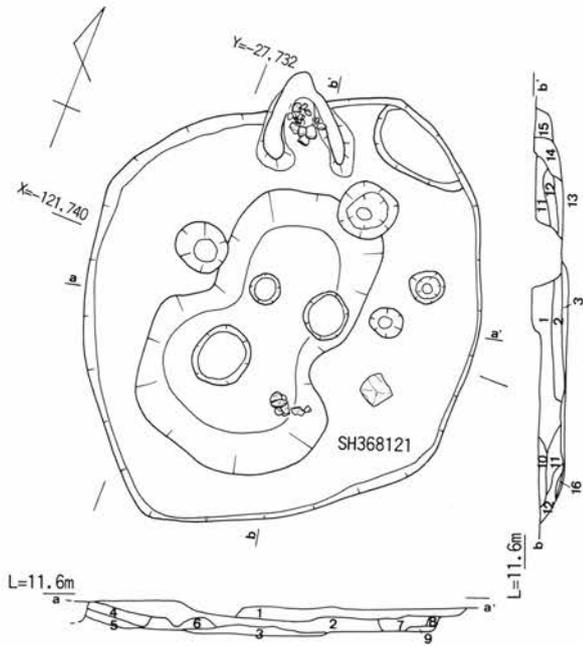




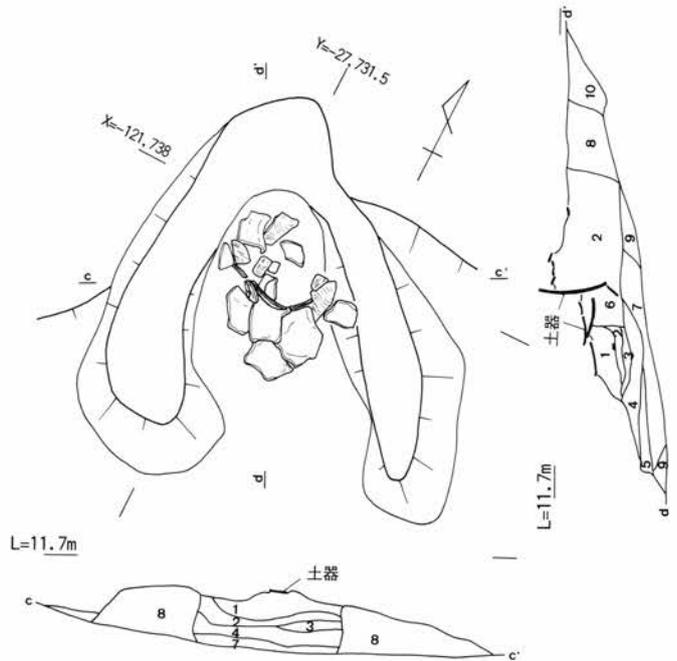




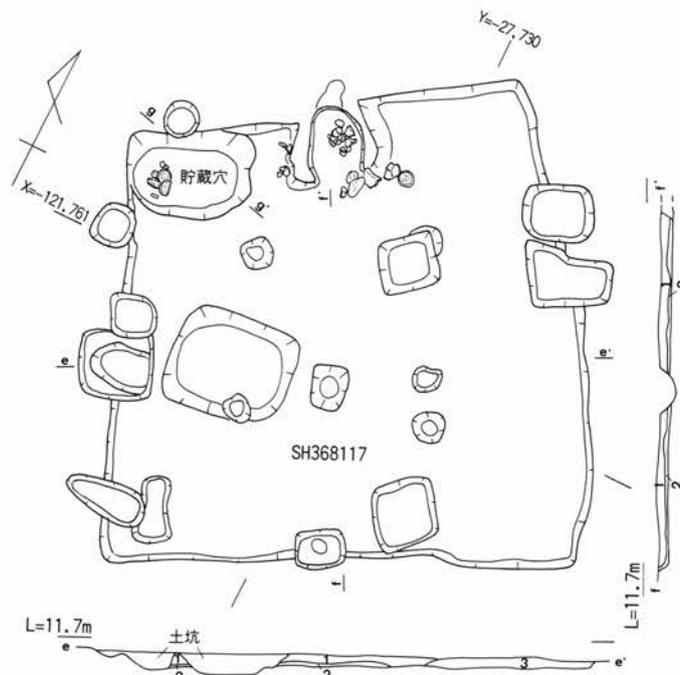
1992年度B地区 S B368128 · S B368125 · S B368126 · S B368127 · S B368130



- 1. 淡黄褐色砂混土
- 2. 淡暗黄褐色土
- 3. 黄色混茶褐色土(土坑)
- 4. 黄茶色土
- 5. 暗茶褐色礫混土
- 6. 淡茶褐色土
- 7. 暗茶褐色土
- 8. 茶黄色砂土
- 9. 黄茶色土
- 10. 淡黄褐色砂質土
- 11. 淡黄褐色土
- 12. 茶褐色土
- 13. 暗茶褐色土、炭、焼土混じり
- 14. 黄褐色土(カマド本体)
- 15. 礫混黒褐色土
- 16. 茶褐色混黄褐色土

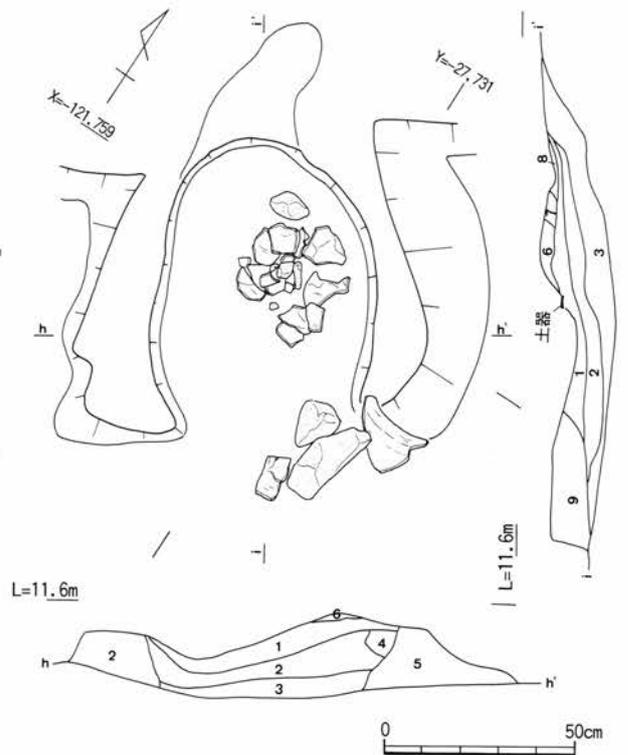


- 1. 黄色混淡茶褐色土
- 2. (熱のため赤変)
- 3. 炭混じり赤褐色(焼土)斑混
- 4. 焼土斑混茶褐色土
- 5. 淡赤褐色(焚き口部焼土部)
- 6. 焼土少し混じる茶褐色土
- 7. 赤褐色土(焼土)
- 8. 黄褐色砂質土(カマド本体)
- 9. 黄褐色土
- 10. 暗灰褐色礫土(断ち割り)



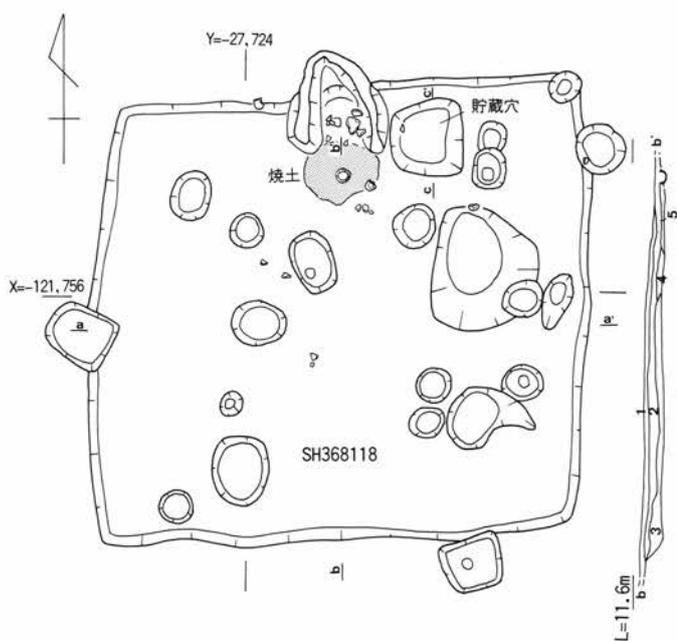
- 1. 黄色混暗茶褐色礫土
- 2. 暗茶褐色土
- 3. 茶褐色混黄褐色土

- 1. 茶褐色土
- 2. 淡茶褐色土
- 3. 淡黄褐色土(木炭混)



- 1. 焼土混淡茶褐色土
- 2. 焼土多混暗茶褐色土
- 3. 暗茶褐色土(炭、焼土若干混じる)
- 4. 淡黄茶色砂質土(カマド)
- 5. (焼けて淡赤褐色、カマド崩落) (SH135内埋土)
- 6. 黄褐色土
- 7. 茶色混黄褐色土
- 8. 黄茶色土
- 9. 黄茶色土





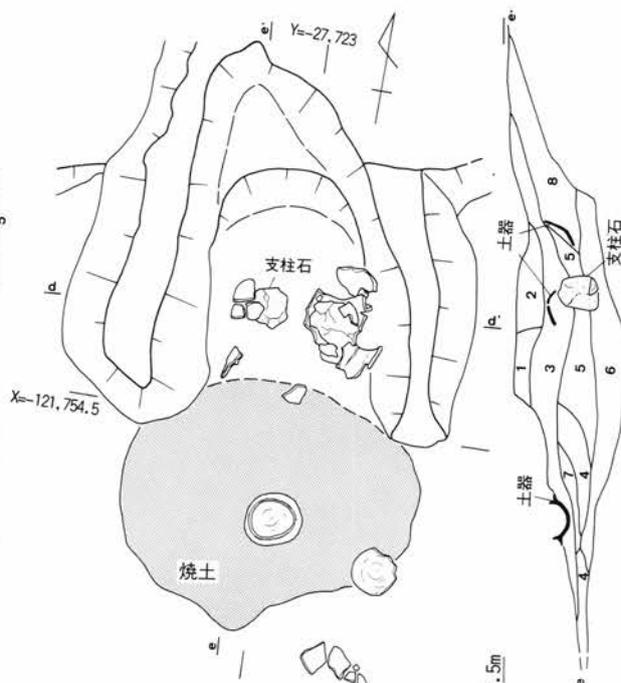
L=11.6m

L=11.6m



1. 淡茶褐色土
2. 淡黄褐色砂土
3. 暗茶褐色土
4. 淡茶褐色土(若干の炭あり)
5. 茶黄色土(若干の炭あり)

1. 茶黄色砂土
2. 茶褐色砂混土
3. 茶褐色砂質土
4. 茶褐色土
5. 焼土混淡茶褐色土
6. 暗黄褐色土



L=11.5m

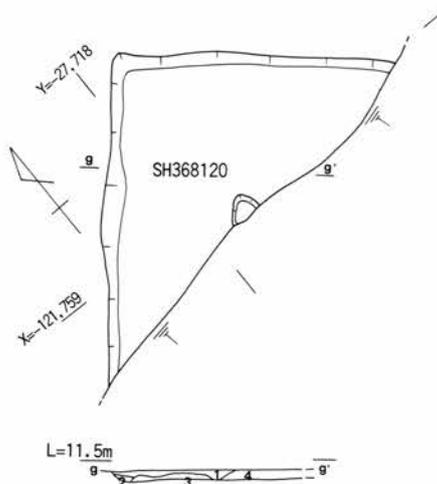
L=11.5m

1. 黄色混淡茶褐色土(天井部崩落)
2. 淡茶褐色土(Ⅱ次カマド煙道)
3. 炭混じり暗茶褐色土
4. 赤褐色土(焼土、第Ⅱ次カマド)
5. 焼土多く混じる暗茶褐色土
6. 暗赤褐色土(焼土、第Ⅰ次カマド)
7. 黄褐色土(固い)
8. 淡赤褐混黄褐色砂質土
9. 黄褐色砂混土(Ⅰ次カマドソデ)



L=11.6m

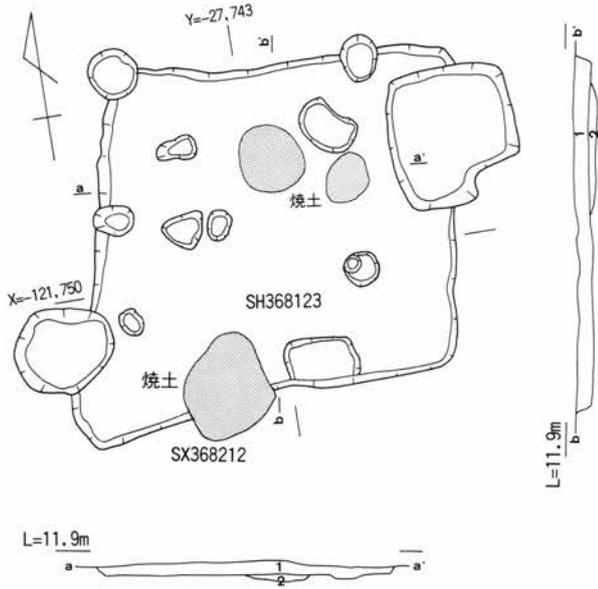
1. 明黄褐色砂質土(礫φ1~2cm)
2. 黒褐色砂質土(礫φ2~3cm)
3. 暗茶褐色砂質土(礫φ2~3cm)
4. 黄褐色砂質土



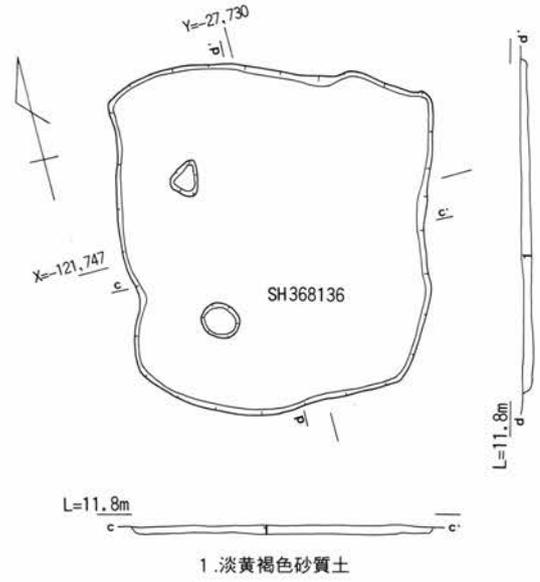
L=11.5m

1. 黄褐色土
2. 茶褐色土
3. 暗黄褐色土
4. 暗茶褐色砂礫混(φ2~3cm)

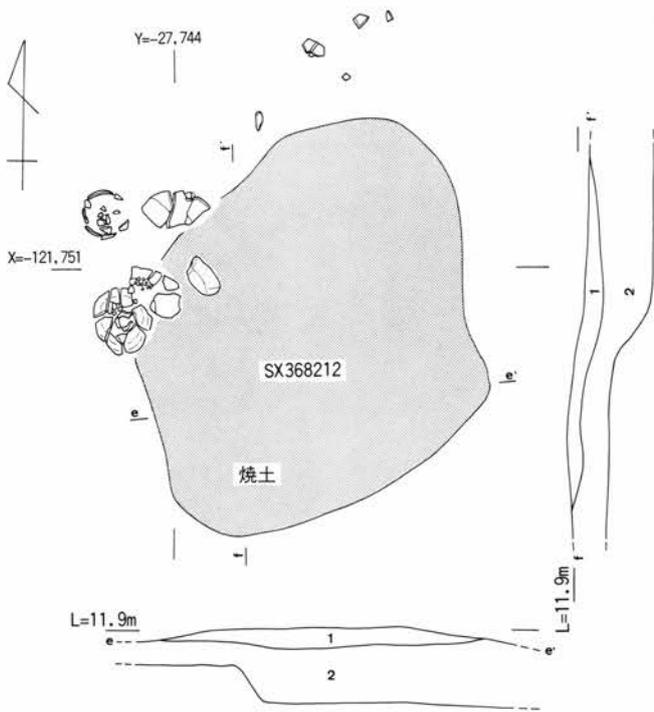
0 4m



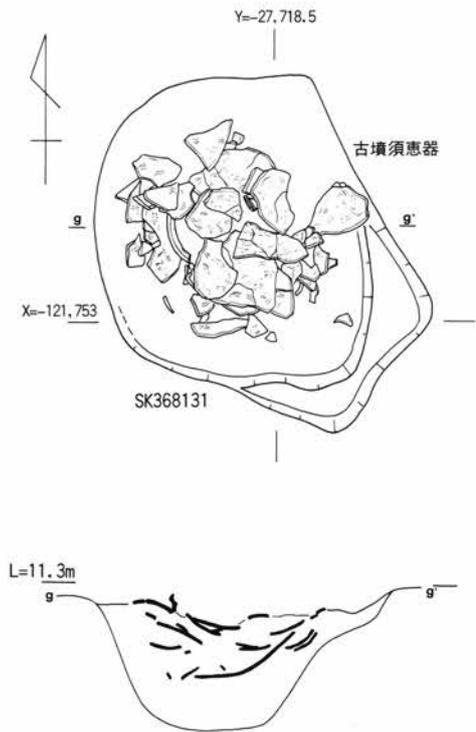
- 1. 淡茶黄色土
- 2. 淡茶褐色土

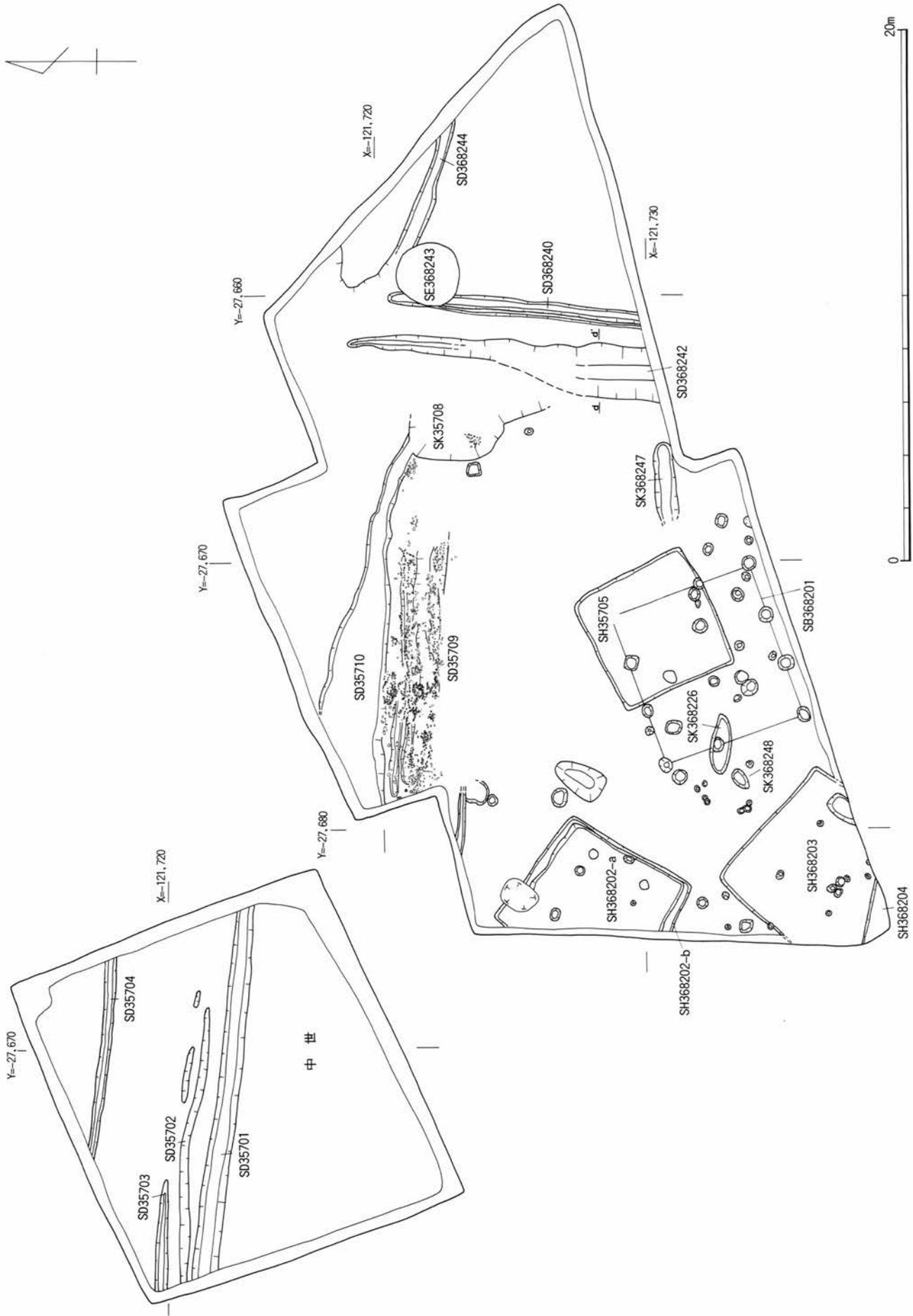


- 1. 淡黄褐色砂質土

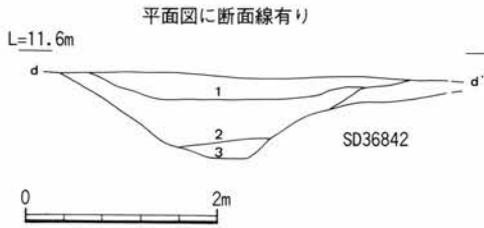
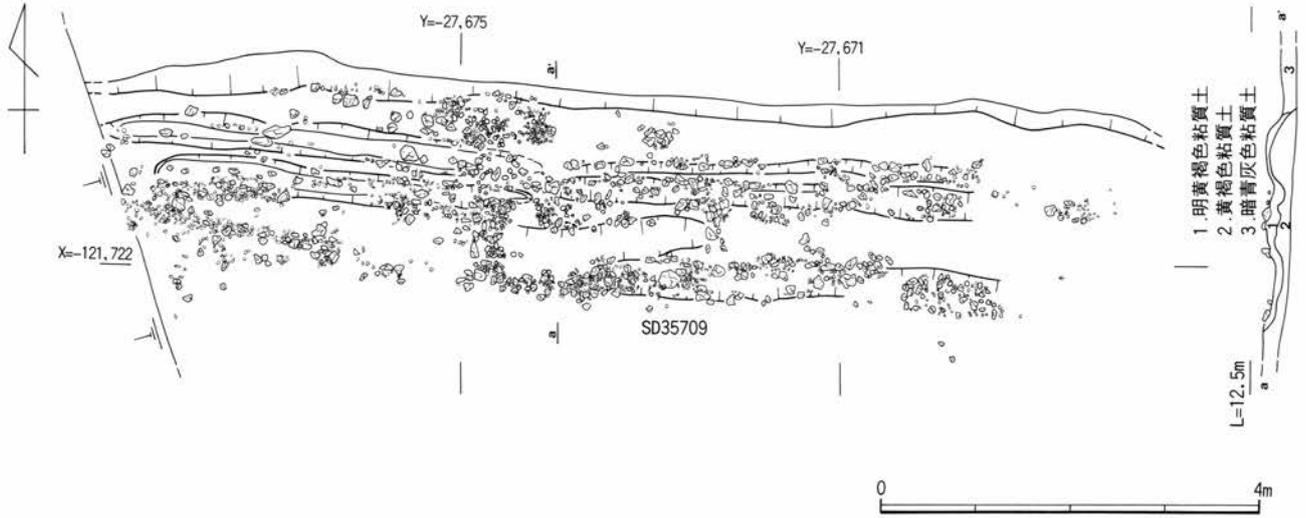


- 1. 焼土
- 2. 淡茶褐色土(住居跡の埋土)

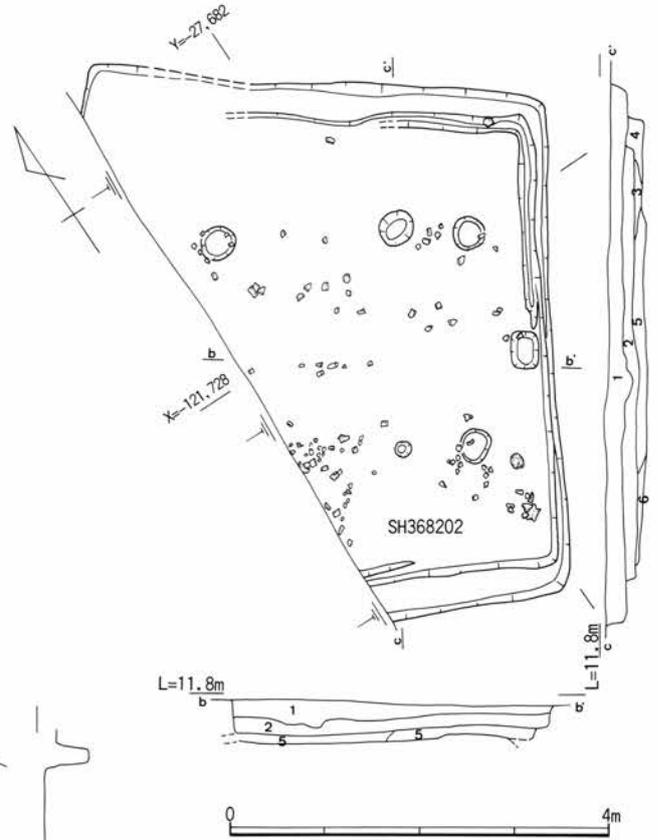




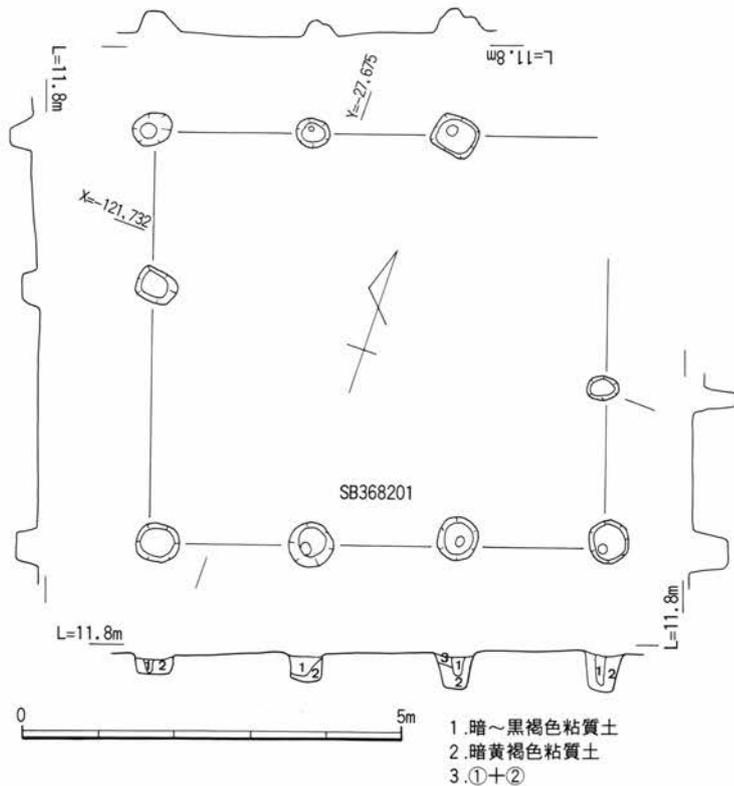
C-1 トレンチ遺構実測図



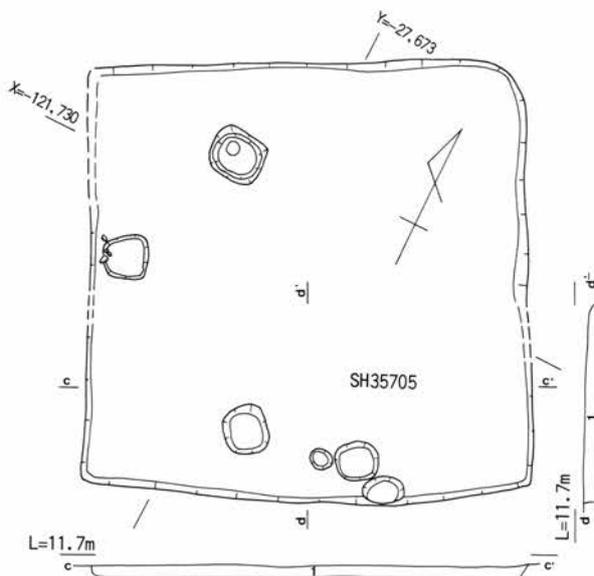
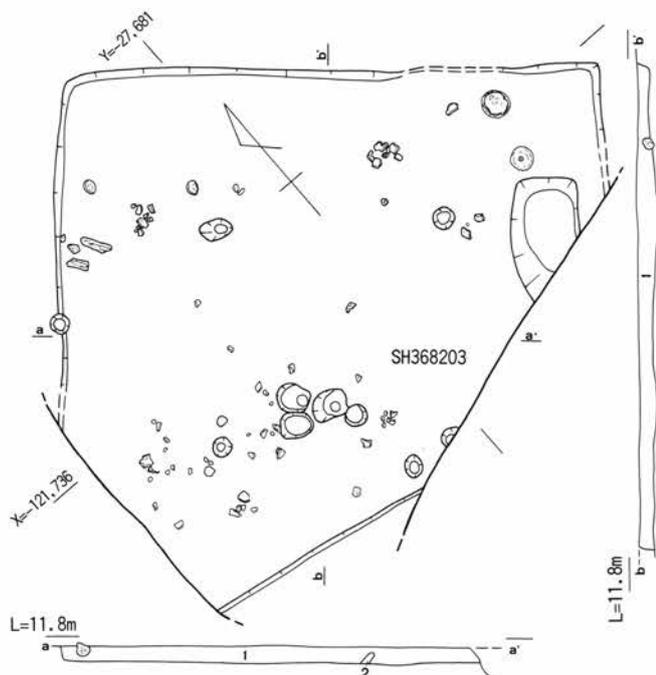
1. 暗黄褐色+暗灰褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土(小~中礫少し含む)
3. 暗青灰色シルト



1. 暗灰褐色粘質土、黄褐色砂質土混 (φ1~5cm礫多く含む)
2. 暗青灰褐色粘質土(φ1~5cm礫多く含む)
2. 暗青灰色粘質土(礫少ない)
3. 暗青灰色粘質土
4. 黄褐色シルト+一部③含む
5. 青灰褐色粘質土
5. 淡緑灰色粘質土
6. 暗青灰色砂礫(地山か)

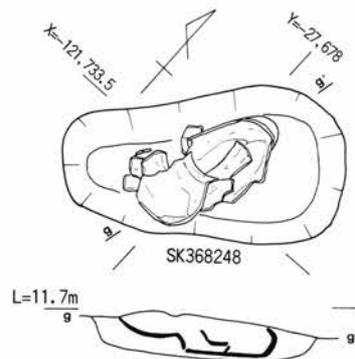
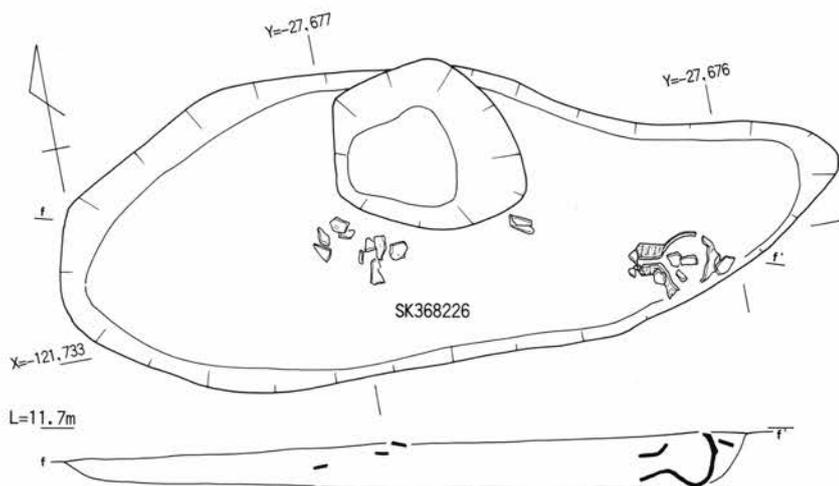
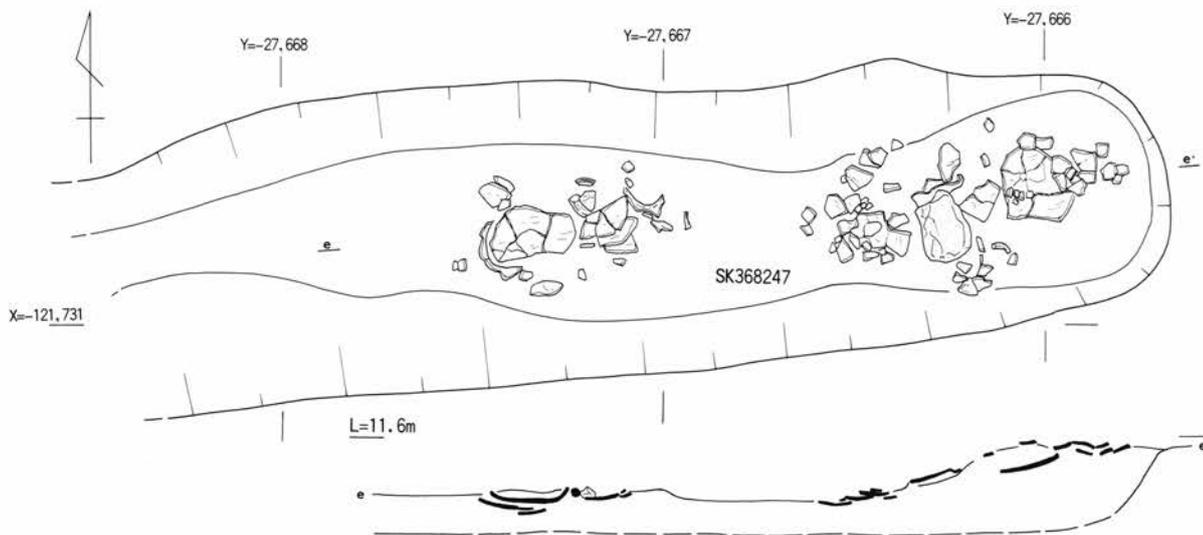


1. 暗~黒褐色粘質土
2. 暗黄褐色粘質土
3. ①+②

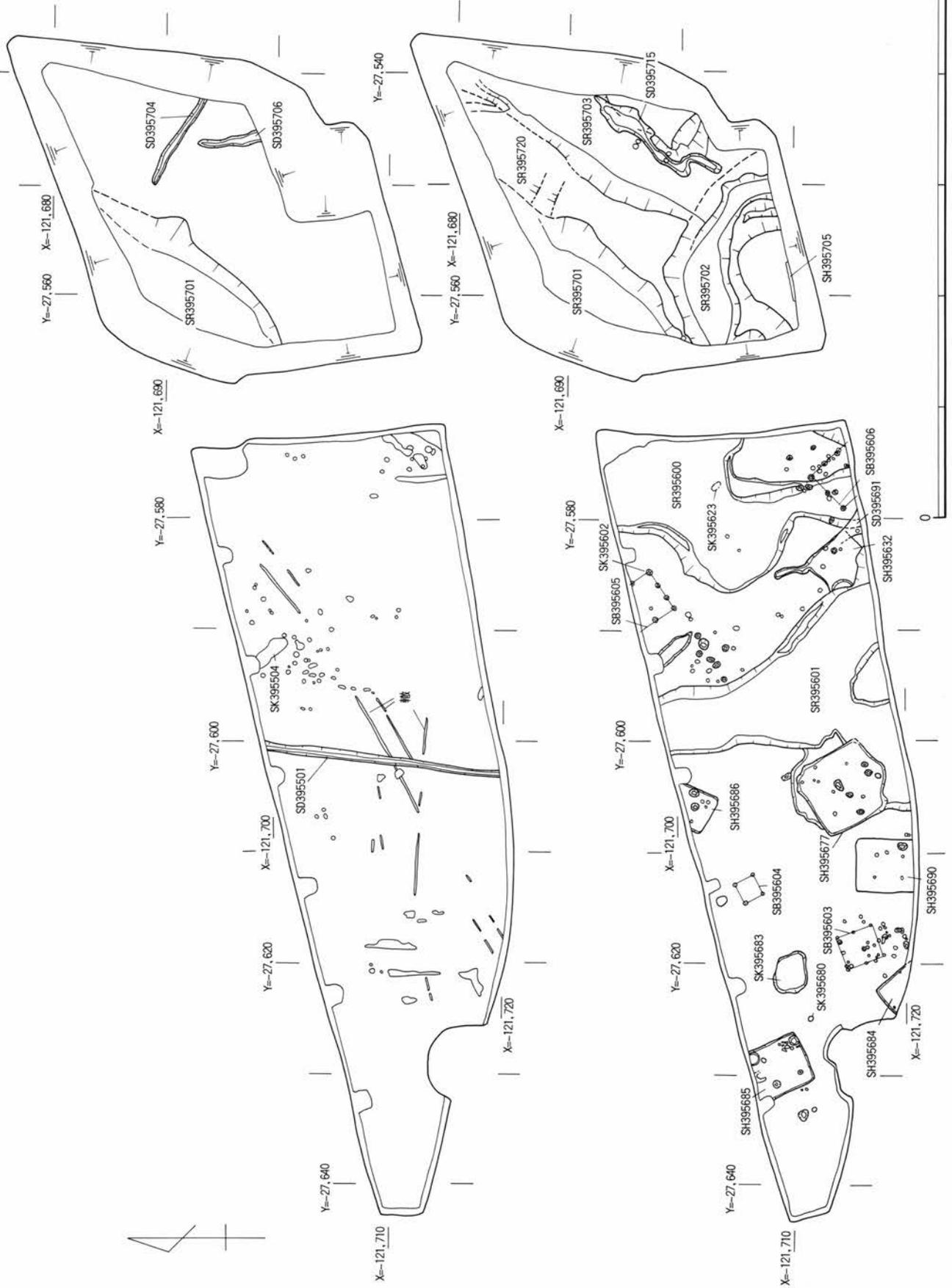


1. 黄褐色シルト+暗褐色シルト一部含む
(地山ときわめて似ており、区別しにくい)

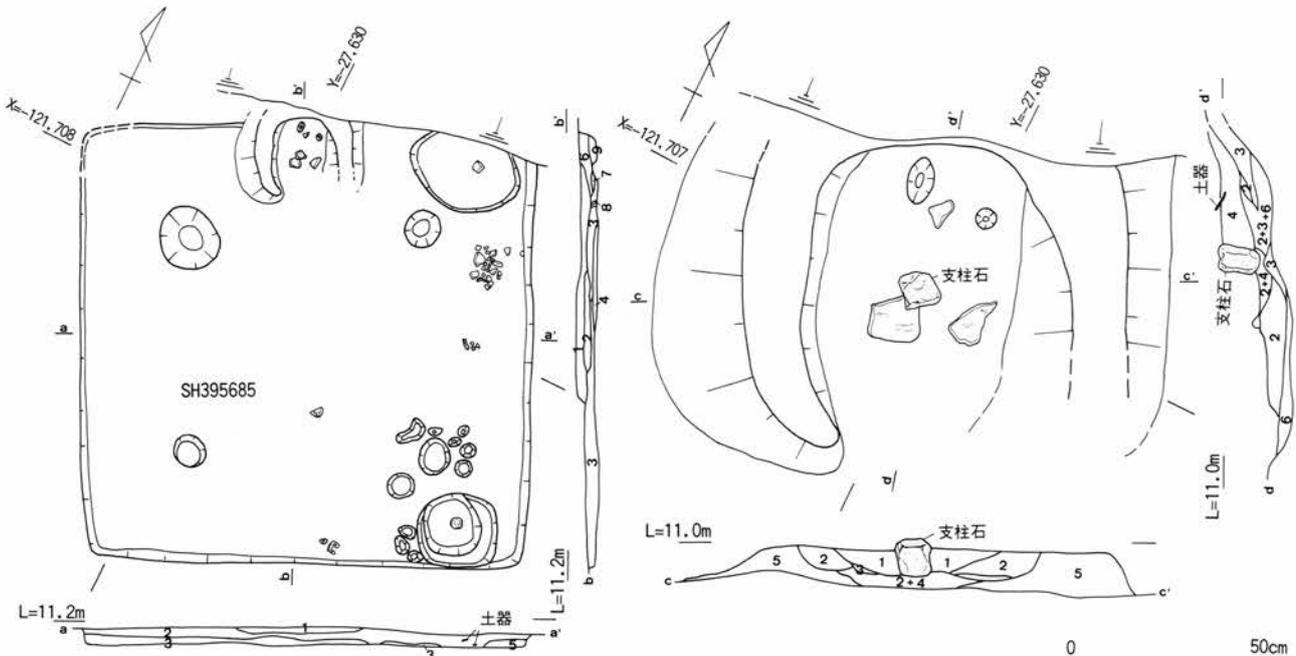
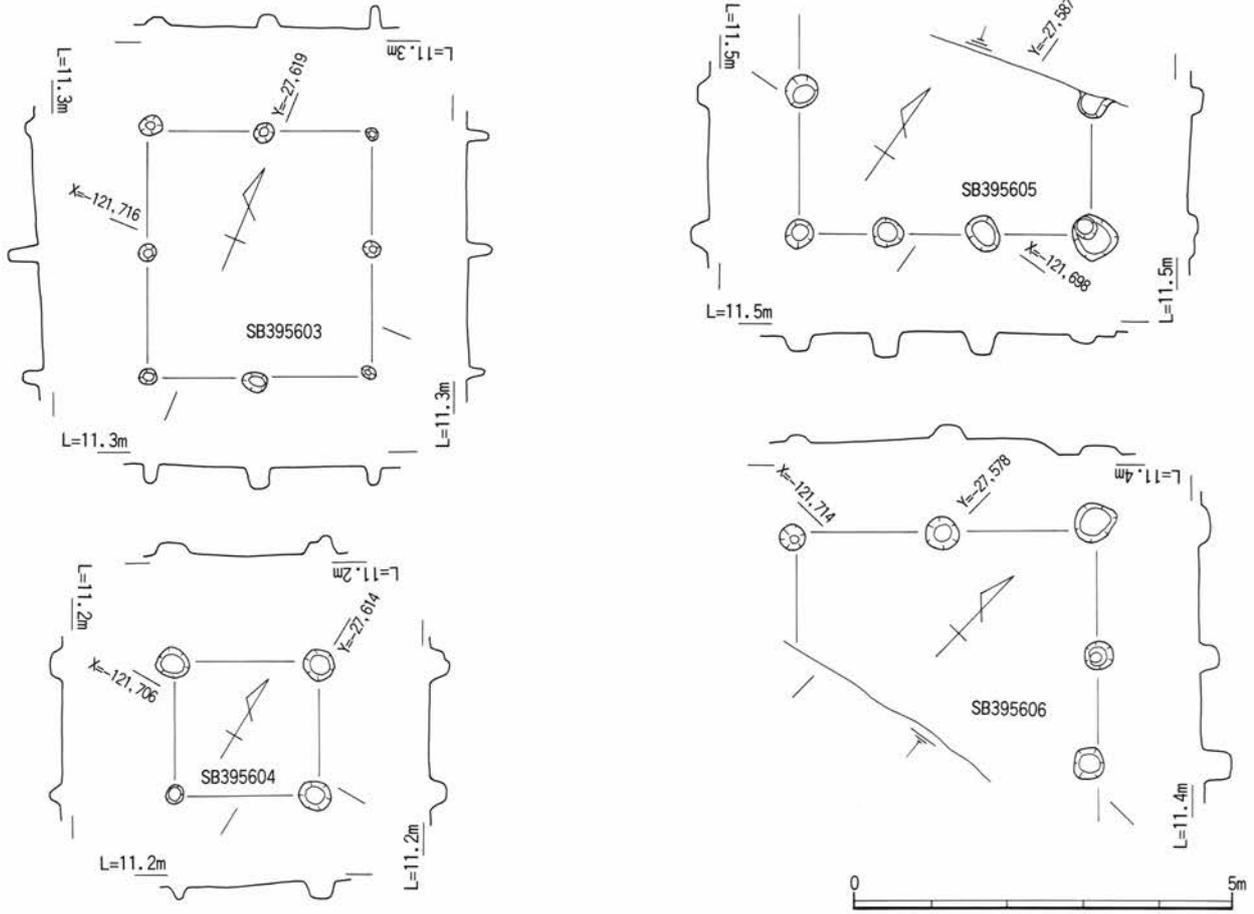
- 1. 暗褐色粘質土 φ1~10cmの礫含む(炭多く含む)
- 2. 黄褐色シルト



C-1 トレンチ SH368203・SH35705・SK368247・SK368226・SK368248



C-2・C-4 a トレンチ遺構実測図

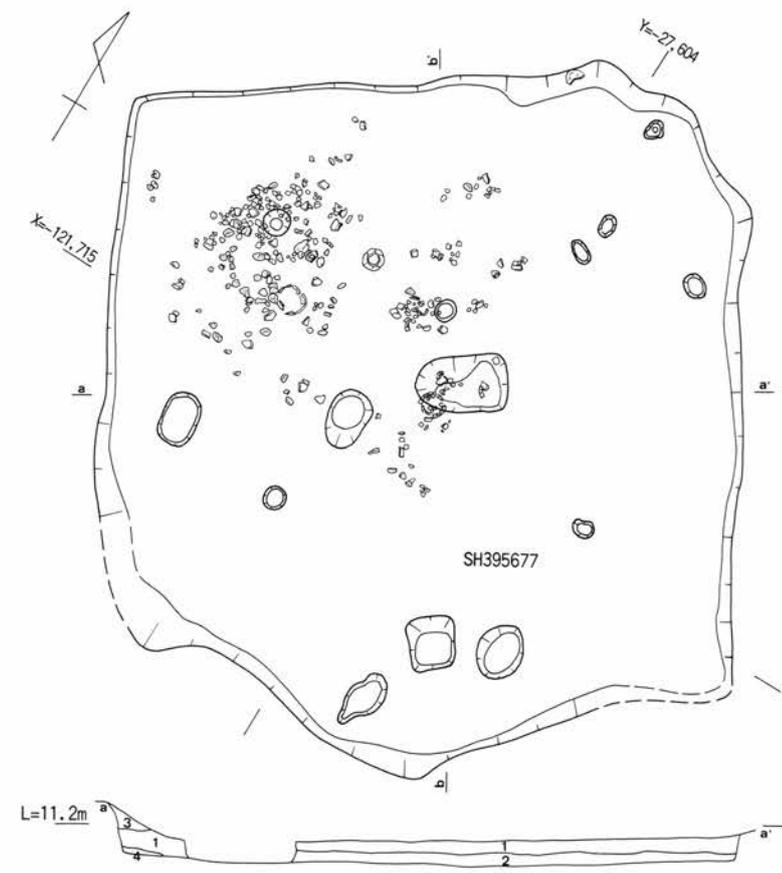


- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 暗灰褐色粘質土(細~小礫含む) | 6. 暗黄灰色粘質土 |
| 2. 暗褐色粘質土(細~小礫含む) | 7. 焼土 |
| 3. 暗灰色粘質土 | 8. 灰色シルト |
| 4. 灰黄色細砂 | 9. 暗灰黄色砂質土 |
| 5. 暗灰黄色粗砂 | |

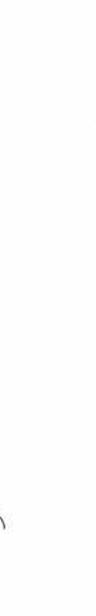
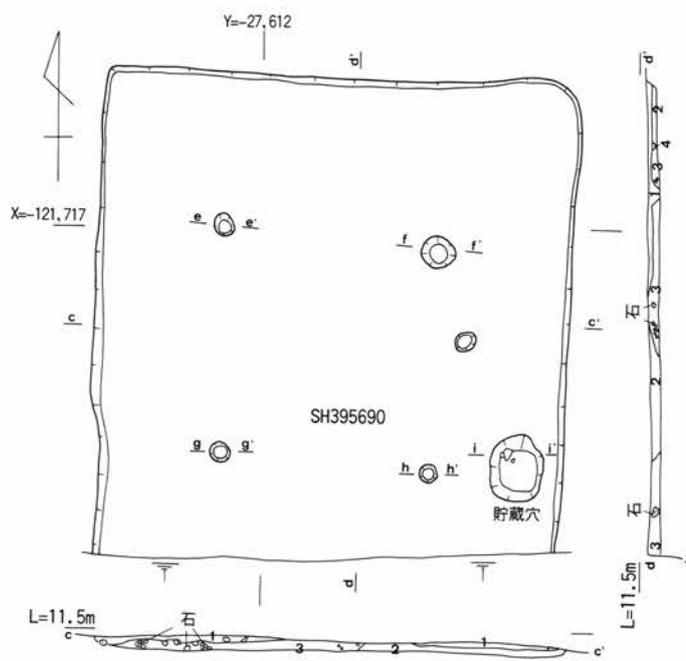
- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 暗黄褐色砂質土 | 4. 暗灰褐色粘質土 |
| 2. 焼土 | 5. 暗黄褐色砂質土 |
| 3. 灰色粘質土(灰) | 6. 黄褐色砂質土+暗褐色粘質土 |



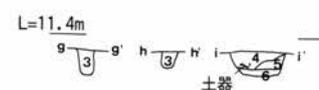
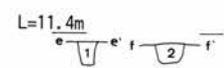
C-2 トレンチ SB395603・SB395605・SB395604・SB395606・SH395685



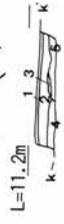
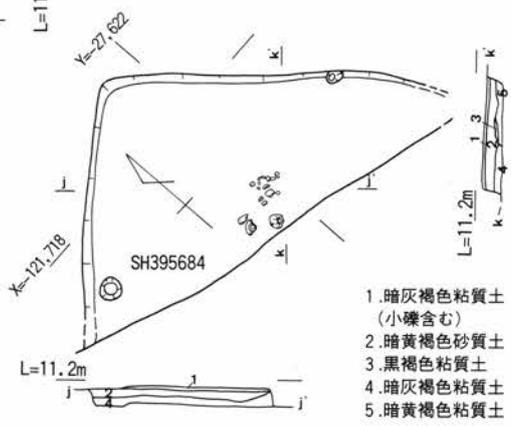
1. 暗褐色粘質土(暗黄褐色土一部含む)
 2. 暗灰褐色粘質土
 3. 灰褐色粘質土
 4. 暗黄~暗褐砂質土
 5. 黄褐色細砂
 6. 暗灰色シルト
- * 中央付近①と②の間に炭層はさむ



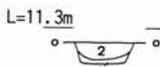
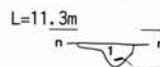
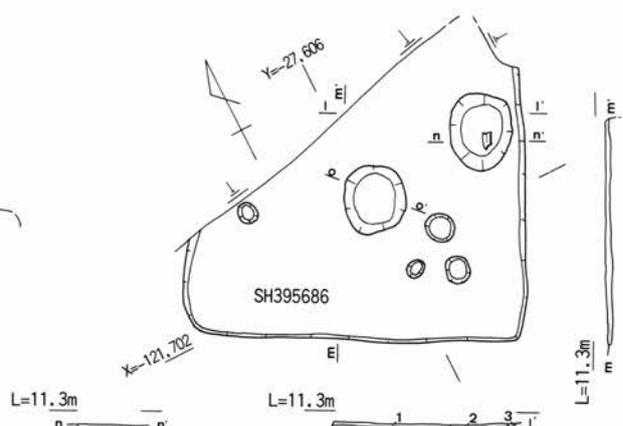
1. 黄灰色粘質土
2. 淡黄灰色粘質土
3. 灰黄褐色砂質土礫混じり
4. 暗灰色粘土



1. 暗灰褐色粘質土
2. 暗黄褐色粘質土
3. 灰黄色粘質土
4. 灰褐色粘質土
5. 黄褐色粘質土
6. 灰色粘質土

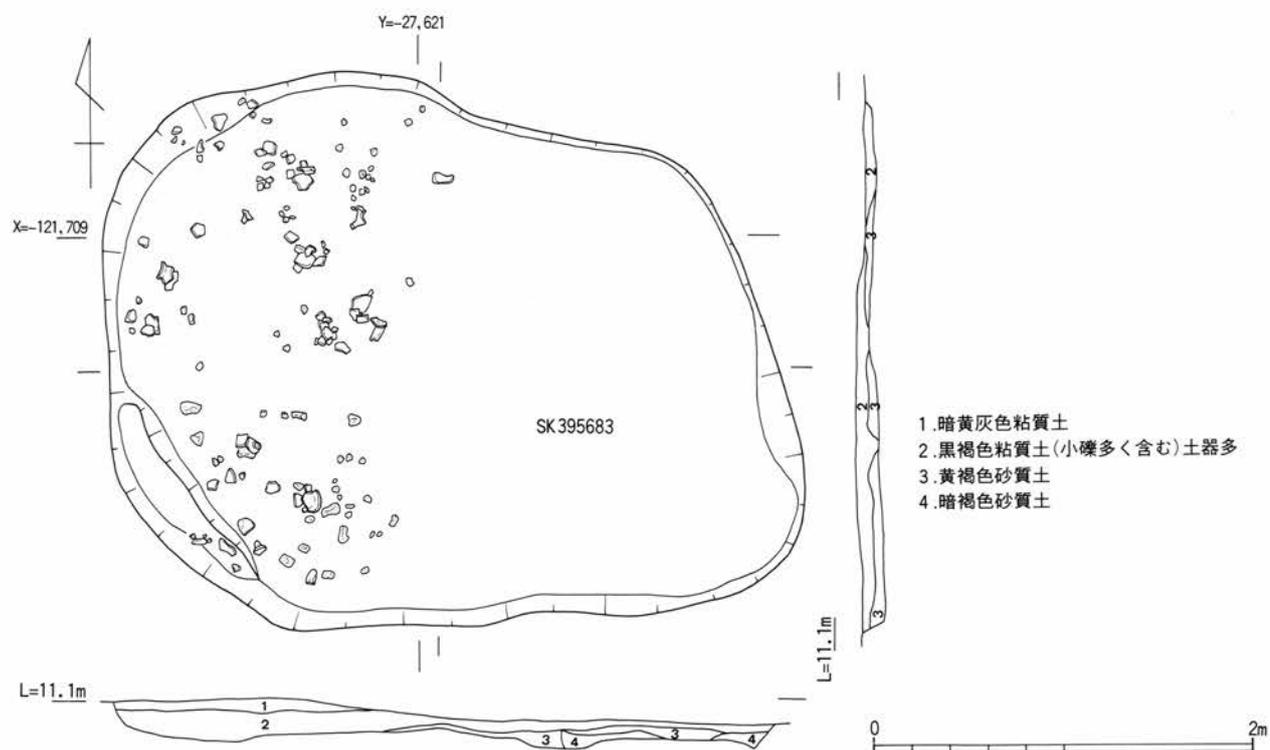
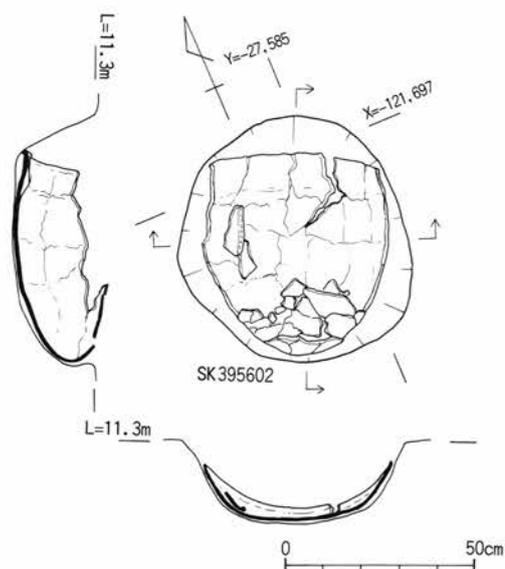
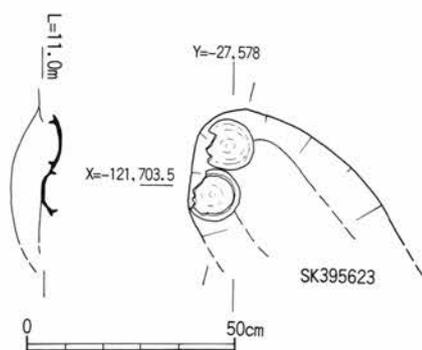
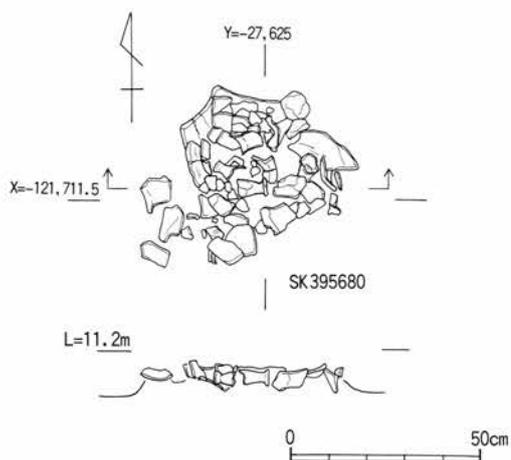
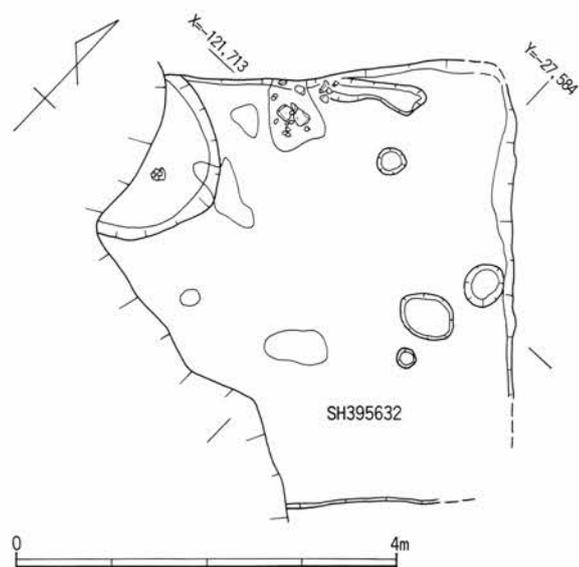


1. 暗灰褐色粘質土(小礫含む)
2. 暗黄褐色砂質土
3. 黒褐色粘質土
4. 暗灰褐色粘質土
5. 暗黄褐色粘質土



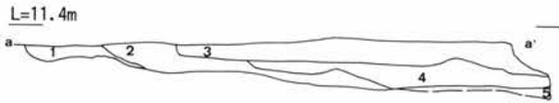
1. 暗灰色粘質土
2. 暗灰色粘質土(暗赤褐色ブロック、焼土)
3. 暗灰色シルト

1. 黄褐色粘質土(暗灰色粘質土)
2. 暗灰色粘質土
3. 灰色粘質土

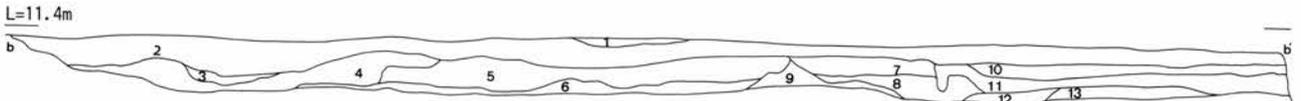
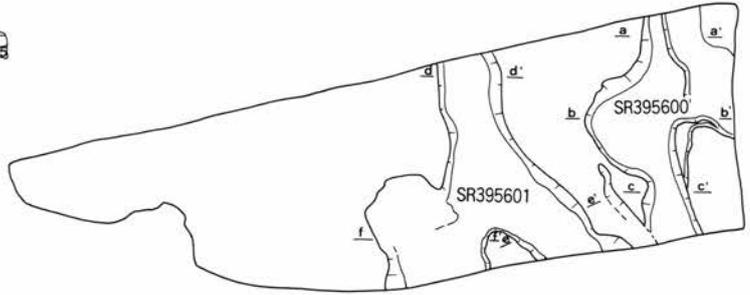


- 1. 暗黄灰色粘質土
- 2. 黒褐色粘質土(小礫多く含む)土器多
- 3. 黄褐色砂質土
- 4. 暗褐色砂質土

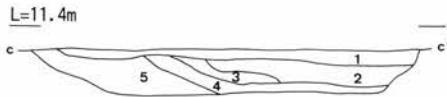
C-2 トレンチ SH395632・SK395680・SK395602・SK395623・SK395683



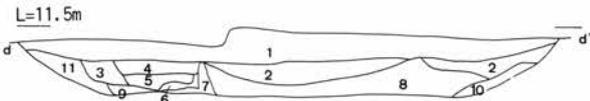
- 1. 灰黄色粘質土
- 2. 灰黄色 φ0.5~3cm大の礫を含む砂質土
- 3. 淡灰黄色細砂
- 4. 暗茶褐色粘質土
- 5. 暗灰色シルト



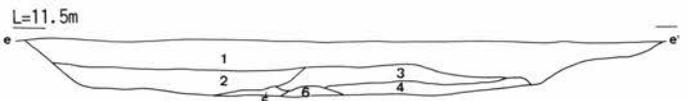
- 1. 灰黄色 φ1~5mm大の小礫
- 2. 淡灰黄色粘質土
- 3. 褐色粘質土
- 4. 暗茶褐色 φ1~4cmの礫を含む粗砂
- 5. 灰黄褐色粘質土
- 6. 暗茶褐色 φ2cm大の小石を含む粘質土
- 7. 灰黄褐色粘質土
- 8. 暗茶褐色粘質土
- 9. 暗灰褐色 φ1~4cm大の小石を含む粘質土
- 10. 灰黄褐色粘質土
- 11. 暗灰褐色粘質土
- 12. 灰褐色粘土
- 13. 暗灰褐色 φ2~9cm大の石を含む中砂



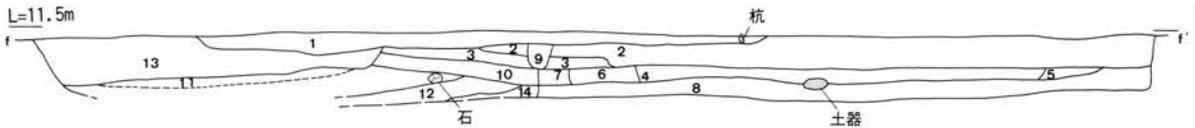
- 1. 淡灰黄色粘質土
- 2. 暗褐色粘質土(黄褐色粘質土含む)
- 3. 灰黄褐色 φ1~5mm小礫を含む粘質土
- 4. 暗茶褐色 φ2~6cm小礫を含む粘質土
- 5. 暗褐色粘質土



- 1. 淡灰黄色粘質土
- 2. 灰黄色粘質土
- 3. 暗灰黄色粘質土
- 4. 暗茶褐色砂質シルト
- 5. 暗灰褐色砂質土
- 6. 灰褐色砂質土
- 7. 灰褐色 φ8cm大の礫を含む粗砂
- 8. 暗茶褐色 φ1~9cm大の礫を多く含む砂質土
- 9. 暗灰褐色 φ1~5cm大の礫を多く含む砂質土
- 10. 黄褐色~灰黄色粗砂を含む粘質土
- 11. 灰黄色粘質土

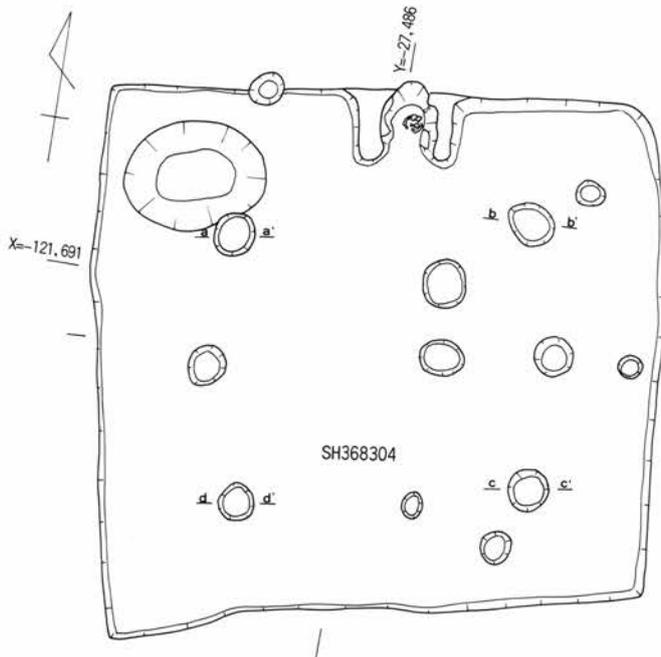
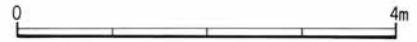
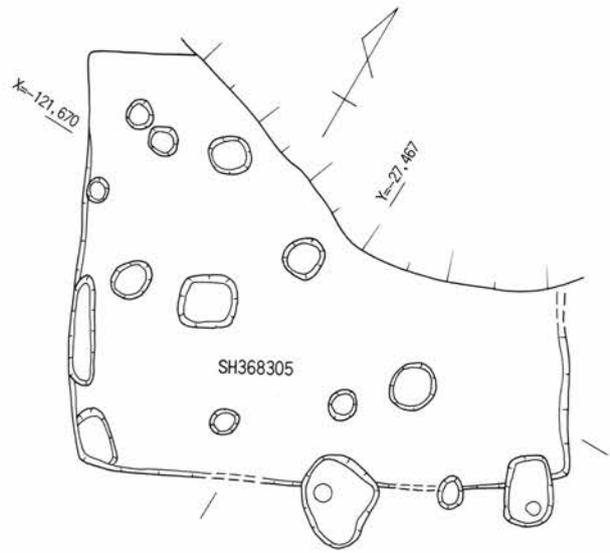
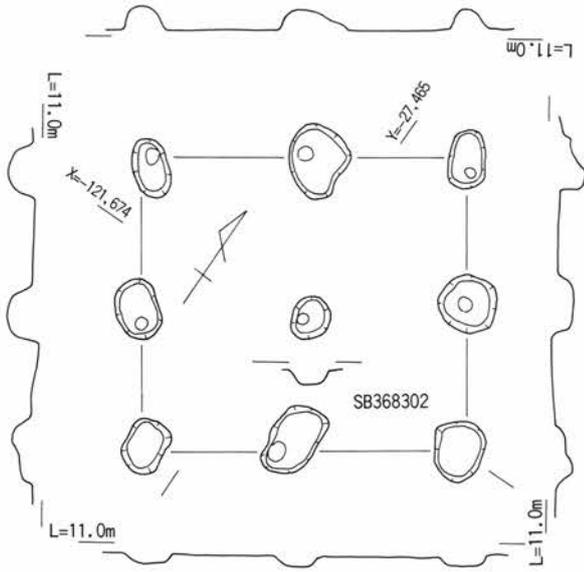


- 1. 淡黄灰色粘質土
- 2. 暗茶褐色粘質土
- 3. 淡黄灰色 φ1~2cm大の礫を含む砂質土
- 4. 灰黄褐色 φ1~4cm大の礫を多く含む粗砂
- 5. 灰褐色粘質土
- 6. 淡黄褐色砂質土

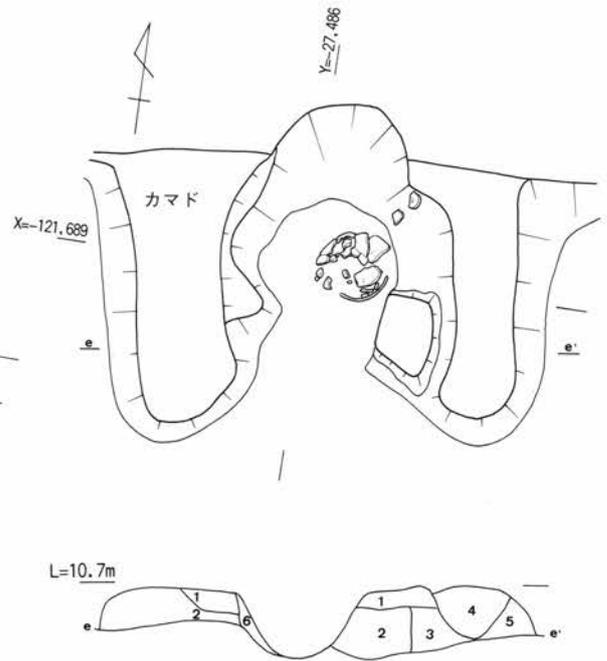


- 1. 黄灰褐色粘質土
- 2. 灰褐色粘質土
- 3. 黄灰褐色砂質土
- 4. 淡灰黄色粘質土
- 5. 灰褐色粘質土
- 6. 褐色粘質土
- 7. 暗黄褐色粘質土
- 8. 黒褐色粘質土
- 9. 灰褐色粘質土
- 10. 黄褐色砂質土
- 11. 灰色粗砂細礫~中礫
- 12. 褐色砂質土
- 13. 褐色砂細礫~中礫
- 14. 灰褐色粗砂





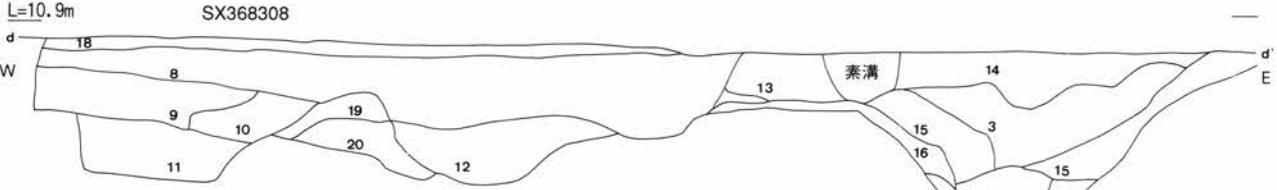
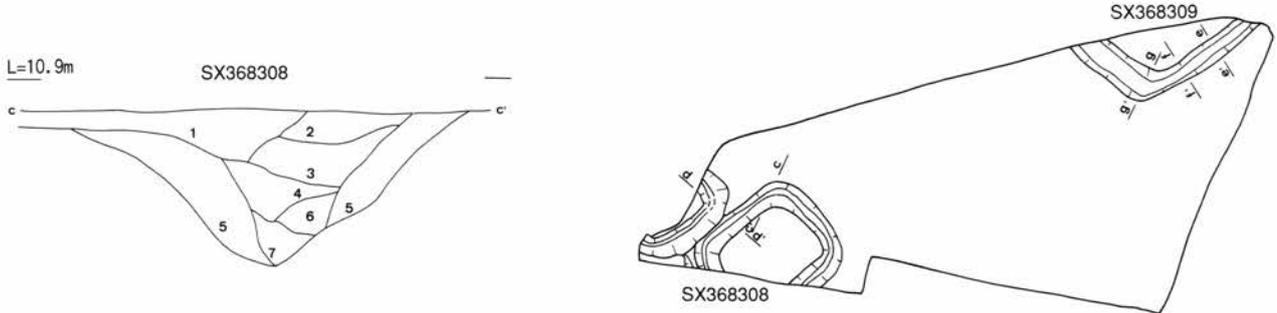
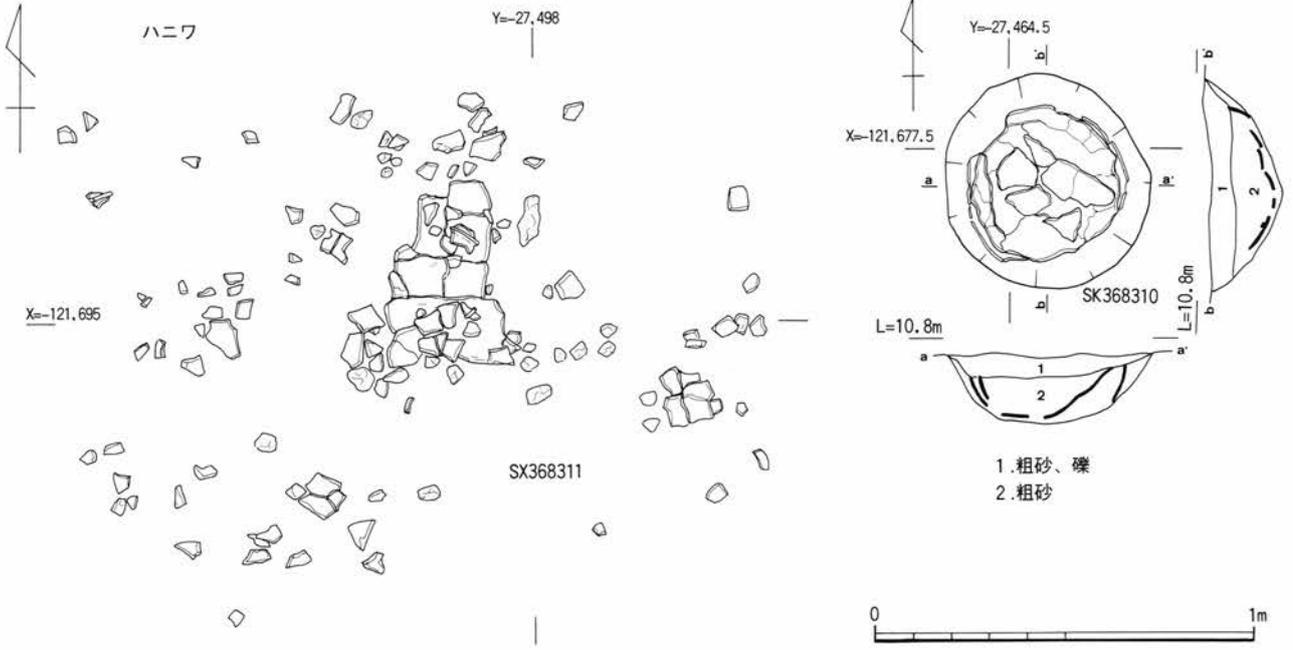
L=10.8m



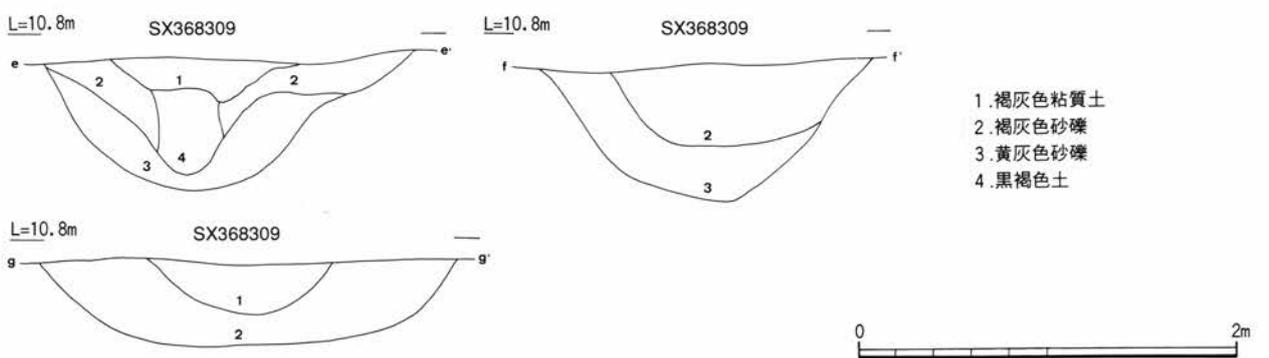
L=10.7m



1. 焼土、赤褐色
2. 灰色粗砂
3. 黄灰色粘砂
4. 暗褐色土
5. 灰色砂礫
6. 焼土(炭)

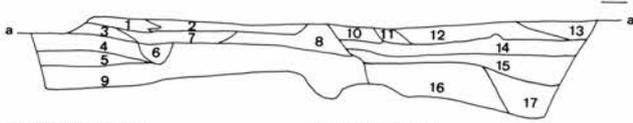


- | | | |
|---------------|-----------------|-----------------|
| 1. 暗褐色土 | 8. 暗褐色土拳大礫混じり | 15. 茶褐色粘質土粗砂混じり |
| 2. 黒褐色土黄色土混じり | 9. 砂礫 | 16. 黄灰色粘質土 |
| 3. 砂礫混じり | 10. 黄色土混じり | 17. 黄灰色粘性土 |
| 4. 砂礫 | 11. 茶褐色粘質土砂質混じり | 18. 黄灰色土(中世) |
| 5. 暗褐色粗砂礫 | 12. 砂礫混じり | 19. 褐色砂礫 |
| 6. 砂礫 | 13. 黒褐色土 | 20. 灰色粗砂 |
| 7. 灰色砂礫 | 14. 粗砂礫混じり | |

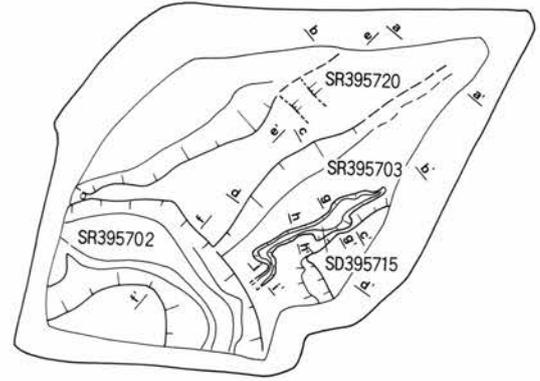


C-3 トレンチ SX368311・SK368310・SX368307・SX368308・SX368309

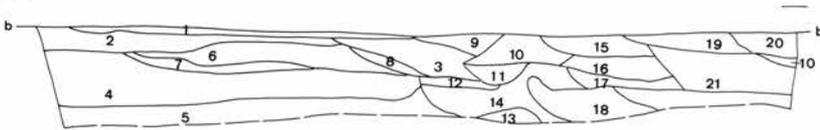
L=10.8m



- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. 淡灰褐色粘質土 | 10. 灰褐色粘質土 |
| 2. 灰褐色粗砂 (φ 5 mmの細礫を含む) | 11. 暗灰褐色 (φ 1 cm大の細礫を含む粘質土) |
| 3. 明灰褐色粘質土 | 12. 褐色粗砂 |
| 4. 灰褐色中砂 | 13. 褐色細礫 |
| 5. 灰色粗砂~細礫 | 14. 灰褐色粘質土 |
| 6. 明灰褐色 (φ 3 cm大の礫) | 15. 暗灰褐色細砂~粘質土 |
| 7. 灰褐色粘質土~細礫 | 16. 暗灰色粗砂 |
| 8. 灰褐色 (φ 1~3 cm大の礫) | 17. 暗灰色 (φ 1~3 cm大の礫) 粘質土 砂礫 |
| 9. 暗灰色 (φ 2~3 cm大の礫を含む粘質土) 砂礫 | |

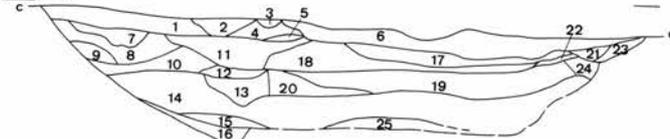


L=10.8m



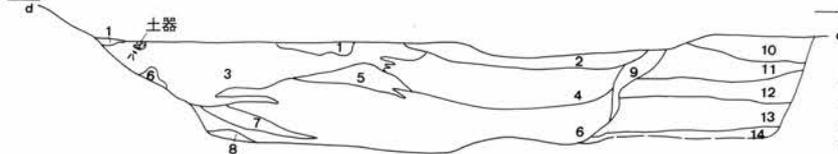
- | | | | |
|--------------------------|------------------------|---------------------|-------------------------------|
| 1. 明黄褐色粗砂 | 7. 暗青灰色粗砂 | 13. 暗灰色粘土 | 19. 明褐色粗砂 (φ 0.5~1 cm大の小礫混じり) |
| 2. 灰色粘質土~細砂 | 8. 褐色粘質土 | 14. 灰黄色粗砂 | 20. 暗茶褐色粗砂 (φ 2 cm大の礫を含む) |
| 3. 灰色細砂 | 9. 灰褐色粘質土 | 15. 灰褐色粘質土 | 21. 灰褐色 (φ 4 cm大の小礫) |
| 4. 灰色細礫 (φ 4 cm大の礫を多く含む) | 10. 灰褐色粗砂 | 16. 灰褐色粘質土 | 22. 灰色 (φ 4 cm大の小礫) |
| 5. 淡灰黄色粗砂~暗青灰色粗砂 | 11. 灰褐色 (φ 1~3 cm大の小礫) | 17. 灰色 (φ 5 mm大の小礫) | |
| 6. 灰褐色 (φ 0.5~1 cm大の小礫層) | 12. 暗灰色粗砂 | 18. 灰褐色 (φ 4 cm大の礫) | |

L=10.8m



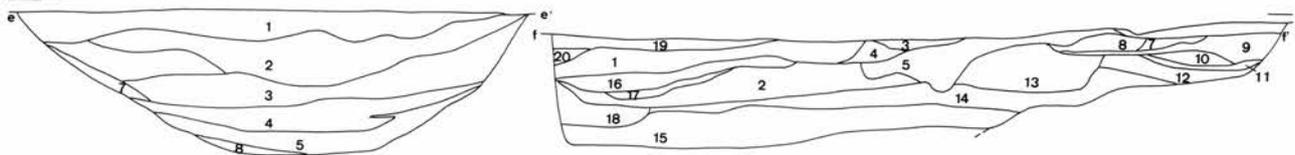
- | | | |
|--------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 1. 暗灰褐色粘質土 | 10. 灰褐色中砂 | 18. 暗灰色中砂 |
| 2. 明灰褐色粘質土 | 11. 青灰褐色粘質土 | 19. 淡灰褐色 φ 1~2 cm 大の小礫混じり粗砂 |
| 3. 暗灰色細砂 | 12. 淡灰褐色 φ 1 cm大の小礫 | 20. 淡灰黄色中砂 |
| 4. 暗灰褐色粘質土 | 13. 青灰褐色粘土 | 21. 灰褐色細砂 |
| 5. 暗灰褐色細砂 | 14. 灰褐色粗砂 φ 2 cm 大の礫を多く含む | 22. 暗青灰色粘土 |
| 6. 灰褐色小礫 φ 2 cm 大の礫を多く含む | 15. 灰褐色粗砂 | 23. 灰褐色 φ 3 cm 大の小礫を含む粘質土 |
| 7. 灰黄褐色粘質土 | 16. 淡灰褐色粗砂 | 24. 暗青灰色細砂 |
| 8. 暗灰色細砂 | 17. 暗灰色粗砂混じり粘質土 | 25. 淡青灰色中砂 |
| 9. 青灰褐色粘土 | | |

L=10.8m



- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 暗赤褐色粗砂 | 8. 淡青褐色細砂 |
| 2. 暗赤褐色細礫~小礫 | 9. 暗青灰色シルト |
| 3. 暗灰色細礫~粗砂 | 10. 青灰色 (一部暗赤褐色) シルト |
| 4. 暗灰色粗砂~細礫 | 11. 暗赤褐色砂礫 |
| 5. 暗灰色粗砂~細礫 | 12. 暗灰色粗砂 |
| 6. 暗灰色粗砂~中礫 | 13. 暗黄褐色粗砂小~中礫 |
| 7. 暗灰色粗砂 | 14. 青灰色粗砂 |

L=10.8m



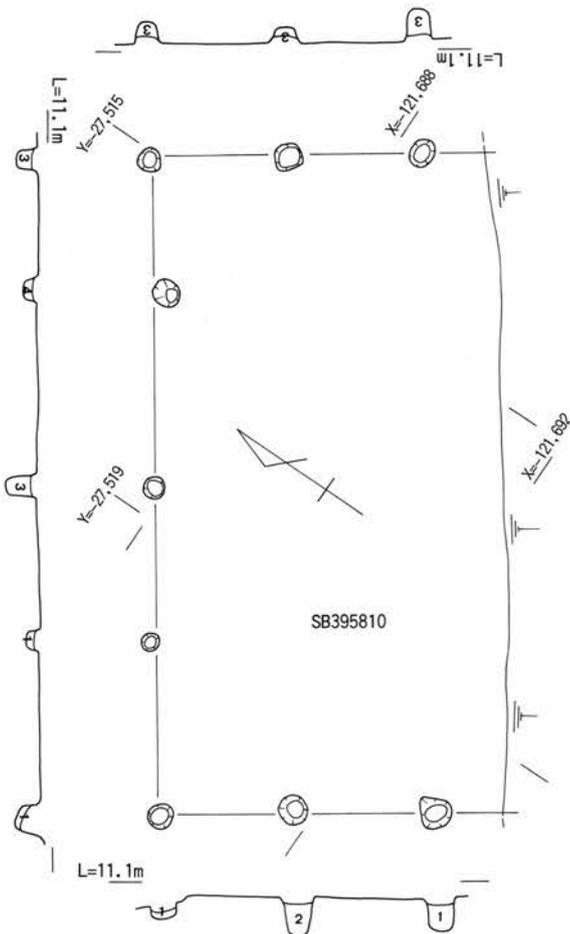
- | | | | | |
|---|------------------------------|-------------|--------------------------|------------------------------|
| 1. 灰褐色粘質土 | 5. 暗褐色シルト | 1. 灰色粘質土~細砂 | 8. 灰褐色 (φ 3 cm大の礫) | 15. 淡青褐色 (φ 2 cm大の礫を多く含む中砂) |
| 2. 灰褐色 (φ 2~6 cm大の礫層) | 6. 灰褐色 (φ 0.5~1 cm大の小礫を含む粗砂) | 2. 灰色砂礫 | 9. 暗灰色粘質土 | 16. 暗灰色粗砂~細砂 |
| 3. 灰褐色 (φ 2~3 cm大の小礫を含む) (φ 0.5~2 cm大の小礫) | 7. 灰褐色 (φ 0.5~2 cm大の小礫) | 3. 明灰褐色細礫 | 10. 明灰褐色 (φ 5 mmの細礫) | 17. 暗灰色粗砂~中砂 |
| 4. 灰褐色の中砂 | 8. 灰褐色 (φ 5 mm大の小礫) | 4. 灰色細礫 | 11. 暗灰色粘質土 | 18. 淡緑灰色 (φ 3 cm大の礫を含む細砂~粗砂) |
| | | 5. 暗灰色粘質土 | 12. 灰褐色粘質土 | 19. 暗褐色 |
| | | 6. 暗灰褐色粘質土 | 13. 明灰褐色 (φ 2~5 cm大の礫層) | 20. 暗青褐色粘質土~細砂 |
| | | 7. 灰褐色細砂 | 14. 緑灰色 (φ 5 cm大の礫を含む細砂) | |

L=10.6m

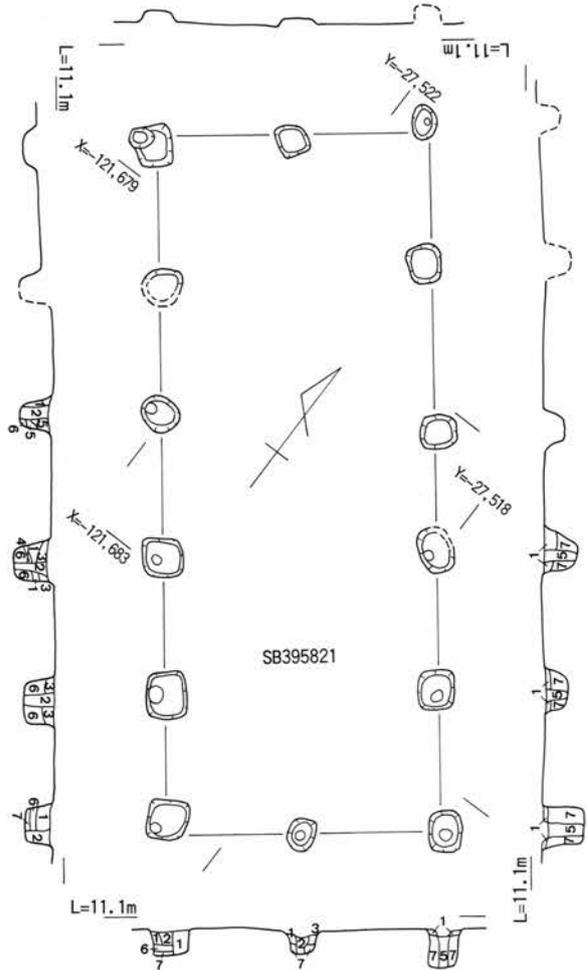


- | |
|--------------|
| 1. 青灰褐色粗砂粘質土 |
| 2. 暗青灰色粘土 |

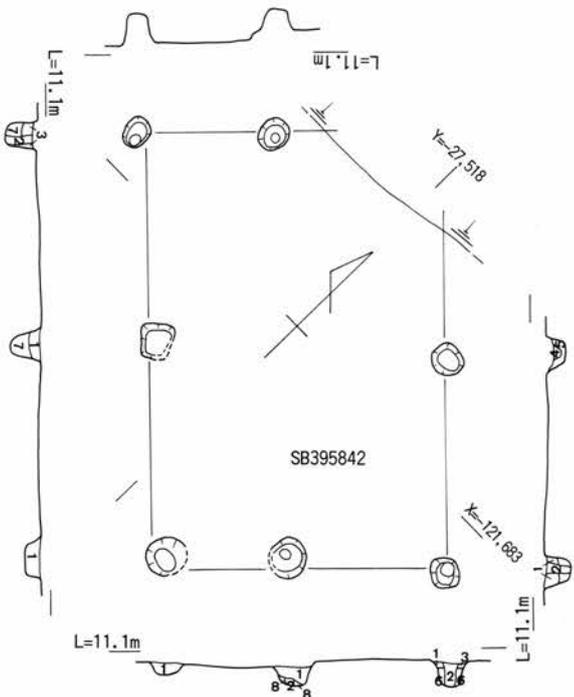




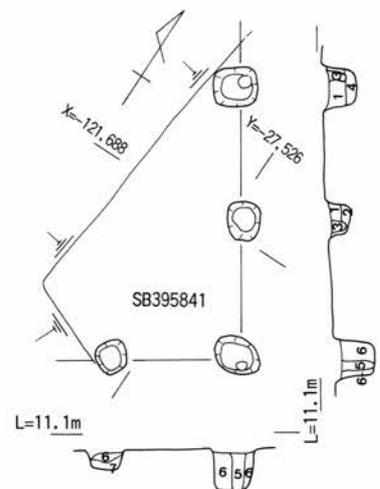
- 1. 暗灰褐色粘質土(炭含む)
- 2. 地山ブロック炭含む
- 3. 暗褐色粘質土
- 4. 黄褐色粘質土



- 1. 暗褐色粘質土
- 2. 灰褐色粘質土
- 3. 灰褐色粘質土
- 4. 暗灰色粘質土
- 5. 暗褐色粘質土
- 6. 黄褐色粘質土、褐色粘質土(黄褐色粘質土含む)
- 7. 褐色粘質土



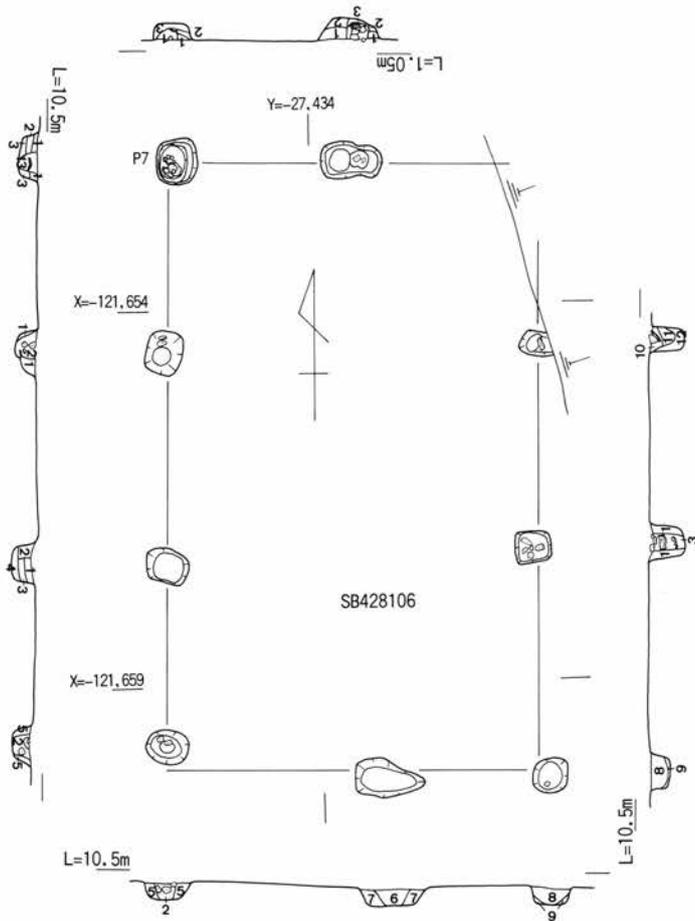
- 1. 暗褐色粘質土
- 2. 灰褐色粘質土
- 3. 灰褐色粘質土、黄褐色粘質土
- 4. 暗褐色粘質土
- 5. 暗灰褐色砂礫
- 6. 黒褐色粘質土
- 7. 黄褐色粘質土(地山)、褐色粘質土
- 8. 褐色粘質土



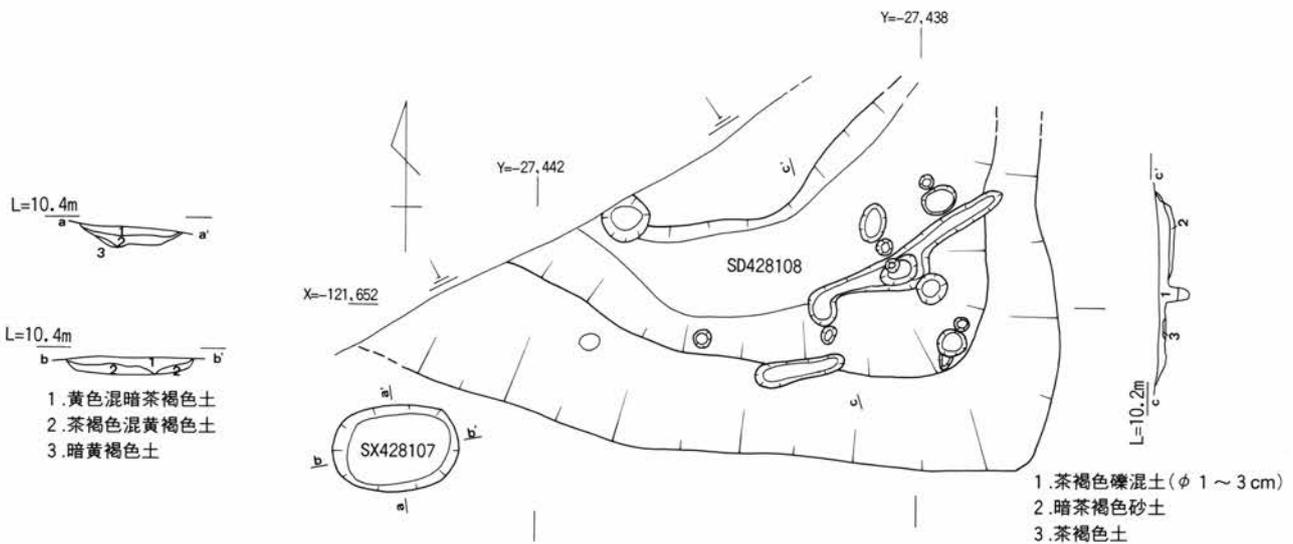
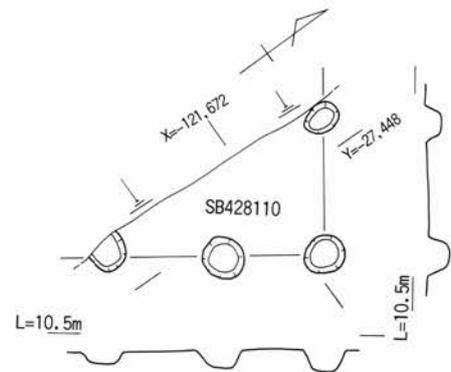
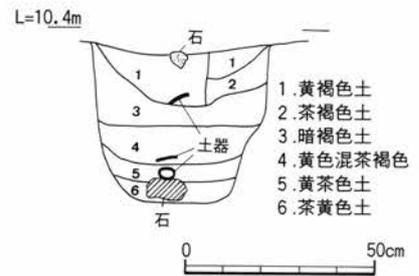
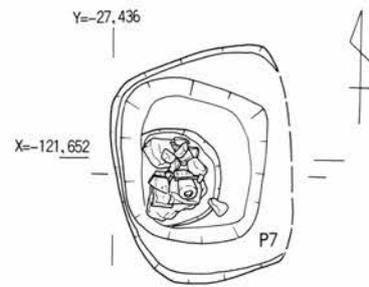
- 1. 暗褐色粘質土
- 2. 暗褐色粘質土(地山ブロック含む)
- 3. 灰褐色粘質土
- 5. 暗灰色粘質土
- 6. 暗灰色粘質土(炭少し含む)
- 7. 黄灰褐色粘質土



C-4 b・C-4 c トレンチ SB395810・SB395821・SB395841・SB395842

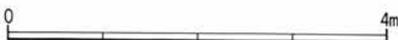


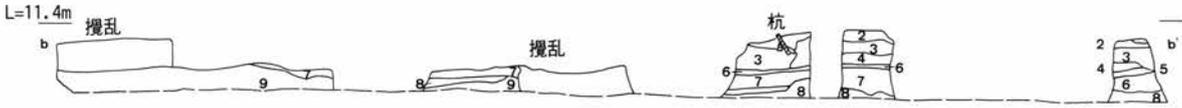
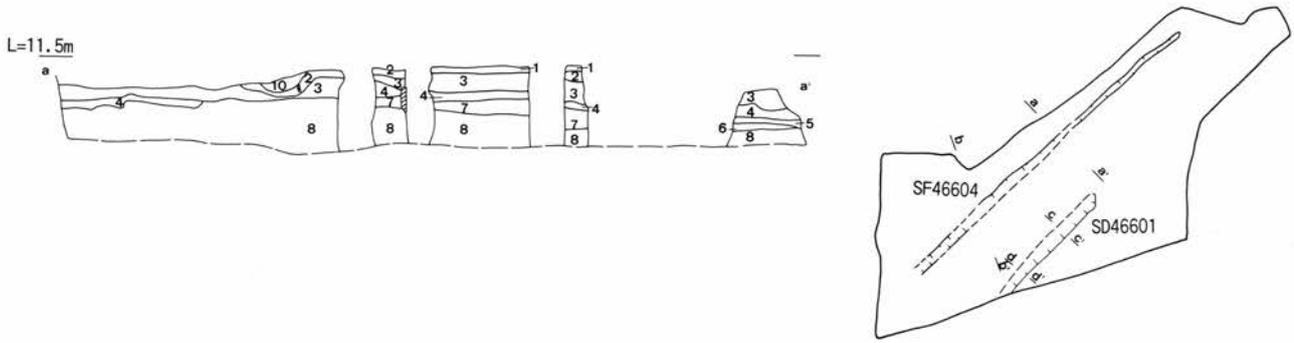
- 1. 黄褐色土
- 2. 茶褐色土
- 3. 暗褐色土
- 4. 灰色混茶褐色土
- 5. 暗褐色砂礫 (φ 0.2 ~ 3 cm)
- 6. 灰褐色砂礫 (礫が密)
- 7. 青灰色砂礫
- 8. 茶褐色砂礫 (φ 0.3 ~ 3 cm)
- 9. 灰褐色砂礫
- 10. 淡茶褐色土
- 11. 黄茶色土
- 12. 茶黄色土



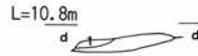
- 1. 黄色混暗茶褐色土
- 2. 茶褐色混黄褐色土
- 3. 暗黄褐色土

- 1. 茶褐色礫混土 (φ 1 ~ 3 cm)
- 2. 暗茶褐色砂土
- 3. 茶褐色土

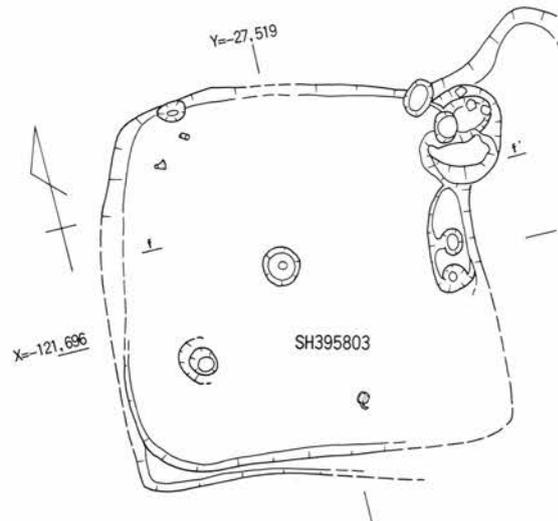
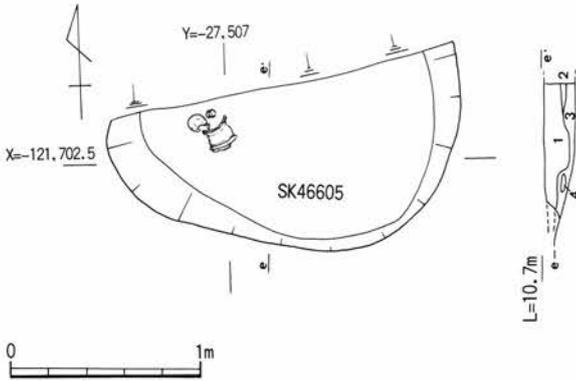




- 1. 黄褐色砂質土
- 2. 灰褐色粘質礫(φ 3~7 cm円礫多)
- 3. 黄色砂礫(φ 1~2 cm円礫)
- 4. 暗灰褐色粘質礫(φ 2~4 cm円礫)
- 5. 褐色粘質砂礫(φ 2~4 cm円礫)
- 6. 褐色砂礫(φ 3~5 cm円礫)
- 7. 暗褐色粘質土(マンガン多く含む)
- 8. 黄褐色粘質土
- 9. 明灰色シルト、暗灰色シルト粘質土層
- 10. 灰色粘質礫(φ 10~5 cm)



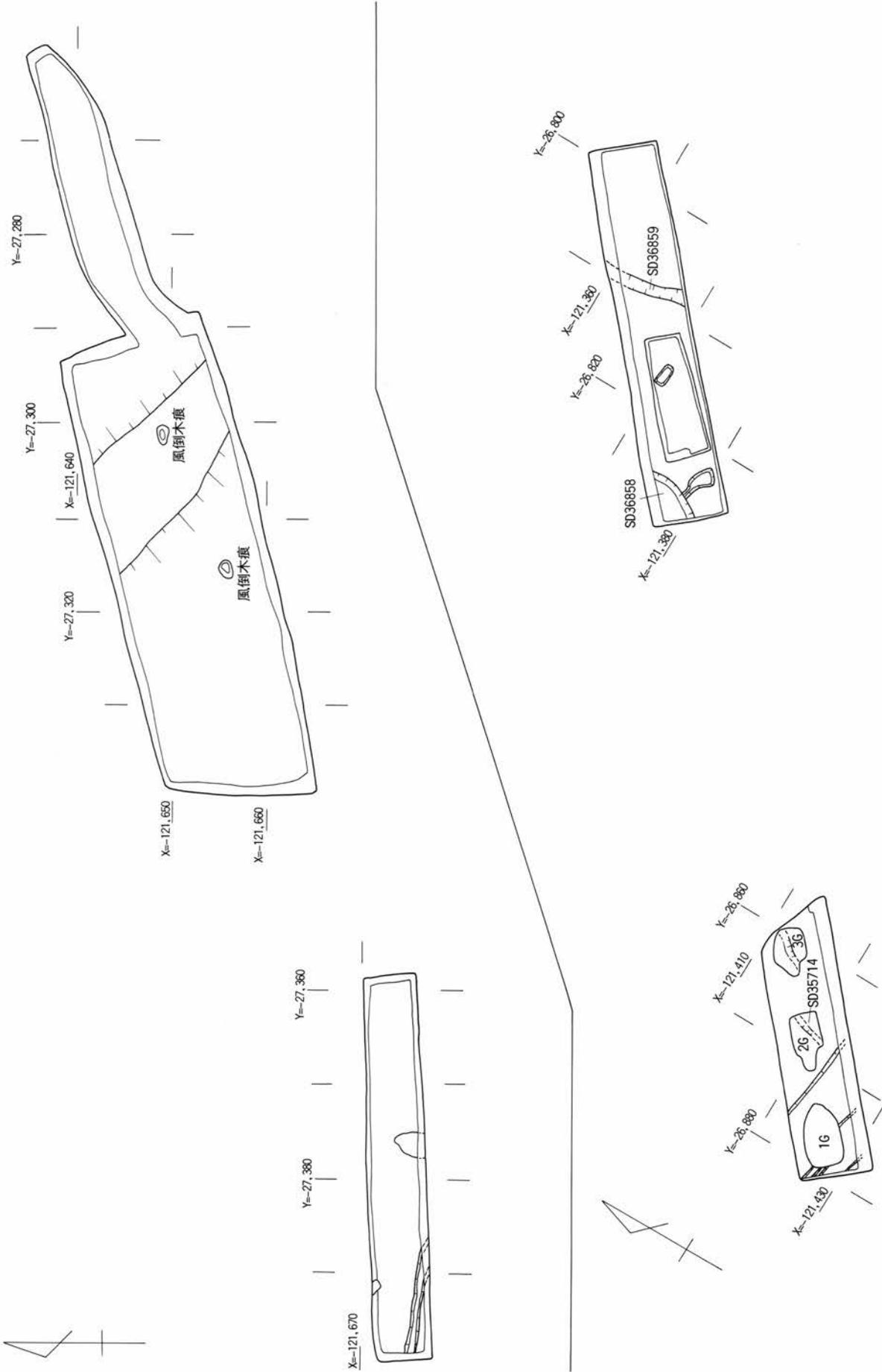
- 1. 灰色粘質土
- 2. 黄褐色粘質土



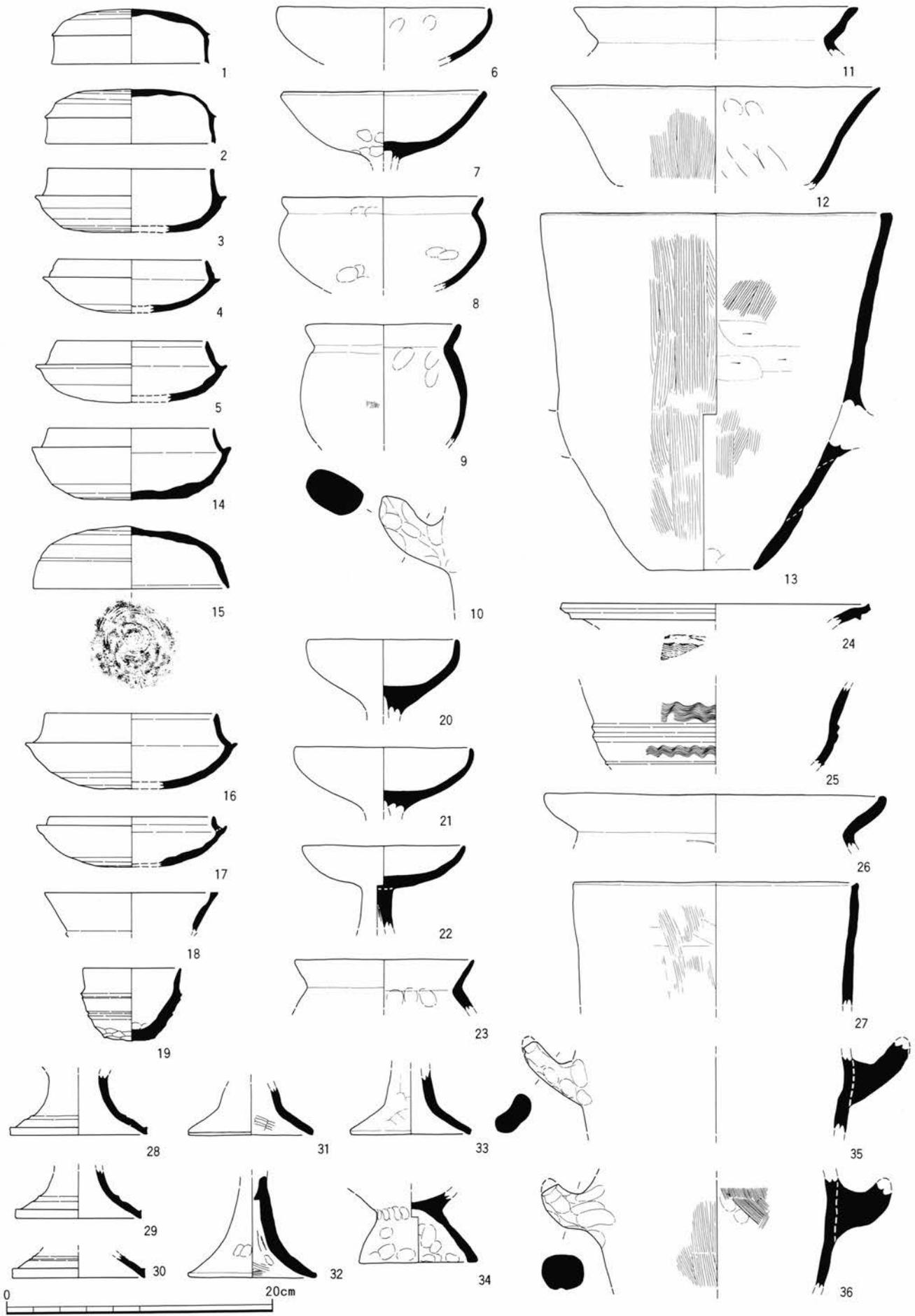
- 1. 暗灰色粘質土φ 5~10mmの砂礫を少量含む
(しまりはよい、粘性はあまりない)
- 2. 黒灰色炭わら(しまり、粘性はほとんどなし)
- 3. 黒色炭わら(しまり、粘性はほとんどなし)
- 4. 白色炭わら(しまり、粘性なし)



- 1. 褐色粘質土
- 2. 暗褐色粘質土(シルト)
- 3. 暗灰色粘質土 > ブロック
褐色粘質土
- 4. 褐色粘質土 > ブロック
黄褐色粘質土

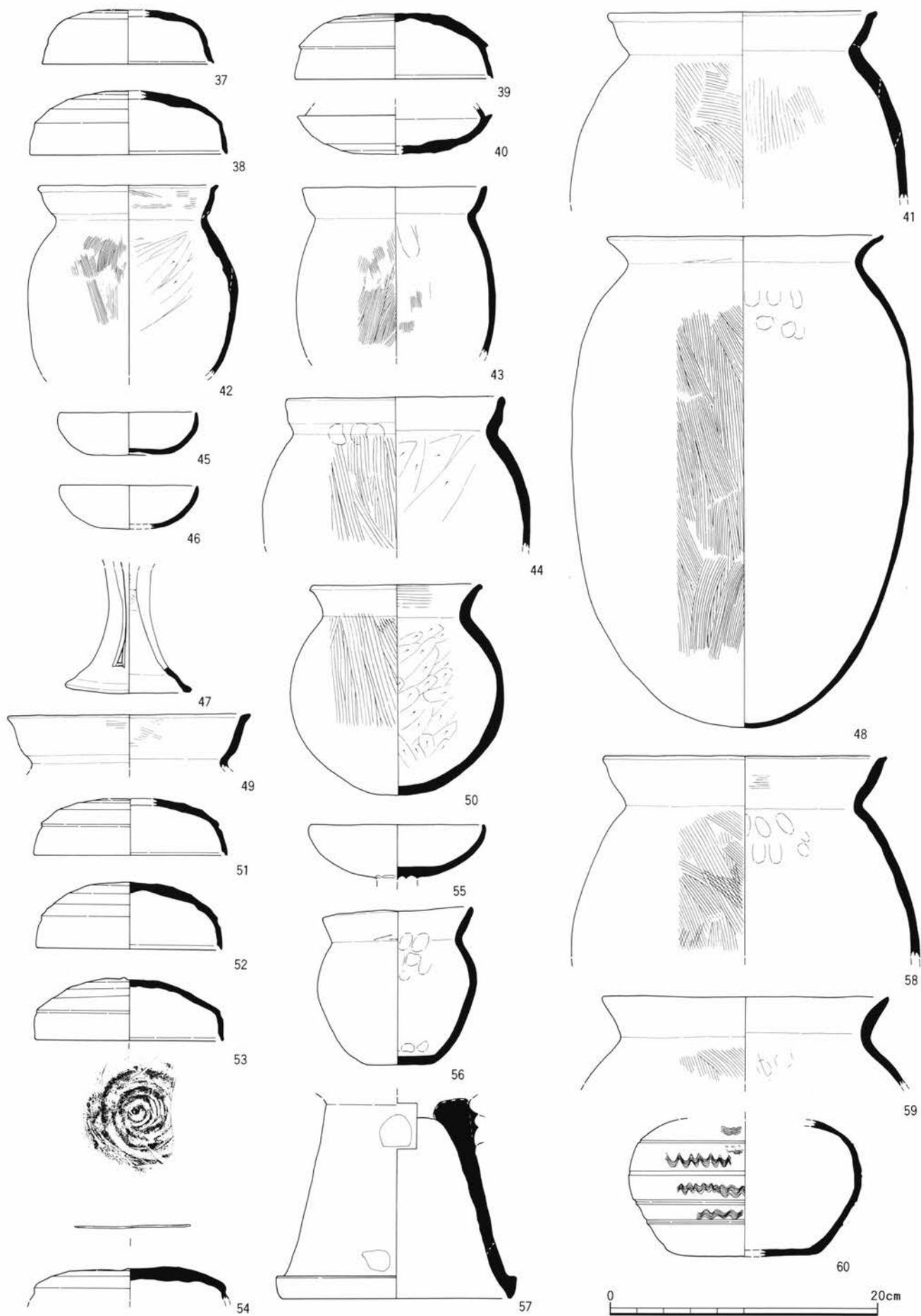


D-1・D-2・E-1・E-2トレンチ遺構表測図



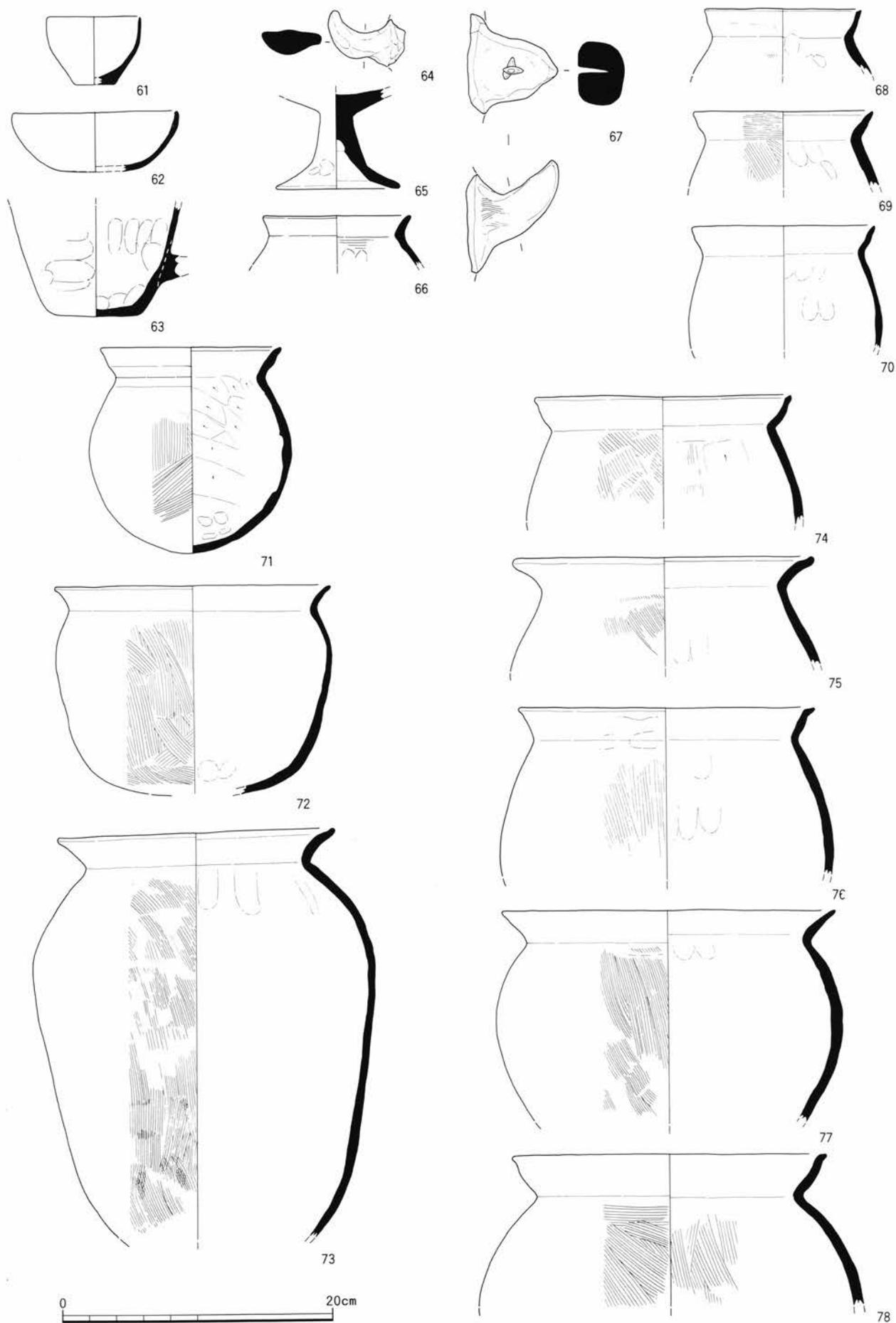
1990年度A地区出土遗物実测图

(1~13 : S K36713、14 : S K36712、15~36 : 包含層)



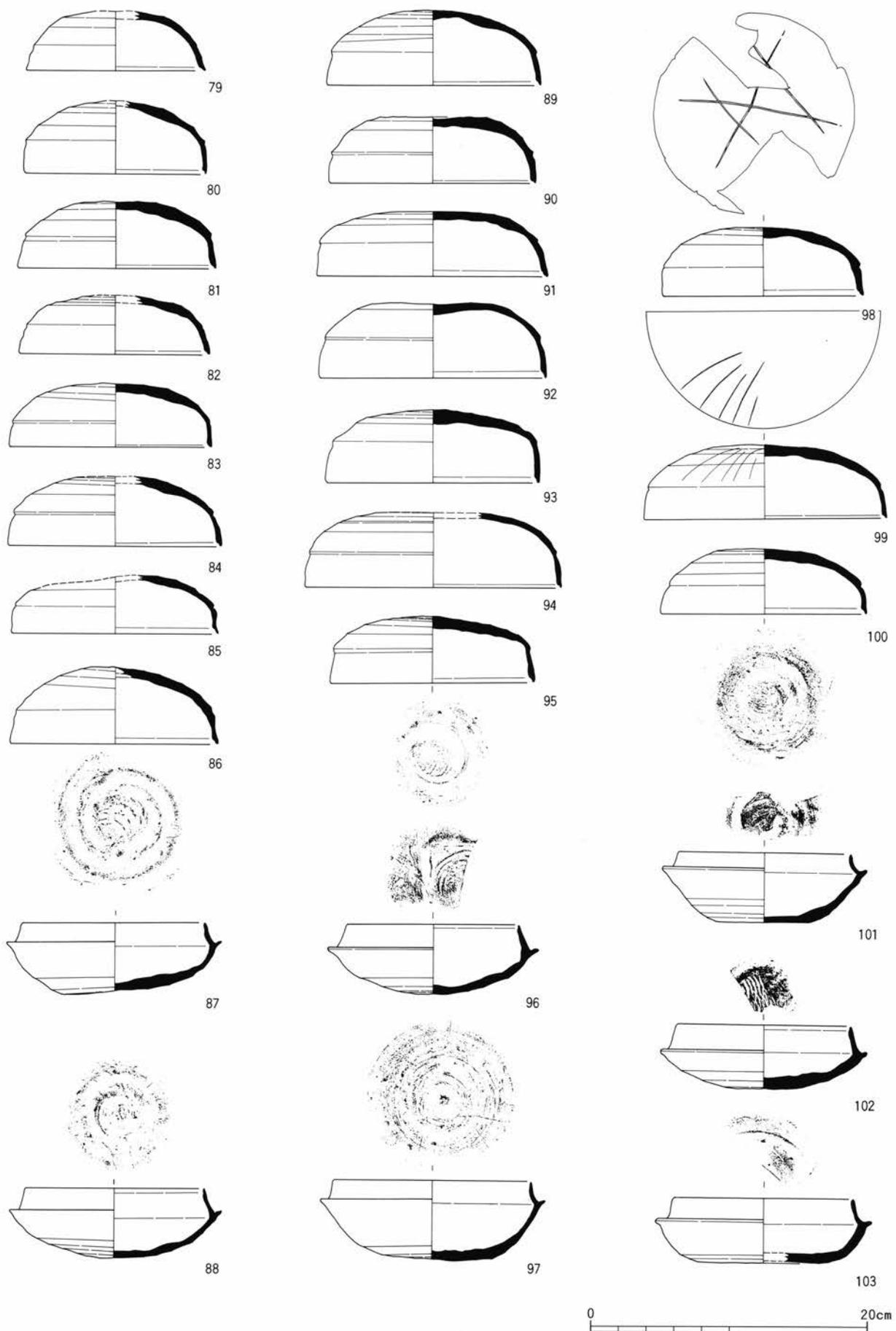
1992年度A地区出土遺物実測図(1)

(37~44 : S H395336、45~48 : S H395338、49 : S D395313、50~60 : S R395333)



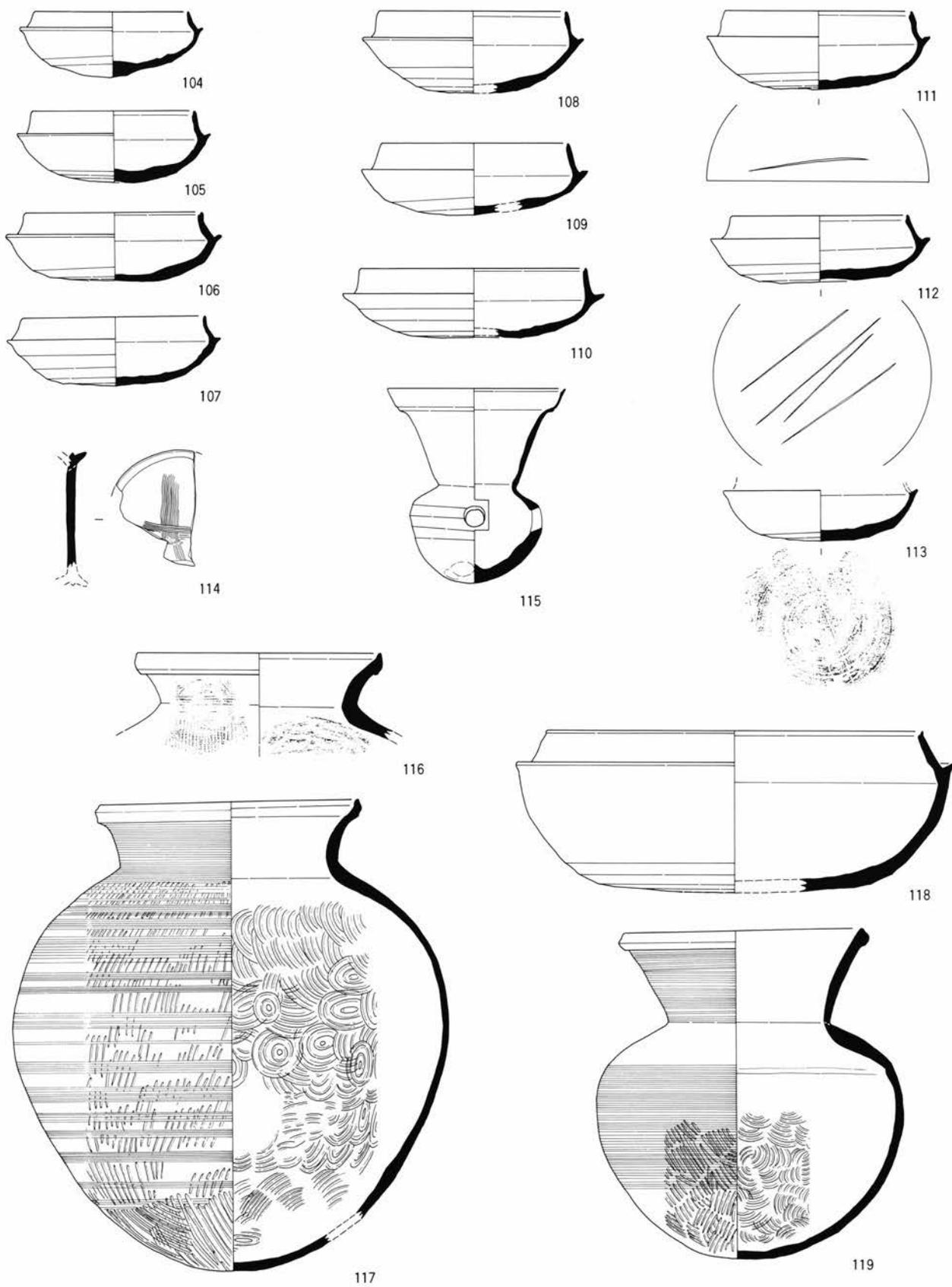
1992年度A地区出土遗物实测图(2)

(61~78 : S X 395335)



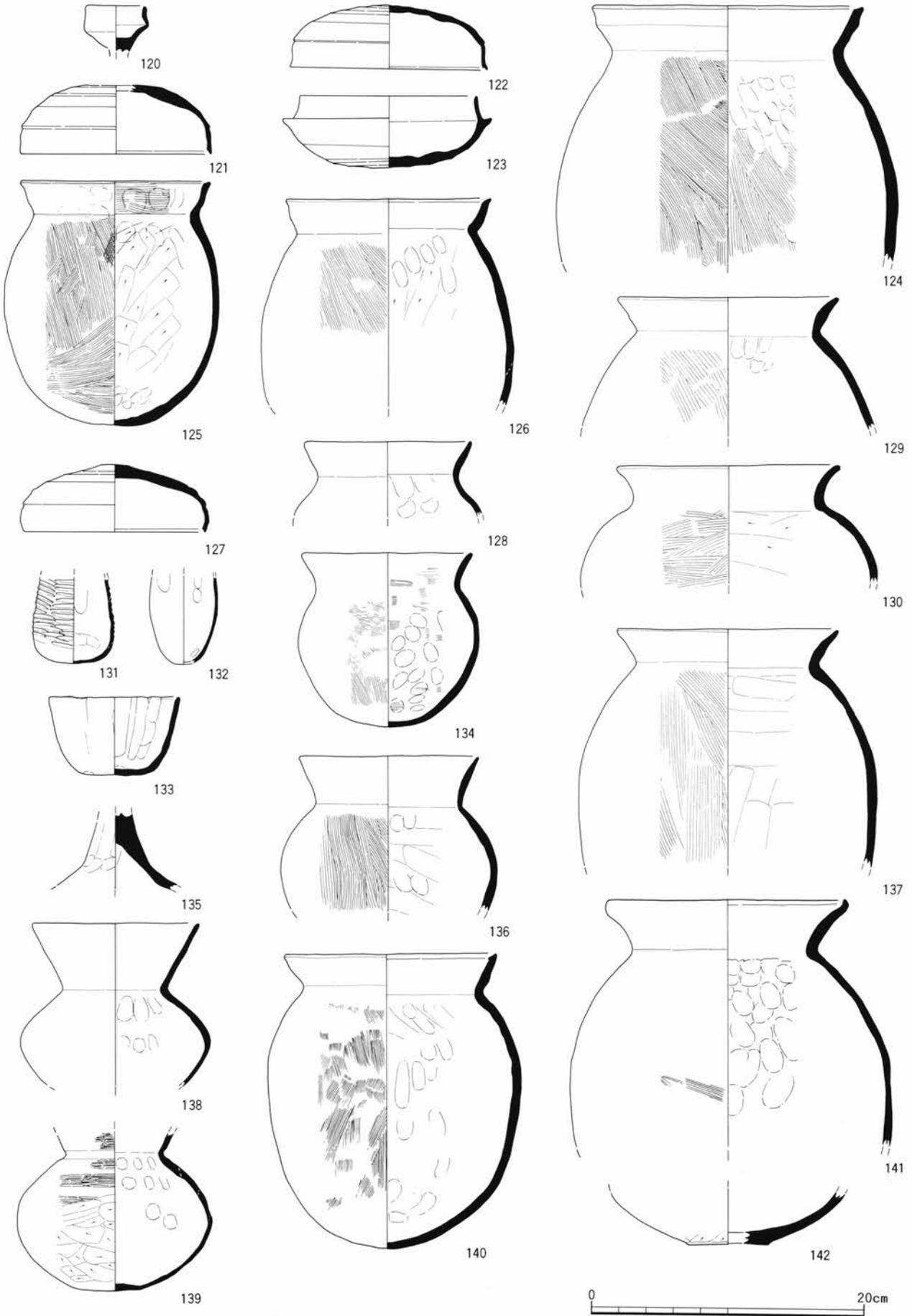
0 20cm

1992年度 A 地区出土遺物実測図(3)
(79~103 : S X 395335)

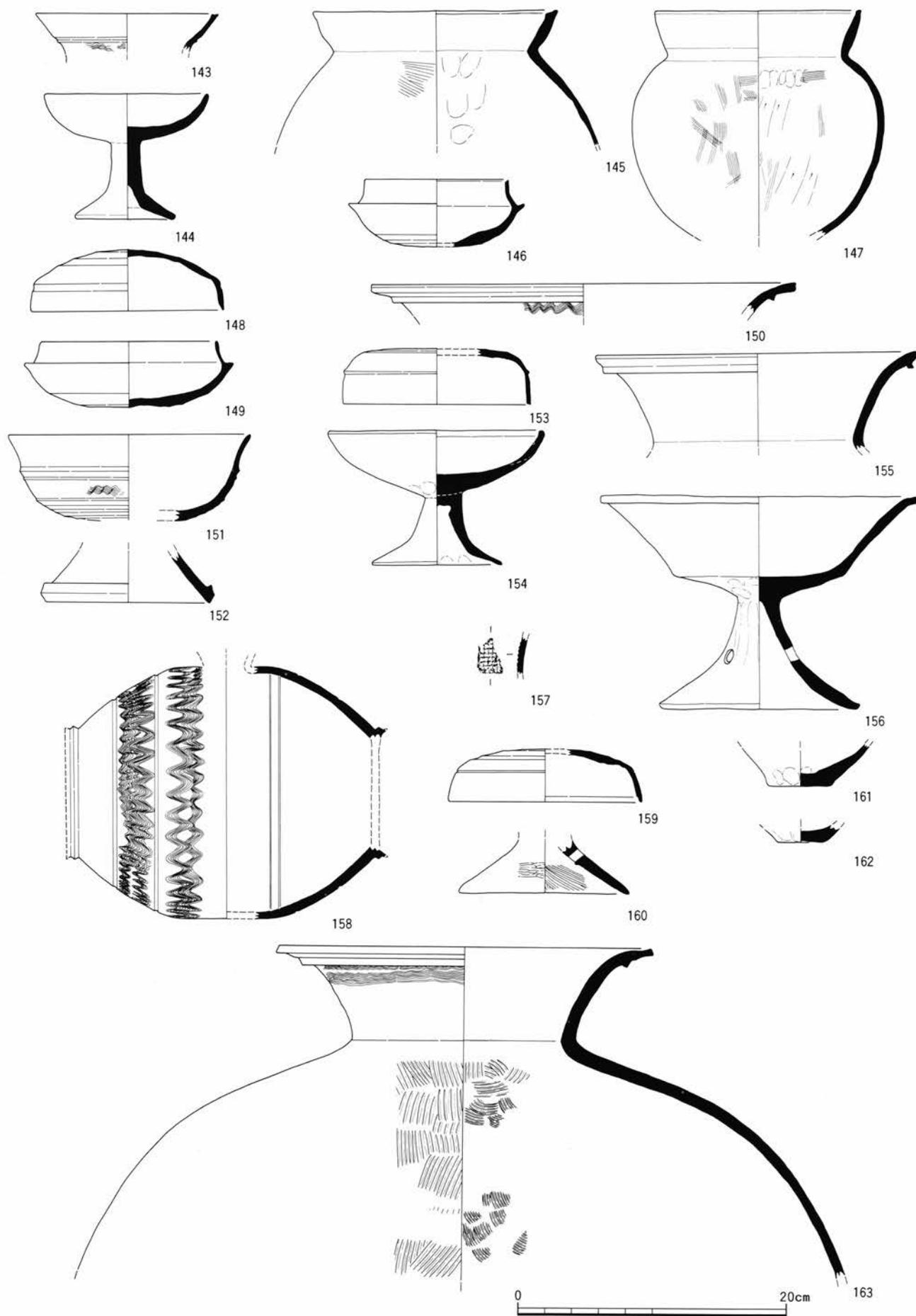


1992年度A地区出土遗物实测图(4)

(104~119 : S X 395335)

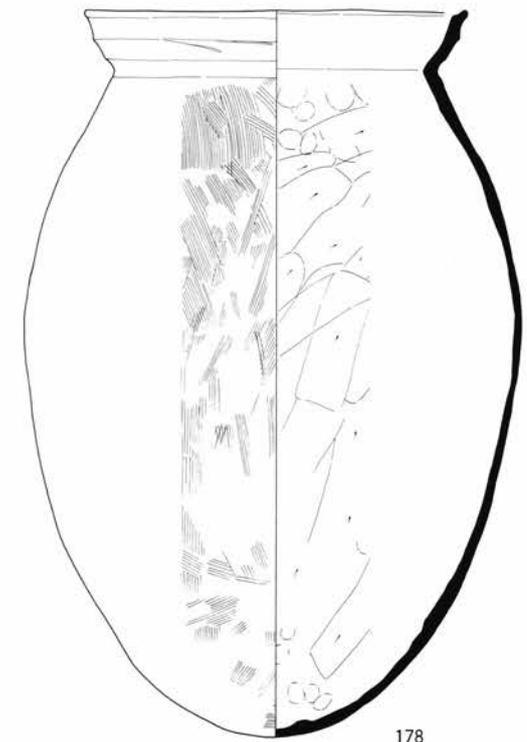
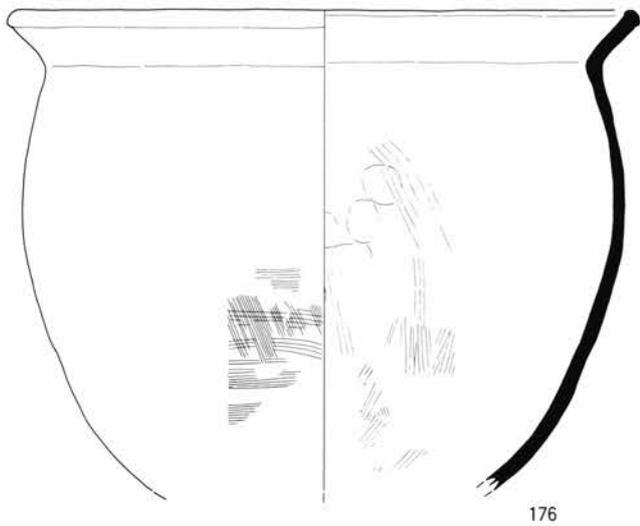
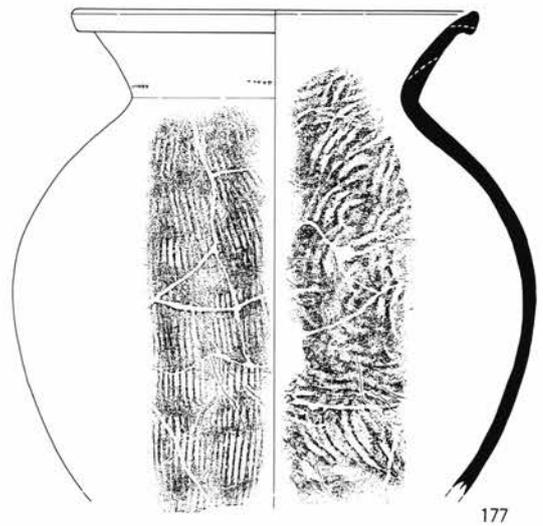
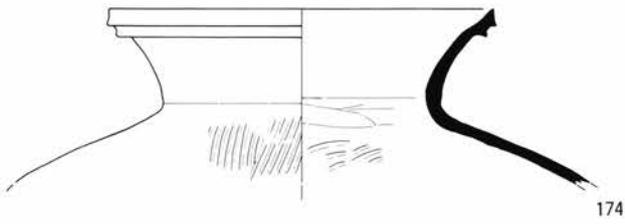
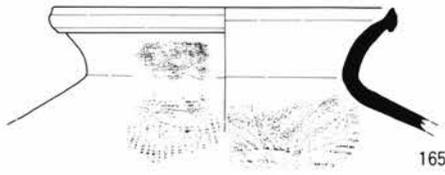
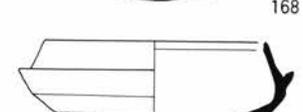
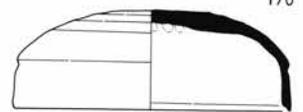
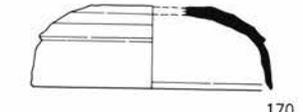
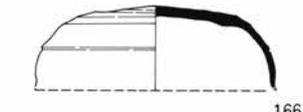
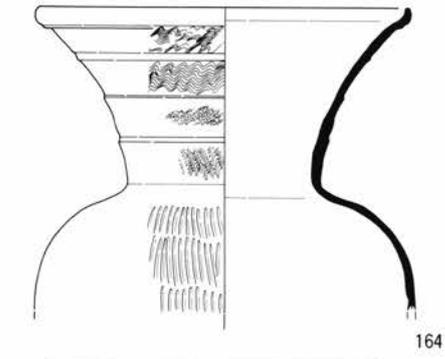


1992年度A地区出土遺物実測図(5)
 (120~126 : S H395401、127~142 : S H395407)

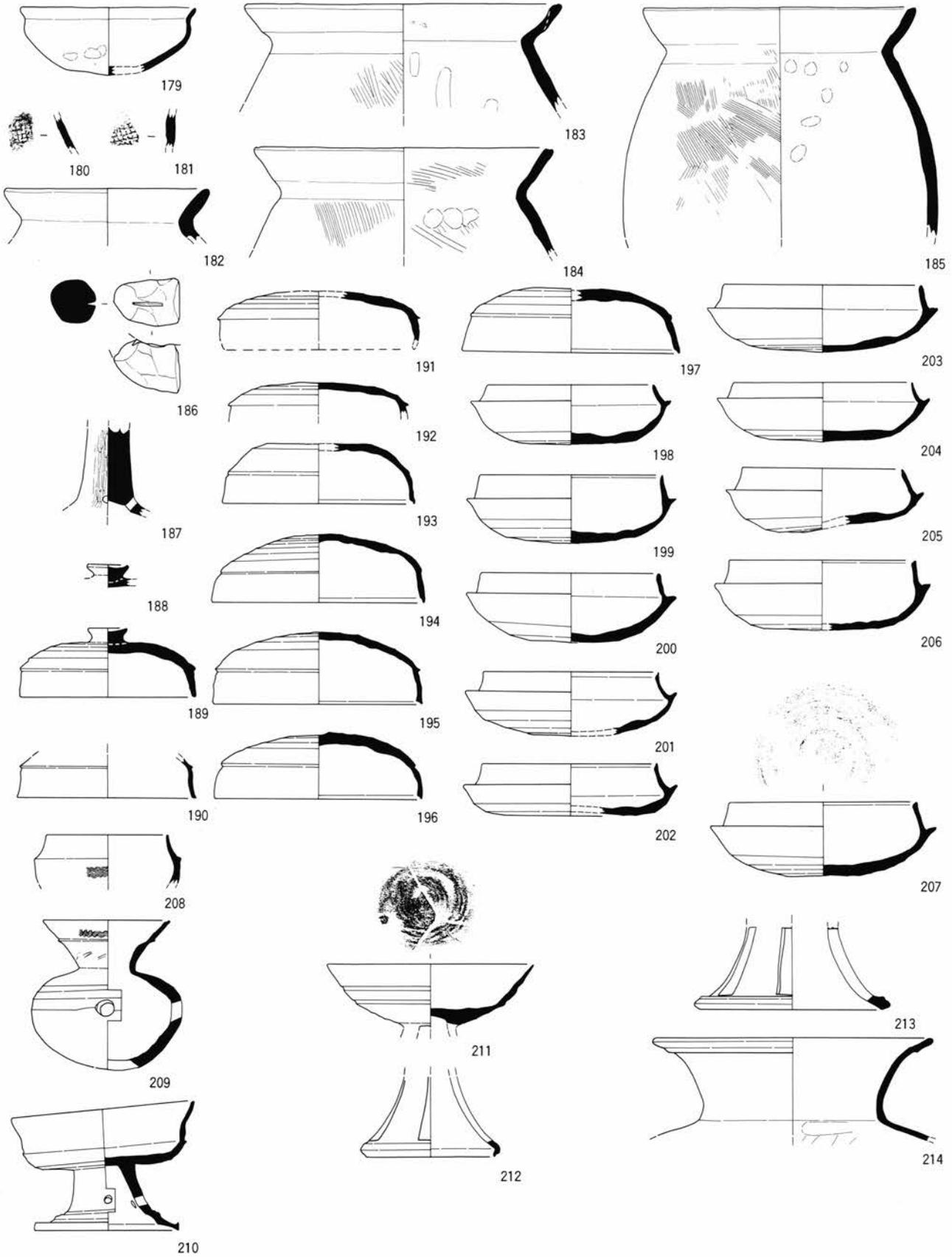


1992年度A地区出土遗物実測図(6)

(143~145 : S H395405、146・147 : S H395433、148・149 : S K395403、150~158 : S K395404、
159 : S K395449、160~162 : S D395444、163 : S K395442)

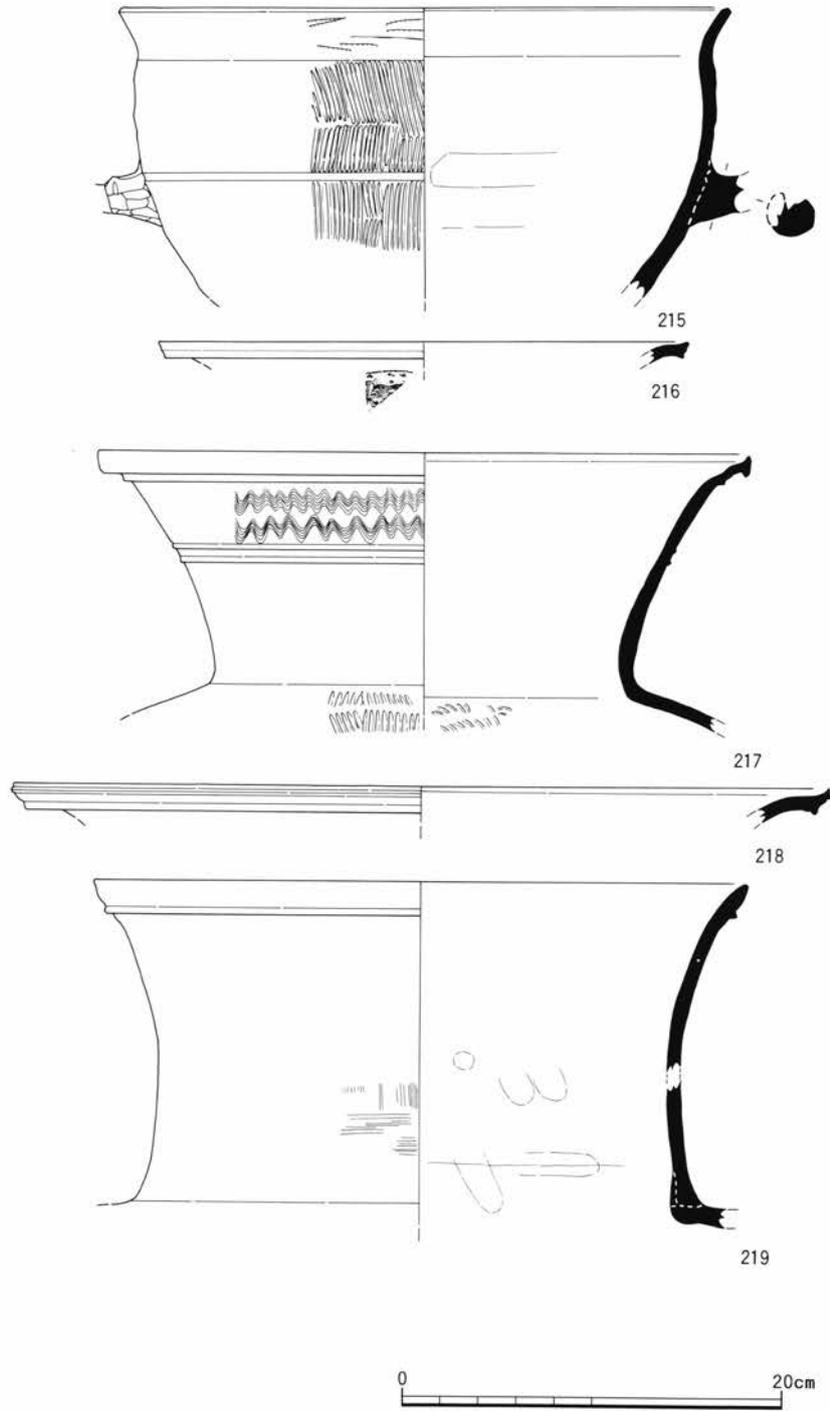


1992年度A地区出土遺物実測図(7)
(164~178 : S X395335・S K395411)

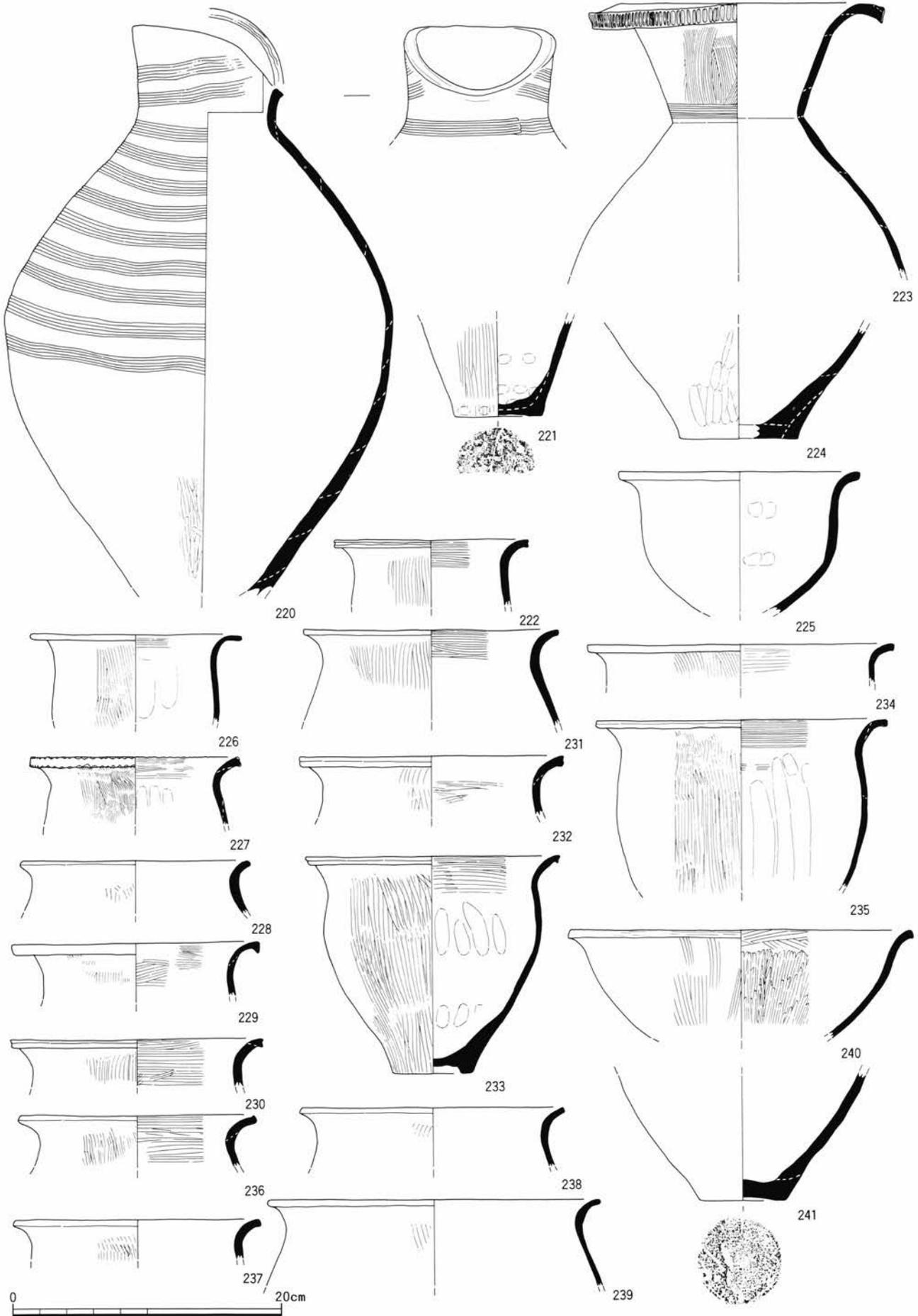


0 20cm

1992年度A地区出土遺物実測図(8)
(179~214: 包含層)

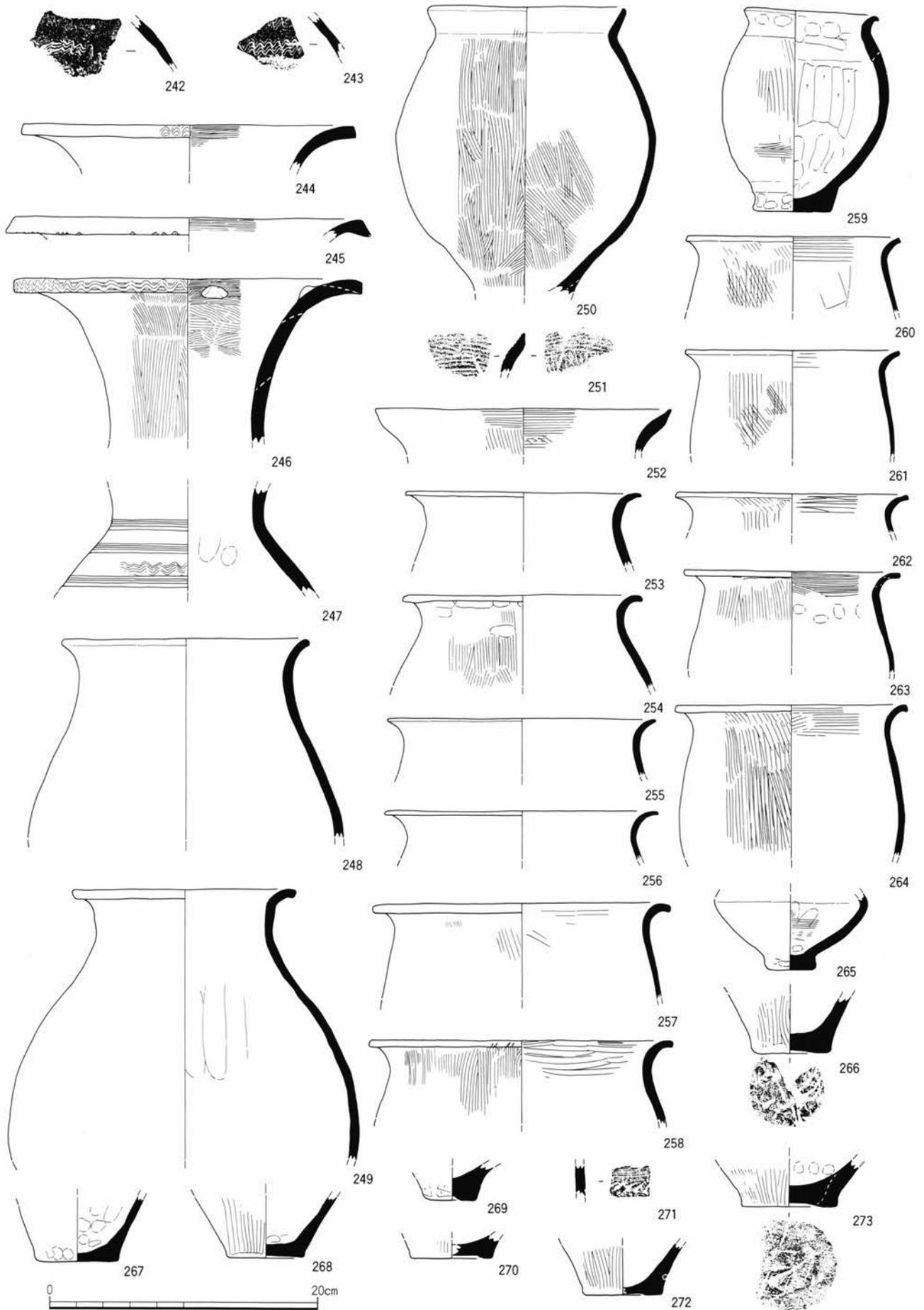


1992年度A地区出土遺物実測図(9)
(215~219 : 包含層)

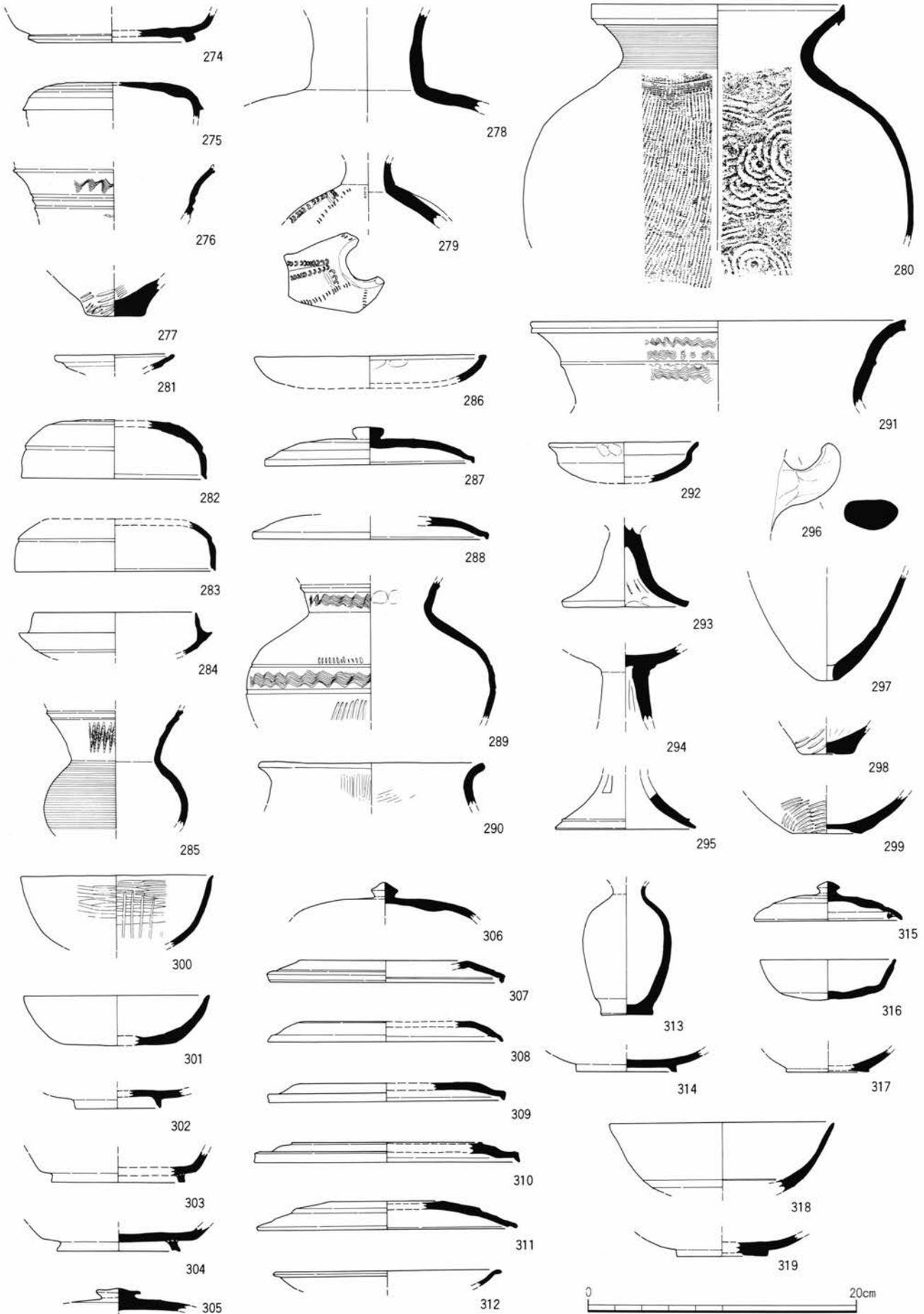


1992年度A地区出土遺物実測図(10)

(220~222・225~235 : S D395501、223・224・236~241 : S D395503)

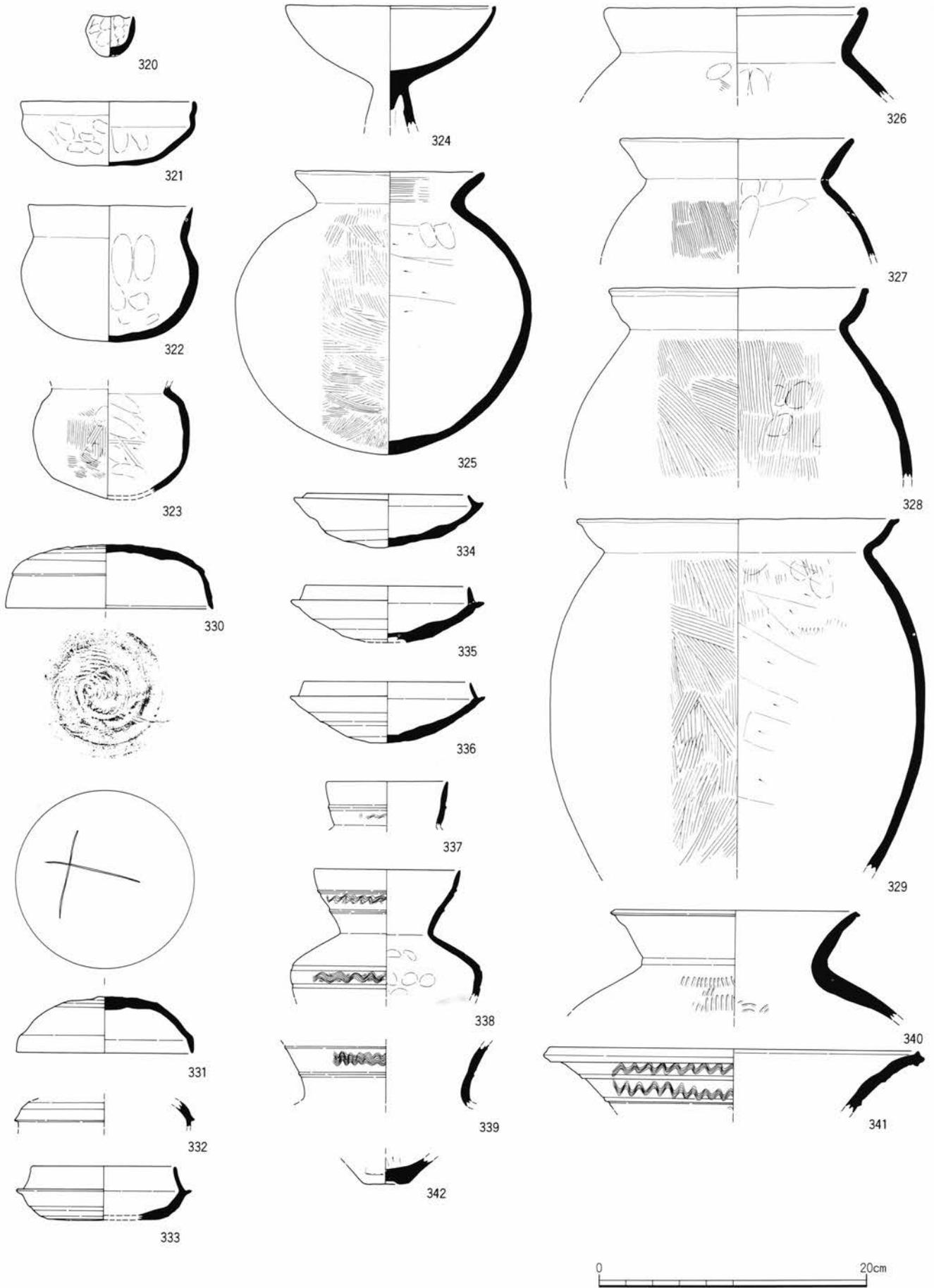


1992年度A地区出土遺物実測図(11)
 (242・243 : S K395502、244~273 : 包含層)



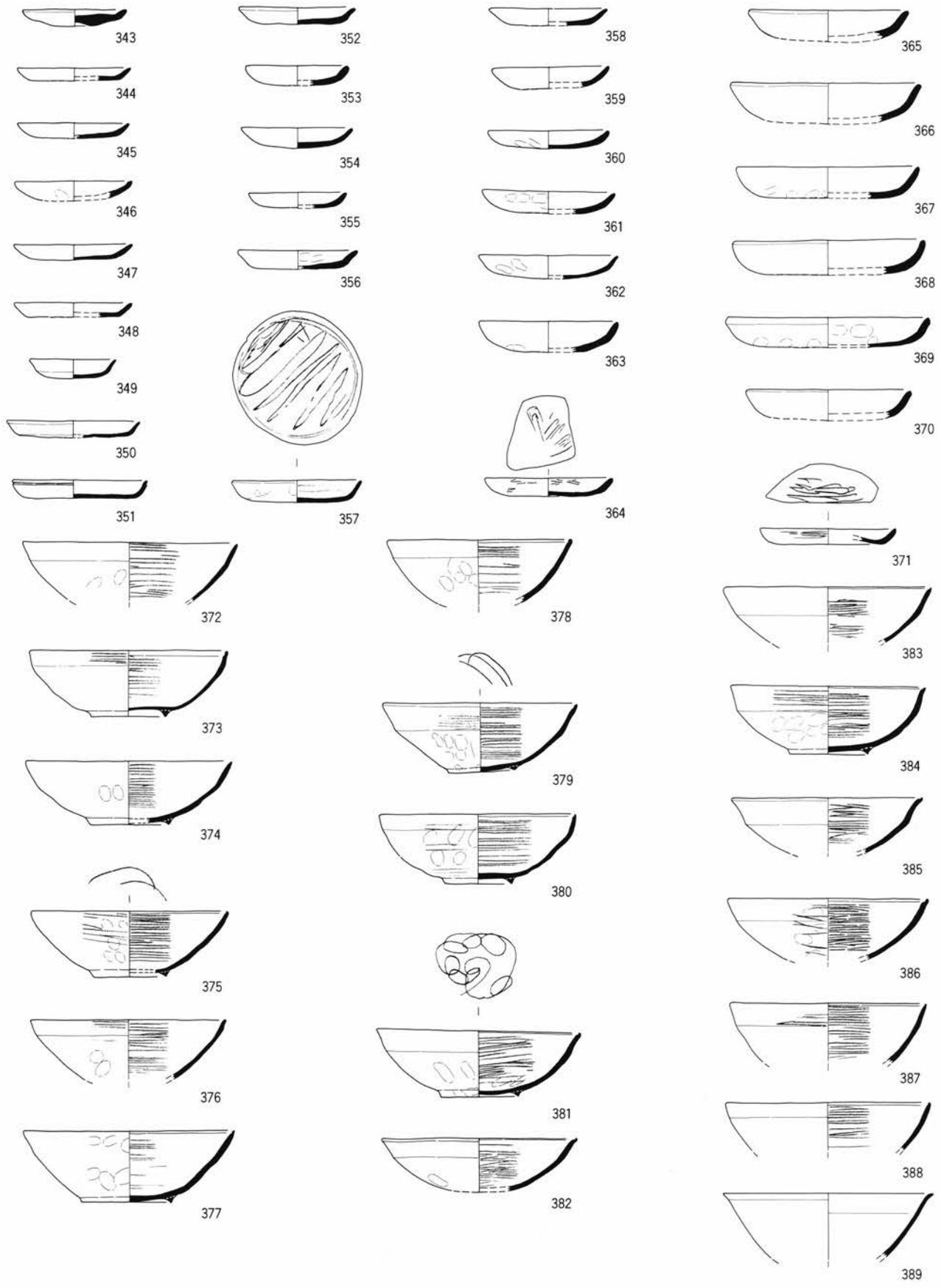
1990年度B地区出土遗物实测图(1)

(274~280 : S R35706、281~299 : S R35707、300~319 : 包含層)

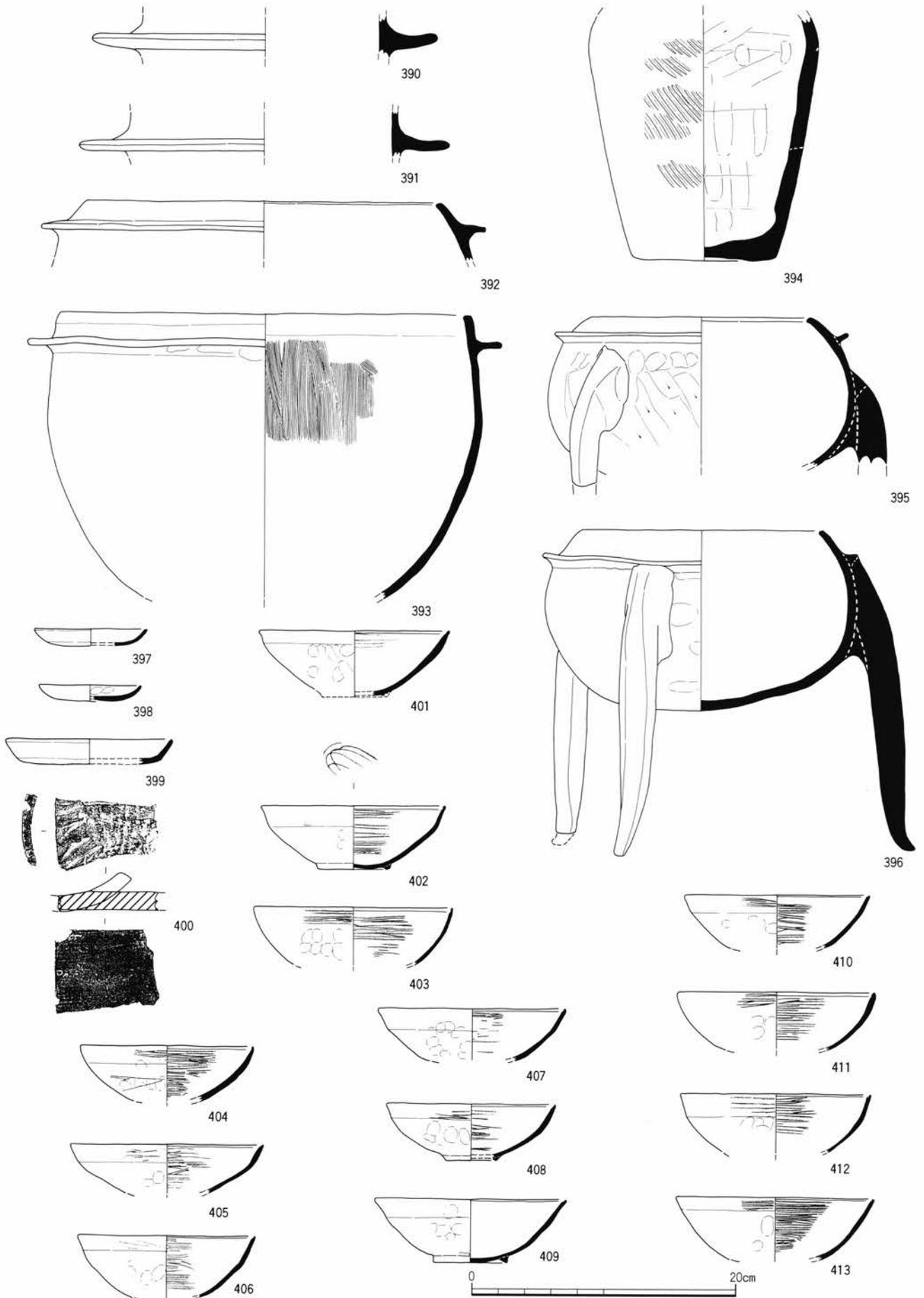


1990年度B地区出土遺物実測図(2)

(321・331・334・336 : S X357102、320・322~330・332・333・335・337~342 : 包含層)

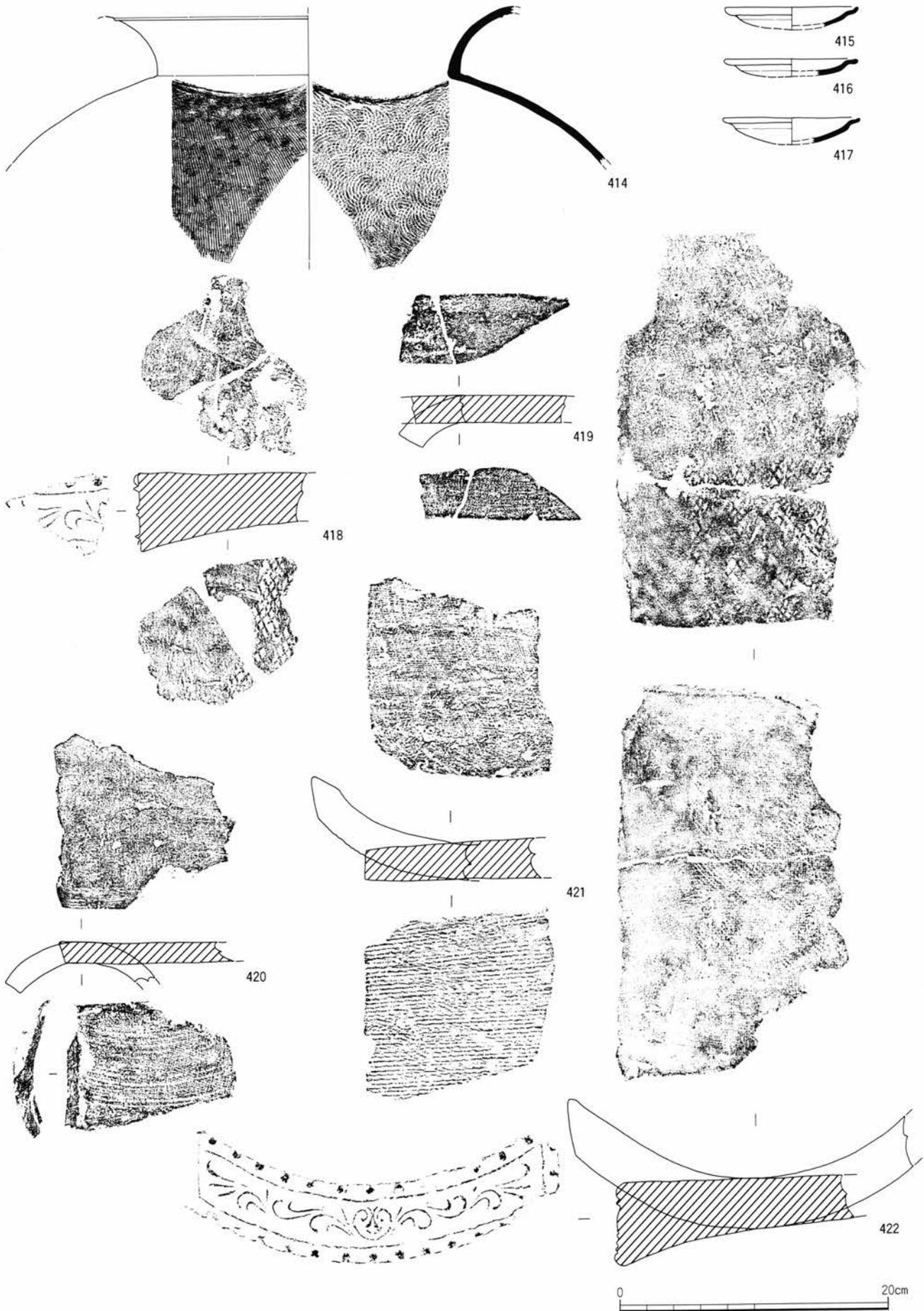


1991年度B地区出土遺物実測図(1)
(343~389 : S K36841)



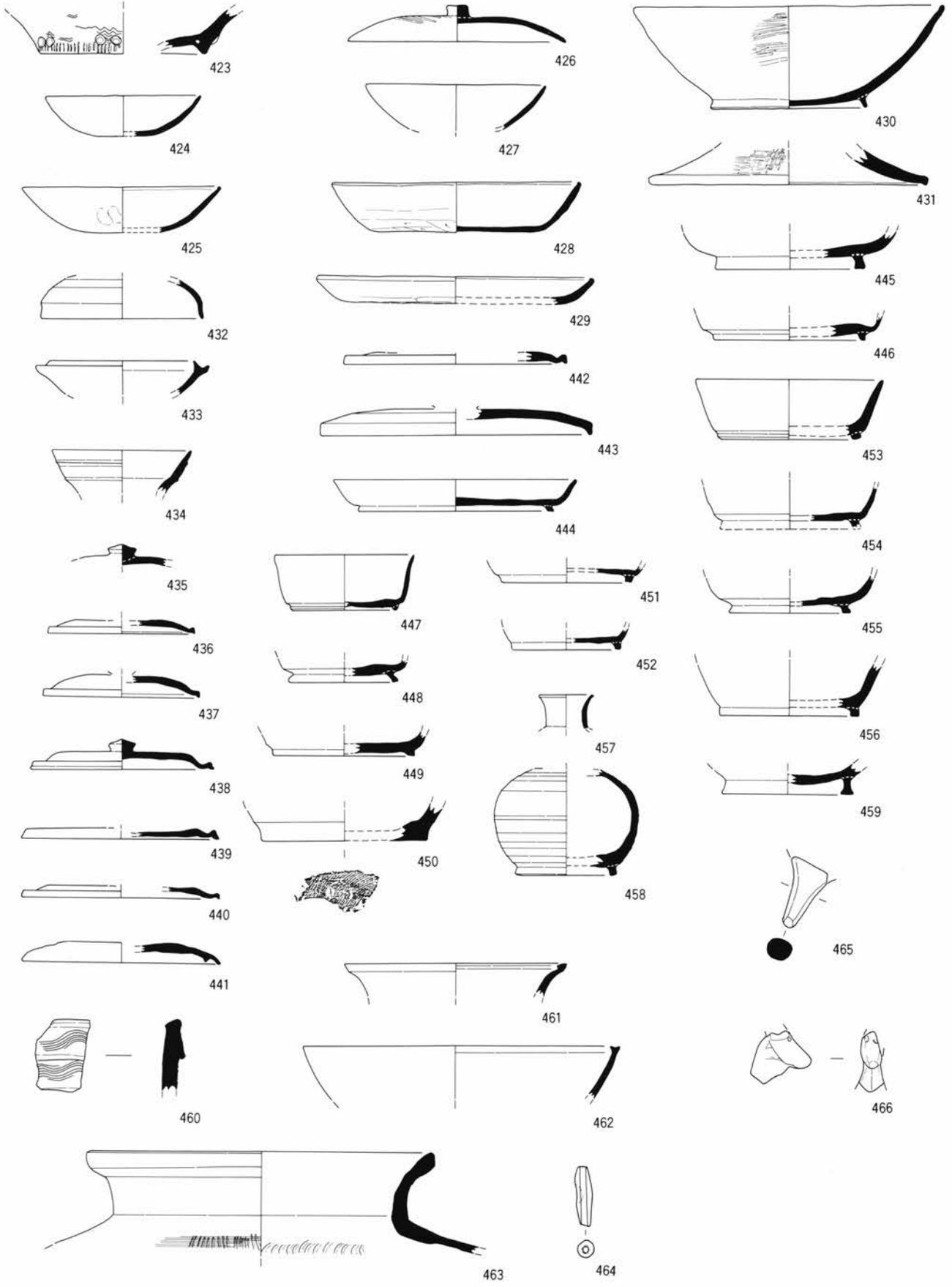
1991年度B地区出土遺物実測図(2)

(390~396 : S K36841、397~413 : S F36836上面)

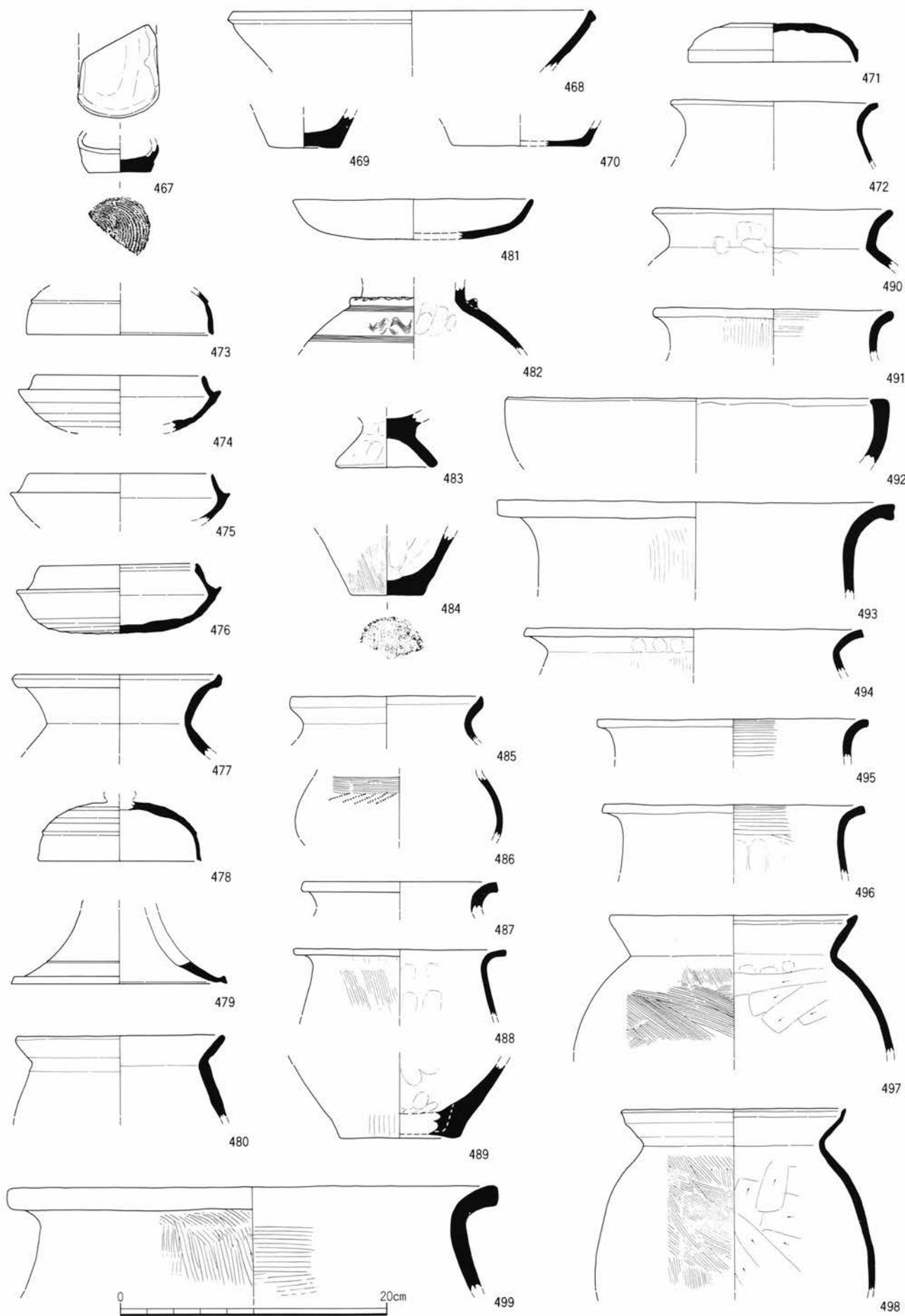


1991年度B地区出土文物实测图(3)

(414 : P23、415 : S E36823、416~418 : S E36834、419 : S E36845、420~422 : S K36825)

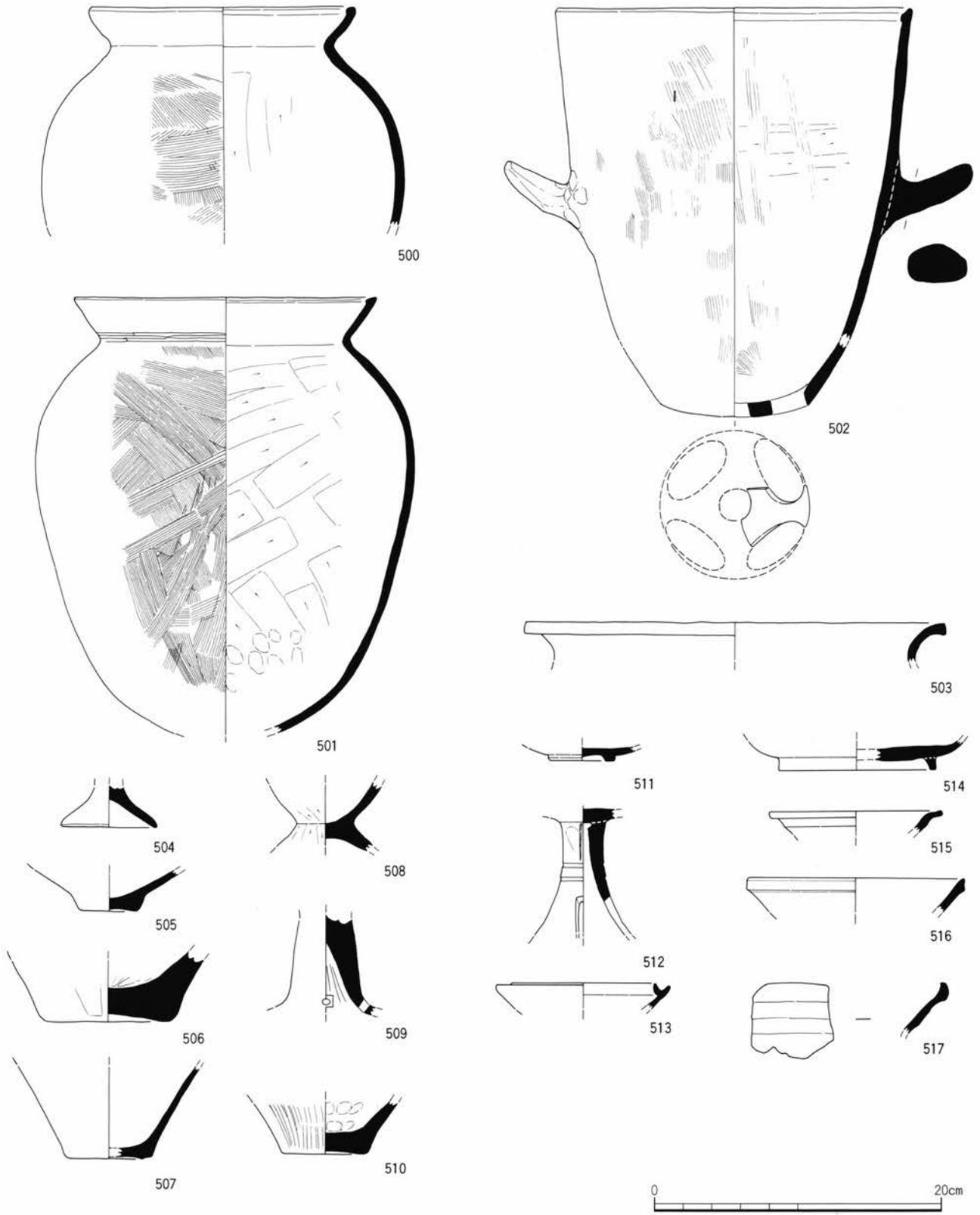


1991年度B地区出土遺物実測図(4)
 (423~466 : S K 36825 一部 S K 36824含む)



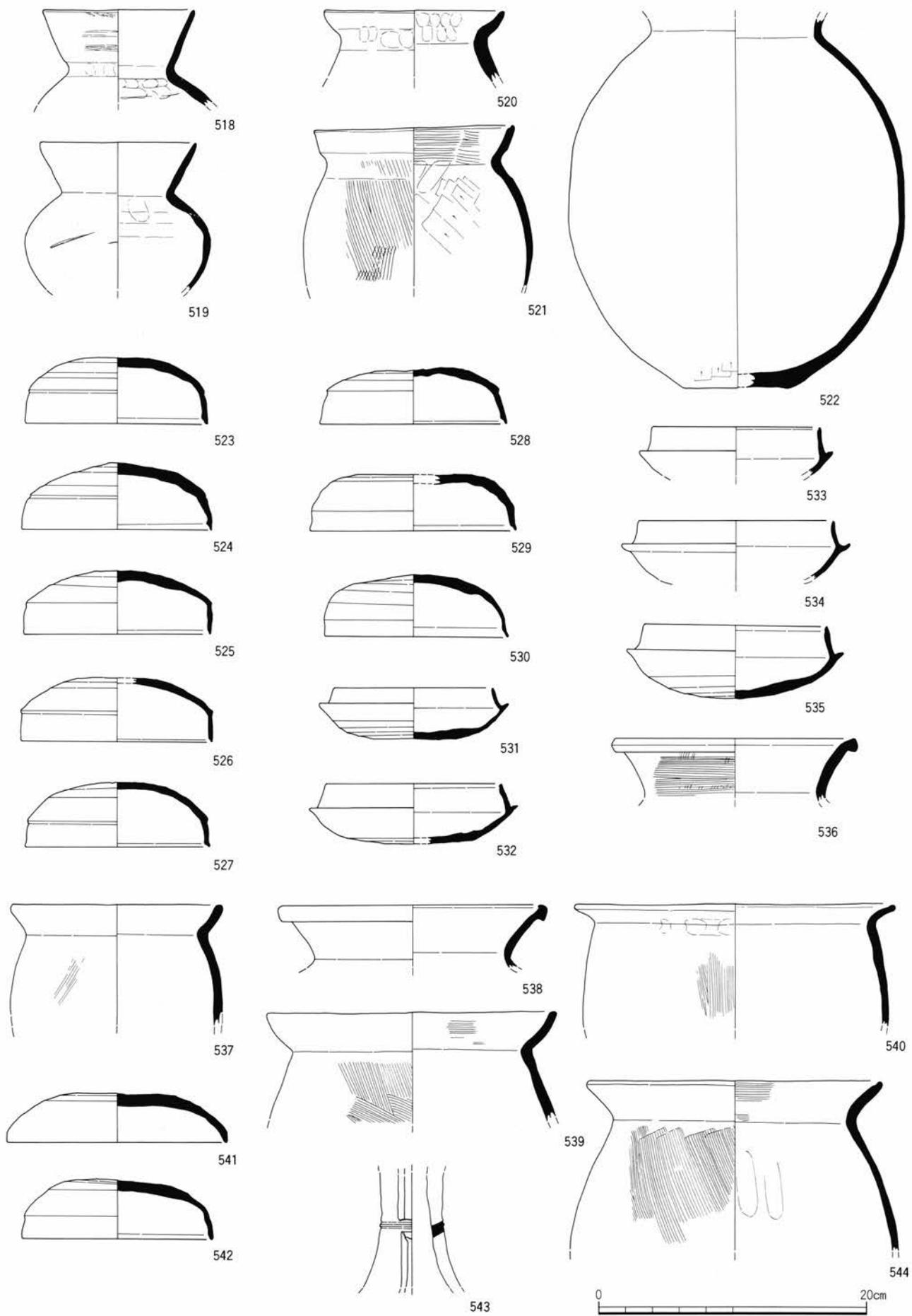
1991年度B地区出土遗物实测图(5)

(467~472 : S R 35706、473~499 : S R 35707)



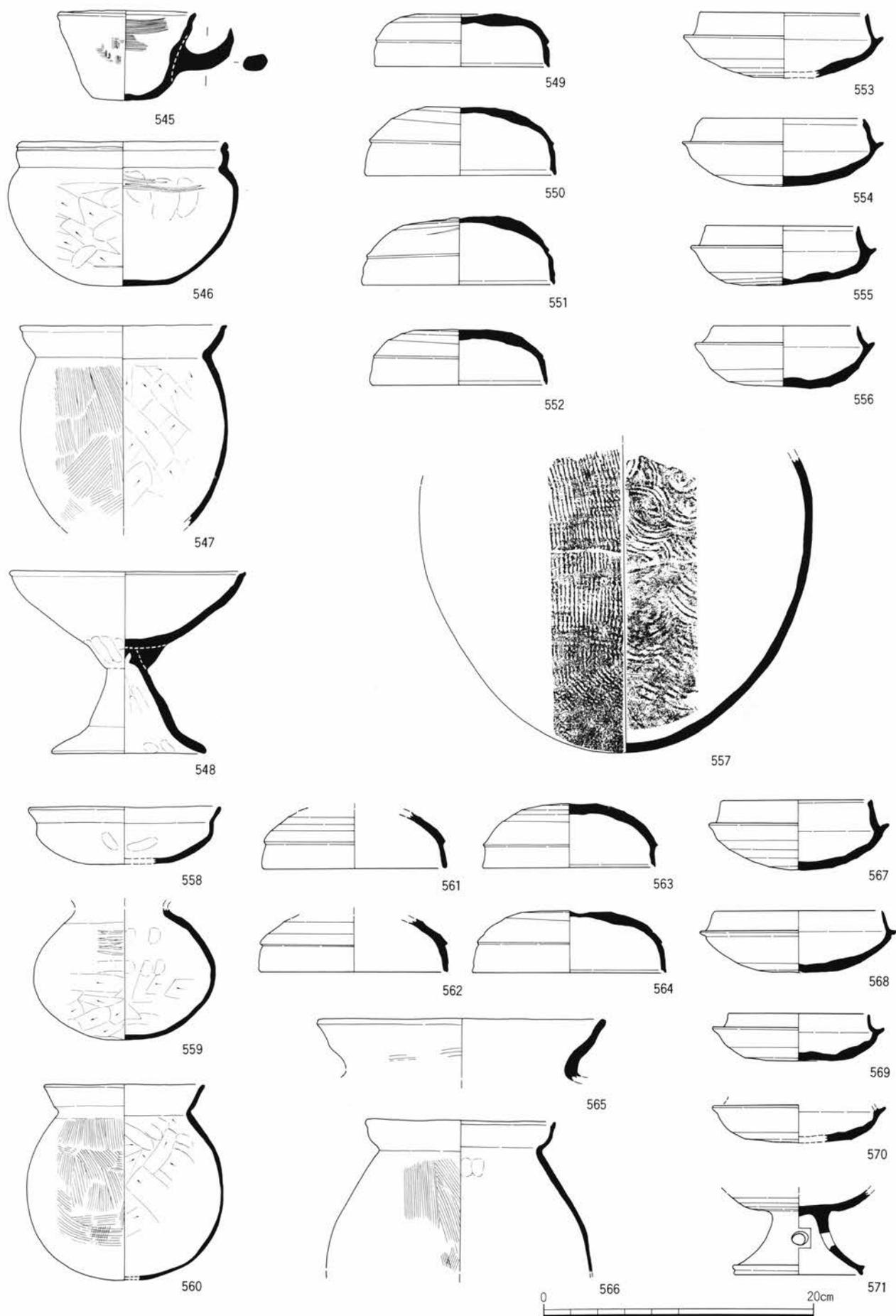
1991年度B地区出土遺物実測図(6)

(500~510 : S R35707、511・514・517 : S D36826、515・516 : S D36827)



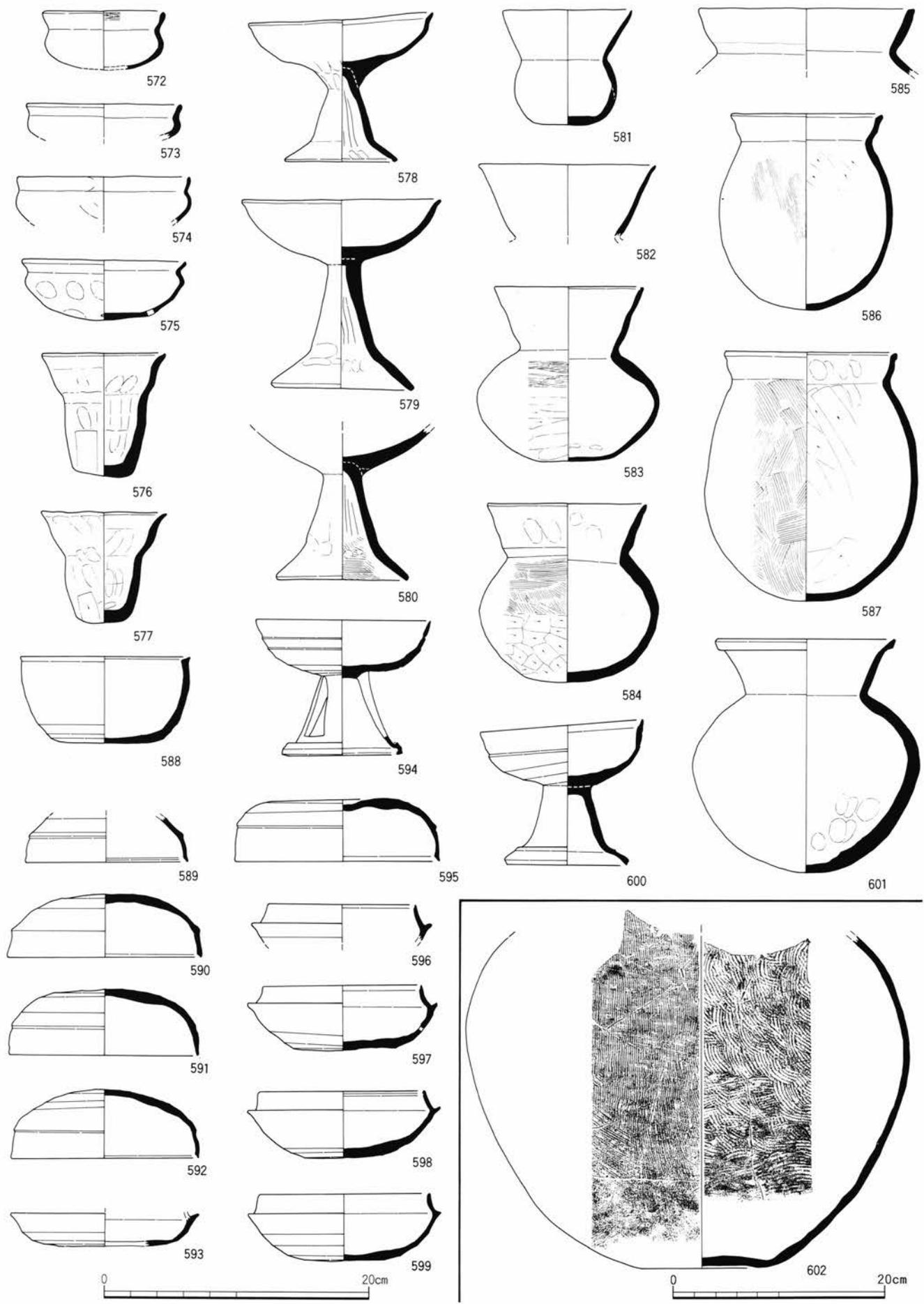
1991年度B地区出土遗物实测图(7)

(518~536 : S B36831、537~540 : S H36835、541 : P 4、542 : S K36839、543・544 : S H36843)



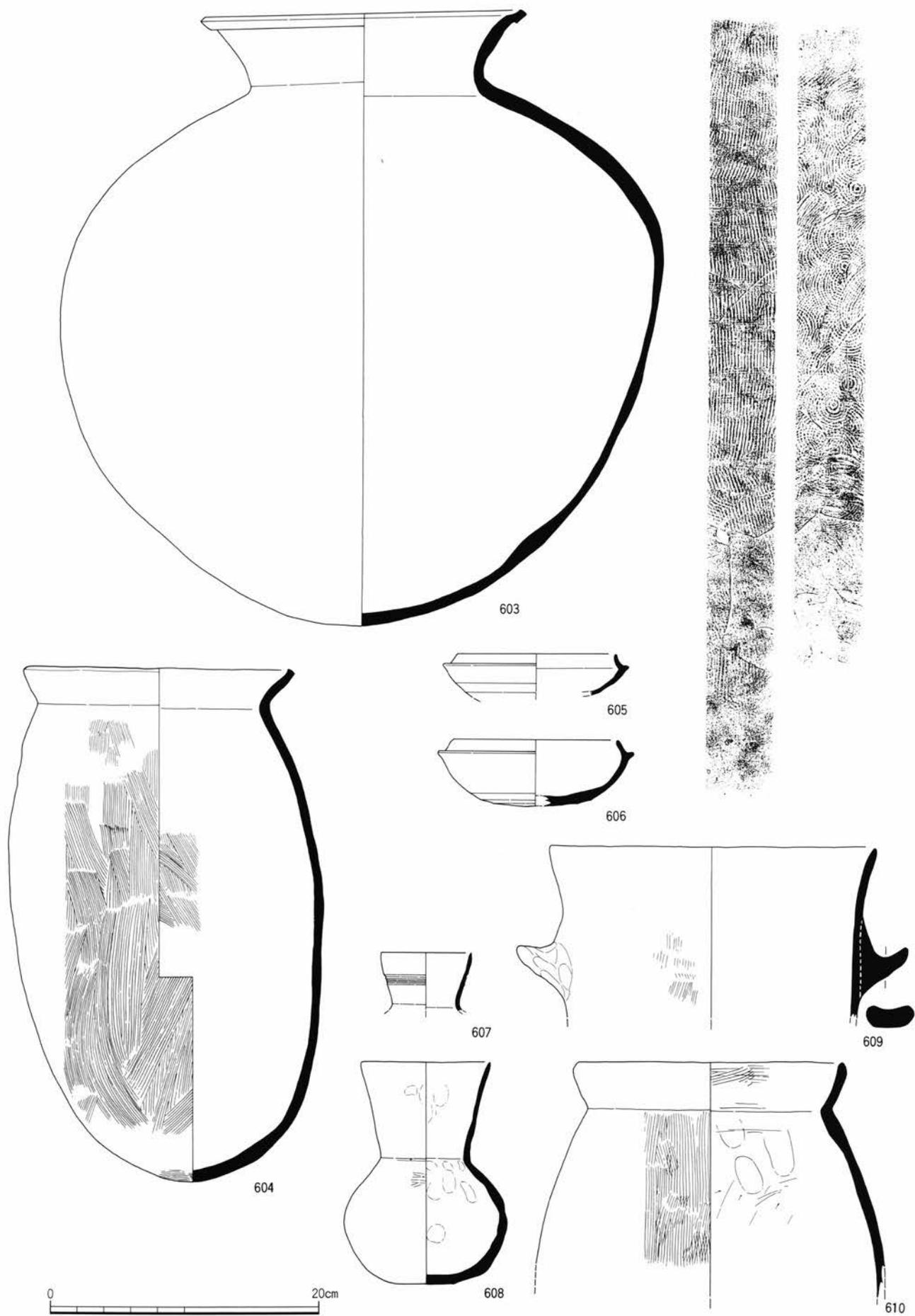
1991年度B地区出土遺物実測図(8)

(545~557 : S X36820、558~571 : S X36821)

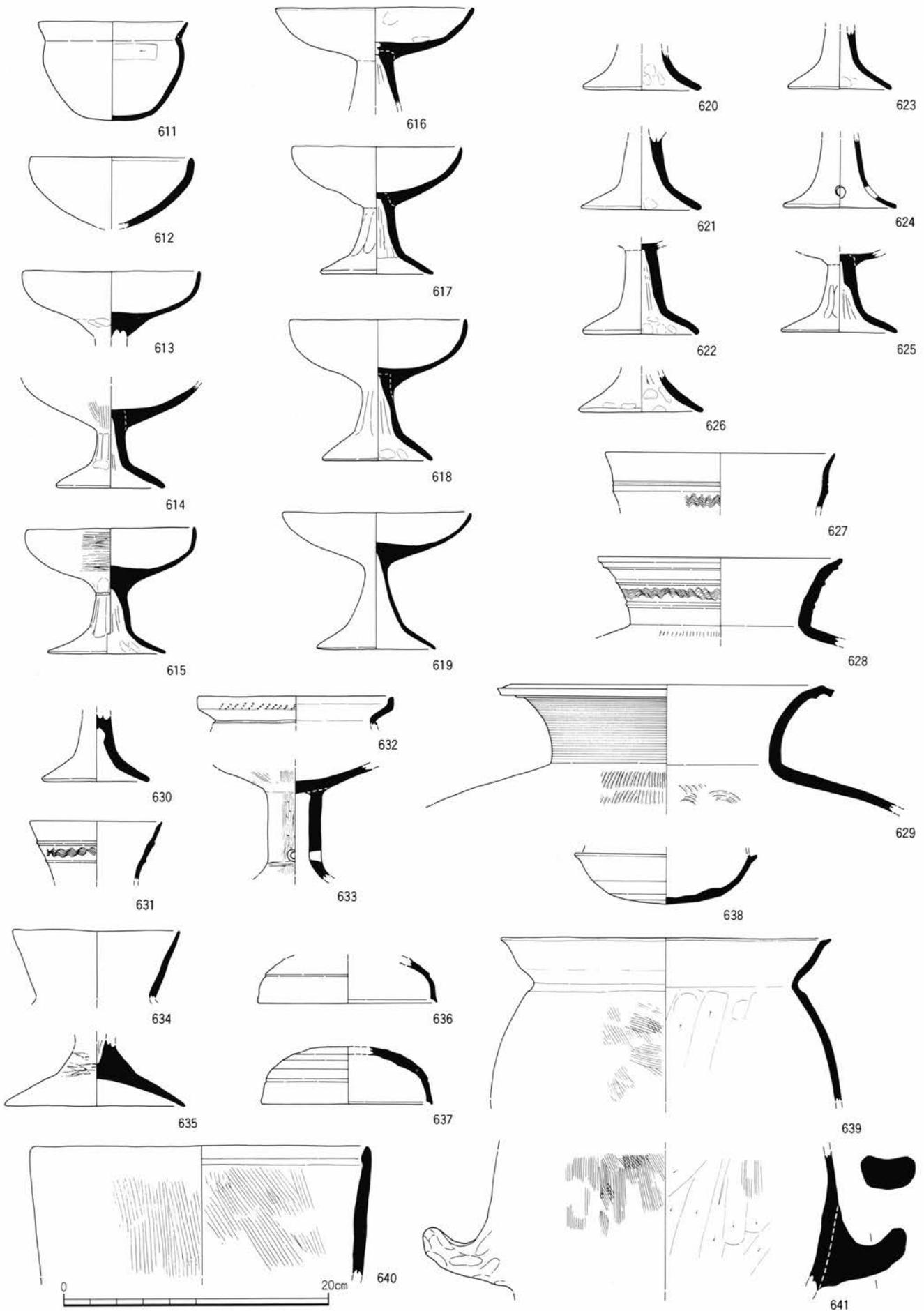


1991年度B地区出土遺物実測図(9)

(572~602 : S X 36822)

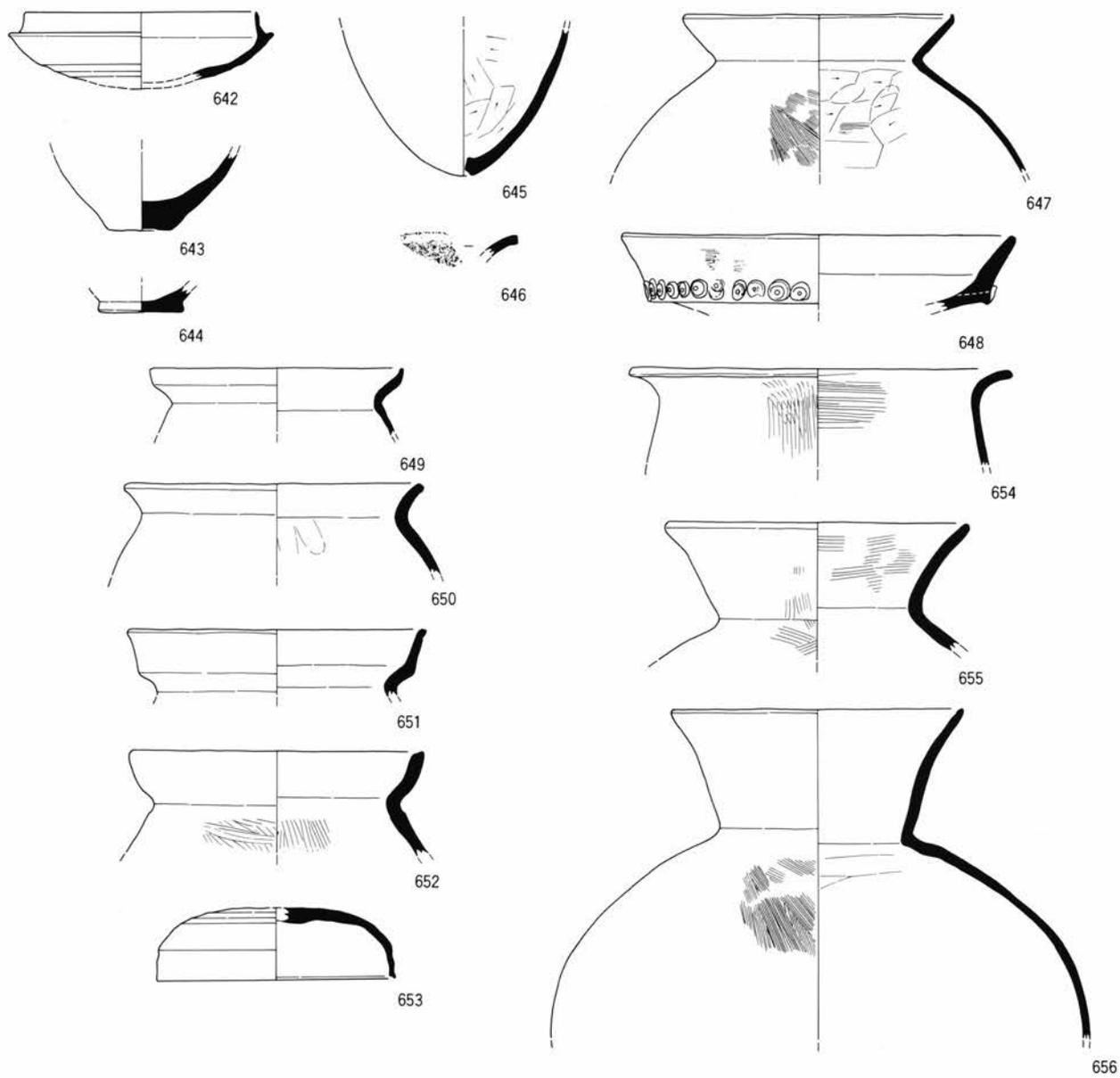


1991年度B地区出土遺物実測図(10)
 (603 : S X 36822、604~610 : S X 36842)



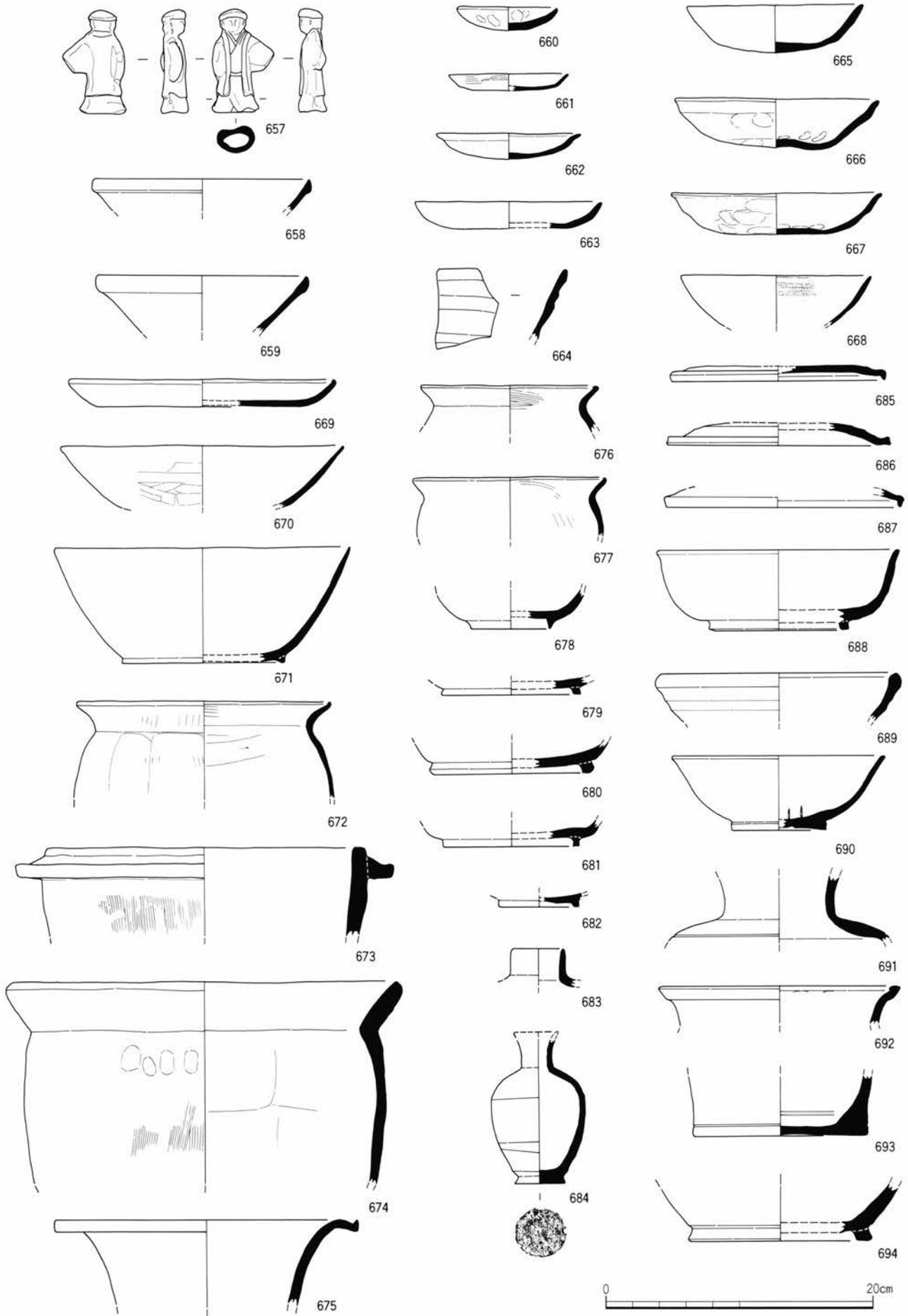
1991年度B地区出土遺物実測図(1)

(611~629・634~641 : S X36844、630~633 : S X36846)

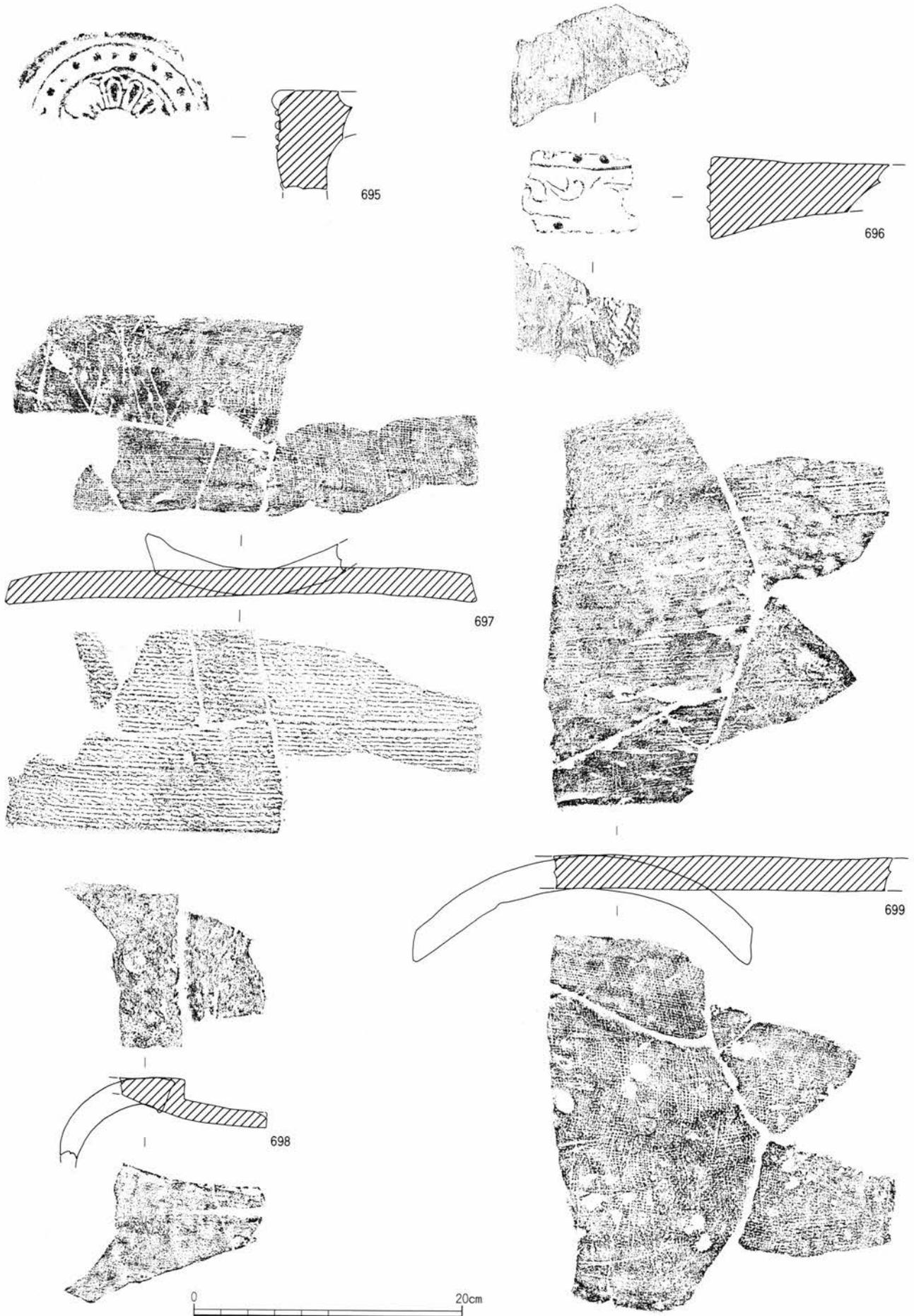


1991年度B地区出土遺物実測図(12)

(642 : S D36833、643~651 : S D36848、652・653 : S D36849)

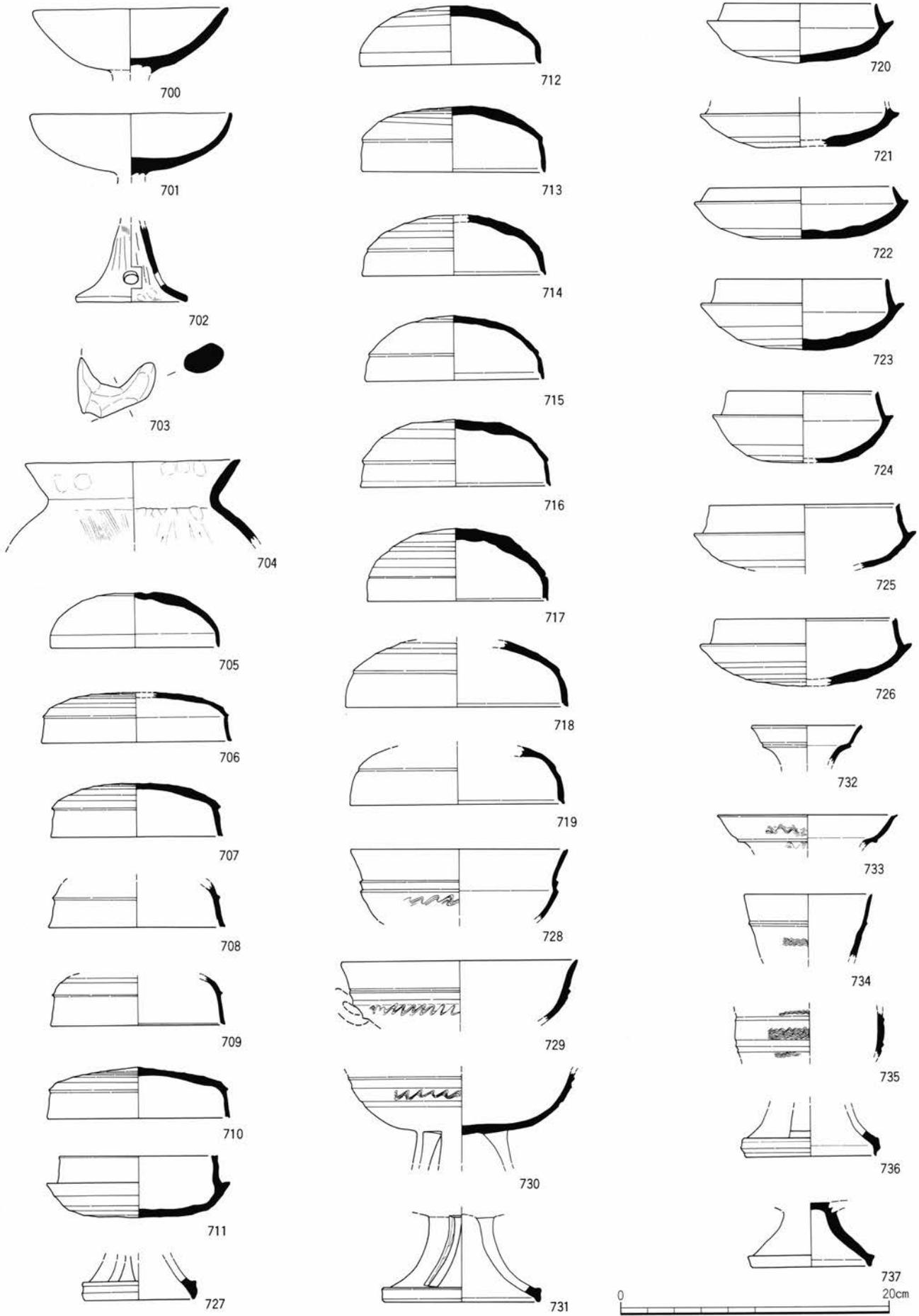


1991年度B地区出土遺物実測図(13)
(657~694 : 包含層)



1991年度B地区出土遺物実測図(14)

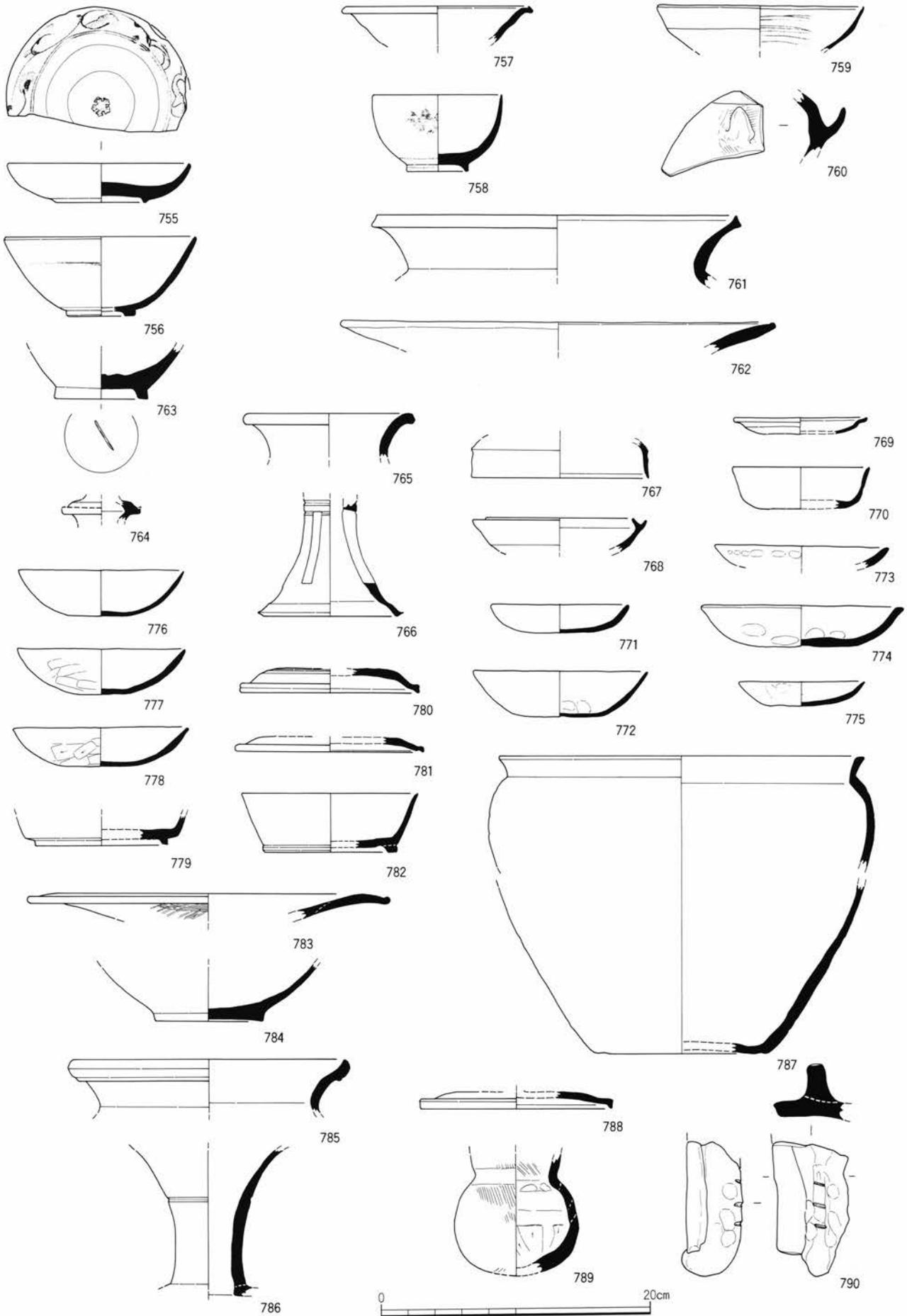
(695~699 : 包含層)



1991年度B地区出土遺物実測図(15)
(700~737 : 包含層)

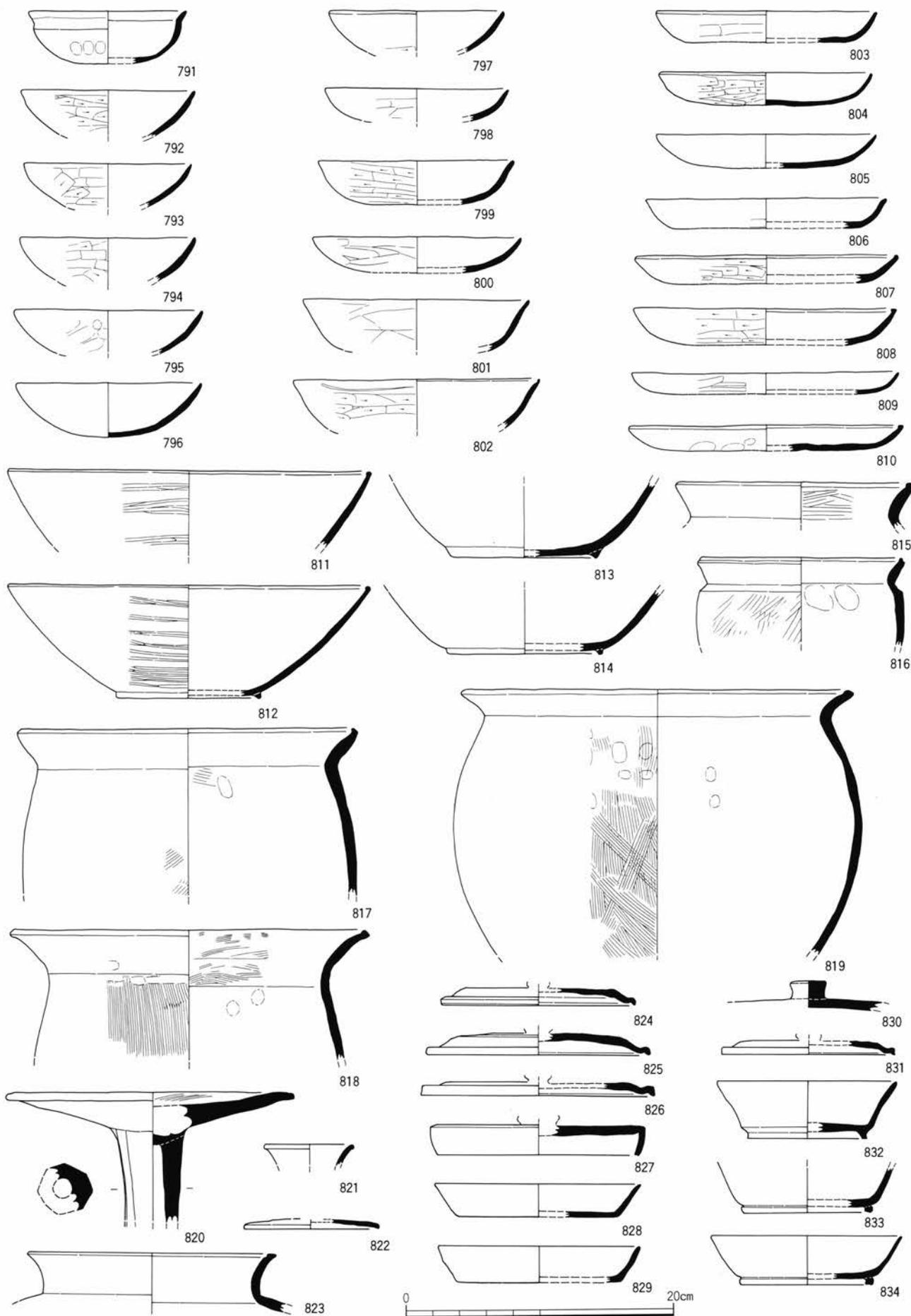


1991年度B地区出土遺物実測図(16)
(738~754 : 包含層)



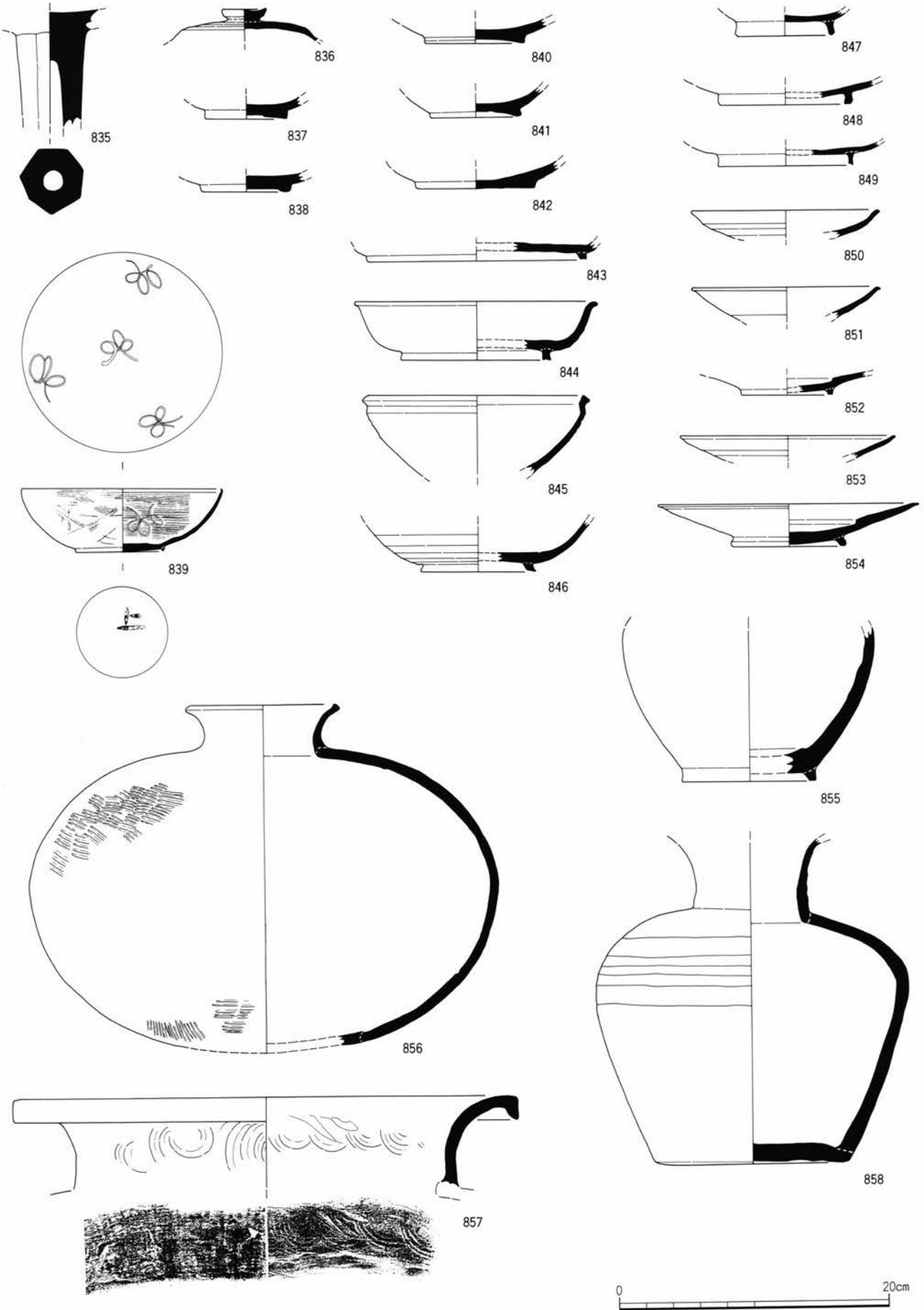
1992年度B地区出土遗物实测图(1)

(755~758·760~762 : S E368101, 759 : S E368279, 763 : S E368106, 764 : S E368102,
 765~770 : S D368115, 771 : S K368220, 772 : S K368263, 773·774 : P 188, 775 : S K368316,
 776~783 : S X368116, 784 : S K368234, 785·786 : S K368263, 787 : S K368175, 788~790 : S K368359)

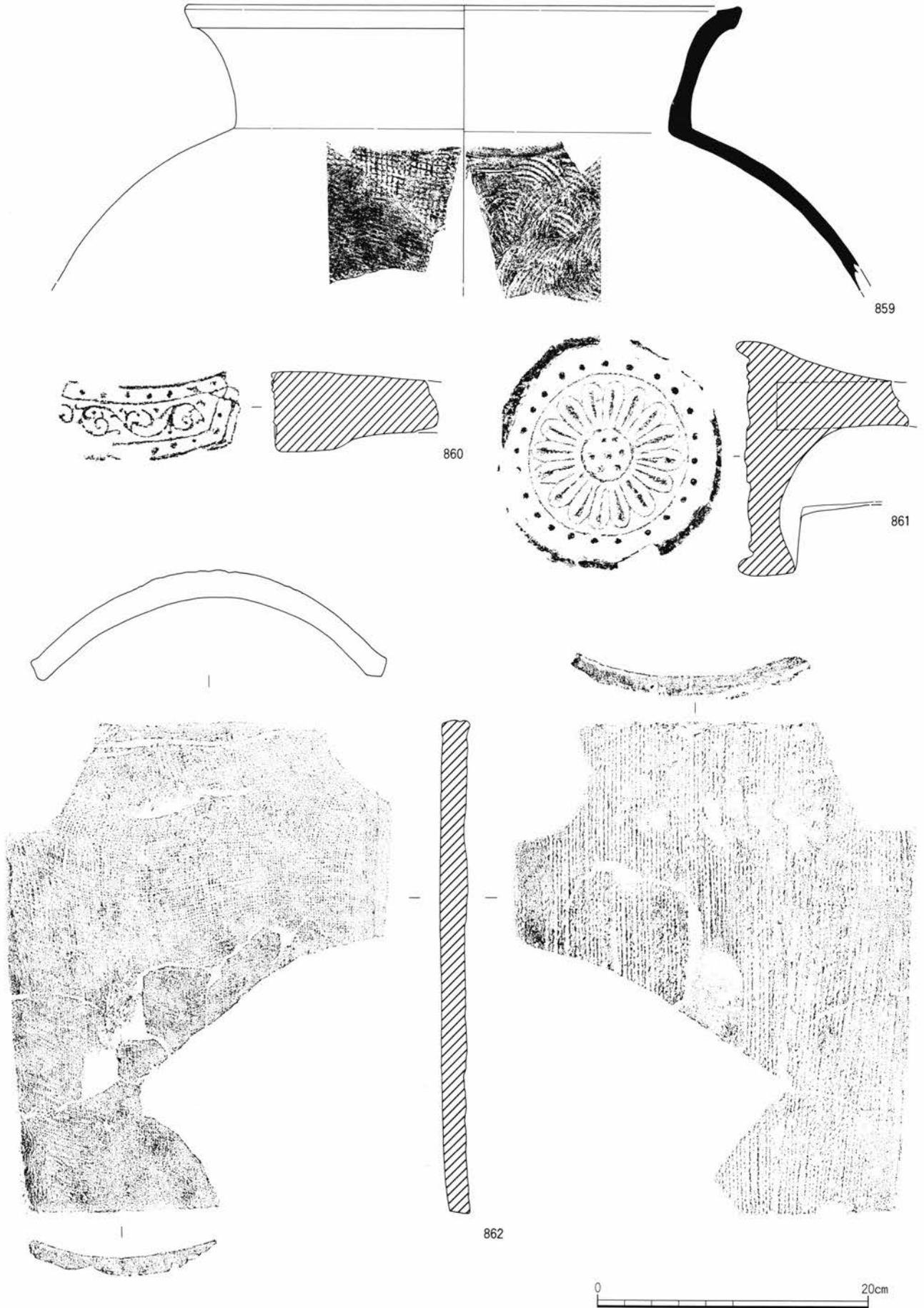


1992年度B地区出土遺物実測図(2)

(791~834 : S K368114)

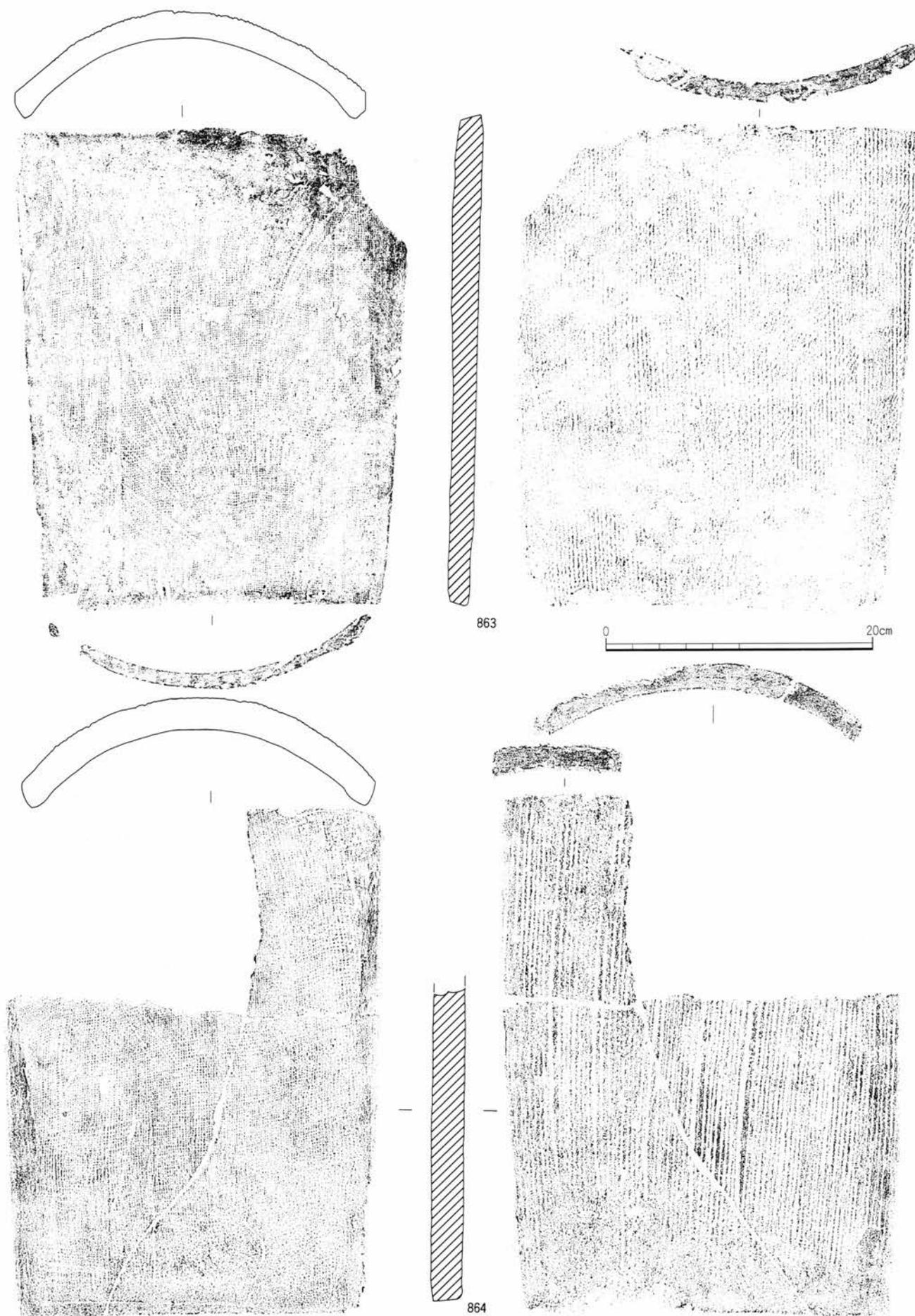


1992年度B地区出土遺物実測図(3)
(835~858 : S E 368106)



1992年度B地区出土遺物実測図(4)

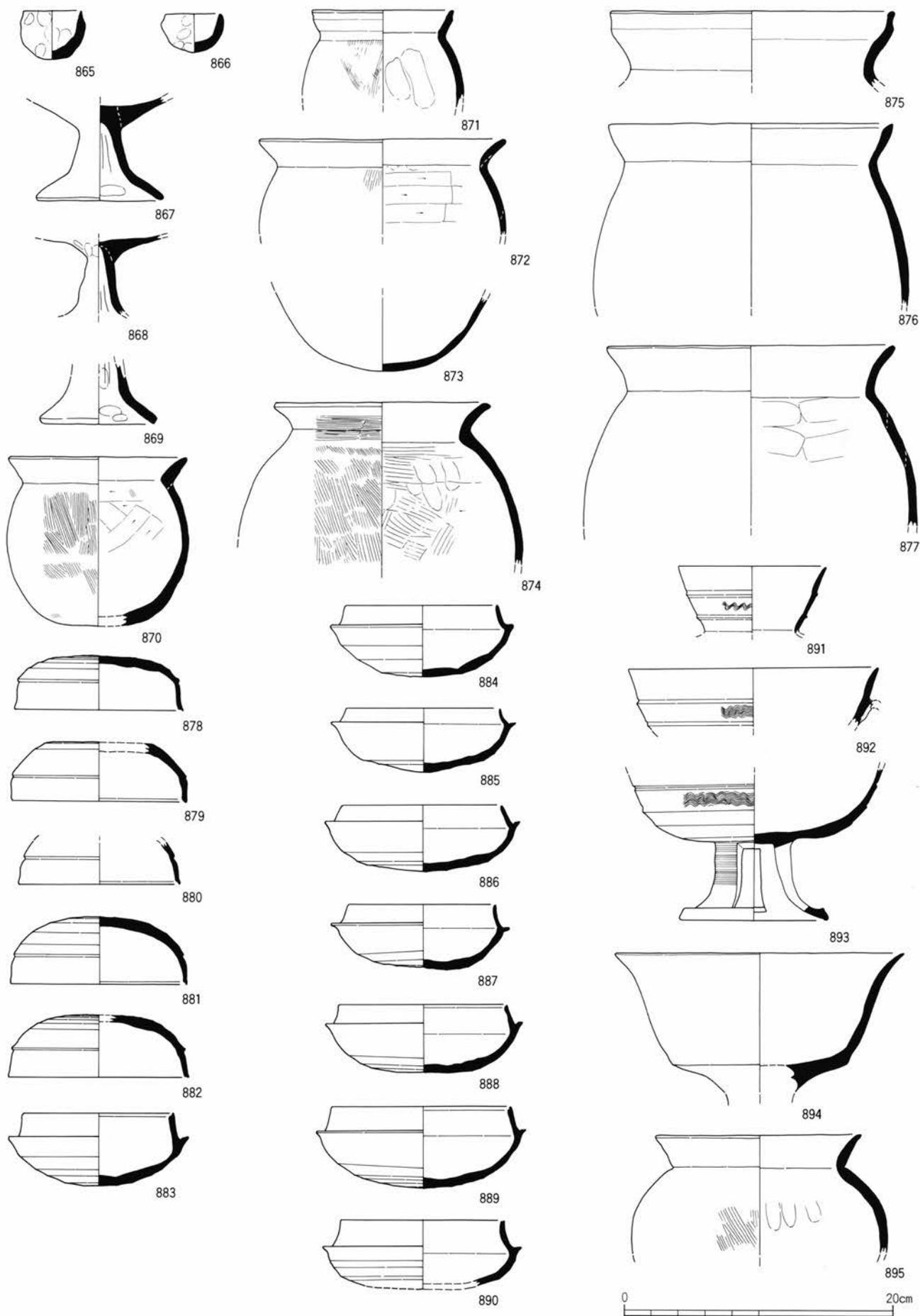
(859~862 : S E 368106)



1992年度B地区出土遗物实测图(5)

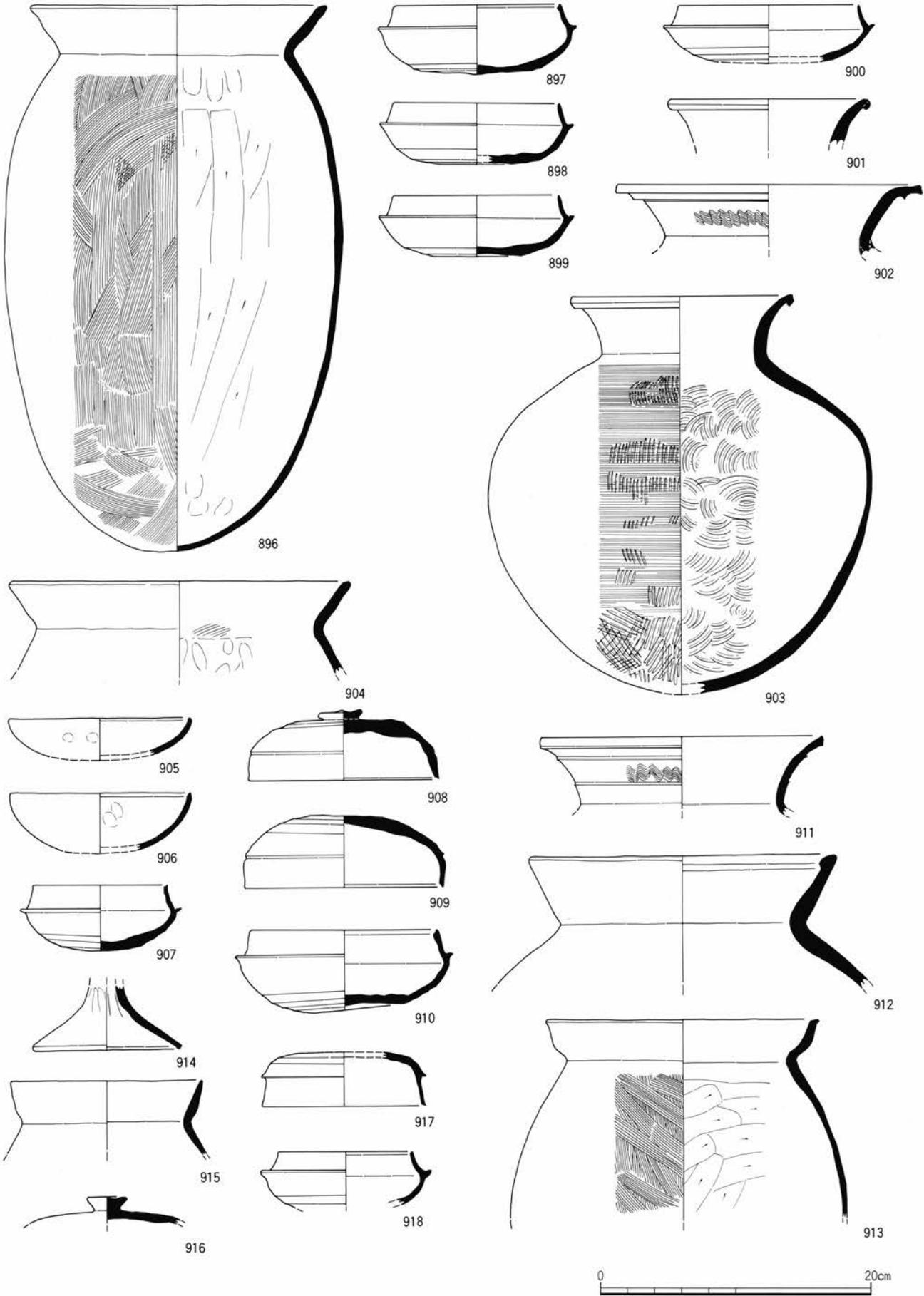
(863・864 : S E368106)

図版第七八



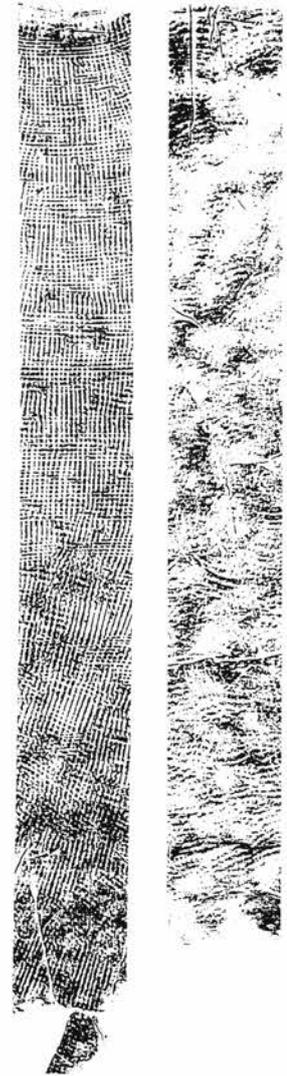
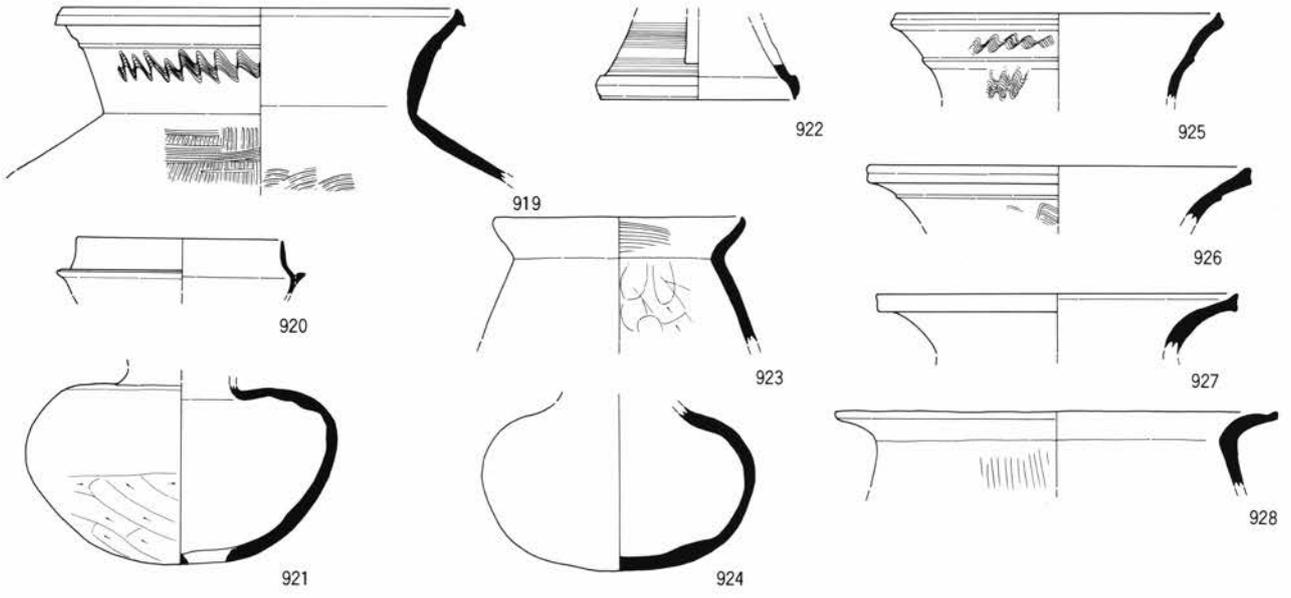
1992年度B地区出土遺物実測図(6)

(865~889・891~893 : S H368118、890・894・895 : S H368119)



1992年度B地区出土遗物实测图(7)

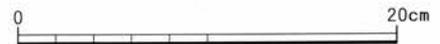
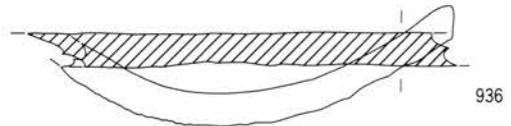
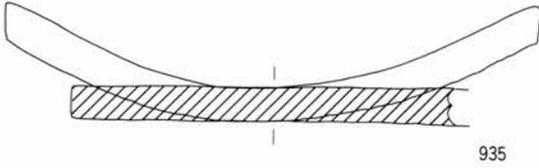
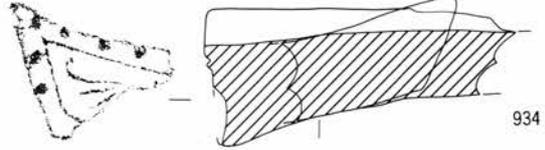
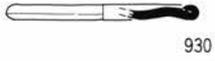
(896~904 : S H368121、905~907 : S H368120、908~913 • 916 • 918 : S K36171、
914 • 915 : S H368123、917 : P 68)



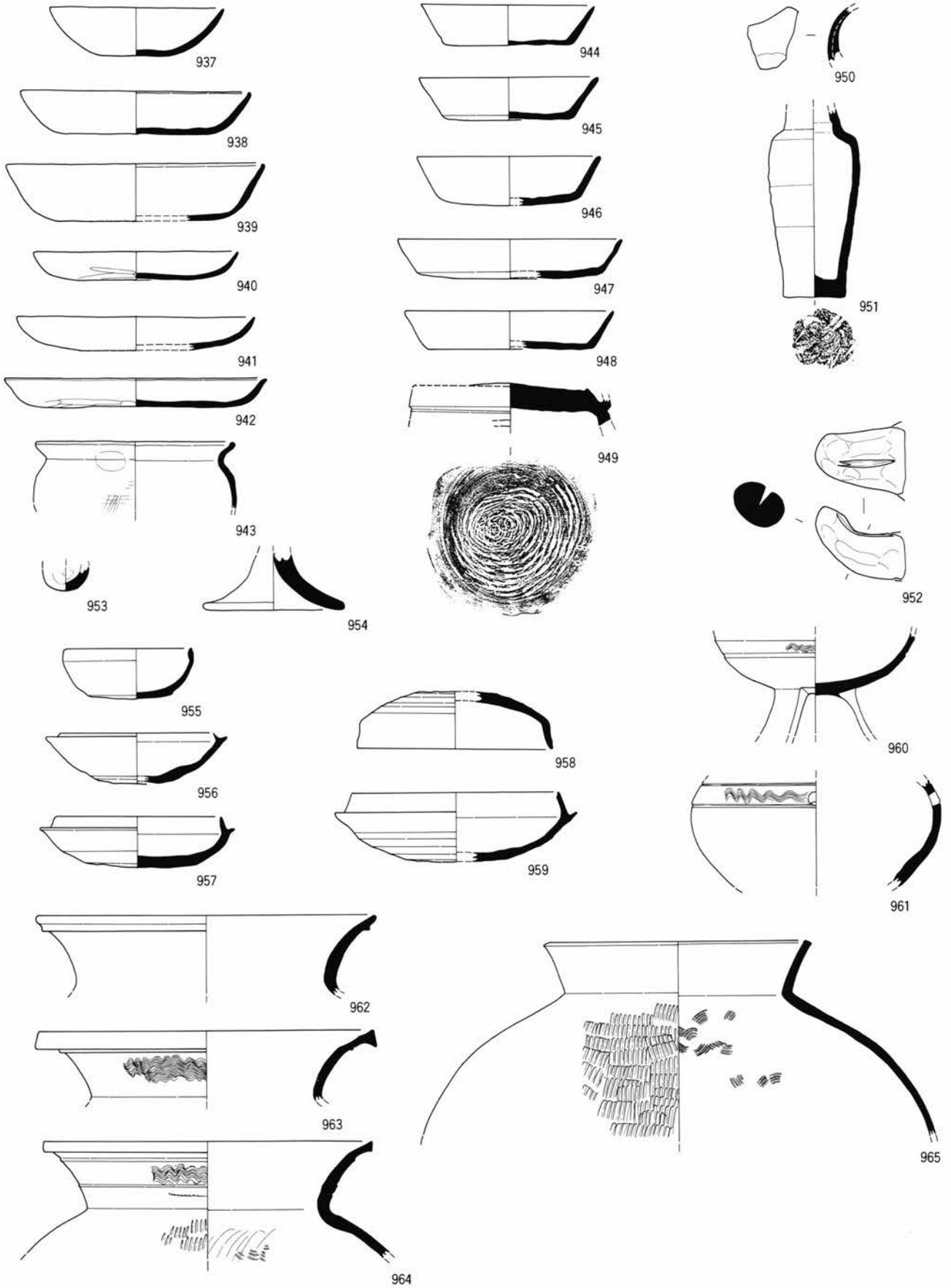
0 20cm

1992年度B地区出土遺物実測図(8)

(919 : S K368140、920 : S K368223、921・924 : S K368229、922・926 : S K368223、
923・928 : S K368258、925 : S K368172、929 : S K368131、927 : S K268257)

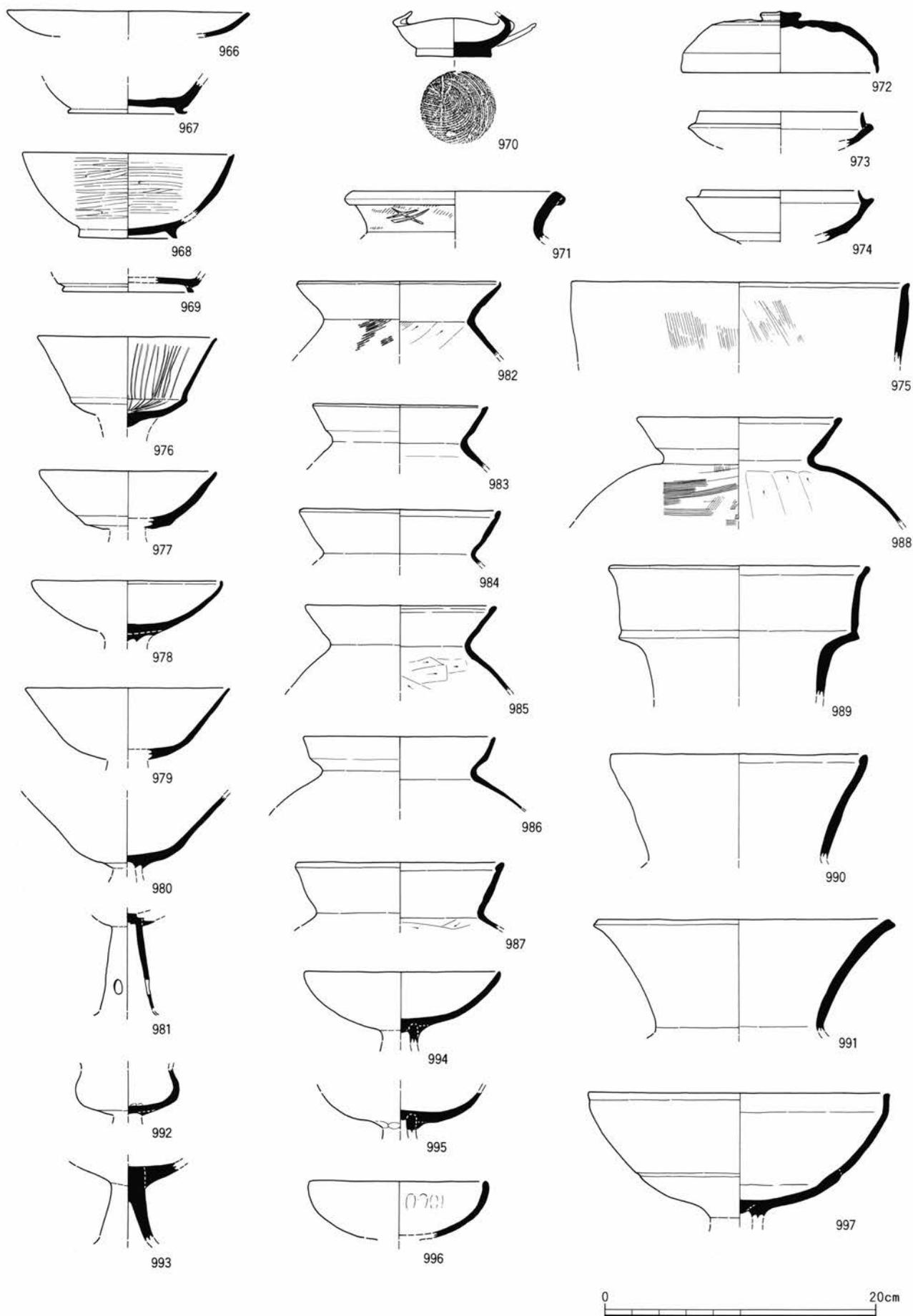


1992年度B地区出土遗物实测图(9)
(930~936 : 包含層)



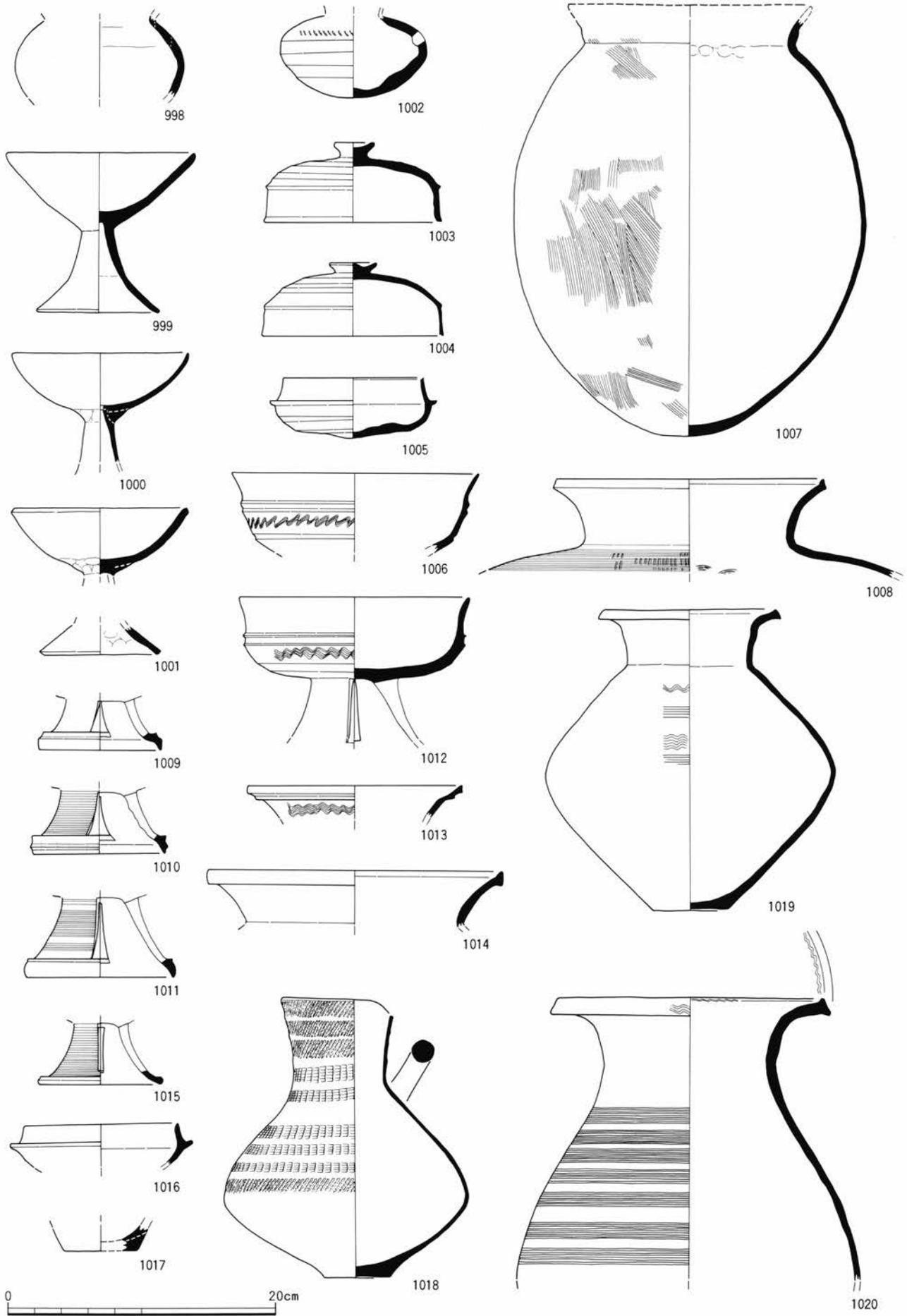
0 20cm

1992年度B地区出土遗物实测图(10)
(937~965 : 包含層)



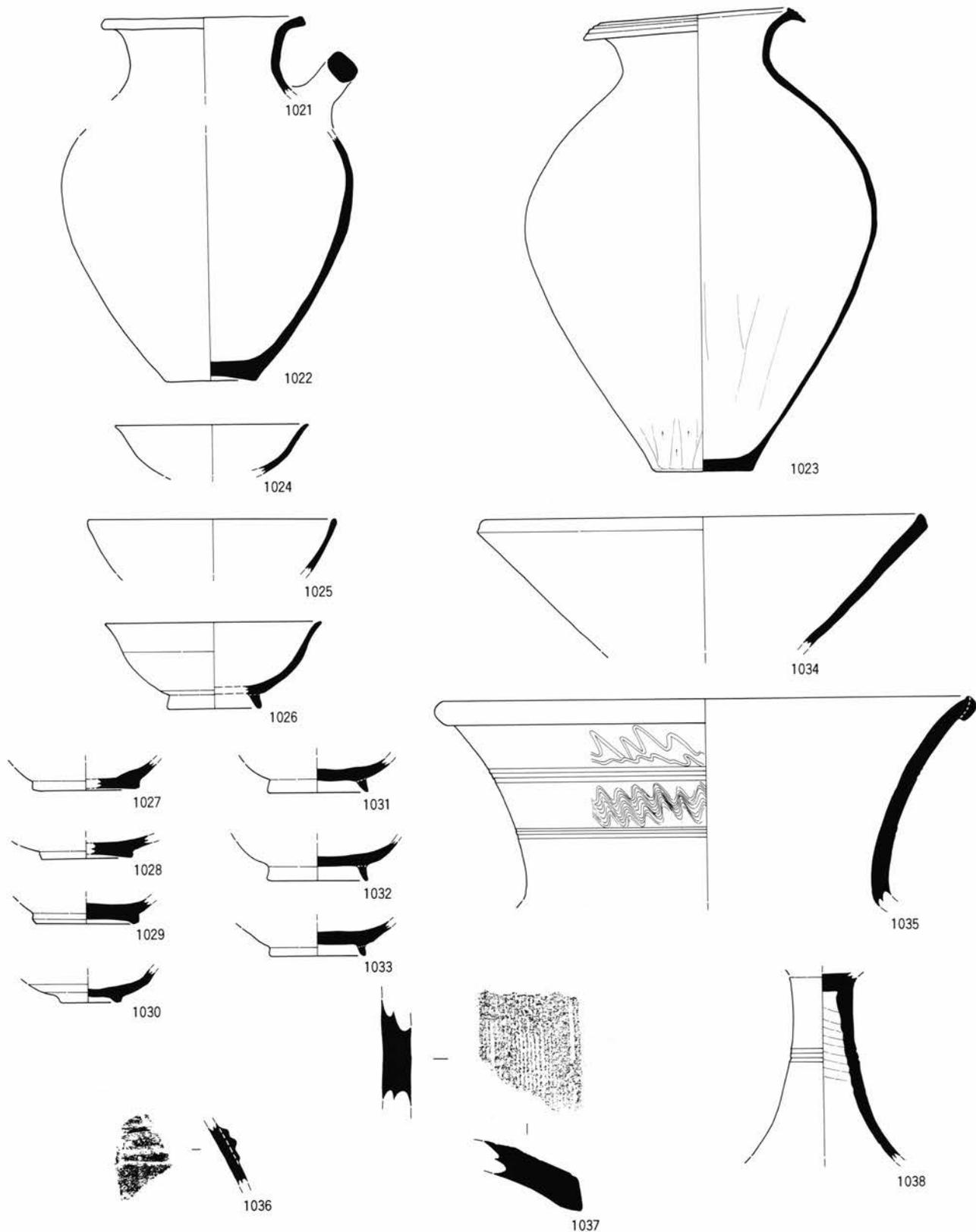
C-1 トレンチ出土遺物実測図(1)

(966~968 : S K35708、969 : S D368242、970 : S D35710、971 : S E368243、972~975 : S H35705、
976~991 : S H368202、992~997 : S H368203)



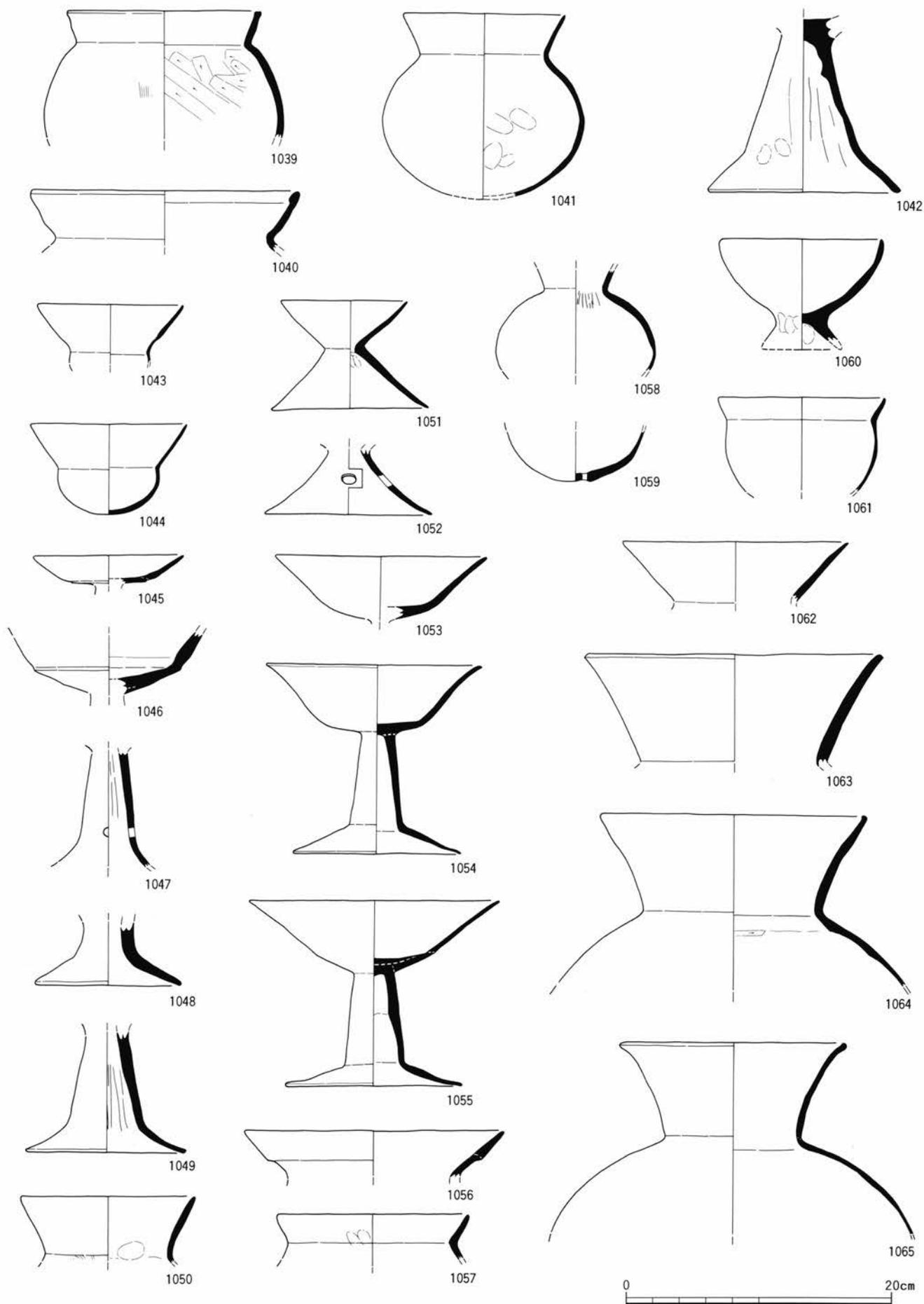
C-1 トレンチ出土遺物実測図(2)

(998~1015 : S H368203、1016 : S H368204、1017・1018 : S K368226、1019・1020 : S K368247)



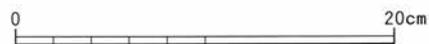
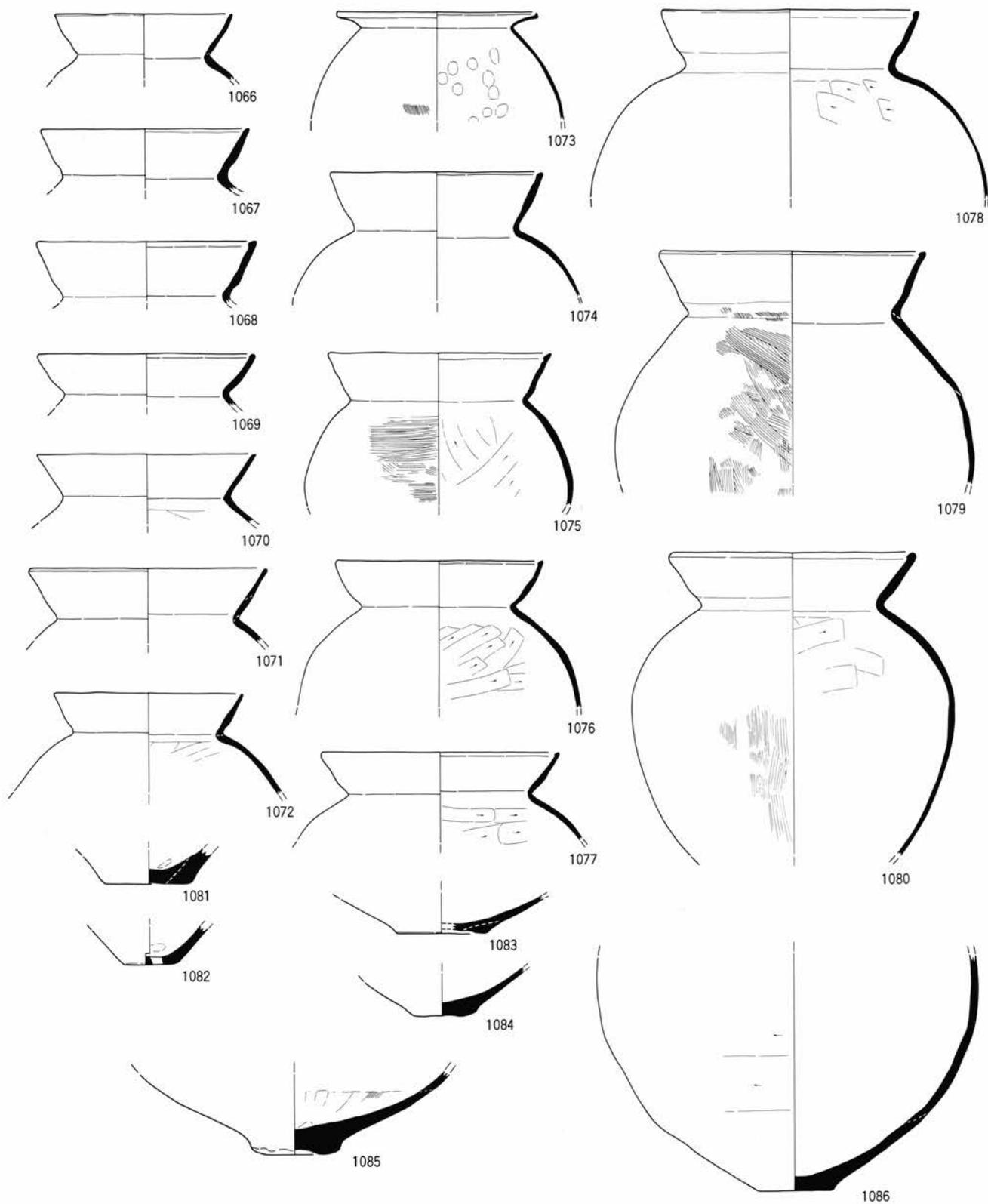
C-1 トレンチ出土遺物実測図(3)

(1021・1022 : S K368247、1023 : S K368248、1024~1038 : 包含層)

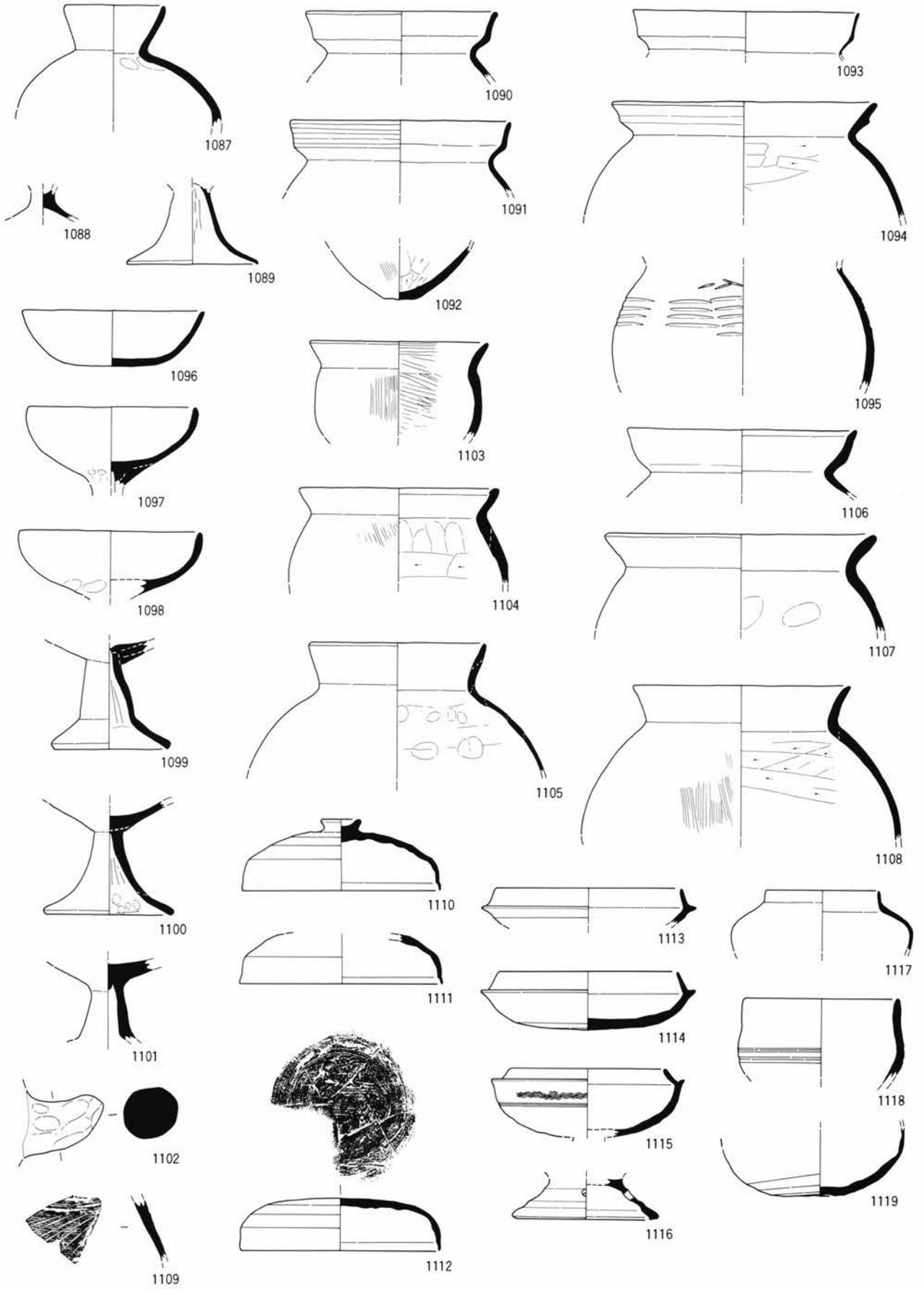


C-2 トレンチ出土遺物実測図(1)

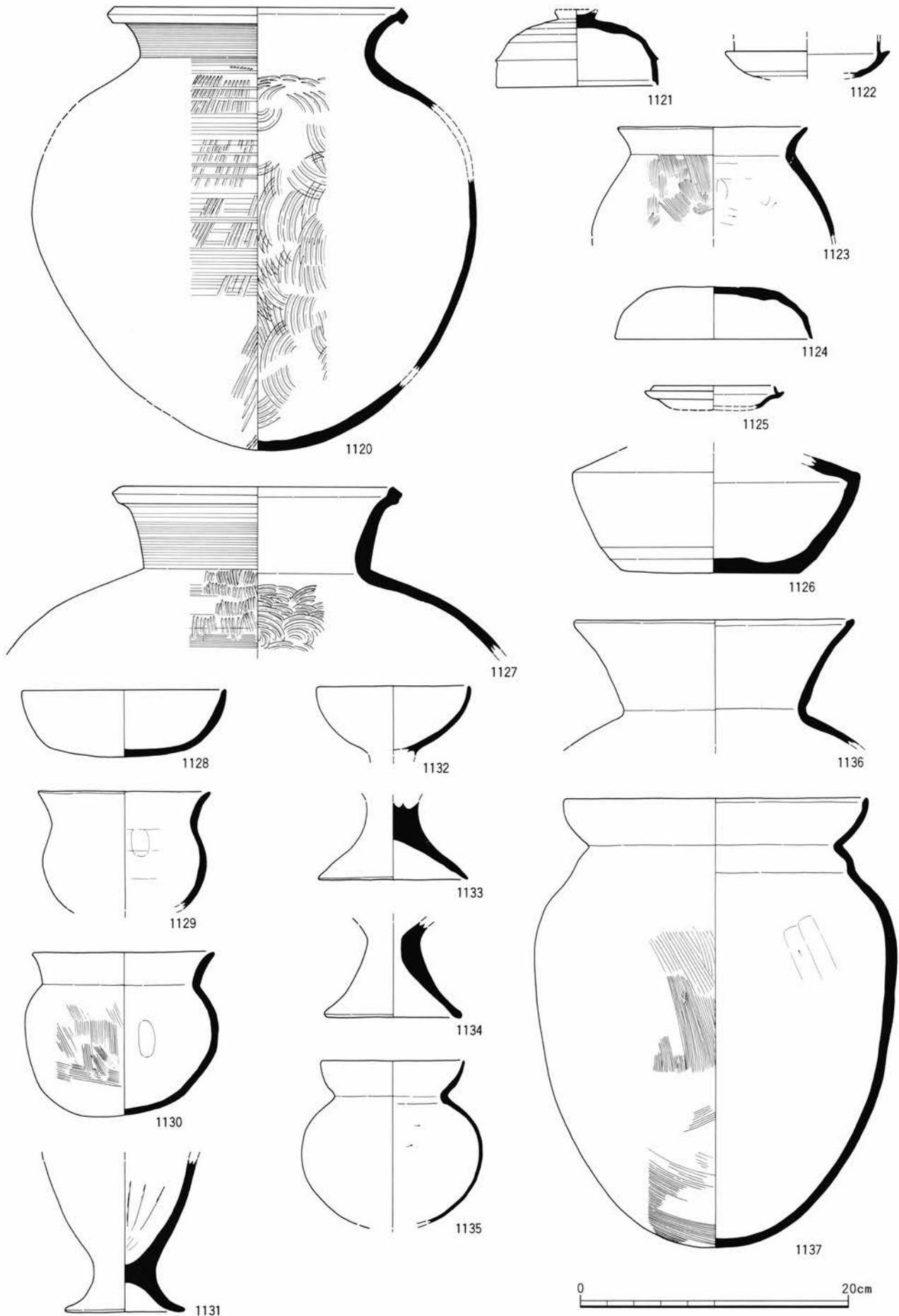
(1039・1040 : S H395690、1041・1042 : S H395632、1044~1065 : S H395677)



C-2 トレンチ出土遺物実測図(2)
(1066~1086 : S H395677)

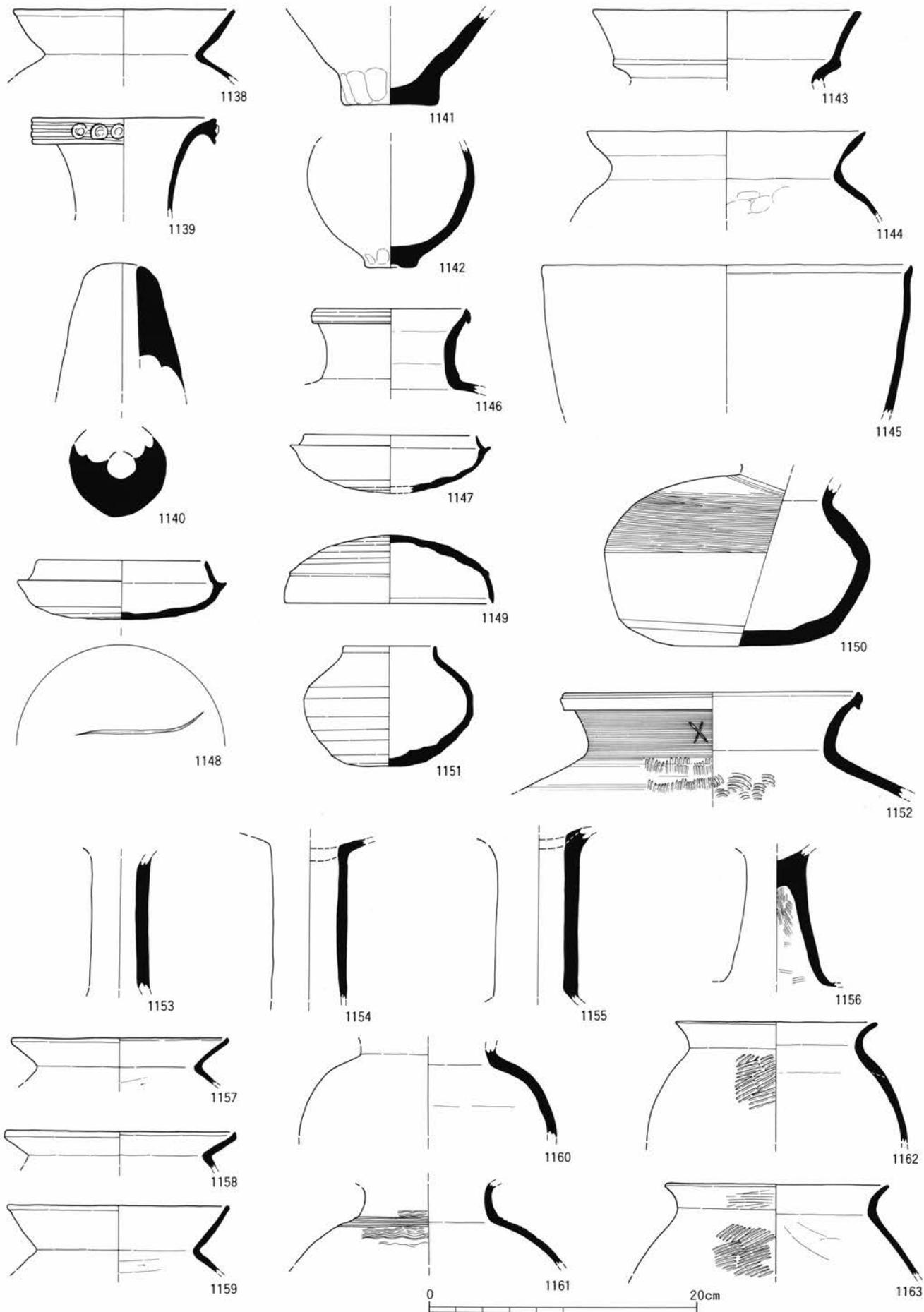


C-2 トレンチ出土遺物実測図(3)
 (1087~1095 : S H395684、1096~1119 : S H395685)

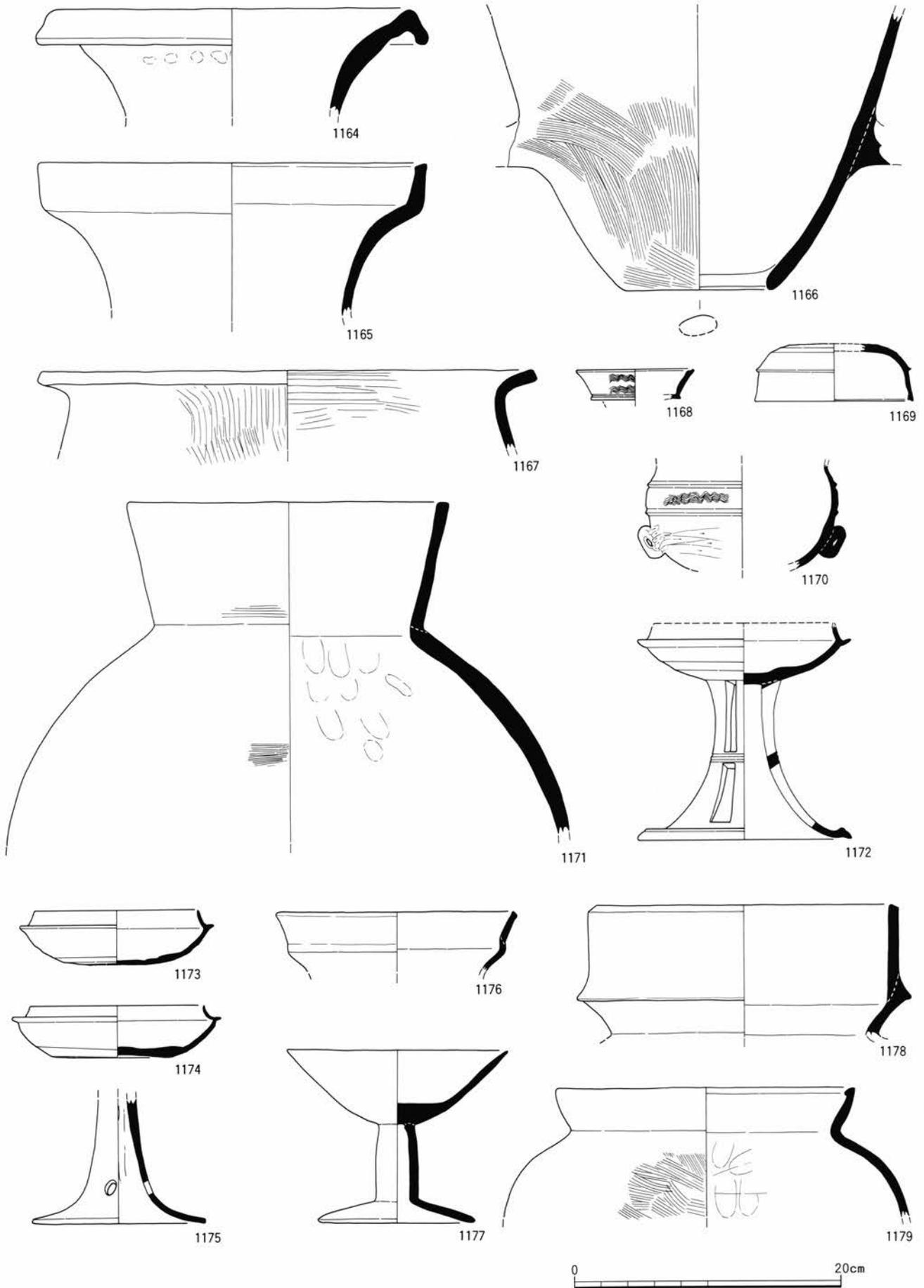


C-2 トレンチ出土遺物実測図(4)

(1120 : S H395685、1121~1123 : S H395686、1124~1127 : S D395691、1128~1137 : S R395600)

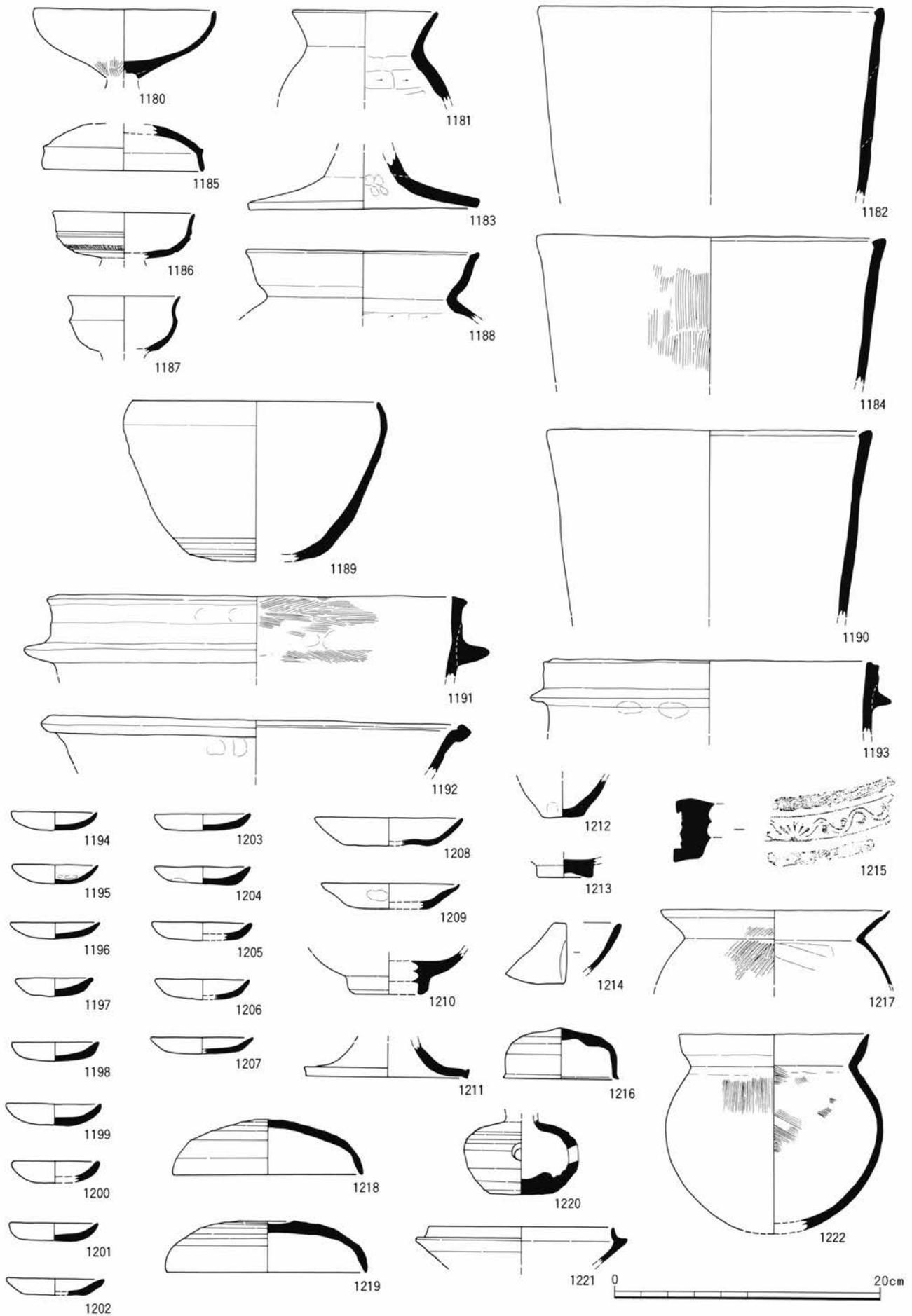


C-2 トレンチ出土遺物実測図(5)
 (1138~1152 : S R 395600、1153~1163 : S R 395601)



C-2 トレンチ出土遺物実測図(6)

(1164~1172 : S R395601、1173・1174 : S K395623、1175~1179 : S K395680)

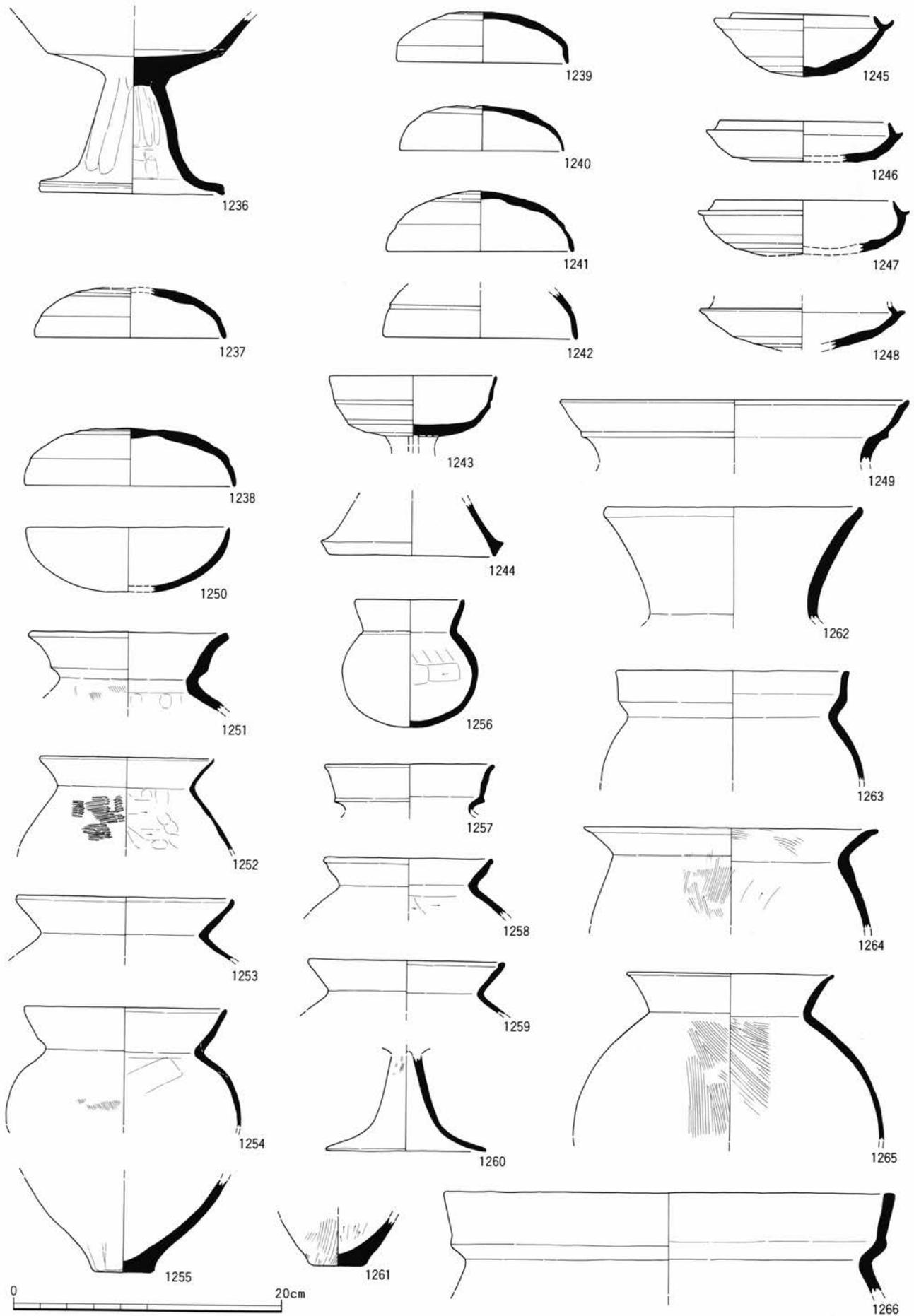


C-2・C-3 トレンチ出土遺物実測図

(1180~1184 : S K395683、1185~1190 : 包含層、1191 : S K368312、1192・1198・1210・1215 : P25、
 1194~1196 : S K36831、1197 : P15、1199 : P37、1200 : P101、1208 : P31、1211 : S X368309、
 1212・1217 : S X368308、1218・1222 : S H368304、その他 : 包含層)

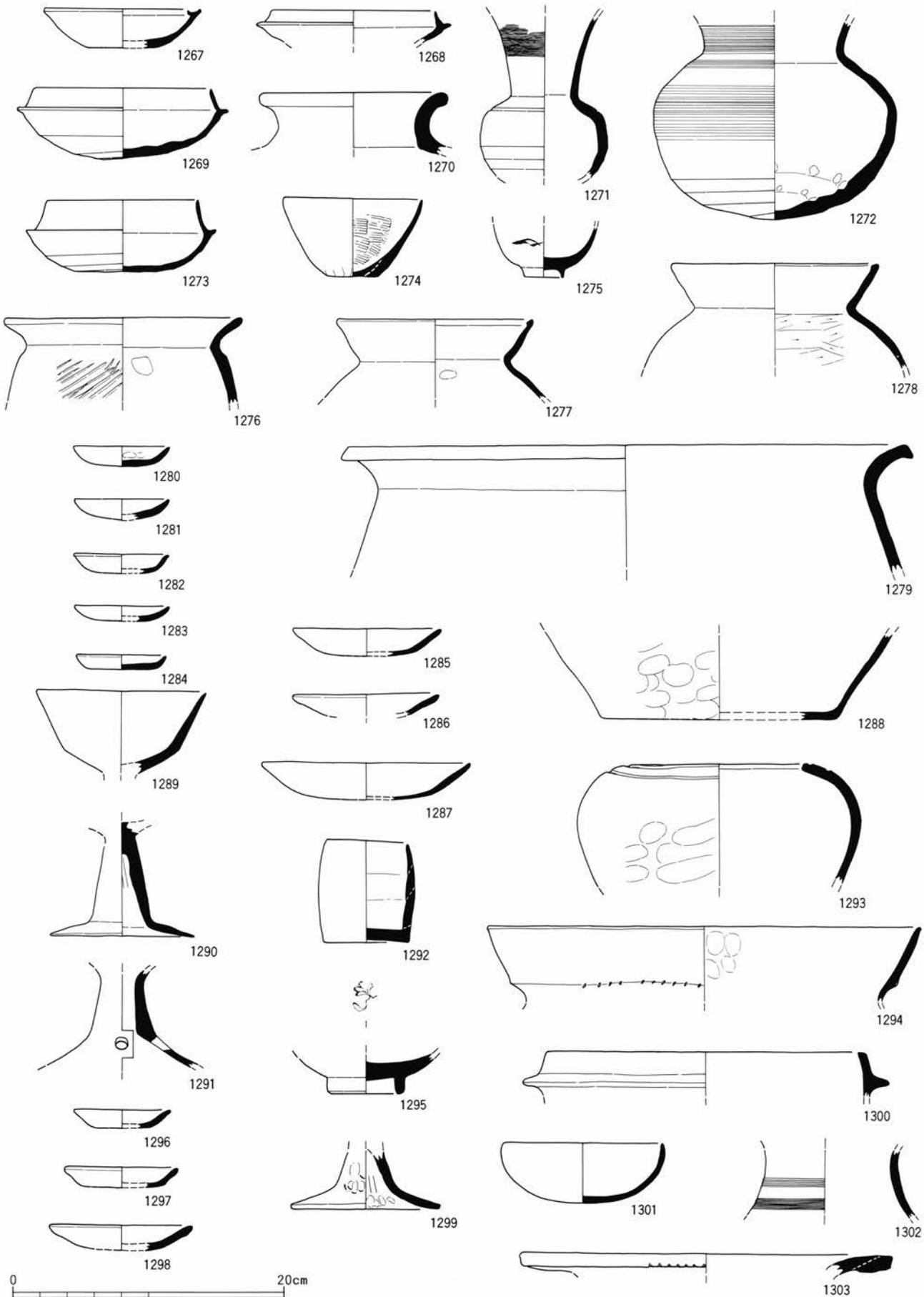


C-4 a トレンチ出土遺物実測図(1)
(1223~1235 : S R395702)



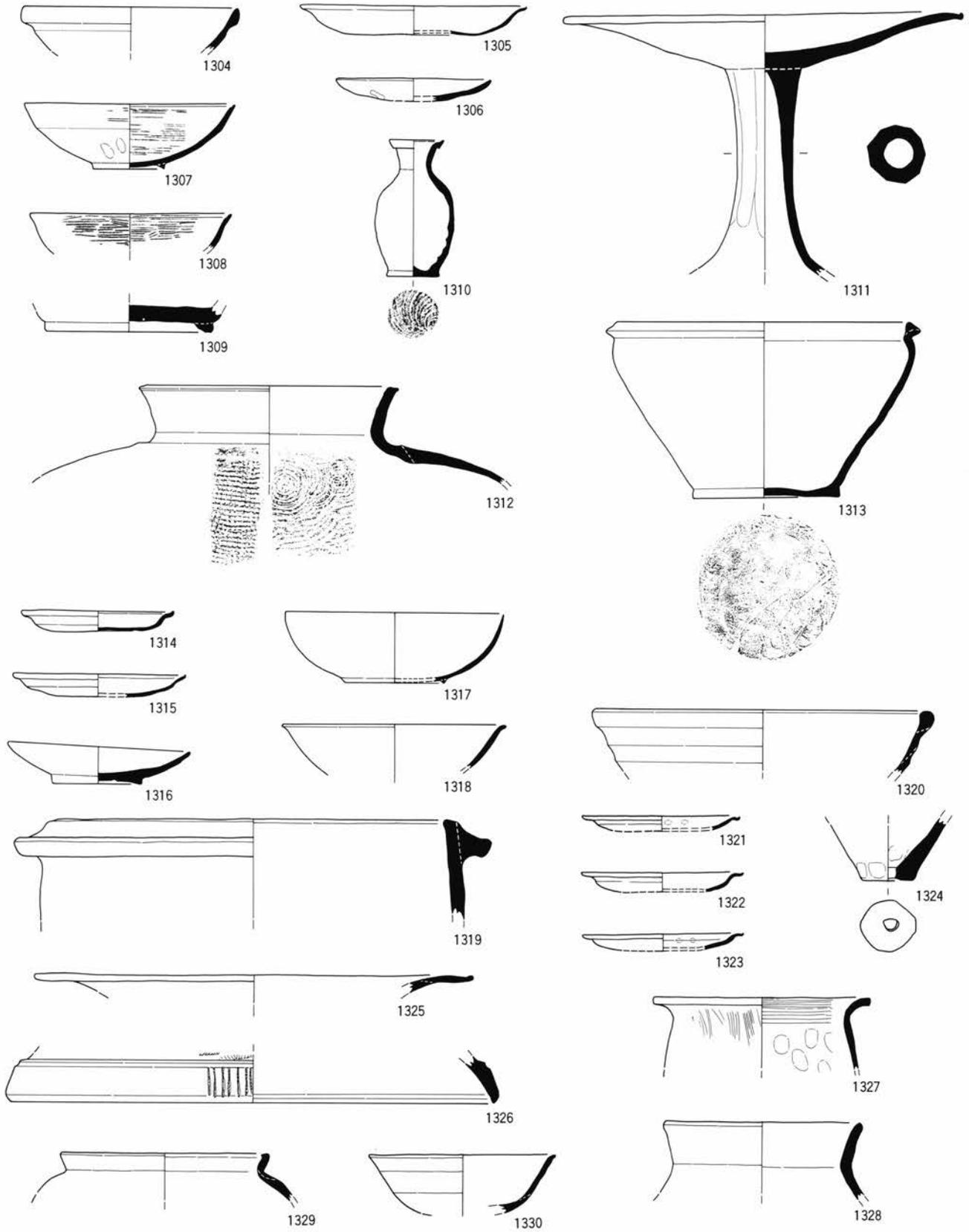
C-4 a トレンチ出土遺物実測図(2)

(1236~1249 : S R 395702、1250~1266 : S R 395703)



C-4 a・4 b・4 c トレンチ出土遺物実測図

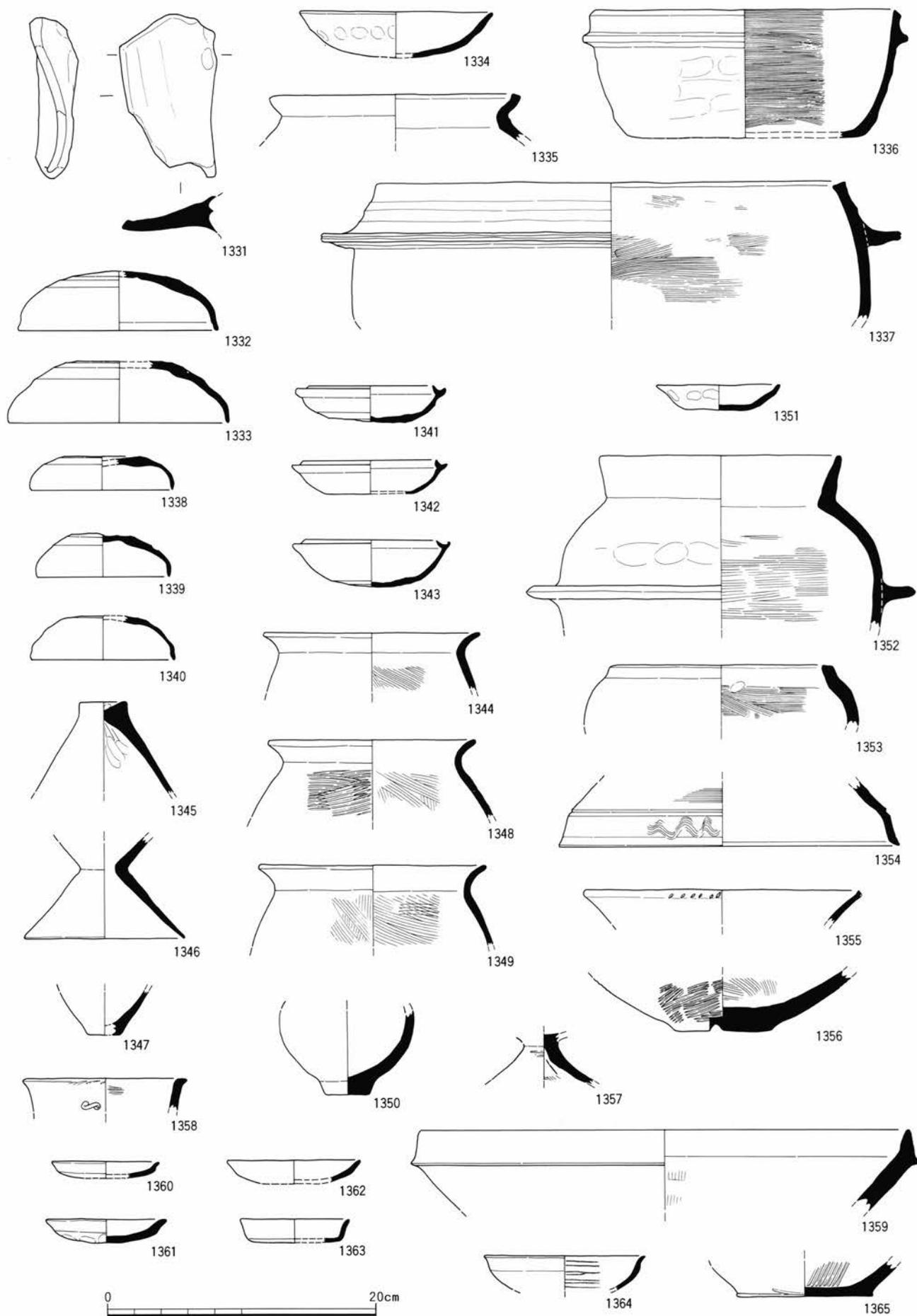
(1267~1271 : S R395703、1278 : S R395720、1272・1277~1279 : 包含層、1280~1283・1285~
 1288 : S K395801、1284 : S K395805、1289~1292・1294 : S H395803、1293 : P112、1295 : P36、
 1296・1297 : P 9、1298 : P80、1299・1300 : S K42803、1301 : S K42804、1302 : S K42813、1303 : P65)



0 20cm

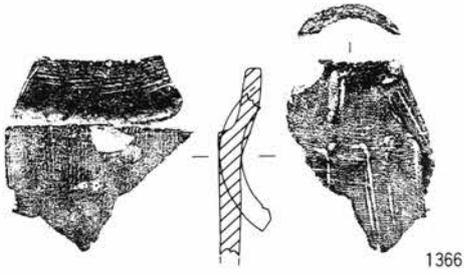
C-5 a トレンチ出土遺物実測図

(1304・1307 : S D428103、1305・1310・1311 : P 7、1306 : S K428116、1307・1309 : S K428103、
 1308 : P 6、1312 : P 4、1314~1318・1324 : P 5、1319~1323 : S K428104、
 1324・1326~1328 : S D428109、1329 : S K428105、1330 : 包含層)

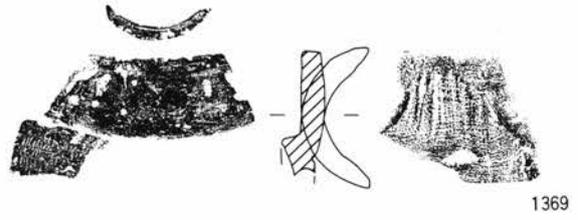


C-5 b・C-6・E-1 トレンチ出土遺物実測図

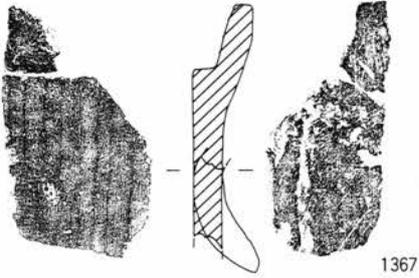
(1331・1333~1337 : C-5 b 包含層、1332 : SX428211、1338~1350・1254~1257 : SH395803、
1351・1352 : SK46605、1353 : SK368308、1358・1359 : C-6 包含層、1360~1365 : E-1 包含層)



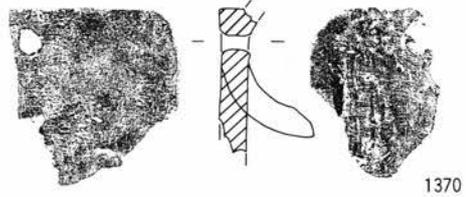
1366



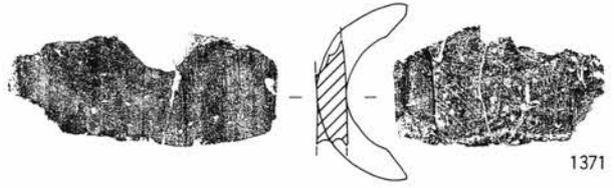
1369



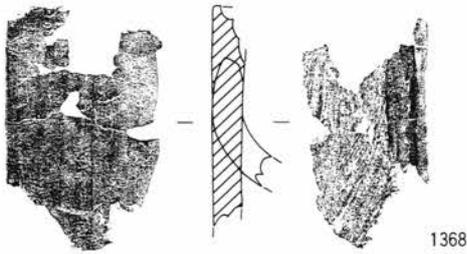
1367



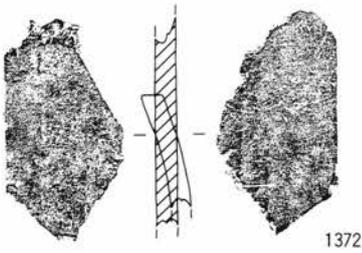
1370



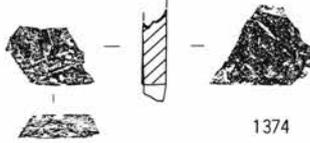
1371



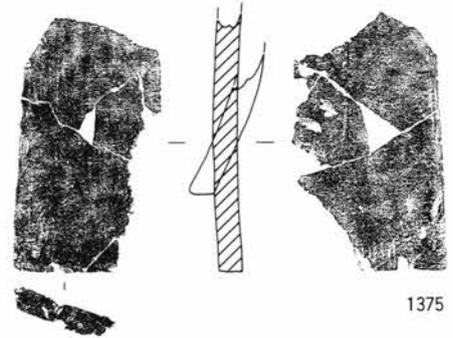
1368



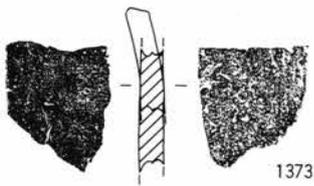
1372



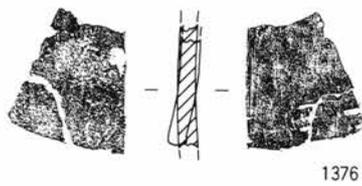
1374



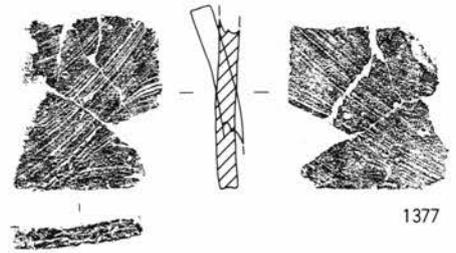
1375



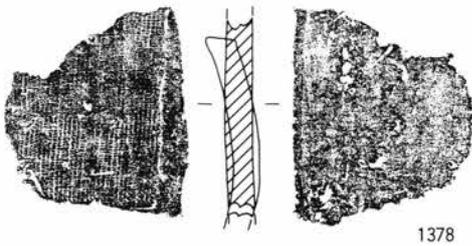
1373



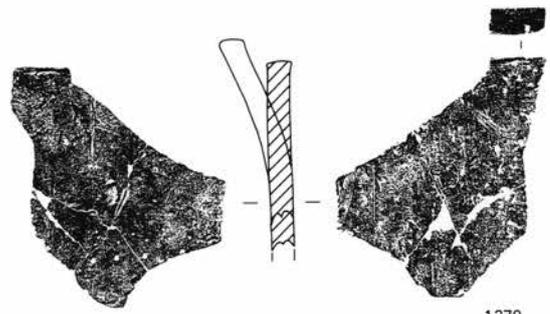
1376



1377



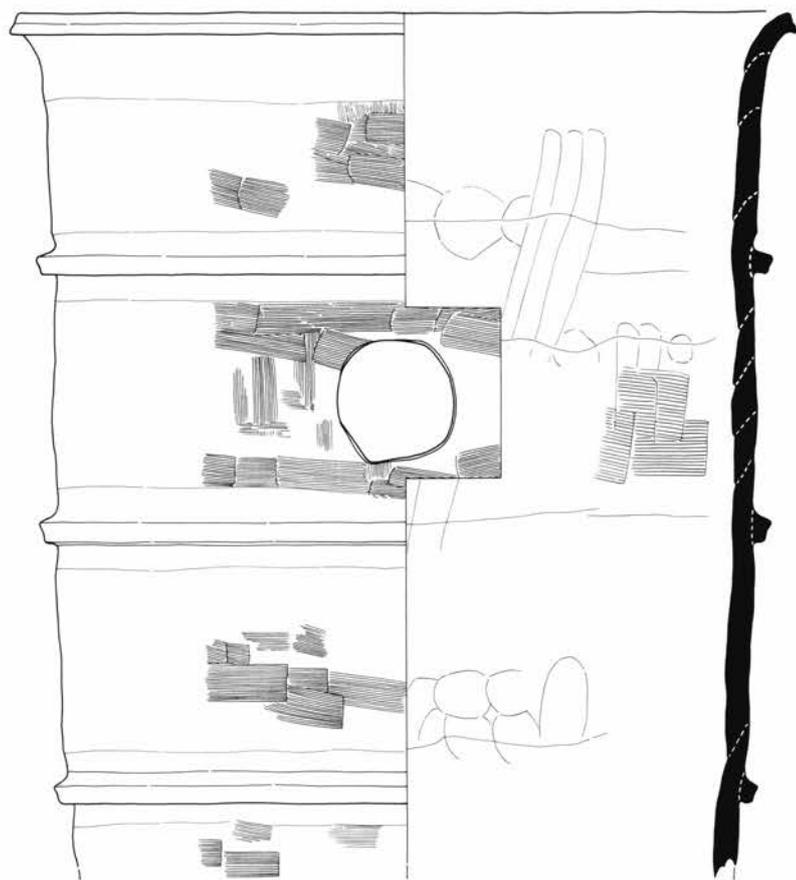
1378



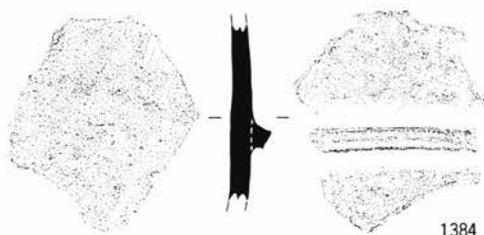
1379

C地区出土瓦实测图

(1366~1368 • 1374 • 1375 : C-3、1372 • 1377~1379 : C-4 b、1373 : C-4 c、1376 : C-5 a、1369~1371 : C-6)



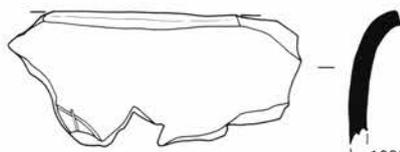
1380



1384



1385



1386



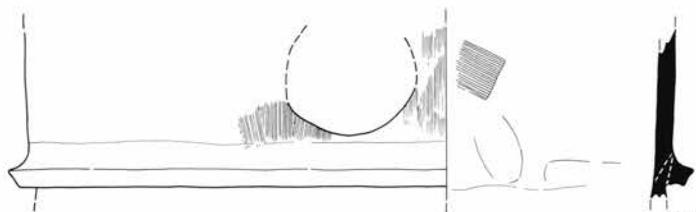
1387



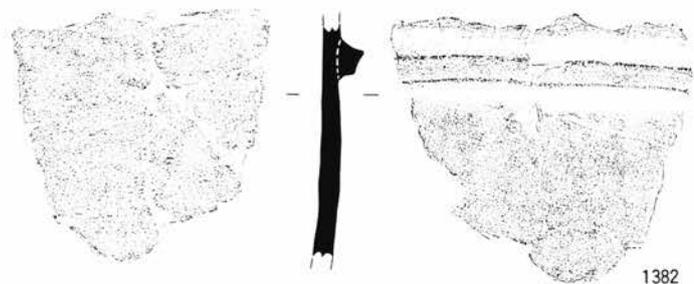
1388



1389



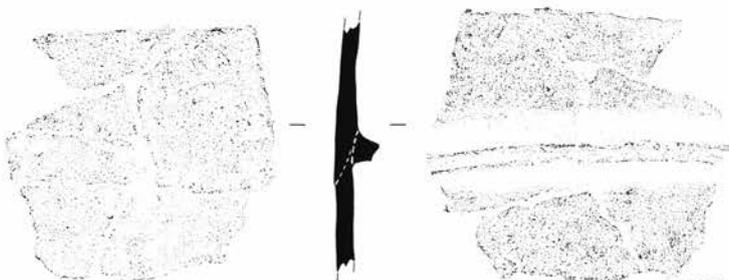
1381



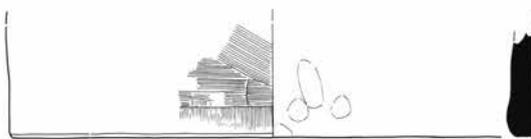
1382



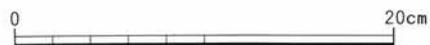
1390



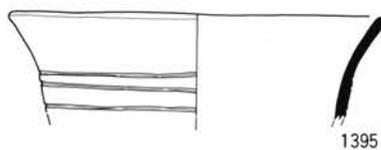
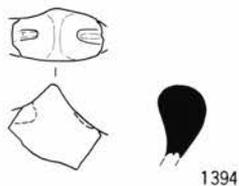
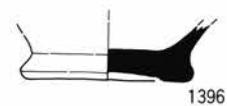
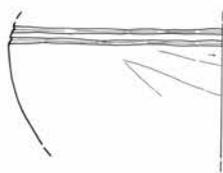
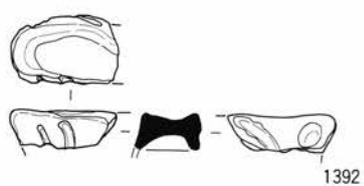
1383



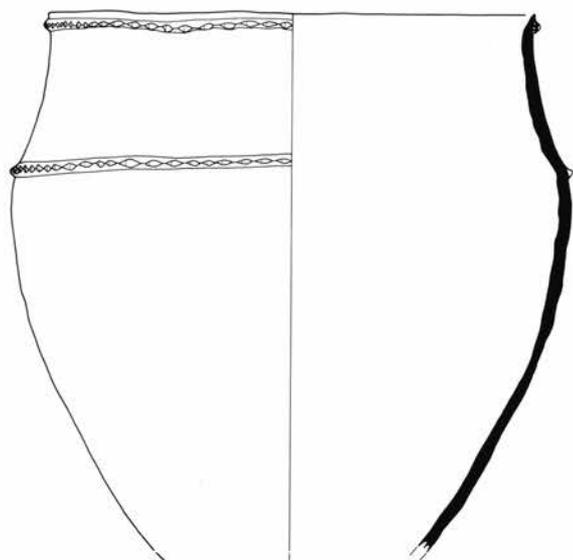
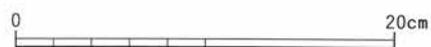
1391



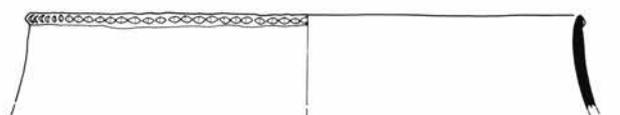
C-3 地区出土埴輪実測図



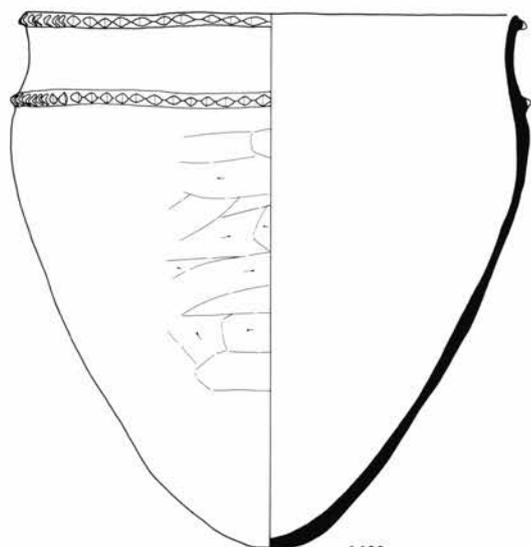
1395



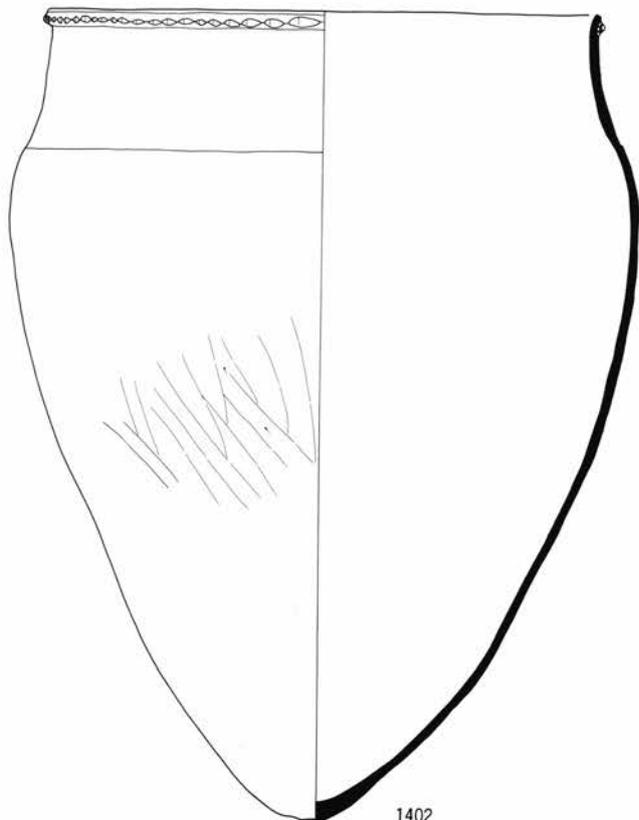
1399



1401



1400

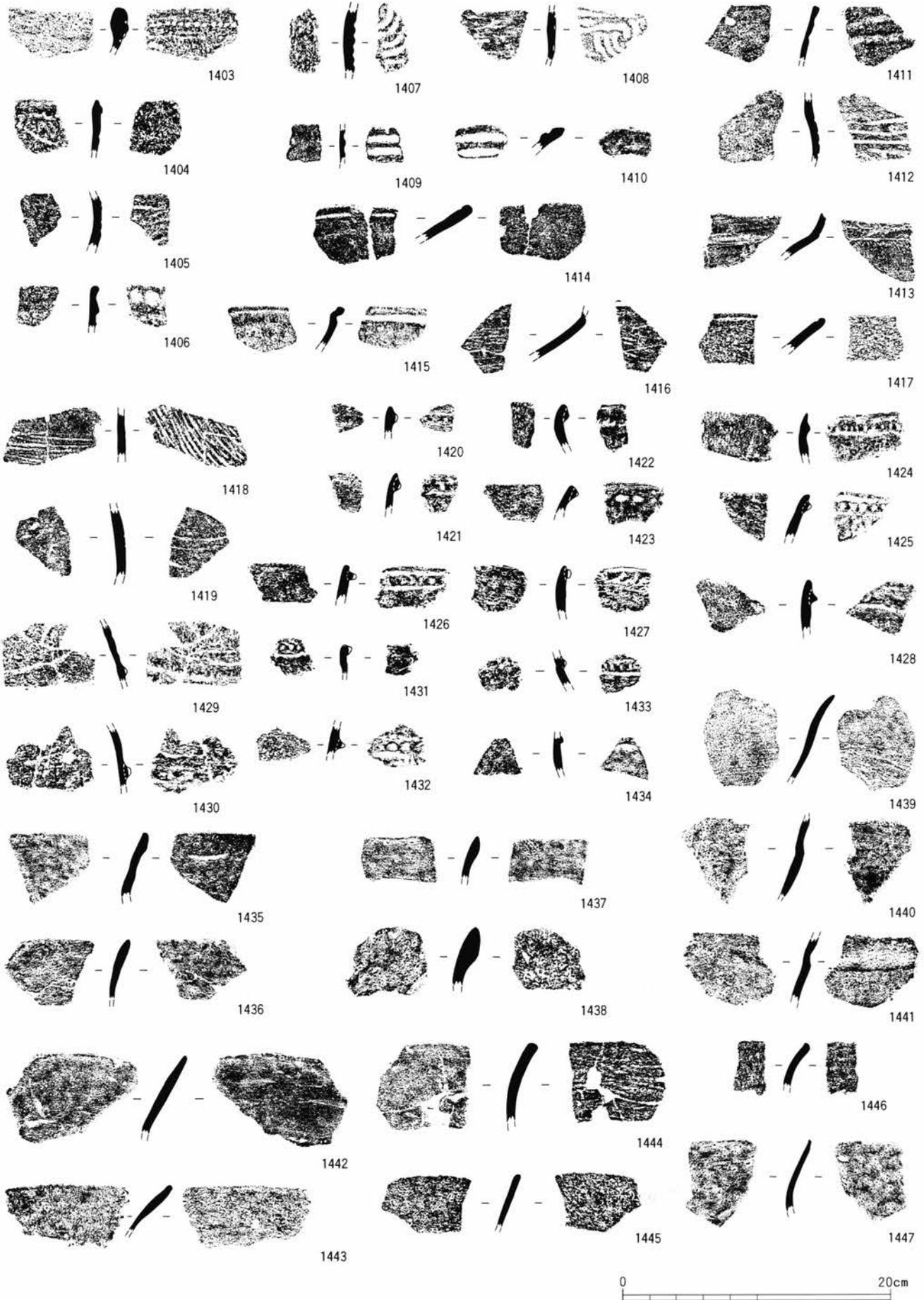


1402



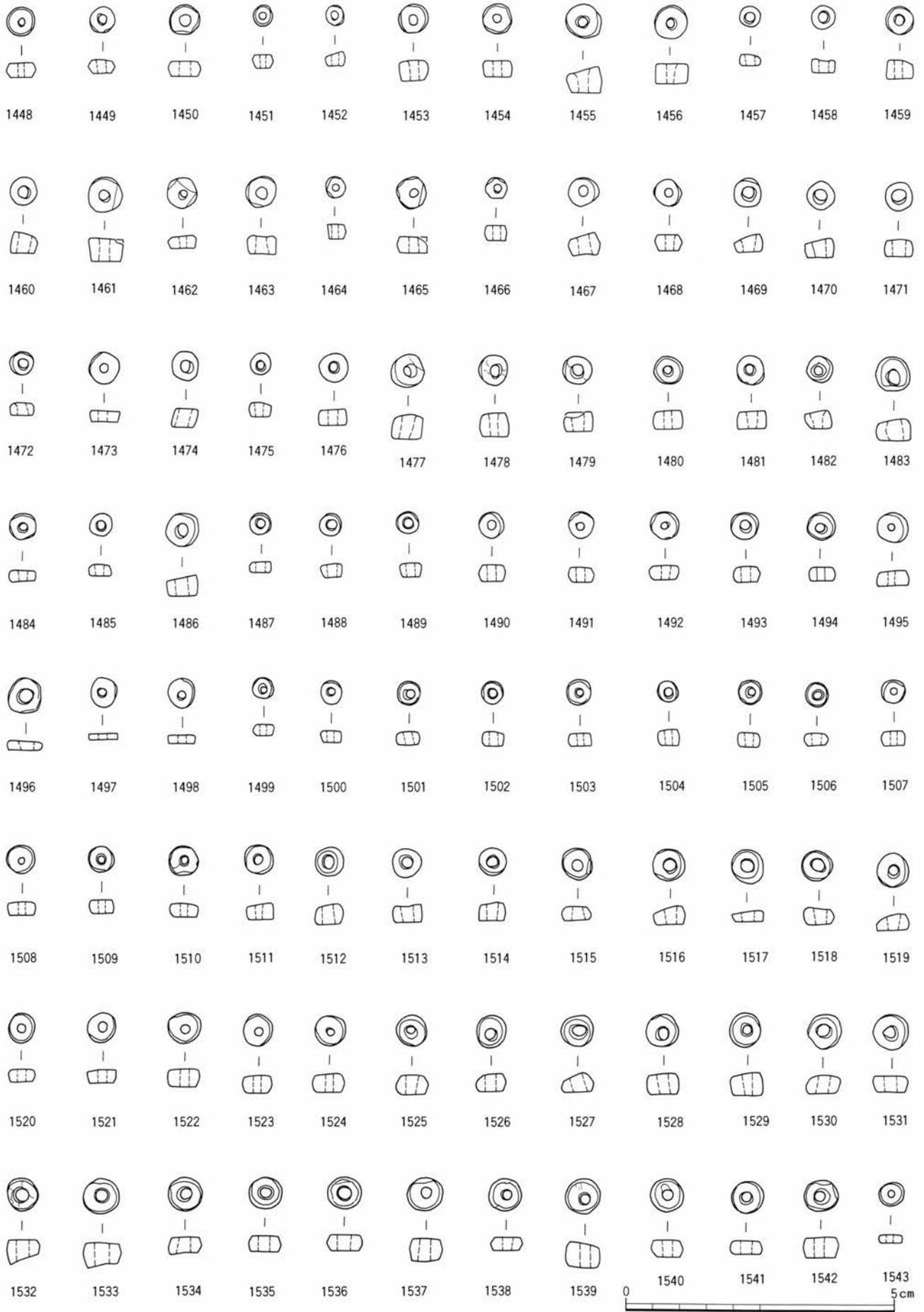
下植野南遺跡出土縄文土器実測図(1)

(1392・1393・1375 : 91 b、1397・1398・1401・1402 : C-2、1399・1400 : C-3、1394・1395・1396 : C-4)



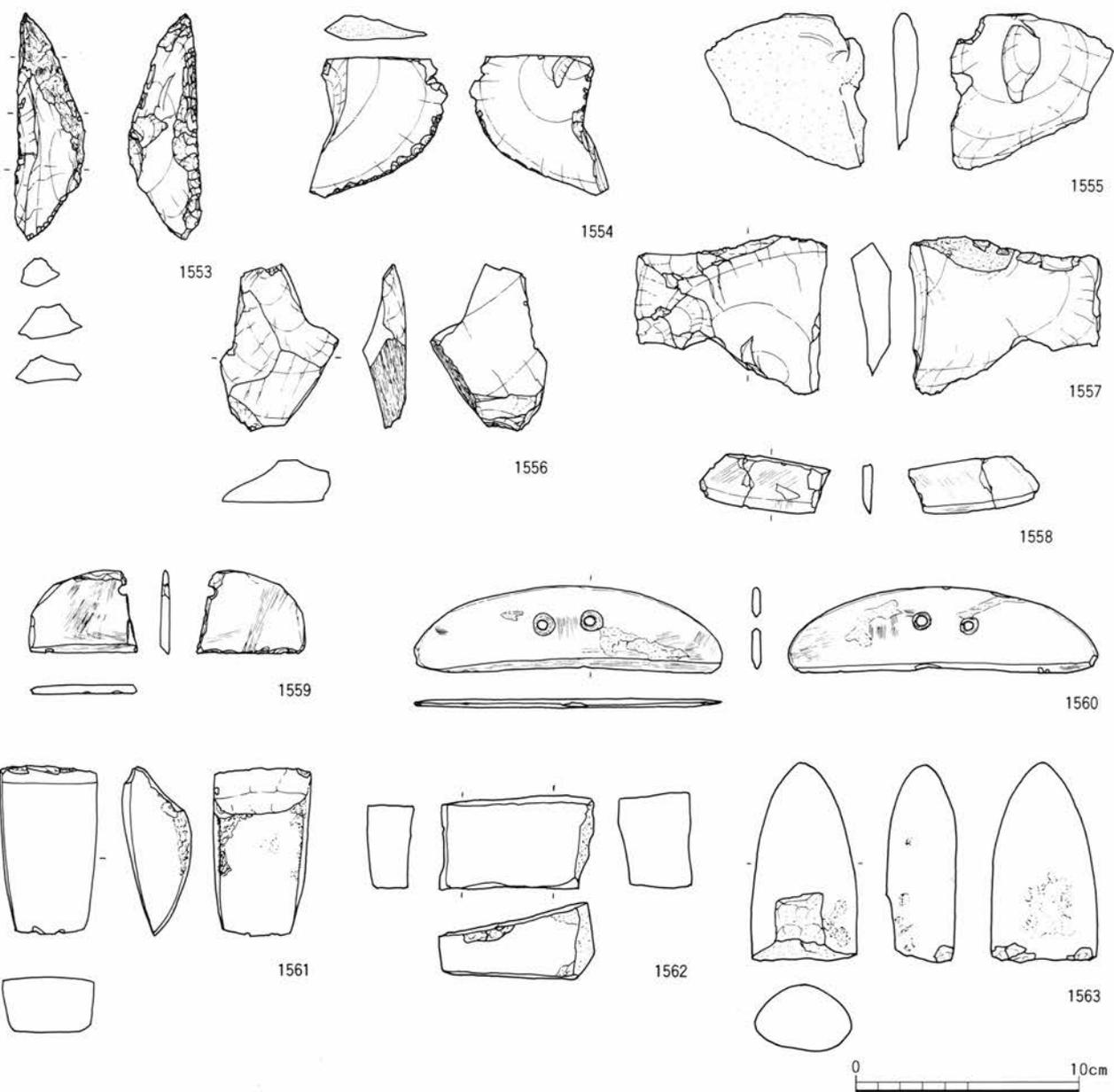
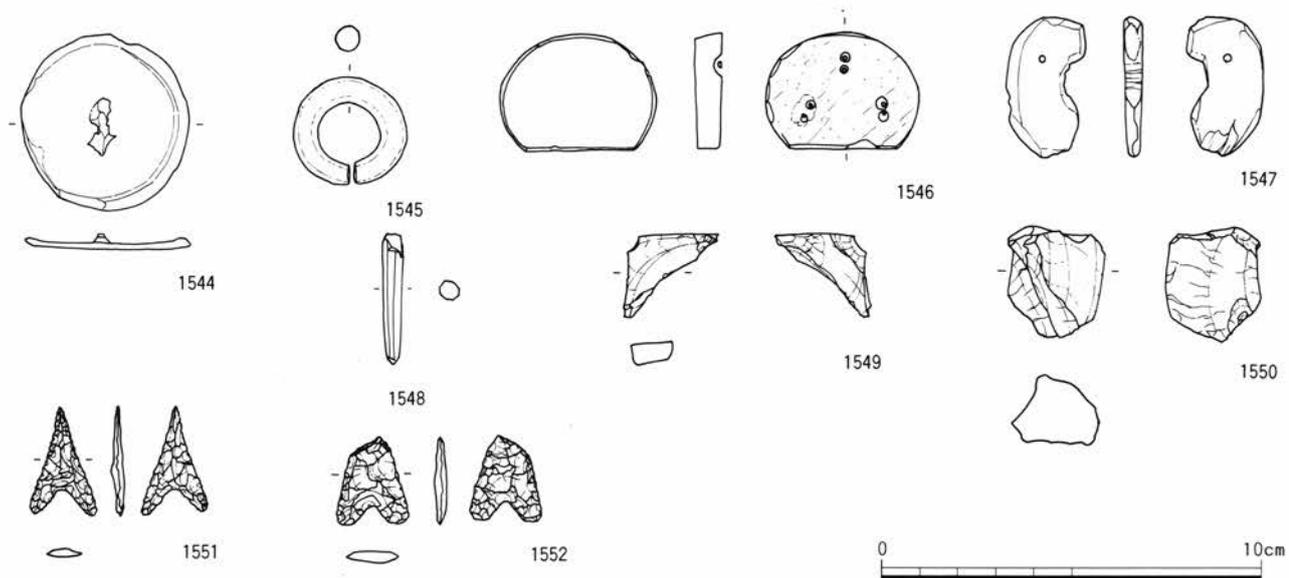
下植野南遺跡出土縄文土器実測図(2)

(1408・1412 : 91B、1407・1423~1425・1428・1432・1446 : C-2、1404・1406・1411・1413・1418・1420・1422・1431・1433・1434・1438 : C-3、1405・1414・1415・1419・1421・1426・1427・1430・1435~1437・1439~1444・1447 : C-4 a、1417 : C-4 c、1403・1409・1410・1416 : C-5 a)



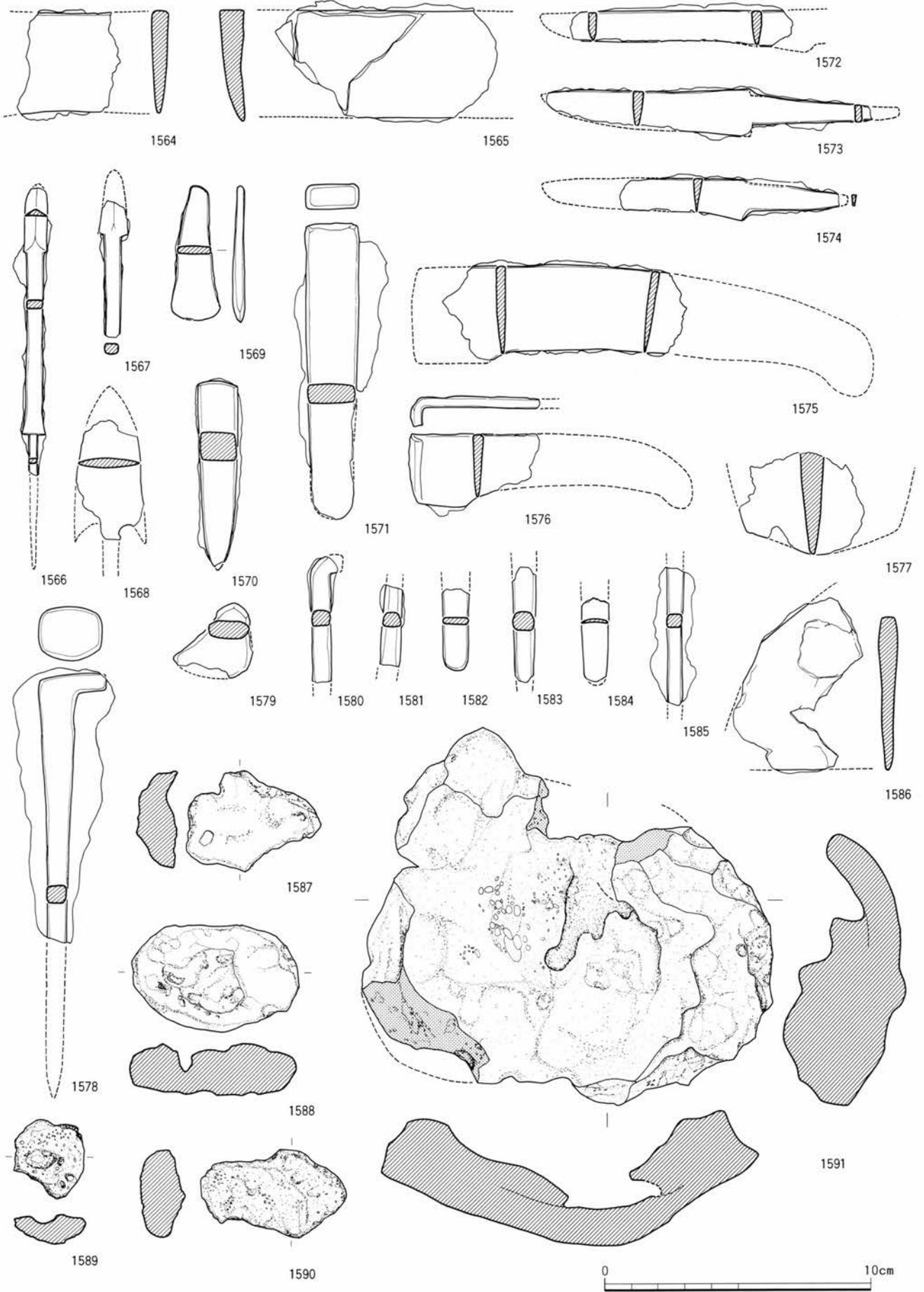
下植野南遺跡出土滑石製白玉実測図

(1448~1531 : S X36820、1532・1533 : S H395336、1154~1543 : S X36822)



下植野南遺跡出土金属・石製品実測図

(1552・1553~1556・1561 : 92A、1547・1550・1546 : 90B、1544・1545・1548・1549・1550・1562 : 91B、
1559 : C-1、1555・1557 : C-2、1551・1558 : C-3、1560・1563 : C-4)



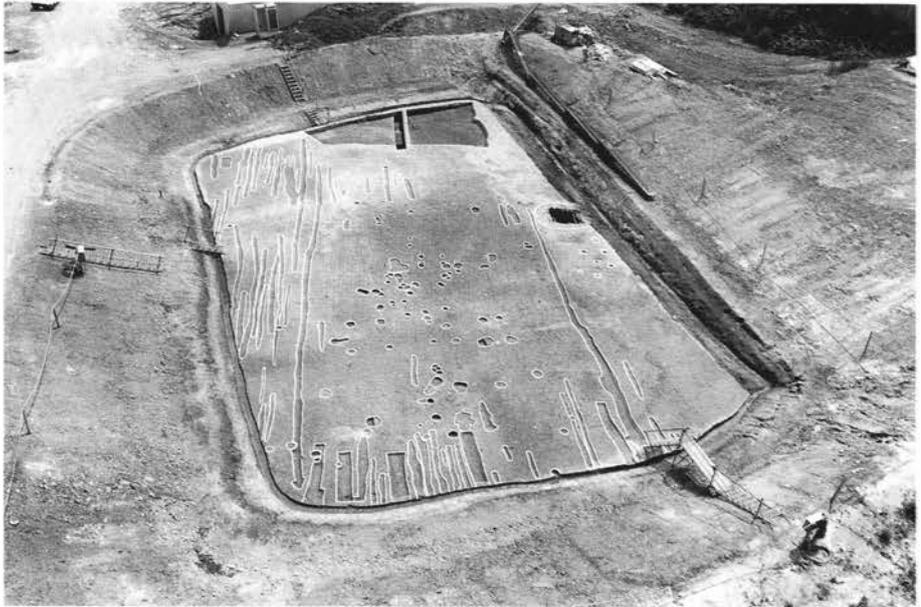
下植野南遺跡出土鉄器実測図

(1567~1569 : 92A、1564~1566・1574・1577~1579・1585・1586・1588・1591 : B91、
1571・1580・1581 : 90C-1、1570・1582~1584・1589 : b92、1572・1573・1575 : C-2、1587 : 92C-3)

(1)1990年度A地区調査
(北から)



(2)1992年度A地区
中・近世遺構面(西から)

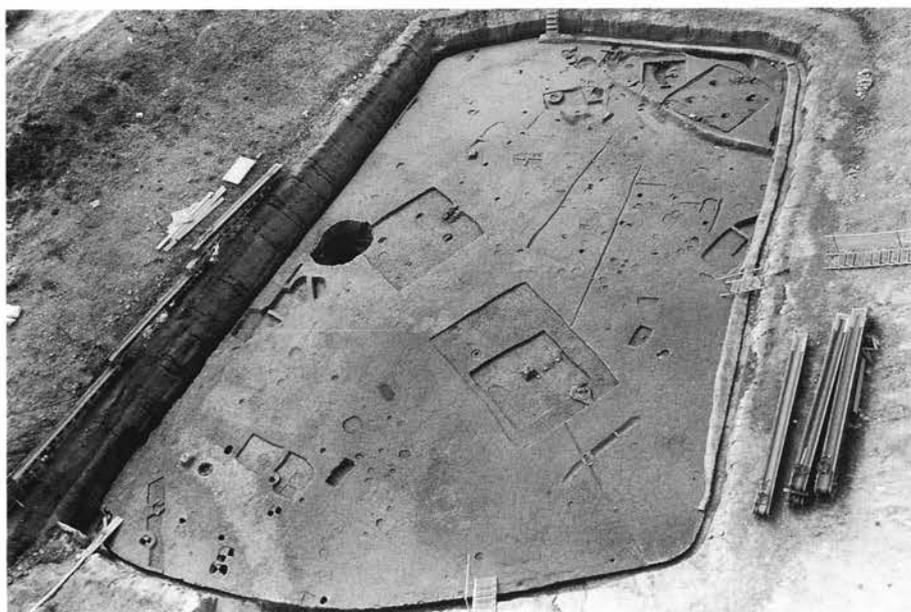


(3)1992年度A地区
奈良・平安時代遺構面
(西から)





(1)1992年度A地区
古墳時代遺構面Ⅰ（北から）



(2)1992年度A地区
古墳時代遺構面Ⅱ（東から）



(3)1992年度A地区S R395333
断面（南から）



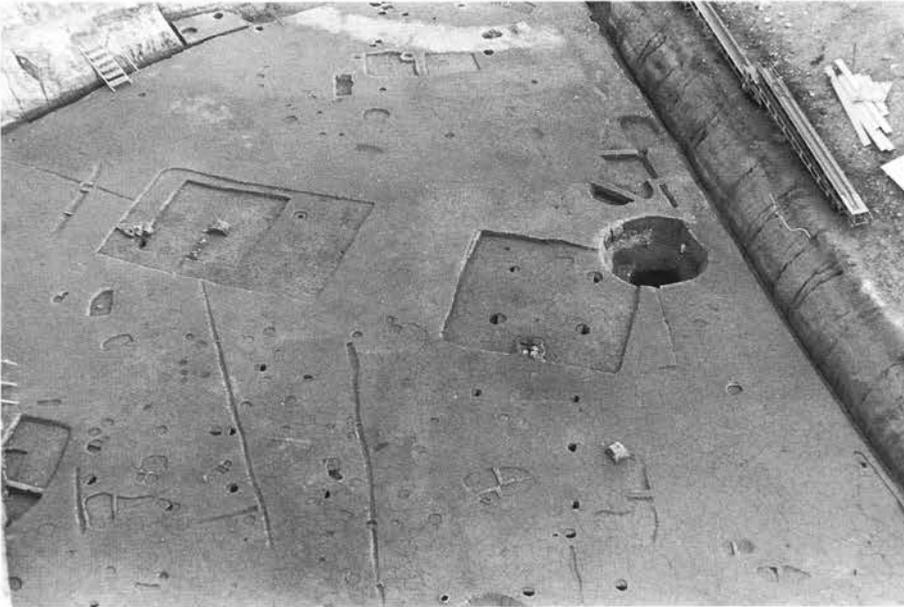
(1)1992年度A地区S H395336
(東から)



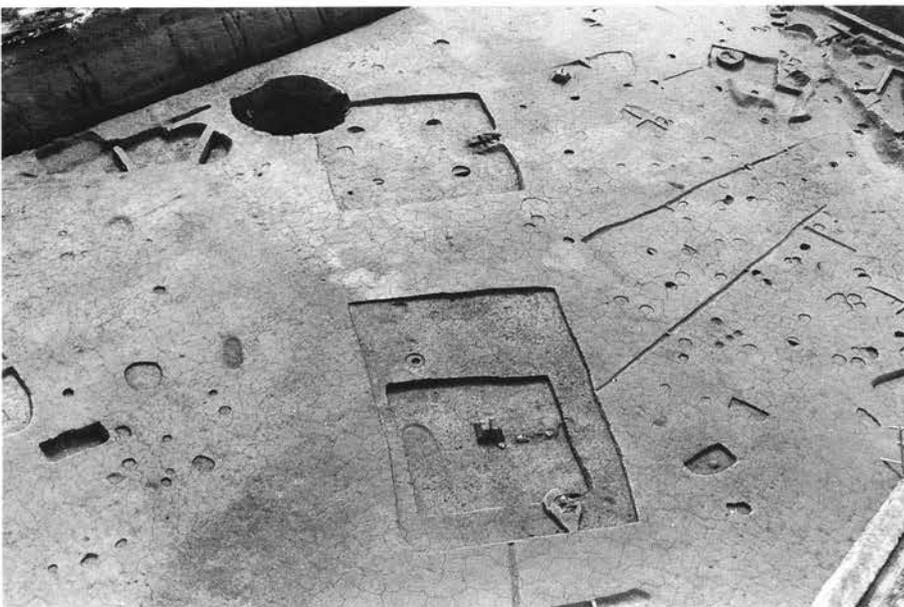
(2)1992年度A地区S H395338
(南から)



(3)1992年度A地区S H395338
竈(南から)



(1)1992年度A地区
古墳時代遺構面Ⅱ
(北西から)



(2)1992年度A地区
古墳時代遺構面Ⅱ
(北東から)



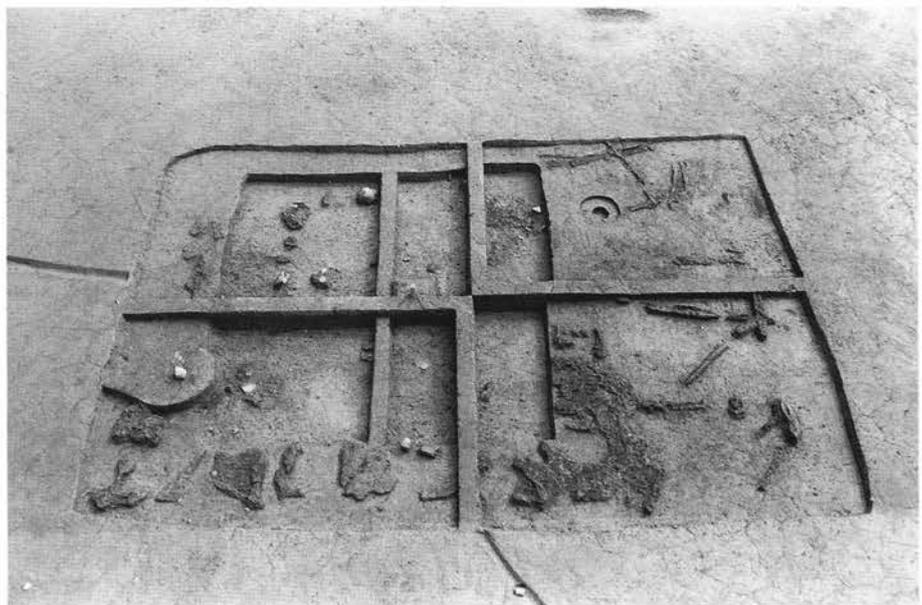
(3)1992年度A地区S H395401
炭化物出土状態(北から)



(1)1992年度A地区S H395401
（東から）



(2)1992年度A地区S H395401
竈（東から）



(3)1992年度A地区S H395405
炭化物出土状態（西から）



(1)1992年度A地区SH395433・
SB395451 (南から)



(2)1992年度A地区SH395407・
SK395411 (西から)



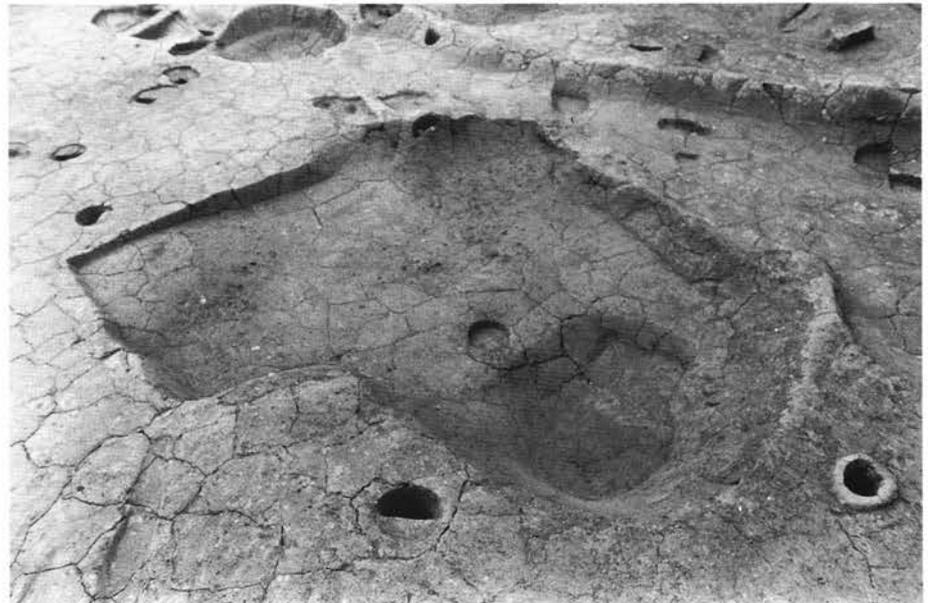
(3)1992年度A地区SH395407・
SK395411 (北から)



(1)1992年度A地区S K395411
(西から)



(2)1992年度A地区S K395411
中央焼土(北から)



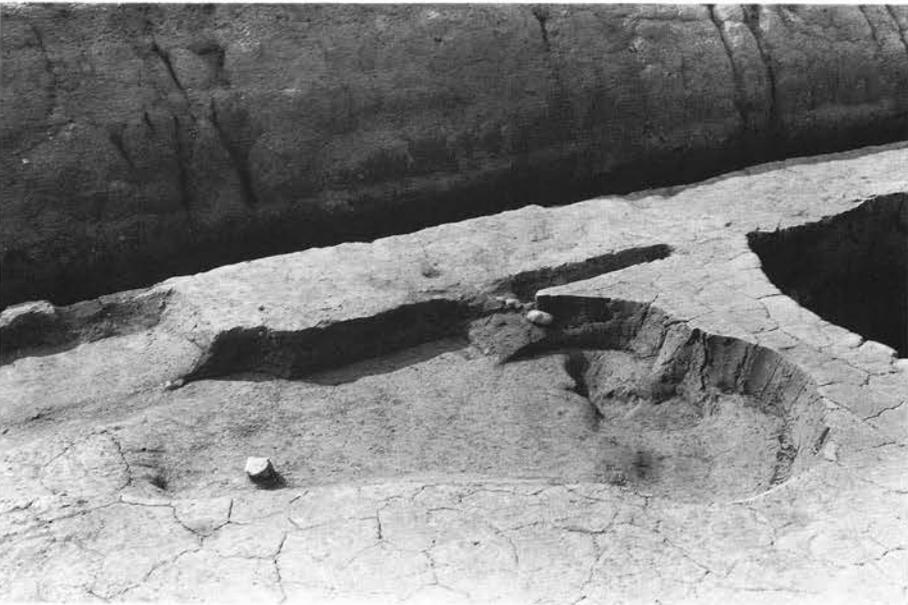
(3)1992年度A地区S K395403
(東から)



(1)1992年度A地区S H395407
(東から)



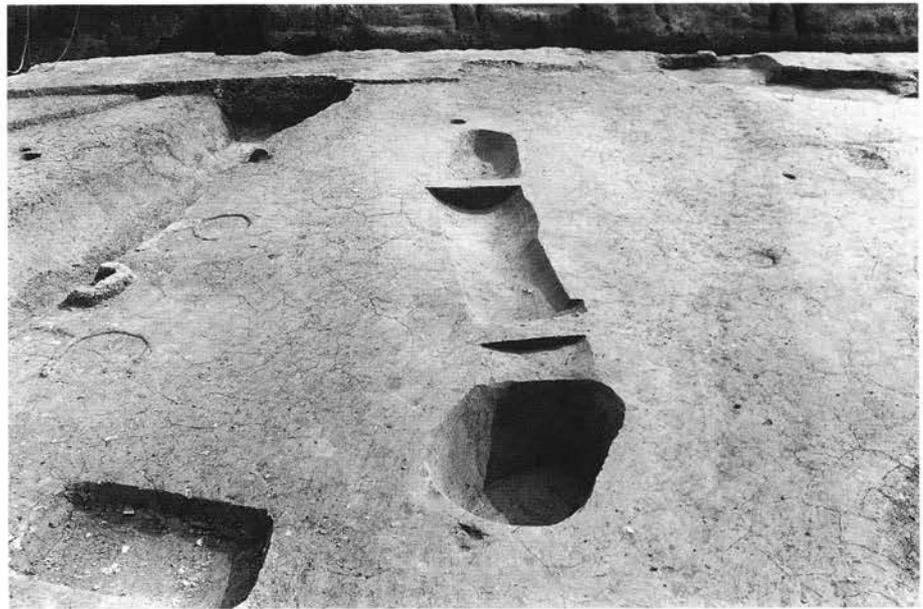
(2)1992年度A地区S H395407
竈(東から)



(3)1992年度A地区S K395404
(北から)



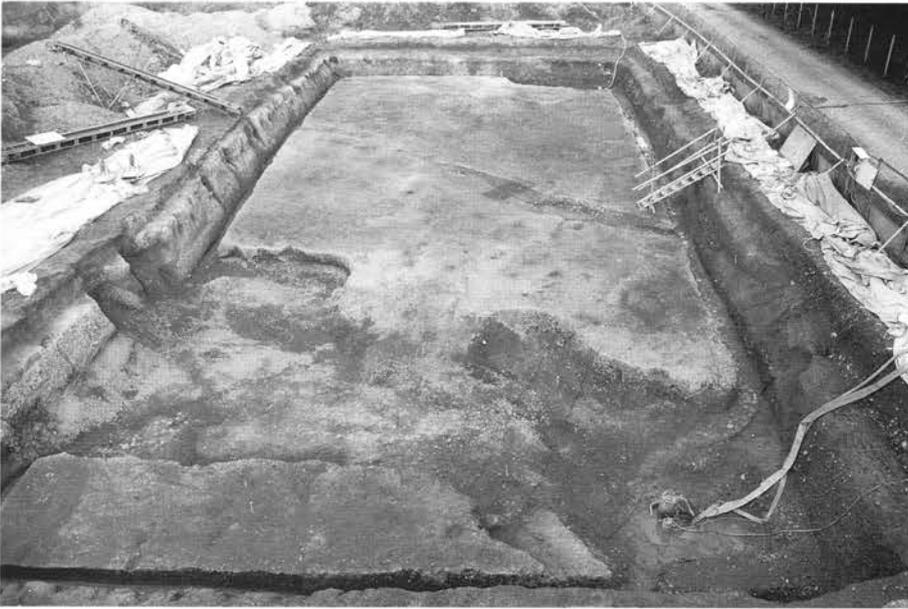
(1)1992年度A地区S D395503
(北東から)



(2)1992年度A地区S D395501
(北から)



(3)1992年度A地区
現地説明会風景 (東から)



(1)1990年度B地区上層遺構面
(西から)



(2)1990年度B地区下層遺構面
(東から)



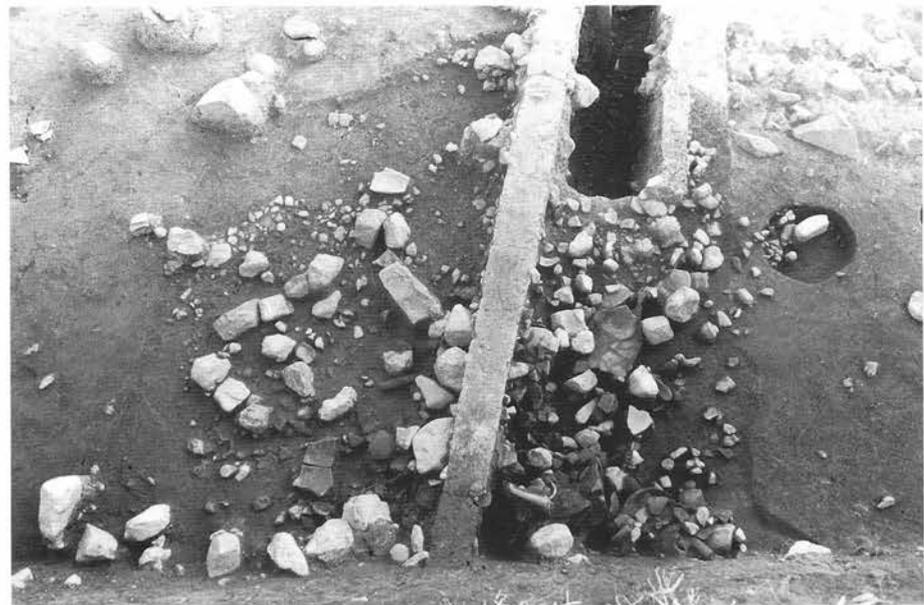
(3)1990年度B地区S X357101
(南から)



(1)1991年度B地区上層遺構面
(西から)



(2)1991年度B地区S F 36836
(東から)



(3)1991年度B地区S K 36841
(北から)



(1)1991年度B地区S K36841
遺物出土状況（北から）



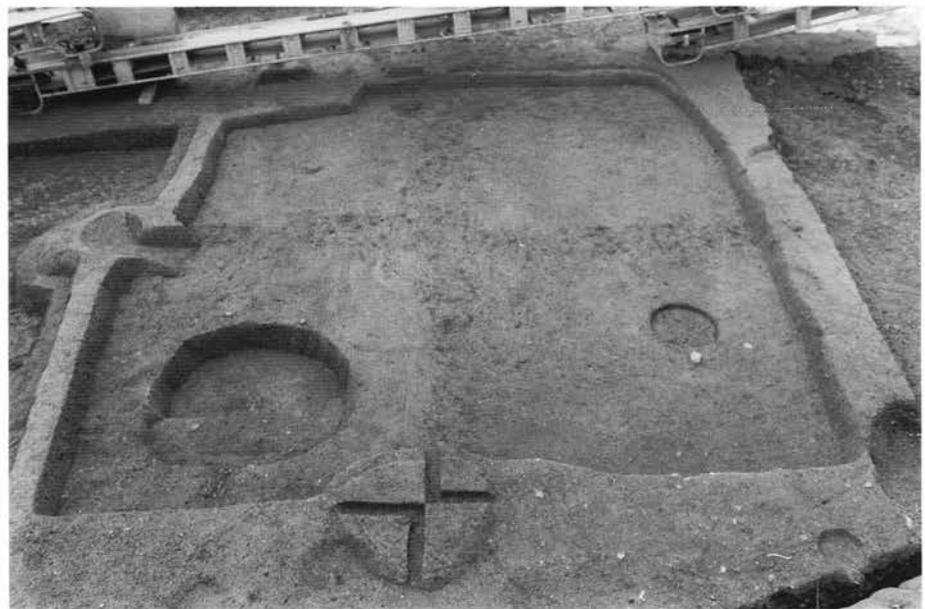
(2)1991年度B地区S B36831
（南から）



(3)1991年度B地区S B36837・
S B36838・S B36870・
S B36871（北から）



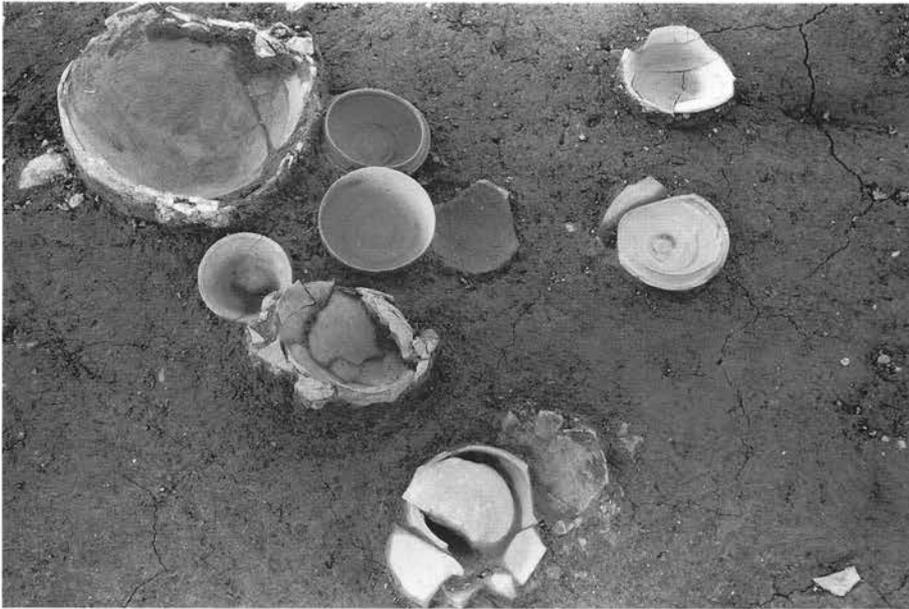
(1)1991年度B地区S H36835
(南から)



(2)1991年度B地区S H36843
(北から)



(3)1991年度B地区S X36820
(東から)



(1)1991年度B地区S X36820
(南から)



(2)1991年度B地区S X36821
(北東から)



(3)1991年度B地区S X36821
(東から)



(1)1991年度B地区S X36822
(北から)



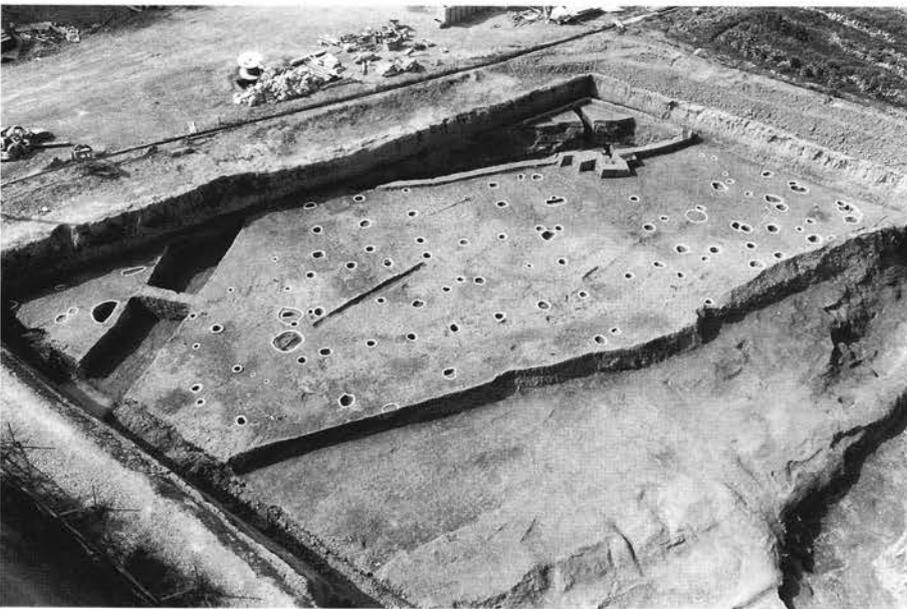
(2)1991年度B地区S X36822
(南から)



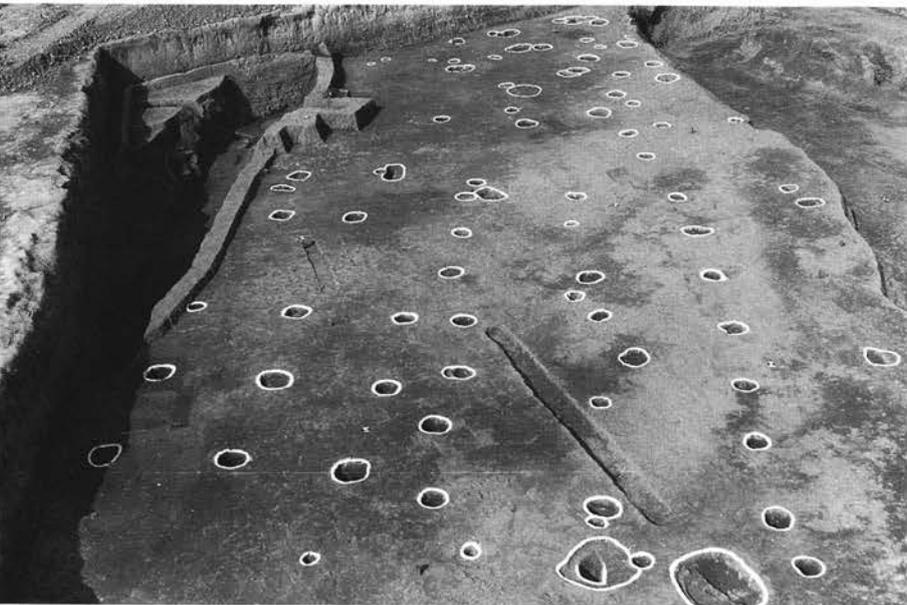
(3)1991年度B地区S X36844
(西から)



(1)1991年度B地区西半下層
遺構面（東から）

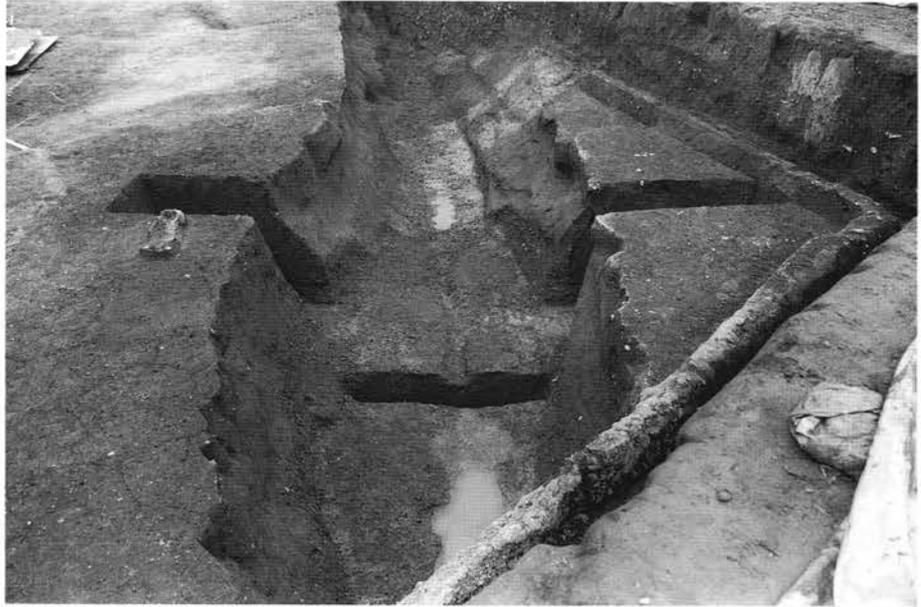


(2)1991年度B地区S B 36853・
S B 36854・S B 36855他
（東から）

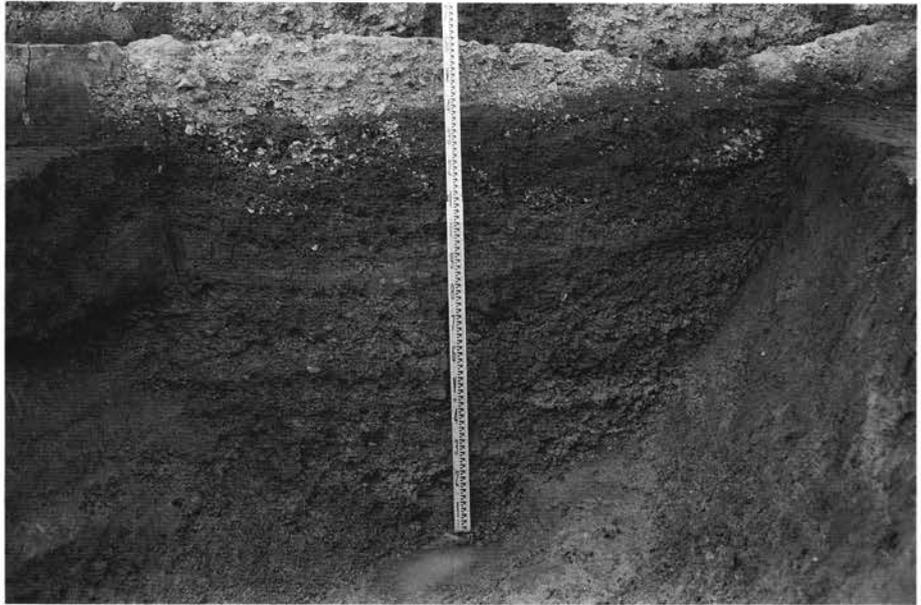


(3)1991年度B地区S B 36853・
S B 36854・S B 36855
（南から）

(1)1991年度B地区S D36849
(北から)



(2)1991年度B地区S D36849
断面 (南から)



(3)1992年度B地区 (東から)





(1)1992年度B地区（東から）



(2)1992年度B地区S E368101
（南から）



(3)1992年度B地区S E368101
（南から）

(1)1992年度B地区S B368110
(南から)



(2)1992年度B地区S B368111
(東から)



(3)1992年度B地区S B368113・
S B368130 (南から)





(1)1992年度B地区S B368112
(東から)



(2)1992年度B地区S B368107・
S B368108 (南から)



(3)1992年度B地区S E368106
(西から)



(1)1992年度B地区S H368118
調査風景（北西から）



(2)1992年度B地区S H368118
（南から）



(3)1992年度B地区S H368118
竈（南から）



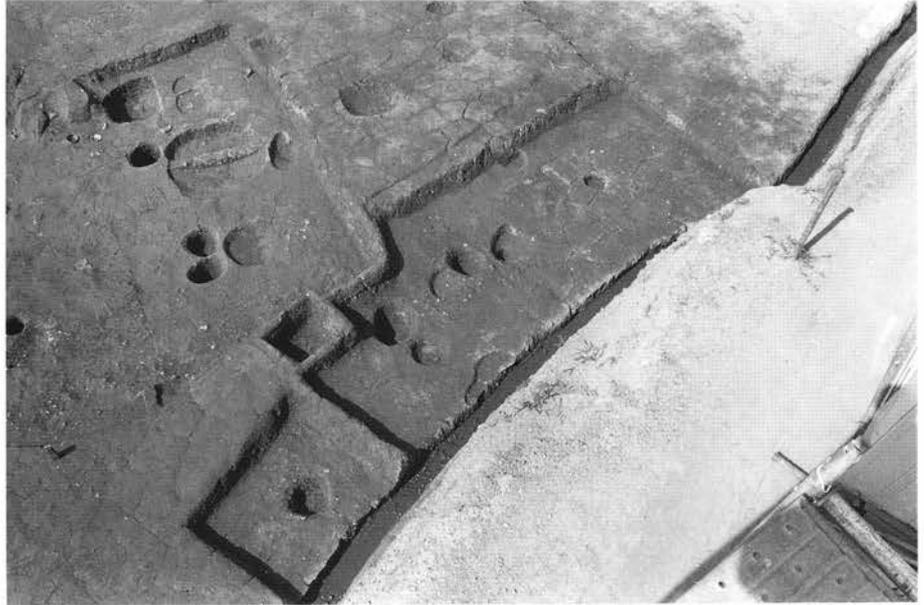
(1)1992年度B地区S H368121
(南から)



(2)1992年度B地区S H368121
竈 (南から)



(3)1992年度B地区S H368117
(南から)



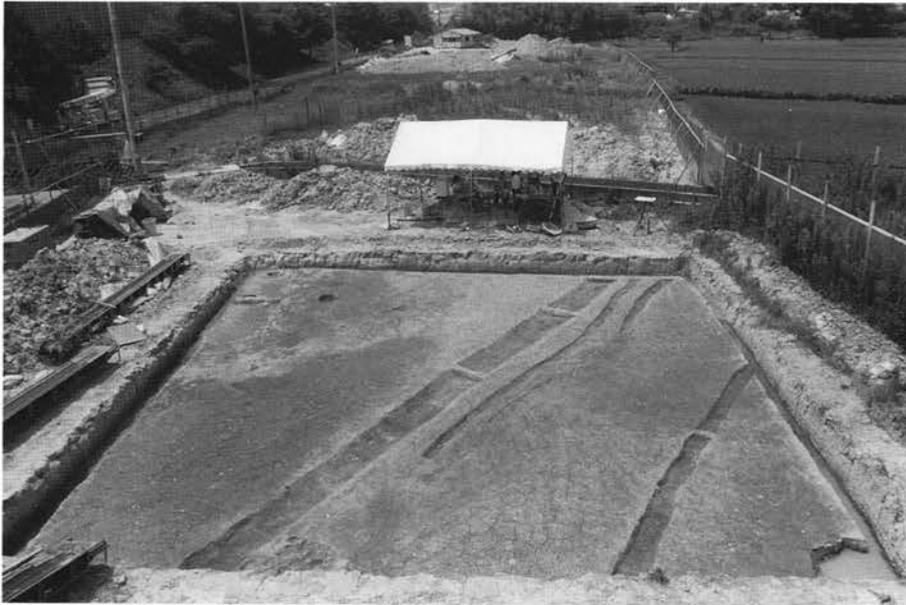
(1)1992年度B地区S H368119
(南から)



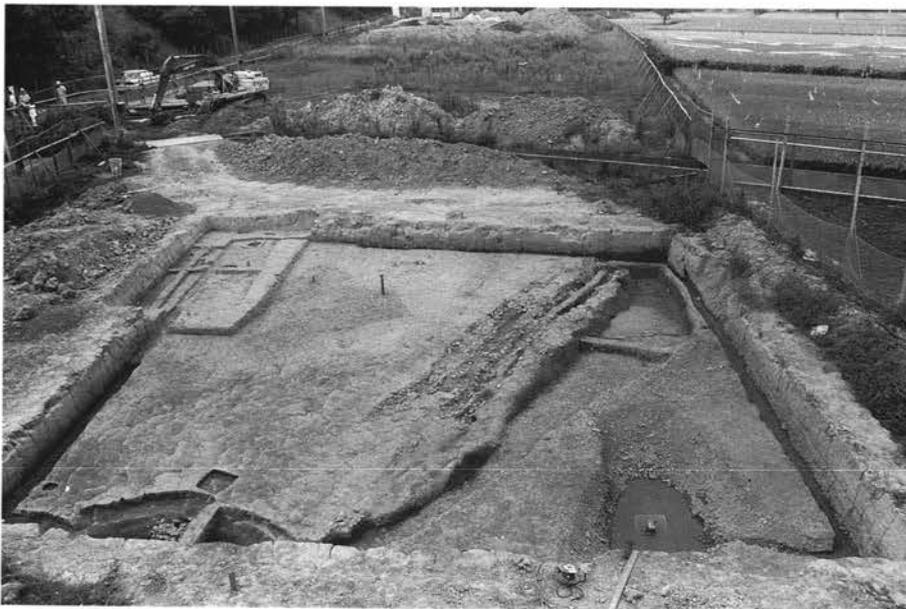
(2)1992年度B地区S K368175
(南から)



(3)1992年度B地区S K368131
(北から)



(1)1990年度C-1トレンチ
上層(東から)

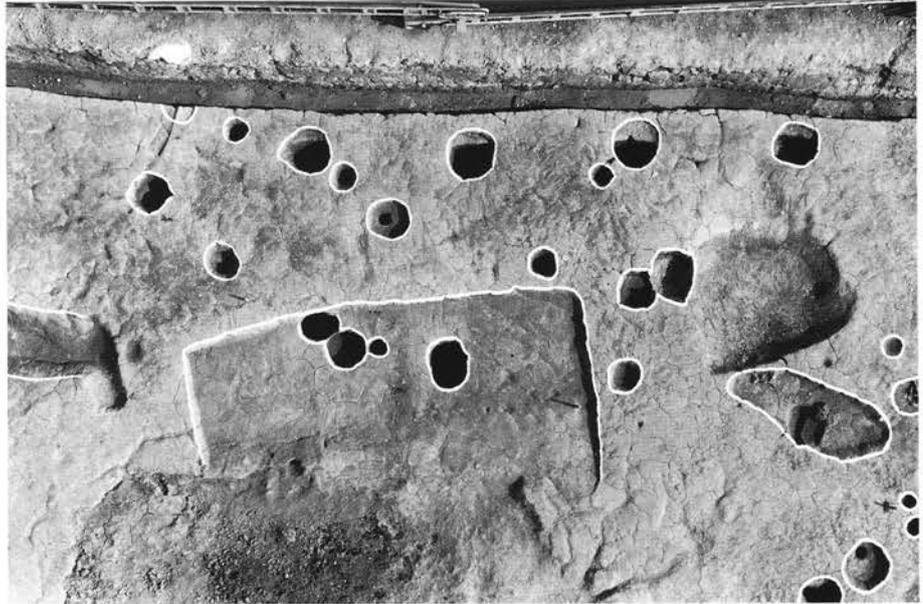


(2)1990年度C-1トレンチ
下層(東から)

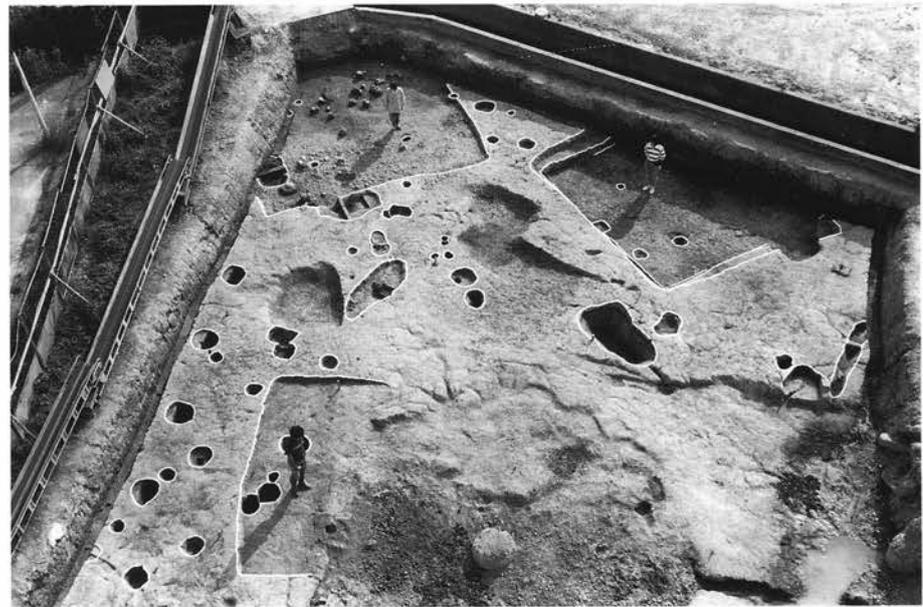


(3)1990年度C-1トレンチ
S D35709・S D35710
(南から)

(1)1992年度C-1トレンチ
S H35705・S B368201
(上から)

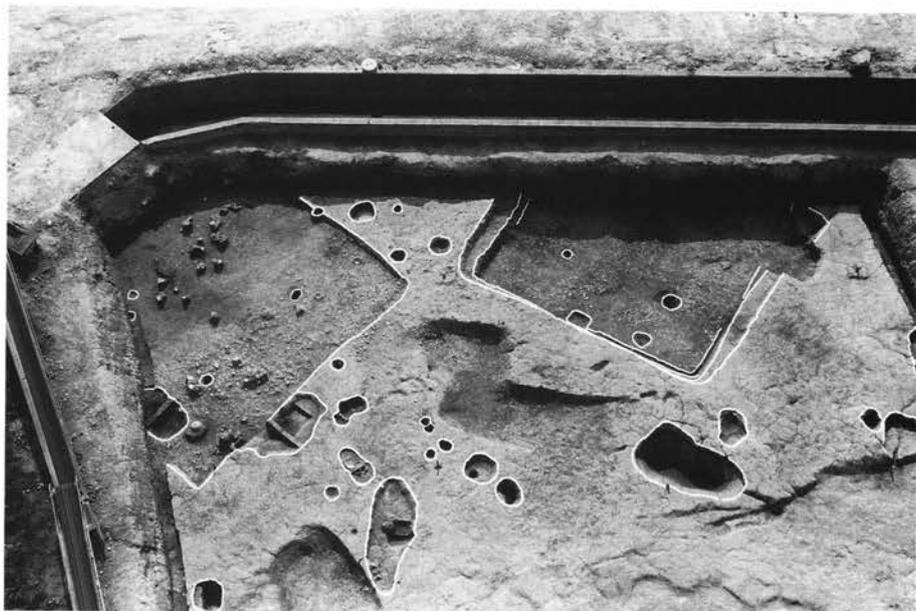


(2)1992年度C-1トレンチ
西半(東から)



(3)1992年度C-1トレンチ
風景(南西から)

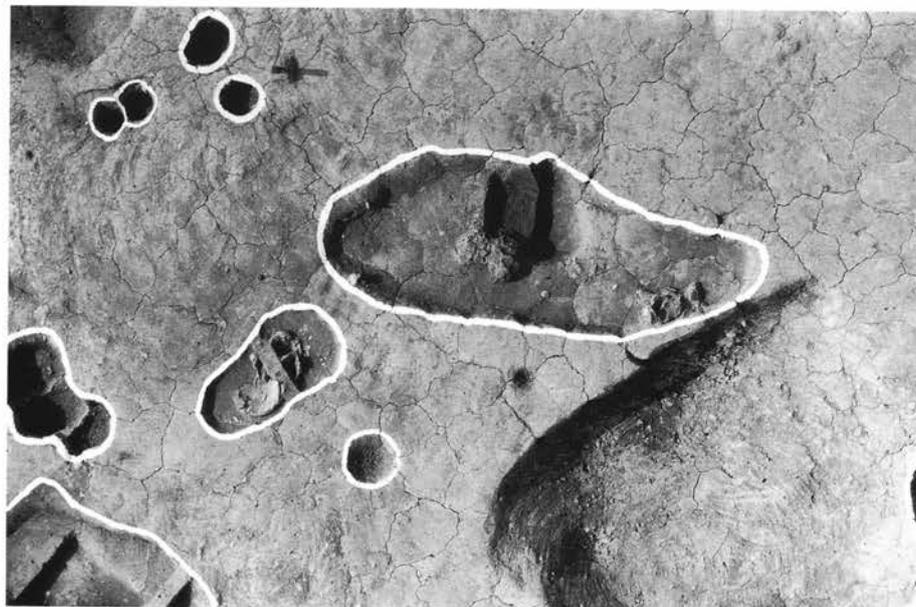




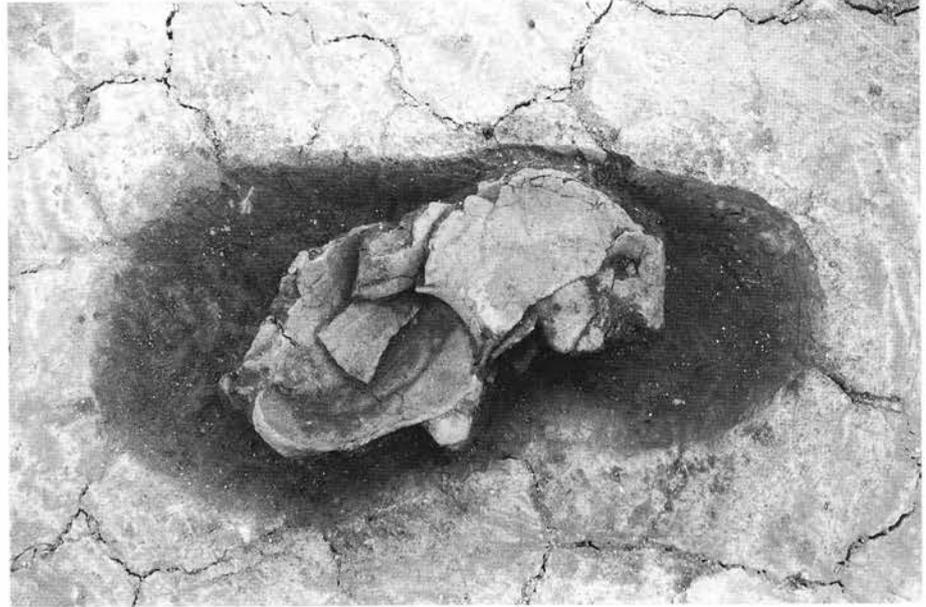
(1)1992年度C-1トレンチ
S H368202・S H368204
(東から)



(2)1992年度C-1トレンチ
S H368202・S H368204
(南西から)



(3)1992年度C-1トレンチ
S K368248・S K368226
(南から)



(1)1992年度C-1トレンチ
S K368248 (北西から)



(2)1992年度C-1トレンチ
S K368226遺物出土状態
(北から)



(3)1992年度C-1トレンチ
S K368247 (南から)



(1)C-2 トレンチ (西から)



(2)C-2 トレンチ上層
(西から)

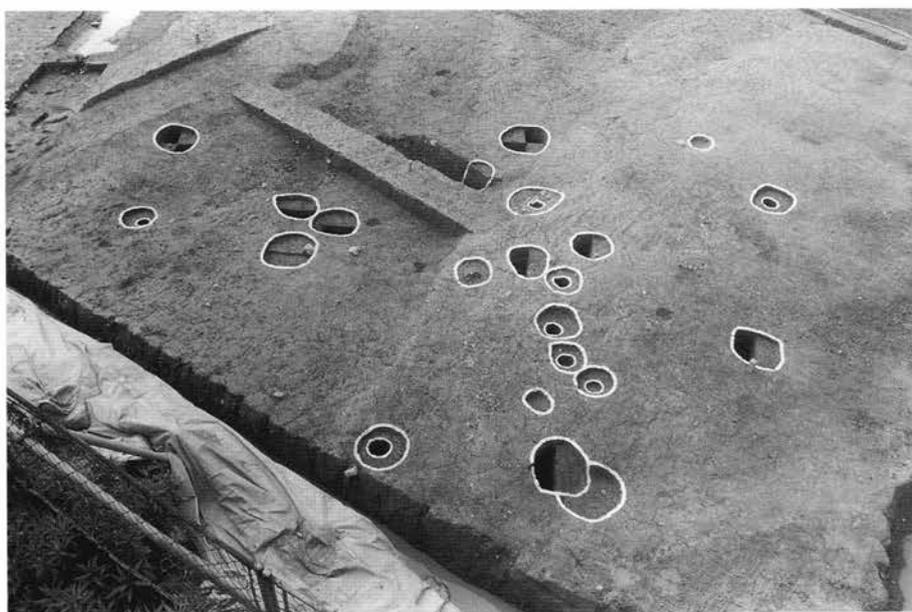


(3)C-2 トレンチ下層
(東から)

(1) C-2 トレンチ S B395605
(南から)



(2) C-2 トレンチ S B395606
(南東から)

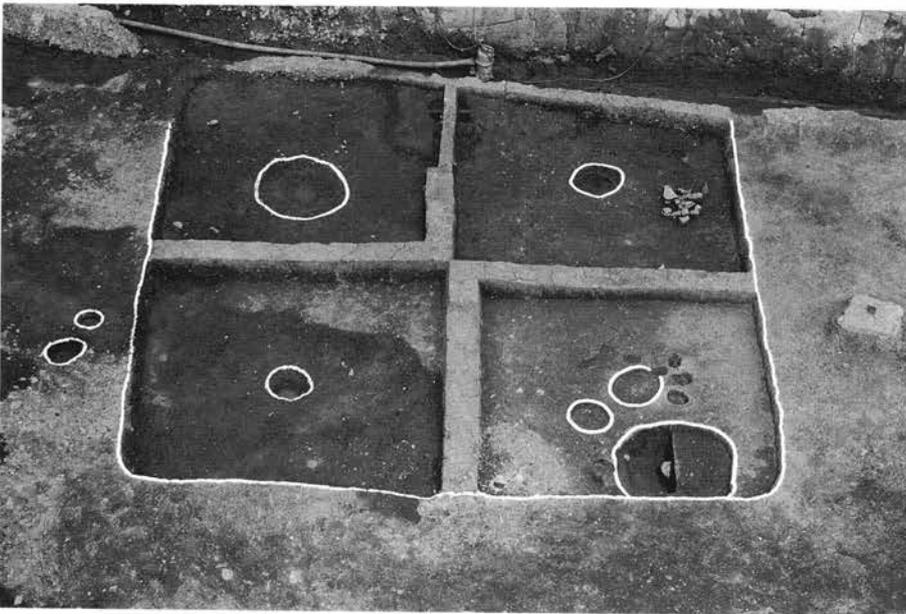


(3) C-2 トレンチ S H395690
(西から)

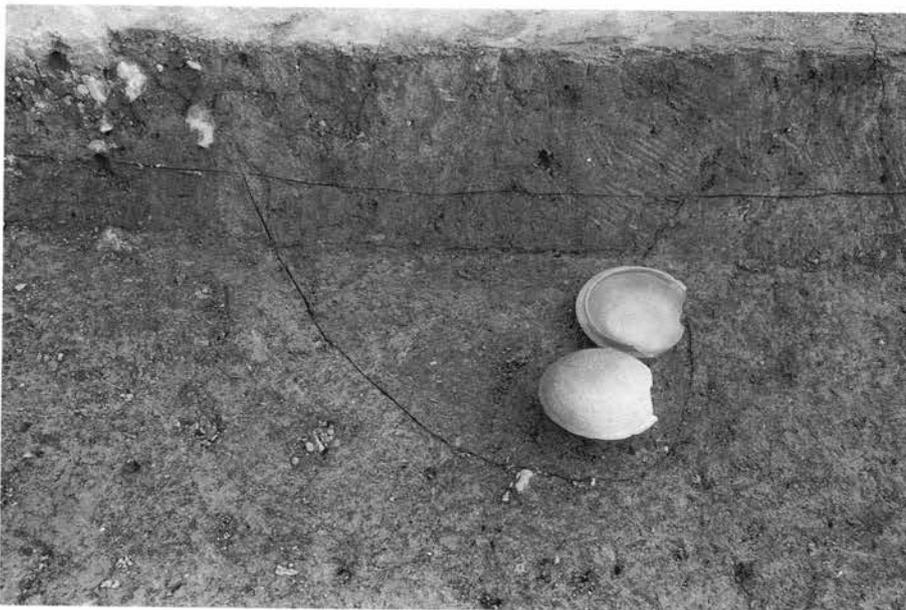




(1)C-2 トレンチ S H395684
(北西から)



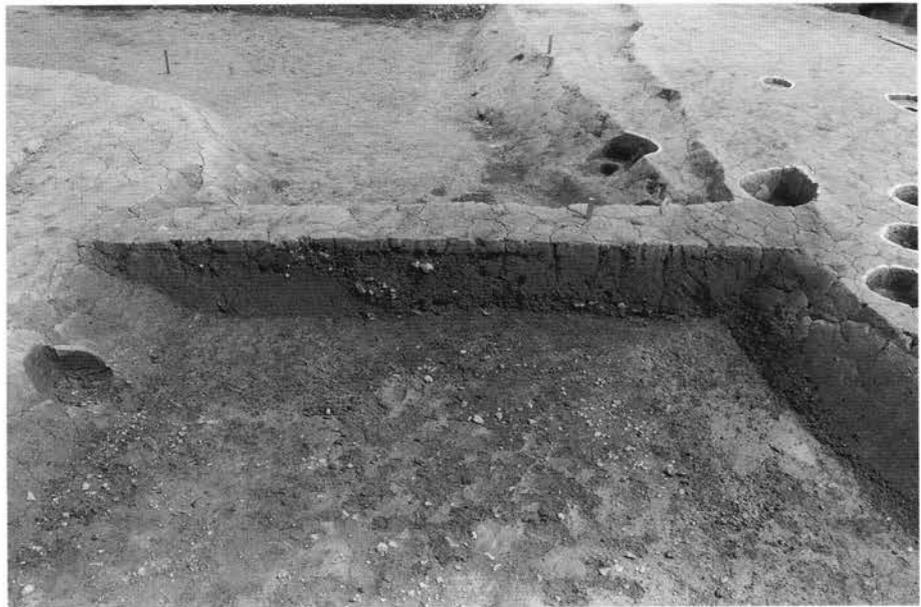
(2)C-2 トレンチ S H395685
(南東から)



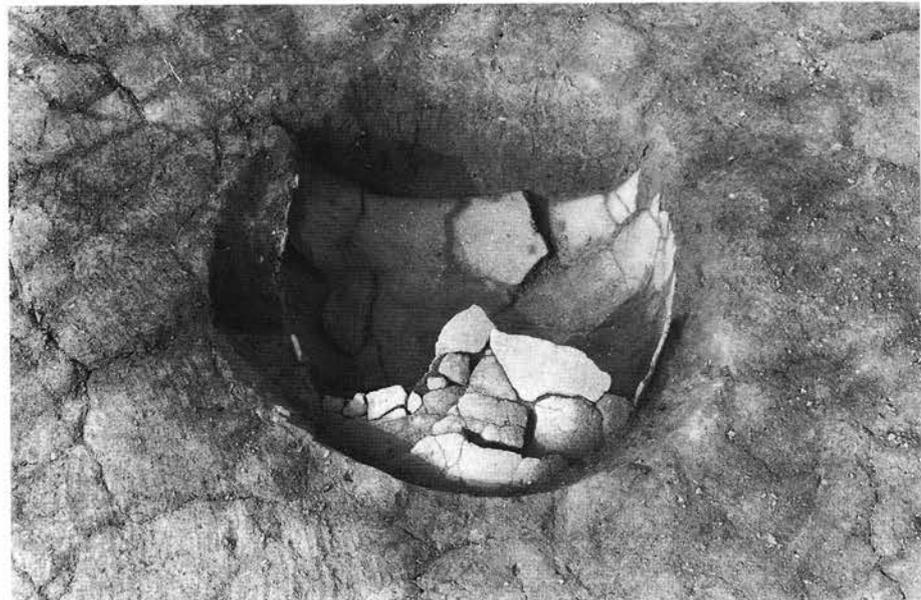
(3)C-2 トレンチ S K395623
(北から)



(1) C-2 トレンチ下層南半
(東から)



(2) C-2 トレンチ S R395600
断面 (南から)



(3) C-2 トレンチ S K395602
断面 (南から)



(1) C-3 トレンチ (西から)



(2) C-3 トレンチ西半
(西から)



(3) C-3 トレンチ S X368307
(北西から)



(1)C-3 トレンチ S X368307・
S X368308断面 (南西から)



(2)C-3 トレンチ S X368307
断面 (東から)



(3)C-3 トレンチ S B368302
(西から)



(1)C-3 トレンチ S H368304
(東から)



(2)C-3 トレンチ S H368304
竈 (南から)



(3)C-3 トレンチ S X368311
(東から)



(1)C-4 a トレンチ (東から)



(2)C-4 a トレンチ
S D395704・S D395706
(南から)



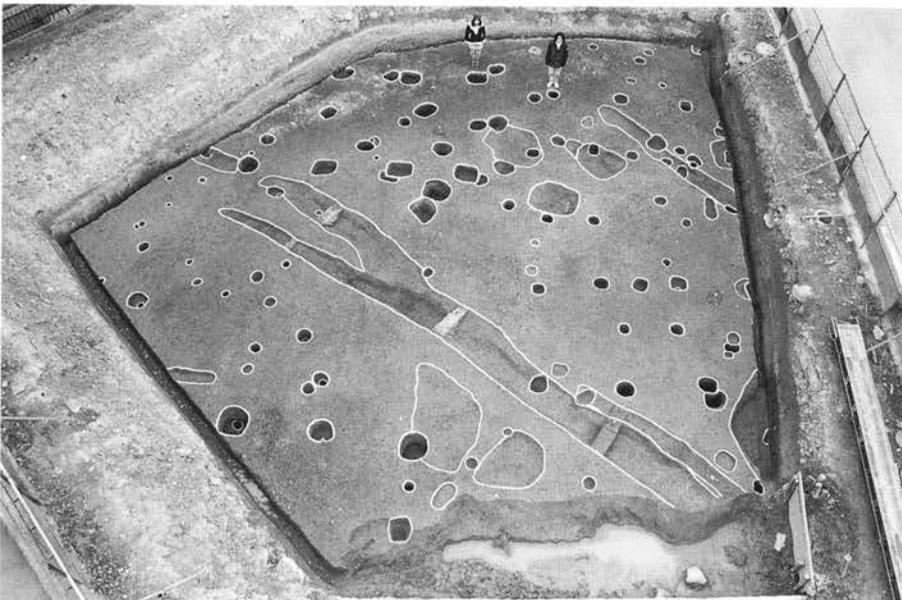
(3)C-4 a トレンチ
S R368702遺物出土状態
(北から)



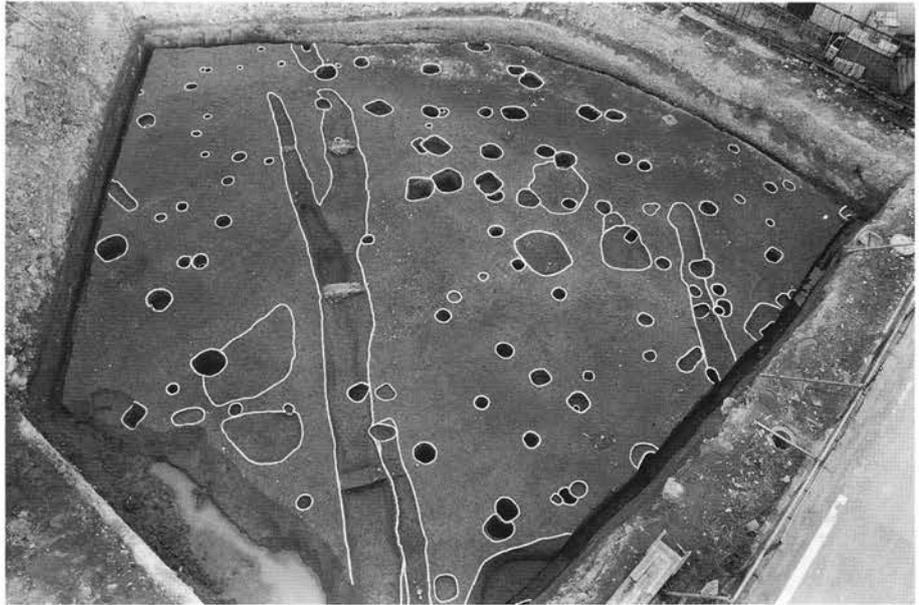
(1)C-4 a トレンチ
S R368702断面 (東から)



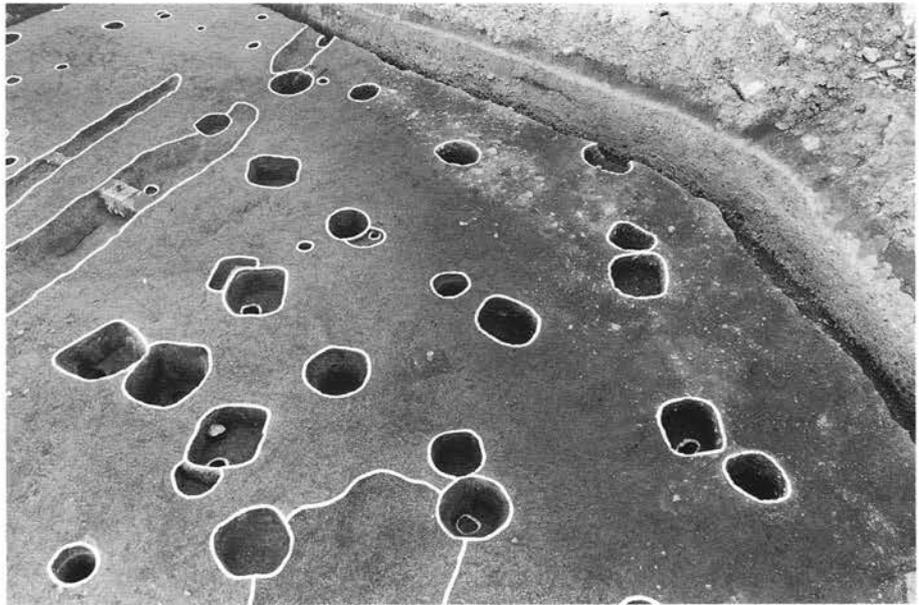
(2)C-4 a トレンチ
S R368702断面 (東から)



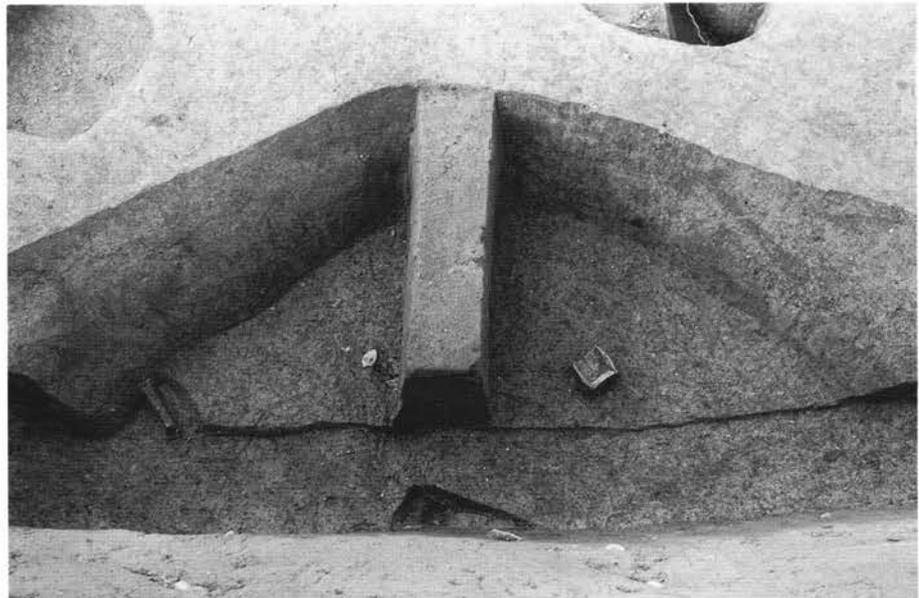
(3)C-4 b トレンチ (西から)



(1)C-4bトレンチ (南から)



(2)C-4bトレンチ
SB395821・SB395842
(南東から)



(3)C-4bトレンチ
SH395803 (南東から)



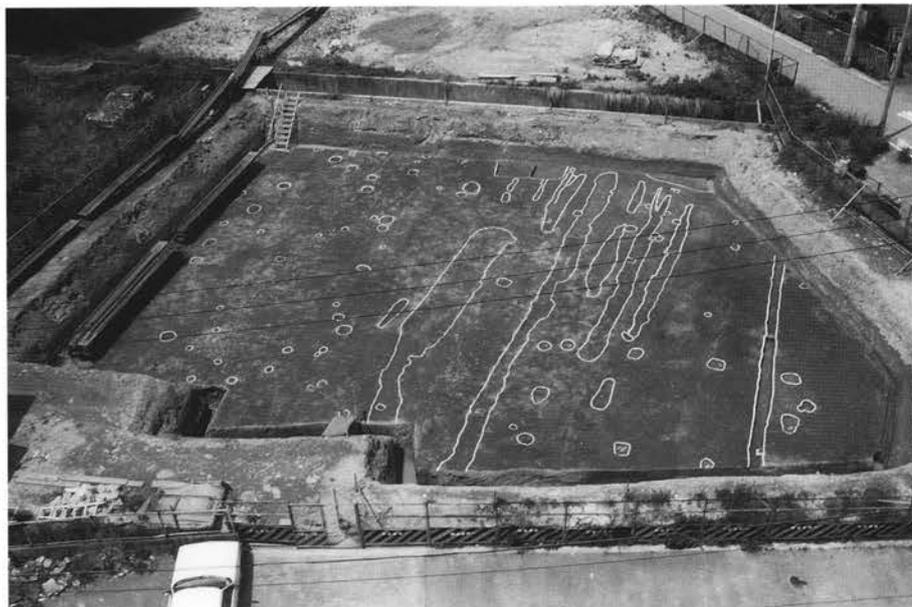
(1)1992年度C-4 b・c
トレンチ (西から)



(2)C-4 cトレンチ東隅
(西から)



(3)C-4 cトレンチ
S D42818・S D42802
(東から)



(1)1992年度C-5 a トレンチ
(東から)



(2)C-5 a トレンチ
SK428103 (北東から)



(3)C-5 a トレンチ
SK428104・SD428105
(北から)



(1)C-5 a トレンチ
SB428106 (南から)



(2)C-5 a トレンチ
SB428106P7 (東から)



(3)C-5 a トレンチ
SD428108 (南から)



(1) C-5 b トレンチ (西から)



(2) C-5 a トレンチ (北から)



(3) C-6 トレンチ (南から)



(1)1992年度C-6トレンチ
(南西から)



(2)C-6トレンチS K46601
(南西から)



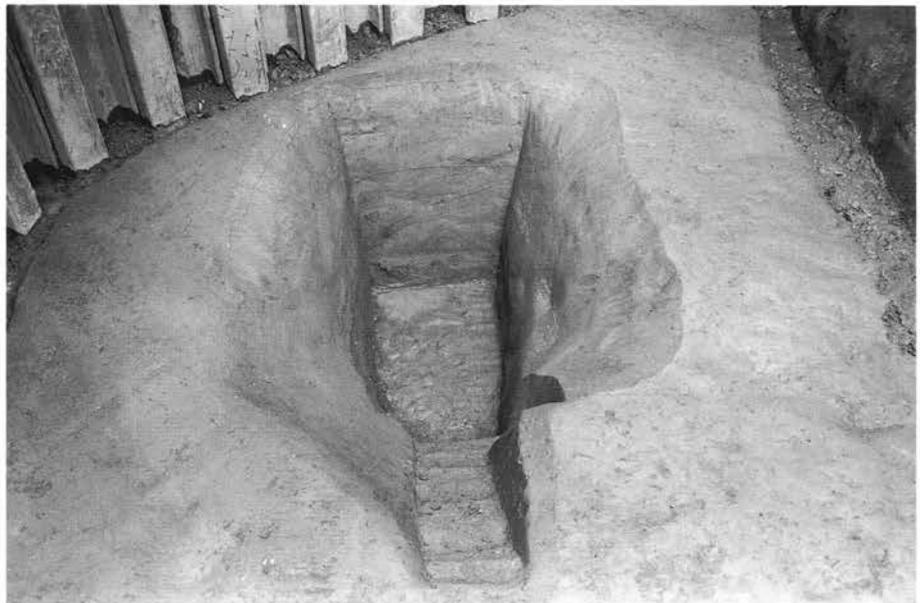
(3)C-6トレンチS H385803
(北から)



(1)1991年度D-1トレンチ
(西から)



(2)D-2トレンチ (東から)



(3)E-1トレンチG3
(北西から)



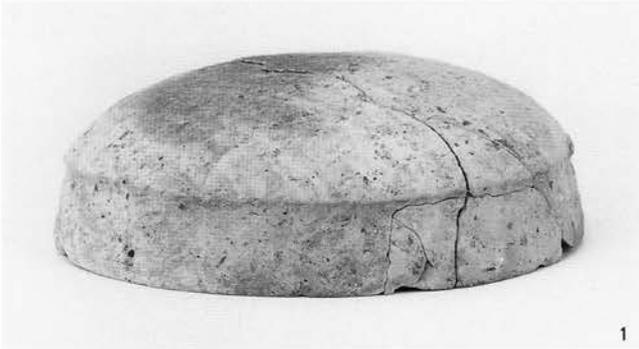
(1)1991年度E-2 トレンチ
(北東から)

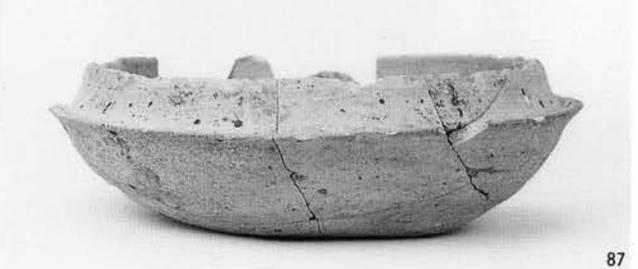
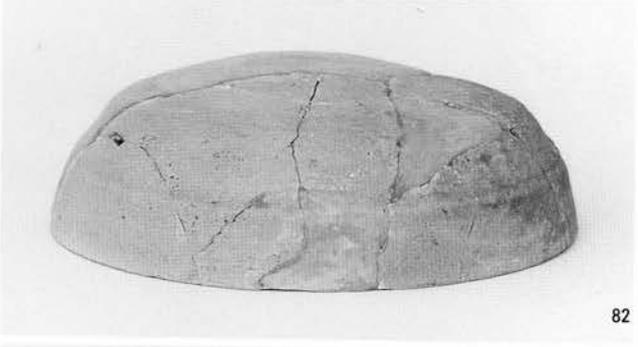


(2)E-2 トレンチ S D36859
(北から)



(3)E-1 トレンチ S D36858
(東から)







88



104



105



112



118



120



115



117



119



123



134



125



138



124



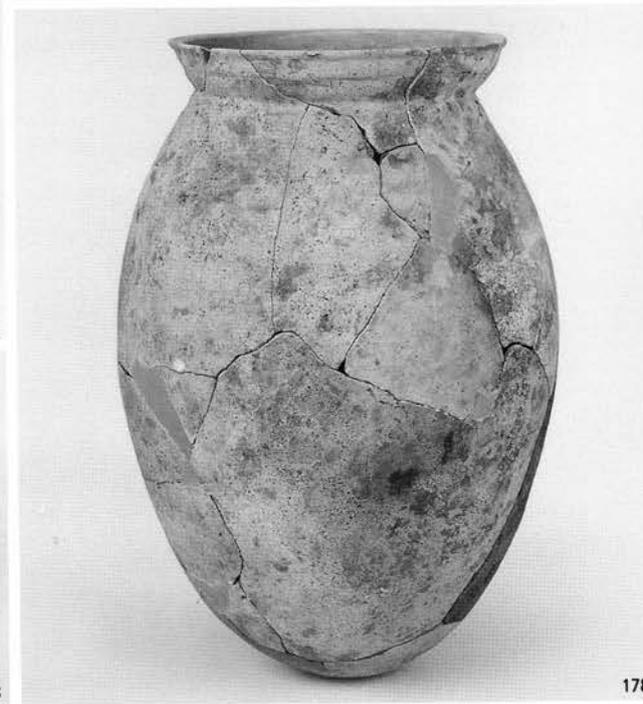
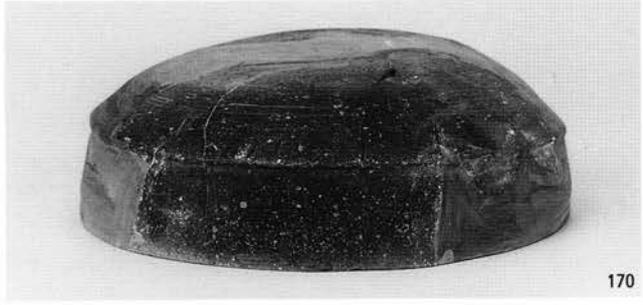
139

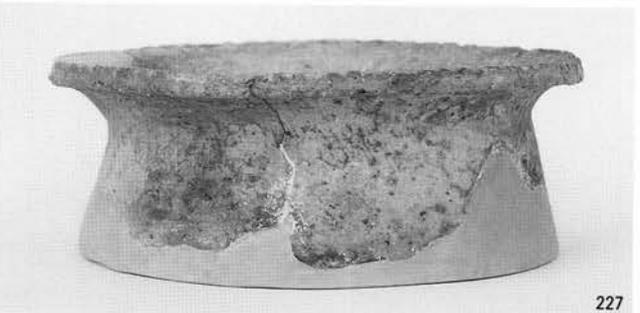
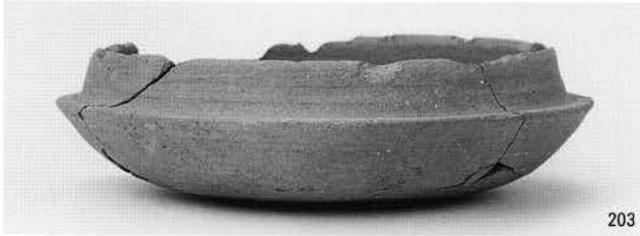


131



168







322



324



325



338



377



357



381



379



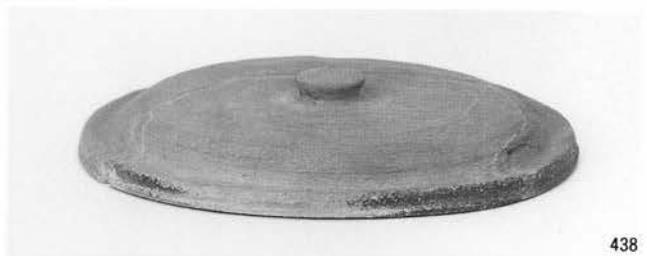
380



395



394



438



444



430



396



500



418

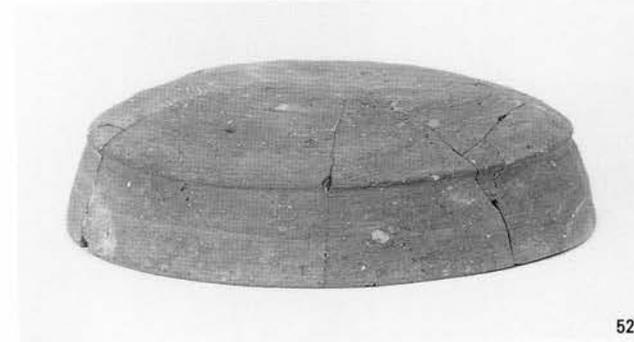
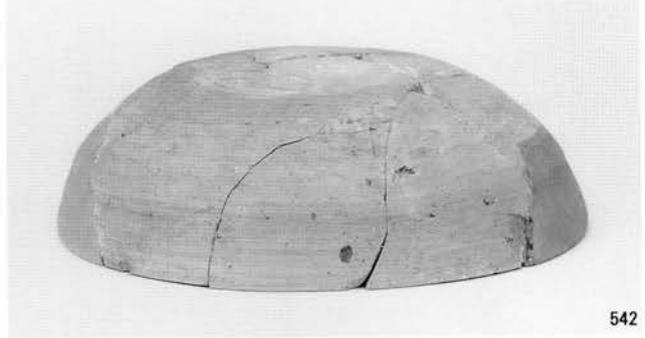


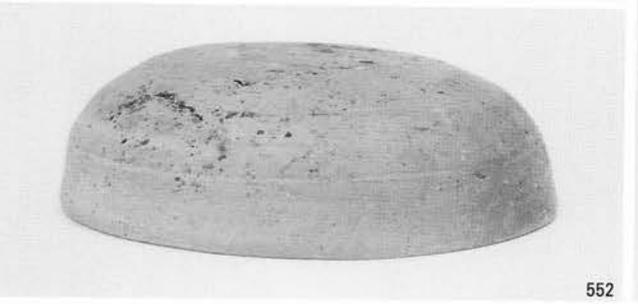
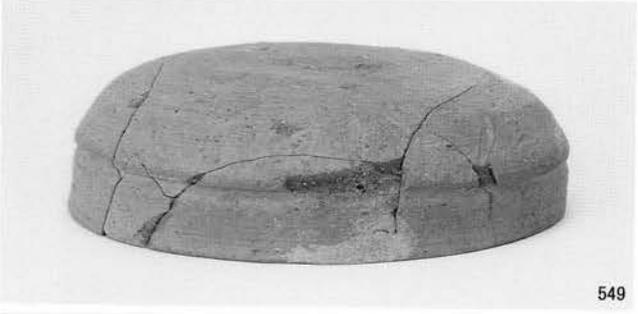
422



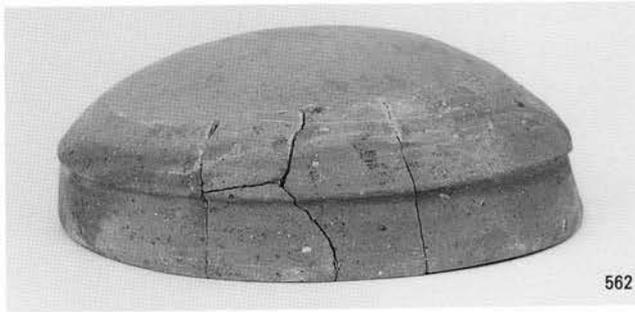
502

1991年度B地区出土遺物(1)

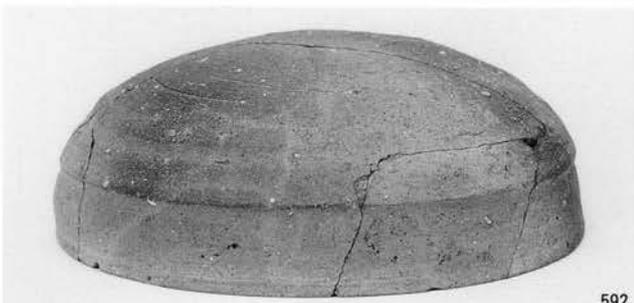
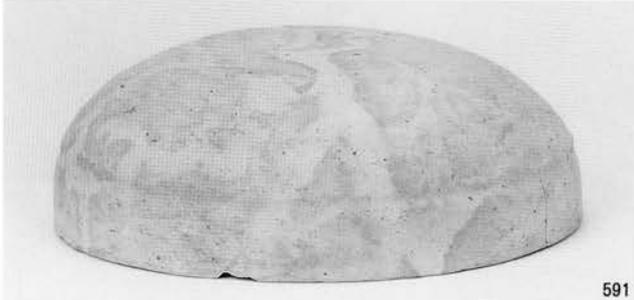




1991年度B地区出土遺物(3)









617



656



618



628



615



657



611



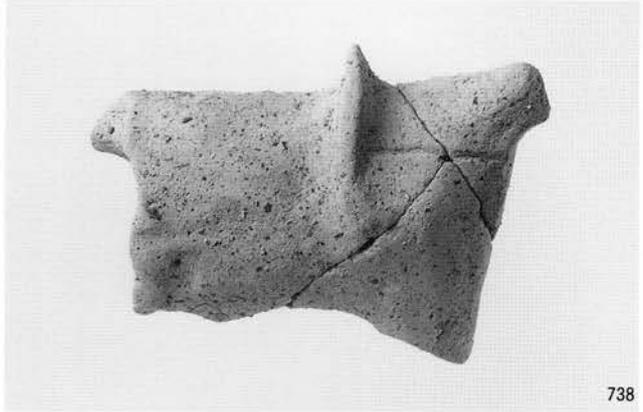
660



666



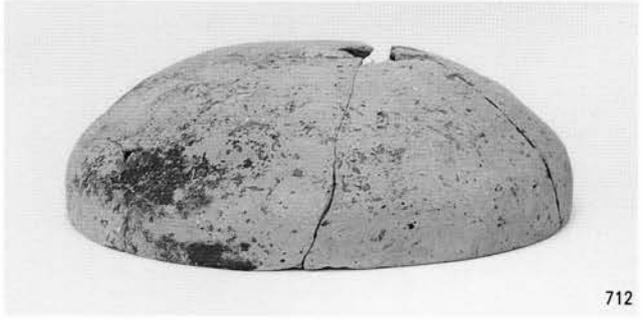
684



738



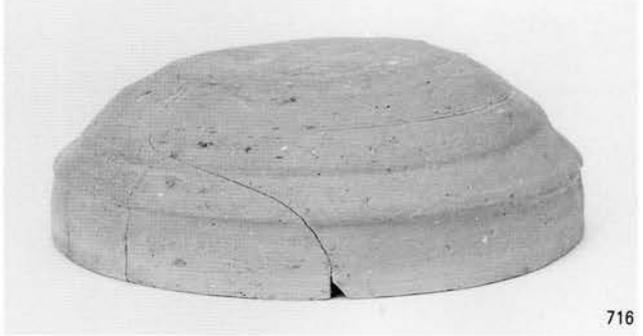
695



712



696



716



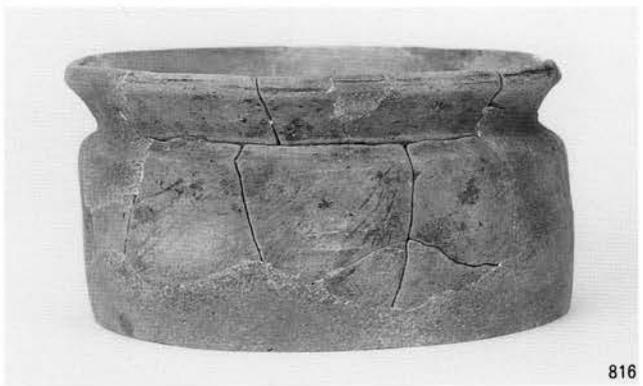
775



717



771



816

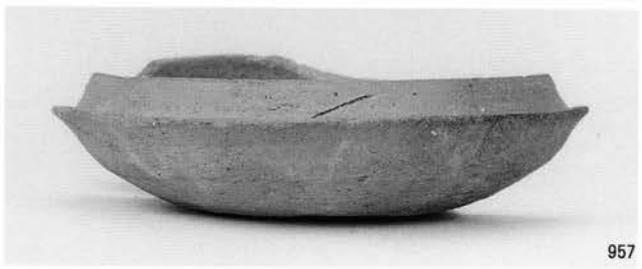
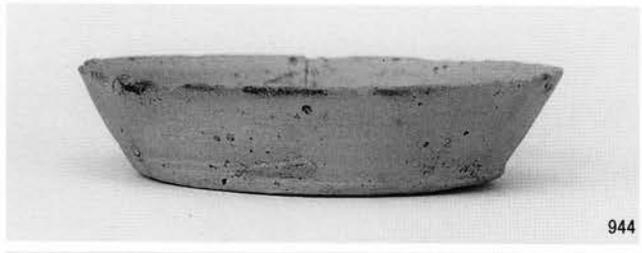


1992年度B地区出土遺物(1)





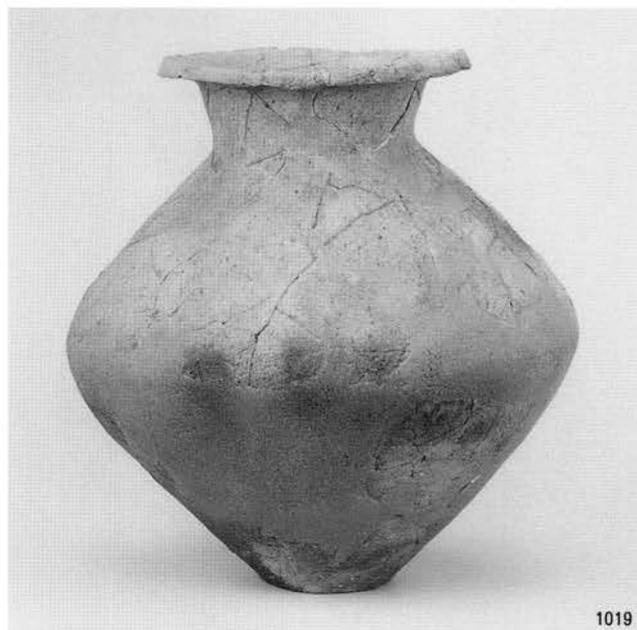
1992年度B地区出土遺物(3)



1992年度B地区・C-1トレンチ出土遺物



C-1 トレンチ出土遺物



C-1・2トレンチ出土遺物



1076



1079



1074



1080



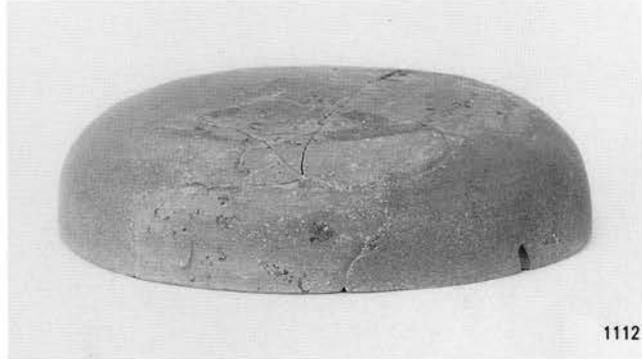
1078



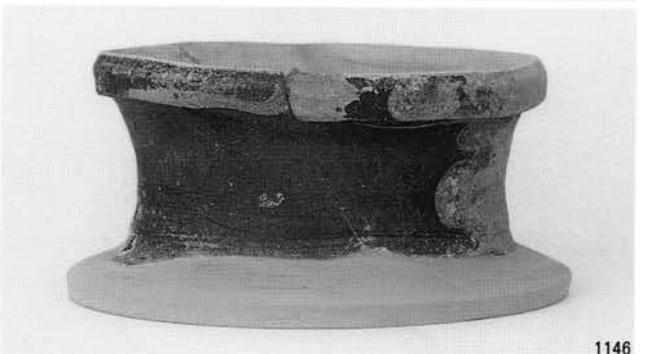
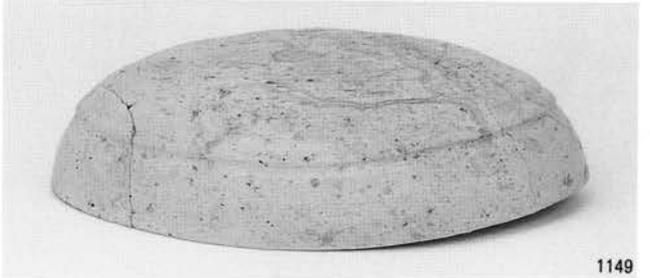
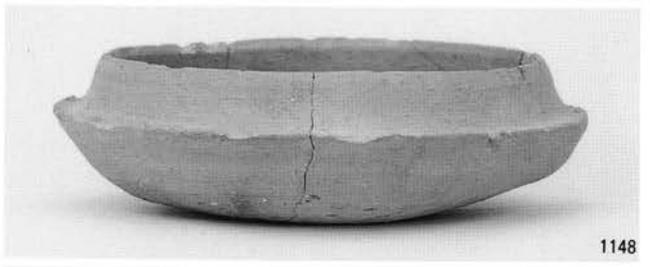
1086



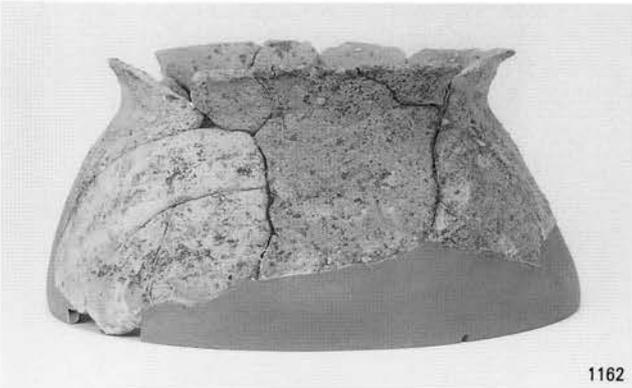
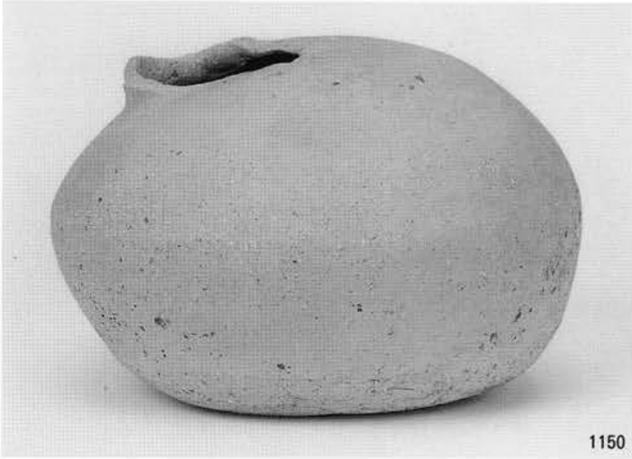
1087



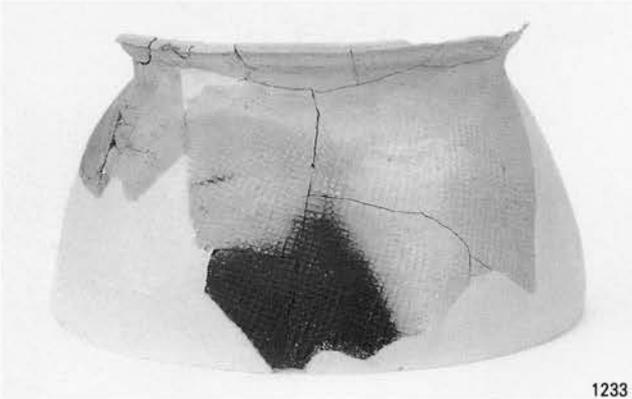
C-2 トレンチ出土遺物(2)

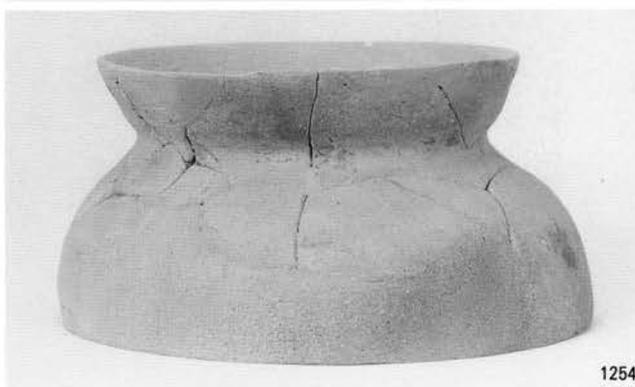
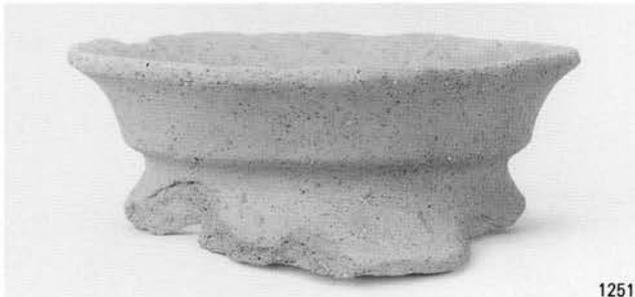


C-2 トレンチ出土遺物(3)

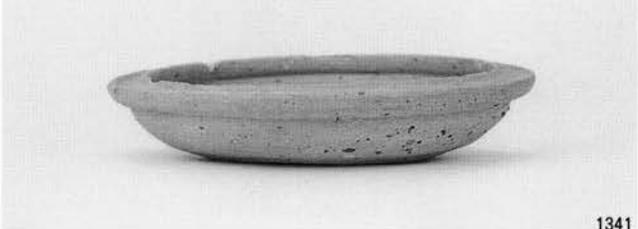
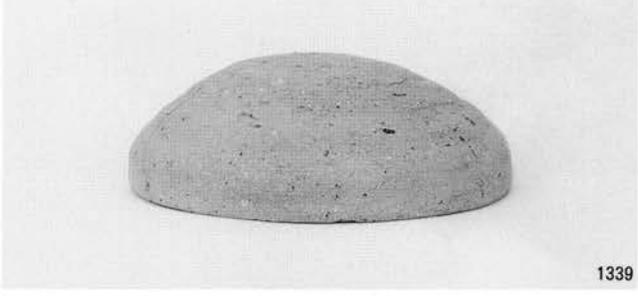
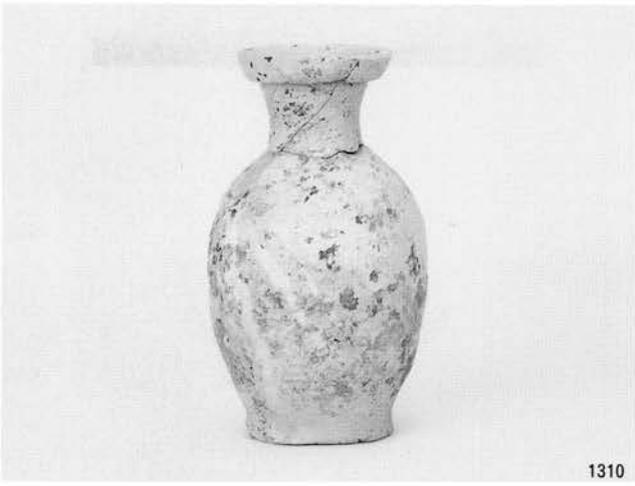


C-2 トレンチ出土遺物(4)

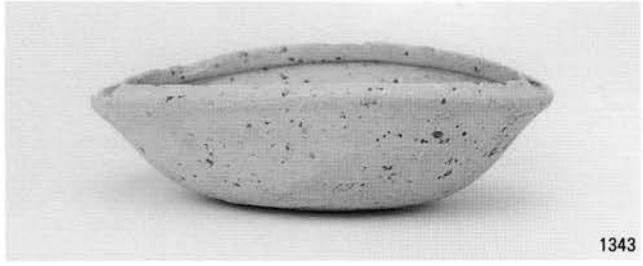




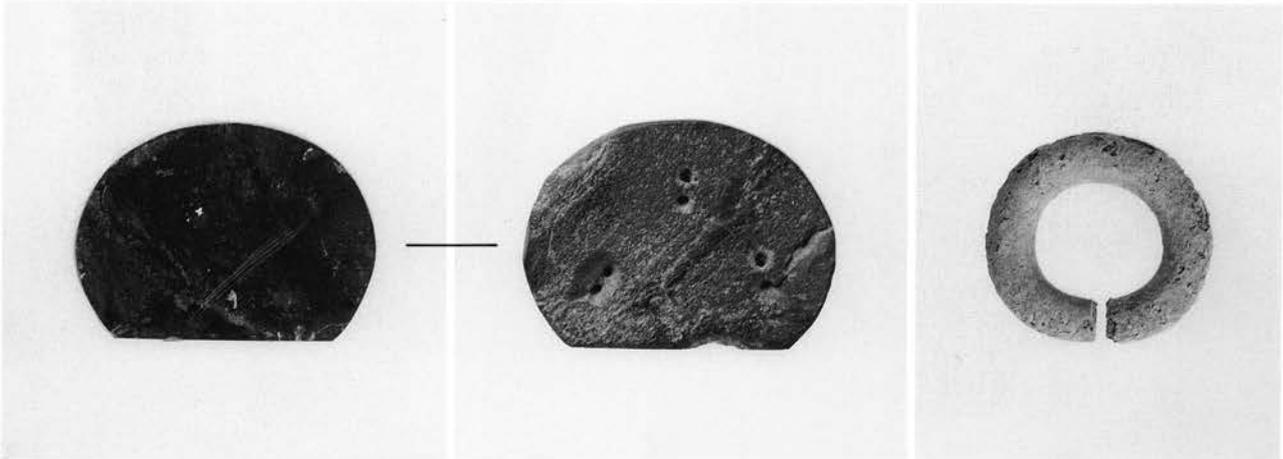
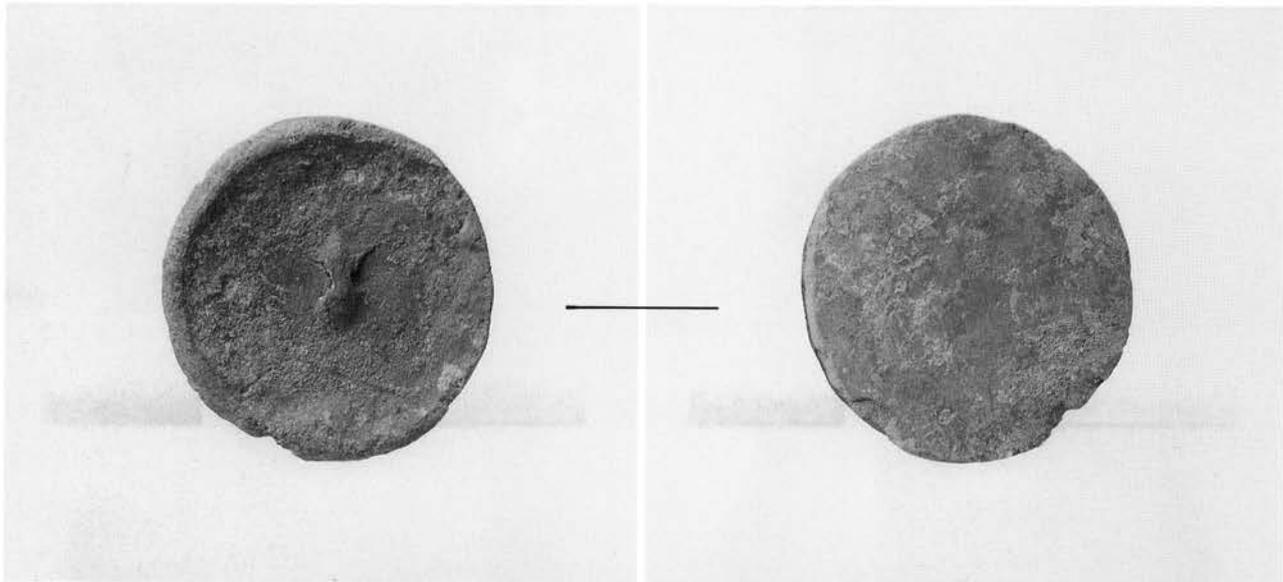
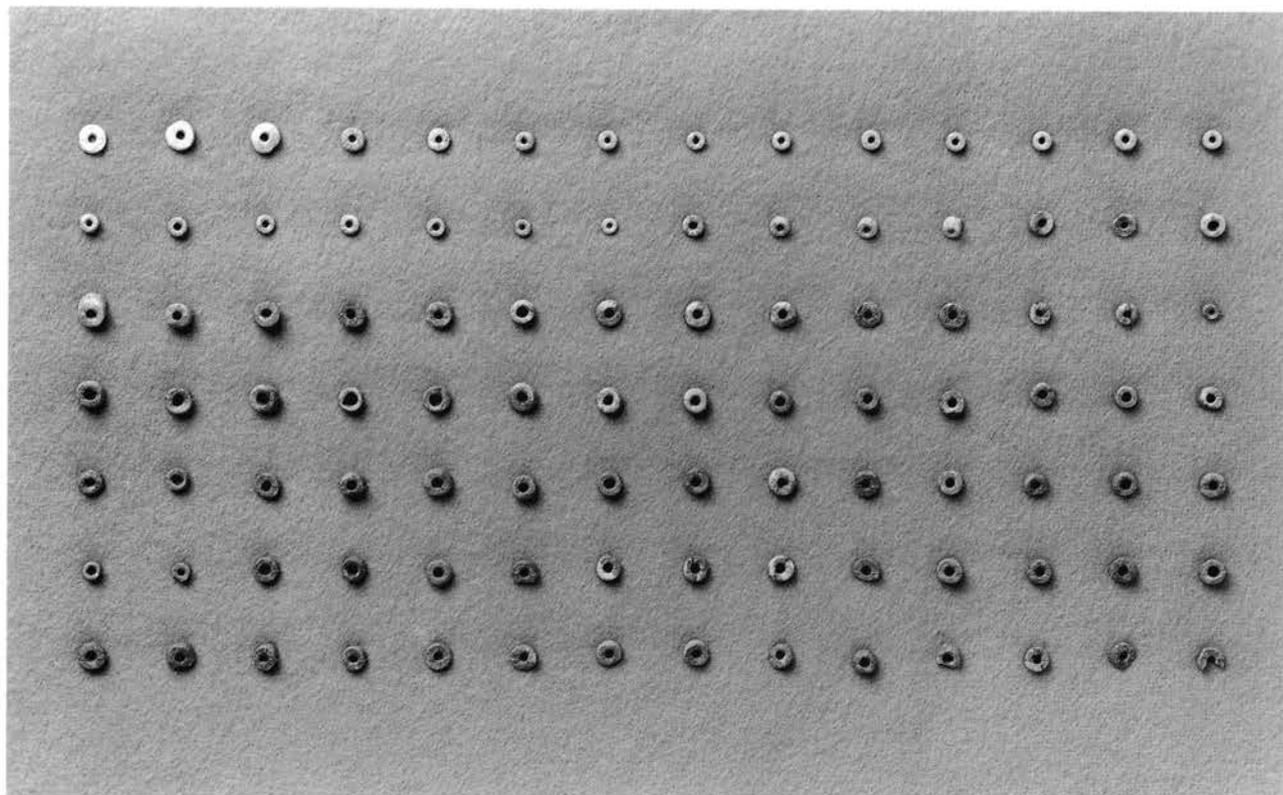
C-4 a・b トレンチ出土遺物



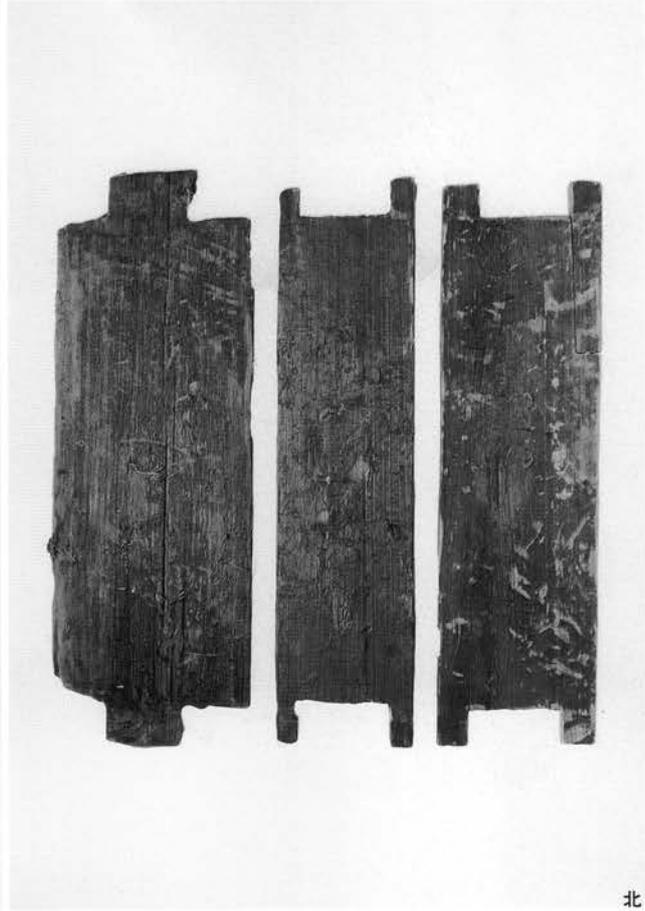
C-4 a・4 b・5 a トレンチ出土遺物



C-6 トレンチ出土遺物・埴輪・縄文土器



白玉・銅鏡・石帯・耳飾り



1992年度B地区S E 368108井戸枠

報告書抄録

ふりがな	しもうえのみなみいせき							
書名	下植野南遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	京都府遺跡調査報告書							
シリーズ番号	第25冊							
編著者名	中川和哉・野島 永							
編集機関	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター							
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3		Phone	075(933)3877				
発行年月日	西暦 1999 年		3 月		26 日			
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
しもうえの みなみいせき	おとくにぐんお やまざきちょうお おあざえんみょう じこあざいっちょ うだ・おおあざし もうえのこあざご じょうもとほか							
下植野南遺跡	乙訓郡大山崎町大 字円明寺小字壱町 田・大字下植野小 字五篠本他	303	29	34° 54' 7"	135° 41' 47"	19900711 ～ 19941005	18,000	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
下植野南遺跡	集落・墳墓	縄文 弥生 古墳 平安 中世 近世		土器棺墓 方形周溝墓 竪穴住居・掘立柱建物跡 埴輪棺・祭祀遺構 井戸・掘立柱建物跡・土坑 道路状遺構 掘立柱建物・井戸・溝・土坑 井戸		縄文土器 弥生土器 土師器・須恵器 埴輪・白玉 土師器・須恵器 土師器・須恵器・瓦 器・陶磁器		

京都府遺跡調査報告書 第25冊

平成11年3月26日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究
センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Phone (075)933-3877 (代)

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Phone (075)256-0961 (代)